



TOHOKU  
UNIVERSITY

2023年度

東北大学 災害科学国際研究所  
活動報告書

Annual Report

International Research Institute of Disaster Science

Tohoku University



# 目次

1	巻頭言	3
2	研究所の概要	
2.1	基本理念	7
2.2	設置目的・沿革	7
2.3	中期目標・中期計画	8
3	1年の活動概要と自己評価	
3.1	組織運営の概要	13
3.2	研究・実践活動の概要	13
3.3	教育活動の概要	16
3.4	自己評価	18
4	組織運営	
4.1	研究組織、人員配置及び会議・委員会	21
4.1.A	組織図	21
4.1.B	研究所長・副研究所長・教育研究評議員・研究所長補佐等	21
4.1.C	教員数	21
4.1.D	教職員等の配置	22
4.1.E	研究所内会議・委員会	27
4.1.F	タスクフォース	30
4.2	研究資金	31
4.2.A	歳出決算	31
4.2.B	研究者一人あたりの研究費	32
4.2.C	科学研究費補助金採択一覧	33
4.2.D	外部資金受入状況	34
4.2.E	寄附金の受入状況	36
4.2.F	災害研基金の受入状況	37
4.3	施設・設備	38
4.4	学内外連携	40
4.4.A	学内外連携組織	40
4.4.B	関係・協力団体	43

## 5 研究・実践活動

5.1	教員および所内組織の研究・実践活動報告	49
5.1.A	専任教員等の活動概要	49
5.1.B	災害レジリエンス共創センター	69
5.1.C	災害レジリエンス共創研究プロジェクト 概要	69
	災害レジリエンス共創研究プロジェクト 2023 年度採択課題一覧・報告	70
5.1.D	災害統計グローバルセンター	116
5.1.E	気仙沼分室	116
5.1.F	広報室	116
5.2	研究・実践活動 報告	118
5.2.A	特筆すべき成果	118
5.2.B	アクティビティレポート一覧	125
5.2.C	イベントフライヤー等	129
5.3	研究・実践活動 データ集	133
5.3.A	研究・実践活動 データー一覧	133
5.3.B	論文	134
5.3.C	書籍	149
5.3.D	その他執筆物	151
5.3.E	発表	154
5.3.F	シンポジウム等の主催・共催・運営等	184
5.3.G	特許等	193
5.3.H	受賞	194
5.3.I	委員等	196
5.3.J	被災地・未災地との連携	203
5.3.K	国際共同研究	206
5.3.L	国際訪問・受入	209
5.4	広報・コミュニケーション活動	214
5.4.A	刊行物	214
5.4.B	IRIDeS オープンフォーラム	215
5.4.C	展示	219
5.4.D	メディア対応（報道・執筆・資料提供等）	220

## 6 教育活動

6.1	大学院生等の指導	239
6.2	学位等を取得した学生への関与	239
6.3	留学生・社会人学生の受け入れ	239
6.4	指導学生の発表	239
6.5	指導学生の受賞	240
6.6	担当授業科目	242

# 1. 卷頭言



## 巻頭言

東北大学災害科学国際研究所  
所長 栗山進一

「2023 年度東北大学災害科学国際研究所活動報告書」の刊行にあたりご挨拶申し上げます。

2012 年に災害科学国際研究所が設立され、年次活動報告書を発行してから 12 回目となります。本報告書は、東北大学災害科学国際研究所 (IRIDeS) の理念、構成、組織・運営活動、研究・教育・社会活動等を年度ごとに網羅した報告書です。

2023 年度も様々な出来事がありました。まず、2023 年 4 月に所長が交代しました。東日本大震災後に被災者とともに走りつづけ、今後被災することが想定される地域の方々に備えを訴え続けてきた組織ですので、所長を拝命いたしましたときは、その使命の重さのため身が引き締まる思いでした。

また、5 月 12 日から仙台市にて G7 仙台科学技術大臣会合が開催され、地球規模課題の解決に向けた科学技術協力の強化等について議論が行われ、5 月 13 日には、エクスカージョンの一貫として、高市早苗内閣府特命担当大臣、G7 諸国の科学技術大臣をはじめとする関係者が、本研究所を訪問・視察されました。同じく 5 月 17 日から 19 日にかけて、ニューヨークの国連本部で開催された「仙台防災枠組 2015-2030 の中間評価に係るハイレベル会合及び Risk Reduction Hub」に、本研究所関係者が、日本政府代表団の一員として出席し、活発な議論を行いました。当該ハイレベル会合は、2023 年が仙台防災枠組の中間年にあたることから、防災に対する世界的な認知を広げ、政治的な意思と機運を醸成すること等を目的として、国連総会において開催されました。

さらに、関東大震災から 100 年を迎えるタイミングで、1923 年関東大震災および 2011 年東日本大震災の理解と教訓について議論しながら、社会の防災力向上を目指すシンポジウムを 9 月 28 日に開催しました。関連企画展も実施され、多くの皆様にお越しいただき、「関東大震災の実像とそこから得られる教訓がよくわかった」とのコメントをいただきました。

東日本大震災がもたらした被災者の方々への影響は未だに続いており、被災地の課題に継続して取り組んでまいりました。また今後、一人ひとりが実際に防災行動を取れるよう、防災・減災対策を進めるため、「防災コミュニケーション学」に力を入れ始めました。防災に無関心である方々や、その必要性を認識されつつもまだ実践されていない方々への働きかけを含め、災害に対する備えや対応を格段に進めることを目指してまいります。「ソナエル、ニゲル、タチナオル」をキーワードに、拡がりのある防災運動に結びつけていきたいと考えています。また、「誰一人取り残さない」防災の重要性に鑑み、インクルーシブ防災の深化も重要な課題と捉え、当事者の方をお招きして種々のセミナーなどを開催しました。令和 3 年の災害対策基本法改訂により、個別避難計画の策定が努力義務となったことも踏まえ、すべての人が個別避難計画をもち、これが効果的に活用されるよう、貢献してまいりたいと思っております。

本研究所の最重要目標「東日本大震災をはじめとする、災害で被災された方々、また将来被災しうる方々の助けとなること」を見据え、長期展望を持って災害科学を深化させてまいります。我が国は、国難とも形容される南海トラフ地震、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震、首都直下地震や、気候変動により

激甚化する災害をはじめ、様々なリスクに直面しています。本研究所は、これら社会の重要課題を見据え、東北の復興と国内外の防災へ引き続き取り組んでまいります。皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

本報告書は、本研究所における2023年度の活動報告を取りまとめたものです。発展を重ねる本研究所の活動実態に合わせるため、このたび報告書の形式を大幅に改訂いたしました。今回の報告書の作成に尽力いただいた全ての関係者に深く感謝申し上げますとともに、本報告書の多岐に及ぶ内容が、災害で被災された方々、また将来被災しうる方々の助けとなることを切に願っております。

## 2. 研究所の概要





## 2. 1. 基本理念

東日本大震災という未曾有の災害を経験した東北大学は、2012年4月に新たな研究組織「災害科学国際研究所」を設立した。大学の英知を結集して被災地の復興・再生に貢献するとともに、国内外の大学・研究機関と協力し、災害科学に関する世界最先端の研究を推進することが、本研究所に与えられた使命である。

本研究所の設立理念は、東日本大震災の経験と知識を踏まえた上で、わが国の災害対策・災害対応策や国民・社会の災害への処し方そのものを刷新し、巨大災害への新たな備えとレジリエンスへのパラダイムを作り上げることにある。このことを通じて、国内外の巨大災害の被害低減に向けて社会の具体的な問題解決を指向する実践的防災学の礎を築くことを目標とする。

本研究所が推進する災害科学研究とは、事前対策、災害の発生(直前の避難等の対応を含む)、被害の波及、緊急対応、復旧・復興、将来への備えを一連の災害サイクルととらえ、それぞれのプロセスにおける事象を解明し、その知見と教訓を一般化・統合化することである。

東日本大震災における調査研究、復興事業への取り組みから得られる知見や、世界をフィールドとした災害科学研究の成果を社会に組み込み、複雑化する災害サイクルに対して人間・社会が賢く対応し、苦難を乗り越え、知識を活かしていく社会システムを構築するための学問を「実践的防災学」として体系化し、その学術的価値を創成することを災害科学国際研究所のミッションとする。

## 2. 2. 設置目的・沿革

### 設置目的

災害科学国際研究所は、東日本大震災の経験と教訓を踏まえ、わが国の自然災害対策や国民・社会の自然災害への処し方そのものを刷新し、巨大災害に備える新たなパラダイムを作り上げることを設立理念とし、国内外の巨大災害の被害軽減に向けて社会の具体的な問題解決を指向する実践的防災学の礎を築くことを目的として設置された。

### 沿革

2012年4月 本研究所は7部門36分野で発足した。

- 災害リスク研究部門 (6分野)
- 人間・社会対応研究部門 (5分野)
- 地域・都市再生研究部門 (4分野)
- 災害理学研究部門 (7分野)
- 災害医学研究部門 (8分野)
- 情報管理・社会連携部門 (4分野)
- 寄附研究部門 (2部門)

東日本大震災から10年にあたる2020年度には、今後の本研究所のさらなる発展を見据え、これまでの先端的基盤研究の強固な推進を継続しつつ、多様化する災害過程の解明と減災の実現に向けた研究体制強化を図ることとし、2021年度から下記の4部門26分野および寄附研究部門、共同研究部門に組織を再編した。

- 災害評価・低減研究部門 (8分野)
- 災害人文社会研究部門 (6分野)
- 災害医学研究部門 (8分野)
- 防災実践推進部門 (4分野)(2022年度より5分野)
- 寄附研究部門 (2部門)
- 共同研究部門 (2部門)

さらに、2022年3月には国立研究開発法人防災科学技術研究所(以下、防災科研)と東北大学の連携協定が締結され、設立から10年にあたる2022年度からは、文部科学省の教育・研究組織改革の枠組において、災害レジ

リエンス共創センターを災害科学国際研究所の内部に設置し、下記の 4 重点研究領域における学際研究を推進することとなった。

- 災害レジリエンス数量化研究領域
- ヒューマンレジリエンス研究領域
- 災害情報キュレーション研究領域
- 災害レジリエンス共創領域

## 2. 3. 中期目標・中期計画

本研究所の理念に則り、以下の重点戦略・展開施策を中期目標・中期計画に掲げ、活動を行っている。

### 1. 災害科学研究の世界的拠点

昨今の多様化、多発化する災害を受け、地震・津波のメカニズムの解明、東日本大震災による被災実態の把握、土木・構造物の耐震性強化、災害と人間社会、復興地域づくり、災害医療研究の展開、震災アーカイブの構築など、分野ごとの先端的研究を推進し、災害科学研究の世界的拠点となることを目指す。

### 2. 文理連携および多様な学際連携による研究の推進

社会が必要とする災害研究とその成果は、従来の学問の専門領域を超えて幅広く多様である。それに応えるため、分野横断的・学際融合的な研究を促進し、既存にはない新規の分野を開拓する。

### 3. 実践的防災学の構築

災害サイクルに対応した実践的防災学の研究を推進し、被災地復興や災害対策に取り組むとともに、日本および世界の防災対策にも積極的に貢献する。

### 4. 防災知識を身に付けた人材の育成

災害科学研究の成果を教育課程で積極的に展開する。学部教育では、全学教育を通じて体系的な防災教育を実施し、災害発生メカニズムや発災時の対処の仕方などを基礎知識として身に付けさせる。大学院の専門教育や国際共同大学院、卓越大学院などのプログラムでは、地域防災の中心となる人材の育成や、防災技術の開発と普及促進および新しい技術ニーズを発掘できる人材の育成に取り組む。関係機関と連携し、行政職や教員、医療従事者、福祉施設、企業などの高い専門性をもつ社会人への防災・災害対応教育・訓練を行う。

### 5. 防災教育の社会的展開

災害への備えを強めるためには、防災知識の社会的普及が不可欠である。学校教育を起点に家庭や地域が防災への取り組みを進めることができるよう、小中学校および高等学校への出前教育を実施し、防災教育教材の開発を行うとともに、市民向け・企業向けのセミナーやシンポジウム等を積極的に開催して、防災知識の普及や対応能力の向上を図る。

### 6. 産官学および地域社会と連携した防災対策の強化

実践的防災学の社会実装と普及を図るためには、産官学と連携した共同研究や広報活動が不可欠である。地方自治体との間では災害に関する包括的連携協定を積極的に締結して、自治体のニーズに対応した研究成果の還元を図り、産業界とは防災技術の共同開発や震災アーカイブに関する新たなシステムの開発、企業組織や事業拠点の防災・事業継続力の向上等に取り組む。また社会の諸団体・組織と連携して、防災力向上のために多面的な取り組みを進める。

### 7. 国際社会との連携強化

2015 年に仙台市で開催された第3回国連防災世界会議で採択された「仙台防災枠組 2015-2030」を推進する。また環太平洋大学協会 (APRU: Association of Pacific Rim Universities) との共催で「APRU-IRIDeS Multi-hazard program」を運営し、海外との研究交流を活発化させる。また、世界防災フォーラムを支援し、国内外および地元東北の多様な防災関係者らと「仙台防災枠組 2015-2030」の実施に向け、活発な議論を行う。さらに災害対策技術の標準化に取り組む国際機関 (国連等) や国内外の公的組織、研究機関、企業等との連携を通じて防災に関する国際標準化 (防災 ISO) を推進し、本研究所が世界の減災対策を向上させるための先導的な役

割を果たすことを目指す。

8. 共同利用・共同研究への取り組み

本研究所が有する資料、施設などを有効に利用するため、他機関との共同利用・共同研究を推し進める。本研究所のリソースを利用した共同研究プロジェクトを公募・実施し、卓越した実績および研究ネットワークの構築にも不断に取り組む。防災科研と連携して全国共同利用・共同研究拠点となり、「災害レジリエンス学際研究」を推進する。

9. 指定国立大学「災害科学コアリサーチクラスター」に向けた取り組み

東北大学が文部科学省より指定国立大学に指定されたことを受け、その中の災害科学コアリサーチクラスター（旧 災害科学・世界トップレベル研究拠点）の中核機関の一つとして、本研究所をハブとし、理学研究科、工学研究科、医学系研究科、文学研究科などとの学際連携を基盤とした「災害科学」の学問研究領域を創成し、体系化を図る。



### 3. 1年の活動概要と自己評価



### 3. 1. 組織運営の概要

本研究所の組織運営として、今年度は会議の役割分担をより明確にした。

これまで毎月、執行部会議と運営会議という 2 つの会議を開催した後に、(1)専任教員、兼任教員、事務スタッフが対象の「全体会議」、(2)専任の講師・准教授以上が対象の「拡大教授会」、(3)専任の教授による「教授会」、という 3 つの会議を開催していた。

意思決定においては、組織運営の企画・調整等を担う運営会議と最高意思決定機関である教授会のそれぞれにおいてなされてきたが、2023 年度からはこれを教授会に一本化し、運営会議は教授会の議題整理のための会議と位置づけ、最高意思決定機関は教授会のみとし、執行部会議は廃止した。また、拡大教授会を廃止し、全体会議は情報共有と意見交換の場として活用することとした。

以上のように、2023 年度から、全体会議、運営会議、教授会という 3 つの会議で意思決定と情報共有をすることとした。

最高意思決定機関である教授会の下に、安全衛生委員会、予算委員会、広報戦略委員会、国内連携委員会、評価委員会、消防・防災委員会、教務委員会、施設環境委員会、総務委員会、ハラスメント防止対策委員会、男女共同参画委員会、研究企画委員会、国際連携委員会、研究倫理委員会、公正研究活動推進委員会等を設置し、それぞれの所掌事項毎に所内ルールや制度・方針の案を策定し、教授会で決定する仕組みとしている。

各種委員会等の枠を越えて解決しなければならない課題が認識された場合には、時限で「タスクフォース(TF)」を設置し、適切な人選と活動により、課題を解決している。「G7 科学技術大臣会合エクスカッション対応 TF」、「カーボン削減 TF」、「関東大震災シンポジウム TF」、「災害アプリケーションの在り方検討 TF」、「災害データバンク(仮称)検討 TF」、「大規模災害発生時の対応検討 TF」、「連携型共同利用共同研究拠点申請 TF」、「年次報告書改訂 TF」、「サーバー移行 TF」等、2023 年度は比較的多くのタスクフォースが活動を行い、課題を着実に解決した。

### 3. 2. 研究・実践活動の概要

#### 1) 災害科学研究の世界的拠点として

災害が激甚化・頻発化・広域化している。国民の生命と財産を守り、持続可能な社会を構築していくためには、災害科学のさらなる深化と、その成果の社会実装が急務である。2015 年以降、国際社会は防災にかかわる国際アジェンダ、すなわち「仙台防災枠組 2015-2030」(以下「仙台防災枠組」)、「持続可能な開発目標 SDGs」、「パリ協定」を主軸に、レジリエント社会の構築を目指すことを決議した。東日本大震災の経験を経て設立された本研究所は、上記の国際潮流と歩調を合わせる形で、レジリエント社会の実現に向け、同3大国際ジェンダの社会実装を国内外で推進してきた。

本研究所は、東北大学の附置研究所であるとともに、東日本大震災の災害対応ノウハウや被災・復興過程で蓄積した膨大なデータと被災地としてのフィールドを有している。近年、先進国で東日本大震災ほど大規模・広域な災害はなく、同フィールドはその文脈でも貴重な知見と教訓を提供する場である。また、本研究所は設立以降、国内外で大規模災害が発生した際は、各被災地との強い連携に基づき、東日本大震災の経験・教訓を求める強い要望に的確に応じる形で、災害の急性期、復旧期、復興期それぞれのフェーズにおいて、情報支援と人的・物的支援を行ってきた。新たな研究として、医学や人文・社会科学の専門家も所属する学際性を強化し、次の大災害への対応を念頭に、これまで重要課題であった市民の行動変容をはかり、防災自助力向上に資する防災コミュニケーション学やインクルーシブ防災学の確立に向けた活動を推進している。



2023年度の成果として、307編の学術論文、著書26冊、その他執筆物30編、学会における発表・講演515件があった。これらの成果は量だけでなく質的にも優れており、国際誌査読有論文の比率が62.3%に達するとともに、学会等での受賞も15件を数えた。

## 2) 災害レジリエンス共創センター

災害レジリエンス共創センターは、災害による社会の機能損失を低減して速やかに回復し、より良く復興するための「災害レジリエンス」の向上に資することを目標とし、多様な主体との連携により「防災総合知」を探求し、社会に実装することを理念として掲げている。同センターは、「災害レジリエンス数量化」、「ヒューマンレジリエンス」、「災害情報キュレーション」および「災害レジリエンス共創」の4つの重点研究領域で構成され、シンボルプロジェクトとして新たに構築する「災害デジタルツイン」での災害過程の分析を通じて、被災した社会が速やかに回復するための方策や、一人ひとりの多様な幸せ(well-being)を実現するための総合知を探求する研究に取り組んでいる。研究成果としての総合知を、研究コミュニティや社会の利用に広く供することで、レジリエントな社会の実現に寄与するとともに、それらを先導する人材育成プログラムを展開していくことを目的としている。

2015年第3回国連防災世界会議で採択された世界の防災指針「仙台防災枠組」において、各国は災害に対する「レジリエンス」の強化を優先行動として同意した。災害レジリエンスとは「災害に対するコミュニティや社会が、その基本構造や機能の維持・回復を通じて、災害の影響を適時にかつ効果的に防護・吸収し対応するとともに、しなやかに回復する能力」として定義されており、仙台防災枠組の履行期間である2030年までに、これを実現するための実践的な研究を推進することが災害レジリエンス共創センターの責務である。

2023年度は、2022年度にスタートした災害レジリエンス共創研究プロジェクトを加速させ、シンボルプロジェクトの災害デジタル・ツインプロジェクトをはじめとして、災害予測・被害把握・対応・復旧・復興のあらゆるフェーズの知識・情報を集積した「防災総合知」を導き出すことで、レジリエントな社会の実現に貢献していくための研究成果を蓄積した。災害レジリエンス共創研究プロジェクトにおいては2022年度:26件、2023年度:26件、2024年度:42件と着実に増加している。2024年度からは英語での申請を可能とし、1件あたりの助成金額を増額したことにより応募件数が57件と飛躍的に増加した。5年目にむけて同様の方策を継続していく。

論文総数においては5年目に向け、災害レジリエンスをキーワードとした論文の発行を年間に20編(2024年度はすでに10編達成)ずつ達成することで、世界ランキング5位(現在5位の精華大学の論文数は76編)に入る目標値を達成する見込みである。

連携協定の企業数においては、5年目に向け防災科学技術研究所(以下、防災科研)との連携ならびにデジタルツインを核としたさまざまな社会実装が可能な段階に到達しており、今後関連する企業との連携数を増加させる。

防災科研と東北大学は2022年3月に「連携および協力の推進に関する基本協定書」を締結し、相互に協力可能なすべての分野においてこれまでの連携および協力で得た蓄積を生かし、それぞれの研究、教育、および人材育成などで互恵的かつ具体的に連携および協力し、ニーズを踏まえ、防災に係る開かれた研究および教育の拠点構築を通じてレジリエントな社会の実現に資する知の創出と多様な価値創造に取り組んでいる。年に2回の連携推進協議会(両機関理事参加)、および年に10回程度の連携ワーキンググループを開催し、具体的な連携と協力を推進している。特に両機関がそれぞれ財源を出して東北大学と防災科研の研究者がチームを形成して共同研究を行うマッチングファンド事業を開始し、2023年度は3件が採択された。防災科研のもつ大型施設やデータベースプラットフォーム、東北大学のもつ機材、データベースや研究人材資源のマッチングが行われ、相互の連携を発展させることができた。

## 3) 連携および多様な学際連携による研究の推進

本研究所は今年度、「誰一人取り残さない」インクルーシブ防災を実現するために「障がい者と災害」連続セミナーを3度行った。このセミナーでは、さまざまな障害の当事者や専門家を講師に迎え、本研究所研究者らが障害者の平時のニーズや災害発生時の課題に関して理解を深めるとともに、今後、実際に防災を進めていくための具体的な方向性を議論した。

2023年度は、9月1日が関東大震災から100年目であったことから、本研究所は関東大震災に関するシンポジウムを一般公開・ハイブリッド形式で開催した。トピックは、「これまで注目が不十分であった関東地震が引き起こした土砂災害」、「関東大震災と地震保険の発展」、「関東大震災後の米国からの支援に対して送られた礼状を国際防災の観点から分析する」等、多彩なものとなった。また、「1923年関東大震災と2011年東日本大震災の教訓を、次の災害にどう生かすか」を話し合う学際的なパネルディスカッションも行われ、次の大災害について多角的に考える機会となった。さらには企画展「仙台に残されていた関東大震災の記録：100年の時を経て特別公開」を歴史学研究者・広報室が中心となって本研究所の2階で特別公開した。

この他にも横浜で行われた「ぼうさいこくたい」、「仙台防災未来フォーラム 2024」への参加をはじめとして、学際性や国際性を活かして各地の避難訓練や防災関連イベントに積極的に参加し知見を共有するとともに、学際連携による研究を積極的に行った。

さらに2024年元日に発生した能登半島地震に際しては、電光石火で本研究所所長室に対策室を立ち上げ情報収集を図るとともに、8日後にはオンラインによる速報会を開催し、地震や津波発生メカニズムを社会と共有した。復興のフェーズに移行することを見越して、年度末には被災地の中核である金沢大学を支援する連携方法を模索し目途をつけることができた。

#### 4) 実践的防災学の構築

研究成果を社会に発信し、さまざまなステークホルダー（主体）と連携することで、社会実装につなげていく活動を継続している。

2023年度の社会発信は、広報室を中心に、所内教職員と密に連携しながら、災害科学の広報・コミュニケーション活動を強化している。重要な研究成果等に関するプレスリリース9件や、本研究所ウェブサイト（日本語・英語）を通じて、144件のアクティビティレポートを掲載し、わかりやすい研究成果の発信を継続している。

大規模災害に対する調査・研究に関しては、発災後の調査・解析結果の報告を目的とした速報会を実施し、国内外に研究成果の発信を強化した。2023年トルコ・シリア地震に関連した国際共同研究を継続し、JSTのJ-Rapid事業で2件の研究が採択されている。2024年1月に発生した令和6年能登半島地震災害の際も、いち早く現地調査隊を派遣し、被害調査・情報発信を行うとともに、能登半島の被災地の復興に向け、金沢大学をはじめとする北陸地方の大学の研究者との連携研究を開始している。

研究成果の社会実装に向けた活動のうち特筆すべきものとしては、リアルタイム津波浸水被害予測システムの展開である。本研究所、本学のサイバーサイエンスセンター、理学研究科、情報科学研究科の研究者を含む産学連携研究の成果を経て2018年に設立した東北大学発スタートアップRTi-cast社が、民間事業者として初の津波予報業務許可を気象庁から受けることとなり、レジリエントな社会の実現に向けた研究成果の実装が加速している。

#### 5) 国際社会との連携強化

本研究所は、特に国際研究所としても使命を果たす責務がある。それはすなわち国際的な研究の推進と実践である。個々の研究者のネットワークでの国際活動、組織としての国際活動に二分されるが、以下では後者に焦点を当てる。

まずは2023年5月、G7科学技術大臣会合関係者が本研究所を視察した。日本からは高市早苗内閣府特命

担当大臣が参加し、G7 の大臣級の参加者に本研究所での研究成果をアピールすることができた。翌週にはニューヨークの国連本部において開催された仙台防災枠組の中間評価に係るハイレベル会合等に参加し、仙台防災枠組のグローバルターゲット達成状況が不本意な状況であるとの認識の中で、都市レベルでのモニタリングの成果について仙台市長が報告した。それに先立ち、本研究所は仙台市の災害被害統計の収集や分析において学術的に支援した。7 月には毎年恒例の APRU マルチハザードサマースクールを本研究所で開催し、11 月には同シンポジウムをシンガポールの南洋工科大学で開催した。10 月にはインドネシアのシャクアラ大学と本研究所が共同で開催する AIWEST-DR 2023 をジョグジャカルタのガジヤマダ大学で行い、インクルーシブ防災に関する特別セッションを主催した。同セッションには、仙台から障害のある当事者も出席したが、いかに障害者が海外に移動することが困難であるかを教員が学ぶ機会にもなった。一方、トルコ・シリアの地震に関してトルコ中央工科大学などとの共同調査・研究もなされ、被害の実態やリスク要因の分析を行った。

2023 年度は東北大学が国際卓越大学に応募することになり、災害科学は 4 本柱の一角を担うことになった。資料の準備や調整等で多くの労力を割くこととなったが、特に文理の研究の枠を超えて、国連直結で国際社会の变革やアウトカムを伴う国際的な社会実装を行っている災害統計グローバルセンターや世界防災フォーラムというプラットフォーム型の活動は、東北大学が唯一国際卓越大学の最終候補に選ばれた理由のひとつであろう。

#### 6) 指定国立大学「災害科学・世界トップレベル研究拠点」(指定国立大学 災害科学コアリサーチクラスター)

東北大学が文部科学省より指定国立大学に指定され、災害科学・世界トップレベル研究拠点の中核機関の一つとして、第 4 期中期計画においては、災害理学、実践防災学、災害医学、災害人文学の 4 つの研究領域を縦軸とし、災害サイクルの「備え→予見→対応→復旧→復興」のそれぞれの時相における 4 つの研究プロジェクト「ハザードリスク科学プロジェクト」、「リアルタイム災害科学プロジェクト」、「被害快復科学プロジェクト」、「コミュニティ復興科学プロジェクト」を横軸とする学際研究体制で、世界で唯一の Holistic Disaster Science Center of Excellence (HDSCoE) を形成している。

研究領域それぞれに専任教員をおくとともに、本研究所以外の関連部局からもコアメンバーとして参画していただき、年 4 回のコアメンバー会議、毎月の早朝会議を開催し、研究活動の報告、領域間、研究プロジェクト間の調整を行った。活動目標として、災害対応サイクル理論の適用による 4 つの科学分野の融合、学内での学際連携を基盤とした「災害科学」の学問研究領域の創成、さらに、APRU 組織等で始まりつつある災害科学研究ネットワークの発展による、国際共同研究の強化や国際学術会議の開催を通じての「災害科学」の体系化が挙げられる。

2023 年度は、4 つの研究領域(災害理学、実践防災学、災害医学、災害人文学)と 4 つの研究プロジェクト(ハザードリスク科学、リアルタイム災害科学、被害快復科学、コミュニティ復興科学)を縦糸・横糸として位置づけて、それらを紡ぎ、災害レジリエンスの再構築と災害科学学際学理の体系化を図っている。

また、海外拠点大学、環太平洋大学協会(APRU)、国連組織、国際 NGO などとの連携強化による国際共同研究に基づく成果発信と国際社会への実装を図るとともに、防災減災連携ハブなど既存の国内の災害科学研究ネットワークを発展・拡張してきた。

また、第 3 期に獲得された東日本大震災やパンデミックを含むさまざまな災害に関するデータや情報を有機的に統合した世界最大級の災害関連データベースの構築と利活用を推進し、災害科学のエビデンス・データが広く利用される取り組みを継続している。

### 3. 3. 教育活動の概要

#### 1) 教育活動の目標と概要

本研究所は、東日本大震災の経験と教訓を踏まえ、わが国の自然災害対策・災害対応策や国民・社会の自然災害への処し方そのものを刷新し、巨大災害への新たな備えへのパラダイムを作り上げることを設立理念としている。このため、本研究所の教員のすべては、災害に強い社会を醸成するための市民力の向上に寄与するための教育活動を推進する責務を有している。このことに関して、小・中・高校との連携を含む学外での教育・啓発活動は5章の「研究・実践活動」で紹介している。本章では、学内の教育活動の計画と現状を述べる。

学内の教育活動について、本研究所の中期計画では以下のような内容を定めている。

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置

○全学教育、関連部局の学部や大学院の科目において、災害科学に関する基礎的な知識を提供する。

○災害科学に関する実践的研究の成果を紹介するフォーラムを定期的で開催し、これを大学院の学生に公開する。

(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

○災害科学に関する基礎知識を教育する全学教育科目を提供する。

○災害科学・実践的防災学に関する大学院科目を提供し、災害対応を担う人材育成を行う。

(3) 学生の支援に関する目標を達成するための措置

○大学院の学生が、災害科学に関する最新の研究発表・聴講ができる支援体制をつくる。

○国際連携のための仕組みをつくり、大学院の学生の海外における災害科学に関する研修を支援する。

上記の目標に対して、災害科学・安全学国際共同大学院プログラム(GP-RSS)、変動地球共生学卓越大学院プログラム(SyDE)の運営にも協力している。

## 2) 全学教育の実施状況

東北大学では、初年次学生に大学での勉学・研究の意義を理解させる導入科目として、少人数形式の「学問論演習」科目を設定しており、各部局が専任教員数に応じて複数のゼミを提供することとなっている。2023年度は、「古文書の保全」(佐藤大介准教授)、『「防災教育と災害伝承」の災害科学」(佐藤翔輔准教授)を提供した。

他方、全学教育講義科目については、2022年度から新カリキュラムに移行しており、カレントトピックスとして「東日本大震災の教訓を生かした実践的防災学」(佐藤翔輔准教授)、「災害の科学」2科目(本研究所複数教員のオムニバス形式)、「SDGs 入門」(泉貴子教授)を開講した。

## 3) 学生の支援と研究指導

東北大学学生生活支援審議会は毎年4回を目標としてFDを開催している。本研究所からは防災実践推進部門の佐藤健教授と若手教員が中心となってこれらFDに出席した。

第1回 学生の心身の健康状態に関する理解と支援

第2回 ハラスメント全学防止対策

第3回 東北大学における学生支援の現状と課題

第4回 性的マイノリティ学生への支援の現状と課題

また、本研究所が定期開催していた「IRIDeS 金曜フォーラム」の名前が、7月から「IRIDeS オープンフォーラム」に変更となり、引き続き、本研究所の研究・実践活動を所内外と広く共有しながら、被災地の復興と次の災害への備えを考える場を提供している。

2023年度は、国内165件、国外46件の指導学生に対する学会やワークショップでの発表の支援を行った。また、国外の学術機関と協力協定を締結し、経済的負担を減らすと同時に研修先の情報を得やすくした。

以上の結果、2023年度の本研究所の教員の学生への研究指導とその成果は、以下のようである。

博士論文指導(主査・副査):	53 件
修士論文指導(主査・副査):	88 件
卒業論文指導:	50 件
博士学位取得(学内・学外):	67 件
留学生受け入れ:	63 名(19 か国)
学生の受賞:	19 件

### 3. 4. 自己評価

2021 年度から導入された 3 つの研究部門と 1 つの防災実践推進部門、そして寄附研究部門・共同研究部門への組織再編が定着し、安定した活動を営むことができている。さらに、2022 年度に全所的な組織として立ち上げた災害レジリエンス共創センターを中心に、所外との共同研究「災害レジリエンス共創研究」も推進するなど、本研究所の新たな研究組織として活発な活動を継続している。2023 年度は 26 件の共同研究提案を採択し、4 領域(災害レジリエンス数量化研究領域、ヒューマンレジリエンス研究領域、災害情報キュレーション研究領域、災害レジリエンス共創領域)に加え、シンボルプロジェクトである「災害デジタルツイン」の構築に関しても、SIP3 期「スマート防災ネットワークの構築」に採択されるなど、レジリエンス共創研究の成果を踏まえた発展を遂げることができた。

指定国立大学災害科学・世界トップレベル研究拠点は、学内の再編により、災害科学コアリサーチクラスターとして再出発し、4 つの学術分野(人間科学系、社会科学系、実践科学系、自然科学系)を融合させた学際研究とこれらの領域間をまたぐ 4 つの研究プロジェクト(ハザードリスク科学、リアルタイム災害科学、被害快復科学、コミュニティ復興科学)を推進し、学際研究の深化に取り組んだ。

学内外の連携については、世界防災フォーラムを通じた仙台防災枠組のレビュー、NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワークによる大規模自然災害時の歴史資料の救済・保全活動、グリーン未来創造機構における東日本大震災からの復興及び日本の新生に寄与するプロジェクトの推進等、本研究所を核とした連携の深化に取り組んでいる。また、災害科学・安全学国際共同大学院プログラム GP-RSS、環太平洋大学協会(APRU)のマルチハザードプログラムの運営など、次世代の防災を担う国際的な人材育成の成果も着実に挙げる事ができた。

2023 年度の学術的な成果<sup>注)</sup>として、307 編の学術論文、著書 26 冊、その他執筆物 30 編、学会における発表・講演 515 件(うち招待講演 77 件)を行った。これらの成果は量だけでなく質的にも優れており、国際誌査読有論文の比率が 62.3%に達するとともに、学会等での受賞も 15 件となり、国内外で高い評価を得ている。

なお、その前の 5 年間(2018~2022 年度)の研究成果の推移については、学術論文(304 編→273 編→290 編→320 編→296 編)、著書(19 冊→20 冊→25 冊→25 冊→94 冊)(単著、共著、分担執筆含む)、総説解説(39 編→34 編→84 編→92 編→61 編)、学会における招待講演(71 件→44 件→30 件→70 件→45 件)、受賞(25 件→20 件→17 件→18 件→13 件)、特許(9 件→4 件→8 件→4 件→10 件)、国際誌に占める査読有論文の比率(50%→54%→63%→60%→62%)であった。過去のデータに照らしても、2023 年度研究成果の状況は、おおむね安定した傾向を示している。

競争的研究資金の獲得(2023 年度実績)に関しては、科研費採択(代表)48 件(直接費総額 123,900 千円)、受託研究費等(受託研究、共同研究、学術指導)受入 89 件(総額 571,274 千円)となっており、構成員の自由な発想に基づく基礎研究、社会の要請に応える実践的研究等、多様なテーマでの研究費獲得に成功している。

注)今回の年次報告書改訂に際し、「論文」をはじめとする各カテゴリの定義を改めて確認した。また、本研究所の多様な学術分野の性格に照らし、「総説・解説」を「その他執筆物」カテゴリに修正する等の作業も行った。よって、2023 年度の研究成果データは、その前の 5 年間(2018~2022 年度)の集計方法と若干異なる場合がある。

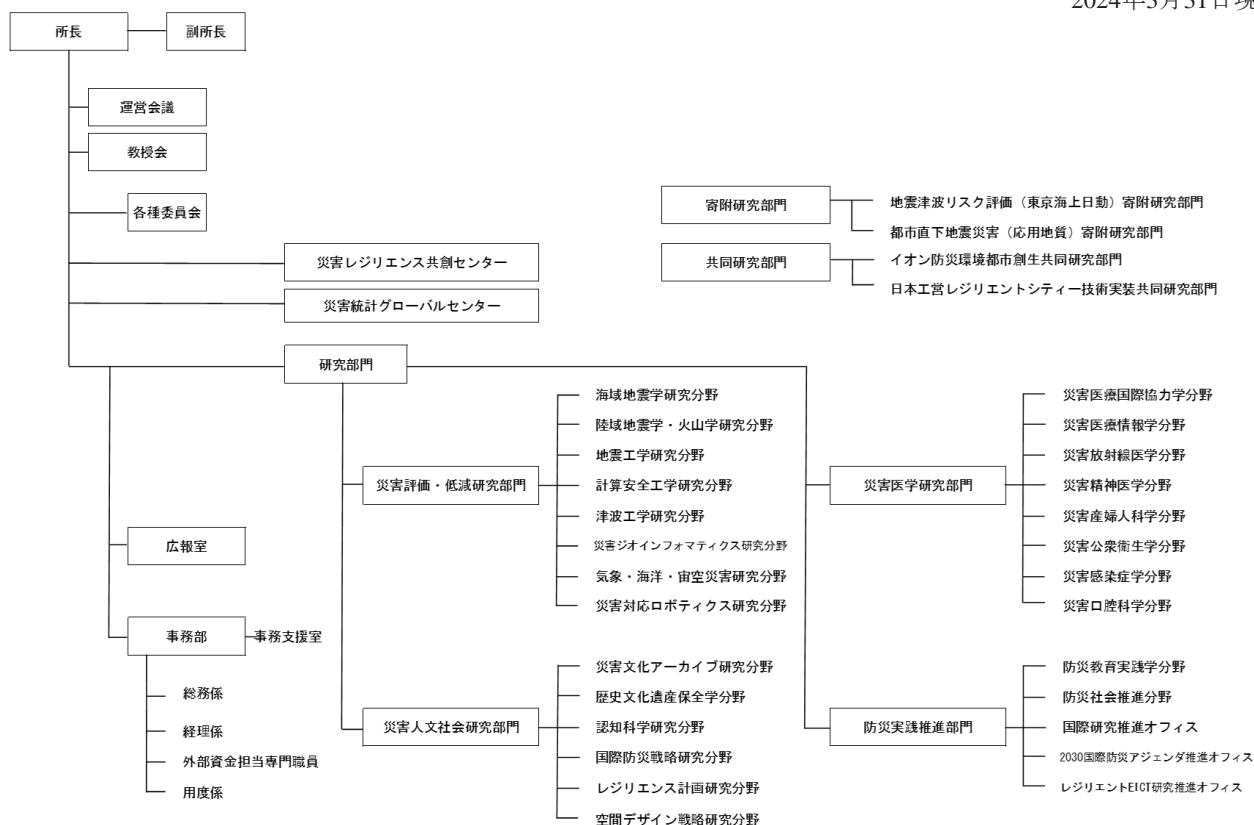
## 4. 組織運営



## 4. 1. 研究組織、人員配置及び会議・委員会

### 4. 1. A 組織図

2024年3月31日現在



### 4. 1. B 研究所長・副研究所長・教育研究評議員・研究所長補佐等

研究所長	栗山 進一	教授
副研究所長	越村 俊一	教授
副研究所長	小野 裕一	教授
教育研究評議会評議員	奥村 誠	教授
研究所長補佐	寺田 賢二郎	教授
研究所長補佐	泉 貴子	教授
研究所長補佐	江川 新一	教授
部門長		
災害評価・低減研究部門	遠田 晋次	教授
災害人文社会研究部門	村尾 修	教授
災害医学研究部門	千田 浩一	教授
防災実践推進部門	佐藤 健	教授

### 4. 1. C 教員数

2024年3月31日現在

	教員数	教員数における性別内訳		教員数における 外国人教員数(%)
		男(%)	女(%)	
教授	20人	19人(95.0%)	1人(5.0%)	0人(0.0%)
准教授	24人	21人(87.5%)	3人(12.5%)	8人(33.3%)
講師	1人	1人(100%)	0人(0.0%)	0人(0.0%)
助教	18人	12人(66.6%)	6人(33.3%)	4人(22.2%)
助手	2人	1人(50.0%)	1人(50%)	0人(0.0%)
計	65人	54人(83.0%)	11人(16.9%)	12人(18.4%)



#### 4. 1. D 教職員等の配置

2024年3月31日現在

##### 災害評価・低減研究部門

分野名	職名	氏名
海域地震学研究分野	教授	木戸元之
	教授	日野亮太(兼務)
	准教授	内田直希(兼務)
	助教	富田史章
	助教	Tang Chi-Hsien
陸域地震学・火山学研究分野	教授	遠田晋次
	教授	趙大鵬(兼務)
	教授	三浦哲(兼務)
	教授	武藤潤(兼務)
	准教授	福島洋
	准教授	岡田知己(兼務)
	准教授	山本希(兼務)
	助教	石澤堯史
	助教	高橋尚志
	助教	市來雅啓(兼務)
	技術職員(限定)	國分園子
地震工学研究分野	教授	五十子幸樹
	准教授	大野晋
	准教授	榎田竜太
	事務職員(限定)	後藤由美
	事務職員(限定)	石野友恵
計算安全工学研究分野	教授	寺田賢二郎
	教授	溝口敦子
	准教授	森口周二
	助教	野村怜佳
	技術職員(限定)	芳賀麻由美
津波工学研究分野	教授	今村文彦
	准教授	菅原大助
	准教授	Suppasri Anawat
	特任准教授	Nguyen David Ngoc
	助教	田邊亜澄
	特任研究員	Pakoksung Kwanchai
	特任研究員	Constance Chua Ting
	事務職員(限定)	伊藤智栄子
	技術補佐員	串畑真悠
	技術補佐員	高橋久美子
災害ジオインフォマティクス研究分野	教授	越村俊一
	准教授	Mas Samanez Erick Arturo
	准教授	Adriano Ortega Bruno
	准教授	袁巍(兼務)
	准教授	太田雄策(兼務)
助教	水谷歩	

災害ジオインフォマティクス研究分野(つづき)	特任研究員	阿部孝志
	技術補佐員	遠江美紀
気象・海洋・宙空災害研究分野	教授	須賀利雄(兼務)
	教授	土屋史紀(兼務)
	教授	山崎剛(兼務)
	准教	授伊藤純至(兼務)
	准教	授杉本周作(兼務)
災害対応ロボティクス研究分野	准教	授三澤浩昭(兼務)
	教授	田所諭(兼務)

#### 災害人文社会研究部門

分野名	職名	氏名
災害文化アーカイブ研究分野	教授	今村文彦(兼務)
	准教	授蝦名裕一
	准教	授柴山明寛
	准教	授Gerster-Damerow Julia
	事務補佐員	小野円
	事務補佐員	櫻井美織
	技術補佐員	川内めぐみ
歴史文化遺産保全学分野	技術補佐員	土屋美津子
	教授	授村尾修(兼務)
	准教	授佐藤大介
認知科学研究分野	准教	授川内淳史
	教授	授邑本俊亮
	助教	授杉浦元亮
国際防災戦略研究分野	助教	授齋藤玲
	教授	授村尾修
	教授	授泉貴子
	技術職員(限定)	加藤園子
	技術職員(限定)	熊谷幸子
	技術補佐員	木村希
レジリエンス計画研究分野	技術補佐員	山口章子
	教授	授奥村誠
	准教	授井内加奈子
空間デザイン戦略研究分野	技術補佐員	西脇千瀬
	教授	授姥浦道生
	教授	授小野田泰明(兼務)
	准教	授平野勝也
	准教	授本江正茂(兼務)
	技術職員(限定)	阿部雅子

#### 災害医学研究部門

分野名	職名	氏名
災害医療国際協力学分野	教授	授江川新一
	准教	授佐々木宏之
	技術補佐員	千田蓉

災害医療情報学分野	教	授	中山 雅 晴(兼務)	
	准	教	授	藤 井 進
	助	教	朴 慧 晶	
	学	術 研 究 員	山 田 クリス孝介	
	学	術 研 究 員	野 中 小百合	
	技	術 補 佐 員	米 山 真 美	
災害放射線医学分野	教	授	千 田 浩 一	
	教	授	細 井 義 夫(兼務)	
	特	任 講 師	鈴 木 正 敏	
	講	師	稲 葉 洋 平(兼務)	
	技	術 補 佐 員	佐 藤 光 義	
	技	術 補 佐 員	林 潤 子	
災害精神医学分野	教	授	富 田 博 秋(兼務)	
	准	教	授	國 井 泰 人
	助	教	濱 家 由美子	
	特	任 助 教	日 野 瑞 城	
	事	務 補 佐 員	澤 田 磨 美	
	事	務 補 佐 員	大 沼 裕 美	
災害産婦人科学分野	教	授	齋 藤 昌 利(兼務)	
災害公衆衛生学分野	教	授	栗 山 進 一	
	准	教	授	中 村 直 毅(兼務)
	技	術 補 佐 員	長谷部 ひさの	
災害感染症学分野	教	授	児 玉 栄 一	
	助	教	林 宏 典	
	技	術 職 員 ( 限 定 )	笹 野 美 奈	
	学	術 研 究 員 ( 限 定 )	河 治 久 実	
	事	務 補 佐 員	伊 藤 由 紀 子	
	技	術 補 佐 員	奥 田 春 香	
災害口腔科学分野	教	授	小 坂 健(兼務)	
	准	教	授	鈴 木 敏 彦(兼務)

#### 防災実践推進部門

分野名	職 名	氏 名		
防災教育実践学分野	教	授	佐 藤 健	
	教	授	桜 井 愛 子	
	技	術 補 佐 員	松 浦 いく子	
防災社会推進分野	教	授	丸 谷 浩 明	
	教	授	増 田 聡(兼務)	
	教	授	吉 田 浩(兼務)	
	教	授	御 手 洗 潤(兼務)	
	准	教	授	佐 藤 翔 輔
	助	教	新 家 杏 奈(兼務)	
	技	術 補 佐 員	五十嵐 和 美	
	技	術 補 佐 員	高 橋 愛	
	技	術 補 佐 員	寺 嶋 美 織	
	技	術 補 佐 員	森 實 香 純	
技	術 補 佐 員	山 崎 麻 里 子		

国際研究推進オフィス	教 授	小 野 裕 一(兼務)
	教 授	寺 田 賢二郎(兼務)
	教 授	泉 貴 子(兼務)
	准 教 授	Boret Sebastien Penmellen
	准 教 授	Maly Elizabeth Ann
	准 教 授	Suppasri Anawat(兼務)
	准 教 授	Mas Samanez Erick Arturo(兼務)
	特 任 研 究 員	北 村 美和子
	技 術 補 佐 員	千 葉 寛 子
2030国際防災アジェンダ推進オフィス	教 授	小 野 裕 一
	特 任 教 授	永 見 光 三(兼務)
	特 任 教 授	小 森 大 輔(兼務)
	准 教 授	佐々木 大 輔
	助 教	原 裕 太
	事 務 職 員 ( 限 定 )	八 木 美 夏
	事 務 補 佐 員	早 坂 真 希 子
レジリエントEICT研究推進オフィス	特 任 教 授	岩 月 勝 美
	特 任 教 授	鳥 光 慶 一
	教 授	陳 強(兼務)
	教 授	石 鍋 隆 宏(兼務)
	教 授	尾 辻 泰 一(兼務)
	教 授	西 山 大 樹(兼務)
	教 授	福 島 路(兼務)
	教 授	山 田 博 仁(兼務)
	教 授	藤 掛 英 夫(兼務)
	教 授	中 田 俊 彦(兼務)
	准 教 授	今 野 佳 祐(兼務)
	助 教	佐 藤 弘 康(兼務)
	助 教	中 谷 誠 和(兼務)
	特 任 研 究 員	安 達 文 幸
	特 任 研 究 員	松 木 英 敏
	特 任 研 究 員	中 沢 正 隆
	事 務 職 員 ( 限 定 )	篠 崎 頼 子
	学 術 研 究 員	秋 富 慎 司
	学 術 研 究 員	Wo Sirao
	学 術 研 究 員	大 森 慎 吾
	学 術 研 究 員	加 藤 康 之
	学 術 研 究 員	澤 谷 邦 男
	学 術 研 究 員	菅 原 直 秋
	学 術 研 究 員	久 道 好 正
	学 術 研 究 員	藤 澤 宣
	技 術 補 佐 員	嶋 川 裕 子
	技 術 補 佐 員	鈴 木 由 布 子
	技 術 補 佐 員	三 浦 健

地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門	職名	氏名
	教 授	今村文彦(兼務)
	特任教授	鎌田健一
	准 教 授	Suppasri Anawat(兼務)
	助 教	内田典子
	技術職員(限定)	佐藤雅美
	学術研究員	武田真一
	技術補佐員	保田真理

都市直下地震災害(応用地質) 寄附研究部門	職名	氏名
	教 授	遠田晋次(兼務)
	助 手	原 勇 貴
助 手	乗松君衣	

イオン防災環境都市創生 共同研究部門	職名	氏名
	教 授	丸谷浩明(兼務)
	教 授	今村文彦(兼務)
	教 授	児玉栄一(兼務)
	教 授	牧 雅 之(兼務)
助 教	新家杏奈	

日本工営レジリエントシティ技術実装 共同研究部門	職名	氏名
	教 授	寺田賢二郎(兼務)
	教 授	江川新一(兼務)
	准 教 授	森口周二(兼務)
	准 教 授	大野 普(兼務)
	助 教	Sukulthansorn Naruethep
	助 教	凌 国 明
助 教	野村怜佳(兼務)	

附属災害レジリエンス共創センター	職名	氏名
	教 授	江川新一(兼務)
	教 授	越村俊一(兼務)
	教 授	奥村 誠(兼務)
	教 授	小野裕一(兼務)
	准 教 授	袁 巍
	特任准教授	片谷信治
	特任准教授	桑原直道
	助 教	永田彰平
学術研究員(限定)	武田百合子	

災害統計グローバルセンター	教 授	小野裕一(兼務)
	准 教 授	佐々木大輔(兼務)
	助 教	原 裕 太(兼務)

称号付与

特任教授(客員)	呉文繡、岩崎智哉、大石裕介、山本百合子、小野高宏、櫻庭雅明、坂茂、目黒公郎、John B. Rundle、島田明夫、村上清、竹谷公男、村嶋陽一、福本学、上山真知子、原口強、西川智、David Eric Alexander
特任准教授(客員)	野島和也、Joerg Szarzynski、岡田真介、牧野嶋文泰、遠山裕湖、上野史彦

広報室	職名		氏名
	特任准教授		中鉢 奈津子
	技術職員(限定)		鈴木 通江
	技術職員(限定)		福島 愛子
	技術補佐員		小森 光

#### 事務部

事務長	木戸 龍輔
専門員	栗原 尚志
総務係	係長:高橋 由樹、主任:齊藤 留美子 事務補佐員:遠藤 真由美、久保田 千恵
経理係	係長:杉山 力 事務補佐員:小島 克子、千葉 寿枝、小野 里美
用度係	係長:佐藤 圭一、主任:水野 貴江 事務補佐員:栗田 香理、森 智子
専門職員	武川 泰典 事務補佐員:飯渕 みか、宮田 千草、盛田 紗都美、安田 ちひろ

### 4. 1. E 研究所内会議・委員会

#### 1.会議

会議名	構成員	審議事項
教授会	専任の教授	研究所の組織及び研究体制、人事、予算、その他重要事項
運営会議	研究所長、副研究所長、教育研究評議会評議員、研究所長補佐、部門長	研究所の組織運営に関する事項についての企画及び調整
全体会議	専任の教授、准教授、講師、助教、助手、その他	研究所に関する事項等の情報伝達と情報交換

#### 2.委員会

委員会名	委員長	主な所掌内容
安全衛生委員会	栗山 進一 教授(所長)	職員の健康障害防止
予算委員会	栗山 進一 教授(所長)	研究所予算
総務委員会	佐藤 健 教授	研究所総務
評価委員会	越村 俊一 教授(副所長)	部局評価
広報戦略委員会	栗山 進一 教授(所長)	研究成果の社会発信、出版物
ハラスメント防止対策委員会	奥村 誠 教授(評議員)	防止対策と発生時の対応
男女共同参画委員会	泉 貴子 教授(所長補佐)	男女共同参画推進啓発
教務委員会	遠田 晋次 教授	教育、安全、活動の企画・運営
国内連携委員会	小野 裕一 教授(副所長)	産官学連携、自治体連携
国際連携委員会	泉 貴子 教授(所長補佐)	国際連携、APRU
研究企画委員会	越村 俊一 教授(副所長)	研究の企画・運営、体制構築
倫理委員会	江川 新一 教授(所長補佐)	研究倫理審査、倫理教育企画
公正研究活動推進委員会	寺田 賢二郎 教授(所長補佐)	公正な研究活動の推進
施設・環境委員会	寺田 賢二郎 教授(所長補佐)	施設・環境整備保全、安全
消防・防災委員会	奥村 誠 教授(評議員)	災害対策の策定、防災訓練
片平まつり	千田 浩一 教授	片平まつりの企画、実施
災害レジリエンス共創センター戦略推進委員会	栗山 進一 教授(所長)	センターの戦略の推進

### 3.委員会名簿

委員会	◎委員長・ ○副委員長	委員	WG・メンバー (★WG長、☆副WG長)
安全衛生委員会	◎栗山教授	小川浩正(産業医)、菅原准教授、 蝦名准教授、國井准教授、佐々木 大准教授、石澤助教、事務長、用度 係長、総務係長	
予算委員会	◎栗山教授 ○越村教授	小野教授、江川教授、寺田教授、泉 教授、井内准教授、事務長、経理係 長	
総務委員会	◎佐藤健教授 ○丸谷教授	今村教授、柴山准教授、総務係長	ライブラリ運営WG ★栗山教授、柴山准教授、佐藤大准教授
評価委員会	◎越村教授 ○小野教授	五十子教授、奥村教授、村尾教授、 遠田教授、児玉教授、佐藤健教授、 泉教授	教員選考審査基準検討WG ★遠田教授、☆千田教授、村尾教授、寺田教授、泉教授、 栗山教授、小野教授、越村教授  教員表彰WG ★奥村教授、丸谷教授、五十子教授
広報戦略委員会	◎栗山教授 ○寺田教授	木戸教授、佐藤健教授、福島准教 授、中鉢特任准教授、広報室職員 ※各WGに広報室職員参画	年次報告書WG ★木戸教授、中鉢特任准教授、広報室職員  展示WG ★福島准教授、☆高橋助教、井内准教授、ヌイン特任准教 授、佐々木大准教授、藤井准教授、川内准教授、アドリア/ 准教授、ゲルスタ准教授、鈴木特任講師、石澤助教、富田 助教、田邊助教、日野特任助教、濱家助教、朴助教、齋藤 助教、林助教、内田助教、野村助教、新家助教、原裕助 教、凌助教、スクンタナゾーン助教、乗松助手、中鉢特任准 教授
ハラスメント防止対策委員 会	◎奥村教授 ○五十子教授	姥浦教授(教授代表)、井内准教授 (准教授代表)、野村助教(助教代 表)、榎田(過半数代表者)、総務係 長	
男女共同参画委員会	◎泉教授 ○奥村教授	千田教授(教授代表)、井内准教授 (准教授代表・女性代表)、 ゲルスタ准教授(助教代表)、榎田准 教授(過半数代表者)、総務係長	
教務委員会	◎遠田教授(理) ○村尾教授(工)	邑本教授(情)、江川教授(医)、奥村 教授(工)、佐藤大准教授(環)	GP-RSS運営WG ★村尾教授、江川教授、今村教授、児玉教授、泉教授、 サッパシー准教授、柴山准教授、佐藤大准教授  高度医療人材養成プログラム運営WG ★江川教授、五十子教授、榎田准教授、マリ准教授、 佐々木宏准教授、林助教  卓越大学院運営WG ★寺田教授、今村教授、小野教授、江川教授、 福島准教授
国内連携委員会	◎小野教授 ○佐藤健教授	丸谷教授、平野准教授、佐藤翔准 教授	産官学連携WG ★丸谷教授、小野教授、佐藤健教授、佐藤翔准教授  気仙沼分室WG ★佐藤翔准教授、丸谷教授、児玉教授、姥浦教授、蝦名准 教授、森口准教授、菅原准教授、齋藤助教  3.11からの学び塾WG ★佐藤健教授、☆佐藤翔准教授、奥村教授、丸谷教授、平 野准教授  連携自治体WG ★栗山教授、☆小野教授、佐藤健教授、姥浦教授、中鉢特 任准教授、佐藤翔准教授、柴山准教授
国際連携委員会	◎泉教授 ○小野教授	寺田教授、サッパシー准教授、マス 准教授、マリ准教授、ボレー准教 授、ゲルスタ准教授	APRU運営WG ★泉教授、村尾教授、サッパシー准教授、マス准教授、 マリ准教授、ボレー准教授  世界津波の日WG ★小野教授、今村教授、越村教授、サッパシー准教授、 マリ准教授、ボレー准教授、中鉢特任准教授  世界防災フォーラムWG ★栗山教授 事務局:小野教授 セッション部会:泉教授、寺田教授、マリ准教授、ボレー 准教授、マス准教授、サッパシー准教授 展示:展示WG、佐々木大准教授、原裕助教、広報室職員

研究企画委員会	◎越村教授(評) ○寺田教授(工)	五十子教授(評)、奥村教授(人)、村尾教授(人)、遠田教授(評)、小野教授(実)、杉浦教授、森口准教授、福島准教授	金曜フォーラムWG ★栗山教授、☆野村助教、ゲルスタ准教授、中鉢特任准教授、石澤助教、高橋助教、林助教、内田助教、齊藤助教、田邊助教、富田助教、スクンタナゾーン助教、凌助教、乗松助手、広報室職員 緊急調査WG 津波(国内):菅原准教授、サッパシー准教授 津波(海外):☆サッパシー准教授、マス准教授 高潮:☆高橋助教、マス准教授 洪水:☆マス准教授、サッパシー准教授 地震:☆大野准教授、柴山准教授 土砂:★森口准教授、石澤助教 火山:☆福島准教授、森口准教授 保健・医療:☆佐々木宏准教授、國井准教授 歴史資料保護:☆佐藤大准教授、蝦名准教授、川内准教授 構造物:☆榎田准教授、柴山准教授 情報支援:☆佐藤翔准教授、中鉢特任准教授、広報室職員 マッピング:☆永田助教 (アドバイザー教授:今村教授、丸谷教授、五十子教授、江川教授、遠田教授、寺田教授、越村教授、三浦教授(理学)) ソフトウェア管理WG ★越村教授、マス准教授 KPI評価・推進WG ★栗山教授、越村教授、寺田教授、佐藤健教授、泉教授、小野教授、福島准教授、柴山准教授、蝦名准教授、事務長、経理係長 研究所若手アンサンブルWG ★原助教、石澤助教、野村助教、田邊助教
倫理委員会	◎江川教授 ○奥村教授	邑本教授、木戸教授、森口准教授、榎田准教授、ボレー准教授、井内准教授、藤井准教授	
公正研究活動推進委員会	◎寺田教授(評) ○奥村教授*(人)	榎田准教授(評)、邑本教授*(人)、木戸教授(評)、千田教授*(医)、蝦名准教授(人)、佐々木大(実) *研究公正アドバイザー	
施設環境委員会	◎寺田教授 ○平野准教授	五十子教授、姥浦教授、大野准教授、柴山准教授、用度係長	施設管理WG ★平野准教授、村尾教授、姥浦教授、大野准教授、柴山准教授、用度係長 ネットワークWG ★大野准教授、寺田教授、柴山准教授 デザインコードWG ★村尾教授、平野准教授、用度係長
消防・防災委員会(自衛消防隊)	◎奥村教授 ○五十子教授	今村教授、邑本教授、児玉教授、姥浦教授、大野准教授、佐々木大准教授、菅原准教授、佐々木宏准教授、平野准教授、佐藤翔准教授、事務長	防災計画策定WG ★丸谷教授、佐藤健教授、邑本教授、佐々木宏准教授、佐藤翔准教授、総務係長、用度係長
東日本大震災シンポジウム	◎佐藤健教授 ○菅原准教授	マス准教授、佐々木大准教授	
片平まつり	◎千田教授 ○村尾教授	大野准教授(評)、J佐藤大准教授(人)、濱家助教(医)、原助教(実)、広報室職員、総務係長	
災害レジリエンス共創センター戦略推進委員会	◎栗山教授 ○越村教授(副センター長)	江川教授(センター長)、奥村教授、小野教授、中谷教授(環境科学)、防災科研、事務長 オブザーバー:中鉢特任准教授、武田学術研究員	



#### 4. 1. F タスクフォース

名称	設置年月日	期限
関東大震災100年発信準備TF	令和5年5月10日	令和5年9月29日
カーボン削減TF	令和5年5月10日	令和6年3月31日
連携型共同利用共同研究拠点申請TF	令和5年6月7日	令和6年3月31日
年次報告書改定TF	令和5年6月7日	令和6年3月31日
災害アプリケーションの在り方検討TF	令和5年9月6日	令和6年3月29日
災害データベース(仮称)検討TF	令和5年9月6日	令和6年9月30日
大規模災害発生時の対応検討TF	令和5年12月11日	令和6年9月30日
サーバ・メール移行TF	令和6年1月15日	令和7年3月31日

## 4. 2. 研究資金

### 4. 2. A 2023年度 災害科学国際研究所歳出決算

(単位:百万円)

区分	決算額	備考
運営費交付金	554	
教員人件費	398	
教育研究費	154	
一般管理費	2	
運営費交付金 (ミッション実現加速化)	62	
間接経費	149	
外部資金	790	
寄附金	97	・寄附研究部門含む
受託研究費	374	
共同研究費	140	
受託事業費	44	
科学研究費補助金	120	
その他補助金	15	
合 計	1,555	

※単位未満四捨五入

#### 4. 2. B. 研究者一人あたりの研究費

2024年3月末現在(単位:千円)

事 項	研究費総額 (A)	専任教員数 (B)	教員一人 あたりの研究費 (A/B)	備 考
運営費交付金	68,593	52	1,319	
運営費交付金(ミッション実現加速化)	61,686	52	1,186	
受託研究費等	669,784	57	11,751	寄附金、受託研究費、共同研究費、受託事業費、その他補助金を含む
科学研究費補助金	119,630	52	2,301	文科省科研費、厚労省科研費を含む
合 計	919,693	52 (57)	16,557	

※専任教員数は研究費配分対象者の総数(受託研究費等のみ、レジリエントEICT研究推進オフィス教員数を加算)

※単位未満四捨五入

## 4. 2. C. 2023年度科学研究費補助金採択一覧

### 文科科学研究費

2024年3月末現在

番号	課題番号	研究種目	研究課題名等	直接経費	間接経費	合計	研究者	研究年度
1	21H05001	基盤研究(S)	理・工・医学の連携による災害医療デジタルツインの開発と医療レジリエンスの再構築	27,900,000	8,370,000	36,270,000	越 村 俊 一	R03 ~ R07
2	22H00222	基盤研究(A)	レジリエント幹線交通ネットワーク計画のための数理最適化アプローチ	5,700,000	1,710,000	7,410,000	奥 村 誠	R04 ~ R08
3	22H00507	基盤研究(A)	土砂災害の高精度・高効率シミュレーションによる高精細パーチャリゼーション	8,500,000	2,550,000	11,050,000	寺 田 賢 二 郎	R04 ~ R07
4	20H02320	基盤研究(B)	被災沿岸地域から学ぶ移転復興計画論の構築:台風ハイアン・スラウェシ島地震を対象に	3,300,000	990,000	4,290,000	井 内 加 奈 子	R02 ~ R05
5	21H01499	基盤研究(B)	地域型復興住宅の全国展開の可能性に関する研究	3,300,000	990,000	4,290,000	岩 田 司	R03 ~ R05
6	21H01582	基盤研究(B)	風水害を中心とした包括的学校安全の実態解明と評価手法の構築	2,600,000	780,000	3,380,000	佐 藤 健	R03 ~ R06
7	21H01583	基盤研究(B)	単一斜面と広域の異なる空間スケールを直接表現する豪雨時斜面安定性評価	2,400,000	720,000	3,120,000	森 口 周 二	R03 ~ R05
8	21H03680	基盤研究(B)	インドネシアにおける災害復興で現地の学術研究機関が果たす媒介機能の活用に向けて	3,300,000	990,000	4,290,000	佐々木大輔	R03 ~ R06
9	22H01305	基盤研究(B)	火山近傍の活断層の発達と長期相互作用の解明—布田川断層と阿蘇火山における研究—	5,100,000	1,530,000	6,630,000	遠 田 晋 次	R04 ~ R06
10	22H03346	基盤研究(B)	日米英蘭の先端ゲノムコホートと戦略的AI解析技術を用いた多因子疾患の病態解明	3,000,000	900,000	3,900,000	栗 山 進 一	R04 ~ R06
11	23H00707	基盤研究(B)	地理空間情報を活用した文化遺産の保全・救済手法の研究	3,000,000	900,000	3,900,000	蝦 名 裕 一	R05 ~ R09
12	23H01252	基盤研究(B)	津波履歴解明の新展開:侵食地形の識別と数値解析による評価	4,900,000	1,470,000	6,370,000	菅 原 大 助	R05 ~ R08
13	23H01574	基盤研究(B)	東日本大震災からの短期的・中期的観点からの空間的復興の検証	4,100,000	1,230,000	5,330,000	姥 浦 道 生	R05 ~ R08
14	23H03537	基盤研究(B)	新規解析モデルを活用する正常水晶体細胞の低線量域放射線への応答とp53関与の解析	4,800,000	1,440,000	6,240,000	千 田 浩 一	R05 ~ R08
15	21K07524	基盤研究(C)	統合失調症死後脳浸透球におけるストレス応答分子に着目した多階層的研究	1,500,000	450,000	1,950,000	日 野 瑞 城	R03 ~ R07
16	21K12234	基盤研究(C)	有機結合型トリチウムを用いた低濃度トリチウム影響解析	1,000,000	300,000	1,300,000	鈴 木 正 敏	R03 ~ R05
17	22K03167	基盤研究(C)	精神病早期段階における患者家族間の相互作用メカニズム:疾患解釈スタイルに着目して	1,100,000	330,000	1,430,000	濱 家 由 美 子	R04 ~ R06
18	22K04348	基盤研究(C)	風車の回転に着目した風力発電施設の誘目特性と景観評価	1,200,000	360,000	1,560,000	平 野 勝 也	R04 ~ R06
19	22K10358	基盤研究(C)	病院事業継続マネジメントに資する災害対応訓練計画・実施支援ツールの開発	800,000	240,000	1,040,000	佐々木宏之	R04 ~ R06
20	23K03000	基盤研究(C)	展望記憶における実行意図想像方略の認知過程の解明	900,000	270,000	1,170,000	田 邊 亜 澄	R05 ~ R07
21	23K04102	基盤研究(C)	海域・地盤・建物連続観測網と深層学習に基づく即時地震動・建物応答予測法の開発	2,000,000	600,000	2,600,000	大 野 晋	R05 ~ R07
22	23K07918	基盤研究(C)	薬剤耐性菌(AMR) 制圧:相違性から類似性への構造生物学創薬パラダイムシフト	1,400,000	420,000	1,820,000	林 宏 典	R05 ~ R07
23	20K20004	若手研究	生態系保全策・気候変動適応策の地域間矛盾解消に資する乾燥地フードチェーンの解明	600,000	180,000	780,000	原 裕 太	R02 ~ R05
24	21K13151	若手研究	河川上流域における支流の土砂供給様式の長期的変化過程の解明	600,000	180,000	780,000	高 橋 尚 志	R03 ~ R06
25	21K13164	若手研究	The integration of mass trauma in collective identity through negative heritage preservation and disaster tourism in Tohoku after the Great East Japan Earthquake	1,100,000	330,000	1,430,000	GERSTER JULIA	R03 ~ R07
26	23K12329	若手研究	大規模GPSデータを用いた活動空間に基づくウォークアビリティと歩行量の関係の解明	2,400,000	720,000	3,120,000	永 田 彰 平	R05 ~ R07
27	23K13176	若手研究	段丘における古津波・地殻変動痕跡の検出とそれによる海溝型地震津波の解明	1,300,000	390,000	1,690,000	石 澤 堯 史	R05 ~ R07
28	23K13529	若手研究	樹木の「かたち」がもたらす津波減災効果を解明するマルチスケール評価手法の提案	1,400,000	420,000	1,820,000	野 村 怜 佳	R05 ~ R07
29	23K17117	若手研究	Tourism and Disaster Planning in Small Island Communities: How Japan can contribute to other island cities	900,000	270,000	1,170,000	NGUYAN DAVID	R05 ~ R07
30	21K19366	挑戦的研究(萌芽)	コロナウイルス制圧のための新規膜融合阻害ペプチドの創出と合理的な設計法の確立	1,000,000	300,000	1,300,000	児 玉 栄 一	R03 ~ R05
31	22K18838	挑戦的研究(萌芽)	構造物に重篤応答を誘発する地震入力波の非線形制御による同定手法の構築と実験的検証	1,400,000	420,000	1,820,000	榎 田 竜 太	R04 ~ R06
32	23K17563	挑戦的研究(萌芽)	国際開発と社会的公正:気候変動時代における沿岸インフラ整備をめぐる援助競争	700,000	210,000	910,000	井 内 加 奈 子	R05 ~ R07
33	20KK0037	国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化(B))	東南アジアにおける「オールハザード型」防災対策枠組構築のための共同研究	3,400,000	1,020,000	4,420,000	泉 貴 子	R02 ~ R06
34	22KK0066	国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化(B))	災害・気候変動対応策への投資と社会的脆弱性・地域復元力の関係解明:NY市を対象に	3,500,000	1,050,000	4,550,000	井 内 加 奈 子	R04 ~ R08
35	23KK0084	国際共同研究加速基金 (海外連携研究)	インドネシア被災地における復興評価手法の開発と災害リスク認知の時空間推移の解明	2,400,000	720,000	3,120,000	村 尾 修	R05 ~ R09
36	22KF0044	特別研究員奨励費	福島放射能除染と集合的記憶の構成	700,000	0	700,000	GAULENE MATHIEU	R05 ~ R05
37	22KJ0197	特別研究員奨励費	巨礫堆積物と確率台風モデルによる北西太平洋における古台風の最大強度分布の解明	1,000,000	0	1,000,000	南 館 健 太	R05 ~ R05
38	22KJ0233	特別研究員奨励費	マルチスケール・マルチステージ新破壊理論による構造物の精緻な崩壊予測への挑戦	700,000	210,000	910,000	韓 霽 珂	R05 ~ R05
39	22KJ0259	特別研究員奨励費	CFRPのプロダクトライフサイクル予測を可能にするマルチスケール計算科学の創生	1,100,000	0	1,100,000	山 中 羅 介	R05 ~ R05
40	22KJ0266	特別研究員奨励費	持続可能な社会へ向けた超高層建物のレジリエント・デザインへの挑戦	800,000	0	800,000	福 田 伊 織	R05 ~ R05
41	22KJ0306	特別研究員奨励費	受け手のニーズと行動変容効果を両立させる持続可能な災害伝承モデルの開発	800,000	0	800,000	渡 邊 勇	R05 ~ R06
42	22KJ0313	特別研究員奨励費	実用化に向けた大規模な社会基盤施設群の維持管理施策最適化問題の解法の体系化	800,000	0	800,000	中 里 悠 人	R05 ~ R06
43	23KJ0112	特別研究員奨励費	超解像が叶えるスパース観測網の最適設計に基づく革新的即時津波予測体系	1,000,000	0	1,000,000	藤 田 真 粹	R05 ~ R06
44	23KJ0123	特別研究員奨励費	斜面崩壊挙動のシームレスシミュレーションによる広域土砂災害の高精細予測	1,000,000	0	1,000,000	飛 弾 野 壯 真	R05 ~ R06
45	23KJ0125	特別研究員奨励費	大規模ゲノムコホートを基盤としたアトピー性皮膚炎の原因探索と個別化医療の実現	700,000	0	700,000	河 口 千 奏	R05 ~ R06
46	23KJ0186	特別研究員奨励費	個別化栄養の実現に向けた特定の食品が体質的に食べられない者の遺伝的背景の検討	900,000	0	900,000	高 橋 一 平	R05 ~ R07
47	23KJ0188	特別研究員奨励費	東日本大震災を踏まえた「より良い復興」の指標開発とデジタルツイン環境下での応用	1,000,000	0	1,000,000	加 藤 春 奈	R05 ~ R07
48	23KF0132	特別研究員奨励費	ダイナミック・マス制振システムの非線形性を考慮した構造物振動応答制御法	900,000	0	900,000	DEASTRA PREDARICKA	R05 ~ R07
合計				123,900,000	33,960,000	157,860,000		

#### 4. 2. D. 2023年度外部資金受入状況

契約種別	研究代表者	契約相手	研究題目	研究開始日	研究終了日	直接経費	間接経費	合計
受託研究/競争的研究費	越村 俊一	国立研究開発法人科学技術振興機構	地震直後におけるリマ音都圏インフラ被災程度予測・観測のための統合型エキスパートシステムの開発 G1:早期解析システム(GIB:津波)	2021/9/1	2025/3/31	3,900,000	1,170,000	5,070,000
受託研究/競争的研究費	小野 裕一	国立研究開発法人科学技術振興機構	災害伝承・防災教育・包括的なリスクアセスメントのソリューション化	2021/10/1	2025/3/31	11,500,000	3,450,000	14,950,000
受託研究/競争的研究費	菅原 大助	国立研究開発法人科学技術振興機構	デジタル防災コミュニティの探索	2021/10/1	2024/3/31	11,200,000	3,360,000	14,560,000
受託研究/競争的研究費	尾辻 泰一	国立研究開発法人科学技術振興機構	自律分散協調型直流マイクログリッドの全体最適化を実現する電力・通信融合ネットワーク基盤技術の創出	2021/10/1	2025/3/31	69,519,232	20,855,768	90,375,000
受託研究/競争的研究費	SUPPASRI ANAWAT	国立研究開発法人科学技術振興機構	沿岸でのレジリエント社会構築のための新しい持続性システム	2022/4/1	2025/3/31	5,667,000	1,700,100	7,367,100
受託研究/競争的研究費	佐藤 翔輔	国立研究開発法人科学技術振興機構	被災者と未被災者が共に学ぶデジタル災害空間基盤	2022/10/1	2025/3/31	9,450,000	2,835,000	12,285,000
受託研究/競争的研究費	栗山 進一	国立研究開発法人日本医療研究開発機構	出生コホート連携に基づく胎児期から乳幼児期の環境と母児の予後との関連に関する研究	2023/4/1	2024/3/31	2,735,385	820,615	3,556,000
受託研究/競争的研究費	國井 泰人	国立大学法人熊本大学	死後脳試料を用いた検証	2023/4/1	2024/3/31	5,000,000	1,500,000	6,500,000
受託研究/競争的研究費	國井 泰人	国立研究開発法人国立国際医療研究センター	東北地区における精神疾患拠点の構築	2023/4/1	2024/3/31	2,200,000	660,000	2,860,000
受託研究/競争的研究費	陳 強	総務省	基地局端末間の協調による動的ネットワーク制御に関する研究開発	2023/4/1	2024/3/31	62,189,814	14,428,036	76,617,850
受託研究/競争的研究費	林 宏典	国立研究開発法人日本医療研究開発機構	非天然型複合体を促進する化合物の合理的設計法開発	2023/4/15	2024/3/31	7,000,000	2,100,000	9,100,000
受託研究/競争的研究費	中沢 正隆	総務省	量子インターネット実現に向けた要素技術の研究開発	2023/7/11	2024/3/31	76,923,077	23,076,923	100,000,000
受託研究/競争的研究費	福島 洋	国立研究開発法人科学技術振興機構	カフマンマラッシュ地震の学校・子どもへの影響および防災教育状況の調査	2023/8/1	2024/7/31	3,450,000	345,000	3,795,000
受託研究/競争的研究費	今村 文彦	国立研究開発法人科学技術振興機構	カフマンマラッシュ(トルコ南東部)地震関連のデジタルアーカイブ構築支援と活用	2023/8/1	2024/7/31	3,300,000	330,000	3,630,000
受託研究/競争的研究費	越村 俊一	国立研究開発法人防災科学技術研究所	津波災害デジタルツインの構築	2023/9/1	2025/3/31	45,000,000	6,750,000	51,750,000
受託研究/一般	藤井 進	全国健康保険協会宮城支部	支部単位保険料率の背景にある医療費の地域差の要因に関する研究	2022/4/1	2023/5/31	0	0	0
受託研究/一般	林 宏典	国立研究開発法人国立国際医療研究センター	SARS-CoV-3メインプロテアーゼ阻害剤に対する薬剤耐性変異誘導と耐性獲得機序の解明(22A2009D)	2022/10/1	2023/9/30	0	0	0
受託研究/一般	陳 強	国立研究開発法人情報通信研究機構	Beyond 5G のレジリエンスを実現するネットワーク制御技術の研究開発	2023/4/1	2024/3/31	44,923,077	13,476,923	58,400,000
受託研究/一般	鈴木 正敏	日本エヌ・ユー・エス株式会社	不溶性セシウム粒子の生物影響に関する理解深化を目指す分野横断共同研究	2023/4/3	2024/3/29	2,135,383	491,138	2,626,521
受託研究/一般	藤井 進	全国健康保険協会宮城支部	支部単位保険料率の背景にある医療費の地域差の要因に関する研究	2023/6/1	2024/5/31	3,683,500	1,104,450	4,787,950
受託研究/一般	松木 英敏	東北電力ネットワーク	電磁界の工学面での影響調査研究	2023/7/3	2024/3/8	816,063	245,437	1,061,500
受託研究/一般	林 宏典	国立研究開発法人国立国際医療研究センター	SARS-CoV-3メインプロテアーゼ阻害剤に対する薬剤耐性変異誘導と耐性獲得機序の解明(22A2009D)	2023/10/1	2024/9/30	1,000,000	0	1,000,000
小計		22件				371,592,531	98,699,390	470,291,921
共同研究	五十子 幸樹	株式会社奥村組	性能可変オイルダンパーの実用化に関する研究	2022/6/6	2023/6/5	0	0	0
共同研究	五十子 幸樹	有限会社シズメテック	性能可変オイルダンパーの実用化に関する研究	2022/4/1	2024/3/31	0	0	0
共同研究	木戸 元之	国立大学法人東京大学	災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画	2022/11/1	2023/10/31	9,922,000	0	9,922,000
共同研究	藤井 進	三菱HCキャピタル株式会社	個人に向けた医療BCP基盤の在り様と医療情報を使った個人に最適なサービスと基盤の在り様に関する研究	2022/4/1	2025/3/31	0	0	0
共同研究	今村 文彦	公益財団法人イオン環境財団	レジリエント・コミュニティ創生に向けた都市のあり方に関する研究	2021/10/1	2024/9/30	6,000,000	1,800,000	7,800,000
共同研究	今村 文彦	イオンモール株式会社	レジリエント・コミュニティ創生に向けた都市のあり方に関する研究	2021/10/1	2024/9/30	6,000,000	1,800,000	7,800,000
共同研究	寺田 賢二郎	日本工営株式会社	レジリエントシティ技術実装	2022/9/1	2024/8/31	19,000,000	5,700,000	24,700,000
共同研究	鳥光 慶一	株式会社n-position	姿勢と矯正に関する研究	2019/4/1	2025/3/31	2,300,000	690,000	2,990,000
共同研究	丸谷 浩明	株式会社丸和運輸機関	物流業におけるBCPの構築	2019/4/1	2025/3/31	0	0	0
共同研究	丸谷 浩明	株式会社フクダ・アンド・パートナーズ	新規開発案件の防災に関する共同研究・物流施設の計画・建設・運営面での防災力向上・復旧支援の研究	2019/4/1	2024/3/31	1,656,277	423,723	2,080,000
共同研究	鳥光 慶一	ピョンエス株式会社	IoTセンシングに関する研究	2021/10/1	2024/9/30	6,152,000	1,845,500	7,997,500
共同研究	MAS SAMANEZ ERICK ARTURO	日本工営株式会社	モバイル統計データと避難行動分析による津波避難時の人的曝露量	2021/10/1	2024/9/30	0	0	0
共同研究	今村 文彦	パシフィックコンサルタンツ株式会社	非地震性津波災害のリスク評価にかかる研究	2022/4/1	2024/3/31	6,000,000	1,800,000	7,800,000
共同研究	小野 裕一	パシフィックコンサルタンツ株式会社	仙台防災枠組と関連した災害研の国際連携活動の推進に向けた調査研究	2022/9/1	2025/3/31	366,600	73,400	440,000
共同研究	今村 文彦	復建調査設計株式会社	海洋土木構造物に及ぼす津波の影響に関する研究	2022/11/1	2024/3/31	916,600	238,400	1,155,000
共同研究	越村 俊一	東海旅客鉄道株式会社	リアルタイム津波浸水被害推定システムによる早期被害把握と高度化に向けた実証研究	2022/11/1	2023/10/31	4,163,500	832,700	4,996,200
共同研究	佐藤 大介	大学共同利用機関法人人間文化研究機構	歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業	2020/6/1	2024/3/31	11,500,000	0	11,500,000
共同研究	藤井 進	日本電信電話株式会社	次世代避難に向けた社会システムの構築および地域住民の防災行動促進を目的とした介入モデルの研究	2019/4/1	2024/3/31	7,488,400	2,246,520	9,734,920
共同研究	中沢 正隆	三菱電機株式会社	超多値デジタルコヒーレント光伝送における前方誤り訂正方式の最適化に関する研究	2023/4/1	2024/3/25	769,000	231,000	1,000,000
共同研究	尾辻 泰一	パナソニックホールディングス株式会社	自律分散協調型直流マイクログリッドの全体最適化を実現する電力・通信融合ネットワーク基盤技術の創出	2023/4/1	2025/3/31	2,500,000	500,000	3,000,000
共同研究	尾辻 泰一	古河電気工業株式会社	自律分散協調型直流マイクログリッドの全体最適化を実現する電力・通信融合ネットワーク基盤技術の創出	2023/4/1	2024/3/31	8,334,000	1,666,000	10,000,000
共同研究	五十子 幸樹	株式会社安藤・間	減衰指定型ダンパーシステムを用いた高性能免震構造の開発(その2)	2023/4/1	2024/3/31	4,000,000	1,200,000	5,200,000
共同研究	今村 文彦	ARTHUR J. GALLAGHER (UK) LIMITED(イギリス)	Global tsunami hazard and risk assessment	2023/4/1	2024/3/31	3,866,600	1,133,400	5,000,000
共同研究	菅原 大助	富士通株式会社	災害時のより安全な避難行動に向けた行動変容の研究	2023/4/1	2024/3/31	2,335,600	664,400	3,000,000
共同研究	佐藤 翔輔	宮城県	みやぎ東日本大震災津波伝承館の機能強化についての共同研究	2023/5/12	2024/3/19	3,165,000	949,000	4,114,000
共同研究	今村 文彦	株式会社IHI	アンモニア大規模受入・貯蔵・供給設備における安全リスク評価に関する研究	2023/4/1	2024/3/31	2,000,000	600,000	2,600,000
共同研究	今村 文彦	株式会社IHIプラント	アンモニア大規模受入・貯蔵・供給設備における安全リスク評価に関する研究	2023/4/1	2024/3/31	1,000,000	300,000	1,300,000

契約種別	研究代表者	契約相手	研究題目	研究開始日	研究終了日	直接経費	間接経費	合計
共同研究	森口 周二	日本電信電話株式会社	東北大災害情報と4Dデジタル基盤の連携による被災予測デジタルツインを活用した意思決定支援の研究	2023/6/5	2024/3/31	5,076,923	1,523,077	6,600,000
共同研究	今村 文彦	ベル・データ株式会社	防災ISO構築を目指した防災備蓄Platformの構築	2023/8/8	2024/3/31	2,500,000	750,000	
共同研究	中沢 正隆	株式会社KDDI総合研究所(KDDIResearch,Inc.)	長距離空間多重伝送方式及び関連技術の研究	2023/4/1	2024/3/31	769,000	231,000	1,000,000
共同研究	丸谷 浩明	株式会社丸和運輸機関	物流業によるBCPの構築	2023/4/1	2024/3/31	1,579,200	400,800	1,980,000
共同研究	鈴木 正敏	大学共同利用機関法人自然科学研究機構	核融合安全性研究:トリチウムの環境移行・生物影響共同研究からのアプローチ	2023/9/11	2024/3/18	750,000	75,000	825,000
共同研究	柴山 明寛	トヨタ自動車株式会社	災害に強いまちづくり(東北大学・トヨタ自動車包括的連携協定内)	2023/6/6	2024/6/5	5,000,000	1,500,000	6,500,000
共同研究	尾辻 泰一	日本電信電話株式会社	自律分散協調型直流マイクログリッドの全体最適化を実現する電力・通信融合ネットワーク基盤技術の創出	2023/5/17	2024/3/31	8,334,000	1,666,000	10,000,000
共同研究	五十子 幸樹	東京電力ホールディングス株式会社	建屋上の塔状構造物の効果的な補強法に関する研究	2023/4/1	2025/3/31	1,300,000	390,000	1,690,000
共同研究	佐藤 翔輔	宮城県	宮城県内企業向け防災研修プログラム構築についての共同研究	2023/4/1	2024/3/31	1,540,000	460,000	2,000,000
共同研究	中沢 正隆	国立研究開発法人情報通信研究機構	光パケット・バス統合ノードを用いた適応多値信号スイッチング	2012/12/21	2024/3/31	0	0	0
共同研究	千田 浩一	国立研究開発法人産業技術総合研究所	福島第一原発事故で問題となっているような、低線量率被ばくの健康被害バイオマーカーの探索	2020/6/19	2024/3/31	0	0	0
共同研究	陳 強	国立研究開発法人情報通信研究機構	BSGへの適用を目指したタフ無線アクセス基盤技術に関する研究	2021/4/1	2026/3/31	0	0	0
共同研究	越村 俊一	国立研究開発法人防災科学技術研究所	災害対応デジタルツインに対する災害対応実務者のニーズ調査に基づく概念設計のための要件定義	2022/10/3	2025/3/31	0	0	0
共同研究	奥村 誠	国立研究開発法人防災科学技術研究所	レジリエンス定量化の戦略構築と実証研究	2022/10/3	2024/3/31	0	0	0
共同研究	佐藤 健	国立研究開発法人防災科学技術研究所	防災基礎力尺度の開発・検証と高度職業人の防災教育実践による社会のレジリエンス向上	2022/10/3	2024/3/31	0	0	0
共同研究	鈴木 正敏	International Atomic Energy Agency: (国際原子力機関)[オーストリア]	長期低線量被ばく評価のための野生ニホンザルおよび大型ニホンザルモデルを用いた外部線量測定法の確立と改善	2022/12/16	2027/12/15	0	0	0
共同研究	五十子 幸樹	国立研究開発法人防災科学技術研究所	次世代型の振(震)動実験・制御・計測の基礎技術開発	2023/4/1	2026/3/31	0	0	0
共同研究	遠田 晋次	国立研究開発法人防災科学技術研究所	2016年熊本地震の強震動と建物被害の関係に関する研究	2023/6/2	2025/3/31	0	0	0
共同研究	鈴木 正敏	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構	トリチウム定常放出を想定した環境物理モデルの構築と合理的な環境計測手法の検討	2023/8/2	2024/1/31	0	0	0
共同研究	木戸 元之	海上保安庁海洋情報部	海底地殻変動観測技術の高度化	2023/9/6	2028/3/31	0	0	0
小計			47件			136,284,700	31,689,920	167,974,620
学術指導	今村 文彦	株式会社東北博報堂	「ぼくのわたしの防災手帳」	2019/12/1	2024/11/30	72,000	8,000	80,000
学術指導	丸谷 浩明	株式会社丸和運輸機関	大規模災害発生時の物流事業者による支援活動の指導	2021/6/6	2023/6/5	0	0	0
学術指導	丸谷 浩明	一般社団法人AZ-COM丸和・支援ネットワーク	大規模災害発生時の物流事業者による支援活動の指導	2021/6/6	2023/6/5	0	0	0
学術指導	越村 俊一	株式会社FaroStar	移動体からの災害被災状況の把握、予測に関する学術指導	2022/4/25	2024/3/31	0	0	0
学術指導	丸谷 浩明	株式会社フクダ・アンド・パートナーズ	事業継続計画策定	2022/9/1	2024/8/31	0	0	0
学術指導	柴山 明寛	株式会社トップバンクフックコミュニケーションズ	自然災害に関するソリューション研究指導	2022/10/1	2025/3/31	0	0	0
学術指導	柴山 明寛	株式会社トップバンクフックコミュニケーションズ	(名古屋市)自然災害に関するソリューション研究指導	2023/2/1	2025/3/31	0	0	0
学術指導	柴山 明寛	株式会社JTBCコミュニケーションデザイン	被災地の復興に関する事例収集調査	2023/2/10	2024/3/31	0	0	0
学術指導	今村 文彦	株式会社ベガサス	防災ガイド作成への監修	2023/3/15	2023/6/15	0	0	0
学術指導	佐藤 翔輔	株式会社ワコーファースト商事	循環型かつ実践的防災グッズの開発指導	2023/8/1	2025/12/31	270,000	30,000	300,000
受託事業	泉 貴子	独立行政法人国際協力機構	地域コミュニティ安心と安全向上のための災害リスク理解に基づく防災強化プロジェクト(草の根パートナー型)	2018/6/15	2024/4/15	12,779,000	2,171,000	14,950,000
受託事業	柴山 明寛	多賀城市	令和5年度多賀城市震災アーカイブシステム保守点検業務	2023/4/1	2024/3/31	150,000	0	150,000
受託事業	千田 浩一	国立大学法人九州大学	原子力人材育成等推進事業	2023/4/1	2024/3/31	17,991,000	0	17,991,000
受託事業	越村 俊一	内閣府	2023-2027年度津波浸水被害推計システム保守・運用業務	2023/4/1	2028/3/31	6,429,308	222,692	6,652,000
受託事業	越村 俊一	内閣府	津波浸水被害推計システム機能拡張業務(南西諸島および伊豆・小笠原諸島)	2023/5/23	2024/3/31	9,570,000	2,227,500	11,797,500
受託事業	今村 文彦	日本規格協会	産業基盤分野に係る国際標準開発活動スマートなコミュニティインフラとしての防災データ活用に関する国際標準化	2023/5/30	2024/2/29	7,676,745	767,673	8,444,418
受託事業	柴山 明寛	岩手県	令和5年度海外津波博物館等とのオンライン交流運営等業務	2023/10/30	2024/2/29	1,240,000	0	1,240,000
受託事業	柴山 明寛	いわき市	いわき市令和5年台風第13号災害における調査検証業務委託	2023/10/25	2024/3/31	1,298,000	0	1,298,000
受託事業	今村 文彦	国立大学法人京都大学	沿岸でのレジリエント社会構築のための新しい持続性システム	2023/9/1	2024/7/31	5,921,130	0	5,921,130
受託事業	越村 俊一	内閣府	津波浸水被害推計システム改修業務(令和5年度 総合防災情報システム(Gen3Ver1)接続対応)	2024/2/2	2024/3/29	0	0	0
小計			20件			63,397,183	5,426,865	68,824,048
			合計			571,274,414	135,816,175	707,090,589

## 4. 2. E. 2023年度寄附金の受入状況

受入総額: 117,984,140円

2024年3月末現在

No.	助成金名称	寄附者名	受入教員	寄附金額
1	2020年度三菱財団自然科学特別助成(感染症)助成金	國井 泰人	國井 泰人	400,000
4 月 計			1件	400,000
2	放射線検査学研究助成金	(株)千代田テクノル	千田 浩一	150,000
5 月 計			1件	150,000
3	津波工学研究分野研究助成金	一般社団法人東北地域づくり協会	今村 文彦	2,000,000
4	災害アーカイブ研究助成金	(株)ジェイアール東日本企画	柴山 明寛	200,000
5	津波工学研究分野研究助成金	五洋建設(株)	今村 文彦	500,000
6	無線通信研究助成金	安達 文幸	安達 文幸	3,000,000
7	令和5年度栗駒山麓ジオパーク学術研究等奨励事業補助金	高橋 尚志	高橋 尚志	449,000
6 月 計			5件	6,149,000
8	防災・復興空間学研究助成金	(株)シェルタージャパン	村尾 修	330,000
9	災害時でも持続可能な精神疾患病態研究システムの整備に関する研究助成金	大塚製薬(株)	國井 泰人	200,000
7 月 計			2件	530,000
10	防災・復興空間学研究助成金	(株)シェルタージャパン	村尾 修	330,000
11	防災・復興空間学研究助成金	村尾 修	村尾 修	38,104
12	仙台平野における歴史上の津波研究に関する研究助成金	(株)アコード	菅原 大助	150,000
13	CAEに関する研究助成	サイバネットシステム(株)	寺田 賢二郎	1,000,000
8 月 計			4件	1,518,104
14	防災・復興空間学研究助成金	(株)シェルタージャパン	村尾 修	330,000
15	河川情報センター研究助成金	一般財団法人河川情報センター	佐藤翔輔	1,525,000
16	セコム科学技術振興財団研究助成金	公益財団法人セコム科学技術振興財団	越村 俊一	700,000
17	災害アーカイブ研究助成金	国際ロータリー第2530地区いわき分区	柴山 明寛	100,000
18	フレキシブルシルク電極研究助成金	アルプスアルパイン(株)	鳥光 慶一	500,000
9 月 計			5件	3,155,000
19	防災・復興空間学研究助成金	(株)シェルタージャパン	村尾 修	330,000
10 月 計			1件	330,000
20	防災・復興空間学研究助成金	(株)シェルタージャパン	村尾 修	330,000
21	公益財団法人今井精一記念財団研究助成(大瀬戸恒志)	公益財団法人今井精一記念財団	大瀬戸 恒志 (栗山 進一)	1,500,000
22	公益財団法人先進医薬研究振興財団研究助成(大瀬戸恒志)	公益財団法人先進医薬研究振興財団	大瀬戸 恒志 (栗山 進一)	1,000,000
23	セコム科学技術振興財団研究助成金	今村 文彦	越村 俊一	100,000
11 月 計			4件	2,930,000

No.	助成金名称	寄附者名	受入教員	寄附金額
24	防災・復興空間学研究助成金	(株)シェルタージャパン	村尾 修	330,000
25	災害アーカイブ研究助成金	TOPPAN(株) 東日本事業本部	柴山 明寛	200,000
26	津波工学研究分野研究助成金	(株)東京建設コンサルタント	今村 文彦	1,000,000
27	災害アーカイブ研究助成金	日本総合システム(株)	柴山 明寛	100,000
28	ヘルスケア・データサイエンス研究所研究助成金(小原竜)	一般社団法人ヘルスケア・データサイエンス研究所	小原 竜 (栗山 進一)	300,000
29	放射線検査学研究助成金	公益財団法人宮城県対がん協会	医)千田 浩一	200,000
30	セコム科学技術振興財団研究助成金	今村 文彦	越村 俊一	100,000
31	放射線検査学研究助成金	佐藤 行彦	医)千田 浩一	500,000
32	東日本大震災被災状況記録整理協力金	前田 勇輝	佐藤 翔輔	60,000
12 月 計			9件	2,790,000
33	災害アーカイブ研究助成金	積水ハウス(株)	柴山 明寛	200,000
34	東北精神疾患死後脳・DNAバンク運営委員会	特定非営利法人東北精神疾患死後脳・DNAバンク運営委員会	國井 泰人	5,000,000
1 月 計			2件	5,200,000
35	APRU-IRIDeSマルチハザードプログラム活動助成金	APRU(香港)	泉 貴子	2,216,850
36	都市計画及びまちづくりに関する研究助成金	一般財団法人青葉工学振興会	姥浦 道生	1,464,346
37	フレキシブルシルク電極研究助成金	鳥光 慶一	鳥光 慶一	1,100,000
2 月 計			3件	4,781,196
38	令和5年度栗駒山麓ジオパーク学術研究等奨励事業補助金	高橋 尚志	高橋 尚志	50,840
3 月 計			1件	50,840
総 計			38件	27,984,140

○寄附研究部門

(単位:円)

No.	助成金名称	寄附者名	件数	寄附金額
1	地震津波リスク評価(東京海上日動)寄附研究部門助成金	東京海上日動火災保険	1件	30,000,000
2	都市直下地震災害(応用地質)寄附研究部門助成金	応用地質(株)	1件	30,000,000
3	地震津波リスク評価(東京海上日動)寄附研究部門助成金	東京海上日動火災保険	1件	30,000,000
計			3件	90,000,000

4. 2. F. 2023年度「災害研究の英知を次代へ基金」の受入状況

受入総額(件数): 78,500円(35件)



#### 4. 3. 施設・設備

##### 施設

棟名称	災害科学国際研究所棟			
構造・階数	R5			
延べ面積	1階	1,938㎡	4階	2,052㎡
	2階	1,997㎡	5階	1,976㎡
	3階	2,119㎡	PH階	74㎡
建築年	2014年			



##### 設備等

区分	設備名・資料名・データ名	部門	担当者	概要
設備	海底間精密測距装置主局	災害評価・低減研究部門	木戸元之	海底に長期設置し、海底の機器同士の距離を定期的に計測し海底地殻変動を観測する装置
設備	大規模数値シミュレーション用PCクラスター計算サーバ	災害評価・低減研究部門	寺田賢二郎 森口周二	大規模かつ高解像度な災害シミュレーションを実行可能とする災害解析用計算機システム
設備	強震観測網装置	災害評価・低減研究部門	大野晋	主に常時微動計測により建物・地盤の振動特性を把握するための可搬型振動計測装置
設備	高精度・低消費電力地震波観測装置	災害評価・低減研究部門	岡田知己	地震計などを接続して高分解能で地震波形の記録を行う装置。消費電力が小さいため、カーバッテリーなどで数ヶ月の長期間連続観測が可能。用いた地震波形記録を用いて、地震の震源位置や地下構造の推定を行うことができる
設備	地層探査システム	災害評価・低減研究部門	菅原大助	3.5kHz及び10kHz2周波によるボーアホール地層探査装置。計測可能水深は最大800m、船舶等に積載して運用する
設備	無人測深システム	災害評価・低減研究部門	菅原大助	無人ボートに衛星航法装置と音響測深器を備えた無人測深システム。静水面を4ノット程度で航行でき、連続3時間の運用が可能。探査範囲は水深1~50m
設備	高速高機能データロガー・高速スイッチボックス	災害評価・低減研究部門	五十子幸樹	構造物の静的載荷実験において高速高機能データロガーに50点の計測が可能な高速スイッチボックスを3台カスケード接続することにより最大150点の歪測定を0.1秒で測定することが可能な装置
設備	3次元レーザースキャナ	災害評価・低減研究部門	遠田晋次	三脚による地上設置型で対象物にレーザーを照射し詳細に形状を測定する装置。主として地形地質調査時に高精度な測量を行う際に使用する。附属のソフトウェアを用いることで、点群データから植生や人工物を取り除き、詳細地形を再現することが可能
設備	海底地殻変動機動観測システム	災害評価・低減研究部門	木戸元之	GNSS-A観測用海底局(計6台)で、海底に数年単位で長期設置し、海上からGNSS-A音響船上装置で測位することにより海底地殻変動を検出する装置
設備	490kgクレーン	災害評価・低減研究部門	木戸元之	X-Y屋内移動型のクレーン。災害科学国際研究所棟の理学保管室内に設置しており、重量のある観測機材の組み立て等に利用している
設備	災害科学情報の多次元統合可視化システム	災害評価・低減研究部門	寺田賢二郎	3機のプロジェクションシステムにより壁面全体を用いた巨大スクリーンに様々な災害科学情報を投影する設備
設備	災害解析用計算機システム	災害評価・低減研究部門	今村文彦 ザッパシー・アナウツ	大規模かつ高解像度な津波などの災害リスク評価を実行可能とし、実効性を重視した災害解析用計算機システム。突発的に発生する自然災害のリスクを多方面から解析・予測するために使用する
設備	レーザー回折式粒度分析装置	災害評価・低減研究部門	菅原大助	粗粒子・高密度粒子にレーザー光を照射し、そこから発せられる回折・散乱光の強度分布パターンから粒子径を測定する装置。0.05~3000μmという極めて広い粒子径範囲に対応する
設備	GNSS-A音響船上装置(USB出力)	災害評価・低減研究部門	木戸元之	海底に設置済の海底局までの距離を音響で計測する海底地殻変動観測用の装置
設備	災害調査用飛行ロボット	災害評価・低減研究部門	越村俊一	被災地を含む環境調査を行うためのドローン。2軸サーボシリアルを介して4眼高速カメラを搭載
設備	3次元デジタルスキャンシステム	災害人文社会研究部門	柴山明寛	震災遺構や建物などの大規模建造物などを点群で座標を取得することが可能な点群スキャナ
設備	TobiiグラスIRパッケージ	災害人文社会研究部門	邑本俊亮	人がどこを見ているか、眼球の動きを捉えて測定するメガネ型の装置
設備	ウェアラブル光トポグラフィシステム	災害人文社会研究部門	邑本俊亮	頭部にヘッドセットを装着し、日常に近い状態で、微弱な近赤外光により脳活動に伴う脳内血流量の変化を計測する装置
設備	トータルステーション	災害人文社会研究部門	柴山明寛	高機能な自動追尾トータルステーション
設備	データベース長期保存システム	災害人文社会研究部門	柴山明寛	LTO5やLTO7のテープドライブ、オプティカルディスク・アーカイブ(ODA第一世代)、長期保存DVD等、数十年の耐久性を持った記録システム
設備	歴史資料データ保存・閲覧用ストレージ	災害人文社会研究部門	蝦名裕一	被災地を含む東北地方各地の古文書や絵図といった歴史資料データを研究に活用できるようにアーカイブしているストレージ
設備	災害記録収集・配信システム設備	災害人文社会研究部門	柴山明寛	全天球の動画や静止画の撮影が可能なシステム
設備	複合現実空間災害情報表示設備	災害人文社会研究部門	柴山明寛	MRヘッドマウントディスプレイ及び制御するためのワークステーション。東日本大震災の震災遺構や既に取り壊された被災物などの映像をMRで体感することが可能

区分	設備名・資料名・データ名	部門	担当者	概要
設備	防災・減災情報表示設備	災害人文社会研究部門	柴山明寛	4K80インチのディスプレイが4枚連携している設備。4Kや8K映像の確認が可能
設備	真空凍結乾燥システム	災害人文社会研究部門	川内淳史	-40℃に冷凍した紙媒体文化財から真空状態で水分を昇華させることにより、水損状態から物性変化をもたらすことなく、被災状態からの脱却を実施することを可能とするシステム
設備	防災教育効果測定用認知心理実験システム	災害人文社会研究部門	邑本俊亮 杉浦元亮	効果的な防災教育プログラムの設計におけるプログラム内の構成要素の効果を科学的に検証するための設備。①小型地震体験機、②近赤外光脳計測装置、③脳波計測・解析システム、④眼球運動測定・解析装置、⑤心理実験用防音室から構成される。装置を組み合わせる使用も可能
設備	国際防災戦略情報管理システム	災害人文社会研究部門	村尾修	国内外で発生した災害による被災地及び将来的に被害が懸念される各地を対象として、適切な復興計画や今後の防災計画を策定するためのモニタリング・分析・解析・設計に関する処理に用いるシステム
設備	多主体行動集約・記録装置	災害人文社会研究部門	奥村誠	多数の被験者に3種類の異なる映像を見せ、携帯回答端末およびビデオで参加者の行動を記録し、かつ5つの別室に隔離した被験者の反応を同時に録画記録する装置
設備	超高精細スキャン装置	災害人文社会研究部門	蝦名裕一	絵画や地図などの緻密に描かれた資料を4K/8Kに対応した超高精細かつ非接触で撮影することができるスキャン装置
設備	マイクロチップ型電気泳動装置	災害医学研究部門	鈴木正敏	チップ型ゲル電気泳動装置。マイクロアレイや次世代DNAシーケンス実験前の品質チェック、タンパク質分析などに利用可能
設備	放射能自動測定装置	災害医学研究部門	鈴木正敏	低エネルギーβ線を自動的に測定できる放射能自動測定装置
設備	パーチャル顕微鏡システム	災害医学研究部門	鈴木正敏	組織標本を高精細にデジタル画像化する装置
設備	照射用軟X線発生装置	災害医学研究部門	鈴木正敏	軟X線を培養細胞に照射する装置
設備	蛍光微分干渉顕微鏡システム	災害医学研究部門	鈴木正敏	スライドガラス標本の観察やデジタルカメラ撮影ができる正立顕微鏡システム
設備	細胞特異的災害ストレス解析システム	災害医学研究部門	富田博秋	磁気ビーズを用いて複数検体(最大6サンプル)から自動連続で細胞を単離し、全自動で核酸を抽出するシステム
設備	災害関連疾病病態オミックス解析システム	災害医学研究部門	富田博秋	ゲノム解析、トランスクリプトーム解析、メチローム解析、プロテオーム解析を行い、災害関連疾患を含む疾患の遺伝的要因、転写制御に関わる要因などの疾患病態メカニズムの解析を可能とするシステム
設備	多機能オートサンプリングシステム	災害医学研究部門	富田博秋	ガスクロマトグラフ質量分析の前処理のため、複数試料を質量分析計(GC-MS)に自動導入できるシステム
設備	ELISPOTアナライザー	災害医学研究部門	児玉栄一 林宏典	リンパ球の反応性(サイトカイン産生)を検出するシステム。過去の感染や免疫状態を調査可能
資料	「東北地区自然災害資料センター」所蔵資料		柴山明寛	1978年度より東北地方特有の自然災害関連資料の収集を続けており、1978年宮城県沖地震関連資料をはじめ、理学・工学のみならず歴史学においても価値ある資料を所蔵
資料	東日本大震災被災地域歴史資料データ群		蝦名裕一	被災地における歴史災害調査・被災資料保全活動を通じて収集・デジタル化した民間所在歴史資料約6万コマ画像。東日本大震災で原本が失われた岩手県沿岸南部歴史資料の写しや解読原稿なども含む
資料	「雑誌で見る東日本大震災」雑誌群		柴山明寛	東日本大震災関連雑誌・約600冊。2019年3月、京都大学研究者より寄贈。現在、東北大学図書館検索システムに登録中。美術雑誌から大衆雑誌まで幅広いジャンルを網羅し、東日本大震災発生当時の世相を示す貴重なデータ
データベース	津波痕跡データベース		今村文彦	「津波痕跡データ(津波の到達した痕跡地点のデータ)」を原子力発電所等の安全性評価に活用するために、津波専門家との協働で整備したデータベース
データベース	みちのく震録伝		柴山明寛	2011年東日本大震災の震災直後から復旧・復興までの震災記録を収集し、蓄積している。主に写真が主であり、約12万点の記録を公開している。また、2023年度までに非公開のデータ約80万点を蓄積している
データベース	ひかり拓本データベース		蝦名裕一	風化した碑文を判読可能な画像でアーカイブしたデータベース。津波碑や疫病碑などの研究でも活用している
データベース	匿名化災害診療記録データベース		江川新一	東日本大震災後に、南三陸町等の避難所、自宅などで診療を受けた被災者の個人情報匿名化した災害診療記録の画像と診療内容に関するデータベース
データベース	災害統計グローバルデータベース(GDB)		小野裕一 佐々木大輔	仙台防災枠組の実施支援のため、国連開発計画と共同整備開始したデータベース。これまで災害被害統計がなかった国を支援し、網羅的・体系的な災害統計を整備していくもの
データベース	3.11からの学びデータベース		佐藤翔輔	東日本大震災の経験を踏まえて得られた「教訓」をまとめたデータベース。現在、約150件の「教訓」が掲載されており、キーワードで検索が可能
データベース	震災教訓文献データベース		佐藤翔輔	東日本大震災、阪神・淡路大震災、新潟県中越地震・中越沖地震などの震災に関する調査・研究にもとづいて得られた「教訓」を紹介している。約4,600件の「教訓」が掲載され、テーマ、フェーズ、空間、立場などのタグを付与して検索可能
データベース	動画でふりかえる3.11		佐藤翔輔	東日本大震災に関連する「動画」を地図上で検索することができるデータベース。約1,700件の東日本大震災に関する動画がリンクされており、動画をさらに地図上で探せるのが特徴

#### 4. 4. 学内外連携

##### 4. 4. A. 学内外連携組織(組織の概要および災害研との関係)

1	一般財団法人世界防災フォーラム
<p>東日本大震災を経験した東北から防災を世界に伝えるために、2015年に実施された第3回国連防災世界会議がきっかけとなり、2018年に設立された一般財団法人です。財団は2年に1回「世界防災フォーラム」という市民参加型の国際会議を開催しており、直近の2023年は3日間延べ40カ国から約5,000人が参加した。災害研は、この「世界防災フォーラム」の運営に協力するとともに、多くのセッションを供給し(2023年は4つのセッションを主催、さらにUNDP、JST、民間企業等と連携し9つのセッションを共同実施)、世界防災フォーラムを通して仙台防災枠組の進捗や、国際防災に関して多くの貢献をしている。(小野裕一、吉野賢)</p>	
2	NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワーク
<p>NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワーク(通称「宮城資料ネット」)は、2003年7月の宮城県北部連続地震を契機に、在仙の歴史研究者を中心に設立された、大規模自然災害時の歴史資料の救済・保全活動を行う団体であり、設立当初は東北大学東北アジア研究センターに事務局を設置した。2009年にNPO法人化、災害研設立後は歴史資料保存研究分野(現・歴史文化遺産保全学分野)に事務局を移転、2020年12月には災害研との間に包括連携協定を締結し、歴史資料救済・保全に関わる災害研の研究活動と、保全を進める広範な研究者や市民の活動のハブとしての役割を果たしている。今年度は東日本大震災や2019年台風19号などの被災資料の保全作業を災害研内で進めるとともに、実践から得られた保全技法や理念について研究へのフィードバックを行った。(川内淳史)</p>	
3	環太平洋大学協会 APRU
<p>2013年4月に東北大学と環太平洋大学協会(APRU)はマルチハザードプログラムを立ち上げ、災害研がその事務局を担当している。災害科学分野における教育・研究・国際連携強化を目的としており、毎年東北大学にてサマースクールを開催し、APRU加盟大学が年次シンポジウムをホストしている。加えて、テーマ別ワークショップや国際機関と連携して国際会議を開催するなど、様々な学術機関や国際機関などと協力して環太平洋地域の防災力向上や政策決定過程に貢献している。(泉貴子)</p>	
4	東北大学グリーン未来創造機構
<p>東北大学がこれまでに推進してきた東日本大震災からの復興及び日本の新生に寄与するプロジェクトや、東北大学が掲げるSDGsである「社会にインパクトある研究」の30プロジェクト等をさらに発展させ、新たに「Green Technology」、「Recovery &amp; Resilience」、「Social Innovation &amp; Inclusion」の3つの柱のもと大学の総合力を以て全学組織的に社会課題の解決へ挑み、グリーン未来社会の実現に貢献することを目的として、2021年4月に設置された。特に「Recovery &amp; Resilience」分野では、災害科学の他に感染症、福島復興支援、廃炉、レジリエントICTなどの活動を支援している。(https://www.ggi.tohoku.ac.jp) (今村文彦)</p>	

5	東北大学災害科学・安全学国際共同大学院プログラム GP-RSS
<p>災害科学・安全学国際共同大学院プログラム(GP-RSS)は東北大学「学位プログラム」のひとつで、災害・環境破壊から市場や経済危機の問題解決分野で活躍している世界トップクラスの教員を配置し、海外トップレベル研究者の招聘、海外連携教育研究機関との積極的な研究・学生交流を行うことにより、学術的分野からフィールドに至る広域的な分野において、高い専門性を有し国際的に活躍できる人材の育成を目指した実践的国際教育を行っている。災害研は東北大学内参加部局のひとつに位置付けられており、2023 年度は主に「災害科学・安全学発展講義」と「災害科学・安全学基礎II」を担当した。また、医学系研究科とも協力して「巨大災害に対する健康のレジリエンス」、「グローバルヘルスとヒューマンセキュリティ」を担当した。 (村尾修、江川新一、泉貴子)</p>	

6	指定国立大学 災害科学コアリサーチクラスター
<p>4 つの学術分野(人間科学系、社会科学系、実践科学系、自然科学系)を融合させた新たな学際研究領域として、「災害科学」を世界に先駆けて開拓すること、そして世界で唯一、大震災を経験した総合大学としての卓越した研究成果を広く世界に発信することを目標に掲げて活動している。2022 年度からは、これらの領域間をまたぐ 4 つの研究プロジェクト(ハザードリスク科学、リアルタイム災害科学、被害快復科学、コミュニティ復興科学)を立ち上げ領域をまたいだ連携を促進した。世界トップクラスの災害科学研究(論文)、競争的資金獲得、国際ジャーナル刊行と発展、学際性深化、環太平洋大学協会(APRU)マルチハザードプログラムなどが主な成果として挙げられる。 (寺田賢二郎)</p>	

7	東北大学減災教育「結」プロジェクト
<p>東北大学では、東日本大震災の経験と教訓を踏まえ防災・減災についての様々な取り組みを「減災教育事業」として行っており、その取り組みの1つとして 2014 年度より、「減災教育『結』プロジェクト」と名称を改め、2023 年度にはプロジェクト開始 10 年目を迎えた。</p> <p>このプロジェクトは、災害研を中心に、震災の経験を風化させず次世代へ語り継いでもらうことや、いざという時の対応力を高めることを目的としており、減災についての知識や理解を深める出前授業を行い、「持ち歩く減災意識」をコンセプトに開発した「減災ハンカチ」を配布している。例えば、家庭で学習内容の復習や家族とのコミュニケーションを図る様に伝え、減災意識を育む防災教育を展開している。</p> <p>2020 年度以降は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策のため、オンデマンド動画教材(日本語・英語)を作成し、減災教育のデジタル化を行うとともに、海外への展開も視野に多言語化を進め、さらなる減災教育の普及に努めております。(https://www.tohoku.ac.jp/japanese/social/relation/03/relation0301/) (今村文彦)</p>	

8	防災減災連携研究ハブ JHoP
<p>JHoPは2019年に発足した防災、減災に関わる国内の大学・研究拠点及び実務機関をメンバーとする防災科学技術に関するネットワーク型の研究推進組織で、統合的な DRR (Disaster Risk Reduction: 災害リスク軽減) 研究を推進している。日本学術会議第3部会の土木工学建築学委員会の Integrated Research on Disaster Risk: IRDR 分科会と結び付いているが、総合知による防災推進のため、災害医学領域、災害人文科学領域とも融合した活動がなされており、防災科研が事務局を務めている。2023年9月8、9日には日本学術会議の「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2023－壊滅的災害に対してレジリエントで持続可能な社会への変革」を日本学術会議と共催し、UNDRR, WHO, UNESCO, IRDR によるハイレベル会合も実現した。防災科研の實馨理事長が委員長、災害研の小野裕一副所長が副委員長を務め、継続的な活動をしている。 (江川新一)</p>	

9	福島国際研究教育機構 F-REI
<p>福島国際研究教育機構 (F-REI: エフレイ) は、福島をはじめ東北の復興を実現するための夢や希望となるものとするとともに、我が国の科学技術力・産業競争力の強化を牽引し、経済成長や国民生活の向上に貢献する、世界に冠たる「創造的復興の中核拠点」を目指している。</p> <p>F-REI の研究開発には、以下の 5 つの研究分野がある;1. ロボット、2. 農林水産業、3. エネルギー、4. 放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用、5. 原子力災害に関するデータや知見の集積・発信</p> <p>東北大学からもすべての分野で、災害研からは特に第 5 分野を中心に委託研究を行う予定ある。</p> <p>(<a href="https://www.f-rei.go.jp">https://www.f-rei.go.jp</a>) <span style="float: right;">(今村文彦)</span></p>	

10	東北大学変動地球共生学卓越大学院プログラム SyDE
<p>変動地球共生学卓越大学院プログラムは、安全・安心で持続可能な社会を構築していくために、環境要因と社会・経済的な要因が複合したリスクに対応できる人材を育成していくことを目指した、研究科横断型・産学連携型の 5 年一貫性の博士課程学位プログラムである。各自の研究力を実践に結びつけるため、幅広い研究科にわたる文理融合教育、民間企業・団体や研究機関との協働による問題解決型の実習、海外機関と連携した国際的に卓越した教育を通じて、俯瞰力・コミュニケーション能力・実践力・倫理観・国際性・探求力・リーダーシップなどの多角的能力を身につけた博士人材を、幅広いセクタに輩出していくことを目標としている。災害研は、当プログラム推進中核部局の一つであり、14 名の教員 (2023 年度) が運営委員等として運営に携わっている。</p> <p style="text-align: right;">(福島洋)</p>	

11	歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業
<p>災害研も含めた東北大学の主として人文系研究者は、東日本大震災で被災した東北地方の地域の歴史や記録、生活文化に関する有形・無形の資料を保全し、将来に継承するとともに、復興に寄与するための実践的な研究活動を推進している。2018 年 1 月 26 日に締結した神戸大学・人間文化研究機構との学術交流協定に基づき、結した。この 3 拠点を中核に、全国各地の大学を基盤とする地域の歴史や記憶に関する史料を救済保全するためのネットワークを構築し、全国的な歴史文化資料情報の把握と、緊急時における歴史文化保全に向けた相互支援体制の確立を目指している。</p> <p style="text-align: right;">(佐藤大介)</p>	

#### 4. 4. B. 関係・協力団体

本研究所全体として連携・協力していただいている団体は以下のとおりである(締結年月日順)。  
教員各自の活動のなかでの連携組織・団体については5章を参照のこと。

##### 地方公共団体

締結年月日	団体名
平成25年 2月 8日	宮城県多賀城市
平成25年 6月25日	宮城県亘理町
平成25年 7月12日	宮城県岩沼市
平成25年 7月13日	宮城県気仙沼市
平成25年 8月21日	宮城県東松島市
平成25年12月24日	宮城県山元町
平成26年 1月 9日	宮城県仙台市
平成26年 2月 7日	岩手県陸前高田市
平成27年 8月 5日	宮城県名取市
平成29年 5月29日	宮城県石巻市
平成31年 1月21日	宮城県丸森町
令和 2年 4月 9日	岩手県大槌町
令和 4年10月 3日	福島県いわき市
令和 5年 3月29日	宮城県塩竈市
令和 5年 4月28日	岩手県宮古市

##### 学校

締結年月日	団体名
平成26年 9月 8日	独立行政法人国立高等専門学校機構福島工業高等専門学校
平成28年 6月 1日	宮城県多賀城高校
平成30年 3月11日	国立大学法人宮城教育大学附属防災教育未来づくり総合研究センター
平成30年 7月31日	八戸工業大学
令和 2年 3月26日	国立大学法人新潟大学災害・復興科学研究所
令和 6年 3月12日	国立大学法人東京大学地震研究所

その他(国立機関)

締結年月日	団体名
平成24年 4月 1日	独立行政法人科学技術振興機構(JST)
平成25年 4月24日	国立国会図書館
平成26年 9月10日	独立行政法人港湾空港技術研究所
平成27年 4月 1日	国立保健医療科学院
平成29年 2月 1日	国立研究開発法人防災科学技術研究所
平成29年 6月 7日	国立大学法人神戸大学大学院人文学研究科及び 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館
令和 5年 1月10日	独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所及び独立行政法人国立文化財機構文化財防災センター

大学間学術交流協定(提案部局・賛同部局)

締結年月日	国／地域	協定機関
平成10年11月 9日	タイ	アジア工科大学
平成14年 8月13日	中国	同済大学
平成22年 2月17日	アメリカ	カリフォルニア大学デイヴィス校
平成24年 3月11日	アメリカ	ハワイ大学マノア校
平成25年11月21日	イギリス	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン
平成29年 4月 1日	インドネシア	セプル・ノーペンバー工科大学
平成30年 2月26日	国際機関	国連大学サステイナビリティ高等研究所
平成30年 3月 1日	ドイツ	ドイツ航空宇宙センター
令和元年 9月25日	ニュージーランド	ヴィクトリア大学ウェリントン

部局間学術交流協定

締結年月日	国／地域	協定機関
平成24年 5月23日	ドイツ	ドイツ航空宇宙センター
平成26年 6月 1日	インドネシア	ジャクアラ大学数理学部
平成26年 6月13日	アメリカ	ハーバード大学ライシャワー日本研究所
平成26年 9月 1日	ニュージーランド	ニュージーランド地質・核科学研究所

締結年月日	国／地域	協定機関
平成27年 3月17日	台湾	国立台湾大学・気象災害研究センター
平成27年 8月 4日	国際機関	国連開発計画(UNDP)
平成28年11月22日	インドネシア	ジャアクラ大学・津波災害軽減研究センター
平成28年11月22日	インドネシア	アチェ津波博物館
平成30年 3月20日	ペルー	国立工科大学日本・ペルー地震防災センター
令和 2年 6月 1日	ドイツ	ダルムシュタット工科大学エマージェンシティレーベセンター
令和 2年 8月 5日	エジプト	アイン・シャムス大学医学部
令和 2年 9月14日	フランス	クレルモン・オーベルニュ大学
令和 4年 4月12日	アメリカ	ハワイ津波博物館
平成25年11月22日	台湾	台湾工業技術研究院情報通信研究所

#### その他の国際協定

締結年月日	国／地域	協定機関
平成27年10月 4日	国際機関	グローバル・リスク・フォーラム(GRF)ダボス





## 5. 研究・実践活動



## 5.1. 教員および所内組織の研究・実践活動

### 5.1. A. 専任教員等の活動概要

#### 災害評価・低減研究部門

##### 海域地震学研究分野

木戸 元之                      KIDO Motoyuki                      教授                      <https://researchmap.jp/read0134550>

文科省の「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第2次）」の機関代表および協議員を努め、文理融合の災害研のプレゼンスを示し、同計画に貢献した。

巨大地震予測の長期評価に極めて重要な海底地殻変動観測の切り札として導入された海上自律観測艇の自動化に貢献し、平時の大規模観測を安定して行えるようにした他、即時データ伝送にも成功し、災害時の緊急観測および即時データ取得への道を開いた。

国内外の複数の研究機関で海底地殻変動観測技術の普及に努め、巨大地震のリスクを抱える地域や国での同観測技術の向上に貢献した。

富田 史章                      TOMITA Fumiaki                      助教                      <https://researchmap.jp/ftomita2018/>

東北沖及び千島沖での海底地殻変動観測に携わり、研究観測航海への乗船（年度内に2回）を実施し、観測データの取得を行った。得られた海底地殻変動観測データの解析及び解析手法開発、解析用ソフトウェアの開発を行い、それらの成果を国内外の学会にて報告を行った。解析用ソフトウェアについては論文化し、オープンソースソフトウェアとして公開した。これにより、今後の海底地殻変動観測データの解析業務・学生による研究、を円滑に推進することができ、かつ国内外の他の海底地殻変動観測研究に貢献できると期待している。東北沖及び千島沖での海底地殻変動観測成果は、国内外の学会で報告を行っており、来年度以降に論文化を予定している。この成果は、東日本の沈み込み帯における巨大地震ハザード評価に役立つものであり、特に千島沖の成果については17世紀型の超巨大地震の発生が危惧されている領域での歪みの蓄積を示唆するものであり、その社会的なインパクトは大きいものとする。

##### 陸域地震学・火山学研究分野

遠田 晋次                      TODA Shinji                      教授                      <https://researchmap.jp/7000004459>

熊本地震の活動履歴に関する調査、能登半島地震の地震地殻変動に関する研究、トルコカフマンマラシュ地震の余震活動に関する研究を行い、長大断層系から発生する大地震の発生プロセスとその後の余震パターンを明らかにした。それらの成果については、米国地震学会誌など国際誌や学会発表で公表した。さらに、これらの研究成果をもとに、国の委員会等の委員として内陸地震の長期評価のありかたについて提言やコメントを発するとともに、多くのメディアでアウトリーチ活動を実施した。

福島 洋                      FUKUSHIMA Yo                      准教授                      <https://researchmap.jp/7000022458/>

1) 2023年2月にトルコ南東部で発生したカフマンマラシュ地震に関し、学校・子どもへの影響および防災教育状況の調査の日・トルコ国際共同計画を立案し、J-RAPIDプログラムに提案したプロポーザルが採択された。本研究により収集されるデータや分析結果は、今回の震災を教訓とする新たな災害教育の教材を開発するための基盤となる。

2) 断層の「ゆっくりすべり」をもちいて地震発生予測を行うことを目指し、地殻変動データを用いてゆっくりすべりを検出するための手法開発を行った。

3) 2021年にハイチで発生したMw7.2の地震について衛星データ解析を行い、地震が起こった断層すべりの詳細を明らかにした。この成果は、今後、同国で地震リスク評価を実施する際の貴重なデータとなる。

4) ヘルスプロモーション分野と防災分野における行動変容促進に関係する既往研究の取り組み整理等も行った。この成果は、今後、防災行動阻害要因を克服するための方策の検討や、その試行のための基礎的知見となる。

石澤 堯史                      ISHIZAWA Takashi                      助教                      [https://researchmap.jp/t\\_ishizawa](https://researchmap.jp/t_ishizawa)

陸域・海域における掘削調査を基に、千島・日本海溝沿いで発生してきた巨大地震津波に関する研究を行った。具体的には、三陸海岸や北海道太平洋沿岸地域での津波堆積物調査から、過去に発生してきた津波の発生時期を従来よりも高精度で推定した。また、日本海溝沿いで実施された国際深海科学掘削計画 (IODP exp. 386) に堆積学者として参加中であり、日本海溝沿いで発生した過去数万年に及ぶ巨大地震の履歴について、国際共同研究から解明している。これらの成果はアウトプットも積極的に行っており、自身の研究も含めた千島・日本海溝沿いの古地震・古津波研究をレビューし、当該地域で発生する巨大地震津波の長期評価に資する資料を提供した。

高橋 尚志                      TAKAHASHI Takayuki                      助教                      [https://researchmap.jp/T\\_Takahashi](https://researchmap.jp/T_Takahashi)

2023年度は、河川流域の地形発達・土砂収支に関する研究や、河川・斜面等の災害に関する研究を理学的な観点から進めた。特に、発生から100年となる関東大震災に関して、地震に伴う斜面崩壊のマッピングや空間解析を実施し、将来の巨大地震イベント発生時における斜面災害リスクをGISを用いて可視化した。研究成果は関東大震災シンポジウムや学会等で発表し、日本地形学連合2023年秋季学術大会では若手発表賞を受賞した。2022年の大崎平野の出来川・名蓋川の河川氾濫や、いわき市の令和5年洪水など、中小河川における氾濫とその対策に関する研究を進めた。成果は学会や講演会で発表したり、メディア掲載されるなどした。そのほか、河成段丘に関する基礎研究の成果等を国内外の学会で発表し、過去の気候水文環境変化と河川地形発達、長期的な時間スケールでの災害リスクの時空間的分布に関して議論した。

## 地震工学研究分野

五十子 幸樹                      IKAGO Kohju                      教授                      <https://researchmap.jp/read0140804>

我が国において免震構造建物が初めて建設されたのは40年前の1983年のことである。免震構造とは、建物の基礎下などに特別な、水平方向に柔らかい層を設けて、地震時において、免震層の大きな水平変形を許容する代わりに、上部建物への地震力の伝達を大きく低減する。しかしながら、当初より、想定以上の地震動によって免震層変形が許容値を超えて擁壁や隣接構造物に衝突することも懸念されてきた。東日本大震災では、大きな被害には至らなかったものの設計許容変形を超える免震層変形も観測されている。

このような課題に対応するため、通常地震に対する制御性能はそのままに、過大変形が生じるとそれを検知して性能が変化し、免震層変形を抑制する装置の機構とその設計法を開発して来た。数々の特許も取得している。今年度は、株式会社奥村組の名古屋支店ビルに採用されることが決まり、実大ダンパーを共同開発した。この技術が巨大地震時の免震層過大変形の課題解決に貢献できることを願っている。

大野 晋                      OHNO Susumu                      准教授                      <https://researchmap.jp/read0213370>

仙台市および東北地方の地盤・建物強震観測を継続し、これらの観測網で得られた記録を用いた地盤応答の研究や建物のシステム同定、構造ヘルスマモニタリングに関する研究を進めた。構造ヘルスマモニタリングについてはAugmented Kalman Filterを用いた非観測階の応答推定に関する研究を行った。また、機械学習の地震工学への適用に関する研究を進めており、早期地震警報および地震直後の地震動スペクトル分布推定手法の代理モデル学習に関する研究を実施した。

榎田 竜太                      ENOKIDA Ryuta                      准教授                      <https://researchmap.jp/enokidaryuta>

振動台上の非線形現象によって生じる制御性能の劣化に対して、これまで、我々の開発したNonlinear Signal-Based Control (NSBC) が、その劣化防止に非常に有効であることが分かっている。これに関して、これまで以上に強い非線形現象である滑動を伴う構造物を設置した振動台実験によって、NSBCを応用することで、その振動台の加速度を高精度に制御できること示した。滑動は耐震工学において生じる最上級レベルの非線形現象であり、耐震工学実験に伴う強非線形現象のほとんどに対して、NSBCが有効であることが示された。これは、NSBCを振動台実験に応用することで、これまで以上に高精度な実験を実施でき、耐震工学技術の水準向上に大きく貢献する。

上記のほかに、NSBCをサブストラクチャ実験手法(数値解析と実験を融合させた手法)や耐震構造物の性能検証に応用する研究等も取り組んだ。これらの研究も振動制御の主要国際誌で発表している。

## 計算安全工学研究分野

寺田 賢二郎

TERADA Kenjiro

教授

<https://researchmap.jp/teinoji0705/>

MPM という粒子法の一つが擬似領域法の側面を持ち、物体境界で粒子が少なくなること起因して不安定性が長年問題となっていたが、“R. Sugai, J. Han, Y. Yamaguchi, S. Moriguchi, K. Terada. Extended B-spline-based implicit material point method (EBS-MPM) enhanced by F-bar projection method to suppress pressure oscillation, International Journal for Numerical Methods in Engineering 124(11), pp. 2423-2448”はその近似性能の改善を実現し、さらに“R. Sugai, J. Han, S. Moriguchi, K. Terada, Diffusive-discrete crack transition without remeshing achieved by extended B-spline-based implicit material point method, Computer Methods in Applied Mechanics and Engineering 421, 116771”によってそれを拡張し、き裂の陽的な表現ができるようにしたことが特筆すべき点であり、地盤やコンクリート構造物の損傷・破壊挙動の表現性能が飛躍的に高まった。一方、複合材料のマルチスケール解析は、一体型手法と分離型手法がそれぞれの長所・短所を有していて、長年議論されてきたが、NN 等による代理モデルの適用とする第3の手法が注目を集めてきた。しかしながらNNは、深層学習の一種で、パラメータの数が膨大になることに加え、そのパラメータ自体の物理的解釈が難しいことから、機械学習に基づく代替的な手法の開発が求められてきた。“Y. Yamanaka, S. Matsubara, N. Hirayama, S. Moriguchi, K. Terada, Surrogate modeling for the homogenization of elastoplastic composites based on RBF interpolation, Computer Methods in Applied Mechanics and Engineering, 415, 116282”では、深層学習ではなく非深層学習を用いてマルチスケール解析を実現した世界初の研究成果であり、学術的に高い価値があるだけでなく、汎用ソフトへの実装も可能なことから、発表に先立って特許申請も済ませてある。

森口 周二

MORIGUCHI Shuji

准教授

[https://researchmap.jp/shuji\\_moriguchi](https://researchmap.jp/shuji_moriguchi)

災害シミュレーションの高度化の研究や災害調査などに従事した。数値シミュレーションについては、特に豪雨災害を対象としたものに注力しており、豪雨の中で発生する現象（河川氾濫、土砂災害、避難）を包括的に表現可能な枠組みを構築したこの活動は、力学に基づく豪雨災害の即時評価に向けた基盤整備として位置付けられる。また、広域を対象として、斜面安定性評価や地震による建物被害予測のための手法の開発も行っており、これらは広域を俯瞰したリスクの空間分布を得るためのツールであり、効率的な減災対策や対策優先順位の意思決定支援に寄与するものである。災害調査については、土木学会の調査団メンバーとして2023年トルコ・シリア地震の被災地での調査を行っており、土地の造成や埋め立てが地盤災害リスクに与える影響などを分析した。得られた成果を学会発表や論文を通じて公開している。

野村 怜佳

NOMURA Reika

助教

<https://researchmap.jp/reikanomura>

今年度は、自身が持つ数値流体解析・計算工学の知見を基盤に、海岸・地盤防災のための数値シミュレーションツール開発に幅広く携わった。具体的には、機械学習を利用したリアルタイム津波リスク予測に関する研究、防潮林の減災効果評価のための2次元流れのモデリングに関する研究、土石流などの地盤災害をシミュレートするためのツールの開発、などである。異なる自然災害を対象としつつ、それらに対して類似したアプローチで問題解決を図ることができ、自身がこれまで身に付けてきた知識・技術基盤を幅広いテーマに応用することができた、実りの大きい1年であった。これらの進捗は、研究成果の国際誌掲載や受賞など、具体的な形でも認められており、計算工学と防災の2つを横断する「計算防災力学」という新しい分野の発展に貢献できたものと考えている。

## 津波工学研究分野

今村 文彦

IMAMURA Fumihiko

教授

<https://researchmap.jp/read0168525>

学術的には、例年並みに防災・減災に関する学術論文を出したことに加え、第2回村上直記念災害研究賞(The MURAKAMI Suminao Award for Disaster Research 2023)を受賞し、長年にわたるJDRへの多大な貢献を高く評価頂いた。特に東日本大震災以降は多方面にわたる共同研究や国際シンポジウムで活躍や国際的な学術交流への貢献が認められた。社会貢献的には、土木学会の副会長としての能登半島地震への行政も含めた対応、復興推進委員会委員長としての被災地への継続的な支援、国土交通省国立研究開発法人審議会メンバーとして研究法人の運営のあり方などのアドバイスをおこなうことが出来た。

菅原 大助 SUGAWARA Daisuke 准教授 [https://researchmap.jp/sugawara\\_daisuke](https://researchmap.jp/sugawara_daisuke)

2023年度の論文や発表のうち、日本考古学協会宮城大会で実施した講演および同大会の研究発表資料集に投稿した論文は、地質学分野による津波堆積物研究の知見を考古学分野の研究者に紹介するものである。この2つの分野はそれぞれ特有の強みをもっているが、これまでの連携は弱いものであった。双方の知見を融合することで古津波研究をより発展させることを意図し、異分野での発表を行った。これを契機に、両分野の連携が一層進むと考えている。また、NTHMP Tsunami Sediment Transport Benchmarking Workshopでの招待講演は、我が国における津波土砂移動数値シミュレーションの現状について、欧米諸国の研究者等に紹介するものである。日本での調査研究成果は主に日本語で発表されていることが多く、海外の研究者に知られる機会は多くない。この講演は、津波土砂移動数値シミュレーションにおける国際連携を促進する一助になると考えている。

サッパシー アナワット SUPPASRI Anawat 准教授 <https://researchmap.jp/read0155069>

2023年4-12月は本学の若手リーダー海外派遣プログラムより University College London (UCL)にて在外研究を行なった。ロンドン以外の大学も含めて東日本大震災やトルコ地震等において工学(連鎖災害、災害警報、被害評価)と社会学(災害脆弱者、高齢者、女性、障害者等)、それぞれの観点で文理融合的な防災研究の提案及び研究ネットワークを作ってきた。これらの研究・活動の成果は防災学問の中で工学的なデータはどのように実際社会に活用できるか、社会的なニーズの観点からどんな工学的なアプローチが良いか、日本とイギリスの大学の防災研究機関の連携により、どんな新しい文理融合的な研究が出来るか等について幾つか研究計画を作成した。教育関連もUCLとのDouble Degreeについて初めての段階として体制づくり、課題の整理等対応した。また元日の能登半島地震についても緊急対応し、現地調査や数値解析等を行い、津波痕跡や津波発生メカニズムの解明等について貢献した。

田邊 亜澄 TANABE Azumi 助教 <https://researchmap.jp/-azumi->

2023年度は、JST未来社会創造事業「顕在化する社会問題の解決」領域の「デジタル防災コミュニティの市民参加型研究」プロジェクトの一環として、災害時や平時にデジタルコミュニケーションを行うコミュニティについてインタビュー調査を行った。双方向性のインタビューを行うことによって、参加した市民も災害時コミュニケーションについて再考するきっかけとなり、防災意識を高めることに寄与できた。

また、視覚的ワーキングメモリにおけるボトムアップ注意の影響を調べた研究では、ボトムアップ注意を惹きつける刺激特性がワーキングメモリに干渉的に働きうることを示した心理学実験を論文化した。併せて、ボトムアップ注意が長期記憶に及ぼす影響やその神経基盤について検討する実験を実施した。これらの研究成果によって、視覚モダリティにおける注意と記憶の包括的な認知過程を明らかにできると期待される。

ヌイン デビッド NGUYEN David 特任准教授 <https://researchmap.jp/DavidNguyen>

ISOの国際標準の開発を主導するのが私の主な任務である。2023年には、ISO 37179の開発を指導し、その規格は2024年の冬にDIS段階に入った。また、国際標準に関する彼らのフィードバックを得るために、国連開発計画、アジア開発銀行、アジア防災センターと連携し、世界中のコミュニティにその使用を促進した。現在、国連と私のチームは、私が作成した国際標準の活用を検討し、トルコと中央アジアでのパイロット研究を実施しています。私のISO国際標準は、世界の政府や企業によってガイドラインとして使用されるため、重要な実用的な意義がある。さらに、日本の内閣府とMLITと協力して、防災国際標準の開発と普及に取り組んでいる。ISO開発以外では、観光と災害対応力の研究にも積極的に取り組んでいる。去年、日豪の対応力を促進するために、オーストラリア政府外務省から助成金を受けた。昨年6月には、日本とオーストラリアの専門家と共に2日間のワークショップを開催し、その後、日豪の研究者チームを結成して共同研究や出版活動に取り組んでいる。

## 災害ジオインフォマティクス研究分野

越村 俊一

KOSHIMURA Shunichi

教授

<https://researchmap.jp/koshimura>

環境・社会動態のセンシング手法の高度化、モニタリングデータの大規模化とリアルタイム流通、計算機性能・シミュレーション手法の高度化、機械学習を核とするデータ駆動科学の進展を背景に、災害科学にデジタルツインの方法論を先駆的に導入し、「災害デジタルツイン」として提唱し、その学理の確立と深化に取り組んだ、特に顕著な業績として、(1) 土木学会沿岸災害デジタルツイン小委員会を設立し、多様な研究者との協同による学術の先導の取り組んだ、(2) 多数の国内会議における招待講演および企画セッションの開催により、国際的な情報発信と国際学術ネットワーク形成に取り組んだ、(3) 大型研究プロジェクトに採択され (科研費基盤 S, SIP)、国内外の共同研究を加速できた。(4) 社会実装 (リアルタイム津波浸水被害予測システムの開発・運用、普及、国際展開)、特に本学発スタートアップ RTi-cast による民間事業者として初の津波予報業務許可の取得は特筆的である。

マス サマネス

エリック アルトゥロ

MAS SAMANEZ Erick Arturo

准教授

<https://researchmap.jp/mas.erick>

今年度はリアルタイム避難誘導に関するシステムの開発にうけて研究を行なった。また、モバイル空間統計データを用いて異常検知、人口暴露、人流予測に関する研究を行なった。国際連携でペルーでの津波被害予測に関する研究を開始した。さらに、米国との連携で機械学習および数学的な最適化手法により洪水避難指示に関する研究を行なった。本研究室では学部4年生、修士と博士学生の指導を行なった。特にエージェントベース技術を用いて歩行者と車の相互採用に関する研究を行なった。さらに、自動運転車の車両群制御の研究も行なった。また、リモートセンシングと機械学習に関する研究も指導した。研究活動および防災教育に関する活動を行なった。特にオンラインセミナーで津波減災に関する概念を共有した。さらに国際学会の運営の活動をした。

アドリアノ ブルーノ ADRIANO Bruno

准教授

<https://researchmap.jp/bruno.adriano>

2023年度は、資源が限られた小規模の自治体や発展途上国等の資源、資金の限られた地域向けの新しい高度な災害対応支援ツールを開発した (学術論文 1~3)。博士課程の学生とともに発表した論文では、災害強度と被害の程度の関係について新たな洞察を提供し、新しい建築基準や建築法を設置する上で貴重な情報となる (学術論文 2)。また、私たちは開発した手法を、2023年のトルコ・シリア地震などの最近の災害でも活用している (学術論文 7)。

さらに、研究結果を主要な国際会議で発表し、これらの会議を通じて他の研究機関との協力関係を確立することができた。

例えば、ドイツ航空宇宙センター (DLR) と協力して二国間共同研究提案書を提出、受理され 2024年度より活動が開始される。



## 災害人文社会研究部門

### 災害文化アーカイブ研究分野

蝦名 裕一 EBINA Yuichi 准教授 <https://researchmap.jp/read0155054>

2023年度は、文化遺産防災マップの構築と活用の研究について、科学研究費補助金基盤研究(B)の採択を受け、各地の歴史関係者や防災科学技術研究所と連携し、文化財の所在情報の収集と災害時における活用についての研究を続けた。同マップをもとに岩手県立博物館において岩手県版のマップが作成され、2023年4月より県内の文化財関係者に公開された。本研究の内容については、ICOM-ICMS 東京大会2023などで報告したほか、岩手県立博物館において文化遺産防災マップを活用して災害発生を想定した図上訓練が実施されるなど、実際の文化遺産保全の現場において具体的な活用が始まった。

2024年1月1日に発生した能登半島地震では、文化遺産防災マップを活用して被災地の文化遺産推定を実施して本研究所の速報会で報告し、その後各種報道で取り上げられることで、被災した文化遺産の危機的状況に対する社会的認識を形成する一助とした。

柴山 明寛 SHIBAYAMA Akihiro 准教授 <https://researchmap.jp/read0143918>

自然災害アーカイブの研究では、国内外のデジタルアーカイブの構築支援や伝承館の展示改変の監修などを実施した。特に、トルコ・シリア地震のデジタルアーカイブの構築や岩手県、宮古市の震災デジタルアーカイブの支援などを実施した。また、昨年度に発表した震災デジタルアーカイブの消滅が多くメディア等に取り上げられ、それに関連した講演や執筆などを行った。さらに、国際連携として、ハーバード大学との共同研究を実施した。

地域の防災力の向上に関する研究では、丸森町や多賀城市、いわき市などの自治体の支援を実施した。特にいわき市については、令和5年台風13号で甚大な被害が発生し、いわき市長からの依頼で災害検証を福島高等専門学校と共同で実施し、統括として検証を行った。

ゲルスタ ユリア GERSTER Julia 准教授 [https://researchmap.jp/julia\\_gerster](https://researchmap.jp/julia_gerster)

This year, I have focused on advancing my research on negative heritage and disaster cultural and collective memory, including the analysis of exhibitions at disaster memorial museums and narratives of kataribe storytellers. New research focuses and collaborations were established with AP University, Stanford University, LMU, Harvard, Princeton and Free University of Berlin. Further, I have organized and co-organized a variety of international conferences and workshops, including a symposium on "Memories and "Negative History": How to convey the 3.11 Disaster?", co-organized by Stanford University's Hoover Institution, the I-REC and Pacific Rim Conferences, and a winter school on disaster memory. Further, I have established a multicultural disaster preparedness Workshop together with SenTIA (Sendai City) targeting international residents in Sendai. Based on this workshop, another international DRR workshop was organized with Miyako City. Further, I have published several book chapters and presented my findings at international conferences, including in Belgium, Germany, Australia and Indonesia. Moreover, a co-edited volume on Disaster Justice after 3.11 was published with Routledge- one of the first volumes comparing overarching aspects of the Great East Japan Earthquake, tsunami and nuclear disaster from various disciplines written by scholars from across the globe.

### 歴史文化遺産保全学分野

佐藤 大介 SATO Daisuke 准教授 [https://researchmap.jp/dsato\\_prospector50/](https://researchmap.jp/dsato_prospector50/)

日本最大の歴史学会である歴史学研究会大会・近世史部会での招待報告を行い、江戸時代後期の自然災害が政治に与えた影響について論じた。報告は同会の会誌『歴史学研究』に掲載された。また日本史で最大の学会である日本史研究会会誌『日本史研究』に、江戸時代後期の製鉄・鑄銭にともなう砂鉄採掘と河川環境の悪化の関係に関する共著論文を発表した。社会実践としては地域歴史資料保全のボランティア活動の運営や、東日本大震災被災地での歴史再生と関連した講演を実施した。また東北大学での教育の一環として実施した仙台市内の個人所蔵文書の保全において、戦災焼失した仙台城大手門に使われていたとみられる金具を再発見した。

川内 淳史 KAWAUCHI Atsushi 准教授 <https://researchmap.jp/a.kawauchi>

①関東大震災と仙台・宮城：非激甚被災地である宮城県において同震災はいかなる影響を及ぼしたのかについて分析を行った結果、同震災は宮城県内にも大きな影響を及ぼしていたことが判明し、今後、同震災は広域的な視点から捉えられる必要があることが明らかとなった。本研究の成果は災害研企画展にて展示公表を行い、テレビや新聞などメディアより大きな反響があり、社会的に注目された。

②関東大震災後のアメリカへの感謝状研究：震災後に日本の学生よりアメリカ大統領に送られた感謝状に関する研究を行った。アメリカ・バーモント州に保管されていた感謝状を初めて日本に紹介し、その分析を行うとともに、差出人の追跡調査を国内の大学・高校と連携して実施した。こちらも多くのメディアで取り上げられ、社会的反響が大きかった。

③歴史的パンデミックに関わる文理連携研究：2020年より実施している歴史的パンデミック（1889ロシアかぜ、1918スペインかぜ）に関する文理連携研究について、災害研内の文理連携勉強会およびTUPReP（SOKAP-Connect 採択課題、研究代表：押谷仁）に参画して実施した。なおTUPRePは内閣府の第2回総合知活用事例に採択される評価を受けた。

## 認知科学研究分野

呂本 俊亮 MURAMOTO Toshiaki 教授 <https://researchmap.jp/read0186692>

効果的な防災教育のあり方の検討ならびにそのための教育実践および基礎データの収集と論文化を行った。小学生を対象とした防災教育の効果（持続性と家庭への波及）の検証を行った研究論文と防災リーダー養成講座での取り組みに関する研究論文を発表した。科学館での防災ワークショップの効果に関する論文も受理された。防災士に対する放射線防災教育に関しては、福島市およびいわき市において、防災士を対象とした研修会を実施し、その効果を検証するためのデータを取得、現在分析中であり、今後、論文化を行う予定である。

講演活動については、災害時の心理、コミュニケーション、授業づくりといった異なるテーマで講演を継続的に実施しており、いずれも参加者の知識向上に貢献した。

杉浦 元亮 SUGIURA Motoaki 教授 <https://researchmap.jp/msugiura>

心理・行動計測、機能的MRIを用いた脳機能計測等を用いた人間脳科学研究を多彩な分野に応用している。災害分野では2011年の東日本大震災の被災者を対象とした「災害を生きる力」の大規模質問紙調査の分析／論文化、生きる力8因子の脳基盤研究などを順調に続けている。また世界で初めて本格的な地震津波避難意思決定実験系の開発も行った。査読付き国際誌に11報採択、和文著書執筆1件、学会報告50件をおこなった。それ以外にも生きる力8因子のコンセプトや研究方法論は加齢医学分野や社会認知神経科学分野、また産学連携共同研究など、多彩な波及効果を現し始めている。

齋藤 玲 SAITO Ryo 助教 <https://researchmap.jp/ryosaito0418>

2023年度、私は、「①研究領域・舞台の拡大」と、「②研究・実践的価値観の転換」を経験した。前者(①)は、所内の先生方が代表される研究プロジェクトのメンバーとして、各国（インドネシア、トルコ）でフィールドワークに従事したことに起因する。実験室実験や質問紙調査を主としてきた私に、現在、新たなスキルの獲得が求められている。この経験は、自身の新たな地平を拓くに違いない。また、他分野（自然言語処理学、社会心理学、地理情報学、人文地理学）の研究者との萌芽的にはじめた研究に芽が咲きつつあることも、前者(①)の理由にあたる。加えて、企業（トヨタ自動車）との共同研究の影響も小さくない。

後者(②)は、令和6年能登半島地震の発生と、自身の対応（webサイト開設・運営）が大きく影響している。2024年度以降も、引き続き、先生方からご指導・ご鞭撻をいただきながら、よりよい社会づくりのために国際卓越な研究・実践を展開していく。

## 国際防災戦略研究分野

村尾 修

MURAO Osamu

教授

<https://researchmap.jp/muraosamu>

【研究活動】(1) 関東大震災 100 年に際し都市防災からみた首都圏拡大の再考を行い、都市リスクの変化についての知見を国内外の学会にて発表した。(2) 復興評価手法の開発を目指し、インドネシア被災地にて調査を行った。(3) 世界各国のシェルター事情を調査、将来起こり得る災害に備えた利活用のあり方について検討した。【社会活動】社会における防災意識向上のため、(1) 川崎市防災対策検討委員会委員として、防災に関する助言を行った。(2) 川崎市・ボランティアアーキテクツネットワーク (VAN) と連携し「みらいの避難所体験会」を実施した。(3) 特定非営利活動法人地域防災推進機構理事長として市民を対象とした防災活動支援や園児を対象とした防災教育を行った。(4) 東北大学大学祭での模擬講義等、キャリア教育に貢献した。

【国際交流】(1) 共同研究のためインドネシアのガジャマダ大学を訪問。(2) 台湾台東大学への訪問、受入にて文化人類学教職員と学生との交流をはかった。(3) 北京科技大学の副学長等を受入、共同研究の可能性を議論した。(4) 韓国で開催された文化財防災シンポジウムで講演、文化遺産の安全な保存について意見交換を行った。

泉 貴子

IZUMI Takako

教授

<https://researchmap.jp/irides.tohoku.ac.jp>

23 年度はマレーシアで 2018 年から実施している JICA 草の根パートナー型事業（地域コミュニティの安心と安全向上のための災害リスク理解に基づく防災力強化プロジェクト）が最終年度ということもあり、本プロジェクト活動実施・完了に最も注力した。プロジェクトの成果として、対象コミュニティが自治体と連携しながら、彼らのイニシアティブにより防災活動を計画・実施することができた。また、州政府がこのプロジェクトによる防災活動を他地域でも実施するために防災活動への予算をつけたことは、本プロジェクトが目的としていた防災活動維持体制・メカニズムが構築されたという点において目的が達成されたといえる。また、Springer 社から書籍 [All-Hazards Approach] を主編者として出版することとなっており、その原稿の執筆・まとめ・査読・編集なども行い、2024 年 6 月ごろに出版される予定となっている。

## レジリエンス計画研究分野

奥村 誠

OKUMURA Makoto

教授

<https://researchmap.jp/read0210548>

宮城県における津波対策に関する歴史研究により、災害後の政策内容がその時期の行政体が抱える問題の解決を第一に計画されている傾向を確認した。感染症リスクの災害時の社会的な状況を把握する手段として、携帯電話位置情報データの活用方法の研究を進め、国内外の学会での発表と審査付論文への投稿を行なった（掲載決定）。さらに、科学研究費（代表）によるレジリエントな交通ネットワークの研究を実施している。また、災害レジリエンス共創センターの災害情報キュレーション研究領域長として、防災科学技術研究所との組織的な共同研究を進めている。これらの研究活動を踏まえ、交通基盤、地域・都市計画の行政・実務への協力を継続的に行い、支援しやすく立ち直りやすい地域の形成を目指している。

井内 加奈子

IUCHI Kanako

准教授

<https://researchmap.jp/7000009960>

1. 今年度の主要な成果は、縦断的に行ってきた移転や土地利用をテーマとした復興研究の成果を、国際的な学会やセミナー、講演会を通じて、先進国と途上国を含めた多くの国で共有できたことである。これにより、国際的なコミュニティでの研究の注目度が上がり、新たな国際的研究の機会を得ることにつながっている。北米（米国・カナダ）、東南アジアの研究機関（インドネシア、フィリピン）との連携研究も進めており、次年度以降に進める西欧（オランダ）地区の研究機関との研究準備も進められた。

2. 今年度の研究は、日本（東北）、インドネシア（スラウェシ島中部）、フィリピン（レイテ島）、アメリカ（東海岸）の被災地を対象として、被災後の復興計画と実施に関する問題を縦断的に継続し、コロナ禍で停止していたプロジェクトの再開につながった。来年度以降は、北米・アジア以外の地域においても、気候変動や適応に係る研究を実施する運びとなっており、その実行にむけての準備が進められた。

3. 実践活動として、世界銀行や国際復興支援プラットフォーム（IRP）、国際開発機構（JICA）と活動する民間企業等の防災・復興活動を推める国際的な組織と、情報の交換、研究成果からの政策提言、役務の提供を行うことができ、次年度も継続の予定である。

## 空間デザイン戦略研究分野

姥浦 道生                      UBAURA Michio                      教授                      <https://researchmap.jp/ubaura-michio>

- ・福島原発被災地を含めた東日本大震災からの復興都市計画・まちづくりの実態、効果と課題を明らかにすることにより、今後の大規模広域災害からの復興制度改変・運用改善のための基礎的知見整備に寄与した。
- ・東日本大震災からの復興の効果と課題を幅広く市町村実務者等に広報することにより、平時の自治体都市計画における備えの重要性に関する理解を進めた。
- ・事前防災まちづくりを含めたコンパクト&ネットワーク都市形成のための手法の効果と課題を示すことで、今後の制度改変・運用改善のための基礎的知見整備に寄与した。

平野 勝也                      HIRANO Katsuya                      准教授                      <https://researchmap.jp/HK003349>

実践的活動においては、双葉町、丸森町において、復興の礎となるよう、「昭和ではなく令和」を合言葉に助言を続け、現代的まちづくりとしての意識醸成が深まってきている。学術面において、長年懸案としてきた、風力発電施設の注視特性に一定の成果が出せた。風力発電施設のアセスメントを軌道修正していく基礎となる科学的情報が提供できたと考えている。

## 災害医学研究部門

### 災害医療国際協力学分野

江川 新一                      EGAWA Shinichi                      教授                      <https://researchmap.jp/read0046715>

被災地の匿名化診療記録データベース、災害関連死関係資料データベースに基づく医療ニーズ定量化、ヒューマンレジリエンス、健康と社会のレジリエンスをテーマに研究を継続している。東日本大震災後に南三陸町で在宅避難に対する医療支援が避難所避難に比較して約1週間遅れることを発信した論文は世界災害医学会、日本災害医学会、メディアの注目を集め、令和6年能登半島地震において災害関連死を予防する重要なコンセプトとなった。災害リスク・健康危機管理研究に関するWHOガイドラインが公開され、研究方法の標準化、普及、分野間の相互理解に貢献している。CD-RISC-10を指標とする人のレジリエンスと防災行動との関係を論文化した。ASEANの災害医療標準化プロジェクト(ARCH Project)で学術活動として発刊されるASEAN Journal for Disaster Health ManagementのAssociate Editorに就任。Tohoku Journal of Experimental MedicineのEditor in Chief、兼、災害医学担当のExecutive Editor、米国災害医学会誌のDeputy Editorを務め、災害医学発信のプラットフォーム形成に貢献している。

佐々木 宏之                      SASAKI Hiroyuki                      准教授                      <https://researchmap.jp/hsasa>

研究分担者として参画した2021年度厚労科研「浸水被害も含めた、新たな医療機関の事業継続計画(BCP)策定に資する研究」の調査研究結果(日本全国の病院の内、約3割が洪水浸水想定区域内に立地すること)を2023年7月31日報道発表し、国内の全国紙・地方紙合わせて41誌に掲載(うち1面掲載23紙)された。社会的に大きく取り上げられ病院の水害対策を進める契機となった。実践においては2023年5月まで宮城県新型コロナウイルス医療調整本部員として宮城県に出務し、入院患者の病床調整等に当たった。患者-病床不均衡時にも県民の生命・健康を保持すべく活動した。2024年1月に発生した能登半島地震に際しては、日本災害医学会災害医療コーディネーションサポートチームメンバーとして石川県庁に派遣され、本部内調整、看護人材確保などの活動に従事した。

### 災害医療情報学分野

藤井 進                      FUJII Susumu                      准教授                      <https://researchmap.jp/sfujii>

研究成果の社会実装に向けて、新たに知財化を進めた。また特許出願している技術のシステム実装を行い、試作機の評価を経て東北大学発スタートアップ起業に至った。今後の東北大学発ベンチャーから、災害時における医療対応の合理化・適正化を進めるアプリケーションが社会実装されることとなる。研究結果が社会に還元され防災・減災に実際に役に立つというフェーズに移行したことは、本年度の研究成果として意義深い。またNTTらと進めたビジョン共有型研究では、次世代の避難に対する考え方とも言える「IRIDeSスタンダード」という行動指針を定義し、それを学習できるワークショップ技法を開発した。このワークショップ手法を一般市民に体験してもらい好評を得ている。今後、こうした正しいと提唱する価値観を啓発できること、中高生らとともに醸成できる段階となり、今後は社会実装・普及が期待できるようになった。本年度はこうした実学として社会にリーチできる状態にしたことを大いに評価している。

朴 慧晶                      PARK Hyejeong                      助教                      <https://researchmap.jp/hjpark0922>

災害リスクマネジメント：2021年韓国の山間地域で発生された山火災とその地域にあるエネルギー基盤施設の一つであるLNGガスターミナルのリスク減少について論文を出版した。この研究は工学、社会科学からの研究者たちが気候変化の結果の一つで山火災、自然災害と基盤施設の交差リスクを考えて、研究者、行政、実務者及び一般の市民が自然災害によるカスケード効果を災害リスクマネジメントに考える機会になっている。

インクルーシブ防災：現地調査、障がいを持つ医療的ケア者と共に学際活動に行った経験から、現実的な「誰一人残さない防災」は何かを考える機会を作った。私たちがインタビュー、発表など発信した教訓は私たちから手伝って上げることだけではなく、当事者たちが災害前、時、後に何が必要かを社会・学際的に考えて、「誰一人残さない防災」の意味を理解する機会になった。災害研でもう1年になっており、2024年にも社会的・学際的に災害リスク軽減に影響する研究を進めて行きたい。

## 災害放射線医学分野

千田 浩一

CHIDA Koichi

教授

<https://researchmap.jp/read0063106>

研究：代表として科研費基盤Bと環境省原子力規制研究を行い、さらに分担研究も多数実施。医療被曝関連研究を多く実施（医学利用放射線は大部分が低線量であり医療被曝関連研究は原子力災害時の低線量被曝研究を行う上で重要な基盤）。英文査読付き論文は15編。Top10%やFWCIが2以上の論文も有る。国際放射線防護委員会(ICRP)2023 サテライトにて水晶体放射線防護研究成果を発信。厚労省検討会にて研究成果が活用され意見具申や提言。

教育：大学院医学系研究科放射線検査学分野及び医学部保健学科を兼務。22名の大学院生等と5名の卒業研究学生を直接指導。大学院・学部講義や学生実験等を多数担当し関連領域の人材育成に貢献（指導学生2名受賞）。

社会活動：宮城県原子力防災基礎研修等にて講演や実習を多数実施し、市民等へ放射線の正しい知識の普及に尽力。東北大学病院緊急被ばく医療専門委員会委員として原子力災害対応（訓練）等に貢献。G7 仙台科学技術大臣会合でのテロ（放射線災害、核爆発など）対応における東北大学病院のスーパーバイザーとして尽力。

その他：特許出願2件。さらに特許ロイヤルティ及び企業共同研究契約によって東北大学に収入を齎すことができた。

鈴木 正敏

SUZUKI Masatoshi

特任講師

<https://researchmap.jp/mashsuzuki>

福島第一原子力発電所事故による被ばく影響が社会的な関心事となっている。低線量率・長期被ばく影響を検討する試料が少なく、この社会的関心事に回答できる科学知見が不足している。私たちのグループでは福島第一原子力発電所事故に被災した野生動物が駆除された後に提供をうけて低線量率長期被ばく試料を収集し、試料アーカイブの構築・整備活動を継続してきた。収集した試料を活用して線量評価、および生物影響の中で酸化ストレスを正確に解析するための方法を改良し、帰還困難区域を含む多くの個体は被ばくを受けていない個体と酸化ストレス状態が同程度であること、被ばく個体の一部で酸化ストレス状態が上昇することを明らかにした。この変化が今後健康影響に関連するか否か、丁寧に解析を続けることが福島第一原子力発電所事故からの復興および帰還の判断に必要な放射線影響の理解を深めるための知見として活用されることが期待される。

## 災害精神医学分野

國井 泰人

KUNII Yasuto

准教授

<https://researchmap.jp/read0143653>

東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故後の避難住民のメンタルヘルス及び心理社会的支援の検討、原発事故後の精神疾患入院患者の強制避難転院者の帰還支援プロジェクト、感染症流行を含めたCBRNEによる緊急事態下におけるメンタルヘルスと心理社会的支援の検討の他、ストレス脆弱性の基盤研究として、医学系研究科精神神経学分野と連携し、死後脳を用いて、心的外傷後ストレス障害、気分障害、統合失調症などの精神疾患病態解明のための基礎的な生物学研究などの研究課題に取り組み、17報の論文報告（和文総説等を含む）、51件の学会・研究会報告を行った。令和6年3月26日能登半島地震では宮城県DAPTとして現地地で支援に入り、その活動は計6回新聞報道（webを含む）された。尚、幅広く災害精神医学教育に貢献していること、及び、医学生の研究意欲を引き出す形で指導を行い、医学教育に多大な貢献をしていることが評価され、令和5年度医学部・医学系研究科「教育貢献賞」を受賞した。

濱家 由美子

HAMAIE Yumiko

助教

<https://researchmap.jp/hamaie>

これまで災害発生時早期のメンタルヘルスニーズ調査は多くは行われておらず、戦禍でのメンタルヘルスニーズ調査や能登半島地震直後の精神保健活動の分析を通して、より早期の被災者の精神状態および精神医療需要の把握に努めたという点で学術的意義があり、データに基づく形で必要なメンタルケアの検討が可能となるという点で社会的な価値も高いと思われる。また、災害後に発症する可能性の高いPTSDに対する専門治療の研修講師を務める、高校生を対象とした教科書でトラウマ・PTSDに関する執筆を行うなど、災害やトラウマに関連する精神疾患への理解や治療の普及啓発にも努めた。

日野 瑞城

HINO Mizuki

特任助教

<https://researchmap.jp/34567>

災害精神医学の観点から災害が引き起こす心理社会的影響に関する研究を行った。具体的な研究対象は、COVID-19 パンデミック、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻、トルコ・シリア地震、そして令和6年能登半島地震である。自然災害や戦争災害などの状況下では現地での調査が困難な場合が多いが、インターネットの全面的な活用を通じて現地に赴かずとも状況を正確に把握する試みを行った。このアプローチにより、災害からの復興への遅れを最小化することを目指している。この中でウクライナにおける軍事侵攻に関しては、現地のテルノピリ医科大学と協力し、IASC-MHPSSやWHO-AIMSなどの統一化・標準化されたツールを用いた調査を実施し、現地でのメンタルヘルスケアの実態とニーズを原著論文として報告した。

また、上記の心理社会的な研究に加え、ストレス脆弱性の基礎研究としての精神疾患ブレインバンクの整備と死後脳研究に取り組み、9報の原著論文として発表した。

## 災害公衆衛生学分野

栗山 進一

KURIYAMA Shinichi

教授

<https://researchmap.jp/read0163725>

第3代所長に2023年4月1日、就任した。初代・平川新所長、第2代・今村文彦所長のもと築かれてきた成果をしっかりと継承しつつ、災害研の最重要目標が「東日本大震災をはじめとする、災害で被災された方々、また将来被災しうる方々の助けとなること」、と改めて確認した上で、長期展望を持って災害科学を深化させていくことを基本方針に据え、所長業務を遂行してきた。

研究としては、公衆衛生学の手法を防災に応用し保健と防災を融合させ、無関心な方、分かってはいるが防災行動を実践できない方に、いかにして行動変容をしていただくか、言うなれば「防災コミュニケーション学」といった学問の確立と実践を開始した。また、SDGsでは、「誰一人取り残さない」を謳っている。これに基づき、障がい者や高齢者を含むあらゆる人のための防災、インクルーシブ防災を進め、すべての方が災害発生前にどう備え、発生時以降にどうすればいいのかについての研究を開始した。

## 災害感染症学分野

児玉 栄一

KODAMA Eiichi

教授

<https://researchmap.jp/7000005426>

新型コロナウイルスを含めた感染症制圧に向けて、治療薬の開発研究、パンデミック時の大学病院感染症BCPを作成・運用した。またこれらをセミナー等で講演することで今後のパンデミック・レジリエンスの向上に役立たせている。継続して東日本大震災被災地での住民健康状況の調査研究（東北メディカル・メガバンク機構と共同研究）、厚労省指定の感染症重点疾患への対応、耐性菌の解析（国立国際医療研究センターと共同研究）などを展開し、災害にかかわる感染症研究を行った。複数の企業との共同研究も行った。学内でのコロナ禍でのメンタルヘルス調査研究にも携わった。大学本部と共同で本学の新型コロナウイルス感染症記録集をまとめており、今後のパンデミック対応に役立たせる予定である。

林 宏典

HAYASHI Hironori

助教

<https://researchmap.jp/anti-virus>

感染症災害に対して創薬の観点から課題解決に取り組んだ。高いレジリエンスを発揮する社会構築には、公衆衛生による感染症拡大防止と感染症災害の早期制圧を可能とする創薬技術が必須である。特に、創薬の迅速化は感染症災害に対する社会の脆弱性を補強し早期制圧に必須の技術となる。2023年度は、1000万円以上の研究費を獲得するだけでなく、国立国際医療研究センターや米国国立衛生研究所との共同研究を行い、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）やヒト免疫不全ウイルス（HIV）に対する治療薬開発を行った。HIV感染症治療薬に関する研究は、Science Advancesに掲載され国際的に高い評価を得た。その他、抗ウイルス薬開発に関する論文を責任著者としてRSC Chemical BiologyおよびiScienceに発表した。また、新たな取り組みとして人工知能ツールを用いた創薬迅速化研究を開始した。

## 防災実践推進部門

### 防災教育実践学分野

佐藤 健 SATO Takeshi 教授 <https://researchmap.jp/read0047717>

令和5年度災害レジリエンス共創研究プロジェクトとして、「Web GISを活用した学校教員向けリスクコミュニケーション手法の高度化～学区の災害リスクの理解に基づく実践的な避難計画の社会実装に向けて～（研究代表者：桜井愛子クロスアポイントメント教授）」の実践的研究を推進した。研究成果の一部は、防災教育協働センターのウェブサイトで開催動画発信するとともに、文部科学省の「指導参考資料『実践的な「防災教育」の手引き』（小学校編）令和5年3月発行」、「同（中学校・高等学校編）令和6年3月発行」に掲載された。また、文部科学省の「学校安全総合支援事業」の国、宮城県、石巻市等の事業実践における有識者としての指導・助言や、文部科学省「新たな教師の学び」に対応したオンライン研修動画「安全教育の実践的理解と指導アイデアー避難訓練を中心にー」の出演・制作を通して、仙台防災枠組を含む世界的な潮流である包括的学校安全の推進に貢献できた。

### 防災社会推進分野

丸谷 浩明 MARUYA Hiroaki 教授 <https://researchmap.jp/7000009980>

4月初めに論文集JDRに掲載された査読論文「Proposal of a Recommended Correspondence Method for Companies and Organizations in Case of Partial Rupture for Companies and Organizations in Case of Partial Rupture of the Nankai Trough Earthquake（南海トラフ地震の半割れケース発生時の企業・組織の推奨対応レシピ）」は、4月上旬に内閣府防災担当の幹部に福島准教授とともに説明を行った。静岡県から企業向け講演依頼があるなど、企業・組織の半割れ対応の提案に注目が集まった。さらに、北海道三陸沖後発地震注意情報も組み合わせて講演することにより、東北地方での複数の講演でも関心を持たれ、所属のNPO法人事業継続推進機構での勉強会でも注目を集めた。一方、2018年に研究成果を発表した地方都市の帰宅困難者問題の論文が、雪害その他で発生した最近の帰宅困難者問題により注目を集め、報道取材の対応も行った。

佐藤 翔輔 SATO Shosuke 准教授 [https://researchmap.jp/shosuke\\_sato](https://researchmap.jp/shosuke_sato)

1) 宮城県の業務を事例にして、被災自治体による発災から復興過程におよぶ災害対応記録誌の作成プロセスを体系的に明らかにし、今後の同種の記録誌を作成しようとする自治体のためにその要諦を形式知化した（佐藤・今村、2023）。2) 時短型災害語り部学習プログラムの開発とその検証を行い、災害伝承プログラムの一オプションを科学的エビデンスにもとづいて地域社会に提供した（若木・佐藤ら、2023）。3) 津波行動を仮想世界で疑似体験できる環境を構築し、現実世界における解決策を具体的に議論できる対話型デジタルツインのフレームワークを提起した（川合・佐藤ら、2023、成田・佐藤ら、2023）。4) 災害語り部学習が、聞き手に及ぼす長期的影響を定量的に明らかにし、災害伝承活動の効果に関するエビデンスを社会的に発信した（佐藤ら、2023）。5) 宮城県庁、仙台市役所（青葉区役所、若林区役所、宮城野区役所）、気仙沼市役所、東北自治研修所において、自治体職員による過去の災害対応経験を活用した研修プログラムを設計し、その効果検証を支援することで、これらの機関で災害対応継承に関するプログラムを確立した。6) みやぎ東日本大震災津波伝承館、気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館、石巻市震災遺構門脇小学校などの震災伝承施設で、機能拡充や人材育成に関する企画立案と実施に関する伴奏支援を行うことで、利用者および関係人口の拡大といった施設の機能強化を実現した。



## 国際研究推進オフィス

ボレー ペンメレン  
セバスチャン

BORET Penmellen Sebastien 准教授

<https://researchmap.jp/7000012579>

本研究は、日本とインドネシア間の認識と協力を高めてきた。アチェにおける津波メモリアルについての論文は、災害への関与を維持し、災害リスク軽減戦略を促進し、集合的記憶を尊重するための、ニュアンスの異なる追悼戦略の重要性を強調している。インドネシアのジョグジャカルタで開催された最も影響力のある災害国際会議のひとつで、「障害と災害の包括性」に関する特別セッションを企画した。これにより、仙台の障害者とその世話人が、インドネシアの障害者とそれぞれの災害経験について交流することができた。「国際津波記念館交流ワークショップ 2023—若者の防災教育への参加」は、招待された生徒、学校、地域の防災意識や防災教育に大きな影響を与えた。最後に、2004年の津波から学んだ災害と障害に関する研究は、現地の関係者（教師、NGO、政府機関など）の間に強力な協力関係を生み出しており、2004年インド洋大津波20周年を記念する活動の中でインクルーシブ防災の重要性を共有する予定である。

マリ エリザベス

MALY Elizabeth

准教授

<https://researchmap.jp/liz>

今年の私の研究と国際協力の2つの重要な成果は、いくつかの書籍や本の章を出版したことと、いくつかの国際会議を開催したことである。私が共同編集した『Community Responses to Disasters in the Pacific Rim: Placemaking in Displacement』では、先住民族を含むコミュニティと協働する専門家や実務家の重要かつ多様な経験を収集し、共有した。台湾、日本、インドネシア、フィリピン、ネパールでの経験を共有することは、現地の人々を支援するための実践的な知識を共有する重要な貢献となる。数回の研究会議、共同研究、現地視察、国際交流の結果、本書は国際的なネットワークにおける継続的かつ長期的な研究協力の成果でもある。今年の私の2つ目の大きな成果は、いくつかの国際会議を企画し、共同議長を務めたことである。i-Rec（復興のための情報と研究）2023は、特にヨーロッパと北米を対象とした災害復興研究のための世界有数のネットワークであり、世界中から専門家が参加している。津波と原発事故の被災地での2日間のフィールドワーク、復興に関する1日のシンポジウム、研究発表を共有する数日間を含むこの会議は、東日本大震災と津波後の復興の経験を共有する重要な機会となった。また、この会議から選ばれた論文は、2024年に国際学術誌の特集号に掲載される予定である。また、9月には環太平洋コミュニティ・デザイン・ネットワークの第12回会議の共同議長を務めた。原子力災害の影響を受けた4つの異なるコミュニティでの2日間のフィールドワーク、シンポジウム、コミュニティデザインに関する参加者の研究発表を含むこの会議は、福島と東北地方で進行中の復興の現実を国内外のコミュニティプランナーと共有する重要な機会でもあった。

北村 美和子

KITAMURA Miwako

特任研究員

<https://researchmap.jp/miwako28>

博士論文が上野千鶴子氏が代表のジェンダー研究のWANで取り上げられ、報告会を開催していただいた。ジェンダー学の専門家、高齢者介護研究の専門家の先生方のご意見をいただけるとともに、参加した方々へジェンダーと災害についての知見を共有し、研究の重要性について知見を広めることができた。ジェンダーと災害研究の世界的専門家であるProf. Maureen Fordham, Dr. Yadav Yadavと共にジェンダーと災害研究連携センターの設置へ尽力した。また仙台では様々な困難から望まない妊娠、行き場のない女性サポート活動を行っているキミノトナリのメンバーとしてトナカフェ等の活動を行い、女性の困難についてサポートを行っている。国際連携においては、今までの研究連携によりUCL Prof. David Alexander, Dr. Gianluca Pascaroliが中心となったHoraizon Project 採択済みAGILEへ正式に研究連携が認められた。新年発災した能登地震において、UCLとの連携、また震災以前から能登町春蘭の里と連携を持っていたことから津波工学のアナワット先生がリーダーとなり英語の査読論文を完成させずでに受理された。また、震災以前から繋がりがあったLGBTQ+当事者団体と共にサポートのための電話ライン相談を開設し、災害時のLGBTQの方々のごとについて周知を行った。

## 2030 国際防災アジェンダ推進オフィス

小野 裕一

ONO Yuichi

教授

<https://researchmap.jp/7000004480>

2023年5月にニューヨークの国連本部で「仙台防災枠組実施状況の中間評価にかかる国連ハイレベル会合」が開催された。各国の実施状況の成果が思わしくないひとつの理由は地方での枠組の浸透が不十分だからであった。災害統計グローバルセンターとしては、この点を憂慮し、仙台市に「仙台防災枠組」中間評価等の実施について世界初の試みを持ち掛け、被害統計の整理や分析等をアシストした。仙台市長は国連から招待講演の要請を受けて発表し多くの参加者から賛同の声があがった。この取り組みは他都市での横展開が望まれるところである。3月末にこの発表をアシストした仙台市のまちづくり政策局の職員が市長賞を受賞した。枠組のモニタリングは災害被害統計の整備が肝であるが、災害被害統計に加えてハザード統計の整備も世界気象機関と協働で準備している。国連や民間企業と連携しながら世界のハザードと災害被害のデータを収集し分析をする試みを継続している。

佐々木 大輔

SASAKI Daisuke

准教授

<https://researchmap.jp/DaisukeSasaki>

2023年度についても、現在取り組んでいる研究課題（災害統計の整備及び科学的根拠に基づく防災政策に係る研究、防災投資・サステナブルファイナンスに係る研究、気候変動が太平洋島嶼国に与える影響評価等）において、成果を論文にまとめて出版することができた。

また、東北大学×日本証券業協会 SDGs シンポジウム「地域災害レジリエンス最大化へ 知と金融の役割」にパネリストとして登壇し、金融・市場関係者等に対して防災投資の概要に係る話題提供を行うなど、地域災害レジリエンスに資する防災投資の促進に向けて積極的に取り組んだ。

今後も引き続き、仙台防災枠組・持続可能な開発目標（SDGs）・パリ協定等の国際防災アジェンダ及び防災投資をはじめとした関連するグローバル・イシューについて、国際開発学の視点も交えながら、実践的な防災学の発展に資する研究を推進していく。

原 裕太

HARA Yuta

助教

[https://researchmap.jp/hara\\_yuta](https://researchmap.jp/hara_yuta)

自然環境と共生したレジリエンスの高い文化景観や土地利用に関心をもって研究を行っている。今年度は、中国全土の稲作地帯および北方乾燥地帯を対象に、持続可能な農業活動や、自然環境の保全・持続的利用と生活質の向上が両立する社会のあり方などの研究課題について、フィールドワーク、土地利用調査、衛星画像や空中写真の解析等を駆使して取り組んだ。以上は、洪水、土砂災害、砂塵嵐、旱魃、これらの災害に対処するためのNbS（自然を基盤にした社会課題の解決策）やEco-DRR（生態系を活用した防災・減災）、さらには東アジア近現代史の評価とも強く関連している。国内では五島列島での空間立地と社会的脆弱性に関する共同研究、石川県・能登半島での令和5年奥能登地震および令和6年能登半島地震に関する調査・研究等を行った。

## レジリエント EICT 研究推進オフィス

岩月 勝美

IWATSUKI Katsumi

特任教授

<https://researchmap.jp/iwatuki.katumi>

JST OPERA「電力と情報通信との融合ネットワークによるレジリエンスとグリーンの実現」の研究戦略部門長及び研究開発課題代表者、研究担当者として、下記の研究企画と研究開発を実施した。また、NICT（情報通信研究機構）「Beyond 5G (B5G) 移動体通信におけるレジリエントとグリーンの実現」の研究担当者として、B5Gにおけるネットワークアーキテクチャに関する研究開発の実施とプロジェクト全体の取りまとめを主導した。両プロジェクトは、ICTと電力とのレジリエンスと脱炭素化に関する研究開発であり、社会インフラとして重要度が増すB5Gにおける災害時の通信確保と再生可能エネルギーの大量導入を目指している。本研究開発成果は、国連の持続可能な17の開発目標 SDGs (Sustainable Development Goals) の「強靱（レジリエント）なインフラ構築」と「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策」や我が国が標榜するSociety5.0におけるスマートシティ実現に貢献するものであり、社会的インパクトと国民的利益が期待される。

鳥光 慶一

TORIMITSU Keiichi

特任教授

<https://researchmap.jp/7000022406>

研究テーマである繊維電極を用いた「さりげない」計測について研究開発のステージから、社会実装を目指した実用化に向け、研究紹介や応用展開を中心に取り組んできた。普段使う身の回りの家具等に適用することでストレスなく使用できる環境を提供するため、意見集約をもとに、より実用的状況を反映した改良を実践した。

安達 文幸

ADACHI Fumiyuki

特任研究員

<https://researchmap.jp/read0065498>

JST-OPER (2021～2024年度)、NICT (2022～2023年度) および総務省 (2023～2025年度) 受託研究開発に従事し、レジリエントな次世代通信システム実現に向けた無線通信技術の研究開発に取り組んだ。NICT 受託研究開発では 5G/B5G システムに向けた分散協調無線通信技術 (低演算量の干渉抑圧型 MU-MIMO など) を確立した。この成果を基に R-EICT ネットワークの実現に向けて、JST-OPER 受託研究開発ではスケラブルでレジリエントな無線アクセスネットワーク (RAN) アーキテクチャの初版を設計した。また、総務省受託研究では、仮想基地局の機能配置を再構成し光・無線リソースおよびメディア制御を適応的に行うことによりレジリエンス性を高めた B5G vRAN (仮想 RAN) アーキテクチャの初版を設計した。

上記研究開発の他に、無線通信技術に関する長年の研究開発経験を有していることから、NICT Beyond 5G 研究開発促進事業 委託研究課題「Beyond 5G 超大容量無線通信を支える次世代エッジクラウドコンピューティング基盤の研究開発」(2021～2023年度)に関するプログラム運営委員会委員および一般社団法人電子情報技術産業協会 (JEITA) 共創プログラム「ALAN コンソーシアム」副代表 (2022年度～現在) を務めた。

中沢 正隆

NAKAZAWA Masataka

特任研究員

<https://researchmap.jp/read0075840>

今年度を最終年度として、NICT 委託研究「Beyond 5G のレジリエンスを実現するネットワーク制御技術の研究開発」に携わっている。本研究開発では、高速・大容量でかつ低遅延という光と無線を連携したフルコヒーレントシステムの構築を目指している。災害によりアンテナサイトが損傷した折、他のアンテナサイトからの電波により災害地への情報伝達をスムーズに行うための光フロントホールについて研究している。また、学際高等研究教育院における授業の一環として、全学の修士学生に向けて「融合領域合同講義を行った。論文報告として、モード同期レーザーから任意の形状の光パルスの発生が可能であることを実証し、IEEE Journal Of Quantum Electronics に報告した発表した。

## 寄附研究部門

### 地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門

鎌田 健一                      KAMATA Kenichi                      特任教授      <https://researchmap.jp/kenichikamata>

- ・防災に関する国際標準化の推進に関与し、規格の開発支援・促進や、相互連携に寄与する働きかけを行った。
- ・損害保険と災害の関係についての歴史や仕組みを調査して整理し、分かりやすい形で紹介することで知見の拡大に貢献することが出来た。
- ・「ぼうさいこくたい」でのワークショップでの開催や、仙台防災未来フォーラムでのパネル出展にも参画することで、災害研のアウトリーチに貢献すると同時に、災害に関する科学的な知識の啓発、防災教育、減災意識の向上に資するものと考えられる。
- ・トヨタ社や自治体との共同取り組みにも参画し、防災にモビリティの利活用に関する新たな手法・分野の開拓にも微力ながら支援に繋がった。

内田 典子                      UCHIDA Noriko                      助教                      [https://researchmap.jp/noriko\\_uchida](https://researchmap.jp/noriko_uchida)

2023年度は、自身の専門として継続してきた生物多様性評価に関する研究に加え、インドネシアにおけるEco-DRRの実践という新たなフィールドを得て、生態系の状態把握と実社会の連関を解明する環境づくりを進めることができた。河川の重金属汚染指標となる水生昆虫に着目した環境DNAデータ解析により、極端に生物群集構成が変わる場所においては流水環境中の比較的短い距離間（500m以下）であっても群集の相違を遺伝子情報から把握できることを示し、環境影響評価へ実用できることを示した。SATREPSインドネシアへ参画し、バリ島における防災・生態系・経済（観光業）に関わる各ステークホルダーが共通理解をつくる場として2024年5月にワークショップ開催を目指し、綿密な協働を開始した。さらに、住民意識と環境理解の関係性把握の共同研究を開始する基盤として、現地研究者および研究・省庁機関との人的ネットワークを構築した。

## 都市直下地震災害（応用地質）寄附研究部門

乗松 君衣

NORIMATSU Kimie

助手

[https://researchmap.jp/norimatsu\\_k](https://researchmap.jp/norimatsu_k)

活断層近傍の強震動予測方法の高度化をテーマに研究し、学会発表を行った。また、査読論文の提出を行った（審査中・修正中）。断層近傍の強震動には従来の予測モデルで対象とされてきた地震基盤内のモデル化に加えて、地表面付近までのごく浅部までの断層面のモデル化が重要であり、そのためには地質・地形データから得られる活断層情報を用いることが有効である・2016年熊本地震では事前に公表されていた活断層の分布と地震後に出現した地表地震断層の分布がよく整合していたことから、活断層分布に沿って詳細にモデル化することで予測モデルの形状を想定することが可能であることを提案した。この研究はより多くの事例を追加し、実用性のある手法として取りまとめる必要があるが、活断層近傍においては地震の揺れや変位による被害が甚大になることから、事前にそれらを精度よく予測し、被害予測および対策に反映していく必要があり、将来的に有用となる研究であると考えます。

原 勇貴

HARA Yuki

助手

<https://researchmap.jp/yhara>

断層破壊の伝播による連動性評価の高度化を目指すため、幾何形状を用いた確率論的な評価手法について検討を行った。一般的な連動性評価では、断層の離隔距離や屈曲角度に閾値を設定してセグメントに区分し、セグメント全体が活動することを前提としている。一方でセグメント内の一部区間のみ活動した事例もあることから、確率論的な評価の導入に着目しその手法の提案に寄与する研究である。検討した手法を2023年トルコ・シリア地震に適応した結果、地下における断層分布や応力蓄積状態が破壊伝播経路に影響を与えることが示唆されたことから、確率論的な評価に考慮すべき地質データを整理し、さらなる改良を継続する。成果については、2023年度日本活断層学会秋季学術大会およびAGU Annual Meeting 2023で発表を行った。そのほか、現地調査として熊本県益城町で2016年熊本地震に関するトレンチ調査を実施した。地震以前に実施されたトレンチを再掘削した3例目の研究事例であり、活断層が同様の破壊面で繰り返し活動することを確認した。また、調査中には地元住民の方々へ一般公開を実施し、熊本地震のメカニズムや活動評価の根拠となる地質層序について解説を行った。このトレンチは、調査関係者の協力により3年程度保存され、教育活動等に向けて公開される予定である。

## 共同研究部門

### イオン防災環境都市創生共同研究部門

新家 杏奈                      SHINKA Anna                      助教                      [https://researchmap.jp/anna\\_shinka](https://researchmap.jp/anna_shinka)

研究分野では、津波避難行動の意思決定に二重過程理論を適応して避難中に生じた行動の多くが直感的に行われたことを明らかにし、避難を促進する対策方針について提言を行うことができた。実践活動では、気仙沼市を中心に小・中学生への防災学習に尽力し、地域の災害対応力を向上させると共に、児童・生徒の非認知能力の向上についても一定の効果を得ることができた。いわき市では台風による豪雨災害の実態調査を実施し、同市の復旧復興方針について助言をするための一次資料の作成を行うことができた。イオン共同研究においては、雨宮地区との関係構築の一環として地域小学校とのコミュニケーションを行い、来年度以降防災学習の面で提携する準備を進めている。さらに、イオンモール雨宮店舗への植樹苗の作成のためにイオン環境財団主催のどんぐり拾い活動に参加し、イベントの効果についての分析から今後のイベントの在り方に対する助言を行うことができた。

### 日本工営レジリエントシティー技術実装共同研究部門

凌 国明                      LING Guoming                      助教                      [https://researchmap.jp/guoming\\_ling](https://researchmap.jp/guoming_ling)

本年度の研究では、仙台地域を対象にした構造物の応答解析と建物倒壊による道路閉塞を考慮した避難シミュレーションを行なった。その結果、避難シミュレーションにおいて道路閉塞の有無が避難行動や避難時間にどのような影響を与えるかを明らかにした。また、Plateauの3D都市モデルとUnityを活用して、避難シミュレーションの結果を高品質な可視化システムを構築した。可視化は、研究成果を他の研究者や関係者にわかりやすく伝えるだけでなく、地域住民や政府機関とのコミュニケーションを促進し、防災意識の向上に寄与する重要な手段だと考えられる。

この研究の成果は、地域の防災計画や災害管理において、より効果的な避難戦略や施策の策定に役立つことが期待される。また、同様の手法やアプローチは他の地域や災害シナリオにも応用可能であり、地域社会全体の安全性と防災能力の向上に寄与することが期待される。

スクンタナソーン                      SUKULTHANASORN                      助教                      <https://researchmap.jp/naruethep>  
ナルテープ                      Naruethep

私の初めての研究課題は、都市スケールでの災害軽減を達成するための数値解析技術の開発に関するものである。この研究では、データ駆動型アプローチとセンサーネットワークを統合することを目指し、仙台市を対象とした地下から建造物までを含む都市スケールでの地震シミュレーションのプロトタイプを開発した。この研究成果は、都市レベルでの高精度な情報を用いた災害対策計画の策定において、貴重なリソースとなることが期待される。

私の第二の研究テーマは、亀裂を含む損傷解析と様々なスケールでの最適化に関するものである。この研究における目標は、新たな効率的な技術を学術界に提供することにある。

## 災害レジリエンス共創センター

### 災害レジリエンス数量化研究領域

永田 彰平                      NAGATA Shohei                      助教                      [https://researchmap.jp/shohei\\_nagata](https://researchmap.jp/shohei_nagata)

災害などのイベントの社会への影響を定量的に評価するために、携帯電話基地局で取得される人々の移動データに基づき、COVID-19 流行時や災害発生時の人流変化を解析した。まず、COVID-19 流行時の人流解析に関しては、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が人流の抑制を通して感染緩和に寄与したのかを統計的に評価した。この研究で得られた、人流抑制措置の感染緩和効果についての知見は、今後の新興感染症流行対策に有益である。この研究に関連した発表を日本疫学会で行い、現在論文を国際誌に投稿中である。自然災害時の人流解析に関しては、令和6年能登半島地震発生直後から能登半島における人流を解析し、当研究所の速報会および日本地理学会において調査結果を報告した。この研究は、被災地の人々が地震直後にどのような条件下でどこに移動したのかを明らかにし、被災地の状況の把握に有益であった。本研究に関連した論文も現在国際誌に投稿中である。

### 広報室

中鉢 奈津子                      CHUBACHI Natsuko                      特任准教授                      [https://researchmap.jp/chubachi\\_natsuko](https://researchmap.jp/chubachi_natsuko)

- ・市民が気軽に防災に取り組むきっかけにできるワークショップを学際チームで考案し、効果を検証して論文として出版した。
- ・企画展「仙台に残されていた関東大震災の記録」の企画に参加した。同企画展は、同大震災は被災地を越えた広範なスコープで捉えるべきことを示すもので、歴史研究者と広報・連携担当者が協力し、知見を市民へ伝わりやすい形としたことにより、メディアでも大きく取り上げられ、大学を越えた社会的波及効果も得られた。
- ・年次報告書改訂の発起人・主担当として、年次報告書がデータ集としての実際的な目的を持つだけでなく、「災害科学において真に価値ある成果とは何か」「その成果を測る指標」という根源的な問いと関連することを関係者と共有しつつ、改訂内容をまとめた。
- ・今後も、学問的な知見を広報・連携の観点から広げ・実装する方法を追求したい。また、これまで十分に言語化・可視化されてこなかった、広報・連携・調整機能を研究テーマとしても追求し、評価軸等を考えたい。

## 5. 1. B. 災害レジリエンス共創センター

災害レジリエンス共創センターは本研究所、学内部局および国立研究開発法人防災科学研究所(以下、防災科研)が連携し、「総合知」を活用して災害による社会の機能損失を低減し、速やかに回復、より良く復興するための「災害レジリエンス」の向上と社会実装を理念として掲げています。2022 年度に設立され、2 年目を迎えました。「災害レジリエンス数量化」、「ヒューマンレジリエンス」、「災害情報キュレーション」および「災害レジリエンス共創」の 4 つの重点研究領域からなり、シンボルプロジェクトとして「災害デジタルツイン」「モバイル空間統計」を推進しています。昨年度にひきつづき災害レジリエンス共創研究プロジェクトを実施し、27 件(2022 年度は 26 件)を採択しました。2022 年度の研究成果報告会、オープンフォーラムを 7 月 22 日に開催し、全国の研究者が参加しました。また、バリアフリーとインクルーシブ防災セミナーをシリーズで 3 回開催し、医療的ケア児・者、視覚障がい者、聴覚障がい・盲ろう者それぞれの当事者と研究者が直接意見を交換しました。10 月 12 日にはインドネシアの AI-WEST DR においてインクルーシブ防災スペシャルセミナーを主催しました。定期的に戦略推進会議を開催し、運営方針を協議するとともに、3 月 9 日の仙台防災未来フォーラム 2024 において災害レジリエンス共創センターシンポジウム「災害デジタルツインの構築と活用に向けて」を開催しました。専任教員として ESRI 社からのクロスポイント教員 2 名、外国人教員 1 名が着任し、多層化したデジタルツインデータベースの構築を推進しています。ヒューマンレジリエンス領域では WHO との協働により災害健康危機管理研究に関する WHO 研究ガイダンスの日本語への翻訳監修したものが公開されました。災害に関するデータは今後爆発的に増大し、データの意義を見極めるキュレーション、データに基づく政策提言などの重要性が増していきます。(江川新一)

## 5. 1. C. 災害レジリエンス共創研究プロジェクト

### 概要

2021 年 4 月に施行された科学技術・イノベーション基本法において、人文・社会科学と自然科学を含むあらゆる「知」の融合による「総合知」により、人間や社会の総合的理解と課題解決に資することの必要性とその方向性が示された。

これを背景に、本研究所と学内の部局が連携し、「総合知」を活用して社会の「災害レジリエンス」の向上を実現する「災害レジリエンス共創センター」を 2022 年 4 月に設立した。

「災害レジリエンス共創センター」では、「災害レジリエンス数量化」「ヒューマンレジリエンス」「災害情報キュレーション」および「災害レジリエンス共創」の 4 つの重点研究領域を構成し、新たに構築する「災害デジタルツイン」での災害過程の分析を通じて、被災した社会が速やかに回復するための方策や、一人ひとりの多様な幸せ(well-being)を実現するための総合知を探求する研究に取り組む。

このような理念から 2022 年度に本プロジェクトを立ち上げ、共同研究の助成を行っている。



# 災害レジリエンス共創研究プロジェクト 2023 年度採択課題一覧・報告

所属機関名は 2023 年 6 月採択時

## 1. 災害デジタルツインの開発に関連する研究(1-DT)

研究課題・研究テーマ	研究代表者	所属機関
1. 日本海溝型地震に伴う津波のリアルタイムリスク評価 ～八戸市を対象としたレジリエンス強化のための事例検証～	高瀬 慎介	八戸工業大学大学院工学 研究科
2. 災害デジタルツインにおけるデジタルデータ・アーカイブ システムの設計と試作	近貞 直孝	防災科学技術研究所地震 津波防災研究部門
3. 災害デジタルツインのための人口暴露把握と予測アルゴ リズムの開発	マス エリック	東北大学災害科学国際研究所
4. GPS データとモバイル空間統計に基づく個人レベルの合成 人流データの構築	永田 彰平	東北大学災害科学国際研究所

## 2. 4つの重点研究領域の研究内容に関連し、災害レジリエンスの向上に貢献する研究

### ○災害レジリエンス数量化研究領域(2-QR)

研究課題・研究テーマ	研究代表者	所属機関
1. 道路ネットワークのレジリエンス強化に向けた橋梁の合理的な 地震対策決定プロセスの構築	石橋 寛樹	日本大学工学部土木工学科
2. 近代と現代の町の豪雨災害リスクと居住空間特性の評価	鈴木 温	名城大学理工学部社会基盤 デザイン工学科
3. 災害レジリエンス構築に資する被災地医薬品ニーズの 定量化	越智 小枝	東京慈恵会医科大学臨床 検査医学講座
4. 震災時避難所空間構造物の構造被害リスクの定量的評価 スキーム	木村 祥裕	東北大学大学院工学研究科 都市・建築学専攻

### ○ヒューマンレジリエンス研究領域(2-HR)

研究課題・研究テーマ	研究代表者	所属機関
1. 災害シミュレーションを用いた行動実験パラダイムの開発を 通じた災害後協力とウェルビーイングの実験的検討	今田 大貴	高知工科大学経済マネジ メント学群
2. 放射線災害被災者に対する無散瞳白内障検査技術の開発と その検証	盛武 敬	量子科学技術研究開発機構 放射線医学研究所
3. 染色体異常を指標とした原子力災害時の健康影響における レジリエンス	三浦 富智	弘前大学被ばく医療総合 研究所
4. 防災意識と関連するパーソナリティの探索:地域愛着性に 着目して	三橋 勇太	石巻専修大学経営学部

○災害情報キュレーション研究領域(2-1C)

研究課題・研究テーマ	研究代表者	所属機関
1. 地域自然災害アーカイブのためのプラットフォームの構築	小山 真紀	岐阜大学流域圏科学研究センター
2. 震災アーカイブ学習のRX(リサーチトランスフォーメーション)―検索システムの追加機能の開発、学習効果の検証とメカニズムの解明―	齋藤 玲	東北大学災害科学国際研究所
3. 災害・防災情報検索リテラシーのためのワークショップの開発と効果検証	後藤 心平	広島経済大学メディアビジネス学部メディアビジネス学科
4. 震災アーカイブとしての災害・防災絵本の分析と翻訳を通じた経験と教訓の国際発信	マリ エリザベス	東北大学災害科学国際研究所
5. 災害時における文化遺産救済を目的とした文化遺産マップの構築および活用の研究	吉森 和城	防災科学技術研究所災害情報研究部門

○災害レジリエンス共創領域(2-CO)

研究課題・研究テーマ	研究代表者	所属機関
1. 原発事故でサクラ樹皮に付着したセシウム汚染の回復	杉浦 広幸	福島学院大学短期大学部
2. Web GIS を活用した学校教員向けリスクコミュニケーション手法の高度化～学区の災害リスクの理解に基づく実践的な避難計画の社会実装に向けて～	桜井 愛子	東洋英和女学院大学国際社会学部
3. 仙台防災枠組におけるグローバル指標の更なる社会実装に向けて:インドネシア・アチェを事例に	佐々木 大輔	東北大学災害科学国際研究所
4. セクシュアルマイノリティの災害レジリエンス向上のための基礎研究	北村 美和子	東北大学災害科学国際研究所
5. 「人はなぜ防災行動を取らないのか？」仙台市における災害時に脆弱性を持つ人口グループを対象にした事例研究	中鉢 奈津子	東北大学災害科学国際研究所
6. 災害時における大都市の時空間避難行動の分析	チェ ソンキョン	東京工業大学環境・社会理工学院融合理工学系
7. 五島列島におけるクリンタン集落の形成・立地と災害リスク評価に関する研究	原 裕太	東北大学災害科学国際研究所

3. 人流データを活用した社会動態の解明に関する研究(3-MO)

研究課題・研究テーマ	研究代表者	所属機関
1. 人流データの時系列変動分解に基づく災害レジリエンス情報の検出と比較	山口 裕通	金沢大学理工研究域地球社会基盤学系
2. モバイル空間統計に基づく集客施設別の混雑と遊休の地域間比較	塚井 誠人	広島大学大学院先進理工系科学研究科

## 1. 災害デジタルツインの開発に関連する研究

研究課題名	1. 日本海溝型地震に伴う津波のリアルタイムリスク評価 ～八戸市を対象としたレジリエンス強化のための事例検証～	研究課題	1-DT
研究代表者氏名	高瀬 慎介	職名	教授
所属機関等	八戸工業大学		

研究組織 (◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 高瀬 慎介	八戸工業大学
○ 越村 俊一	東北大学災害科学国際研究所
野村 怜佳	東北大学災害科学国際研究所
寺田 賢二郎	東北大学工学研究科
森口 周二	東北大学災害科学国際研究所
櫻庭 雅明	日本工営株式会社(災害科学国際研究所兼務)
野島 和也	日本工営株式会社(災害科学国際研究所兼務)
外里 健太	八戸工業大学
藤田 真粹	東北大学工学研究科

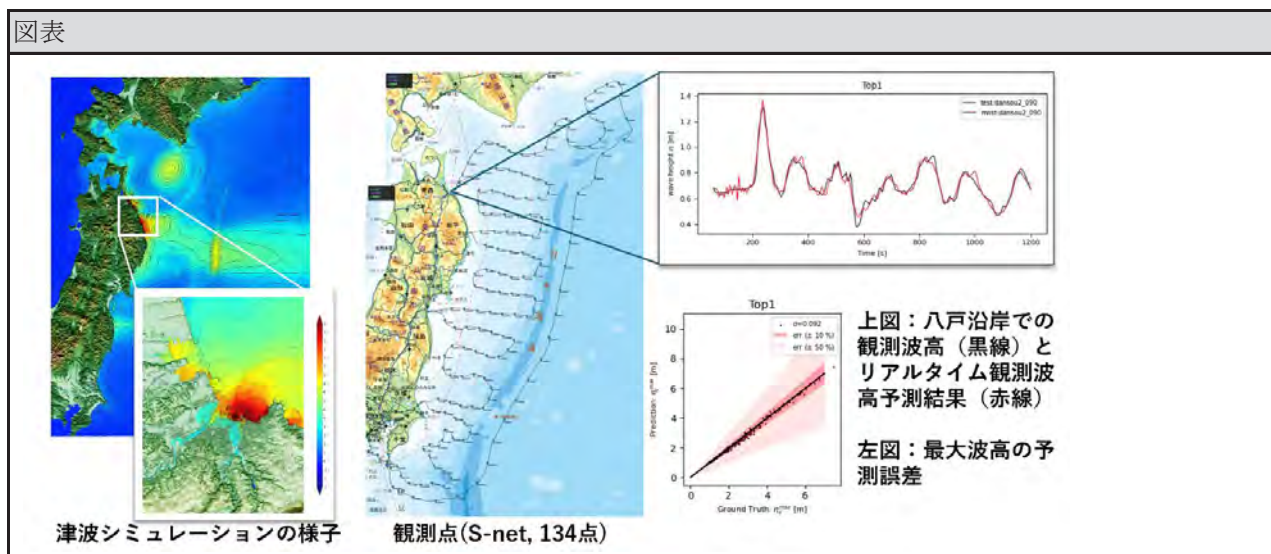
期間	令和5年6月1日 ~ 令和6年3月31日	経費	250,000 円
----	----------------------	----	-----------

**研究の概要**

本研究では八戸市を対象に、近い将来襲来が想定されるいくつかの地震・津波シナリオについてシミュレーションを行い、これらを入力データベースとした逐次更新型リアルタイム津波リスク予測手法を適用する。沿岸部浸水リスク予測結果をGISなどの地理空間情報システムに実装し、可視化することで、津波リスクの見える化を行う。

**研究の具体的な成果・波及効果**

昨年度生成した津波シミュレーション結果をシナリオデータベースとして整備し、実災害発生時、観測点上で得られるリアルタイム観測データから沿岸部に襲来する津波波高を予測することに成功した。また、デジタルツインモデル構築のために、河川の監視カメラなどのリアルタイムセンサーデータを取得すべく、関係機関との連携に取り組んだ。



研究課題名	2. 災害デジタルツインにおけるデジタルデータ・アーカイブシステムの設計と試作	研究課題	1-DT
研究代表者氏名	近貞 直孝	職名	主任研究員
所属機関等	防災科学技術研究所		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 近貞 直孝	防災科学技術研究所
○ 越村 俊一	東北大学
白田 裕一郎	防災科学技術研究所
鈴木 進吾	防災科学技術研究所
嶋原 良典	防衛大学校
奥村 与志弘	関西大学

期間	令和5年6月1日 ~ 令和6年3月31日	経費	700,000円
----	----------------------	----	----------

**研究の概要**

デジタルツインでは、物理空間から仮想空間にコピーされたデジタルデータをその後の解析で利用可能な形で整備する必要がある。しかし、既存の多くのデジタルデータは人間が利用することを第一に想定しており、プログラムでの直接利用や横断的な検索が想定されていない場合が少なくない。そこで、本研究では津波情報を一例として、関連論文とそれらに用いられた観測や実験結果を対象に災害デジタルツインにおけるデジタルデータ・アーカイブシステムの設計と試作を行った。

**研究の具体的な成果・波及効果**

津波情報アーカイブシステムの試作に於いては、研究者や自治体の防災担当者らを対象に土木学会と防災科学技術研究所が共同で構築した津波防災研究ポータルに整備されている論文情報とベンチマーク問題を対象にデジタルデータ・アーカイブシステムを試作した。ここでは横断検索が可能となるようSPARQL・RDF/XMLを用いており、単なる設計だけではなく試作したことでその効果を明瞭に示したことで災害デジタルツインの実証試験が加速されることが期待される。

**図表**

大分類	論文名	doi	著者名	出典	vol#	掲載年
先生・伝達・書	On Bone Dynamics and Fracture: RANG, GreenNishih, and SaitoYasutaka	10.1115/1.5044988	Jiap Liu, Masoud Hayatderoodi, R. Cengiz Ertekin	Journal of Offshore Mechanics and Arctic Engineering	142	2019
液力	高波発生時の津波伝播と高波伝播時の津波伝播特性に関する数値解析	10.2208/jstn.75.1_421	木原 健治, 竹内 真弘, 渡部 博幸	土木学会論文集B2(海岸工学)	75	2019
液力	津波工による高波発生メカニズムに関する数値解析	10.2208/jstn.75.1_415	高橋 栄紀, 神原 義, 藤原 勇博, 山田 早希 規	土木学会論文集B3(海岸工学)	75	2019
液力	高波発生時の津波伝播と高波伝播特性に関する数値解析	10.2208/jstn.75.1_411	安藤 圭, 鈴木 真二郎, 森 哲人	土木学会論文集B2(海岸工学)	75	2019

**シンポジウム・講演会・セミナー等の開催**

2023年11月14日、シンポジウム、国内、研究者・社会人、沿岸災害デジタルツインの構築と活用に向けて、海岸工学委員会の有志約60名からなる「沿岸災害デジタルツイン研究小委員会」の活動報告および将来の沿岸災害デジタルツインの構築と活用に向けた議論、233人□

合計(1)件

研究課題名	3. 災害デジタルツインのための人口暴露把握と予測アルゴリズムの開発	研究課題	1-DT
研究代表者氏名	マス エリック	職名	准教授
所属機関等	東北大学・災害科学国際研究所		

研究組織 (◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ マス エリック	東北大学・災害科学国際研究所
○ 越村 俊一	東北大学・災害科学国際研究所
片谷 信治	ESRIジャパン株式会社・先端技術開発グループ
桑原 直道	ESRIジャパン株式会社・先端技術開発グループ
武田 百合子	東北大学・災害科学国際研究所・災害レジリエンス共創センター

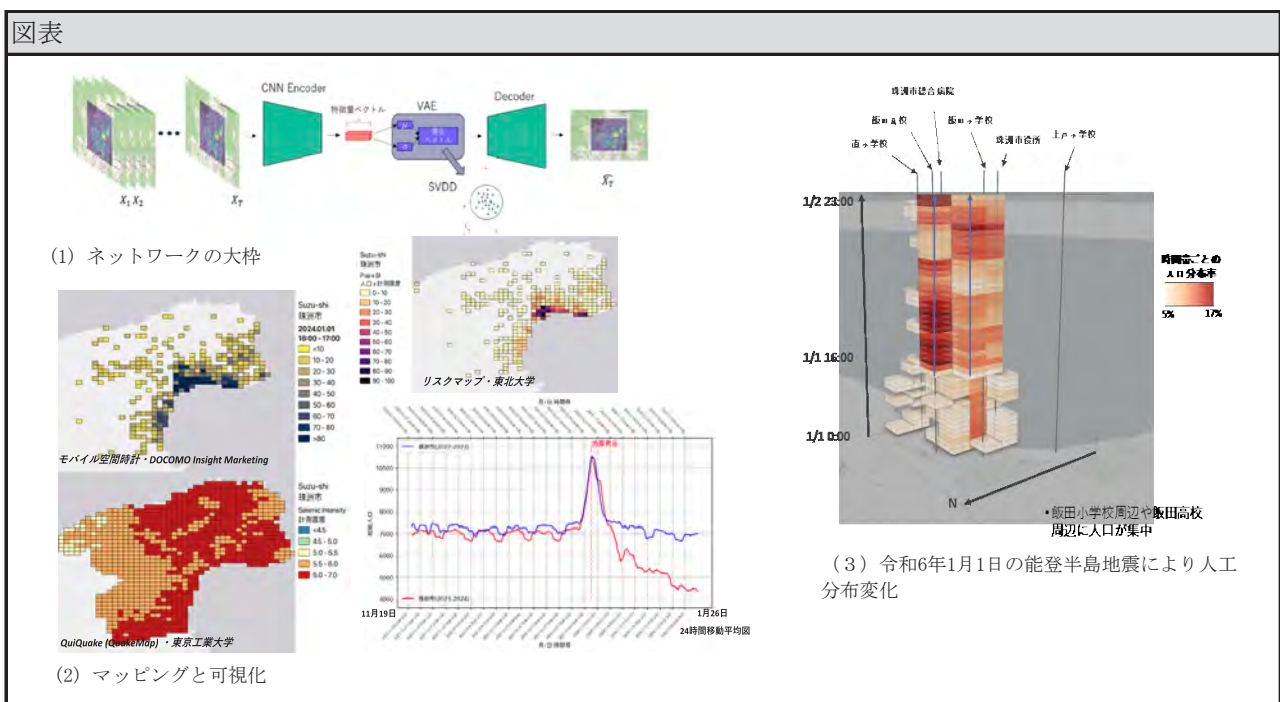
期間	令和5年6月1日 ~ 令和6年3月31日	経費	700,000円
----	----------------------	----	----------

**研究の概要**

本研究では、人流データを用いて災害時の人口暴露を把握するための新たなアルゴリズムを開発する。人口の空間的・時間的分布の急変（異常）を検知し、準リアルタイムで社会動態を予測することを目指す。

**研究の具体的な成果・波及効果**

本研究では以下の項目に重点を置いて研究活動を行ってきた：1) 空間的・時間的異常検知, 2) 人流データのマッピングと可視化, 3) 様々な空間解像度や対象地域のジオメトリにおける人口予測。そこに(1)では提案したモデルは深層学習を用いモデルが人口分布データの時間的特徴と空間的特徴の双方を考慮した特徴を抽出できるように訓練し、かつ異常をモデルの内部で学習させることが可能を確認した。さらに(2)では外情報を統合して災害時の人口暴露マッピングを向上した。そして、(3)では解析区域の特徴により空間解像度などの決め方を明らかにした。



成果として発表した論文

Mas, E. and Koshimura, S., Anomaly Detection in Mobile Spatial Statistics for Disaster Risk Management. Social Science Research Network (SSRN), April 5, 2023. <http://dx.doi.org/10.2139/ssrn.4410149> (国際・査読無)

Kawai, S., Sato, S., Mas, E., Shinka, A., Imamura, F., Proposal of promotion of evacuation on foot for alleviating traffic congestion: An analysis example at Ishinomaki City, Miyagi Prefecture., Japanese Journal of JSCE, 2023, Volume 79, Issue 17, November 01, 2023, ISSN 2436-6021, <https://doi.org/10.2208/jscej.23-17182> (国内・査読有)

学術論文 合計(2)編

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

Koshimura, S., Mas, E., Digital twin computing for enhancing resilience of disaster response system. EGU General Assembly 2023, April 23-28, 2023, Vienna, Austria. 口頭発表

Koshimura, S., Mas, E., Adriano, B., Musa, A. Tsunami Digital Twin - A new paradigm for tsunami disaster resilience. The 28Th General Assembly of the International Union of Geodesy and Geophysics, July 11-20, 2023, Berlin, Germany 口頭発表

Mas, E., Kataya, S, Kuwahara, N., Takeda, Y., Nagata, S., Koshimura, S. Real-time population exposure mapping from mobile spatial statistical data. The 28Th General Assembly of the International Union of Geodesy and Geophysics, July 11-20, 2023, Berlin, Germany ポスター発表

Mas, E., Koshimura, S. Real-time Anomaly Detection in Population Data from Mobile Spatial Statistics for Disaster Mitigation. AOGS2023 - 20th Annual Meeting Asia Oceania Geosciences Society, July 30 - August 8, 2023, Singapore. ポスター発表

Koshimura, S., Mori, N., Yamamoto Chikasada, N., Udo, K., Ninomiya, J., Okumura, Y., Mas, E. Coastal Digital Twin - A New Attempt to Gain Collective Intelligence in Coastal Science and Engineering. AOGS2023 - 20th Annual Meeting Asia Oceania Geosciences Society, July 30 - August 8, 2023, Singapore. 口頭発表

Moriguchi, S., Erick Mas, Shunichi Koshimura, Kenjiro Terada, Makoto Okumura, Naoko Kosaka, Naoko Shigematsu, Hitoshi Shimizu, Akinori Fujino, Tsuneko Kura, Hiroshi Matsubara, Masaki Hisada. A study on disaster response using a Digital Twin of the actual heavy rain disaster. AOGS2023 - 20th Annual Meeting Asia Oceania Geosciences Society, July 30 - August 8, 2023, Singapore. 口頭発表

Kura, T., Moriguchi, S., Mas, E., Koshimura, S., Okumura, M., Shigematsu, N., Fujino, A., Shimizu, H., Kosaka, N., Hisada, M. 過去の災害情報を活用した、意思決定支援システムの構築. 第22回情報科学技術フォーラム (FIT2023) 2023年9月6日-8日, 大阪市, 日本 口頭発表

Mas, E., Koshimura, S. Forecasting Spatial Population Distribution in Tsunami Haard Zones Using Mobile Data. AIWEST-DR 2023 - 15th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery, October 11-13, 2023, Yogyakarta, Indonesia. 口頭発表

Takahashi, R., Mas, E., Adriano, B., Koshimura, S., モバイル空間統計を用いた時空間でのリアルタイム異常検知. 令和5年度土木学会東北支部技術研究発表会, 2024年3月2日, 盛岡市, 日本 口頭発表

Tsukitaku, F., Mas, E., Adriano, B., Koshimura, S. 交通避難シミュレーションにおける計算時間の短縮化のため道路容量と車両減少の仮定の検証. 令和5年度土木学会東北支部技術研究発表会, 2024年3月2日, 盛岡市, 日本 口頭発表

永田 彰平, マス・エリック, 武田 百合子, 越村 俊一. 令和6年能登半島地震発生後の人流変化. 2024年日本地理学会春季学術大会【緊急公開シンポジウム】令和6年能登半島地震. 2024/3/19. ポスター発表

合計( 11 )件

研究課題名	4. GPSデータとモバイル空間統計に基づく個人レベルの合成人流データの構築	研究課題	1-DT
研究代表者氏名	永田 彰平	職名	助教
所属機関等	東北大学 災害科学国際研究所		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)

氏名	所属機関名
◎ 永田 彰平	東北大学 災害科学国際研究所
○ 越村 俊一	東北大学 災害科学国際研究所
中谷 友樹	東北大学 大学院環境科学研究科
足立 浩基	東北大学 大学院環境科学研究科
武田 百合子	東北大学 災害科学国際研究所
花岡 和聖	立命館大学 文学部

期間	令和5年6月1日 ~ 令和6年3月31日	経費	700,000円
----	----------------------	----	----------

#### 研究の概要

近年、災害マネジメント研究において、携帯電話から取得される人流データの活用が増加している。先行研究では、人流データとしてGPSデータや基地局データが多く用いられてきたが、GPSデータは位置情報の取得対象が限定的であり、基地局データは人口集計の時空間的な解像度に限界があった。本研究では、GPSデータと基地局データの合成により、大規模にサンプリングされる基地局データと統合的な人口分布を持つ移動軌跡データの構築を目指した。

#### 研究の具体的な成果・波及効果

本研究では、GPSデータとしてジオテクノロジーズ社提供のトリマデータを、基地局データとしてドコモ・インサイトマーケティング社提供のモバイル空間統計を用いた。焼きなまし法を用いた復元抽出に基づく空間的マイクロシミュレーションにより、モバイル空間統計の500mメッシュ別×時間帯別の人口分布と統合的なGPSサンプルを得た。その結果、抽出されたGPSサンプルとモバイル空間統計のメッシュ別×時間帯別人口の相関係数は0.99であり、極めて高い水準で人口分布を一致させることができた(図1)。これにより、500mメッシュよりも高い空間解像度での人口集計が可能となった(図2)。また、本研究で用いたGPSデータには社会経済的な属性も含まれており、モバイル空間統計では集計できない詳細な個人属性に基づく人口集計も可能となった(図3)。本研究で得られた合成人流データは、災害曝露人口の推定や災害避難シミュレーションのための基盤データとしての活用が期待される。

#### 図表

図1 GPS人口と基地局人口の散布図

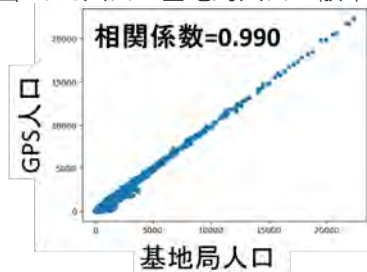


図2 仙台市中心部における

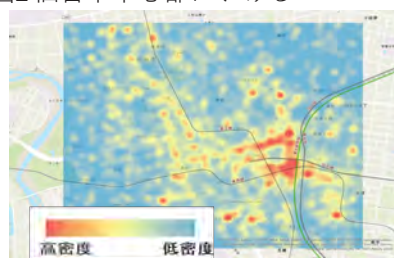


図3 世帯年収800万円以上の人口分布率 (2時台)



シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

Shohei Nagata, Tomoki Nakaya, Yuriko Takeda, Shunichi Koshimura. Changing Catchment of People Flows: mapping the variety of where visitors live over Japan. Esri User Conference, Map Gallery. 2023/7/10. ポスター発表

永田 彰平. 人流データ活用の可能性と課題. 第11回越境地域政策研究フォーラム. 2024/2/10. 招待講演

永田 彰平, 足立 浩基, 花岡 和聖, 武田 百合子, 中谷 友樹, 越村 俊一. GPSデータとモバイル空間統計に基づく合成人流データの構築. 2023年度 地理情報システム学会東北支部 研究交流会. 2024/3/13. 口頭発表

永田 彰平, マス・エリック, 武田 百合子, 越村 俊一. 令和6年能登半島地震発生後の人流変化. 2024年日本地理学会春季学術大会【緊急公開シンポジウム】令和6年能登半島地震. 2024/3/19. ポスター発表

合計( 4 )件



2. 4つの重点研究領域の研究内容に関連し、災害レジリエンスの向上に貢献する研究

災害レジリエンス数量化研究領域

研究課題名	1. 道路ネットワークのレジリエンス強化に向けた橋梁の合理的な地震対策決定プロセスの構築	研究課題	2-QR
研究代表者氏名	石橋 寛樹	職名	助教
所属機関等	日本大学 工学部 土木工学科		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 石橋 寛樹	日本大学 工学部 土木工学科
○ 越村 俊一	東北大学災害科学国際研究所
秋山 充良	早稲田大学 創造理工学部 社会環境工学科

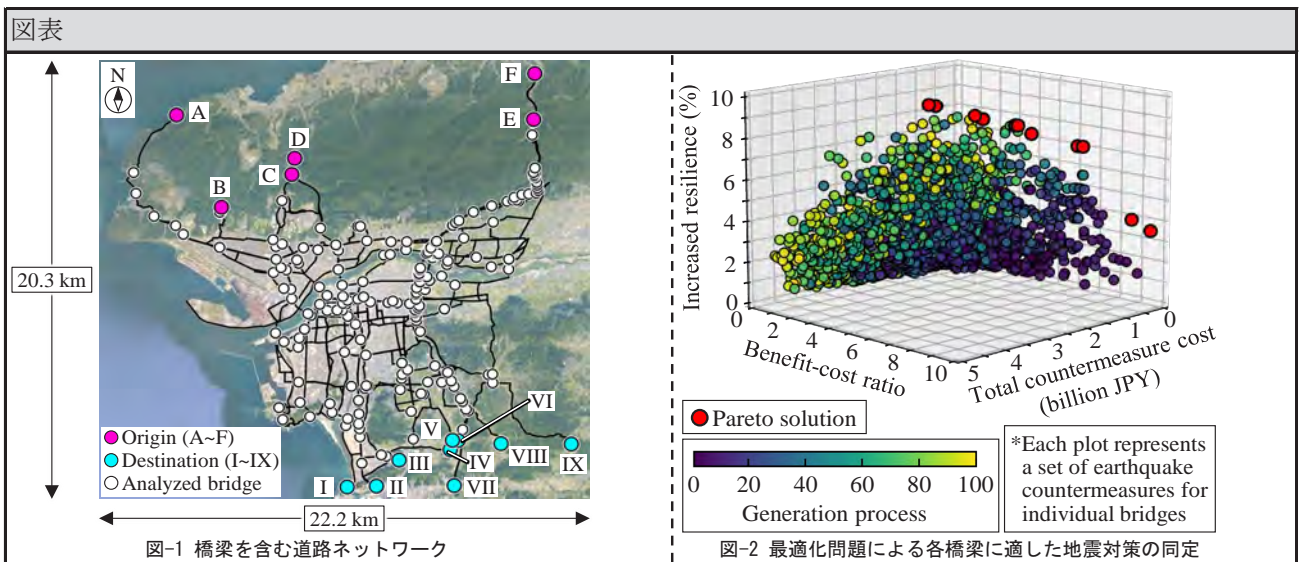
期間	令和5年6月1日 ~ 令和6年3月31日	経費	400,000 円
----	----------------------	----	-----------

**研究の概要**

将来的に地震動および津波による被災が懸念される橋梁では、各橋梁の損壊が道路ネットワークの交通機能に及ぼす影響や、橋脚の損傷や上部構造の流出など、想定される個々の損傷形態まで考慮した上で地震対策方法が決定されるべきである。本研究では、道路ネットワークの交通機能をレジリエンスとして定量化し、地震対策によるレジリエンス向上量および経済的な費用対効果の最大化を図る最適化問題を設定し、個別橋梁に対する最適な地震対策を同定するプロセスを提示した。

**研究の具体的な成果・波及効果**

和歌山市内の橋梁を含む道路ネットワーク(図-1参照)を対象に、南海トラフ地震に関する地震・津波ハザード評価、および橋脚・支承の脆弱性評価を行い、各部材の損傷確率を算出した。地震対策として、耐震補強および上部構造の流出に備えた部材備蓄の実施を想定し、レジリエンスおよび費用対効果をも目的関数とする最適化問題を解くことで、各橋梁に対して実施すべき地震対策を判定した(図-2参照)。本手法により、レジリエンス強化に資する地震防災計画の提示が可能である。



**成果として発表した論文**

H. Ishibashi, M. Akiyama, and S. Koshimura: Resilience-based countermeasure strategy for bridges under multiple hazards, Proceedings of the 12th International Conference on Bridge Maintenance, Safety and Management (IABMAS 2024), 2024. (printing), 査読有り, 国際

学術論文 合計( 1 )編

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催	
H. Ishibashi, M. Akiyama, and S. Koshimura: Resilience-based countermeasure strategy for bridges under multiple hazards, 12th International Conference on Bridge Maintenance, Safety and Management (IABMAS 2024), 24-28 June 2024, Copenhagen, Denmark. (scheduled)	
石橋寛樹, 秋山充良, 越村俊一: 南海トラフ地震による地震動および津波の影響を考慮した橋梁の最適な地震対策方法の同定, 令和6年度全国大会第79回年次学術講演会, 2024年9月2日-2024年9月6日, 仙台, 日本.(予定)	

合計( 2 )件

被災地・未災地への貢献(国内外)	
和歌山県和歌山市	和歌山市内の各橋梁を対象に, 南海トラフ地震による地震動と津波に対してレジリエンス強化を期待できる最適な地震対策を提示した.

合計( 1 )件

研究課題名	2. 近代と現代の町の豪雨災害リスクと居住空間特性の評価	研究課題	2-QR
研究代表者氏名	鈴木 温	職名	教授
所属機関等	名城大学		

研究組織 (◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)

氏名	所属機関名
◎ 鈴木 温	名城大学理社会基盤デザイン工学科(自然災害リスク軽減研究センター)
○ 森口 周二	東北大学災害科学国際研究所
溝口 敦子	名城大学理社会基盤デザイン工学科(自然災害リスク軽減研究センター) 東北大学災害科学国際研究所(クロスポイント)
小高 猛司	名城大学理社会基盤デザイン工学科(自然災害リスク軽減研究センター)
中村 一樹	名城大学理社会基盤デザイン工学科(自然災害リスク軽減研究センター)
藤井 幸泰	名城大学理社会基盤デザイン工学科(自然災害リスク軽減研究センター)
奥村 誠	東北大学災害科学国際研究所
寺田 賢二郎	東北大学災害科学国際研究所
蝦名 裕一	東北大学災害科学国際研究所
川内 淳史	東北大学災害科学国際研究所
野村 怜佳	東北大学災害科学国際研究所

期間	令和5年6月1日 ~ 令和6年3月31日	経費	400,000円
----	----------------------	----	----------

研究の概要

実在する中山間地の町を対象として、豪雨災害リスク評価に特化した現代と過去のモデルを構築する。これらのモデルを用いたシミュレーションにより豪雨災害リスクを定量化するとともに、都市計画分野の技術を用いて空間特性を分析し、過去から現代への町の変化がもたらした豪雨災害に対する耐性の変化を論じる。

研究の具体的な成果・波及効果

過去(明治時代)の地形モデルの復元作業と現代の地形モデルを対象としたシミュレーションの高精度化を行った。また、道路ネットワークを用いて地域の安全性と移住空間特性を定量する手法を開発し、丸森町を含む阿武隈川流域の道路ネットワークを対象に評価を行った。さらに、丸森町を対象として居住地や土地利用形態の変化を整理し、現地(丸森町)での街歩きと議論の結果も踏まえて災害リスクとの関係性を分析した。

図表



成果として発表した論文

N. L. J. Dolojan, S. Moriguchi, M. Hashimoto, N. X. Tinh, H. Tanaka, K. Terada, Engineering Geology 323, 107184 Hydrologic-geotechnical modelling of shallow landslide and flood hazards caused by heavy rainfall, Engineering Geology 323, 2023, 107184, 査読有, 国際, IF 7.4.

森口周二, 三次元解析の現状と課題, 地盤工学会誌, No. 71, 2023年, pp.1-3, 査読有, 国内.

道場 俊介・鈴木 温: 平時と災害時を考慮した生活利便施設へのアクセシビリティ評価に関する研究、令和5年度土木学会全国大会第78回年次学術講演会公演概要集, IV-43, 2023年, 査読無.

高山浩希・中村一樹: 災害時を考慮した地区の道路ネットワーク指標に基づく居住性の評価, 令和5年度土木学会中部支部研究発表会, 2024年, 査読無.

学術論文 合計( 4 )編

研究課題名	3. 災害レジリエンス構築に資する被災地医薬品ニーズの定量化	研究課題	2-QR
研究代表者氏名	越智 小枝	職名	教授
所属機関等	東京慈恵会医科大学臨床検査医学講座		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 越智 小枝	東京慈恵会医科大学臨床検査医学講座
○ 江川 新一	東北大学災害科学国際研究所 災害医療国際協力学分野

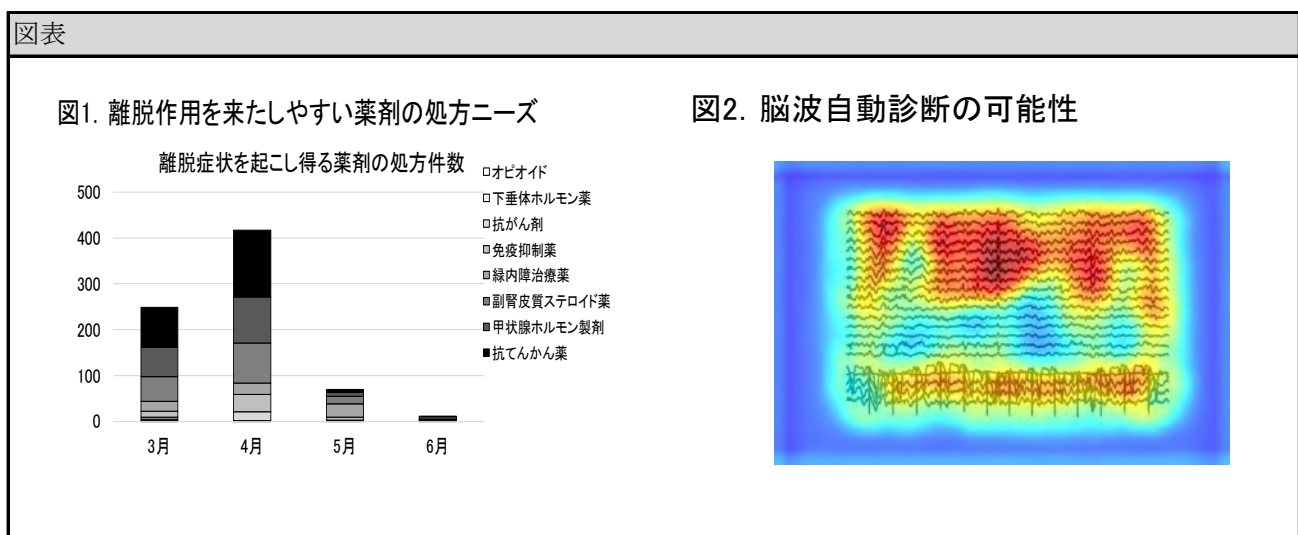
期間	令和5年6月1日 ~ 令和6年3月31日	経費	400,000円
----	----------------------	----	----------

**研究の概要**

被災地の医薬品ニーズのうち、離脱症状についての研究は少ない。そこで我々は薬の中断による急激な病態の悪化を生じ得る内服薬を抽出したところ、抗てんかん薬の処方頻度が最も高く、続いて甲状腺ホルモン剤、副腎皮質ステロイド剤であり、いずれも処方ニーズは6月以降まで続いた。地域のてんかん診療は、脳波判読医がいないことで困難を極める。このため当講座の脳波を用い、遠隔診断が可能なプログラムの作成可能性についても考察した。

**研究の具体的な成果・波及効果**

海外の災害においてはオピオイドの離脱症状の報告がわずかながら散見され、また災害直後には抗がん剤の中断が懸念される声明も出された。しかし今後高齢化と共に増加すると思われ、かつ災害弱者にもなり得る抗てんかん薬使用者や、罹患率の高い甲状腺疾患についての検討は不十分である。薬の離脱作用という視点から被災地の処方ニーズを検討し直すことは重要である。また本研究課題から派生し、コロナ禍の生活習慣変化についての調査結果も論文化した。



**成果として発表した論文**

Ochi S, So M, Hashimoto S, Hashimoto Y, Sekizawa Y. Impact of the COVID-19 pandemic on exercise habits and overweight status in Japan: a nation-wide panel survey. PLOS Glob Public Health 3(7): e0001732. 10.1371/journal.pgph.0001732

学術論文 合計(1)編

研究課題名	4. 震災時避難所空間構造物の構造被害リスクの定量的評価 スキーム	研究 課題	2-QR
研究代表者氏名	木村 祥裕	職 名	教授
所属機関等	東北大学大学院工学研究科 都市・建築学専攻		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏 名	所 属 機 関 名
◎ 木村 祥裕	東北大学大学院 工学研究科 都市・建築学専攻
○ 大野 晋	東北大学 災害科学国際研究所
古川 幸	大阪公立大学大学院 工学研究科
鈴木 敦詞	東北大学大学院 工学研究科 都市・建築学専攻

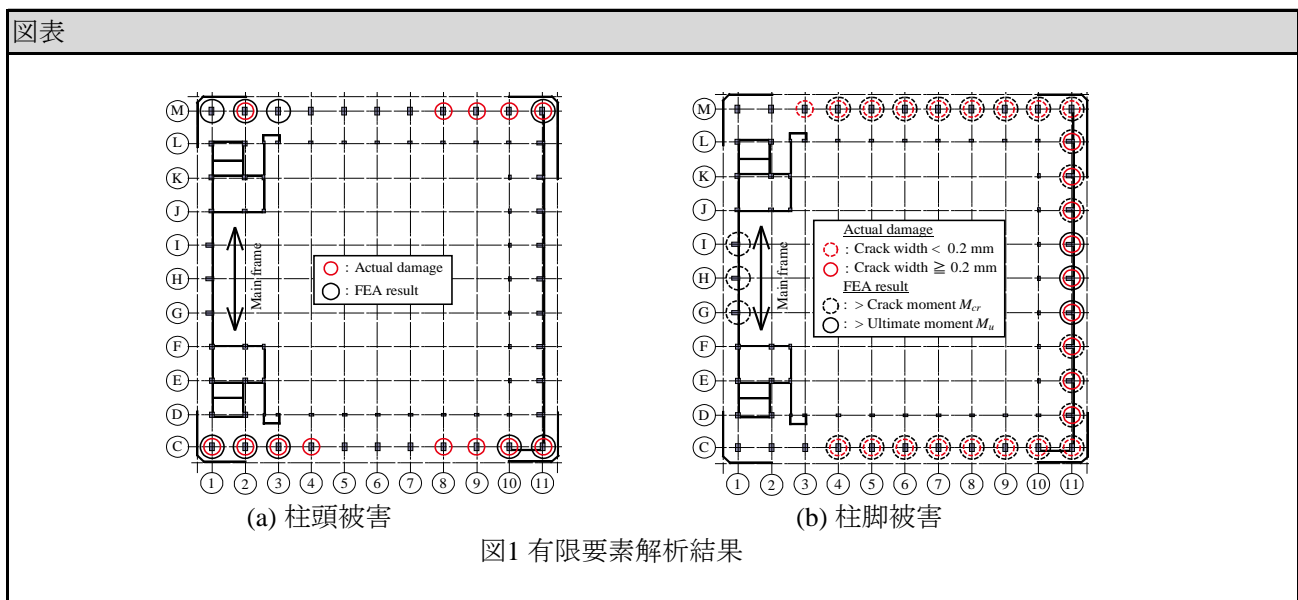
期 間	令和5年6月1日 ~ 令和6年3月31日	経 費	400,000円
-----	----------------------	-----	----------

**研究の概要**

2011年の東日本大震災において、鉄筋コンクリート(RC)柱の上に鉄骨屋根が設置された体育館で、柱頭の接合部で構造被害が生じた。本研究では、被害を受けた建物の立体数値解析モデルを構築し、損傷メカニズムを解明した。さらに、複数の入力地震動と入力倍率の関係から、発生し得る損傷メカニズムを網羅的に分析した。

**研究の具体的な成果・波及効果**

本研究成果により、中央構面と耐力壁を有する妻構面の水平剛性の関係から、特に妻構面付近で柱頭損傷が発生するメカニズムを解明できた。入力地震動と入力倍率の関係によって、建物強軸方向の入力で生じた柱頭損傷により柱頭接合部全体としてのせん断耐力が低下し、弱軸方向の入力により全数破壊する可能性を示した。二方向入力の影響を反映した耐震診断の必要性の提示につながられた。



## 2. 4つの重点研究領域の研究内容に関連し、災害レジリエンスの向上に貢献する研究

### ヒューマンレジリエンス研究領域

研究課題名	1. 災害シミュレーションを用いた行動実験パラダイムの開発を通じた災害後協力とウェルビーイングの実験的検討	研究課題	2-HR
研究代表者氏名	今田 大貴	職名	助教
所属機関等	高知工科大学経済マネジメント学群(申請時)/Department of Psychology, Royal Holloway, University of London・高知工科大学フューチャーデザイン研究所(現職)		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 今田 大貴	Department of Psychology, Royal Holloway, University of London・高知工科大学フューチャーデザイン研究所
○ 齋藤 玲	東北大学災害科学国際研究所 災害人文社会研究部門 認知科学研究分野
高野 了太	東京大学 大学院人文社会系研究科
舘石 和香葉	玉川大学脳科学研究所
水野 景子	関西学院大学社会学研究科

期間	令和5年6月1日 ~ 令和6年3月31日	経費	400,000円
----	----------------------	----	----------

研究の概要
災害状況における協力は、被災者のウェルビーイングおよびレジリエンスの向上に不可欠である。本研究は人を対象とした実験において災害をシミュレートすることで、災害後協力・被災者のウェルビーイングに関する心理学的メカニズムの解明・効果的な予防的介入法の同定を可能にする新たな学際的な実験パラダイムの開発を目指した。

研究の具体的な成果・波及効果
本研究期間中に実験パラダイムを開発し、妥当性に関してテストすることまでは叶わなかった。しかし、研究期間中の月に1回以上の研究ミーティング、災害国際研究所でのシンポジウム、Royal Holloway, University of Londonでの研究会を通して、災害シミュレーションの足掛かりとなる実験パラダイムの作成をするに至った。様々なディスカッションを通して、公共財ゲームという協力行動を測定するための実験パラダイムに、災害被害を模した実験操作(例: 災害による社会の治安維持機能の低下)を導入することで、特定の災害被害が被災者間の協力や被災者のウェルビーイングに与える影響を実験的に検討ができるだろうという指針が立った。また、実際に実験を行う準備(実験プログラムの作成)も完了することができた。今後この実験パラダイムを用いて行動実験を行い、この実験パラダイムの妥当性や有用性の検討をしていく予定である。この実験パラダイムは被災地の特色や災害被害の特色が被災者の行動・心理に与える因果効果を検討することを可能にするものであり、災害を実験的に研究するという新しい・学際的なアプローチの発展につながると考えられる。

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
2023年8月6日、「災害科学と心理学・認知科学の共創」というテーマで、災害科学国際研究所にてシンポジウムを行った。社会科学の実験手法を用いた災害シミュレーションに関する先行研究のレビュー及び今後の展望に関する口頭発表(水野・今田)、畏敬の念・集団ダイナミクスに関する心理学研究と災害科学の共創に関する口頭発表(高野)、経済ゲームを用いた災害シミュレーションの可能性に関するディスカッションが行われた。災害科学国際研究所から3名、東北大学から1名、名護他大学から1名、東京大学から1名の参加があり、ディスカッションを通して社会科学の研究手法と災害科学の共創可能性に関する意見交換が行われた。

合計( 1 )件

被災地・未災地への貢献(国内外)	
高知県	本研究は、災害シミュレーションを通して、被災地の特色や災害の特色が被災者の協力行動・ウェルビーイングに与える因果効果の検討を可能にする実験パラダイムの開発を目的としていた。このような実験パラダイムの開発は南海トラフ地震をはじめとしたまだ見ぬ災害が起きた後の被災者の行動・心理の予測を可能にする。助成期間中に実験パラダイムを開発することはできなかったが、その足掛かりとなる最初の鋳型の構想が完了した。今後も継続してこの研究を行い、鋳型を用いた行動実験を行い、妥当性の検討等を行うことで、南海トラフ地震の被害が大きいであろう高知県などの地域の人々の災害後の行動の予測の役に立つ知見が得られると考えられる。

合計( 1 )件

国際交流		
名称	相手方機関名称	Royal Holloway, University of London
研究集会の開催	研究責任者である今田は2023年9月にDepartment of Psychology, Royal Holloway, University of Londonに赴任した。そこで、同学部において研究会を開催し、災害科学国際研究所で行ったシンポジウムと同じようなテーマで講演・ディスカッションを行った。30-40名が参加した。	

合計( 1 )件



研究課題名	2. 放射線災害被災者に対する無散瞳白内障検査技術の開発とその検証	研究課題	2-HR
研究代表者氏名	盛武 敬	職名	部長
所属機関等	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 放射線医学研究所		

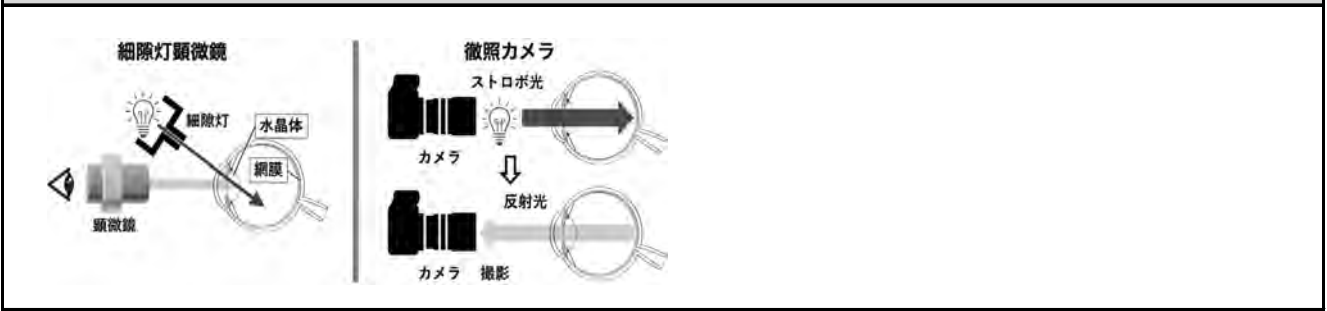
研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 盛武 敬	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構
○ 千田 浩一	災害科学国際研究所
稲葉 洋平	災害科学国際研究所
永田 竜朗	産業医科大学・医学部
喜多村 紘子	産業医科大学・産業医実務研修センター
栗山 知子	産業医科大学・産業保健学部
初坂 奈津子	金沢医科大学・医学部
古渡 意彦	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構
山下一太	徳島大学・大学院医歯薬学研究部
土方 保和	京都大学・医学研究科
中上 晃一	産業医科大学・大学病院
菊池 玲子	災害科学国際研究所
熊谷 敦史	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構

期 間	令和5年6月1日 ～ 令和6年3月31日	経 費	400,000円
-----	----------------------	-----	----------

研究の概要
放射線災害の晩期影響である放射線白内障は被災後20年以上を経て発症するとされる。本研究では放射線白内障を発症する以前の段階での微少なVacuole(空胞)を定量的に診断するため、無散瞳状態での徹照カメラを用いた白内障検査技術を確認し、多くの被災住民を短時間のうちに診断する世界初の技術開発とその検証を行う。

研究の具体的な成果・波及効果
<p>大規模放射線災害では、被災住民のみならず、救助活動を行う行政、消防、医療機関など様々な人々に、被ばく線量に応じた健康被害が及ぶ可能性がある。災害発生後の急性期であれば生死を左右する高線量被ばく者のトリアージと救命措置が大きな問題であるが、10年～20年を超えた晩期では、発がん影響、心血管系疾患や白内障など様々な非がん影響が、加齢要因を超えて出現するようになるため、発症の予測や予防的介入を含めた健康管理が望まれる。</p> <p>しかしながら、被災住民らへの行政支援として実施される健康診断には、以下の主な理由により白内障検査項目が採用できずにいる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後囊下白内障に至る以前の初期病変とされるVacuole(空胞)所見は、眼科医により常套的に実施される細隙灯顕微鏡検査ではほぼ診断不可能。</li> <li>2. 白内障検査は通常薬品点眼により散瞳して行うが、検査後車の運転ができないなど受診者の負担が大きく、被災住民らへの白内障検査の妨げ要因となる。</li> </ol> <p>そこで本研究では、Vacuoleを徹照カメラで撮影することで、白内障発症に至るまでの微細な病理進行過程を定量的に捉え、視覚障害発症以前の早期放射線白内障診断技術の確立を目的として、第38回日本脊髄外科学会(令和5年6月15日～16日)会場内に白内障健診特設会場を設けて、無散瞳による白内障検査を実施した。2日間で77人の調査を完了し、無散瞳(アトロピン点眼を行わない)であっても室内灯を消し部分的に室内テントを設置して遮光することで、水晶体辺縁部を除いた中央部分のVacuoleを十分に撮影することが可能であることが分かった。受診された脊髄外科医(脳神経外科医)らのVacuoleの有所見率は両眼とも14%であり、一般市民の(～数%)と比べて明らかに効率にVacuoleを有していることが分かった。なお、当初令和6年3月のJCO事故関係住民健診会場での一般市民向け調査も予定していたが、準備が間に合わず実施することができなかった。</p> <p>本研究によって、大規模災害で被災に遭われた住民らの健診の際、長期的な観察が必要となる白内障に関して、これまでの自覚症状を問うだけの問診と比べて、はるかに意味のある健診の実施に道を拓くことができた。</p>

図表



被災地・未災地への貢献(国内外)

大規模放射線災害発生時の関連住民健康診断

放射線災害が発生すると、住民らの健康管理では様々な軋轢を生むことが多い。本研究で開発・実証した微照カメラによる水晶体撮影技術を用いることで、被災住民らのより良き理解が得られる眼科健診の在り方に道を拓くことができた。

合計( 1 )件

研究課題名	3. 染色体異常を指標とした原子力災害時の健康影響におけるレジリエンス	研究課題	2-HR
研究代表者氏名	三浦 富智	職名	教授
所属機関等	弘前大学被ばく医療総合研究所		

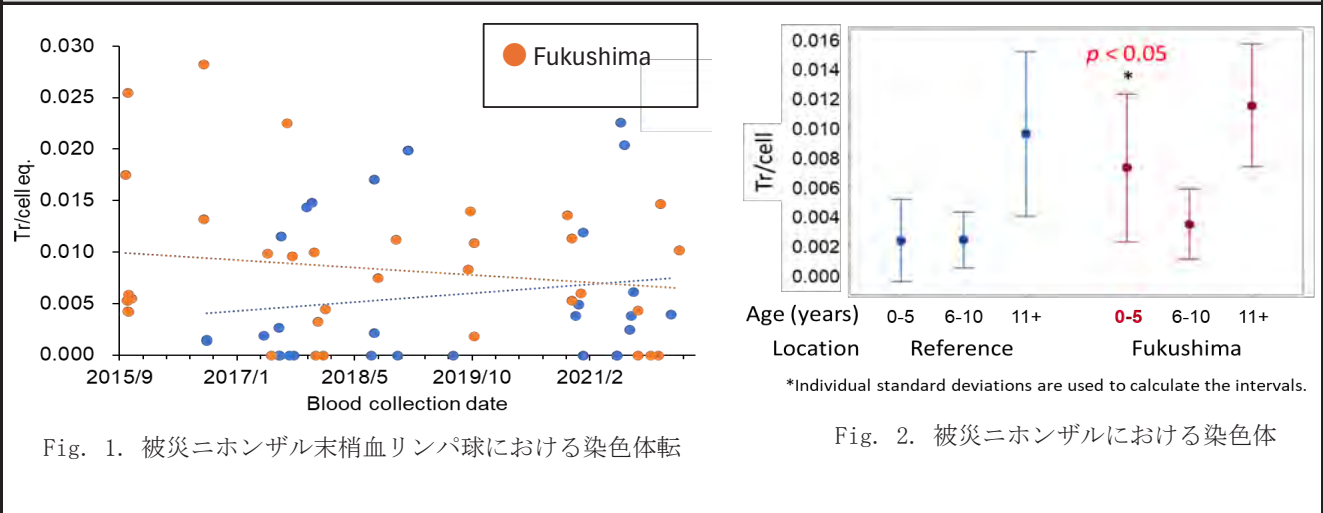
研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 三浦 富智	弘前大学・被ばく医療総合研究所
○ 鈴木 正敏	東北大学・災害科学国際研究所
千田 浩一	東北大学・災害科学国際研究所
磯部 理央	東北大学・災害科学国際研究所
佐藤 拓	東北大学・災害科学国際研究所
ANDERSON Donovan	弘前大学・被ばく医療総合研究所
中山 亮	弘前大学・大学院保健学研究科
菊池 和貴	弘前大学・被ばく医療総合研究所
藤嶋 洋平	弘前大学・被ばく医療総合研究所

期間	令和5年6月1日 ~ 令和6年3月31日	経費	400,000円
----	----------------------	----	----------

研究の概要
原子力災害被災地のレジリエンスを実現するためには、放射線の科学的根拠に基づく健康影響に関する情報共有が重要となる。本研究では、浪江町住民、東京電力福島第一原子力発電所緊急作業員、高自然放射線地域住民及び被災ニホンザルの染色体異常解析結果を被災自治体と情報共有し、レジリエンス向上への寄与を評価する。

研究の具体的な成果・波及効果
<p>東北大学災害科学国際研究所の鈴木正敏講師より、国際的に貴重な被災ニホンザルの生体試料を供与していただき、末梢血リンパ球における染色体転座解析を進めるとともに、これまでの解析結果を再分析した。被災ニホンザル末梢血リンパ球における染色体転座頻度は減少傾向が認められた (Fig. 1)。低年齢集団は、成人に比べて放射線の生物影響が大きいことが知られている。そこで、ニホンザルを5歳以下、6～10歳、11歳以上の3群に分類し、染色体転座頻度を比較した結果、5歳以下の若齢個体で有意に頻度が高かった (<math>p &lt; 0.05</math>, Fig. 2)。一方、2012～2013年に実施した浪江町初期被ばく検査(染色体転座検査)では、弘前市の対照児童と比較し、有意な差は認められなかった。さらに、海外の高自然放射線地域における住民調査では、二動原体染色体頻度、染色体転座頻度は対照地域住民と有意な差はなく、微小核頻度は対照地域住民よりも有意に低かった (Ramadhani D, Int J Radiat Biol, 2023)。</p> <p>これらの研究成果を第8回福島原発事故による周辺生物への影響に関する勉強会「染色体転座解析をレジリエンスへ如何に活用するか？」および令和5年度 弘前大学浪江町復興支援活動成果報告会・交流会「ニホンザルの染色体調査に関するおはなし」として発表し、染色体転座解析をレジリエンスに活用する方法について、専門家や被災自治体からの意見を収集した。</p> <p>放射線被ばくによる生物影響に関する理解不足が、被災初期の健康不安や帰還判断に大きく影響を及ぼした。専門家からは、2011年当時の情報発信の不足や蔓延する誤情報が混乱をもたらしたことは、科学者としても反省すべきであるとの意見があった。また、メディア関係者からは、根気よくデータの背景も含めて「影響あるなしの境界線」を腑に落ちるように説明しなくてはならない。原発事故直後のイメージが固定化してしまっているが、少なくとも子孫にまで放射線の影響があるといった誤解は解かなくてはならないとの意見があった。これらの意見は、災害のレジリエンスに対する科学者としての教訓であり、エビデンスを蓄積し、それを継続してわかりやすく伝える活動こそが、固定観念を払拭し、レジリエンスの向上に向けて歩むべき姿であろう。</p>

図表



シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

第8回 福島原発事故による周辺生物への影響に関する勉強会(東北大学災害科学国際研究所多目的ホール、仙台市)

参加人数 37名(研究者、学生、報道関係者)

令和5年度 弘前大学浪江町復興支援活動成果報告会・交流会(道の駅なみえ会議室、福島県浪江町)

参加人数 40名(研究者、学生、ステークホルダー、住民)

合計( 2 )件

被災地・未災地への貢献(国内外)

福島県双葉郡浪江町

弘前大学が実施する福島県浪江町健康相談の相談員に本研究成果を提供し、住民の健康相談時における科学的根拠に基づく説明材料を整備した。

合計( 1 )件

国際交流

名称	相手方機関名称	国立研究革新庁(BRIN, インドネシア)
研究者の受入	高自然放射線地域の放射線健康影響に関する共同研究(弘前大学にて開催、2023年8月7～17日、4名)	
名称	相手方機関名称	コーチン科学技術大学
フィールドワーク	高自然放射線地域に生息する野生ネズミの放射線健康影響に関する共同研究・調査(インド・コーチン科学技術大学他、2023年10月16～27日、日本7名、インド7名)	

合計( 2 )件

研究課題名	4. 防災意識と関連するパーソナリティの探索:地域愛着性に着目して	研究課題	2-HR
研究代表者氏名	三橋 勇太	職名	講師
所属機関等	石巻専修大学		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 三橋 勇太	石巻専修大学
○ 齋藤 玲	東北大学災害科学国際研究所
庄子 真岐	石巻専修大学

期間	令和5年6月1日 ~ 令和6年3月31日	経費	400,000円
----	----------------------	----	----------

**研究の概要**

この研究は、防災意識を複合的・心的概念であると捉え、その防災意識と関連するパーソナリティとして、地域愛着に着目し、大規模調査と分析を通して、それらの関連の解明を目指した。本研究では、齋藤ほか(2023)を受け、大規模ネット調査(n = 900)をデザイン、計画し、実施した。

**研究の具体的な成果・波及効果**

本研究では、実施した大規模ネット調査(n = 900)に先立つ発表(齋藤ほか, 2023)を実施するとともに、大規模ネット調査の分析を経て、以下の図表のような結果を得た。今後、さらなる分析を進めるとともに、成果を論文として公表する。また、本研究で実施した内容は、令和6年能登半島地震を受けて大きな課題となった集団移転に関する内容も含まれており、実社会の課題解決に資するデータを提供しえるものである。

**図表**

**Figure 1.**  
地元を有するかどうかの回答の割合

年齢層	地元を有する (%)	地元を有しない (%)
20s	69.2	30.8
30s	76.1	23.9
40s	76.4	23.6
50s	75.2	24.8
60s	80.4	19.6
over 70s	86.8	13.2

*Note.*  
地元は、生まれてから長く住んでいた地域や、転勤などで移住した地域などで、あなたが地元と認識している地域と定義し、回答者に示した。カイ二乗検定並びに残差分析 (p < .05) の結果、20代の「はい」反応と、60代と70代の「いいえ」反応が有意に少なかった。

**Table 1.**  
調査デザイン (対象者と質問項目の概要)

<b>対象者 (n = 900)</b>
<b>質問項目の概要</b>
地元の数
地元の市区町村名(一つのみ)
地元に対する思い・考え(地域愛着)
地元に対する思い・考え(地域愛着×災害)
地元に対する知識
防災・災害に対する考え方(災害時の行動意思)
防災・災害に対する考え方(災害観)
防災・災害に対する考え方(防災意識)
性格特性(BigFive)
性格特性(災害を生きる力)
被災経験
防災学習経験
出身地域・居住地域

**シンポジウム・講演会・セミナー等の開催**

齋藤玲・三橋勇太・庄子真岐・邑本俊亮(2023). 防災意識と関連するパーソナリティの探索:地域や国に対する意識を中心として. 第42回日本自然災害学会学術講演会.

合計(1)件

## 2. 4つの重点研究領域の研究内容に関連し、災害レジリエンスの向上に貢献する研究

### 災害情報キュレーション研究領域

研究課題名	1. 地域自然災害アーカイブのためのプラットフォームの構築	研究課題	2-IC
研究代表者氏名	小山 真紀	職名	准教授
所属機関等	岐阜大学		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 小山 真紀	岐阜大学
○ 柴山 明寛	東北大学
竹内 裕希子	熊本大学
田中 尚人	熊本大学
廣内 大助	信州大学
内山 琴絵	信州大学
三浦 伸也	防災科学技術研究所
鈴木 比奈子	栗駒山麓ジオパーク
荒川 宏	災害アーカイブぎふ
伊藤 三枝子	災害アーカイブぎふ
平岡 祐子	災害アーカイブぎふ
中村 貫志	岐阜大学

期間	令和5年6月1日 ~ 令和6年3月31日	経費	420,000円
----	----------------------	----	----------

**研究の概要**  
 岐阜県(岐阜大), 東北地域(東北大・栗駒山麓ジオパーク), 熊本県(熊本大), 長野県(信州大), 防災科研の防災研究者が, これまで培ってきた地域災害アーカイブの知見を結集し, 自然災害アーカイブで最も負担となっていたシステム構築, 運営, 維持管理を容易にするための連携・協働が可能なプラットフォーム構築と実装の研究を行った。

**研究の具体的な成果・波及効果**  
 それぞれのアーカイブに係る取り組みにお互いの取り組みや知見が反映されてきている。2023年3月14日に開催された熊本大学アーカイブシンポジウムでは, 各アーカイブ関係者が登壇, 各団体のパネル展示を行うなどアーカイブプラットフォームへの協働が進みつつある。災害アーカイブの持続可能性アンケートを実施し, この結果は災害アーカイブの持続のために有効な方策を示すものとなる。

**図表**

The figure consists of four images and a flyer. The top-left image shows a group of people gathered around a display board at an event. The top-right image shows a meeting or presentation in a room with a projector screen. The bottom-left image shows a group of people outdoors, possibly at a field site or a walk. The bottom-right image shows another meeting or presentation. The flyer on the right is for a symposium titled 'TERADA x KIKOKU デジタルアーカイブ展 & 座談会' (Digital Archive Exhibition & Symposium) held on March 23, 2024, at the OPAQUE CLUB. The flyer details the event's purpose, location, and contact information.

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催	
名称:災害アーカイブワークショップ, 開催期間:令和5年9月3日, 区分:ワークショップ 国内開催, 対象者:下呂市金山第2地区区民, 概要:下呂市金山第2地区において, 台風19号を対象としたワークショップを開催。参加人数:120名	
名称:ぼうさいこくたい2023, 開催期間:令和5年9月17日～令和5年9月18日, 区分:展示会 国内開催, 対象者:一般, 概要:ぼうさいこくたいに災害アーカイブぎふとして出展し, イグナイトステージでの活動紹介を行った。参加人数:1万6千人(ぼうさいこくたい全体の来場者数)	
名称:イオンモール木曽川 防災展, 開催期間:令和5年10月14日～令和5年10月15日, 区分:展示会 国内開催, 対象者:一般, 概要:イオンモール木曽川の防災展に災害アーカイブぎふとして出展し, パネル展示を行った。参加人数:100名程度	
名称:三陸&東海防災フォーラム伝 IN岐阜, 開催期間:令和6年2月11日, 区分:展示会 国内開催, 対象者:一般, 概要:三陸&東海防災フォーラム伝 IN岐阜に災害アーカイブぎふとして出展し, パネル展示を行った。参加人数:50名程度	
名称:熊本大学デジタルアーカイブシンポジウム「教育の現場における防災・減災とアーカイブ」, 開催期間:令和5年10月30日, 区分:シンポジウム・展示会 国内開催, 対象者:一般, 概要:熊本の未来をつくる人材育成、教育の現場における防災・減災とアーカイブについて話し合うシンポジウムを開催した。参加人数:30名程度	
名称:熊本大学デジタルアーカイブシンポジウム「民・学・官が連携した災害継承の取り組み～平成28年熊本地震と2014年神城断層地震の現場から～」, 開催期間:令和5年12月15日, 区分:シンポジウム・展示会 国内開催, 対象者:一般, 概要:信州大学が取り組む2014年神城断層地震と熊本大学が取り組む2016年熊本地震の記憶の継承を「ガイド/語り部」に焦点を当てて学び合うシンポジウムを開催した。参加人数:30名程度	
名称:熊本大学TERADA×熊本地震震災ミュージアムKIOKU デジタルアーカイブ展&座談会デジタルアーカイブ展「令和6年能登半島地震への支援を経験して～平成28年熊本地震の記録と教訓は支援に活かされたか～」, 開催期間:令和6年3月23日, 区分:シンポジウム・展示会 国内開催, 対象者:一般, 概要:平成28年熊本地震や令和2年7月豪雨の記録と教訓は令和6年能登半島地震の支援に活かされたのかをテーマに座談会とパネル展を開催した。参加人数:40名程度	
名称:災害アーカイブ展—令和元年東日本台風から4年—, 開催期間:令和5年10月6日～20日, 区分:シンポジウム・展示会 国内開催, 対象者:一般, 概要:アーカイブで収集してきた長野県千曲川流域における令和元年東日本台風による被害・復旧・復興状況, アーカイブを活用した防災学習成果などについて紹介するパネル展を開催した。あわせて岐阜県(岐阜大), 東北地域(東北大・栗駒山麓ジオパーク), 熊本県(熊本大), 防災科研のパネルも展示した。参加人数:100名程度	
名称:千曲川流域地区交流会, 開催期間:令和5年10月14日, 区分:シンポジウム・展示会 国内開催, 対象者:一般, 概要:長野県千曲川流域における令和元年東日本台風により被災した流域地区の被害・復旧・復興状況について紹介し, 意見交換を行った。参加人数:50名程度	
名称:災害アーカイブ展—神城断層地震から9年—, 開催期間:令和5年11月20日～30日, 区分:シンポジウム・展示会 国内開催, 対象者:一般, 概要:アーカイブで収集してきた長野県白馬村・小谷村における神城断層地震による被害・復興状況, アーカイブを活用した防災学習や復興ツーリズムなどについて紹介するパネル展を開催した。参加人数:100名程度	

合計( 10 )件

被災地・未災地への貢献(国内外)	
岐阜県関市自治会連合会武儀支部	災害を振り返るワークショップおよび共同研究を通じて地区防災計画の策定に貢献することができた。
令和6年能登半島地震	令和6年元日に発生した能登半島地震の記録を後世に残すべく, 令和6年能登半島地震デジタルアーカイブの構築を開始した。
平成28年熊本地震	熊本地震の記憶を継承する語り部活動について, 長野県神城断層地震のガイドが視察し相互に交流することで, 語り部の意識や技術を向上させることができた。

合計( 3 )件

研究課題名	2. 震災アーカイブ学習のRX(リサーチトランスフォーメーション) —検索システムの追加機能の開発、学習効果の検証とメカニズムの解明—	研究課題	2-IC
研究代表者氏名	齋藤 玲	職名	助教
所属機関等	東北大学災害科学国際研究所		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 齋藤 玲	東北大学災害科学国際研究所
大内 啓樹	奈良先端科学技術大学院大学
羽鳥 康裕	労働安全衛生総合研究所
柳津 英敬	東北大学大学院経済学研究科／仙台市役所
邑本 俊亮	東北大学災害科学国際研究所／大学院情報科学研究科
塩入 諭	東北大学総合知インフォマティクス研究センター
杉浦 元亮	東北大学加齢医学研究所／災害科学国際研究所
柴山 明寛	東北大学災害科学国際研究所
今村 文彦	東北大学災害科学国際研究所

期 間	令和5年6月1日 ～ 令和6年3月31日	経 費	400,000円
-----	----------------------	-----	----------

研究の概要
本研究では、震災アーカイブ学習のRX(リサーチトランスフォーメーション)に資する研究群を推し進めることを通して、よりよい社会づくりに貢献する。①大規模言語モデルを用いた研究(マルチモーダル生成／検索システム)、②認知科学・心理学実験研究(awe[畏敬の念]並びにawe効果)、そして③関連する諸研究に取り組んだ。

研究の具体的な成果・波及効果
上記の三つの研究群のうち①は以下の成果(以下の図表)、②に関しては実験デザインと実施準備(新たに高野了太講師[名古屋大学]との研究交流も昨年度中に構築)、③の一つの取り組みとしては教職志望の学生を対象とする授業実践(仙台市が構築中の震災アーカイブシステム「SORA」の紹介と利活用に関する思考促進)を実施した。また、全研究と関連して、仙台市より震災アーカイブに関するメディア群(概要は以下の図表)を頂戴した。加えて、当該プロジェクト並びに災害情報キュレーション研究領域の発展に資するものとして、令和6年能登半島地震を受けての研究代表者が立ち上げたwebサイト「令和6年能登半島地震・学校教育関連情報まとめサイト」を立ち上げた。今後、上述の①②③の成果をさらに高度化していくことに併せて、当該webサイトも一つの貴重な成果としてまとめていく予定である。

図表					
<p>図1. 自然言語のみで生成された地図(左)と画像(右)</p> 	<p>Note. 生成にはGPT-4を用いた。地図(図右)は、令和6年能登半島地震に関する報道記事を用いたものであり、記事からweb公開可能な地図(OpenStreetMapへのプロットとリンク)を生成させたものである。画像(図左)は「東日本大震災での被災の経験・証言と同時に示すと効果的な画像をください」という初発のプロンプトとともに、対話を重ねて生成されたものである。(齋藤ほか、未発表)。言語処理学会2024(NLP2024)等において発表予定だったが、令和6年能登半島地震の対応等を受けて、発表を断念した。</p>				
<p>表1. 仙台市から提供を受けたメディア群</p>	<table border="1"> <tr> <td>容量</td> <td>約2.0TB</td> </tr> <tr> <td>ファイル数</td> <td>約50,000点</td> </tr> </table>	容量	約2.0TB	ファイル数	約50,000点
容量	約2.0TB				
ファイル数	約50,000点				



研究課題名	3. 災害・防災情報検索リテラシーのためのワークショップの開発と効果検証	研究課題	2-IC
研究代表者氏名	後藤 心平	職名	准教授
所属機関等	広島経済大学		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 後藤 心平	広島経済大学
○ 齋藤 玲	東北大学災害科学国際研究所
登本 洋子	東京学芸大学
加藤 みずき	多摩大学

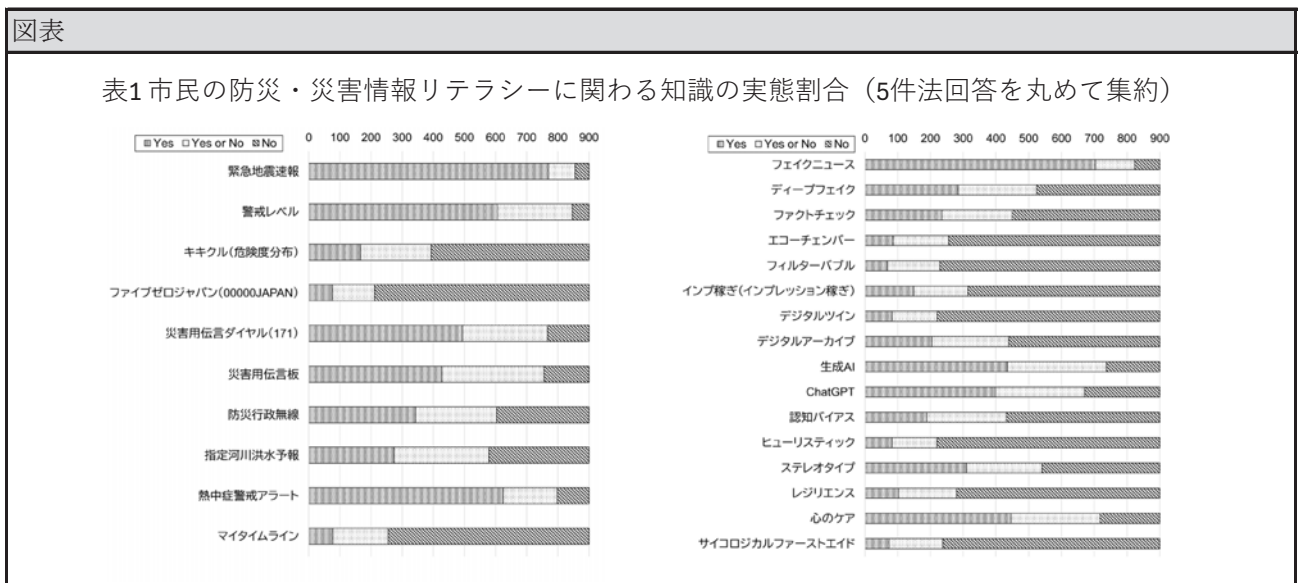
期間	令和5年6月1日 ~ 令和6年3月31日	経費	400,000円
----	----------------------	----	----------

**研究の概要**

本研究では、災害・防災情報検索リテラシーのためのワークショップの開発と効果検証に資するために、その基礎的データとして、災害・防災情報リテラシーの大学生並びに市民が持つ実態を調査した。調査を通して、その実態の具体を明らかにした(報告書・図表を参照)。本研究では、基礎的データの取得に留まったが、今後は得たデータをもとにした具体的なワークショップの計画並びに効果検証を目指す。

**研究の具体的な成果・波及効果**

本研究は、令和6年能登半島地震で社会的な大問題となった偽情報・誤情報に対する基礎的・実践的知見をもたらせるものである。本研究では、学会発表1件を成果として報告するとともに、今後の学会等での発表、並びに国際ジャーナルの投稿に値する基礎的データ( $n = 900$ )を得た(報告書・図表参照)。今後は、さらなる分析(多変量解析)を進めるとともに、明らかになる市民の防災・災害情報並びにその検索リテラシーの実態を踏まえたワークショップの開発と効果検証を実現する。



**シンポジウム・講演会・セミナー等の開催**

加藤みずき, 登本洋子, 後藤心平, 永田彰平, 齋藤玲 (2024). 防災・災害情報リテラシーの実態に関する大学生対象の予察的研究: 知識, 情報関心, 被災経験, 学習経験を中心に. 日本教育工学会2024年春季大会.

合計(1)件

研究課題名	4. 震災アーカイブとしての災害・防災絵本の分析と翻訳を通じた経 験と教訓の国際発信	研究 課題	2-IC
研究代表者氏名	Liz Maly	職名	准教授
所属機関等	東北大学災害科学国際研究所		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ Liz Maly	IRIDeS
Ryo Saito	IRIDeS
Julia Gerster	IRIDeS
Daniel Abramson	University of Washington
Mayumi Willgerd	University of Washington
Catherine Sachi Ki	Kokoro Communication

期 間	令和5年6月1日 ~ 令和6年3月31日	経 費	400,000円
-----	----------------------	-----	----------

研究の概要
震災や防災に関する絵本は、震災のアーカイブとして国境を越え、次世代に出来事を伝え、防災意識を高める一助となる。しかし、習慣や文化などの違いもあり、それを克服する必要がある。この研究の長期的な目標は以下の通りである: 1)日本のさまざまな災害と防災に関する絵本のイメージと語りの詳細な分析、2)災害と防災に関する絵本の日本語と他言語の国際比較分析、3)日本の主要作品の海外向け翻訳、4)留意点と工夫点の国際発信を行い、冊子にまとめる。
研究の具体的な成果・波及効果
震災絵本のイメージと語りの詳細かつ国際的な比較分析という長期的な目標に向けて、本年度はまず、東日本大震災を扱った絵本の包括的なリスト( $n = 120$ )を作成した。可能な限り、これらの絵本の現物を入手し( $n = 100$ )、デジタル化し、詳細な内容分析に備えた。震災絵本のオンライン検索可能なデータベースのプロトタイプを作成した。3.11冊の絵本に関する最初の知見は、国際会議や国内イベントを通じて共有された。

図表

成果として発表した論文	
Maly, E. (2024). 国際的視点から見た日本のカルチャー、語り継ぎについて造詣が深い立場から. Invited Presentation at 防災100年えほん出版記念フォーラム2024, 人と防災未来センター、3/17/2024.	
Maly, E. Saito, R. and Gerster, J. (2023) Disaster Picture Books in Japan and the U.S.:An Inventory and International Comparison, Conference Presentation at 15th AIWEST-DR Conference 2023, Yogyakarta, Indonesia, 10/13/2023	

学術論文 合計(2)編

被災地・未災地への貢献(国内外)	
神戸市人と防災未来センター 防災100年えほん出版記念フォーラム2024□	研究者の招聘:防災100年えほん出版記念フォーラム2024

合計( 1 )件

国際交流		
名称	相手方機関名称	AIWEST-DR 2023, Gadjah Mada University
学術交流・打合せ	Participation in Aiwest 2023, in Yogyakarta, Indonesia, research presenation "Disaster Picture Books in Japan and the U.S.:An Inventory and International Comparison" and discussion. 10/13/2023, 30 participants	
名称	相手方機関名称	Daniel Abramson, University of Washington
学術交流・打合せ	Online Research Meeting, Feb 3, 2023, 2 participants	
名称	相手方機関名称	Catherine Sachi Kikuchi, Kokoro Communications
研究者の受入	Meeting and discussion at IRIDeS, Feb 12, 2023, 2 participants	

合計( 3 )件

研究課題名	5. 災害時における文化遺産救済を目的とした文化遺産マップの構築および活用の研究	研究課題	2-IC
研究代表者氏名	吉森 和城	職名	契約研究員
所属機関等	国立研究開発法人防災科学技術研究所		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 吉森 和城	国立研究開発法人防災科学技術研究所 防災情報研究部門
○ 蝦名 裕一	東北大学 災害科学国際研究所 人間・社会対応研究部門
鈴木 比奈子	国立研究開発法人防災科学技術研究所 マルチハザードリスク評価研究部門 兼 栗駒山麓ジオパーク推進協議会
水井 良暢	リアルタイム地震・防災情報利用協議会
三浦 伸也	国立研究開発法人防災科学技術研究所 防災情報研究部門
半田 信之	国立研究開発法人防災科学技術研究所 防災情報研究部門
原 直史	新潟大学人文学部
松下 正和	神戸大学大学院 人文学研究科
佐藤 宏之	鹿児島大学学術研究院 法文教育学域教育学系

期間	令和5年6月1日 ～ 令和6年3月31日	経費	400,000円
----	----------------------	----	----------

研究の概要
自然災害によって、文化財や民間所有の歴史資料といった文化遺産が被災するリスクに対し、東北大学が整備する文化遺産データベースと防災科学技術研究所が提供するリアルタイムの災害情報や自治体が提供するハザードマップなどの防災情報をWeb-GISで統合した「文化遺産マップ」を構築し、文化遺産に対するハザードへの曝露状況を可視化し、災害時における文化遺産の劣化・破壊を事前に予防する手法を考案する。

研究の具体的な成果・波及効果
岩手県立博物館が主催した文化遺産防災マップを活用した水害を想定した図上訓練(2023年11月24日開催)に参加し、実務者の視点で文化遺産に対するハザードへの曝露状況の可視化に必要な要件を抽出した。具体的には、訓練では形態別の文化遺産データから、参加者は被災文化遺産情報の収集をしており、形態別にその地区にどのくらいの文化遺産があるのかがわかるような地図になっていると良いとの意見を抽出した。本研究の構成員は、2022年度の研究で250mメッシュ内に文化財がどれだけ含まれているのかという「文化財密度データ」を宮城県、岩手県で構築した。前述の訓練参加者からの意見から、密度データの有用性が高いことが確認された。また、2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震の際には、石川県・富山県・新潟県の文化財の位置情報と各種災害情報の重ね合わせにより、文化遺産の被災状況推定を実施するとともに、震度階級のメッシュごとに含まれる文化遺産の集計を行ったが、メッシュデータにすることで、災害時の素早い集計に効果が高いと考えている。さらに、図上訓練の参加を通じて、文化遺産マップ作成のワークフロー案や、事前に準備しておくべき事前の個別レスキュー情報案を検討した。また図上訓練時に立体物に関する話題が上がり、レスキュー時に手持ちカメラやドローン等で文化遺産の3次元データの作成についても今後の研究要素として検討をすることとした。

図表
 <p>2023年11月24日岩手県立博物館で開催された文化遺産防災訓練（図上訓練） 岩手県内の市町村を支部ごとに分け、災害発生後の被災文化財をWeb-GISで集計するほか、応援に際しどのような資料があるのか、人材派遣が必要なのか、など参加者から議論がなされた。</p>

成果として発表した論文	
鈴木比奈子・蝦名裕一・吉森和城・半田信之・三浦伸也・目時和哉・原直史(2024)文化遺産防災マップの構築と災害対応への活用, 日本地理学会2024年春季学術大会発表要旨集, P044, 査読無し,国内	
鈴木比奈子・蝦名裕一(2024)文化遺産防災マップを用いた能登半島地震への対応事例, 日本地理学会2024年春季学術大会 緊急シンポジウム「令和6年能登半島地震」, S1P01,査読無し, 国内	

学術論文 合計( 2 )編

被災地・未災地への貢献(国内外)	
岩手県立博物館	岩手県では、文化庁「Innovate MUSEUM事業」を活用し、文化遺産防災マップを活用した「岩手県版文化遺産防災マップ」を構築した。これを利用し、岩手県教育委員会、県内市町村の文化財担当職員約35名が水害を想定した図上訓練を実施した。当研究チームも防災訓練に参加し、自治体担当者が実践でどのようにマップを利用するのか、災害対応に利用するために、どのような機能を必要としているのか、意見交換を行った。

合計( 1 )件

## 2. 4つの重点研究領域の研究内容に関連し、災害レジリエンスの向上に貢献する研究

### 災害レジリエンス共創領域

研究課題名	1. 原発事故でサクラ樹皮に付着したセシウム汚染の回復	研究課題	2-CO
研究代表者氏名	杉浦 広幸	職名	教授
所属機関等	福島学院大学短期大学部		

研究組織 (◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 杉浦広幸	福島学院大学短期大学部
○ 千田浩一	東北大学医学部保健学科/災害科学国際研究所
渡部浩司	東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター

期間	令和5年6月1日 ~ 令和6年3月31日	経費	400,000円
----	----------------------	----	----------

**研究の概要**

2020年に福島第一原子力発電所の事故により、樹皮の更新がないサクラの粗皮が、高濃度の放射性セシウムに汚染されていることを明らかにした。また、2~3年で汚染の半分が流れることや、樹皮に見られるガンマ線放出スポットには、結晶状の粒子(右写真↑)が観察されたこともわかった。そこで、本研究ではサクラに付着した放射性セシウムの形態別の割合状況を明らかにし、2015年と2023年で比較した。第1回調査でサンプルNo.1と10が不足し、データ省略。

**研究の具体的な成果・波及効果**

得られた高濃度放射性セシウム微粒子や粗皮に浸み込んでいる放射性セシウムがどのような性質のセシウムであるか知るため、特に<sup>137</sup>Csについて調査した。それらの放射性セシウムの形態別調査は、IP法による確認では困難であったため、サクラ粗皮付着の<sup>137</sup>Csの形態別調査を行った。サンプル中の<sup>137</sup>Cs濃度が10万 Bq/kgを超える高濃度の場合、有機物態の占める割合が12.3~31.3%で、多くなる傾向が見られた(第1表)。粗皮に付着した<sup>137</sup>Csは、雨で枝の下に流され、さらに樹事態から年々流亡していた(図1, 図2)。しかし、交換態<sup>137</sup>Csはいずれの濃度・採取年度においても3.0~7.0%で、粗皮付着<sup>137</sup>Cs全体から見るとわずかであり、雨で流れにくいことが示唆され、それらの結果は2023年11月の日本放射線管理学会第22回学術大会で報告した(第1表)。2015年採取のサクラ粗皮における<sup>137</sup>Csと2023年採取粗皮の<sup>137</sup>Csの形態別割合に違いが見られなかった(第1表)。以上のことから、時間経過に伴い交換態の<sup>137</sup>Csのみが流亡して他の形態の<sup>137</sup>Csが残るわけではない、ということが示唆された。原発事故でサクラ粗皮に付着した<sup>137</sup>Csは、交換態の割合がわずかであるため、一気に流防したり体内へ一気に吸収されたりする心配はないが、現在10,000 Bq/kg程度のサクラ粗皮が100 Bq/kg程度の濃度に下がるまで、30年くらいはかかるかと推測された。

### 図表

第1表 サクラ粗皮に付着したセシウムにおける形態別<sup>137</sup>Csの割合

サンプル	<sup>137</sup> Cs濃度* (Bq/kg)	採取 (年)	交換態 <sup>137</sup> Csの割合		有機物態 <sup>137</sup> Csの割合		残留物の <sup>137</sup> Csの割合		合計 <sup>137</sup> Cs/元の <sup>137</sup> Cs	
			2回目 %	3回目 %	2回目 %	3回目 %	2回目 %	3回目 %	2回目 %	3回目 %
No.0	128,000±400	2015	4.3	7.0	31.3	12.3	68.0	82.9	103.6	102.2
No.2	146,000±1000	2015	6.4	3.5	18.6	31.1	73.2	75.9	98.2	110.5
No.3	78,000±300	2015	4.3	3.7	7.0	9.9	82.7	78.6	94.0	92.2
No.4	53,500±300	2015	3.4	2.8	7.0	7.8	84.2	81.3	94.6	91.9
No.5	52,600±300	2015	5.1	3.2	1.1	4.5	91.8	86.6	98.0	94.3
No.6	34,100±200	2023	6.1	5.7	4.3	7.5	78.2	66.3	88.6	79.5
No.7	31,700±200	2023	6.3	5.8	3.3	4.7	80.5	75.6	90.1	86.1
No.8	35,800±300	2023	3.0	3.0	4.8	5.5	80.3	77.1	88.1	85.6
No.9	12,100±100	2023	4.9	3.4	1.7	2.3	76.6	78.8	83.2	84.5
No.11	17,000±100	2023	6.2	4.2	2.8	3.0	70.5	77.5	79.5	84.7

\*誤差(標準合成不確かさ, 1σ)は1%未満

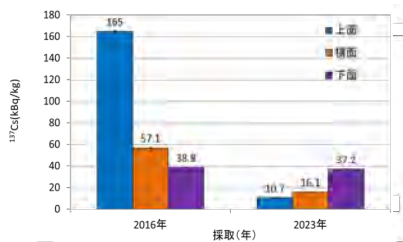


図1 ヒツジ森林道(伊達市御幸山中腹)で採取した樹形の採取場所別サクラ粗皮における<sup>137</sup>Csの2016年から2023年の濃度変化標記の幅(誤差)は合成標準不確かさ(1σ)



図2 高濃度放射性セシウム汚染地(御幸山)と中濃度放射性セシウム汚染地(斜面)で採取したサクラ粗皮における<sup>137</sup>Cs濃度の経過標記の幅(誤差)は合成標準不確かさ(1σ)

成果として発表した論文
杉浦広幸・渡部浩司・千田浩一. 福島第一原子力発電所の事故から12年後の福島県北地方におけるサクラ樹皮汚染. 日本放射線安全管理学会第22回学術大会発表要旨P18(査読無し)

学術論文 合計( 1 )編

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
令和6年度御幸山山開き会場にて講演(2024年4月28日)

合計( 1 )件

被災地・未災地への貢献(国内外)	
伊達市月舘町 御代田生産森林組合	伊達市月舘町御代田生産森林組合と、御幸山を利用した地域おこしを実施する中で、データーを逐次紹介し、今後の方針決定に貢献することができた。

合計( 1 )件

国際交流		
原発事故経験住民との情報交換	相手方機関名称	社)CheFuKo世界の子どもたちのために
その他	チェルノービリ(チェルノブイリ)原発事故経験住民(オブルチ地区)との情報交換(2023年5月、紛争状態のためメール交換のみ)	

合計( 1 )件

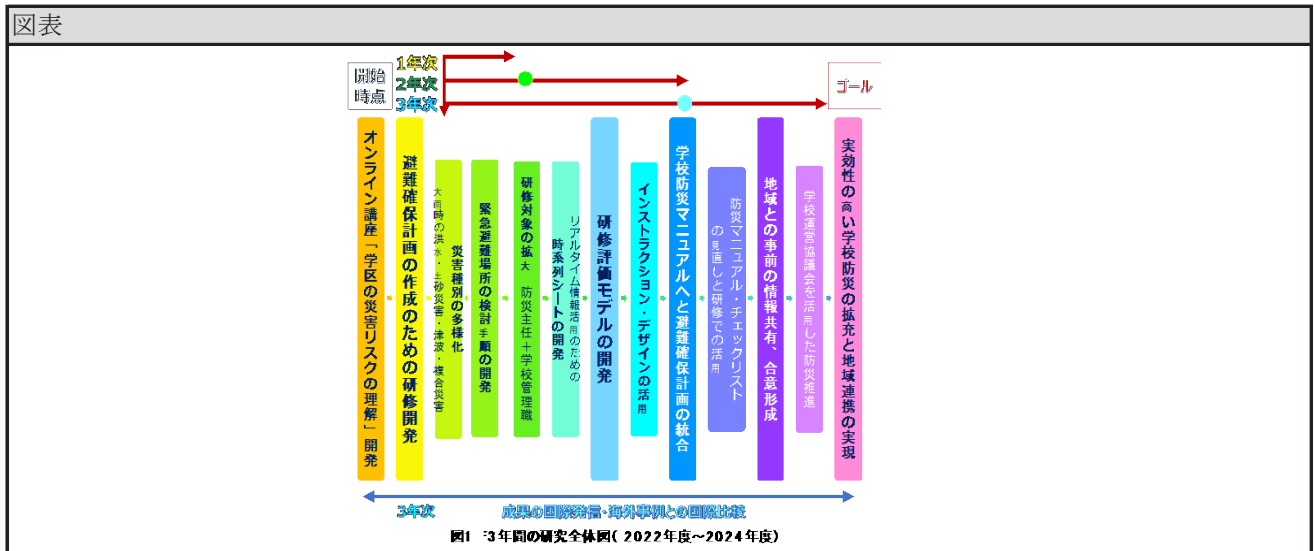
研究課題名	2. Web GISを活用した学校教員向けリスクコミュニケーション手法の高度化～学区の災害リスクの理解に基づく実践的な避難計画の社会実装に向けて～	研究課題	2-CO
研究代表者氏名	桜井 愛子	職名	教授
所属機関等	東洋英和女学院大学→2024年4月より神戸大学に異動		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 桜井 愛子	東洋英和女学院大学 国際社会学部
○ 佐藤 健	災害科学国際研究所
柴山 明寛	災害科学国際研究所
村山 良之	山形大学大学院教育実践研究科
小田 隆史	東京大学大学院 総合文化研究科
熊谷 誠	山形大学大学院教育実践研究科

期間	令和5年6月1日 ～ 令和6年3月31日	経費	400,000
----	----------------------	----	---------

**研究の概要**  
 本研究は地理院地図、重ねるハザードマップ等のWeb GISを活用した学校教員向け研修パッケージを開発し、学校が学区の災害リスクを踏まえ災害時に適切なタイミングでの安全な避難が行われるための「避難確保計画」を策定し、これらが学校防災マニュアルに統合され、避難訓練や防災教育との連携が図られることを通じて学校教員向けリスクコミュニケーションモデルの高度化が図られることを目指した。

**研究の具体的な成果・波及効果**  
 本年度の研究を通じて、WebGISを活用した防災・気象情報を活用した教員研修プログラムが高度化された(図)。  
 ①開発されたモデルの実践対象者に、これまでの宮城県防災初任者研修、石巻市学校防災主任研修に加え、危機発生時の意思決定者となる学校管理職が加えられ、年3回の研修機会が得られた。  
 ②リアルタイムの防災・気象情報の研修での活用のため、状況付与型演習で使用する時系列ワークシートが開発され実践された。  
 ③インストラクション・デザイン手法を用いて研修評価モデルが開発され、年4回の受講者への事後アンケートが実施された。各研修での議論の過程で用いられたワークシートとアンケート結果の分析から、研修内容は受講者の関心や意欲を高め、知識向上に寄与したこと、事例を用いた状況付与型研修への高い評価が得られた一方、研修内容の自校での活用については、校内共有や教育への活用は8割、学校防災マニュアルや訓練への活用は6割台、保護者地域との共有は5割以下であることが示され、研修内容の自校での活用について課題が残された。  
 ④開発されたモデルの全国への発信が積極的に行われた。研究メンバーが他県の教育委員会による防災研修の講師として招聘された。文科省の学校防災推進のための実践事例集にて取り上げられた。文科省の助成を受けたオンライン研修のコンテンツとして研究成果が活用された。防災教育協働センターHPにオンライン講座へのパスワード申請が継続してみられている。これらを通じて、全国への研究成果の発信が行われていることが確認できる。  
 ④台湾教育部・国立成功大学との研究実践交流が進められた。成果が実践的防災学の拡充、自然科学と人文・社会科学の「総合知」の形成に寄与されることが期待できる。  
 研究を通じて全国の学校防災の拡充が図られることにより、災害レジリエンス力の向上に寄与できる。





成果として発表した論文	
桜井 愛子・佐藤 健・村山 良之・熊谷 誠・北浦 早苗・小田 隆史(2023)実効性のある学校版避難確保計画作成支援のための教員研修プログラムの開発 — 大雨時の緊急避難場所の検討 —安全教育学研究23(1) 19-30[査読あり]	
小田隆史(2024)「地域特性」を踏まえた学校防災の推進に災害地理学が果たす役割, 日本地理学会2024年春季学術大会, S305, 東京, 日本地理学会発表要旨集 no.S305 p.14.	
桜井愛子・村山良之・佐藤健・熊谷誠・北浦早苗・小田隆史(2023) Web GISを利用した学校職員向けリスクコミュニケーション手法の高度化～学区の災害リスクの理解に基づく実践的な避難計画の社会実装に向けて～, 日本安全教育学会第24回奈良大会プログラム・予稿集, pp.48-49, 2023.9	
小田隆史, 佐藤健(2023)学校防災を担う人材育成—宮城県石巻市での取組を中心に, 防災学術連携体, 第5回防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会主催「防災・減災を担う人材をどう育成するか」	
小田隆史, Web-GISを活用した授業づくり——地理教育と河川防災学習, 第3回日本河川教育学会三重大会<河川教育屋台村> 演説発表, 津, (2023)	
村山良之, 桜井愛子, 佐藤 健, 北浦早苗, 小田隆史, 熊谷 誠(2023)地形を踏まえたハザードマップ3段階読図法—教員研修の実践に基づく展開—, 日本地理学会2024年春季学術大会, 日本地理学会発表要旨集 no.109 p.191	
桜井愛子(2024)「教育法規・危機管理『こんな時、どうしますか?』」「自然災害への対応」～副校長・教頭として～『Educasphere』全国公立学校教頭会12,18-19, 招待論文	
佐藤 健:「地理院地図を使ってハザードマップを読む」自分で地域で 手づくり防災術:土砂崩れ、洪水、地震に備える, 農文協, 2023.11(分担執筆)	
小田隆史, 諏訪清二, 児玉美樹, エミン・オズダマル:トルコ共和国における防災教育制度の構築と普及—JICA本邦研修を契機とした交流の深化, 防災教育学研究, 4(1), pp63-76, (2023) [査読あり]	

学術論文 合計( 9 )編

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催)	
2023年8月8日,シンポジウム,国内,教員,令和年度石巻市学校防災フォーラムでの基調講演「XX」(熊谷),パネルディスカッション「地域ぐるみの学校防災体制を充実させるために」パネリスト(村山),ファシリテータ(桜井),全国学校教員・大学研究者・地域防災関係者等約70名.	
2024年3月20日,シンポジウム,台湾教育部一行対象,学校と地域の防災面での連携, IT技術を活用した防災教育の実践に関する講義並びに意見交換を行った。台湾教育部、国立成功大学、台湾全国学校防災関係者 35名(佐藤健・桜井愛子・柴山明寛)	

合計( 2 )件

被災地・未災地への貢献(国内外)	
文部科学省	実践的な防災教育の手引き(小学校編,中学校・高等学校編), 令和6年3月(佐藤・桜井・北浦) <a href="https://anzenkyouiku.mext.go.jp/mextshiryouto/data/jissenbousaisyougakukou.pdf">https://anzenkyouiku.mext.go.jp/mextshiryouto/data/jissenbousaisyougakukou.pdf</a>
文部科学省	公益財団法人才能開発教育研究財団(受託)「新たな教師の学び」に対応したオンライン研修動画「安全教育の実践的理解と指導アイデア—避難訓練を中心に—」, 令和6年4月(村山・佐藤・桜井)
山形県教育委員会	2023年6月「子どものいのちを守る」学校安全指導者研修会山形県教育センター 学校マネジメント講座 (学校防災)(熊谷)
川崎市教育委員会	2023年7月 学校安全全市研修会において、管理職を対象に開発された研修モデルを用いた研修を企画・実施した(桜井)□
NITS教職員研修支援機構	2023年7月 学校安全指導者研修にて開発された研修モデルを用いた研修を企画・実施した(村山)
神奈川県教育委員会 県央教育事務所	2023年9月健康教育研修講座「関東大震災100年を迎えて, 学校・家庭・地域で行う防災教育」～地域災害リスクの把握と防災～(小田)
岡山県教育委員会	2023年11月 防災教室講習会において、開発された研修モデルを用いた研修を企画・実施した(村山)□
岐阜県教育委員会	2023年12月 防災スペシャリスト養成研修において、開発された研修モデルを用いた研修を企画・実施した(村山)
防災教育協働センターHP	HP公開のオンライン講座「地図を活用した学区の災害リスクの理解」に対して1年間で14件のパスワード申請があった。山形県、宮城県、茨城県、静岡県、兵庫県、広島県、福岡県等全国の大学、中学校・小学校教諭、特別支援学校教諭、養護教諭、放課後児童クラブ指導員、地域防災、等の幅広い層にリーチしている。

合計( 9 )件

国際交流	
学術交流・打合せ	台湾教育部・国立成功大学 2023年6月8日 於 台南市国立成功大学, 2023年全国防災教育従事者ステップアップ研修政策研修プログラムでの招待講演「東日本大震災被災地発の地域に根ざした防災教育 ～石巻市を事例に～」350名(桜井)□

合計( 1 )件

研究課題名	3. 仙台防災枠組におけるグローバル指標の更なる社会実装に向けて:インドネシア・アチェを事例に	研究課題	2-CO
研究代表者氏名	佐々木 大輔	職名	准教授
所属機関等	東北大学 災害科学国際研究所		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 佐々木 大輔	東北大学・災害科学国際研究所
小野 裕一	東北大学・災害科学国際研究所
原 裕太	東北大学・災害科学国際研究所
永田 淳嗣	東京大学・大学院総合文化研究科

期間	令和5年6月1日 ~ 令和6年3月31日	経費	400,000円
----	----------------------	----	----------

研究の概要
本研究は、仙台防災枠組の進捗評価の際等に用いられるグローバル指標の更なる社会実装に貢献するべく、開発途上国のパイロット事例としてインドネシア・アチェを選定し、申請者らが実施した仙台市での既往研究等を参考にしながら、地方レベルでグローバル指標の社会実装を図る際の課題を明らかにして政策提言に繋げる。

研究の具体的な成果・波及効果
<p>バンダアチェ市において、津波災害等に関する国立公文書館のアーカイブセンター(Balai Arsip Statis dan Tsunami Aceh)、アチェ州災害管理庁(Badan Penanggulangan Bencana Aceh)、バンダアチェ市防災当局(BPBD Kota Banda Aceh)、教育機関(State Vocational High School of Banda Aceh)、国立ジャクワラ大学統計学部等を訪問し、関係者に対する趣旨説明を行い理解が得られたとともに、今後の研究発展に資する協力関係・信頼関係の醸成ができた(関係者に対するインタビュー、意見交換も実施)。併せてアチェ州、バンダアチェ市において、収集済みの統計情報に関する行政機関内部での調査を開始でき、順調な成果、進捗が得られた。収集した統計情報の解析、得られた結果の考察を見据え、関連する地域情報・空間情報に関する諸文献(政策ペーパー、地図)についても順調に収集を進めることができ、ジャクワラ大学の協力の下で、土地利用や生活環境に関する現地踏査も進めることができた。以上の成果の一部は、今年度バンダアチェ市で開催されるAIWEST-DR 2024において発表する予定である(登録済み)。</p> <p>インドネシア地域研究者、文化生態学者である研究分担者の永田淳嗣教授(東京大学総合文化研究科・教養学部)と災害研の参画教員らの間でも、研究の進捗状況とインドネシア地方部の社会状況、社会変容に関して研究打合せを行い、今後の調査・分析の進め方について対面での綿密な協議を行うことができ、種々の助言を得た。</p> <p>研究代表者である佐々木は、本プロジェクトの成果等も踏まえて科研費(国際共同研究加速基金(国際共同研究強化))に応募し、当該課題(「インドネシアの地方レベルにおける災害レジリエンスの強化ーグローバル指標を活用して」)が採択に至っている。また、研究分担者である原が今年度の科研費(国際共同研究加速基金(海外連携研究))に応募するなど、外部資金の獲得にも積極的に取り組んだ。</p>

図表

<p>図. Balai Arsip Statis dan Tsunami Aceh訪問、協議の様子 (同機関Webサイト掲載)</p>

被災地・未災地への貢献(国内外)	
インドネシア・バンダアチェ	当該地域における災害レジリエンスの強化に貢献するべく、仙台防災枠組のグローバル指標の活用に向けた方向性を打ち出すことができた。

合計(1)件

国際交流		
名称	相手方機関名称	Universitas Syiah Kuala
学術交流・打合せ	研究協力者であるProf. Dr. Hizir Sofyanらと本研究の進め方等に係る詳細な議論を行い、認識の一致を図った。	
名称	相手方機関名称	Balai Arsip Statis dan Tsunami Aceh, Badan Penanggulangan Ben
学術交流・打合せ	関係者に対する趣旨説明を行い理解が得られたとともに、今後の研究発展に資する協力関係・信頼関係の醸成ができた。	

合計(2)件

研究課題名	4. セクシュアルマイノリティの災害レジリエンス向上のための基礎研究	研究課題	2-CO
研究代表者氏名	北村 美和子	職名	助教
所属機関等	東北大学災害科学国際研究所		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 北村美和子	東北大学災害科学国際研究所
松川杏寧	兵庫県立大兵庫県立大学大学院災害復興政策研究科
○ アナワット サップシー	東北大学災害科学国際研究所
プナム ヤダブ	ロンドン大学ジェンダーと災害センター
池袋真	女性医療グループLUNAクリニックジェンダー外来担当医師
椎太信	GID Link
有藤里	GID Link
有吉恭子	吹田市総務部危機管理室

期間	令和5年6月1日 ~ 令和6年3月31日	経費	400,000円
----	----------------------	----	----------

研究の概要
<p>これまでの調査で、次のような課題が明らかになった。1)セクマイのアイデンティティは多種多様で、相互排他的な分類は難しい、2)複雑な性のため、平時から精神的、経済的、身体的に課題を多く抱えており、災害時には脆弱性が高くなる、3)自身の課題を明らかにして支援を求めることはカミングアウトすることと同義であり、支援を求めることがリスクを高めてしまう、4)現在の多くの基礎自治体の防災・危機管理では、当事者からの手上げによる個人情報開示による支援の提供を前提としており、その方法ではセクマイは必要な支援にアクセスが難しい、5)多くの自治体では、支援を求めるセクマイがいないことを、セクマイそのものが存在しないと思っており、支援の必要性を想定していない。これらの5つの課題を乗り越え、セクマイを含む誰一人取り残さない防災の実現をするために、以下の方法で研究を行う。</p> <p>まずは、セクマイの災害時の支援ニーズについて、被災経験のある当事者に対してインタビュー調査を行う。インタビュー調査のデータを、様々な角度から分析することで、全国規模の大規模調査を行うための調査票設計の基礎資料とする。これにより科学的根拠に基づいて、その存在と支援の必要性を広く伝えることができるようになる。そのうえで、個人情報を開示するのではなく、秘匿した状態で必要な行政サービス、支援を受けられるような新しい被災者支援の方法を検討する。アプローチとしては、セクマイ当事者の災害へのレジリエンスを向上させるための方法論と、行政など支援する側への提案の両方を検討する。この手続きで重要なのは、セクマイの当事者を研究協力者として研究に参画いただくことである。セクマイと彼らを取り巻くコミュニティのありようは、非常にセンシティブで、当事者同士でなければわからない機微が存在するためである。また、行政の視点での実現可能性も重要であるため、行政職員でセクマイへの支援に理解があり意欲的な方を、研究協力者に加えている。</p>

研究の具体的な成果・波及効果
<p>日本におけるセクマイと災害に関する研究は、前述の通り新たに開拓された分野であり、未だ国内、国際論文として発表は少なく、学術的な寄与は大きいと期待される。また本研究では、セクマイの人々に対する災害時の支援の方法論を検討するだけでなく、セクマイ当事者の災害へのレジリエンスを高める方法論の検討も並行して行う。これにより、ただ公助の拡充を促すだけでなく、セクマイの人々の社会的脆弱性の縮小に寄与すると期待できる。これまでの準備研究において、当事者団体、当事者サポート団体、GI(性別不合)学会認定医など、セクマイを取り巻く様々な関係者とのラポール形成に成功している。これらの関係性を研究を通じて束ねることで、災害時にセクマイの人々に求められる社会資源の開発、拡充も可能であると考えている。災害研究から、日本のジェンダー研究およびセクマイを含む多様な社会的弱者への理解と差別解消に向けたアドボカシーを発信する一助となると期待できる。本報告書では、LGBTQ+ コミュニティが災害に効果的に対応できるよう支援するために、LGBTQ+ 災害リスク軽減(DRR)プロジェクトチームが展開した包括的なアプローチについて概説する。このプロジェクトの主要な目的は、災害シナリオにおいてセクシュアル・マイノリティおよびジェンダー・マイノリティの特有のニーズを考慮に入れた戦略策定を行う。本プロジェクトの目的は、災害時にLGBTQ+ コミュニティを効果的に支援することである。そのためステークホルダーの特定LGBTQ+ 支援団体、コミュニティリーダー、災害管理関係者など、主要なステークホルダーを特定し、幅広い包括的なアプローチを行った。</p> <p>災害時のLGBTQ+ コミュニティ特有のニーズに焦点を当て、プロジェクトの実用性と潜在的な影響を評価するためオンラインサーベイを行った。</p> <p><b>【プロジェクト計画】</b> タスクの分割:プロジェクトを管理可能なタスクに分割し、目標達成のための構造的アプローチを確保した。LGBTQ+ の方々のプライバシーやヘイトスピーチ等の潜在的リスクを特定し、プロジェクトのメンバーを通じてこれらのリスクを軽減する戦略を策定した。</p> <p>タスクの割り当てとしてプロジェクトメンバーにはロンドン大学のジェンダーと災害センター、LGBTQ+の当事者、支援団体、ジェンダークリニックの医師、自治体の防災職員が含まれており、それぞれの責任を明確に割り当て、効果的なタスクの完了を確保した。</p> <p><b>【結論】</b> LGBTQ+ DRRプロジェクトは、災害管理における包括性を取り入れる先駆的な取り組みであり、プロジェクトの各段階で採用された綿密なアプローチは、LGBTQ+コミュニティのための災害リスク軽減戦略を継続的に支援し強化するための強固な基盤を築きあげた。2024年1月に発生した能登地震に際しては、LGBTQ+サポートホットラインを開設することができたが、予定していたガイドラインの作成は完了できなかったものの、直接的な支援として一助となった。今後はこの経験を基に、LGBTQ+の方々向けガイドラインの作成を進める予定している。</p>

図表



報告書のまとめとしてして3点の図表を示す。左の図は計画全体のフローチャートである。中央の図と右の図は今回のプロジェクトで行ったオンラインサーベイの結果の一部である。2024年3月、LGBTQ+の災害への備えと対応に関する包括的な調査を実施した。合計202の有効回答を得たこの調査は、災害時におけるLGBTQ+コミュニティ特有のニーズや経験を明らかにすることを目的としている。調査の目的は、災害時に見過ごされがちな性的マイノリティのニーズに特に焦点を当て、すべての人にとってより安全で安心な環境を作ることであった。調査方法はインターネットを利用したもので、参加者がアクセスしやすく、匿名性が確保されている。

主な調査結果

**人口統計** 本調査では、国籍、教育レベル、年齢、雇用形態など、さまざまな個人的背景を把握した。この多様性により、災害への備えに関するLGBTQ+コミュニティの属性を包括的に把握することができる。

**性自認と性表現** 調査参加者のかなりの部分が、自分の性自認と出生時に登録された性別との不一致を認めている。具体的な統計によると、プライベートと仕事の両方の領域で、ジェンダーの微妙な表現が明らかになった。差別の経験：回答者の約60%が、性自認や性的指向による差別や偏見に遭遇したと報告している。この差別は、社会的環境や職場で最も多く見られ、LGBTQ+コミュニティが直面する広範な課題を浮き彫りにしている。

**自然災害**：参加者の約42%が、個人的に自然災害の被害を受けたことがあると回答しており、それが将来の緊急事態に対する認識や心構えに影響を与えている。回答は、そのような出来事の間、自己防衛と愛する人の安全確保に強い傾向があることを示している。

**災害訓練と自衛組織**：災害対策活動への参加は限られており、そのような訓練に参加したことがある回答者はわずか30%であった。これらのセッションからのフィードバックはさまざまで、知識を得られたと評価する人もいれば、LGBTQ+の特定のニーズを考慮した活動ではなかったと感じる人もいた。

**災害と予防に関する考え**：この調査では、支援物資の分配におけるプライバシーや、差別のない必要物資へのアクセスなど、LGBTQ+を包括した災害支援に対する切実な要求が浮き彫りになった。多くの回答者が、災害計画や対応戦略にLGBTQ+の視点を取り入れることの重要性を強調した。

**結論**：2024年LGBTQ+災害関連調査の結果は、セクシュアル・マイノリティの受け入れに関する現在の災害準備と対応の枠組みにおける大きなギャップを浮き彫りにした。これらの洞察は、LGBTQ+コミュニティ特有の脆弱性とニーズに対応する、より包括的で効果的な戦略を開発するために不可欠である。災害対応組織や政策立案者は、災害時に誰一人取り残されることのないよう、これらの調査結果を緊急管理の実践に取り入れることが不可欠である。

成果として発表した論文

Miwako Kitamura, Anna Matsukawa, Anawat Suppasri, Punam Yadav, Inclusive Disaster Management Planning: Addressing the Needs of LGBTQ+ Communities in Japan, Irec Conference full paper, 2023,

松川 杏寧, 北村 美和子, セクシュアルマイノリティの実態と災害時の脆弱性に関する基礎研究, 地域安全学会論文集, 2023, 43巻, p. 297-304, <https://doi.org/10.11314/jisss.43.297> 査読あり

北村美和子, 松川杏寧, 「災害時のセクシャルマイノリティの方々の困難や避難所におけるニーズについての報告」『地域安全学会東日本大震災特別論文集』12,

松川杏寧, 北村美和子, 「セクシュアルマイノリティの実態と災害時の脆弱性に関する基礎研究」『地域安全学会論文集』42, 297-304. 査読あり

松川杏寧, 北村美和子, 椎太信, 有藤里, 「セクシュアルマイノリティと災害Ⅱ(1)」第25回GID学会、於沖縄看護研修センター、2024年3月25日

Anna Matsukawa and Miwako Kitamura, "Lessons from LGBTQ+ Emergency Support Efforts in the Wake of the 2024 Noto Earthquake in Japan," The 5th Asian Conference of Urban Disaster Reduction, Taipei, Apr 26th, 2024.

学術論文 合計(6)編

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

仲津小学校、朝倉市企同推、南筑後保健福祉事務所、しめまち人権同和教育推進協議会、行橋市企業体人権同和研修会などへLGBTQ+の方々への配慮についての研修

合計(1)件

被災地・未災地への貢献(国内外)	
八女・筑後地区	八女・筑後地区の県出先機関の方を対象に8回の研修、心をつなぐ場所今月は相談業務への対応。高校生からの相談等を行い将来起こる可能性のある災害の備えに貢献できた
仲津小学校、朝倉市企同推、南筑後保健福祉事務所、しめまち人権同和教育推進協議会、行橋市企業体人権同和研修会等	人権同和研修会などへLGBTQ+の方々について防災を含めた研修を行った
石川県	被災したLGBTQ当事者への相談窓口開設、情報支援、物資支援、災害時のLGBTQ支援に関する要望書をレインボープライド金沢と共同で石川県知事に提出等

合計( 3 )件

国際交流		
名称	相手方機関名称	University Collage London
研究者の受入	2024年2月9日UCL ジェンダーと災害研究センター副センター長のPunam Yadav准教授のUCLでの担当授業において、LGBTQ+DRR の講義を行った。講義参加生徒数12名	
名称	相手方機関名称	University Collage London
学術交流・打合せ	2023年12月UCL ジェンダーと災害研究センター副センター長とジェンダーと災害研究連携について打ち合わせを行った。参加者5名	
名称	相手方機関名称	University Collage London
学術交流・打合せ	2024年2月UCL ジェンダーと災害研究センターセンター長Moareen Fordham教授とジェンダーとLGBTQ+ DRR 日本のケーススタディ災害研究連携について打ち合わせ4名	

合計( 3 )件

研究課題名	5.「人はなぜ防災行動を取らないのか？」 仙台市における災害時に脆弱性を持つ人口グループを対象にした事例研究	研究課題	2-CO
研究代表者氏名	中鉢 奈津子	職名	特任准教授
所属機関等	東北大学災害科学国際研究所		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 中鉢 奈津子	東北大学災害科学国際研究所
今野 公美子	防災科学技術研究所 企画部 広報・ブランディング推進課 (当時)
ゲルスタ ユリア	東北大学災害科学国際研究所
福島 洋	東北大学災害科学国際研究所
岡田 真介	岩手大学理工学部
小野 裕一	東北大学災害科学国際研究所
佐藤 健	東北大学災害科学国際研究所
栗山 進一	東北大学災害科学国際研究所

期間	令和5年6月1日 ~ 令和6年3月31日	経費	400,000円
----	----------------------	----	----------

**研究の概要**  
「防災に無関心な市民も多い」という仮説に基づき、人の防災行動を促す要素・妨げる要素を明らかにするため、仙台市において市民・防災関係者を対象に38名に半構造化インタビューを実施した。さらに、東日本大震災被災地の市民と比較するため、愛知県でも17名にインタビューを実施した。インタビューは協力者は計55名となった(表1)。

**研究の具体的な成果・波及効果**  
半構造化インタビューから、以下を含む知見が得られた。  
(1) 市民の防災行動を促す要素・妨げる要素が示唆された(表2)。  
(2) 今日に至るまで、東日本大震災は被災地内外で極めて大きな影響を市民生活に及ぼし続けており、多くの市民が、自然災害および災害対応の必要性を、程度の差はあれ認識している可能性が高い。一方、その状況下で、「十分な防災行動ができていない」と自認する市民も多い。理由としては、例えば以下が挙げられる。  
・市民にとって、何をすれば十分な防災なのか不明である。  
・防災対策は専門知識が必要で、かつ高額な傾向がある(特に耐震工事)。  
・「防災グッズを揃える」といった物的な行動は比較的行いやすいが、「防災のための人的ネットワークを形成しておき、災害発生時に同ネットワークを支援・受援関係に活かす備えをしておく」といったソフト的な行動は、それぞれの生活状況に適した人間関係の構築・維持等を要するため、多くの市民にとって必ずしも簡単でない。  
インタビューの結果、アンケート調査では得られにくい、市民の防災感覚に関するニュアンスや機微の一端を明らかにすることができた。また、「防災に無関心な市民が多い」という当初のシンプルな仮説は、現実には単純すぎる可能性が明らかになった。これは仮説生成型研究として前進であるが、今後、課題設定を、市民の生活実態に対応した、よりリアルなものに再構築し、昨年度のインタビューから浮かび上がったトピックに焦点を当て、掘り下げていくことが重要と考えられる。

**図表**

表1 インタビュー協力者属性

性別	
男性	女性
8	47

世代			
学生	勤労世代	退職世代	不明
5	20	29	1

表2 市民へのインタビューで示唆された 防災行動を促す要素・妨げる要素

防災行動を促す要素	防災行動を阻げる要素
<ul style="list-style-type: none"> <li>・性格(心配性、慎重派)</li> <li>・「良いと言われたことはやるべきだ」と思える</li> <li>・本人でなくとも家族に上記の人がいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災の曖昧さ・不確かさ</li> <li>・何をどこまですれば十分なのか不明。対策してもそれが役立つとは限らない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人にとって大事な誰かの存在(「誰かのために」「誰かに迷惑をかけたくないから」やる)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別なこと、エクストラなこと</li> <li>・美的でない・気持ちが落ち着かない防災グッズ</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の中に組み込まれ無理のない形</li> <li>・インテリア性の高い防災グッズ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時に助け合える人間関係を平時に過不足なく構築することが、現代社会では必ずしも簡単でない</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・いざというときに助け合える人間関係・社会的ネットワークを形成できる</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害報道、補助金制度(の認知)</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の災害経験(直接、伝聞)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害経験がない</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活における時間的・経済的余裕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の生活が忙しい</li> <li>・(耐震化費用が非常に高額なので)そこまで費用をかけることができない</li> </ul>

研究課題名	6. 災害時における大都市の時空間避難行動の分析	研究課題	2-CO
研究代表者氏名	Sunkyung Choi	職名	特任講師
所属機関等	東京工業大学 環境・社会理工学院 融合理工学系		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ Sunkyung Choi	東京工業大学環境・社会理工学院
○ 奥村 誠	東北大学災害科学国際研究所
花岡 伸也	東京工業大学環境・社会理工学院
Alvin Christopher Galang Varquez	東京工業大学環境・社会理工学院

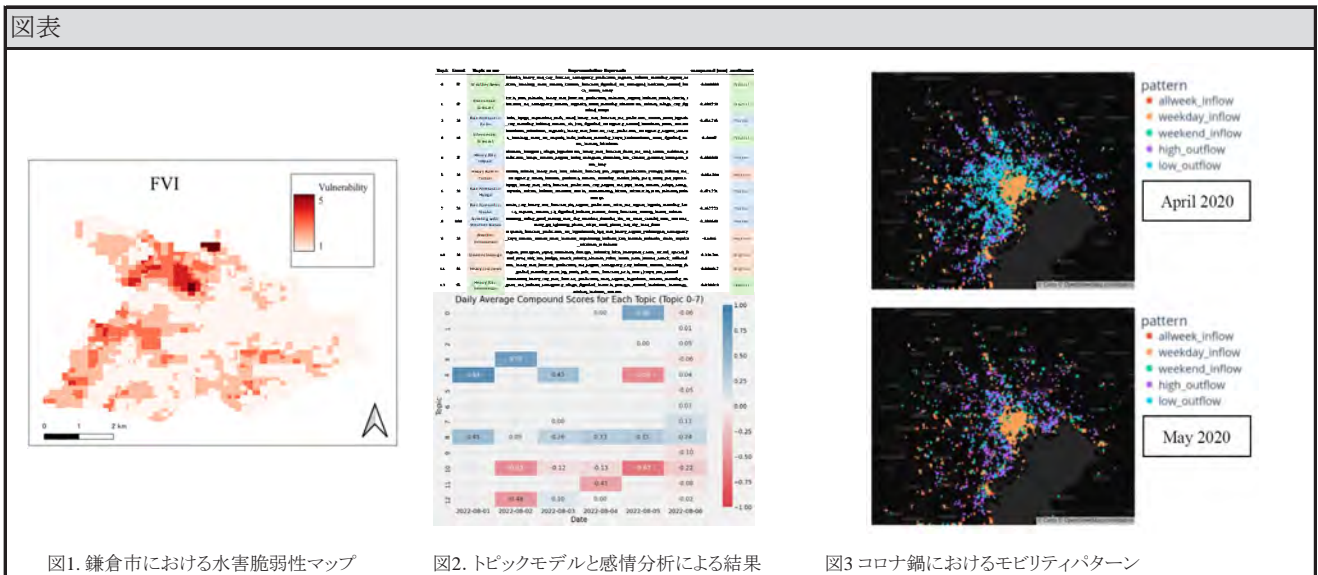
期間	令和5年6月1日 ~ 令和6年3月31日	経費	360,000円
----	----------------------	----	----------

**研究の概要**

本研究では、災害時における大都市の居住者と観光客の時空間的な避難行動について、複数の都市を対象として災害種類別に横断的な分析を行う。避難行動に関するアンケート調査、また時空間避難行動と災害対応との関係性や類似性を分析するツール開発により、パターン分類や比較分析を実施する。

**研究の具体的な成果・波及効果**

本研究では、①観光都市を対象とした水害脆弱性指標の開発、②2022年8月豪雨における災害対応の時空間分析、③モバイル空間統計を用いたコロナ禍における東京都市圏の時空間分析を行った。①について、鎌倉市をケーススタディーとした水害脆弱性の評価結果を図1に示す。②について、X(旧Twitter)データを用いたトピックモデルと感情分析の結果を図2に示す。③について、コロナ禍における時空間行動をK-meansクラスター分析によって比較分類した結果を図3に示す。



**成果として発表した論文**

Yoongsomporn, T., Varquez, A.C.G., Choi, S., Okumura, M., Hanaoka, S. and Kanda, M. (2024) Spatiotemporal analysis of human mobility over the greater Tokyo area from 2019 to 2021, Proceedings of Infrastructure Planning, JSCE (Japanese Society of Civil Engineers) Conference No. 69., Hokkaido, Japan. (国内学会、査読あり、対象者:研究者・社会人・学生、約1000名)(2024年5月発表予定)

Choi, S., Hanaoka, S. (2023) Exploratory analysis of spatio-temporal evacuation behavior of tourists during extreme weather events in Japan, Travel and Tourism Research Association APaC Chapter, 2023 TTRA APaC Annual Conference, Seoul, Korea. (国際学会、査読あり、対象者:研究者・社会人・学生、約200名)

Varquez, A.C.G., Taerakul, J., Renard, F., Alonso, L., Hiroki,R., Ashie, Y.,Inagaki, A., Kanda, M., Choi, S., Okumura,M., Hanaoka,S. (2023) High-resolution heat-risk modeling and comparison of downtown areas of two cities on extreme hot summer days of 2022, The 11th International Conference on Urban Climate (ICUC11),28 Aug-1 Sept 2023, Sydney, Australia.(国際学会、査読あり、対象者:研究者・社会人・学生、約600名)

学術論文 合計(3)編



研究課題名	7. 五島列島におけるキリシタン集落の形成・立地と災害リスク評価に関する研究	研究課題	2-CO
研究代表者氏名	原 裕太	職名	助教
所属機関等	東北大学災害科学国際研究所		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 原 裕太	東北大学災害科学国際研究所
甲斐 智大	大分大学経済学部
高場 智博	五島列島ジオパーク推進協議会

期間	令和5年6月1日 ~ 令和6年3月31日	経費	400,000円
----	----------------------	----	----------

**研究の概要**

長崎県五島列島を対象に、潜伏キリシタン集落の立地と災害リスクの関係性を定量・定性両面から明らかにする。さらに分析結果を地域と共有し、住民や教会等と協働して高リスク地域のレジリエンス向上を目指す。当研究は、2022年度レジリエンス共創研究プロジェクトで実施した研究で得られた成果から派生して展開して実施した。

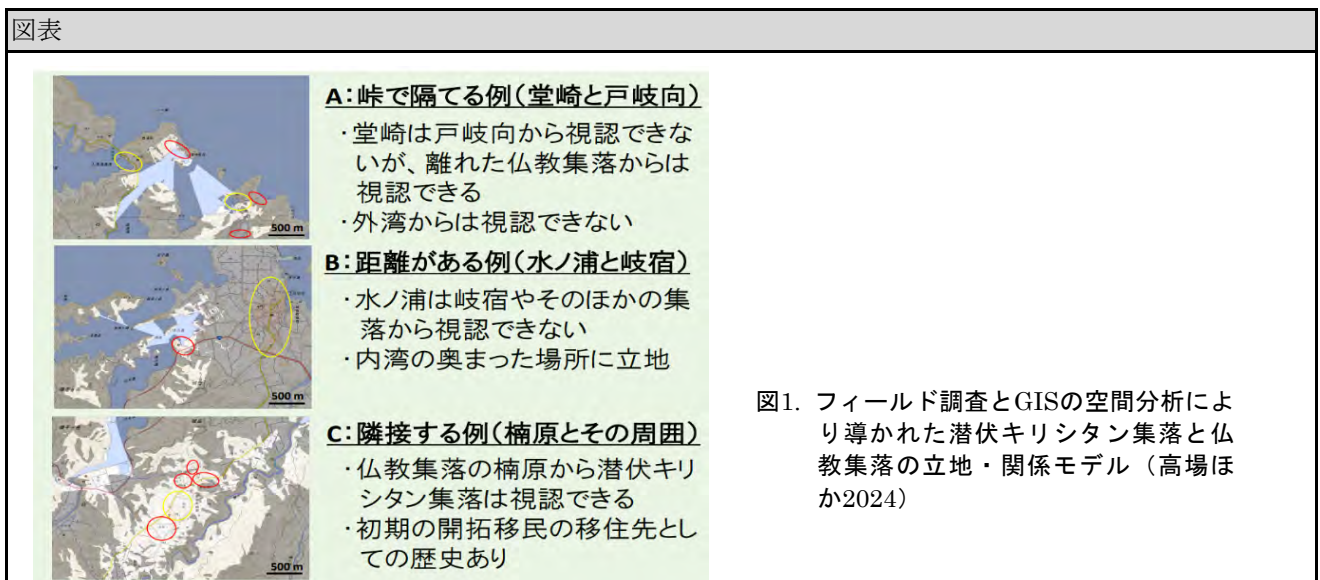
**研究の具体的な成果・波及効果**

今年度の主な成果として、1. 福江島では潜伏キリシタン集落の立地が3つのカテゴリーに分類でき、「潜伏」形態や資源利用の持続性、災害脆弱性に差異があること(図1)、2. 土地利用や社会構造が近現代を通じて変容し、脆弱性の改善と残存の両方の側面が地域には存在すること等が示された。

1点目として、福江島の全域を対象に地形判読と地形分類図の作成を進めるとともに、潜伏キリシタン集落の立地条件(地形条件、仏教集落や外海からの視認性、位置関係等)を、GISを用いて定量的に明らかにした。その結果、従来一概に「潜伏」と表現されてきた人々の暮らし、江戸～明治期の入植時の立地選択が一律ではなく、いくつかのカテゴリー化できることがわかってきた。

また2点目では、岐宿地区の仏教・潜伏キリシタン両集落の高齢住民と、修道院のシスターへの聞き取り調査が実現し、人々の「語り」を基礎に、両地域での社会経済システムと社会的不平等の実態を解き明かすことが進んだ。具体的には、各時期における資源循環・利用の特徴、両集落間の認知境界線、迫害・差別が解消されていくまでの社会経済史、教会・修道院の役割変化と過疎高齢化の影響等が、双方の視点から立体的に明らかにすることができた。なかでも、戦中戦後期に行われた修道院による保育所の開設が、仏教-潜伏キリシタン両集落の間の不合理な社会的不平等を低減させ、社会的統合の進展に寄与していたこともわかった。以上は、伝統的な潜伏キリシタンの文化景観の変化、場合によっては消失とも解釈できるが、このことは必ずしもネガティブな側面だけでなく、仏教徒との和解・差別の解消、社会的脆弱性の低減といったポジティブな側面を含んでいた。

明らかになった諸成果は、代表者・共同研究者らが複数回に渡り学会(全国大会)で発表した。現在、国内外の雑誌に原著論文を出版すべく、鋭意作業を進めている。



成果として発表した論文

原 裕太・甲斐智大・高場智博(2023) 五島カトリック集落における自然資源利用の空間特性と生存戦略. 日本地理学会発表要旨集, Vol.104, ID: 337, [https://doi.org/10.14866/ajg.2023a.0\\_155](https://doi.org/10.14866/ajg.2023a.0_155)

甲斐智大・原 裕太・高場智博(2024) 五島キリシタン—仏教集落の社会的統合に保育所が果たした役割と残存する不平等. 日本地理学会発表要旨集, Vol.105, ID: P056, DOI: [https://doi.org/10.14866/ajg.2024s.0\\_200](https://doi.org/10.14866/ajg.2024s.0_200)

高場智博・原 裕太・甲斐智大(2024) 五島列島福江島における潜伏キリシタン集落の立地と視認性——仏教集落の比較を通して. 日本地理学会発表要旨集, Vol.105, ID: P082, DOI: [https://doi.org/10.14866/ajg.2024s.0\\_288](https://doi.org/10.14866/ajg.2024s.0_288)

学術論文 合計(3)編

被災地・未災地への貢献(国内外)

長崎県五島市 五島列島ジオパーク	五島市のジオパーク専門員らとの共同研究を行い、潜伏キリシタンの歴史文化を災害レジリエンスの視点で評価し、地域の脆弱性理解に貢献した。
---------------------	--

合計(1)件

### 3. 人流データを活用した社会動態の解明に関する研究

研究課題名	1. 人流データの時系列変動分解に基づく災害レジリエンス情報の検出と比較	研究課題	3-MO
研究代表者氏名	山口 裕通	職名	准教授
所属機関等	金沢大学・理工研究域・地球社会基盤学系		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)

氏名	所属機関名
◎ 山口 裕通	金沢大学・理工研究域・地球社会基盤学系
○ 奥村 誠	東北大学・災害科学国際研究所
金子 雄一郎	日本大学・理工学部

期間	令和5年6月1日 ~ 令和6年3月31日	経費	250,000円
----	----------------------	----	----------

#### 研究の概要

本研究では、大規模な時空間データである人流データのパターン分解によって、突発的な変化を検出・評価するアプローチの開発・改良を行う。そして、近年に日本で発生した移動行動の突発的な減少事象(災害ダメージ)とその回復過程を定量的に明らかにし、豪雨・地震等を含む、複数の災害事象の間での比較を行う。

#### 研究の具体的な成果・波及効果

災害科学国際研究所による人流データを活用して、主に以下の2点の分析を行った:

- ・ 近年に日本で発生した災害時における行動の被災と回復過程の定量的な観測と比較
- ・ 特に計画運休に着目し、首都圏における計画運休辞の行動変化の特徴解明

前者の分析においては、災害時における行動変化の回復過程からモバイル空間統計によって記録される観測値の推移から、複数の指標を定義し、そのダメージの大きさの比較を行った。次ページの図に示す表が、その一つの成果である。これらの指標に対して、計画運休の有無によって、どのような行動の変化があるかを統計的に分析した。その結果、計画運休を実施したケースにおいては、「事前の備え」と思われるような行動が統計的に有意に観測されていることが明らかになった。この成果は、2024年度において学会発表・論文投稿を予定している。

後者の分析においては、2019年9月及び10月の台風襲来時に東京圏で実施された2回の鉄道の計画運休を対象に、モバイル空間統計を用いて運転再開時の駅を含む500mメッシュ内の滞在人口の推移を把握した。その結果、9月の計画運休では多数のメッシュで9時台から12時台にかけて滞在人口が増加したことがわかった。また、10月の計画運休では各時間帯で滞在人口に大きな変化はなかったことがわかった。また、運転再開時刻等と行動変化との影響の検証も試みたが、休日で私事需要が抑制された可能性が高く、情報提供の検証は今後の課題としている状態である。

以上の分析から、当初の予定通りに、人流データを用いて複数の災害事象における影響をとくに「計画運休」に着目して分析を行った。これらの成果は、計画運休などの災害時あるいは直後に予想される時の、対応・情報提供の検討にむけた重要な基礎情報となることが期待できる。

図表

近年に発生した災害による人流ダメージの算出結果

総被災量: 災害により失われた行動量(単位: 日)

事前増加量: 災害発生直前に観測された日常と異なる備えの行動量(単位: 日)

災害名	場所	総被災		
		総被災期間	異常判定時間	総被災量
平成30年7月豪雨	小松駅	$d^* - d^* + 3$	21	-0.525
平成30年台風21号		$d^*$	7	-0.299
令和4年8月豪雨		$d^*$	8	-0.352
大阪北部地震	大阪駅	$d^* - d^* + 2$	36	-0.758
平成30年台風21号		$d^* - d^* + 1$	23	-0.861
令和4年台風14号		$d^*$	17	-0.590
平成30年7月豪雨	広島駅	$d^* - 1 - d^* + 2$	41	-0.766
令和元年台風10号		$d^* - d^* + 1$	26	-1.035
令和3年8月豪雨		$d^* - 3 - d^* + 1$	36	-0.841
令和4年台風14号	呉駅	$d^* - 1 - d^* + 1$	28	-0.978
平成30年7月豪雨		$d^* - 1 - d^* + 6$	97	-2.980
令和元年台風10号		$d^* - d^* + 3$	30	-0.658
令和3年8月豪雨	福島駅	$d^* - d^* + 3$	39	-0.828
令和4年台風14号		$d^* - 1 - d^* + 1$	27	-1.041
令和元年東日本台風		$d^* - d^* + 2$	39	-1.340
福島県沖地震(2021)	千葉駅	$d^*$	6	-0.259
福島県沖地震(2022)		$d^*$	12	-0.394
令和元年房総半島台風		$d^* - 1 - d^*$	23	-0.712
令和元年東日本台風	熊本駅	$d^* - 1 - d^* + 2$	51	-1.761
令和3年台風16号		$d^* - 1 - d^* + 2$	22	-0.488
熊本地震		$d^* - 2 - d^* + 10$	155	-8.092
九州北部豪雨	松山駅	$d^* - d^* + 1$	14	-0.322
令和2年7月豪雨		$d^* - 1 - d^* + 1$	22	-0.718
平成30年7月豪雨		$d^* - 1 - d^*$	12	-0.157
令和4年台風14号	京都駅	$d^*$	14	-0.600
平成30年台風21号		$d^* - d^* + 1$	21	-0.782
令和3年8月豪雨		$d^* - 1 - d^* + 1$	23	-0.534
令和4年台風14号	佐賀駅	$d^*$	9	-0.412
熊本地震		$d^*$	10	-0.311
令和2年7月豪雨		$d^* - 1 - d^*$	19	-0.453
令和2年台風10号	松江駅	$d^*$	14	-0.665
令和4年台風11号		$d^*$	15	-0.410
令和3年7月6日からの大雨		$d^* - d^* + 2$	29	-0.640
令和4年台風14号		$d^*$	14	-0.608

災害名	場所	事前増加		
		事前増加期間	異常判定時間	事前増加量
平成30年7月豪雨	小松駅	$d^*$	2	0.051
平成30年台風21号		$d^*$	4	0.105
令和4年8月豪雨		無	0	0
大阪北部地震	大阪駅	無	0	0
平成30年台風21号		無	0	0
令和4年台風14号		$d^* - 1$	2	0.014
平成30年7月豪雨	広島駅	$d^* - 1 - d^*$	8	0.097
令和元年台風10号		$d^* - 1$	11	0.286
令和3年8月豪雨		無	0	0
令和4年台風14号	呉駅	$d^* - 2 - d^* - 1$	6	0.082
平成30年7月豪雨		$d^* - 1$	7	0.100
令和元年台風10号		無	0	0
令和3年8月豪雨	福島駅	無	0	0
令和4年台風14号		$d^* - 2$	2	0.016
令和元年東日本台風		無	0	0
福島県沖地震(2021)	千葉駅	無	0	0
福島県沖地震(2022)		無	0	0
令和元年房総半島台風		無	0	0
令和元年東日本台風	熊本駅	無	0	0
令和3年台風16号		無	0	0
熊本地震		無	0	0
九州北部豪雨	松山駅	無	0	0
令和2年7月豪雨		無	0	0
平成30年7月豪雨		無	0	0
令和4年台風14号	京都駅	$d^* - 1$	4	0.079
平成30年台風21号		無	0	0
令和3年8月豪雨		$d^* - 2$	3	0.040
令和4年台風14号	佐賀駅	$d^* - 1$	4	0.073
熊本地震		無	0	0
令和2年7月豪雨		$d^* - 1$	3	0.040
令和2年台風10号	松江駅	$d^*$	8	0.132
令和4年台風11号		$d^*$	4	0.050
令和3年7月6日からの大雨		$d^* - 1$	3	0.027
令和4年台風14号		無	0	0

成果として発表した論文

佐野拓真, 金子雄一郎: 携帯電話基地局データを用いた鉄道の計画運休の運転再開時における滞在人口の時空間分析—東京圏を対象として—, 土木学会論文集, Vol.79, No.8, 2023, 査読有, 国内.

福田 拓洋, 山口 裕通, 中山 晶一郎: 混合効果を含む重力モデルによるコロナ禍における長距離旅行行動変化の分析, 土木学会論文集 D3, Vol.78, No. 5, 2023, 査読有, 国内.

田畑大輝, 山口裕通: 携帯電話位置情報を用いた災害情報発信に対する行動変化の研究, 土木計画学・研究講演集 Vol.68(CD-ROM), 2024.5, 査読無, 国内. \*掲載予定

学術論文 合計(3)編

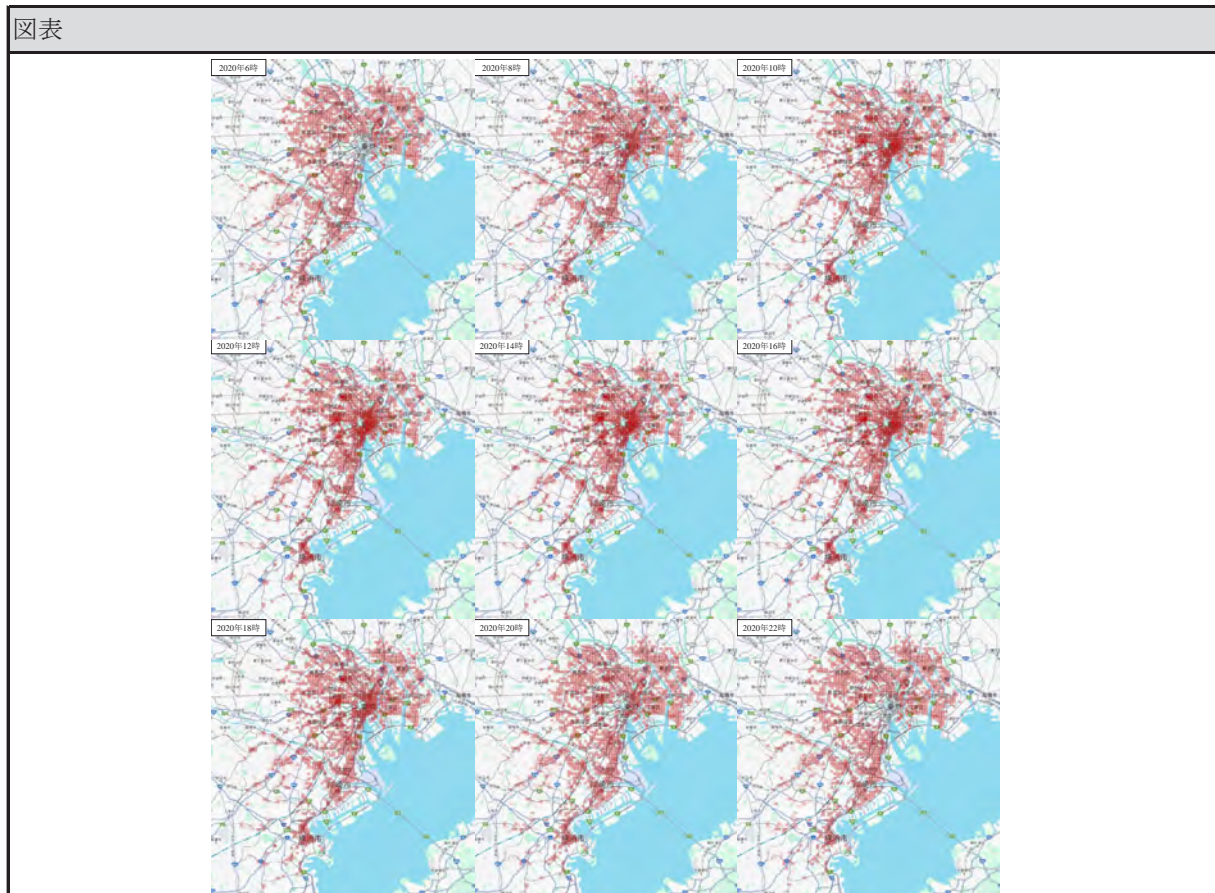
研究課題名	2. モバイル空間統計に基づく集客施設別の混雑と遊休の地域間比較	研究課題	3-MO
研究代表者氏名	塚井 誠人	職名	准教授
所属機関等	広島大学		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)(構成員全員の氏名等を記載してください。)	
氏名	所属機関名
◎ 塚井 誠人	広島大学
○ 奥村 誠	東北大学
田中 貴宏	広島大学
田村 将太	広島大学
松下 貴哉	広島大学

期間	令和5年6月1日 ~ 令和6年3月31日	経費	400,000円
----	----------------------	----	----------

**研究の概要**  
 本研究では、昨年のテーマとした二次元の空間データに対するエシェロンスキャン法を発展させて、時間軸を追加した3次元のエシェロンスキャン法アルゴリズムを開発する。東京23区・川崎・横浜を中心とする都市圏のモバイル空間統計に同手法を適用したところ、昼夜を通じたエシェロンとして都心部と郊外部を結ぶ鉄道沿線が現れた。これらはコロナ禍の最中も安定して出現していた。つまり交通結節点施設の遊休は起こりにくいことが明らかとなった。

**研究の具体的な成果・波及効果**  
 本研究では一日を通じて人流集積が起こる施設立地点を、面的かつ統計的な裏付けを以て明らかにできた。本研究では、主に都心の各地点に関連する混雑地点と、鉄道沿線に関連する混雑地点が抽出できた。本研究で抽出した混雑施設について、来訪者の出発地点が都市圏内か都市圏外かを分析することによって、都市圏内の帰宅困難者と、都市圏外の帰宅困難者がそれぞれどの程度発生するかを予測できる。これは避難施設の収容定員計画に有用な情報である。



---

成果として発表した論文

益田大世・塚井誠人・松下貴哉: 三次元エシェロンスキャン法を活用した時空間滞在人口データの解析, 第75回土木学会中国支部研究発表会, 2024/CD-ROM

学術論文 合計(1)編

## 5. 1. D. 災害統計グローバルセンター

2023 年は 2015 年に採択された「仙台防災枠組 2015-2030」の中間年にあたり、本センターも優先行動やグローバルターゲットの進捗状況などに関する中間評価に積極的に取り組んだ。2023 年 5 月には、アメリカ合衆国(ニューヨーク)の国連本部において 100 以上の国から国家元首、閣僚等をはじめとする代表者が出席する「仙台防災枠組中間レビュー・ハイレベル会合」が開催され、本センターに所属する複数の教員が参加した。当該会合のマルチステークホルダーパネルでは、郡和子仙台市長がパネリストとして登壇し、「仙台市版・仙台防災枠組中間評価」(「仙台市と国立大学法人東北大学との連携・協力に関する協定書(2022 年 4 月 22 日締結)」に基づく協働事業として仙台市と東北大学災害科学国際研究所が共同で実施)に係る取り組みについて発表を行った。(小野裕一)

## 5. 1. E. 気仙沼分室(気仙沼サテライトオフィス)

- 1) 気仙沼市主催イベントの支援:「第 8 回気仙沼市防災フォーラム～市民みんなで考える防災～」×東北大学災害科学国際研究所第 36 回防災文化講演会(2024 年 1 月 23 日)を気仙沼市と共催で実施し、市民ほか約 160 名が参加した(基調講演:佐藤健教授)。気仙沼市主催「令和 6 年気仙沼市東日本大震災追悼と防災のつどい」を後援するとともに、佐藤翔輔准教授がトークセッションの進行と総括を担当し、市民ほか約 300 名の参加者を得た(2024 年 3 月 11 日)。
- 2) 気仙沼市役所業務の支援:東日本大震災発生以降に採用された職員を対象とした「令和 5 年度震災の教訓等を伝承する職員研修」を佐藤翔輔准教授が企画立案から支援し、研修の講評や効果検証を担当した(総務部人事課。危機管理課)。今村文彦教授と佐藤翔輔准教授が、市が策定を進めている津波避難ガイドラインに関するアドバイザーをつとめた(令和 6 年度発行予定)。
- 3) 気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館の支援:同館で実施された、「夏休み特別イベント」「けせんぬま伝承・防災文化祭」「3. 11 メモリアルイベント 5 周年特別フォーラム」「3. 11 メモリアルイベント・語り部をする高校 3 年生の想いを翼に乗せて後輩たちへ」について企画立案から協力し、イベント実施を支援した。同館で実施されている各プロジェクトチームに参画し、事業推進を支援した(3 プロジェクト)。気仙沼分室スタッフを中心に、同館に寄せられる来館者が記入した付箋(感想等)約 1 万枚のディスプレイと電子化を行った。また、同館内の語り部ガイドの活動内容について、映像アーカイブを作成した。
- 4) その他の支援:けせんぬま震災伝承ネットワークのアドバイザーを佐藤翔輔准教授がつとめ、語り部ガイドマニュアルの改訂を全面的に支援した。大谷地区幼小中公防災連携協議会会議に佐藤翔輔准教授がアドバイザーとして参画し、幼小中合同の避難訓練を支援した。

なお、これらの活動を通して得られた知見は、一般論文 2 編、ニュースレター 1 編で発表済みであり、現時点で査読付き論文 1 編投稿中である。また、7 件の報道によっても発信された(地元紙、全国放送等)。(佐藤翔輔)

## 5. 1. F. 広報室

広報実務者 4 名(特任准教授 1、技術職員(限定)2、技術補佐員 1)は、広報室長および所内教職員と密に連携しながら、災害科学の広報・コミュニケーション活動を担当した。また、所内の連携・調整・研究支援・データ集約等に関する業務も担った。2023 年度の主な活動は以下の通り。

#### 1. ウェブサイト

災害研ウェブサイト(日本語・英語)を管理し、144 件のアクティビティレポート、イベント情報等を随時掲載した。能登半島地震に関する情報は即時掲載した。2021 年度に設けた動画チャンネルの活用を進めた。

#### 2. 広報誌等出版物

IRIDeS Newsletter 夏号・冬号の企画・取材・記事執筆・編集・出版を行った。本研究所のパンフレットを随時更新した。

#### 3. メディア連携

日々寄せられる広報窓口への取材依頼を専門の適する教員へ迅速につなげた。メディア関係者とコミュニケーションを取りながら、平時だけでなく災害発生時も円滑な発信ができるようにつとめた。9 件のプレスリリースを担当した。能登半島地震速報会の際は、全国から約 150 名のメディアが参加登録し、会場取材は 20 社となった。

#### 4. 年次報告書

災害研の活動実績データの集約・管理を行い、年次報告書 2022 年度版の編集・出版業務を担当した。さらに年次報告書 2023 年度版に向けた改訂作業を主担当となって進め、2023 年度年次報告書が、本研究所の多様な分野の活動をさらに過不足なく反映できるよう再構成した。

#### 5. 所内重要イベントの支援

IRIDeS オープンフォーラム(関東大震災シンポジウム、東日本大震災メモリアルシンポジウム)の企画・運営に参加し、片平まつりを支援した。緊急調査 WG をはじめとする関係者とともに、能登半島地震速報会の運営にあたった。

#### 6. 訪問者対応

計 42 件の視察・見学案件に対応し、本研究所の活動を紹介した。

(中鉢奈津子)



## 5. 2. 研究・実践活動

### 5. 2. A. 特筆すべき成果

#### (1) 災害デジタルツインの創成

越村俊一、マス・エリック、アドリアノ・ブルーノ、水谷歩、永田彰平、太田雄策(理学研究科)

##### 要約:

環境・社会動態のセンシング手法の高度化、モニタリングデータの大規模化とリアルタイム流通、計算機性能・シミュレーション手法の高度化、機械学習を核とするデータ駆動科学の進展を背景に、災害科学にデジタルツインの方法論を先駆的に導入して「災害デジタルツイン」として提唱し、その学理の確立と深化に取り組んでいる。データとデジタル技術を活用したサイバー・フィジカルシステムにおける対応・適応の最適化は、あらゆる産業に適用可能なパラダイムであり、本研究は災害科学の多様な社会的問題への導入を促進することで、デジタル時代の新たな災害科学の地平を拓くという点に最大の意義があり、その先駆性において国内外から高い評価を得ている。2023年度には、関連分野(電気・情報工学、地球科学、災害科学、総合科学、計算科学)の Top ジャーナルへの論文発表を行うとともに、3件の大型研究費に採択され、並行して社会実装(公共サービス)を行っている。

##### 実績報告:

環境・社会動態のセンシング手法の高度化、モニタリングデータの大規模化とリアルタイム流通、計算機性能・シミュレーション手法の高度化、機械学習を核とするデータ駆動科学の進展を背景に、災害科学にデジタルツインの方法論を先駆的に導入し、「災害デジタルツイン」として提唱し、その学理の確立と深化に取り組んでいる。特に顕著な業績として以下を列举する。

##### 学術の先導

- 土木学会海岸工学委員会の下に設置された「沿岸災害デジタルツイン小委員会」(小委員長:越村俊一)を母体とし、令和5年度重点研究課題「沿岸災害デジタルツインの創成に関する研究」が採択。沿岸環境を対象に物理世界と仮想世界を連携させたサイバー・フィジカルシステム(Cyber-physical systems)を構築し、物理世界では時間的・コスト的に不可能といえるような様々な検討、設計、最適解探索を仮想世界で実行しそれを物理世界にフィードバックするという「デジタルツイン」のパラダイムを、土木工学、特に海岸工学に導入し、関連の学術を先導している。その成果として、Elsevier の“Digital-twin Paradigm for Disaster Risk Reduction and Resilience”と題した Book Chapter を執筆・発刊した(発刊は2024年予定)。
- 2023年4月に欧州で開催された European Geoscience Union (EGU) General Assembly において、越村が発表した” Digital twin computing for enhancing resilience of disaster response system”が自然災害の AI 研究セッションにおいてハイライトされ、大きな注目を集めた。
- 台湾(2023年10月)、中国(2023年12月)での国際会議、および日本学術会議(2023年9月)、日本計算機統計学会(2023年11月)における招待講演を行い、先駆的な取り組みとして高く評価されている。
- 国際的には、地球観測に関する政府間会合(Group on Earth Observations)の Disaster Risk Reduction (DRR) Working Group に越村が委員として就任(2021年～)。Sentinel Asia Co-chair of Tsunami WG (2015年～)を務めるなど、津波のリアルタイム予測の世界展開に向けた国際的な活動も展開中。
- Asia Oceania Geosciences Society2023(2023年8月)において“Digital Twin Paradigm for Disaster Resilience”というセッションを開催し、国際的な情報発信と国際学術ネットワーク形成を行った。
- 2023年度に出版した国際ジャーナルは以下の通り。
  - IEEE Journal of Selected Topics in Applied Earth Observations and Remote Sensing (IF5.5)
  - Scientific Reports (IF4.6)
  - International Journal of Multiphase Flow (IF3.8)
  - Computers and Mathematics with Applications (IF2.9)
  - International Journal of Disaster Risk Reduction (IF5.0)

##### 大型研究プロジェクトの推進

- ・ 科学研究費補助金、基盤(S) (2021 年度～2025 年度、直接経費 188,630 千円)、理・工・医学の連携による災害医療デジタルツインの開発と医療レジリエンスの再構築、代表者:越村俊一。リアルタイムシミュレーション、センシングの融合による広域被害把握、被災地内外の人の移動と社会動態把握、医療需要および被災地の医療活動状況を入力としたマルチエージェントシミュレーションで構成する仮想世界での what-if の分析を通じて、物理世界となる被災地での災害医療チームの活動を支援するための「災害医療デジタルツイン」を構築している。
- ・ SIP3 期スマート防災ネットワークの構築(2023 年度～2027 年度、直接経費 749,800 千円)、「津波災害デジタルツインの構築とスマート・レジリエンスの実現」、代表者:越村俊一。SIP3 期のスマート防災ネットワークの核となる防災デジタルツイン技術において、国難災害である地震津波災害をターゲットにしたリアルタイムハザード予測、被害・社会影響予測、災害対応の最適化を可能とする「津波災害デジタルツイン」を構築し、その活用と社会実装を通じて、Society5.0 の災害レジリエンス=スマート・レジリエンスを実現することを目的としたプロジェクトを推進している。
- ・ JST-NSF マッチングファンド(SICORP) (2024 年度～2026 年度、直接経費 70,000 千円)「人間中心の災害デジタルツインの構築とコミュニティ・レジリエンスの向上」、代表者:越村俊一。米国 UC Irvine、Boston University との共同研究により、人間中心のデータを活用した「災害デジタルツイン」を構築するプロジェクトを開始予定。

### 社会実装

東北大学発ベンチャーRTi-cast による、リアルタイム津波浸水被害予測システムの開発・運用、普及、国際展開に取り組んでいる。これまでに、内閣府の総合防災情報システムへの採用、高知県への津波被害予測情報の配信など、研究と社会実装の両輪によるレジリエンス向上への重要な貢献を果たし、第三者から高い評価を得ている。2024 年 3 月 27 日には、民間事業者として我が国初となる津波予報業務の認可を得た。国際展開としては、津波リスクの高い諸外国(インドネシア、ペルー)の大臣級へのプレゼンテーションを実施し、リアルタイム津波浸水被害予測システムの国際展開に向けた重要な進展があった。

### 令和 6 年能登半島地震での対応

令和 6 年能登半島地震直後に、いち早く被災地調査を行うとともに、地殻変動観測による地震断層破壊メカニズムの解明、津波伝播・浸水被害予測、人流データ解析による避難状況の把握、航空写真を利用した家屋 13 万棟のオンライン被害調査など、データ・シミュレーション融合による災害デジタルツイン活用に向けた実践的な活動を継続している。解析結果はプレゼンテーション動画、建物被害地図など、GIS(地理情報システム)を活用した先駆的な情報発信を行い、災害対応および災害科学の深化に資する成果を創出している。



図 津波災害を主題とした「災害デジタルツイン」の構成

## (2) 仙台防災枠組 2015-2030 に係る中間評価(仙台市との共同研究)

佐々木大輔、小野裕一、原裕太

### 要約:

2015年3月に宮城県仙台市で開催された第3回国連防災世界会議で採択された国際的な防災の指針である仙台防災枠組 2015-2030 は、2023年がその折り返しの年にあたり、進捗状況を測るグローバル指標に係る議論が活発に行われている。他方、地方レベルでグローバル指標の評価に取り組んだ事例は、仙台市と災害科学国際研究所の共同研究で実施されたものが世界初であり、国内外の政府機関・研究機関から注目を集めた。その共同研究報告書が2023年に公刊されており、仙台市におけるグローバル指標の時系列比較等を通して災害レジリエンスの推移に係る分析結果を提示している。当該共同研究においては、仙台市が保有する各種統計情報を用いてグローバル指標に係る分析を行い、その結果を基に仙台市における災害レジリエンスを評価するという建て付けになっている。地方レベルでグローバル指標を活用して災害レジリエンスの評価を行った研究は世界初であることから、今後、国内外において同様の方法論を採用する研究が増えるものと思料される。

### 実績報告:

2015年3月に宮城県仙台市で開催された第3回国連防災世界会議で採択された国際的な防災の指針である仙台防災枠組は、2023年がその折り返しの年にあたり、進捗状況を測るグローバル指標に係る議論が活発に行われている(International Science Council [ISC], 2023; UN Office for Disaster Risk Reduction [UNDRR], 2023)。他方、地方レベルでグローバル指標の評価に取り組んだ事例は、仙台市と災害科学国際研究所の共同研究で実施されたものが世界初であり、国内外の政府機関・研究機関から注目を集めた。その共同研究報告書が2023年に公刊されており(図1)、仙台市におけるグローバル指標の時系列比較等を通して災害レジリエンスの推移に係る分析結果を提示している。

例えば、グローバル指標 E(防災戦略)に係る定量的な評価として、「地域版避難所運営マニュアル」を作成済みの避難所の割合に着目し、その経年変化について考察を行っている(図2)。地域版避難所運営マニュアルについては、2014年以降作成が加速しており、近年ではほぼ100%の達成率となっていることから、共同研究報告書では、仙台市におけるグローバル指標 E について「目標を達成している」と結論している。このように、当該共同研究においては、仙台市が保有する各種統計情報を用いてグローバル指標に係る分析を行い、その結果を基に仙台市における災害レジリエンスを評価するという建て付けになっている。前述の通り、地方レベルでグローバル指標を活用して災害レジリエンスの評価を行った研究は世界初であり、今後、同様の方法論を採用する研究が増えるものと思料される。

なお、グローバル指標を活用したインドネシアの地方レベルにおける災害レジリエンスの強化をテーマとし、インドネシア・アチェをフィールドに佐々木が研究代表者として令和5(2023)年度科学研究費助成事業(国際共同研究加速基金(国際共同研究強化))に申請した研究課題(渡航先機関は本学が学術交流協定を締結しているジャクアラ大学)が採択に至っており、今後、本取り組みの国際展開も見込まれている。

### 【参考文献】

International Science Council. (2023). *Report for the Mid-Term Review of the Sendai Framework for Disaster Risk Reduction*. <https://doi.org/10.24948/2023.01>

UN Office for Disaster Risk Reduction. (2023). *The Report of the Midterm Review of the Implementation of the Sendai*



図1 仙台市との共同研究報告書

(出所) 仙台市・東北大学災害科学国際研究所 (2023)

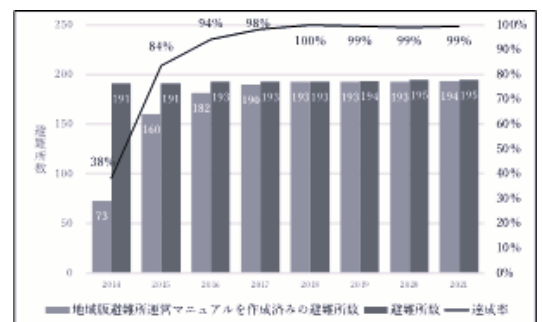


図2 グローバル指標 E (防災戦略) に係る定量的な評価の例

(出所) 仙台市・東北大学災害科学国際研究所 (2023)

Framework for Disaster Risk Reduction 2015-2030. <https://www.undrr.org/publication/report-midterm-review-implementation-sendai-framework-disaster-risk-reduction-2015-2030>

仙台市・東北大学災害科学国際研究所. (2023). 『仙台防災枠組 2015-2030 に係る中間評価報告書』. <https://sendai-resilience.jp/media/pdf/sfdr2023-2.pdf>

### (3) 文化遺産防災マップの構築と能登半島地震における被災推定

蝦名裕一

#### 要約:

2023年度は、国や自治体が指定する文化財や歴史的価値を有する様々な文化遺産の位置情報を登録した文化遺産防災マップについて、国・都道府県が指定する文化財約 35000 件の位置情報の登録を完了し、市町村の指定文化財や未指定文化財の位置情報登録を進めた。この文化遺産防災マップを基盤として、令和 5 年 4 月より岩手県立博物館が岩手県版の文化遺産防災マップを県内の文化財関係者にむけて公開、11 月 24 日には県内の文化財関係者が同マップを活用した図上訓練が実施された。

2024 年 1 月 1 日に発生した令和 6 年能登半島地震に際しては、石川県・富山県・新潟県における被災の可能性が高い国・県指定文化財をリストアップし、1 月 5 日までに文化財関係機関各所に情報共有をおこなうとともに、能登半島地震の文化遺産における被害推定について、1 月 9 日に実施された災害科学国際研究所の令和 6 年能登半島地震に関する速報会において報告した。

#### 実績報告:

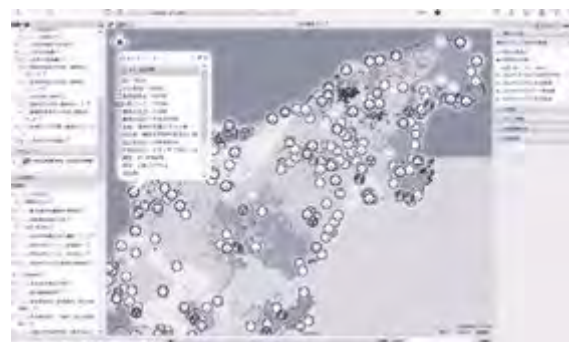
文化遺産防災マップとは、国や自治体が指定する文化財や歴史的価値を有する様々な文化遺産の位置情報をオンラインマップに登録し、ハザードマップや災害発生時の各種災害情報と重ね合わせることで、文化遺産に対する災害リスクを可視化したものである。これを活用することで、災害時の文化遺産レスキュー活動の迅速な開始を促すとともに、被災地の文化財担当者の負担軽減を目的としている。2023 年度までに、国・都道府県が指定する文化財約 35000 件の位置情報の登録を完了するとともに、市町村の指定文化財や未指定文化財の位置情報登録を進めている。文化遺産防災マップの構築と意義については ICOM-ICMS2023 東京大会にて報告した。

2023 年度は、東北大学で開発した文化遺産防災マップをベースとして、岩手県立博物館が岩手県版の文化遺産防災マップを構築し、県内の文化財関係者にむけて公開した。2023 年 11 月 24 日に県内の文化財関係者が同マップを活用して、水害の発生を想定した図上訓練を実施し、それぞれの文化財が直面する災害リスクを確認するとともに、災害時の相互連携関係について議論を深めた。

2024 年 1 月 1 日に発生した令和 6 年能登半島地震に際しては、1 日夜より石川県・富山県・新潟県における被災推定作業を実施し、1 月 5 日までに被災 3 県において推定震度 5 以上の地域に含まれる国・県指定文化財が約 1,500 件にのぼることを明らかとし、特に石川県においてはここでリストアップされた約 680 件の国・県指定文化



文化遺産防災マップを使った図上訓練



能登半島地震に対応した文化遺産防災マップ

財のうち、約 200 件が推定震度 6 以上の領域に含まれており、極めて被災の可能性が高いことを明らかとした。独立行政法人国立文化財機構文化財防災センターをはじめとする関係各所に情報共有をおこなった。これらの分析結果については、1 月 9 日に実施された本研究所の令和 6 年能登半島地震に関する速報会において報告した。

#### (4) 企画展「仙台に残されていた関東大震災の記録:100 年の時を経て特別公開」

川内淳史、佐藤大介、中鉢奈津子

##### 要約:

企画展「仙台に残されていた関東大震災の記録:100 年の時を経て特別公開」を、一般公開で開催した(2023 年 9 月~12 月)。同企画展では、本研究所の歴史学者らが、関東大震災当時の『河北新報』記事等から 9 つの重要テーマ(「被災地への出動」「『不逞鮮人』被災地の混乱の波及」「東北帝国大学と大震災」等)を抽出し、100 年前の大震災が仙台・宮城へもたらした影響を考察したパネルを作成した。同企画展は、宮城県が最大約 1 万人の避難者を受け入れたことをはじめ、宮城県も関東大震災で大きく影響を受けたことを明らかにするものであった。従来、関東大震災は関東被災地を中心に議論されがちであったが、本企画展により、同大震災は被災地を越えた広範なスコープで捉えるべきことが示された。また、本企画展に広報室がパネルデザイン等で協力し、市民に伝わりやすい形としたことで、同企画展は複数メディアで大きく報道され、効果的な災害科学コミュニケーション事例ともなった。

##### 実績報告:

関東大震災に関する企画展「仙台に残されていた関東大震災の記録:100 年の時を経て特別公開」を、災害研棟にて一般公開で開催した(2023 年 9 月 15 日~12 月 22 日)。主催:災害科学国際研究所、NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台、歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業東北大学拠点。共催:東北大学史料館)。同企画展においては、本研究所の川内淳史准教授・佐藤大介准教授(歴史文化遺産保全学分野)が、関東大震災当時の『河北新報』記事等から重要テーマを抽出し、関東大震災が仙台・宮城へもたらした影響を考察したパネルを作成・設置した。テーマは、「被災地への出動」「『不逞鮮人』被災地の混乱の波及」「大震災と『大仙台』構想」「東北帝国大学と大震災」「大震災から時が過ぎて」等、9 つである。企画展には災害研広報室も協力し、パネルは小森光職員により市民にも見やすい形にデザインされた。さらに、NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台的協力を得て、仙台で保存されていた関東大震災に関する貴重な映像や当時の記事も併せて展示された。広報室の中鉢奈津子特任准教授は、全体のコーディネーションを担当した。

本企画展は、宮城県が最大で約 1 万人の避難者を受け入れたことをはじめ、宮城県も関東大震災で大きく影響を受けたことを明らかにするものであった。従来、関東大震災は東京・神奈川などの被災地を中心に議論されることが主であったが、本企画展により、関東大震災は被災地を越えた広範なスコープで捉えるべきことが示された。また、研究者と広報室が連携し、研究者の知見を市民へ伝わりやすい形で表現したことにより、同企画展はメディア(新聞・テレビ)でも大きく取り上げられることとなり、大学を越えた社会的波及効果も得られた。さらに、本企画展の内容は学会発表としてまとめられ、論文化された。

本企画展は、100 年前の大震災に関する事実を掘り起こし、同震災を捉える視点の転換をはかった点で大きな意義があった。また、本企画展は、一般市民との効果的な災害科学コミュニケーション事例ともなり、将来の首都直下地震が全国に影響を及ぼす可能性や、防災の重要性も喚起することとなった。

##### ●学会発表

・佐藤大介、川内淳史「関東大震災と仙台市・宮城県—地域資料に見る」第 11 回歴史地震資料研究会、2023 年 11 月 18 日、オンライン、新潟大学災害・復興科学研究所「日本海沿岸地域を中心とした地震・火山現象の解明のための史料収集と解析」研究グループ

##### ●論文

・川内淳史「〈被災〉の想像力—関東大震災と仙台・宮城」『被災学』1 号、東北学院大学、2024 年 3 月刊行予定

##### ●メディア報道

・2023/9/19 NHK「東北大学で関東大震災と宮城の関わりを紹介する企画展」

- ・2023/9/27 朝日新聞「関東大震災、仙台に流れ込んだ避難者とデマ 東北大・災害研で企画展」
- ・2023/9/27 goo ニュース「関東大震災、仙台に流れ込んだ避難者とデマ 東北大・災害研で企画展」
- ・2023/10/2 河北新報「被災者、宮城に1万人避難 駅周辺で炊き出し 東北大・企画展 < 関東大震災 100 年 >」
- ・2023/11/3 毎日新聞「関東大震災の研究成果展 宮城でも被災支援」

●企画展のポスター・会場の様子



(5) 災害・健康危機管理の研究手法に関する WHO ガイダンス日本語版総監修

江川新一、佐々木宏之、伊藤潔、杉浦元亮、藤井進、國井泰人、マス・エリック、ボレー・セバスチャン・ペンメレン、稲葉洋平、鈴木正敏、佐藤翔輔、児玉栄一、栗山進一

要約:

WHO により刊行された「災害・健康危機管理ガイドンス」を、災害医学研究部門を中心とする所内 13 名、所外 16 名の研究者・実務者の協力を得て翻訳した日本語版が 2023 年 9 月 1 日に無料公開されました。災害と社会の変化に対応して変化する“Living Textbook”としてこれからも刷新されていく予定である。再現が不可能な災害という現象を科学的にとらえるための研究テーマ、備えや対応のための介入を計画・評価してエビデンスに構築する手法、医学・公衆衛生学以外の研究領域との融合、社会的に弱い立場にある人々へのアプローチ、パンデミックと複合災害など、社会全体に影響を及ぼす災害を科学的にとらえるとともに、研究者として成功するための考え方と手法も学ぶことができ、災害科学の研究者として国際発信ができるようになるための日本語でのガイドンスである。

実績報告:

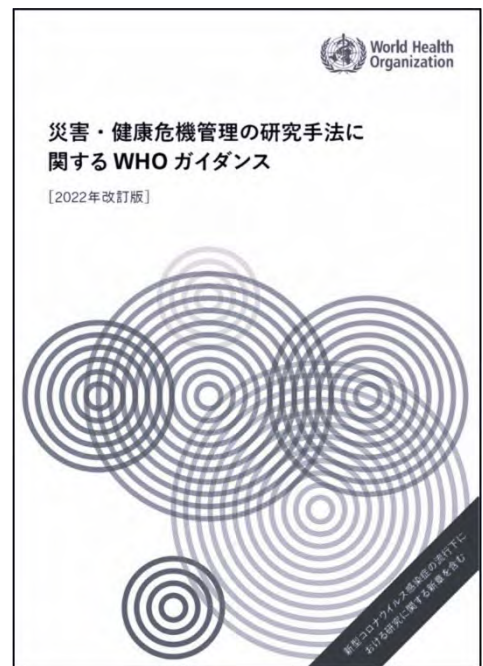
実績報告：仙台防災枠組の健康面を社会実装するために、世界保健機関 (WHO) は災害健康危機管理枠組を策定し、その学術研究を推進するために世界ではじめて災害健康危機管理の研究手法に関する WHO ガイダンスを出版した。本研究所の江川新一教授は、所内外の幅広い研究者・実務者とともに、わが国のケーススタディとして災害を科学的に解析し、得られた知識を社会実装する「build back better」を繰り返すことによりレジリエントな社会を実現してきたことを序論 (第 1 章) で執筆するとともに、このガイドンスの日本語版への翻訳を総監修した。ガイドンスは、再現することが困難な災害に対する研究課題の同定と把握 (第 2 章)、研究スコープの決定 (第 3 章)、研究デザイン (第 4 章)、研究プロセスと研究成果を論証する特別テーマ (第 5 章)、新型コロナウイルスパンデミック (第 6 章)、研究者の手引き (第 7 章) からなる英文 634 ページの体系的な教科書となっている。災害を時系列をもったスパイラルな現象としてとらえ、備えや対応を改善するための介入をどのように計画、評価し、科学的なエビデンスにしていくかが説かれている。公衆衛生学的手法のみならず、量的研究、準実験的手法、質的研究によるエビデンスの構築、GIS (地理情報システム)、社会経済学的手法、クラウドソーシング、社会の中で弱い立場にある集団へのアプローチ、災害としてのパンデミックとその存在下での複合災害など、全社会的な現象である災害を

科学的にとらえる方法論がまとめられている。よい研究者になるための考え方、グラント申請、論文の書き方、メンターのあり方にも触れている。

江川新一教授は、本研究所の災害医学研究部門を中心とする国内 29 名の研究者・実務者とともにこのガイダンスを翻訳する総監修を行った。若手研究者が災害に取り組むための足掛かりとなるよう、用語集にも日本語の参考文献をつけ、日本語と該当する英文が同時に理解できる翻訳スタイルにしている。日本語で概念を理解するとともに、災害に関する英文の言い回しを見ることで原文の意図するところを正しく理解し、健康を中心とする災害科学を推進し、国際的に発信できるようになるための研究ガイダンスである。日本語版ガイダンスは関東大震災から 100 年が経過した 2023 年 9 月 1 日にオンラインで無料公開された。

#### 社会への波及効果

「災害が健康に被害をもたらす」という文言は 2015 年の仙台防災枠組ではじめて明記され、その健康被害の実態把握は古くて新しい課題である。このガイダンスの日本語訳が出版されたことにより、医学部、看護学部をはじめとするわが国の保健医療従事者教育のカリキュラムに早速用いられています。また、わが国の災害医療体制が阪神淡路大震災、東日本大震災を契機に研究を踏まえて進化し社会実装されてきたことは世界の中でも先進的で、ASEAN 地域の災害医療対応のモデルにもなっている。本ガイダンスは、常に変化し続ける健康被害に対応して進化しつづける災害医療研究の生きた教科書として活用されていくものである。



## 5. 2. B. アクティビティレポート一覧

### 2023.4～2024.3 実施分

実施日	タイトル
2023/4/13	2023年2月6日トルコ・シリア地震について関係機関訪問と被災地視察を実施しました
2023/4/17	プリマス大学の研究者と共同で三陸海岸における津波石の調査を行いました
2023/4/26	第11回「震災対策技術展」東北において講演・展示を行いました
2023/4/26	日本建築家協会主催のシンポジウムにおいて講演を行いました
2023/5/9	世界災害救急医学会(WADEM 2023 Killarney)でパネルディスカッションに登壇しました
2023/5/12	G7科学技術大臣会合会場にて東北大学災害科学国際研究所の展示を実施しました
2023/5/13	G7科学技術大臣会合関係者が東北大学災害科学国際研究所を視察しました
2023/5/15	International Workshop for Learning Trajectories of Catastrophic Disasters and Building Resilience to Natural Hazards and Risks
2023/5/17	ニューヨークの国連本部において開催された仙台防災枠組の中間評価に係るハイレベル会合等に参加しました
2023/5/21	日本地球惑星科学連合2023年大会において学生優秀発表賞を受賞しました
2023/5/22	Collaboration with the French National Center of Scientific Research (CNRS) on FranceJapan Comparative Study of Disaster History, Memory, and Communication
2023/5/23	第6回特別講演会 (DRMコロキウム) : 相互連結した災害リスクの解説 (Understanding Interconnected Disaster Risks) を開催しました
2023/5/23	6th DRM Colloquium: Understanding Interconnected Disaster Risks With Prof. Dr. Xiomeng Shen: UNU-ViE   UNU-EHS
2023/5/26	第82回IRIDeS金曜フォーラムを開催しました
2023/5/27	第52回 (2023年度) 地域安全学会研究発表会 (春季) に参加しました
2023/5/27	地域安全学会年間優秀論文賞を受賞しました
2023/5/27	地域安全学会論文奨励賞を受賞しました
2023/6/1	i-Rec international conference and workshop in Japanを開催しました
2023/6/1	i-Rec international conference and workshop in Japan
2023/6/2	「令和5年度 石巻市管理職対象学校防災研修会」で講師を担いました
2023/6/3	International Conference on Arid Land/Desert Technology 15で発表しました
2023/6/8	北京科技大学から副学長と教員が来訪しました
2023/6/12	Invited presentations and meetings at universities in South West England
2023/6/19	第1回バリアフリーとインクルーシブ防災セミナー「医療的ケア児・者と災害」を開催しました
2023/6/21	Australia-Japan Joint Symposium on Tourism and Disaster Resilience
2023/6/21	「オーストラリア・日本共同シンポジウム:レジリエンスの観点からみた災害とツーリズム」を行いました
2023/6/22	IRIDeS member is currently visiting UCL-IRDR
2023/7/3	仙台市から特別市政功労者として表彰されました
2023/7/7	アイトープ・放射線研究発表会 若手優秀講演賞を受賞しました
2023/7/8	いわき市総合防災訓練の実施支援を行いました
2023/7/8	PREEMPTIVE ASI Japan Workshop 2023を実施しました
2023/7/10	第43回 Esriユーザー会 (2023 Esri User Conference) に参加しました
2023/7/13	The 28th IUGG General Assemblyに参加しました
2023/7/19	第2回バリアフリーとインクルーシブ防災セミナー「視覚障がい者と災害」を開催しました
2023/7/22	IRIDeS-IRDR co-organized UCL Grand Challenge Workshop and Resilience Symposium
2023/7/22	2022年度レジリエンス共創研究報告会—第83回IRIDeSオープンフォーラム(旧IRIDeS金曜フォーラム)—を開催しました
2023/7/24	第8回APRUマルチハザードサマースクールを開催しました



実施日	タイトル
2023/7/29	令和5年度宮城県災害医療コーディネート研修会を開催しました
2023/8/2	アメリカ合衆国バーモント州にてカルバン・クーリッジ元大統領就任100周年記念式典に参加
2023/8/4	アメリカ合衆国バーモント州にて1923年関東大震災支援に対する日本からの感謝状を確認・撮影しました
2023/8/19	「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害時組織対応セミナーを実施しました
2023/8/21	木材利用システム研究会 で招待講演を行いました
2023/8/24	燃料電池バスによる避難所の環境改善実証実験を行いました
2023/8/26	「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害メンタルケア実習を実施しました
2023/9/1	多賀城市で小型モビリティによる避難に関する実証実験を行いました
2023/9/2	多摩スポーツセンターでみらいの避難所体験会が開かれました
2023/9/8	日本学術会議:持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2023に登壇しました
2023/9/14	HERI-TECH2023 文化財防災シンポジウムにおいて講演しました
2023/9/15	企画展「仙台に残されていた関東大震災の記録:100年の時を経て特別公開」を開始
2023/9/16	第12回環太平洋コミュニティデザインネットワーク会議:「過去と将来を見据えて:危機に瀕したコミュニティと正義」にてシンポジウムと現地視察が行われました
2023/9/16	12th Conference of the Pacific Rim Community Design Network: "Looking Back and Looking Forward: Community and Justice in Crisis": Conference and site visits
2023/9/17	第42回日本自然災害学会学術講演会に参加しました
2023/9/18	ぼうさいこくたい2023において、セッションを開催しました
2023/9/18	ぼうさいこくたい2023にてワークショップ展示を実施しました
2023/9/20	International collaboration on the 2023 Southeastern Türkiye earthquakes under J-RAPID has started
2023/9/20	J-RAPIDによる2023年テュルキエ南東部地震に関する国際連携プロジェクトを開始しました
2023/9/21	カフラマンマラシュ地震の学校防災教育に関する調査研究プロジェクトを開始しました
2023/9/23	Symposium on Memories and “Negative History”: How to convey the 3.11 Disasters? Co-organized by IRIDeS and the Hoover Institution of Stanford University
2023/9/28	東北大学災害科学国際研究所シンポジウム(第84回IRIDeSオープンフォーラム) 「関東大震災100年の節目に考える『これからの防災』」を開催しました
2023/10/5	ロンドン大学ユニバーシティカレッジロンドン学長来訪
2023/10/5	Visit of the President of University College London to the International Research Institute of Disaster Science, Tohoku University
2023/10/7	「南陽アーティストフェスティバル」の中で「防災BOSAIアートトークセッション」が開催されました
2023/10/7	片平まつり2023 災害科学国際研究所企画を行いました
2023/10/7	片平まつりで避難所体験イベントを行いました
2023/10/11	AIWEST-DR2023に参加しました
2023/10/11	AIWEST-DR 2023 Conference report
2023/10/12	AIWEST-DR 2023:インクルーシブ防災のスペシャルセッションを主催しました
2023/10/12	AIWEST-DR 2023: Special Session on Inclusive Disaster Risk Reduction (Hosted by IRIDeS)
2023/10/17	ASEAN Institute for Disaster Health Management (AIDHM)の開所式・学術会議・運営委員会に参加しました
2023/10/18	International Symposium “Disaster & Memory”
2023/10/18	第27回 東北大学災害科学研究拠点セミナーを開催しました
2023/10/19	マレーシアスランゴール州・マレーシア工科大学とともに、シンポジウム「Localizing DRR Actions」を開催しました
2023/10/28	第75回東北大学祭において模擬講義を行いました
2023/10/28	日本災害情報学会第27回学会大会に参加し優秀発表賞を受賞しました
2023/10/29	報告会「2023年トルコ・シリア地震のトルコにおける被害 概要と教育活動への影響、防災教育の取り組み」で発表しました
2023/10/30	「東京ビエンナーレ2023」において講演を行いました
2023/10/31	インドネシア国家防災庁・気象気候地球物理庁の合同調査団が東北大学災害科学国際研究所を訪問されました

実施日	タイトル
2023/11/6	災害研教職員を対象とした「AED使用講習会(第7回)」を実施しました
2023/11/11	「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」宮城県医療救護活動従事者研修会を実施しました
2023/11/14	第5回WHO健康危機・災害リスク管理研究ネットワークのコアメンバー会議・WHO神戸センターフォーラムに登壇しました
2023/11/14	第3回バリアフリーとインクルーシブ防災セミナー「聴覚障がい者・盲ろう者と災害」を開催しました
2023/11/18	第53回地域安全学会研究発表会(秋季)に参加しました
2023/11/18	サイエンスアゴラ2023に参加しました
2023/11/18	SCIENCE AGORA 2023
2023/11/20	Collaboration on tsunami and disaster research with universities in the UK
2023/11/23	令和5年度宮城県災害薬事コーディネーター研修を実施しました
2023/11/25	「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害国際協力セミナーを実施しました
2023/11/27	東北大学災害科学国際研究所と八戸工業大学との学術・研究交流協定調印・5周年記念講演会を行いました
2023/11/27	富谷市で燃料電池バス・自動車による冬季の避難所環境改善実証実験を行いました
2023/11/28	Collaboration on tsunami research with UCL Earthquake & People Interaction Centre (EPICentre)
2023/11/29	第18回APRUマルチハザードシンポジウム「Advancing Frontiers in Disaster Risk Science, Technology and Policy」を開催しました
2023/12/2	「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害科学概論を実施しました
2023/12/6	第2回村上直處記念災害研究賞(The MURAKAMI Suminao Award for Disaster Research 2023)を受賞しました
2023/12/7	第13回巨大津波災害に関する合同研究集会を開催しました
2023/12/9	「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害公衆衛生セミナー・実習を実施しました
2023/12/9	インドネシアにおけるより良い復興の時空間推移に関する研究プロジェクトを開始しました
2023/12/12	第1回SATOYAMAフォーラムに参加しました
2023/12/13	第11回 東北大学附置研究所若手アンサンブルワークショップを開催しました
2023/12/26	明治学園(北九州市)の生徒7名が災害科学国際研究所に来訪しました
2024/1/13	令和6年能登半島地震に対するJMAT宮城第1次隊に派遣されました
2024/1/16	Professor David Alexander from UCL visited in Japan
2024/1/17	国立大学病院長会議講演会で病院BCPについて講演しました
2024/1/17	気仙沼市令和5年度第2回震災の教訓等を伝承する職員研修が開催されました
2024/1/20	「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」急性期活動実習(BHELP)を実施しました
2024/1/23	国立台東大学から研究者と学生が来訪しました
2024/1/23	令和5年度第8回気仙沼市防災フォーラム兼東北大学災害科学国際研究所第36回防災文化講演会を開催しました
2024/1/26	Hybrid Book Break: Pursuing Justice after the Great East Japan Earthquake, Tsunami, and Fukushima Nuclear Accident
2024/1/29	インドネシア・バンダ・アチェでの災害と障がいに関わるフィールドワーク
2024/1/29	Fieldwork on Disaster and Disabilities in Banda Aceh, Indonesia
2024/2/4	第2回みやぎ災害伝承ポスターコンクール授賞式を行いました
2024/2/4	令和5年度3.11学びなおし塾を開催しました
2024/2/15	「令和5年度市町村・インフラ系企業防災関連担当者研修会～3.11からの学び塾～」を開催しました
2024/2/17	大阪公立大学 都市科学・防災研究センター(UReC)主催「いのちを守る都市づくり コミュニティ防災フォーラム2024」で基調講演をしました
2024/2/21	International Symposium “Findings from the 2024 Noto Peninsula Earthquake and Tsunami”
2024/2/22	第29回日本災害医学会でWHO健康開発総合研究センターフォーラムおよび世界災害救急医学会特別企画に登壇しました
2024/2/22	【学際活動】第29回日本災害医学会総会・学術集会以研究成果を報告しました
2024/2/26	【能登半島地震】日本災害医学会災害医療コーディネーションサポートチームメンバーとして石川県庁に派遣されました
2024/2/26	International Disaster and Recovery Workshop held at IRIDeS
2024/2/26	Winter School on Disasters and Memory

実施日	タイトル
2024/2/27	映画監督の堀江貴氏との座談を行いました
2024/2/27	Members of IRIDeS organised the workshop at UCL IRDR
2024/3/1	3.11メモリアルイベント2024「けせんぬま伝承・防災文化祭2024」が開催されました
2024/3/3	Professor Maureen Fordham from UCL visited in Japan
2024/3/4	学校防災に関する学術交流で台湾国立成功大学と台湾教育部を訪問しました
2024/3/8	第5回東北大学病院BCP講演会で総合討論に参加しました
2024/3/8	Dr. Canay Doğulu (TED University) visited IRIDeS for pushing forward the J-RAPID Türkiye–Japan collaboration project on disaster education
2024/3/9	東日本大震災メモリアルシンポジウム2024「”誰一人取り残さない”インクルーシブ防災」を開催しました
2024/3/9	仙台防災未来フォーラム2024 において災害レジリエンス共創センターシンポジウム「災害デジタルツインの構築と活用に向けて」を開催しました
2024/3/9	仙台防災未来フォーラム2024でイオン防災環境都市創生共同研究部門の発表・展示を行いました
2024/3/9	仙台防災未来フォーラム2024にてブース展示を実施しました
2024/3/10	「防災と自分の身を守るプロジェクト～ワークショップで楽しく学ぼう!!～」に参加しました
2024/3/11	令和6年気仙沼市東日本大震災追悼と防災のつどいが開催されました
2024/3/12	仙台BOSAI-TECHカンファレンス2024で特別講演と成果発表会を行いました
2024/3/12	J-RAPID Workshop on support and utilization of digital archives related to the Kahramanmaraş (Southeast of Türkiye) earthquake
2024/3/12	東京大学地震研究所と研究協力協定を締結しました
2024/3/13	地理情報システム学会2023年度東北支部研究交流会に登壇しました
2024/3/17	3.11メモリアルイベント2024 特別フォーラム「ともに考えるこれからの伝承館」が開催されました
2024/3/18	東北大学×日本証券業協会 SDGsシンポジウムに登壇しました
2024/3/19	令和5年度防災シンポジウム・第18回災害に強いコミュニティのための市民フォーラムを開催しました
2024/3/19	日本地理学会2024年春季学術大会、および同大会「令和6年能登半島地震緊急公開シンポジウム」に参加、発表しました
2024/3/20	台湾教育部・国立成功大学・学校長らによる訪問を受けました
2024/3/25	第18回防災学術連携シンポジウムに参加しました
2024/3/25	能登半島の地震災害に関する科研・特別研究促進費(突発災害調査)の研究集会に出席、発表しました(金沢大学、石川県立大学との連携)
2024/3/27	第41回北山市民医学講座で災害医療について講演しました



2023.4～2023.9 実施分



2023.10～2024.3 実施分

## 5. 2. C. イベントフライヤー等

2023.6.17 多分野防災ワークショップ

**Be prepared! Let's think about BOSAI.**  
**Multicultural disaster preparedness workshop**  
**for students in Sendai.**

**Date and Time:** June 17, 2023 (Sat) 10:00am-4:30pm  
**Location:** Sendai Multicultural Center Lecture Room (Conference Building 1F, Sendai International Center)

**Organizers:**  
 International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS) of Tohoku University  
 Sendai Tourism, Conviviality and International Association (SenTIA)

**Target Group:** International students and foreign residents who want to learn about disaster prevention and preparation (all nationalities welcome)  
**Instruction Languages:** English and Japanese

**Participation:** Free of charge  
**Number of Participants:** 20 ※ Admitted on a first-come-first-served basis

**Outline:**  
 A disaster mitigation workshop is being held for international students and foreign residents. In the first half of the workshop, learn about the disaster mitigation knowledge needed for living in Japan, as well as how to prepare for disasters while interacting and playing games with other participants. The workshop concludes with a field trip to Sendai's Arakama area, which was devastated by the 2011 Great East Japan Earthquake. At the former Arakama Elementary School which is designated as a disaster ruins heritage site, participants can join a kataribe (disaster storyteller) tour with English interpretation.

By participating in this workshop, not only will you learn about natural hazards in Japan and Sendai in particular, but also gain knowledge of useful disaster mitigation goods and multilingual information, so that you will be able to take the proper steps to protect yourself in the event of a disaster.

Participation in the workshop and guided tour at Arakama Elementary School Disaster Ruins will be free. A free charter bus will be used for transportation between the venue (Sendai Multicultural Center) and Arakama Elementary School Disaster Ruins. Please let us know beforehand if you plan to leave the group and stay in Arakama after the tour. Please prepare your own lunch.

**Program**

10:00am-12:00pm	Introduction, Workshop
12:15pm-1:00pm	Move to Yuriage
1:00pm-2:15pm	Lunch break, Field trip around Yuriage
2:15pm-2:40pm	Move to Arakama
2:45pm-3:45pm	Kataribe tour at the Arakama Elementary School (Disaster Ruins) (Japanese with English interpretation)
3:45pm	End of the program. *If you wish to stay in Arakama, please inform us beforehand.
Approx. 4:30pm	Arrive at Sendai Multicultural Center. Part ways with group.

**Registration:** <https://forms.gle/8p7C9U3L6L6d1d1v7>  
 \*Participating only in the morning session is also possible  
**Deadline:** June 8, 2023 (Thu)  
**Feedback:** <https://forms.gle/8p7C9U3L6L6d1d1v7>

**Be prepared! Let's think about BOSAI.**  
**多文化防災ワークショップ**

**日設:** 2023年6月17日 (土) 10:00~16:30  
**会場:** 仙台多文化共生センター研修室 (仙台国際センター会館棟1階)  
**共催:** 東北大学災害科学国際研究所・仙台観光国際協会 (SenTIA)  
**対象:** 防災について学びたい外国人留学生・外国人市民  
**言語:** 英語、日本語  
**参加:** 無料  
**定員:** 20名 ※先着順

**概要**  
 外国人留学生・市民のための防災ワークショップを開催します。ワークショップの前半では、日本で暮らす上で必要な防災知識を学んだり、ゲームを通じて参加者同士が交流しながら災害への備えについて学びます。ワークショップの後半では、2011年の東日本大震災で大きな被害を受けた宮城地区へ行きます。震災遺構に指定されている旧荒川小学校で、英語通訳付きの「語り部」ツアーに参加します。このワークショップに参加すれば、日本・特に仙台で起こる自然災害について学ぶだけでなく、便利な防災グッズや災害時の多言語情報について知り、災害への備えや災害時に身を守るための行動ができるようになります。ワークショップと震災遺構旧荒川小学校でのガイドツアーへの参加は無料です。会場 (仙台多文化共生センター) から震災遺構旧荒川小学校へは、貸切バスで移動します (無料)。現地解散を希望する方は、事前に申し出てください。昼食は各自で準備してください。

**プログラム**

10:00-12:00	導入、ワークショップ
12:15-13:00	移動
13:00-14:15	休憩・自由見学 (開上)
14:15-14:40	移動
14:45-15:45	震災遺構 旧荒川小学校の語り部ツアー (日本語、英語通訳付き)
15:45	プログラム終了。※ 現地での解散を希望する人は、事前に申し出てください。
16:30頃	仙台多文化共生センター着、解散。

**申込み:** <https://forms.gle/8p7C9U3L6L6d1d1v7>  
 ※ 午前だけの参加もできます。  
 ※ 申し込みは2023年6月8日 (木)  
**連絡先:** [sentia@tohoku.ac.jp](mailto:sentia@tohoku.ac.jp)

2023.6.22 オーストラリア・日本共同シンポジウム：レジリエンスの観点からみた災害とツーリズム

**Australia-Japan Joint Symposium: Tourism and Disaster Resilience**  
 オーストラリア・日本共同シンポジウム：観光と災害レジリエンス

**2023 June 22 / 6月22日**  
 10:00 - 17:00 (JST / 日本標準時間)  
 11:00 - 18:00 (AEST / 東オーストラリア標準時間)

**Online and In-Person / 開催：オンライン**  
 Tohoku University IRIDeS 1F Multi Purpose Room  
 東北大学災害科学国際研究所1F多目的ホール

**協賛機関**  
 TOHOKEI 東松島市  
 IRIDeS  
 SenTIA  
 東松島市観光協会  
 東松島市観光協会  
 東松島市観光協会

オーストラリアと日本では、多くの地域社会が自然災害にさらされており、過去に多くの災害が発生しています。同時に、両国では観光産業が成長しており、観光客やホストコミュニティの脆弱性を減らす可能性があります。北日本の東北地方では、観光や観光業を再構築した2019年のラグビーワールドカップと、COVID-19の流行期間中に開催された2021年の世界ラグビーカップと、2つの大型イベントが開催されたばかりです。オーストラリアでは、オリンピックやラグビーワールドカップなどのイベントの開催が予定されており、オーストラリアでは、オーストラリアと日本の政府代表、専門家が一宮に合し、観光レジリエンスを強化するための詳細の共有と交流が行われます。観光は水産業と密接な関係があるため、水産業、観光業、観光など、多くのセクターに影響を与えます。本シンポジウムでは、観光がコミュニティの回復可能性にどのように役立つかに焦点を当て、さらに理解を深めたいと思います。

オンライン・対面の参加無料。一般参加の方は、下記の QR コードからお申し込みください。対面での参加費は、最大50名までとさせていただきます。

申し込みフォーム: <https://forms.gle/Sa6u8d1d1v7>



2023.8.3. The 2nd Joint Seminar on the 2023 Earthquake in the Southern Türkiye and Syria

**The 2nd Joint Seminar on the 2023 Earthquake in the Southern Türkiye and Syria**

**Date:** 3 (Thursday) August 2023 online  
**Time:** 17-20 (Japan), 11-14 (Türkiye), 9-12 (UK)

**Current Status and Issues After 6 Months, strategy for recovery, reconstruction, BBB, and Resilient society**

**Organized by**  
 Tohoku University, University College London, Middle East Technical University and Istanbul Technical University

**Coordinators:** Dr. Anesawi Suppasri (Dr. Erol Kaçmaz IRIDeS Tohoku University).

**Opening remarks:** IRIDeS's former Director  
 Prof. Fumihiko Imamura (IRIDeS, Tohoku University)  
**Mechanism of the earthquakes and seismic activity over the past six months**  
 Prof. Joanna Faure Walker (UCL IRDR)  
**Prof. Shinji Toda (IRIDeS, Tohoku University)**  
**Characteristics of the earthquake ground motion and damage to buildings**  
 Dr. Ufuk Yazgan and Dr. Fatih Sütcu Istanbul Technical University  
**Prof. Tiziana Rossetto (UCL EPICENTRE) and Dr. Yasemin Didem Akta (Faculty of Engineering Science, UCL)**  
**Prof. Ikago Kohju, Dr. Hiroki Sasaki and Dr. Ryuta Enokida (IRIDeS, Tohoku University)**  
**Prof. Shunichi Koshimura (IRIDeS, Tohoku University)**  
**Prof. Gretchen Kalonji and Prof. Kaoshan Dai (IDMR, Sichuan University)**  
**Gender and other issues related to social vulnerability**  
 Dr. Miwako Kitamura (IRIDeS, Tohoku University) and Dr. Estalia Carpi (UCL IRDR)  
**Recovery and reconstruction and future issues**  
 Prof. Ahmet Yalçınar, Dr. Gozde Guney Dogan, Dr. Meltem Senol Balaban (METU)  
 Prof. David Alexander (UCL IRDR)  
**Closing:** UCL IRDR Director  
 Prof. Joanna Faure Walker (UCL IRDR)

2023.9.18 ぼうさいこくたい 2023  
災害科学国際研究所主催セッション

**ぼうさいこくたい 2023**  
東北大学災害科学国際研究所主催セッション

本当はとて身近な「仙台防災枠組」！  
一掃り返しの年に考える、今まで と これから～

日時：9月18日(月・夜)10:30～12:00  
場所：横浜国立大学 S2-1 都市科学部演義棟 106 講義室  
オンライン同時配信

【プログラム】

- 開会挨拶と趣意説明  
 東山 直一 (東北大学災害科学国際研究所 所長)
- 議題解説(各 10分)
- ① 仙台防災枠組の市民への理解促進に向けた取り組み  
 泉 貴子 (東北大学災害科学国際研究所 教授)
- ② 仙台市としての仙台防災枠組中間評価の取り組み  
 高橋 みるこ (仙台防災防災推進課 企画・推進担当 企画推進課長)
- ③ 仙台防災枠組の実現-インフラレジリエンス強化の観点から  
 東山 伸典 (宮城県立野宮アパルタメントセンター ちろちろセンター長)
- ④ 仙台防災枠組の実現-BCD(防災)の観点から  
 小原野 剛 (予備校ワールドサービス 事務局長)

3. 議題解説者と企画者との意見交換  
 テーマ：『連携して仙台防災枠組を進めるのは？』  
 進行/司会 泉 貴子(同上)  
 パネラー 上記議題解説者

4. 閉会挨拶  
 主催進行：丸山 透明(東北大学災害科学国際研究所 教授)

IRiDeS  
東北大学災害科学国際研究所

2023.9.23～9.24  
負の歴史の伝承シンポジウム

IRiDeS HOOVER INSTITUTE Stanford University

東北大学災害科学国際研究所 (IRiDeS)、スタンフォード大学共同企画  
**負の歴史の伝承シンポジウム**  
如何に東日本大震災を伝えるか？

主催：東北大学 災害科学国際研究所、共催：スタンフォード大学フーバー研究所  
協力：(一財) 東北防災復興研究センター、東北大学防災センター

を学問する。

**第1部：学術発表とシンポジウム 9/23** 自由参加  
 とき：9月23日(土) 午前9時から午後6時  
 ところ：東北大学 災害科学国際研究所 (宮城野宮山内宮城野野宮キャンパス 405-1)  
 ※定員になり次第、締め切ります。申込はホームページからお申し込み下さい。申し込み締め切りは9月15日。以下は東北大学が負担しますので参加費や旅費などは各自負担して下さい。2000円程度

**第2部：ワーキングスタディ 9/24** 自由参加  
 とき：9月24日(日) 午前9時から午後6時  
 内容：東北大学災害科学国際研究所、防災復興センター職員が語る被災地での経験と学び  
 ※定員になり次第、締め切ります。申込はホームページからお申し込み下さい。申し込み締め切りは9月15日。以下は東北大学が負担しますので参加費や旅費などは各自負担して下さい。2000円程度

2023.9.28 災害科学国際研究所シンポジウム/  
第 84 回 IRiDeS オープンフォーラム  
関東大震災百年の節目に考える「これからの防災」

第84回 IRiDeS オープンフォーラム

東北大学災害科学国際研究所シンポジウム

関東大震災百年の節目に考える  
**「これからの防災」**

9/28 13:00 ~ 16:00

1923年関東大震災と2011年東日本大震災について議論し、社会の防災力向上を目指すシンポジウムを開催します。また、関連企画も開催を行います。

- 東北大学災害科学国際研究所 3F 多目的ホール (〒980-8571 仙台市青葉区下馬場 4-5-1 東電ビル 5F) (JR 仙台駅南口徒歩5分)
- オンライン同時配信
- 下記 URL または QR コードよりお申し込みください。  
<https://forms.gle/1uB7URGT31pzd36>
- 締切 9月21日(木)

無料

企画展  
仙台に残されていた関東大震災の記録  
100年の時を経て特別公開

2023年9月15日(金)～12月22日(金) 毎月第一 10:00～16:00  
※ 休館日です。休館日がない場合があります。詳細は Web でご確認ください。

東北大学災害科学国際研究所 2F 展示スペース < 申込不要 >

お問い合わせ 東北大学災害科学国際研究所 広報室  
022-757-2049 / koba@irides.tohoku.ac.jp

IRiDeS

2023.9.15～12.22～企画展  
仙台に残されていた関東大震災の記録

企画展 100年の時を経て特別公開

仙台に残されていた  
関東大震災の記録

9/15 ~ 12/22  
毎月第一 10:00 ~ 16:00

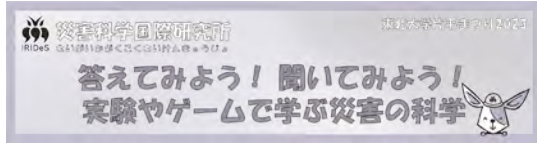
関東大震災の影響は東北にも及び、被災者は宮城県をきり全国に避難し、宮城県から被災地支援も行いました。このたび、仙台に残されていた関東大震災に関する貴重な映像や記事を紹介し、また、歴史学者による大正時代の河北新報記事の分析から、関東大震災が各地にも与えた影響の一端を浮かび上がらせてみます。

協賛：東北大学災害科学国際研究所、IRiDeS 企画展、仙台大学 防災推進センター、東北大学災害科学国際研究所、IRiDeS 企画展、仙台大学 防災推進センター、東北大学災害科学国際研究所、IRiDeS 企画展、仙台大学 防災推進センター

東北大学災害科学国際研究所  
2F 展示スペース < 申込不要 >

IRiDeS

2023.10.07 東北大学片平まつり 2023



2023.10.19 東北大学災害科学国際研究所  
第27回東北大学災害科学研究拠点セミナー  
第40回「災害と健康」学際研究推進セミナー  
第7回ヒューマンレジリエンス重点領域セミナー



2023.12.14 東北大学災害科学国際研究所  
第28回東北大学災害科学研究拠点セミナー  
第41回「災害と健康」学際研究推進セミナー  
第8回ヒューマンレジリエンス重点領域セミナー



2024.1.8 東日本大震災アーカイブシンポジウム



2024.2.22 東北大学災害科学国際研究所  
 第29回東北大学災害科学研究拠点セミナー  
 第42回「災害と健康」学際研究推進セミナー  
 第9回ヒューマンレジリエンス重点領域セミナー

**東北大学災害科学国際研究所**  
 第29回東北大学災害科学研究拠点セミナー  
 第42回「災害と健康」学際研究推進セミナー  
 第9回ヒューマンレジリエンス重点領域セミナー

**Biologist meets Disaster Psychiatry**

現代社会において広く用いられる「ストレス」という言葉は、三木忠雄博士の用語であり、ハンス・セリエによってメトや船舶が外部環境の刺激に晒して非正常な状態として再定義されました。一般には心理的影響として使われていますが、本セミナーでは生物学者、環境生物学者、災害心理学で、我々は心理学者と、DHA(災害ストレス)、ポッドキャストストレスといった形で見えています。

精神医学においては従来の疫学には遠く離れた環境的要素が強調に組み込まれてきています。特に災害精神医学の分野では、環境的要素の影響が重要視されます。しかし、環境的要素の存在は環境生物学者と疫学との間に隔りがあるという見方があります。そこで環境的要素は主体に作用してストレスを引き起こす、という点から環境生物学者と疫学との関係について考えます。

系内これまでの環境生物学者について「ストレス」という観点から取り扱ったことは、災害精神医学への応用において重要な鍵となると考えています。本セミナーでは私のこれまでの研究をストレスの観点から整理し、今後の研究の方向性についてご説明したいと思います。

**2024年2月22日(木)**  
**16:30~17:30** WEB開催 (ZOOM)

本セミナーは電子系研究科系統課程コース科目等の授業として履修可能です

お申し込み・お問い合わせ  
 東北大学災害科学国際研究所  
 「災害と健康」プロジェクトユニット  
 URL: <http://www.irides-podh.mind.tohoku.ac.jp>

2024.3.2 かたりつぎ

**かたりつぎ**  
 朗読と音楽と奇跡のピアノ

2024年3月2日(土)  
 13:30 14:00

入場無料・要入場券  
 500円 1000円 1500円

いわき芸術文化交流館アリオス 中劇場  
 TEL.0246-22-5800

お申し込み・お問い合わせ TEL.090-7663-4102 (平日9:00~17:00)

2024.3.9 仙台防災未来フォーラム 2024  
 災害科学国際研究所主催シンポジウム

**15th 仙台防災未来フォーラム 2024**  
 東北大学災害科学国際研究所主催シンポジウム

2024年3月9日(土) 会場 仙台国際センター

10:00 ~ 東日本大震災メモリアルシンポジウム 2024  
**「誰一人取り残さない」インクルーシブ防災**

12:15 ~ 令和6年能登半島地震復興支援シンポジウム  
**仙台防災枠組の理念に基づきどのような復興支援が可能なのか**

13:00 ~ 災害レジリエンス共創センターシンポジウム  
**災害デジタルツインの構築と活用に向けて**

14:30 ~ イオン防災環境都市創生共同研究部門シンポジウム 2024  
**レジリエント・コミュニティの創生に向けて**  
**イオン防災環境都市創生共同研究部門の取り組み**

お申し込み・お問い合わせ  
 ウェブフォームから <https://foma.gw/3zy3q74baat/cadd>  
 お問い合わせ 東北大学災害科学国際研究所  
 電話: 022-752-2049 Email: [mimomaru@irides.tohoku.ac.jp](mailto:mimomaru@irides.tohoku.ac.jp)

## 5.3. 研究・実践活動 データ集

### 5.3.A. 研究・実践活動 データ一覧

項目		
個人調査提出者数		68

学術論文(著者が学生だけのものは除外)		
<b>総数</b>		<b>307</b>
国内 国際	国内(日本語)	83
	国際(英語)	223
	国際(その他言語)	1
査読	査読あり	267
	査読なし	40
単著 共著	単著	13
	筆頭共著	40
	共著	254

書籍		
<b>総数</b>		<b>26</b>
研究書	研究書	13
	その他の著書	13
国内 国際	国内(日本語)	17
	国際(英語)	9
	国際(その他言語)	0
単著 共著	単著	0
	筆頭共著	4
	共著	22
共著のうち国際共著数		
種別	単行本	1
	編集本(編集者)	5
	編集本(著者)	13
	辞典・辞書	1
	教科書	2
	訳書	3
	その他	1

その他執筆物		
<b>総数</b>		<b>30</b>

学会発表(発表者が学生のみのは除外・別シートに)		
<b>総数</b>		<b>515</b>
国内 国際	国内	343
	国際	172

学会以外の研究者対象の発表(同上)		
<b>総数</b>		<b>184</b>
国内 国際	国内	137
	国際	47

研究者対象でない発表(同上)		
<b>総数</b>		<b>238</b>
国内 国際	国内	226
	国際	12
産官学 連携	小中高連携	51
	企業連携	33
	行政連携	114
	連携なし	40
	一般市民対象	158

学会および学術的なイベントの主催・共催・運営		
<b>総数</b>		<b>23</b>
国内 国際	国内	18
	国際	5
種別	シンポジウム	8
	講演会	4
	セミナー	4
	ワークショップ	1
	研究会	4
	その他	2

その他のイベントの主催・共催・運営		
<b>総数</b>		<b>116</b>
国内 国際	国内	91
	国際	25
種別	シンポジウム	33
	講演会	2
	セミナー	21
	ワークショップ	12
	研究会	15
	その他	33
	関与 形態	IRIDeS主催・共同主催
IRIDeS共催		27
IRIDeS後援・名義後援		6
IRIDeS協力		14
IRIDeS協賛・資金提供		1
IRIDeS展示		0
その他の機関の主催		21

特許		
<b>総数</b>		<b>9</b>

受賞		
<b>総数</b>		<b>15</b>



### 5. 3. B. 論文

#### 学術雑誌

論文題目名(原語)	論文掲載誌名(原語)	著者氏名(共著者含)	巻(号):開始-終了	発行年月日	DOI (Document of Identification)
<b>英語(査読有)</b>					
Sincere praise and flattery: reward value and association with the praise-seeking trait	Frontiers in Human Neuroscience	Shotaro Fujiwara, Ryo Ishibashi, Azumi Tanabe-Ishibashi, Ryuta Kawashima and Motoaki Sugjura	17(985047):	2023.2.15	<a href="https://doi.org/10.3389/fnhum.2023.985047">https://doi.org/10.3389/fnhum.2023.985047</a>
Weight-for-age z-scores of Japanese children using the World Health Organization Child Growth Standards	Acta Paediatrica	Masayuki Kobayashi, Mami Ishikuro, Taku Obara, Shinichi Kuriyama.	112(4):776-778	2023.4	10.1111/apa.16662
Secondhand smoke exposure is associated with the risk of hypertensive disorders of pregnancy: the Japan Environment and Children's Study	Hypertension Research	Kosuke Tanaka, Hidekazu Nishigori, Zen Watanabe, Kaoh Tanoue, Noriyuki Iwama, Michihiro Satoh, Takahisa Murakami, Tetsuro Hoshiai, Masatoshi Saito, Satoshi Mizuno, Kasumi Sakurai, Mami Ishikuro, Taku Obara, Nozomi Tatsuta, Ikuma Fujiwara, Shinichi Kuriyama, Takahiro Arima, Kunihiko Nakai, Nobuo Yaegashi, Hirohito Metoki, and the Japan Environment and Children's Study Group.	46(4):834-844	2023.4	10.1038/s41440-022-01144-3
Maternal postnatal bonding disorder and developmental delays in children: the Tohoku Medical Megabank Project Birth and Three-Generation Cohort Study	Archives of Women's Mental Health	Keiko Murakami, Aoi Noda, Mami Ishikuro, Taku Obara, Fumihiko Ueno, Tomomi Onuma, Fumiko Matsuzaki, Saya Kikuchi, Natsuko Kobayashi, Hirota Hamada, Noriyuki Iwama, Hirohito Metoki, Masahiro Kikuya, Masatoshi Saito, Junichi Sugawara, Hiroaki Tomita, Nobuo Yaegashi, Shinichi Kuriyama.	26(2):219-226	2023.4	10.1007/s00737-023-01298-0
Difficulties in Accessing Medication Records at the Time of a Large-Scale Disaster	Disaster Medicine and Public Health Preparedness	Fumihiko Ueno, Keiko Murakami, Masato Nagai, Hiroko Matsubara, Tomomi Onuma, Fumiko Matsuzaki, Aoi Noda, Mami Ishikuro, Taku Obara, and Shinichi Kuriyama MD, PhD.	17:e370	2023.4.5	10.1017/dmp.2022.301
Combined fat mass and fat-free mass indices and lung function among Japanese population: The Tohoku Medical Megabank Community-based Cohort Study	Journal of Epidemiology	Masato Takase, Mitsuhiro Yamada, Tomohiro Nakamura, Naoki Nakaya, Mana Kogure, Rieko Hatanaka, Kumi Nakaya, Ipei Chiba, Ikumi Kanno, Kotaro Nochioka, Naho Tsuchiya, Takumi Hirata, Yohei Hamanaka, Junichi Sugawara, Tomoko Kobayashi, Nobuo Fuse, Akira Urano, Eiichi N. Kodama, Shinichi Kuriyama, Ichiro Tsuji and Atsushi Hozawa.	:JE20220355.	2023.4.8	<a href="https://www.jstage.jst.go.jp/article/jea/advpub/0/advpub_JE20220355/_pdf/-char/en">https://www.jstage.jst.go.jp/article/jea/advpub/0/advpub_JE20220355/_pdf/-char/en</a>
Motivational decline and proactive response under thermal environmental stress are related to emotion- and problem-focused coping, respectively: Questionnaire construction and fMRI study	Frontiers in Behavioral Neuroscience,2023	Kelsy Hitomi dos Santos Kawata, Kanan Hirano, Yumi Hamamoto, Hajime Oi, Akitake Kanno, Ryuta Kawashima and Motoaki Sugjura	7(1143450):1--15	2023.4.13	<a href="https://doi.org/10.3389/fnbeh.2023.1143450">https://doi.org/10.3389/fnbeh.2023.1143450</a>
Association between frequency of breakfast intake before and during pregnancy and infant birth weight: the Tohoku Medical Megabank Project Birth and Three-Generation Cohort Study	BMC Pregnancy and Childbirth	Misato Aizawa, Keiko Murakami, Ipei Takahashi, Tomomi Onuma, Aoi Noda, Fumihiko Ueno, Fumiko Matsuzaki, Mami Ishikuro, Taku Obara, Hirota Hamada, Noriyuki Iwama, Masatoshi Saito, Junichi Sugawara, Nobuo Yaegashi and Shinichi Kuriyama.	23(1):268	2023.4.19	10.1186/s12884-023-05603-8
Association between being Overweight in Young Childhood and during School Age and Puberty	Children (Basel).	Genki Shinoda, Yudai Nagaoka, Fumihiko Ueno, Naoyuki Kurokawa, Ipei Takahashi, Tomomi Onuma, Aoi Noda, Keiko Murakami, Mami Ishikuro, Taku Obara, Hirohito Metoki, Junichi Sugawara and Shinichi Kuriyam.	10(5)909	2023.5.22	10.3390/children10050909
Deep exome sequencing identifies enrichment of deleterious mosaic variants in neurodevelopmental disorder genes and mitochondrial tRNA regions in bipolar disorder	Molecular Psychiatry	Masaki Nishioka, Jun Takayama, Naomi Sakai, An-a Kazuno, Mizuho Ishiwata, Junko Ueda, Takashi Hayama, Kumiko Fujii, Toshiyuki Someya, Shinichi Kuriyama, Gen Tamiya, Atsushi Takata and Tadafumi Kato.	s41380-023-02096-x	2023.5.30	10.1038/s41380-023-02096-x
Relationship between age-related hearing loss and consumption of coffee and tea	Geriatrics & Gerontology International	Gosuke Watarai, Jun Suzuki, Ikuko N Motoike, Miyuki Sakurai, Ryoukichi Ikeda, Tetsuaki Kawase, Kengo Kinoshita, Atsushi Hozawa, Shinichi Kuriyama, Nobuo Fuse, Masayuki Yamamoto and Yukio Katori.	23(6):453-456	2023.6	10.1111/ggi.14589
Associations between sugar-sweetened beverages before and during pregnancy and offspring overweight/obesity in Japanese women: the TMM BirThree Cohort Study	Public Health Nutrition	Misato Aizawa, Keiko Murakami, Yudai Yonezawa, Ipei Takahashi, Tomomi Onuma, Aoi Noda, Fumihiko Ueno, Fumiko Matsuzaki, Mami Ishikuro, Taku Obara and Shinichi Kuriyama.	26(6):1222-1229	2023.6	10.1017/S1368980023000307
fMRI reveals the dynamic interface between explicit and implicit knowledge recruited during elicited imitation task	Research Methods in Applied Linguistics,2023	Yuichi Suzuki, Hyeonjeong Jeong, Haining Cui, Kiyo Okamoto, Ryuta Kawashima and Motoaki Sugjura	2(2):1-16	2023.6.1	<a href="https://doi.org/10.1016/j.rmal.2023.100051">https://doi.org/10.1016/j.rmal.2023.100051</a>
Associations of health literacy with dental care use and oral health status in Japan	BMC Public Health.	Keiko Murakami, Jun Aida, Shinichi Kuriyama and Hideki Hashimoto.	23(1):1074	2023.6.5	10.1186/s12889-023-15866-7

論文題目名(原語)	論文掲載誌名(原語)	著者氏名(共著者含)	巻(号):開始-終了	発行年月日	DOI (Document of Identification)
Associations of Education and Income with Secondhand Smoke Exposure Among Non-smoking Pregnant Women in Japan: The Tohoku Medical Megabank Project Birth and Three-Generation Cohort Study	Maternal and Child Health Journal	Keiko Murakami, Taku Obara, Mami Ishikuro, Fumihiko Ueno, Aoi Noda, Shinichi Kuriyama.	27(7):1238-1246	2023.7	10.1007/s10995-023-03648-x
Social-coalitional trait is related to coping capacity with mortality threat: association with leadership and a reduced parietal response to mortality salience	Frontiers in Behavioral Neuroscience,2023	Kanan Hirano, Kentaro Oba, Toshiki Saito, Ryuta Kawashima and Motoaki Sugiura	17(1188878):1-9	2023.7.13	https://doi.org/10.3389/fnbeh.2023.1188878
Tohoku Medical Megabank Brain Magnetic Resonance Imaging Study: Rationale, Design, and Background	JMA journal	Makiko Taira, Shunji Mugikura, Naoko Mori, Atsushi Hozawa, Tomo Saito, Tomohiro Nakamura, Hideyasu Kiyomoto, Tadao Kobayashi, Soichi Ogishima, Fuji Nagami, Akira Urano, Ritsuko Shimizu, Tomoko Kobayashi, Jun Yasuda, Shigeo Kure, Miyuki Sakurai, Ikuko N. Motoike, Kazuki Kumada, Naoki Nakaya, Taku Obara, Kentaro Oba, Atsushi Sekiguchi, Benjamin Thyreau, Tatsushi Mutoh, Yuji Takano, Mitsunari Abe, Norihide Maikusa, Yasuko Tatewaki, Yasuyuki Taki, Nobuo Yaegashi, Hiroaki Tomita, Kengo Kinoshita, Shinichi Kuriyama, Nobuo Fuse and Masayuki Yamamoto.	6(3):246-264	2023.7.14	10.31662/jmaj.2022-0220
Association between low levels of anti-inflammatory cytokines during pregnancy and postpartum depression	Psychiatry and Clinical Neurosciences	Chiaki T. Ono, Zhiqian Yu, Taku Obara, Mami Ishikuro, Keiko Murakami, Masahiro Kikuya, Saya Kikuchi, Natsuko Kobayashi, Hisaaki Kudo, Soichi Ogishima, Naoko Minegishi, Junichi Sugawara, Shinichi Kuriyama, Masayuki Yamamoto, Nobuo Yaegashi and Hiroaki Tomita.	77(8):434-441	2023.8	10.1111/pcn.13566
The Association of Lung Function and Carotid Intima-Media Thickness in a Japanese Population: The Tohoku Medical Megabank Community-Based Cohort Study	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis	Masato Takase, Mitsuhiro Yamada, Tomohiro Nakamura, Naoki Nakaya, Mana Kogure, Rieko Hatanaka, Kumi Nakaya, Ikumi Kanno, Kotaro Nochioka, Naho Tsuchiya, Takumi Hirata, Yohei Hamanaka, Junichi Sugawara, Tomoko Kobayashi, Nobuo Fuse, Akira Urano, Eiichi N Kodama, Shinichi Kuriyama, Ichiro Tsuji and Atsushi Hozawa.	30(8):1022-1044	2023.8.1	10.5551/jat.63826
A multifactorial framework of psychobehavioral determinants of coping behaviors: an online survey at the early stage of the COVID-19 pandemic	Frontiers in Psychiatry,2023	Yi Ding, Ryo Ishibashi, Tsuneyuki Abe, Akio Honda and Motoaki Sugiura	14(1200473):1-13	2023.8.1	https://doi.org/10.3389/fpsy.2023.1200473
Five major outcomes of digitalization: relevance of a survival personality type during COVID-19 pandemic	Frontiers in Psychology,2023	Yumi Hamamoto, Akio Honda, Naoki Miura, Azumi Tanabe-Ishibashi, Kentaro Oba, Ryo Ishibashi and Motoaki Sugiura	14(1230192):1-13	2023.8.18	https://doi.org/10.3389/fpsyg.2023.1230192
Establishment of the early prediction models of low-birth-weight reveals influential genetic and environmental factors: a prospective cohort study	BMC Pregnancy and Childbirth	Satoshi Mizuno, Satoshi Nagaie, Gen Tamiya, Shinichi Kuriyama, Taku Obara, Mami Ishikuro, Hiroshi Tanaka, Kengo Kinoshita, Junichi Sugawara, Masayuki Yamamoto, Nobuo Yaegashi and Soichi Ogishima.	23(1):628	2023.8.31	10.1186/s12884-023-05919-5
Associations between birth weight and lung function in a Japanese adult population: The tohoku medical megabank community-based cohort study	Respiratory investigation	Takashi Ohe, Mitsuhiro Yamada, Atsushi Hozawa, Naoki Nakaya, Tomohiro Nakamura, Naho Tsuchiya, Akira Narita, Mana Kogure, Nobuo Fuse, Shinichi Kuriyama, Ayumi Mitsune, Ayumi Suzuki a, Shuichiro Matsumoto, Tetsuya Hatakeyama, Chikashi Iwasaki, Manami Suzuki, Naoya Fujino, Tadahisa Numakura, Tomohiro Ichikawa, Akira Koarai, Tsutomu Tamada, Masayuki Yamamoto, Masakazu Ichinose, Hisatoshi Sugiura.	31(5):588-600	2023.9	10.1016/j.resinv.2023.06.004
General health literacy, COVID-19-related health literacy, and protective behaviors: evidence from a population-based study in Japan	Frontiers in Public Health	Keiko Murakami, Shinichi Kuriyama and Hideki Hashimoto.	11:1208815	2023.9.18	10.3389/fpubh.2023.1208815
Association Between Olfactory Test Data with Multiple Levels of Odor Intensity and Suspected Cognitive Impairment: A Cross-Sectional Study	Journal of Alzheimer's disease	Sato Shuichi, Imaeda Takao, Mugikura Shunji, Mori Naoko, Takanashi Masaki, Hayakawa Kazumi, Saito Tomo, Taira Makiko, Narita Akira, Kogure Mana, Chiba Ippei, Hatanaka Rieko, Nakaya Kumi, Kanno Ikumi, Ishiwata Ryosuke, Nakamura Tomohiro, Motoike Ikuko N, Nakaya Naoki, Koshihisa Seizo, Kinoshita Kengo, Kuriyama Shinichi, Ogishima Soichi, Nagami Fuji, Fuse Nobuo, Hozawa Atsushi.	95(4):1469-1480	2023.9.18	10.3233/JAD-230318
Factors associated with postpartum smoking relapse at early postpartum period of Japanese women in the Japan Environmental and Children's Study	Environmental health and preventive medicine	Akane Anai, Kaname Asato, Nozomi Tatsuta, Kasumi Sakurai, Chiharu Ota, Shinichi Kuriyama, Junichi Sugawara, Takahiro Arima, Nobuo Yaegashi, Kunihiko Nakai and The Japan Environment and Children's Study Group	1.205555556	2023.9.28	10.1265/ehpm.23-00059
Screen Time at Age 1 Year and Communication and Problem-Solving Developmental Delay at 2 and 4 Years	JAMA pediatrics	Ippei Takahashi, Taku Obara, Mami Ishikuro, Keiko Murakami, Fumihiko Ueno, Aoi Noda, Tomomi Onuma, Genki Shinoda, Tomoko Nishimura, Kenji J. Tsuchiya, Shinichi Kuriyama.	177(10):1039-1046	2023.10.1	10.1001/jamapediatrics.2023.3057

論文題目名(原語)	論文掲載誌名(原語)	著者氏名(共著者含)	巻(号):開始-終了	発行年月日	DOI (Document of Identification)
The risk of withdrawal from hypertension treatment in coastal areas after the Great East Japan Earthquake: the TMM CommCohort Study	Hypertension research	Rieko Hatanaka, Naoki Nakaya, Mana Kogure, Kumi Nakaya, Ippei Chiba, Ikumi Kanno, Hideaki Hashimoto, Tomohiro Nakamura, Kotaro Nochioka, Taku Obara, Yohei Hamanaka, Junichi Sugawara, Tomoko Kobayashi, Akira Uruno, Eiichi N. Kodama, Nobuo Fuse, Shinichi Kuriyama, Atsushi Hozawa.	46(12):2718-2728	2023.12	10.1038/s41440-023-01454-0
Maternal birth weight as an indicator of early-onset and late-onset hypertensive disorders of pregnancy: The Japan Environment and Children's study	Pregnancy hypertension	Kazuma Tagami, Noriyuki Iwama, Hirota Hamada, Hasumi Tomita, Rie Kudo, Natsumi Kumagai, Naoto Sato, Seiya Izumi, Kasumi Sakurai, Zen Watanabe, Mami Ishikuro, Taku Obara, Nozomi Tatsuta, Tetsuro Hoshiai, Hirohito Metoki, Masatoshi Saito, Junichi Sugawara, Shinichi Kuriyama, Takahiro Arima, Nobuo Yaegashi, The Japan Environment and Children's Study Group.	34159-168	2023.12	10.1016/j.preghy.2023.11.002
Association of Central Blood Pressure and Carotid Intima Media Thickness with New-Onset Hypertension in People with High Normal Blood Pressure	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis	Sayuri Tokioka, Naoki Nakaya, Kumi Nakaya, Masato Takase, Mana Kogure, Rieko Hatanaka, Ippei Chiba, Ikumi Kanno, Kotaro Nochioka, Hirohito Metoki, Takahisa Murakami, Michihiro Satoh, Tomohiro Nakamura, Taku Obara, Yohei Hamanaka, Tomoko Kobayashi, Akira Uruno, Junichi Sugawara, Eiichi N Kodama, Soichi Ogishima, Yoko Izumi, Nobuo Fuse, Shinichi Kuriyama, Ichiro Tsuji and Atsushi Hozawa.	30(12):1905-1916	2023.12.1	10.5551/jat.64151
Influence of Diabetes Family History on the Associations of Combined Genetic and Lifestyle Risks with Diabetes in the Tohoku Medical Megabank Community-Based Cohort Study	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis	Masato Takase, Naoki Nakaya, Tomohiro Nakamura, Mana Kogure, Rieko Hatanaka, Kumi Nakaya, Ippei Chiba, Ikumi Kanno, Kotaro Nochioka, Naho Tsuchiya, Takumi Hirata, Akira Narita, Taku Obara, Mami Ishikuro, Akira Uruno, Tomoko Kobayashi, Eiichi N Kodama, Yohei Hamanaka, Masatsugu Orui, Soichi Ogishima, Satoshi Nagaie, Nobuo Fuse, Junichi Sugawara, Shinichi Kuriyama, Ichiro Tsuji, Gen Tamiya, Atsushi Hozawa, and Masayuki Yamamoto, the ToMMo investigators.	30(12):1950-1965	2023.12.1	10.5551/jat.64425
Association between frequency of breakfast intake before and during pregnancy and developmental delays in children: the Tohoku Medical Megabank Project Birth and Three-Generation Cohort Study	Nutrition journal	Misato Aizawa, Keiko Murakami, Ippei Takahashi, Hisashi Ohseto, Aoi Noda, Genki Shinoda, Masatsugu Orui, Mami Ishikuro, Taku Obara, Hirota Hamada, Noriyuki Iwama, Masatoshi Saito, Junichi Sugawara and Shinichi Kuriyama.	22(1):66	2023.12.6	10.1186/s12937-023-00901-5
Gradient damage model for ductile fracture introducing degradation of damage hardening modulus: implementation and experimental Investigations	International Journal of Fracture	Jike Han, Seishiro Matsubara, Shinnosuke Nishi, Kenji Takada, Mayu Muramatsu, Masaki Omiya, Kensuke Ogawa, Kai Oide, Takaya Kobayashi, Masanobu Murata, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada	240(183):208-2023	2022.12.6	10.1007/s10704-022-00681-9
Design and Progress of Child Health Assessments at Community Support Centres in the Birth and Three-Generation Cohort Study of the Tohoku Medical Megabank Project.	Tohoku Journal of Experimental Medicine	Tomoko Kobayashi, Mika Kobayashi, Naoko Minegishi, Masahiro Kikuya, Taku Obara, Mami Ishikuro, Chizuru Yamanaka, Tomomi Onuma, Keiko Murakami, Fumihiko Ueno, Aoi Noda, Akira Uruno, Junichi Sugawara, Kichiya Suzuki, Eiichi N. Kodama, Yohei Hamanaka, Naho Tsuchiya, Mana Kogure, Naoki Nakaya, Makiko Taira, Mika Sakurai-Yageta, Toru Tamahara, Junko Kawashima, Maki Goto, Akihito Otsuki, Ritsuko Shimizu, Soichi Ogishima, Hiroaki Hashizume, Fuji Nagami, Tomohiro Nakamura, Atsushi Hozawa, Tadao Kobayashi, Nobuo Fuse, Shinichi Kuriyama, Shigeo Kure, Masayuki Yamamoto	259:93-105	2023.	
Evaluation of a New Real-Time Dosimeter Sensor for Interventional Radiology Staff	Sensors (Basel)	Hattori K, Inaba Y, Kato T, Fujisawa M, Yasuno H, Yamada A, Haga Y, Suzuki M, Zuguchi M, Chida K	23(1):512-512	2023.1.3	doi:10.3390/s23010512
E-Defense Shake Table Experiments Implemented by NIED and Collaborative Research Projects in 2005-2022	Journal of Disaster Research	Ryota Nishi, Yohsuke Kawamata, Ryuta Enokida, Takahito Inoue, Kentaro Tabata	8(5):492-512	2023.1.8	
Extended B-spline-based implicit material point method (EBS-MPM) enhanced by F-bar projection method to suppress pressure oscillation	International Journal for Numerical Methods in Engineering	Riichi Sugai, Jike Han, Yuya Yamaguchi, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada	124(11):2423-2448	2023.1.30	10.1002/nme.7216
Extended B-spline-based implicit material point method (EBS-MPM) enhanced by F-bar projection method to suppress pressure oscillation	International Journal for Numerical Methods in Engineering	Riichi Sugai, Jike Han, Yuya Yamaguchi, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada	124(11):2423-2448	2023.1.30	10.1002/nme.7216
Spatial Scattering Radiation to the Radiological Technologist during Medical Mobile Radiography	Bioengineering (Basel)	Otomo K, Inaba Y, Abe K, Onodera M, Suzuki T, Sota M, Haga Y, Suzuki M, Zuguchi M, Chida K	10(2):259-259	2023.2.16	doi: 10.3390/bioengineering10020259

論文題目名(原語)	論文掲載誌名(原語)	著者氏名(共著者含)	巻(号):開始-終了	発行年月日	DOI (Document of Identification)
"Theory of Higher-Order Hermite-Gaussian Pulse Generation From an FM Mode-Locked Laser," IEEE J. Quantum Electron., vol. 59, no. 2, 1600325, Apr. (2023).	IEEE Journal of Quantum Electronics	M. Nakazawa and T. Hirooka	59(2):1600325	2023.4	
Proposal of a Recommended Correspondence Method for Companies and Organizations in Case of Partial Rupture of the Nankai Trough Earthquake	Journal of Disaster Research	Hiroaki Maruya, Tetsuya Torayashiki, Hiroyuki Sasaki, and Fumihiko Imamura	18(3):217-232	2023.4.1	10.20965/jdr.2023.p0217
The Anticipated Nankai Trough Earthquake and Tsunami in Japan: Determinant Factors of Residents' Pre-Event Evacuation Intentions	Journal of Disaster Research	Hirano, K., Y. Fukushima, H. Maruya, M. Kido, M. Sugiura	18(3):233-245	2023.4.1	<a href="https://doi.org/10.20965/jdr.2023.p0233">https://doi.org/10.20965/jdr.2023.p0233</a>
Family and Community Obligations Motivate People to Migrate—A Case Study from the Republic of the Marshall Islands	International Journal of Environmental Research and Public Health	Ryo Fujikura, Mikiyasu Nakayama, Daisuke Sasaki, Irene Taafaki, Jichao Chen	20(8):5448	2023.4.10	<a href="https://doi.org/10.3390/ijerph20085448">https://doi.org/10.3390/ijerph20085448</a>
A method of fully implicit coupled analyses for thermoset resin subjected to cure based on variationally consistent formulation for finite thermo-viscoelasticity	International Journal of Solids and Structures	Yosuke Yamanaka, Seishiro Matsubara, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada	268:112161	2023.4.15	10.1016/j.ijsolstr.2023.112161
A numerical study of the MRT-LBM for the shallow water equation in high Reynolds number flows: An application to real-world tsunami simulation	Nuclear Engineering and Design	Kenta Sato, Koji Kawasaki, Shunichi Koshimura	404:112159	2023.4.23	10.1016/j.nucengdes.2023.112159
Mental Health Problems among University Students under the Prolonged COVID-19 Pandemic in Japan: A Repeated Cross-Sectional Survey	The Tohoku Journal of Experimental Medicine	Moe Seto, Hitomi Usukura, Yasuto Kunii, Yumiko Hamaie, Eiichi N. Kodama, Yuko Makino, Yoshitaka Kinouchi, Chihiro Ito, Tadayoshi Ikeda, Hiroaki Tomita	260(1):1-11	2023.5.1	<a href="https://doi.org/10.1620/tjem.2023.J012">https://doi.org/10.1620/tjem.2023.J012</a>
Identification of schizophrenia symptom-related gene modules by postmortem brain transcriptome analysis	Translational Psychiatry	Kazusa Miyahara, Mizuki Hino, Risa Shishido, Atsuko Nagaoka, Ryuta Izumi, Hideki Hayashi, Akiyoshi Kakita, Hiroaki Yabe, Hiroaki Tomita, Yasuto Kunii	13(1):144-144	2023.5.4	<a href="https://doi.org/10.1038/s41398-023-02449-8">https://doi.org/10.1038/s41398-023-02449-8</a>
Free-surface flow simulations with floating objects using lattice Boltzmann method	Engineering Applications of Computational Fluid Mechanics	Seiya Watanabe, Jun Kawahara, Takayuki Aoki, Kenta Sugihara, Shinsuke Takase, Shuji Moriguchi, Hirokazu Hashimoto	17(1):2211143	2023.5.12	10.1080/19942060.2023.2211143
Circulating extracellular vesicle levels in patients with coronavirus disease 2019 coagulopathy: A prospective cohort study.	Journal of Clinical Medicine	Yudai Iwasaki, Yusuke Takei, Mitsuhiro Yamada, Shigekazu Sugino, Koji Saito, Tetsuji Aoyagi, Kengo Oshima, Hajime Kanamori, Hiroaki Baba, Kentarou Takei, Koichi Tokuda, Eiichi N. Kodama, Tetsuro Kamo, Tadashi Kamio, Takehiko Kasai, Satoru Ogawa, Masanori Yamauchi.	12:3460	2023.5.14	<a href="https://doi.org/10.3390/jcm12103460">https://doi.org/10.3390/jcm12103460</a>
A hybrid strategy blending primal-dual interior point and return mapping methods for a class of hypoelastic-plastic models with memory surface	International Journal for Numerical Methods in Engineering	Yuichi Shintaku, Fumitoshi Nakamura, Kenjiro Terada	124(9):1991-2013	2023.5.15	10.1002/nme.7195
Evacuation at Home Delayed the First Medical Intervention in Minamisanriku Town after the 2011 Great East Japan Earthquake.	Prehospital and Disaster Medicine	Tsubo M, Sasaki H, Park H, Usuda Y, Hanashima M, Saito M, Takahashi S, Sakisaka K, Hibiya M, Kiyota K, Hatsugai K, Nishizawa M, Sugawara Y, Tsuji I, Egawa S.	38(3):301-310	2023.5.15	<a href="https://doi.org/10.1017/S1049023X2300050X">https://doi.org/10.1017/S1049023X2300050X</a>
Urban structure reinforces attitudes towards tsunami evacuatio	Scientific Reports	Makinoshima, F., Oishi, Y. & Imamura, F.	7992(13):	2023.5.17	<a href="https://doi.org/10.1038/s41598-023-33562-9">https://doi.org/10.1038/s41598-023-33562-9</a>
Optimal probabilistic placement of facilities using a surrogate model for 3D tsunami simulations	Natural Hazards and Earth System Sciences	Kenta Tozato, Shuji Moriguchi, Shinsuke Takase, Yu Otake, Michael R. Motley, Anawat Suppasri, and Kenjiro Terada	23(5):1891-1909	2023.5.23	/10.5194/nhess-2022-208
Rapid detection of SARS-CoV-2 RNA using Reverse Transcription Recombinase Polymerase Amplification (RT-RPA) with Lateral Flow for N-protein gene and variant-specific deletion-insertion mutation in S-protein gene.	Viruses	José L. Málaga, Mónica J. Pajuelo, Michiko Okamoto, Emmanuel Kagning Tsinda, Kanako Otani, Pablo Tsukayama, Lucero Mascaro, Diego Cuicapuza, Masamichi Katsumi, Kazuhisa Kawamura, Hidekazu Nishimura, Akie Sakagami, Yo Ueki, Suguru Omiya, Satoshi Okamoto, Asami Nakayama, Shin-ichi Fujimaki, Chuyao Yu, Sikandar Azam, Eiichi Kodama, Clyde Dapat, Hitoshi Oshitani, Mayuko Saito.	45:1254	2023.5.26	<a href="https://doi.org/10.3390/v15061254">https://doi.org/10.3390/v15061254</a>
"GAWBS Noise in Digital Coherent Transmission,"	IEEE Journal of Lightwave Technology	M. Nakazawa, M. Yoshida, and T. Hirooka	41(11):3358-3371	2023.6	
Post-evacuation return of psychiatric hospital inpatients evacuated to hospitals outside the Fukushima prefecture after the nuclear accident: A Retrospective Cohort Study	International Journal of Social Psychiatry	Toshihiro Terui, Yasuto Kunii, Hiroshi Hoshino, Takeyasu Kakamu, Tomoo Hidaka, Tetsuhito Fukushima, Nobuo Anzai, Daisuke Gotoh, Itaru Miura, Hiroaki Yabe	69(4):875-884	2023.6	<a href="https://doi.org/10.1177/00207640221141019">https://doi.org/10.1177/00207640221141019</a>
Optimal design of negative-stiffness dampers for improved efficiency of structural seismic isolation	Journal of Building Engineering	Hao Luo, Hongping Zhu, Kohju Ikago	68:106172	2023.6.1	<a href="https://doi.org/10.1016/j.jobe.2023.106172">https://doi.org/10.1016/j.jobe.2023.106172</a>
Enhancements of Nonlinear Substructuring Control for Shake Table Experiments on Severely Damaged Structures	Structural Control and Health Monitoring	Ryuta Enokida, Koichi Kajiwara	:1-23	2023.6.1	5.4
Revising the 2007 Peru Earthquake Damage Monitoring Using Machine Learning Models and Satellite Imagery	Journal of Disaster Research	Bruno Adriano, Hiroyuki Miura, Wen Liu, Masashi Matsuoka, Eduardo Portuquez, Miguel Diaz, Miguel Estrada	18(4):379-387	2023.6.1	<a href="https://doi.org/10.20965/jdr.2023.p0379">https://doi.org/10.20965/jdr.2023.p0379</a>
"What if the Nankai Trough Earthquake Occurred?": A Collaboration Between Academia with the Media Using a Newspaper-Making Workshop as a Starting Point to Engage Elementary School Students and Their Parents in Disaster Risk Reduction	Journal of Disaster Research	Natsuko Chubachi, Kumiko Konno, Yo Fukushima, Takeshi Sato	18(4):397-414	2023.6.1	10.20965/jdr.2023.p0397
On the Mental Health Needs Under the Russian Invasion in Ternopil, Ukraine: A Preliminary Report on the Provision of Mental Health Service	Annals of Global Health	Mizuki Hino, Yasuto Kunii, Bogdan I. Gerashchenko, Yumiko Hamaie, Shinichi Egawa, Shinichi Kuriyama, Oksana O. Shevchuk, Mykhaylo M. Korda, Olena P. Venher, Hiroaki Tomita	89(1):41-41	2023.6.8	<a href="https://doi.org/10.5334/aogh.4076">https://doi.org/10.5334/aogh.4076</a>

論文題目名(原語)	論文掲載誌名(原語)	著者氏名(共著者含)	巻(号):開始-終了	発行年月日	DOI (Document of Identification)
Method for seismic signal denoising based on generalized S-transform and nonlinear complex diffusion	Journal of Applied Geophysics	Mine Tan, Qizhou Hu, Susumu Ohno	215:105095	2023.6.9	<a href="https://doi.org/10.1016/j.jappgeo.2023.105095">https://doi.org/10.1016/j.jappgeo.2023.105095</a>
Universal health coverage mitigated COVID-19 health-related consequences in Asia Oceania	International Journal of Disaster Risk Reduction	Saengtabtim, Tang, J., Leelawat, N., Egawa, S., Suppasri, A. and Imamura, F.	92:103725	2023.6.15	<a href="https://doi.org/10.1016/j.ijdrr.2023.103725">https://doi.org/10.1016/j.ijdrr.2023.103725</a>
Semi-Supervised Specific Emitter Identification Method Using Metric-Adversarial Training	IEEE Internet of Things Journal	Xue Fu, Yang Peng, Yuchao Liu, Yun Lin, Guan Gui, Haris Gacanan, and Fumiuyuki Adachi	10(12):10778-10789	2023.6.15	<a href="https://doi.org/10.1109/JIOT.2023.3240242">https://doi.org/10.1109/JIOT.2023.3240242</a>
Control of bottom-up attention in scene cognition contributes to visual working memory performance.	Attention, Perception, & Psychophysics	Azumi Tanabe-Ishibashi, Ryo Ishibashi and Yasuhiro Hatori	85:1425-1436	2023.6.19	<a href="https://doi.org/10.3758/s13414-023-02740-2">https://doi.org/10.3758/s13414-023-02740-2</a>
Investigation of oral macrolide prescriptions in Japan using a retrospective claims database, 2013–2018.	PLOS ONE	Satoshi Ide, Masahiro Ishikane, Kensuke Aoyagi, Akane Ono, Yusuke Asai, Shinya Tsuzuki, Yoshiki Kusama, Yoshiaki Gu, Eiichi Kodama, Norio Ohmagari.	18:e0287297	2023.6.22	<a href="https://doi.org/10.1371/journal.pone.0287297">https://doi.org/10.1371/journal.pone.0287297</a>
A two-way coupling 2D-3D hybrid finite element numerical model using overlapping method for tsunami simulation	International Journal for Numerical Methods in Fluids	Guoming Ling, Junichi Matsumoto, Kazuo Kashiwama	95(11):1732-1755	2023.6.26	<a href="https://doi.org/10.1002/flid.5220">https://doi.org/10.1002/flid.5220</a>
Comprehensive evaluation of machine learning algorithms for predicting sleep-wake conditions and differentiating between the wake conditions before and after sleep during pregnancy based on heart rate variability	Frontiers in Psychiatry,	Li X., Ono C., Warita N., Shoji T., Nakagawa T., Usukura H., Yu Z., Takahashi Y., Ichiji K., Sugita N., Kobayashi N., Kikuchi S., Kimura R., Hamaie Y., Hino M., Kunii Y., Murakami K., Ishikuro M., Obara T., Nakamura T., Nagami F., Takai T., Ogishima S., Sugawara J., Hoshiai T., Saito M., Tamiya G., Fuse N., Fujii S., Nakayama M., Kuriyama S., Yamamoto M., Yaegashi N., Homma N., Tomita H.	14:	2023.6.27	DOI10.3389/fpsy.2023.1104222
Performance Examination of Nonlinear Signal-Based Control in Shake Table Experiments with Sliding Structures	Structural Control and Health Monitoring	Ryuta Enokida, Kohju Ikago, Jia Guo, Koichi Kajiwara	:1-21	2023.6.28	5.4
Disease specific brain capillary angiopathy in schizophrenia, bipolar disorder, and Alzheimer's disease	Journal of Psychiatric Research	Shinobu Hirai, Atsuhiko Sakuma, Yasuto Kunii, Hiroko Shimbo, Mizuki Hino, Ryuta Izumi, Atsuko Nagaoka, Hirooki Yabe, Rika Kojima, Erika Seki, Nobutaka Arai, Takashi Komori, Haruo Okado	163:74-79	2023.7	<a href="https://doi.org/10.1016/j.jpsychires.2023.04.011">https://doi.org/10.1016/j.jpsychires.2023.04.011</a>
Deep Regularized Waveform Learning for Beam Prediction with Limited Samples in Non-Cooperative mmWave Systems	IEEE Transactions on Vehicular. Technology	Hao Huang, Guan Gui, Haris Gacanan, Chau Yuen, Hikmet Sari, and Fumiuyuki Adachi	72(7):9614-9619	2023.7.1	<a href="https://doi.org/10.1109/TVT.2023.3248224">https://doi.org/10.1109/TVT.2023.3248224</a>
Regularization Strategy Aided Robust Unsupervised Learning for Wireless Resource Allocatio	IEEE Transactions on Vehicular. Technology	Hao Huang, Yun Lin, Guan Gui, Haris Gacanan, Hikmet Sari, and Fumiuyuki Adachi	72(7):9647-9652	2023.7.1	<a href="https://doi.org/10.1109/TVT.2023.3250963">https://doi.org/10.1109/TVT.2023.3250963</a>
Combination of physics-based and data-driven modeling for nonlinear structural seismic response prediction through deep residual learning	Earthquake Engineering & Structural Dynamics	Jia Guo, Ryuta Enokida, Dawei Li, Kohju Ikago	52(8):2429-2451	2023.7.10	<a href="https://doi.org/10.1002/eqe.3863">https://doi.org/10.1002/eqe.3863</a>
Seismic control of multidegree-of-freedom structures using a concentrately arranged tuned viscous mass damper	Earthquake Engineering & Structural Dynamics	Jianfei Kang, Kohju Ikago	52(14):4708-4732	2023.7.10	<a href="https://doi.org/10.1002/eqe.3977">https://doi.org/10.1002/eqe.3977</a>
Transient response and adjustment timescales of channel width and angle of valley-side slopes to accelerated incision	Journal of Geophysical Research, Earth Surface	Takahashi, N., J. B. H. Shyu, S. Toda, Y. Matsushi, R. J. Ohta, and H. Matsuzaka	128(8):	2023.7.12	<a href="https://doi.org/10.1029/2022JF006967">https://doi.org/10.1029/2022JF006967</a>
GRL-142 binds to and impairs HIV-1 integrase nuclear localization signal and potently suppresses highly INSTI-resistant HIV-1 variants	SCIENCE ADVANCES	Aoki M, Aoki-Ogata H, Bulut H, Hayashi H, Takamune N, Kishimoto N, Tanaka H, Higashi-Kuwata N, Hattori S, Das D, Rao KV, Iwama K, Davis DA, Hasegawa K, Murayama K, Yarchoan R, Ghosh AK, Pau AK, Machida S, Misumi S, and Hiroaki Mitsuya H.	9(28):eadg2955	2023.7.12	<a href="https://doi.org/10.1126/sciadv.adg2955">https://doi.org/10.1126/sciadv.adg2955</a>
The influence of tissue pH and RNA integrity number on gene expression of human postmortem brain	Frontiers in Psychiatry	Kazusa Miyahara, Mizuki Hino, Zhiqian Yu, Chiaki Ono, Atsuko Nagaoka, Masataka Hatano, Risa Shishido, Hirooki Yabe, Hiroaki Tomita, Yasuto Kunii	14:	2023.7.14	<a href="https://doi.org/10.3389/fpsy.2023.1156524">https://doi.org/10.3389/fpsy.2023.1156524</a>
Fishbone model-based inversion to estimate physical parameters of elastic structures under earthquake excitations	Frontiers in Built Environment	Koichi Kajiwara, Akiko Kishida, Jun Fujiwara, Ryuta Enokida	9:	2023.7.20	3
Tsunami Wave Characteristics from the 1674 Ambon Earthquake Event Based on Landslide Scenarios	Geotechnics	Pakoksung, K., Suppasri, A. and Imamura, F.	3(3):700-718	2023.7.24	<a href="https://doi.org/10.3390/geotechnics3030038">https://doi.org/10.3390/geotechnics3030038</a>
Decision-Making Support Utilizing Real-Time Tsunami Inundation and Damage Forecast	International Journal of Disaster Risk Reduction	Naoko Kosaka, Shunichi Koshimura, Kenjiro Terada, Yoichi Murashima, Tsuneko Kura, Akira Koyama, Hiroshi Matsubara	94:103807	2023.8	10.1016/j.ijdrr.2023.103807
Analysis of Near-interface Cracks in Three-dimensional Anisotropic Multi-materials by Efficient BIEM	Theoretical and Applied Fracture Mechanics	Pisit Watanavit, Naruethap Sukulthanasorn, Elena Atroshchenko, Hung Nguyen-Xuan, Jaroon Rungamornrat	126:103939	2023.8	<a href="https://doi.org/10.1016/j.tafmec.2023.103939">https://doi.org/10.1016/j.tafmec.2023.103939</a>
How Does the Central Government Make a Remark in the International Arena of Disaster Risk Reduction? Focusing on the Frequency of Statement Publication at the UN Global Platform for Disaster Risk Reduction	Journal of Disaster Research	Yuta Hara†, Daisuke Sasaki, and Yuichi Ono	17(5):475-483	2023.8.1	doi: 10.20965/jdr.2023.p0475
Who Pays? Cost-Sharing for Disaster Management in the US and Japan	Journal of Disaster Research	Mikio Ishiwatari, Daniel P. Aldrich, Daisuke Sasaki	18(5):467-474	2023.8.1	<a href="https://doi.org/10.20965/jdr.2023.p0467">https://doi.org/10.20965/jdr.2023.p0467</a>
Local mechanical characterization and fracture prediction modeling for resistance spot-welded joints of advanced high-strength steel	Materials Today Communications	Zhenduo Yao, Masaki Omiya, Ninshu Ma, Shinnosuke Nishi, Kenji Takada, Kazuaki Okato, Kai Oide, Takaya Kobayashi, Jike Han, Kenjiro Terada	36:106787	2023.8.4	10.1016/j.mtcomm.2023.106787
Evaluation of Lens Doses among Medical Staff Involved in Nuclear Medicine: Current Eye Radiation Exposure among Nuclear-Medicine Staff	Applied Sciences.	Fujisawa M, Haga Y, Sota M, Abe M, Kaga Y, Inaba Y, Suzuki M, Meguro T, Hosoi Y, Chida K.	13(16):9182-9182	2023.8.12	<a href="https://doi.org/10.3390/app13169182">https://doi.org/10.3390/app13169182</a>

論文題目名(原語)	論文掲載誌名(原語)	著者氏名(共著者含)	巻(号):開始-終了	発行年月日	DOI (Document of Identification)
Evidence for increased DNA damage repair in the postmortem brain of the high stress-response group of schizophrenia.	Frontiers in Psychiatry	Shishido, R., Kunii, Y., Hino, M., Izumi, R., Nagaoka, A., Hayashi, H., Kakita, A., Tomita, H., and Yabe, H.,		2023.8.22	<a href="https://doi.org/10.3389/fpsy.2023.1183696">https://doi.org/10.3389/fpsy.2023.1183696</a>
On the flow conditions requiring detailed geometric modeling for multiscale evaluation of coastal forests	Advanced Modeling and Simulation in Engineering Sciences	Reika Nomura, Shinsuke Takase, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada	10:13	2023.8.24	10.1186/s40323-023-00250-2
Sensitivity of Slip Distribution on Tsunami Trace Heights and Geological Evidences: A Case Study of the 2011 Tohoku-Oki Earthquake	Progress in Earth and Planetary Science	Kusumoto, S., Imai, K., Hori, T., Sugawara, D., Satake, K	10:52	2023.8.25	<a href="https://doi.org/10.1186/s40645-023-00582-y">https://doi.org/10.1186/s40645-023-00582-y</a>
Beyond tsunami fragility functions: experimental assessment for building damage estimation	Scientific Reports	Ruben Vescovo, Bruno Adriano, Erick Mas, Shunichi Koshimura	13(14337):1-15	2023.8.31	<a href="https://doi.org/10.1038/s41598-023-41047-y">https://doi.org/10.1038/s41598-023-41047-y</a>
Is critical infrastructure safe from wildfires? A case study of wildland-industrial and -urban interface areas in South Korea	International Journal of Disaster Risk Reduction	Hyejeong Park, Kihun Nam, Hyungduk Lim	95:	2023.9	<a href="https://doi.org/10.1016/j.ijdr.2023.103849">https://doi.org/10.1016/j.ijdr.2023.103849</a>
Lipid-correlated alterations in the transcriptome are enriched in several specific pathways in the postmortem prefrontal cortex of Japanese patients with schizophrenia	Neuropsychopharmacology Reports	Wataru Arihisa, Takeshi Kondo, Katsushi Yamaguchi, Junya Matsumoto, Hiroki Nakanishi, Yasuto Kunii, Hiroyasu Akatsu, Mizuki Hino, Yoshio Hashizume, Shumpei Sato, Shinji Sato, Shin-Ichi Niwa, Hiroki Yabe, Takehiko Sasaki, Shuji Shigenobu, Mitsutoshi Setou	43(3):403-413	2023.9	<a href="https://doi.org/10.1002/npr2.12368">https://doi.org/10.1002/npr2.12368</a>
Reconsideration of Urbanization in Tokyo Metropolitan Area Since 1923 Great Kanto Earthquake from the Perspective of Exposure	Journal of Disaster Research (Special Issue on the 100th Anniversary of the Great Kanto Earthquake)	Osamu Muroa, Kyota Fujiwara, Haruna Kato, Fumitake Yonemura, Keiko Inagaki, and Kimiro Meguro	18(6):611-631	2023.9.1	<a href="https://doi.org/10.20965/jdr.2023.p0611">doi.org/10.20965/jdr.2023.p0611</a>
Image Quality and Radiation Dose of Conventional and Wide-Field High-Resolution Cone-Beam Computed Tomography for Cerebral Angiography: A Phantom Study	Tomography.	Kawauchi S, Chida K, Hamada Y, Tsuruta W	9(5):1683-1693	2023.9.1	DOI: 10.3390/tomography9050134
Failure Detector Based on Vehicle Movement Prediction in Vehicular Ad-Hoc Networks	IEEE Transactions on Vehicular Technology	Jiayi Liu, Si Chen, Guan Gui, Haris Gacanin, Hikmet Sari, and Fumiyouki Adachi	72(9):11657-11667	2023.9.1	<a href="https://doi.org/10.1109/TVT.2023.3266106">https://doi.org/10.1109/TVT.2023.3266106</a>
Uplink Postcoding in User-Cluster-Centric Cell-Free massive MIMO	IEICE Transactions on Communications	Ryo Takahashi, Hidenori Matsuo, Sijie Xia, Qiang Chen, and Fumiyouki Adachi	E106-B(9):748-757	2023.9.1	<a href="https://doi.org/10.1587/transcom.2022FGT0001">https://doi.org/10.1587/transcom.2022FGT0001</a>
Tsunami wave characteristics in Sendai Bay, Japan, following the 2016 Mw 6.9 Fukushima earthquake	Ocean Engineering	An-Chi Cheng, Anawat Suppasri, Mohammad Heidarzadeh, Bruno Adriano, Constance Ting Chua, Fumihiko Imamura	287(1):	2023.9.4	<a href="https://doi.org/10.1016/j.oceaneng.2023.115676">https://doi.org/10.1016/j.oceaneng.2023.115676</a>
Earthquake-enhanced dissolved carbon cycles in ultra-deep ocean sediments.	Nature Communications	Chu, M., Bao, R., Strasser M., Ikehara, K., ... Ishizawa, T., ... Zellers, S	14(5427):	2023.9.11	<a href="https://doi.org/10.1038/s41467-023-41116-w">https://doi.org/10.1038/s41467-023-41116-w</a>
Estimation of external dose for wild Japanese macaques captured in Fukushima prefecture: decomposition of electron spin resonance spectrum.	Radiation Protection Dosimetry	Mitsuyasu Y, Oka T, Takahashi A, Kino Y, Okutsu K, Sekine T, Yamashita T, Shimizu Y, Chiba M, Suzuki T, Osaka K, Sasaki K, Suzuki M, Fukumoto M, Shinoda H.	199(14):1620-1625	2023.9.18	doi: 10.1093/rpd/ncad146
Estimation of external dose for wild Japanese macaques captured in Fukushima prefecture: decomposition of electron spin resonance spectrum.	Radiation Protection Dosimetry	Mitsuyasu Y, Oka T, Takahashi A, Kino Y, Okutsu K, Sekine T, Yamashita T, Shimizu Y, Chiba M, Suzuki T, Osaka K, Sasaki K, Suzuki M, Fukumoto M, Shinoda H.	199(14):1620-1625	2023.9.18	doi: 10.1093/rpd/ncad146
Hydrologic-geotechnical Modelling for Multihazard Analysis of Landslide and Flood caused by Heavy Rainfall	Engineering Geology	Nilo Lemuel J. Dolojan, Shuji Moriguchi, Masakazu Hashimoto, Nguyen Xuan Tinh, Hitoshi Tanaka, Kenjiro Terada	323(20):107184	2023.9.20	10.1016/j.enggeo.2023.107184
Eye Lens Radiation Dose to Nurses during cardiac Interventional Radiology: An Initial Study	Diagnostics (Basel)	Yamada A, Haga Y, Sota M, Abe M, Kaga Y, Inaba Y, Suzuki M, Tada N, Zuguchi M, Chida K	13(18):3003-3003	2023.9.20	<a href="https://doi.org/10.3390/diagnostics13183003">https://doi.org/10.3390/diagnostics13183003</a>
Cardiac Interventional Radiology: An Initial Study.	Diagnostics (Basel)	Yamada A, Haga Y, Sota M, Abe M, Kaga Y, Inaba Y, Suzuki M, Tada N, Zuguchi M, Chida K.	13(18):3003-3003	2023.9.20	doi:10.3390/diagnostics13183003
Internal organ dose rate conversion coefficients of Japanese macaques to <sup>134</sup> Cs, <sup>137</sup> Cs and <sup>131</sup> I.	Journal of Radiation Research	Takamura Y, Kajimoto T, Tanaka K, Yamamoto T, Suzuki M, Inaba Y, Chida K, Fukumoto M,	64(5):804-810	2023.9.22	doi: 10.1093/jrr/trad055
Evaluation of radiation dose and image quality for dental cone-beam computed tomography in pediatric patients.	J Radiol Prot.	Ito M, Chida K, Onodera S, Kojima I, Iikubo M, Kato T, Fujisawa M, Zuguchi M.	43(3):	2023.9.22	<a href="https://doi.org/10.1088/1361-6498/acf868">https://doi.org/10.1088/1361-6498/acf868</a>
Introduction to the special section for the centennial of the great 1923 Kanto, Japan, earthquake	Bulletin of the Seismological Society of America	Miyake, H., J. J. Mori, D. J. Wald, H. Kawase, S. Toda, and P. M. Mai	113(5):1821-1825	2023.9.23	<a href="https://doi.org/10.1785/0120230200">https://doi.org/10.1785/0120230200</a>
Development of a single-phase free-surface flow model with the improved lattice kinetic scheme	Computers & Mathematics with Applications	Kenta Sato, Shunichi Koshimura	145:275-288	2023.9.23	10.1016/j.camwa.2023.06.022
HIV-1 resistance to islatravir/tenofovir combination therapy in wild-type or NRTI resistant strains of diverse HIV-1 subtypes.	Viruses	Maria E Cilento, Xin Wen, Aaron B Reeve, Obiaara Ukah, Alexa Snyder, Ciro M Carillo, Cole P Smith, Kristin Edwards, Claudia C Wahoski, Deborah R Kitzler, Eiichi N Kodama, Hiroaki Mitsuya, Michael A Parniak, Philip R Tedbury, Stefan G Sarafianos.	15(10):1990	2023.9.25	<a href="https://doi.org/10.3390/v15101990">https://doi.org/10.3390/v15101990</a>
Editorial: Molecular pathology in psychiatric diseases: frontiers of postmortem brain research	Frontiers in Psychiatry	Yasuto Kunii, Mizuki Hino, Hiroaki Tomita	14:	2023.9.27	<a href="https://doi.org/10.3389/fpsy.2023.1286182">https://doi.org/10.3389/fpsy.2023.1286182</a>
Molecular Pathology in Psychiatric Diseases, especially Schizophrenia: Frontiers of Postmortem Brain Research.	Frontiers in Psychiatry	Kunii, Y., Hino, M., and Tomita, H.,		2023.9.27	<a href="https://doi.org/10.3389/fpsy.2023.1286182">https://doi.org/10.3389/fpsy.2023.1286182</a>
Ethnicity-dependent effect of rs1799971 polymorphism on OPRM1 expression in the postmortem brain and responsiveness to antipsychotics	Journal of Psychiatric Research	Kazusa Miyahara, Mizuki Hino, Risa Shishido, Ryuta Izumi, Atsuko Nagaoka, Hideki Hayashi, Akiyoshi Kakita, Hirooki Yabe, Hiroaki Tomita, Yasuto Kunii	166:10-16	2023.10	<a href="https://doi.org/10.1016/j.jpsychires.2023.08.007">https://doi.org/10.1016/j.jpsychires.2023.08.007</a>

論文題目名(原語)	論文掲載誌名(原語)	著者氏名(共著者含)	巻(号):開始-終了	発行年月日	DOI (Document of Identification)
Seismic response control of core wall structures using tuned viscous mass damper (TVMD) outriggers	Engineering Structures	Ruofan Jia, Xiaodong Ji, Yuhao Cheng, Kohju Ikago	292:116546	2023.10.1	<a href="https://doi.org/10.1016/j.jobe.2023.107744">https://doi.org/10.1016/j.jobe.2023.107744</a>
Surrogate modeling for the homogenization of elastoplastic composites based on RBF interpolation	Computer Methods in Applied Mechanics and Engineering	Yosuke Yamanaka, Seishiro Matsubara, Norio Hirayama, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada	415:116282	2023.10.1	10.1016/j.cma.2023.116282
Coral Reef Response in the Maldives During the 2004 Indian Ocean Tsunami	International Journal of Disaster Risk Reduction	Lacene, E., Suppasri, A., Pakoksung, K. and Imamura, F.	96:103952	2023.10.1	<a href="https://doi.org/10.1016/j.ijdrr.2023.103952">https://doi.org/10.1016/j.ijdrr.2023.103952</a>
Supervised Contrastive Learning for RFF Identification with Limited Samples	IEEE Internet of Things Journal	Yang Peng, Changbo Hou, Yibin Zhang, Yun Lin, Guan Gui, Haris Gacanin, Shiwen Mao, and Fumiyouki Adachi	10(19):17293-17306	2023.10.1	<a href="https://doi.org/10.1109/JIOT.2023.3272628">https://doi.org/10.1109/JIOT.2023.3272628</a>
Multi-Agent Reinforcement Learning Resources Allocation Method Using Dueling Double Deep Q-Network in Vehicular Networks	IEEE Transaction on Vehicular Technology	Yuxin Ji, Xixi Zhang, Yu Wang, Haitao Zhao, Guan Gui, Haris Gacanin, Hikmet Sari, and Fumiyouki Adachi	72(10):13447-13460	2023.10.1	<a href="https://doi.org/10.1109/TVT.2023.3275546">https://doi.org/10.1109/TVT.2023.3275546</a>
Optimization of Channel Segregation-based Fractional Frequency Reuse for Inter-Cell Interference Coordination in Cellular Ultra-dense RAN	IEICE Transactions on Communications	Hidegori Matsuo, Ryo Takahashi, and Fumiyouki Adachi	E106-B(10):997-1003	2023.10.1	<a href="https://doi.org/10.1587/transcom.2023EBT0001">https://doi.org/10.1587/transcom.2023EBT0001</a>
Carotid Intima Media Thickness and Risk Factor for Atherosclerosis: Tohoku Medical Megabank Community-Based Cohort Study	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis	Masato Takase, Naoki Nakaya, Tomohiro Nakamura, Mana Kogure, Rieko Hatanaka, Kumi Nakaya, Ipei Chiba, Ikumi Kanno, Kotaro Nochioka, Naho Tsuchiya, Takumi Hirata, Yohei Hamanaka, Junichi Sugawara, Tomoko Kobayashi, Nobuo Fuse, Akira Uruno, Eiichi N. Kodama, Shinichi Kuriyama, Ichiro Tsuji and Atsushi Hozawa.	30(10):1471-1482	2023.10.1 Epub 2023 Feb 11.	10.5551/jat.64039
Association Between Smoking and Hypertension in Pregnancy Among Japanese Women: A Meta-analysis of Birth Cohort Studies in the Japan Birth Cohort Consortium (JBICC) and JECS	Journal of Epidemiology	Naho Morisaki, Taku Obara, Aurelie Piedvache1, Sumitaka Kobayashi, Chihiro Miyashita, Tomoko Nishimura, Mami Ishikuro, Fumihito Sata, Reiko Horikawa, Chisato Mori, Hirohito Metoki, Kenji J Tsuchiya, Shinichi Kuriyama, and Reiko Kishi.	33(10):498-507	2023.10.5 Epub 2023 Jan 31.	10.2188/jea.JE20220076
EXPERIMENTAL STUDY ON AN INERTER EDDY CURRENT DAMPER FOR BASE-ISOLATED STRUCTURE	AIJ Journal of Technology and Design	Ao Yin, Kohju IKAGO	29(73):1232-1237	2023.10.20	<a href="https://doi.org/10.3130/aijt.29.1232">https://doi.org/10.3130/aijt.29.1232</a>
A filtering approach for the conservative Allen-Cahn equation solved by the lattice Boltzmann method and a numerical study of the interface thickness	International Journal of Multiphase Flow	Kenta Sato,Shunichi Koshimura	167:104554	2023.10.23	10.1016/j.ijmultiphaseflow.2023.104554
Quantification of the contribution ratio of relevant input parameters on DEM-based granular flow simulations	Soils and Foundations	Junsen Xiao, Shuji Moriguchi, Yu Otake, Kenjiro Terada	63(6):101378	2023.10.26	10.1016/j.sandf.2023.101378
Resonance characteristics of tsunami in bay of Japan by the Hunga Tonga-Hunga Ha'apai volcano eruption on 15th January 2022	Scientific Reports	Pakoksung, K., Suppasri, A. and Imamura, F.	13:18385	2023.10.26	<a href="https://doi.org/10.1038/s41598-023-45601-6">https://doi.org/10.1038/s41598-023-45601-6</a>
Optimization of Intraventricular Radioactive Concentration for 13N ammonia PET with Time-of-Flight Scanner : Simplified Phantom Study with Noise Equivalent Count Rate Analysis	Annals of Nuclear Cardiology	Yoko Kaimoto, Kenji Fukushima, Kazuko Kanaya, Masayasu Asanuma, Kaoru Aoba,Atsushi Yamamoto, Risako Nakao, Koichiro Kaneko, Michinobu Nagao, Koichi Chida	9(1):33-39	2023.10.31	doi: 10.17996/anc.23-00178
The association between depressive symptoms and masked hypertension in participants with normotension measured at research center	Hypertension research	Sayuri Tokioka, Naoki Nakaya, Kumi Nakaya, Mana Kogure, Rieko Hatanaka, Ipei Chiba, Ikumi Kanno, Kotaro Nochioka, Hirohito Metoki, Takahisa Murakami, Tomohiro Nakamura, Mami Ishikuro, Taku Obara, Yohei Hamanaka, Tomoko Kobayashi, Akira Uruno, Eiichi N. Kodama, Satoshi Nagaie, Yoko Izumi, Nobuo Fuse, Shinichi Kuriyama, Atsushi Hozawa.	47(3):586-597	2023.10.31	10.1038/s41440-023-01484-8
The association between depressive symptoms and masked hypertension in participants with normotension measured at research center	Hypertension Research	Tokioka S, Nakaya N, Nakaya K, Kogure M, Hatanaka R, Chiba I, Kanno I, Nochioka K, Metoki H, Murakami T, Satoh M, Nakamura T, Ishikuro M, Obara T, Hamanaka Y, Orui M, Kobayashi T, Uruno A, Kodama EN, Nagaie S, Ogishima S, Izumi Y, Fuse N, Kuriyama S, Hozawa A.	47:586-597	2023.10.31	<a href="https://doi.org/10.1038/s41440-023-01484-8">https://doi.org/10.1038/s41440-023-01484-8</a>
“Demodulation performance comparison of high-speed coherent Nyquist pulse signal with analog and digital demultiplexing schemes,”	IEICE Trans. Commun.	M. Yoshida, K. Kimura, T. Hirooka, K. Kasai, and M. Nakazawa	E-106-B(11):1059-1064	2023.11	
Maternal social isolation in the perinatal period and early childhood development: the Tohoku Medical Megabank Project Birth and Three-Generation Cohort Study	Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology	Keiko Murakami, Aoi Noda, Mami Ishikuro, Taku Obara, Fumihiko Ueno, Tomomi Onuma, Saya Kikuchi, Natsuko Kobayashi, Hirotaka Hamada, Noriyuki Iwama, Hirohito Metoki, Masahiro Kikuya, Masatoshi Saito, Junichi Sugawara, Hiroaki Tomita, Nobuo Yaegashi, Shinichi Kuriyam.	58(11):1593-1601	2023.11 Epub 2023 Jun 3.	10.1007/s00127-023-02498-w
Factors associated with new onset of father-to-infant bonding failure from 1 to 6 months postpartum: an adjunct study of the Japan environment and children's study	Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology	Taeko Suzuki, Toshie Nishigori, Taku Obara, Miyuki Mori, Kasumi Sakurai, Mami Ishikuro, Hirotaka Hamada, Masatoshi Saito, Junichi Sugawara, Takahiro Arima, Hirohito Metoki, Shinichi Kuriyama, Aya Goto, Nobuo Yaegashi, Hidekazu Nishigori.	58(11):1603-1624	2023.11 Epub 2023 Jun 4.	10.1007/s00127-023-02505-0
Seismic control of base-isolated structures using rate-independent damping devices	Journal of Building Engineering	Wei Liu, Yi-Qing Ni, Kohju Ikago, Wai Kei Ao	78:107744	2023.11.1	<a href="https://doi.org/10.1016/j.jobe.2023.107744">https://doi.org/10.1016/j.jobe.2023.107744</a>
Tsunami wave characteristics in Sendai Bay, Japan, following the 2016 Mw 6.9 Fukushima earthquake	Ocean Engineering	Cheng, A.C., Suppasri, A., Heidarzadeh, M., Adriano, B., Chua, C. T. and Imamura, F.	287(1):115676	2023.11.1	<a href="https://doi.org/10.1016/j.oceaneng.2023.115676">https://doi.org/10.1016/j.oceaneng.2023.115676</a>

論文題目名(原語)	論文掲載誌名(原語)	著者氏名(共著者含)	巻(号):開始-終了	発行年月日	DOI (Document of Identification)
Fast Localizing for Anonymous UAVs Oriented Toward Polarized Massive MIMO Systems	IEEE Internet of Things Journal	Fangqing Wen, Dong Ren, Xixi Zhang, Guan Gui, Bamidele Adebisi, Hikmet Sari, and Fumiuyuki Adachi	10(22):20094-20106	2023.11.1	<a href="https://doi.org/10.1109/JIOT.2023.3282644">https://doi.org/10.1109/JIOT.2023.3282644</a>
User Scheduling and Clustering for Distributed Antenna Network Using Quantum Computing	IEICE Transactions on Communications	Keishi Hanakago, Ryo Takahashi, Takahiro Ohyama, and Fumiuyuki Adachi	E106-B(11):1210-1218	2023.11.1	<a href="https://doi.org/10.1587/transcom.2023EBT0004">https://doi.org/10.1587/transcom.2023EBT0004</a>
Differences in the earthquake preparedness of lowand high-income countries: the cases of Shizuoka prefecture, Japan, and the four provinces in Panay, Philippines	Natural Hazards	Ramil B. Atando, Daisuke Sugawara		2023.11.7	<a href="https://doi.org/10.1007/s11069-023-06276-4">https://doi.org/10.1007/s11069-023-06276-4</a>
Helix-based screening with structure prediction using artificial intelligence has potential for the rapid development of peptide inhibitors targeting class I viral fusion	RSC Chemical Biology	Suzuki S, Kuroda M, Aoki K, Kawaji K, Hiramatsu Y, Sasano M, Nishiyama A, Murayama K, Kodama EN, Oishi S, Hayashi H.	5(2):131-140	2023.11.7	<a href="https://doi.org/10.1039/D3CB00166K">https://doi.org/10.1039/D3CB00166K</a>
Fundamental study on diagnostic reference level quantities for endoscopic retrograde cholangiopancreatography using a C-arm fluoroscopy system	Journal of Radiological Protection	Ishii H, Chida K, Inaba Y, Abe K, Onodera S, Zuguchi M	43(4):	2023.11.23	DOI: 10.1088/1361-6498/ad0a9d
"Experiments on the Generation of Higher-Order Hermite-Gaussian Pulses From an FM Mode-Locked Laser,"	IEEE Journal of Quantum Electronics	M. Nakazawa, M. Yoshida, and T. Hirooka	59(6):1300216	2023.12	
Estimation of the Seismic Source of the 1974 Lima Peru Earthquake and Tsunami (Mw 8.1)	Journal of Disaster Research	Cesar Jimenez, Jorge Morales, Miguel Estrada, Bruno Adriano, Erick Mas, Shunichi Koshimura	18(8):825-834	2023.12.1	<a href="https://doi.org/10.20965/jdr.2023.p0825">https://doi.org/10.20965/jdr.2023.p0825</a>
Improving child nutrition in disasters by developing a modeled disaster preparedness nutrition education curriculum.	Frontiers in Public Health	Akidele Abimibayo Adeoya, Shinichi Egawa, Adebayo Sunday Adeoya and Ryoichi Nagatomi	11:1293875	2023.12.1	<a href="https://doi.org/10.3389/fpubh.2023.1293875">https://doi.org/10.3389/fpubh.2023.1293875</a>
Joint User Pairing and Resource Allocation in Air-to-Ground Communication-Caching-Charging Integrated Network Based on NOMA	IEEE Transactions on Vehicular Technology	Yue Yin, Guan Gui, Miao Liu, Haris Gacanin, Hikmet Sari, and Fumiuyuki Adachi	72(12):15819-15828	2023.12.1	<a href="https://doi.org/10.1109/TVT.2023.3291174">https://doi.org/10.1109/TVT.2023.3291174</a>
Interpolative Metric Learning for Few-Shot Specific Emitter Identification	IEEE Transactions on Vehicular Technology	Cheng Wang, Xue Fu, Yu Wang, Guan Gui, Haris Gacanin, Hikmet Sari, and Fumiuyuki Adachi	72(12):16851-16855	2023.12.1	<a href="https://doi.org/10.1109/TVT.2023.3296120">https://doi.org/10.1109/TVT.2023.3296120</a>
Lightweight Automatic Modulation Classification via Progressive Differentiable Architecture Search	IEEE Transactions on Cognitive Communications and Networking	Xixi Zhang, Xiaofeng Chen, Yu Wang, Guan Gui, Bamidele Adebisi, Hikmet Sari, and Fumiuyuki Adachi	9(6):1519-1530	2023.12.1	<a href="https://doi.org/10.1109/TCCN.2023.3306391">https://doi.org/10.1109/TCCN.2023.3306391</a>
Attention mechanism based intelligent channel feedback for mmWave massive MIMO systems	Peer-to-Peer Networking and Applications	Yibin Zhang, Jinlong Sun, Guan Gui, Yun Lin, Haris Gacanin, Hikmet Sari, and Fumiuyuki Adachi	17:261-283	2023.12.1	<a href="https://doi.org/10.1007/s12083-023-01594-7">https://doi.org/10.1007/s12083-023-01594-7</a>
Responses from Businesses in Rural Communities Recovering from the 2011 Tohoku Disasters during the 2020 Tokyo Olympics	Tourism Cases	David Nguyen, Gabriel Cordoba Fuentes	NA(NA):1-10	2023.12.19	<a href="https://doi.org/10.1079/tourism.2023.0053">https://doi.org/10.1079/tourism.2023.0053</a>
Hokkaido birth cohort study in Japan on the growth trajectory of children born with low birth weight until 7 years of age	Early human development	Kritika Poudel, Sumitaka Kobayashi, Hiroyoshi Iwata, Maki Tojo, Takeshi Yamaguchi, Keiko Yamazaki, Naomi Tamura, Mariko Itoh, Taku Obara, Shinichi Kuriyama, Reiko Kishi.	189:105925	2023.12.26	<a href="https://doi.org/10.1016/j.earlhumdev.2023.105925">10.1016/j.earlhumdev.2023.105925</a>
Effect of Nicotinamide Mononucleotide Concentration in Human Milk on Neurodevelopmental Outcome: The Tohoku Medical Megabank Project Birth and Three-Generation Cohort Study	Nutrients	Yoshie Saito, Keigo Sato, Shinji Jinno, Yoshitaka Nakamura, Takahiro Nobukuni, Soichi Ogishima, Satoshi Mizuno, Seizo Koshiba, Shinichi Kuriyama, Kinuko Ohneda and Masashi Morifuji.	16(1):145	2023.12.31	<a href="https://doi.org/10.3390/nu16010145">10.3390/nu16010145</a>
Late Quaternary activity of the Haramachi segment of the Futaba fault in northern Japan through topographic anaglyph images and borehole core sediment analysis	Rudarsko-geološko-naftni zbornik	Puji, Anggraini Rizkita, N. Takahashi, and S. Toda	38(2):157-174	2023.2.12	<a href="https://doi.org/10.17794/rgn.2023.2.12">https://doi.org/10.17794/rgn.2023.2.12</a>
Variable passing method for combining 3D MPM-FEM hybrid and 2D shallow water simulations of landslide-induced tsunamis	International Journal for Numerical Methods in Fluids	Shaoyuan Pan, Guoming Ling, Reika Nomura, Shinsuke Takase, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada	96(1):17-43	2024.1	<a href="https://doi.org/10.1002/fld.5233">10.1002/fld.5233</a>
Air Reconfigurable Intelligent Surface Enhanced Multi-User NOMA System	IEEE Internet of Things Journal	Haitao Zhao, Zhipeng Kong, Shengnan Shi, Hao Huang, Yiyang Ni, Guan Gui, Haris Gacanin, Hikmet Sari, and Fumiuyuki Adachi	11(1):29-39	2024.1.1	<a href="https://doi.org/10.1109/JIOT.2023.3279112">https://doi.org/10.1109/JIOT.2023.3279112</a>
The Population-Attributable Fractions of Small-for-Gestational-Age Births: Results from the Japan Birth Cohort Consortium	Nutrients	Ishitsuka K, Piedvache A, Kobayashi S, Iwama N, Nishimura T, Watanabe M, Metoki H, Iwata H, Miyashita C, Ishikuro M, Obara T, Sakurai K, Rahman MS, Tanaka K, Miyake Y, Horikawa R, Kishi R, Tsuchiya KJ, Mori C, Kuriyama S, Morisaki N.	16(2):186	2024.1.5	<a href="https://doi.org/10.3390/nu16020186">10.3390/nu16020186</a>
The 2024 Noto Peninsula Earthquake and the Strategy of Medical Assistance from the Tohoku University Hospital.	Tohoku Journal of Experimental Medicine	Egawa, S, Ishii T, Furukawa H, Fujita M, Abe Y, Sakamoto A, Inaba Y, Ono K, Harigae H, Tsuboi M, Kuriyama S, and Sasaki H	262(1):45-49	2024.1.10	<a href="https://doi.org/10.1620/tjem.2024.J010">https://doi.org/10.1620/tjem.2024.J010</a>
Experimental Medicine	Tohoku Journal of Experimental Medicine	Egawa, S.	262(1):1-3	2024.1.10	<a href="https://doi.org/10.1620/tjem.2023.J096">https://doi.org/10.1620/tjem.2023.J096</a>
The Role of Stress Transfer in Rupture Nucleation and Inhibition in the 2023 Kahramanmaraş, Türkiye, Sequence, and a One-Year Earthquake Forecast	Seismological Research Letters	Toda, S. and R. S. Stein	95(2A):596-606	2024.1.16	<a href="https://doi.org/10.1785/S0220230252">https://doi.org/10.1785/S0220230252</a>
Usefulness of the spectral shaping dual-source computed tomography imaging technique in posterior corrective fusion for adolescent idiopathic scoliosis.	European Spine Journal	Noto Y, Endo Y, Ohashi M, Hirano T, Kuramoto T, Chida K, Watanabe K.	33:706-712	2024.1.17	<a href="https://doi.org/10.1007/s00586-023-08006-7">https://doi.org/10.1007/s00586-023-08006-7</a>
Helical peptides with disordered regions for measles viruses provide new generalized insights into fusion inhibitors	iScience	Hirata K, Takahara A, Suzuki S, Murakami S, Kawaji K, Nishiyama A, Sasano M, Shoji-Ueno M, Usui E, Murayama K, Hayashi H, Oishi S, Kodama EN	27(2):108961	2024.1.17	<a href="https://doi.org/10.1016/j.iisci.2024.108961">https://doi.org/10.1016/j.iisci.2024.108961</a>
The association between blood pressure control in women during pregnancy and adverse perinatal outcomes: the TMM BirThree Cohort Study	Hypertension Research	Ishikuro M, Obara T, Murakami K, Ueno F, Noda A, Onuma T, Kikuya M, Metoki H, Kuriyama S.		2024.1.18	<a href="https://doi.org/10.1016/j.earlhumdev.2023.105925">10.1016/j.earlhumdev.2023.105925</a>



論文題目名(原語)	論文掲載誌名(原語)	著者氏名(共著者含)	巻(号):開始-終了	発行年月日	DOI (Document of Identification)
Relationship between traditional risk factors for hypertension and systolic blood pressure in the Tohoku Medical Megabank Community-based Cohort Study	Hypertension Research	Takase M, Nakaya N, Tanno K, Kogure M, Hatanaka R, Nakaya K, Chiba I, Kanno I, Nochioka K, Tsuchiya N, Nakamura T, Hirata T, Obara T, Ishikuro M, Kotozaki Y, Urano A, Kobayashi T, Kodama EN, Hamanaka Y, Orui M, Ogishima S, Nagaie S, Ohmomo H, Fuse N, Sugawara J, Shimizu A, Izumi Y, Kuriyama S, Hozawa A; ToMMo investigators.		2024.1.18	10.1038/s41440-024-01582-1
Risk of Major Congenital Malformations Associated with the Use of Japanese Traditional (Kampo) Medicine Containing Ephedra During the First Trimester of Pregnancy	Drugs Real World Outcomes	Noda A, Obara T, Matsuzaki F, Suzuki S, Arita R, Ohsawa M, Obara R, Morishita K, Ueno F, Shinoda G, Orui M, Murakami K, Ishikuro M, Kikuchi A, Takayama S, Ishii T, Kawame H, Kure S, Kuriyama S.		2024.1.19	10.1007/s40801-023-00411-0
Systematic reduction of gray matter volume in anorexia nervosa, but relative enlargement with clinical symptoms in the prefrontal and posterior insular cortices: a multicenter neuroimaging study	Molecular Psychiatry	Keima Tose, Tsunehiko Takamura, Masanori Isobe, Yoshiyuki Hirano, Yasuhiro Sato, Naoki Kodama, Kazufumi Yoshihara, Norihide Maikusa, Yoshiya Moriguchi, Tomomi Noda, Ryo Mishima, Michiko Kawabata, Shun'ichi Noma, Shu Takakura, Motoharu Gondo, Shingo Kakeda, Masatoshi Takahashi, Satoru Ide, Hiroaki Adachi, Sayo Hamatani, Rio Kamashita, Yusuke Sudo, Koji Matsumoto, Michiko Nakazato, Noriko Numata, Yumi Hamamoto, Tomotaka Shoji, Tomohiko Muratsubaki, Motoaki Sugiura, Toshiya Murai, Shin Fukudo and Atsushi Sekiguchi	: 1-11	2024.1.22	<a href="https://doi.org/10.1038/s41380-023-02378-4">https://doi.org/10.1038/s41380-023-02378-4</a>
Marked alteration of phosphoinositide signaling-associated molecules in postmortem prefrontal cortex with bipolar disorder	Neuropsychopharmacology Reports	Mizuki Hino; Yasuto Kunii; Risa Shishido; Atsuko Nagaoka; Junya Matsumoto; Hiroyasu Akatsu; Yoshio Hashizume; Hideki Hayashi; Akiyoshi Kakita; Hiroaki Tomita; Hirooki Yabe	44 (1) : 121-128	2024.1.22	<a href="https://doi.org/10.1002/npr2.12409">https://doi.org/10.1002/npr2.12409</a>
Evaluating tensile strength of cement paste using multiscale modeling and in-situ splitting tests with micro-CT	Construction & Building Materials	Se-Yun Kim, Donghwi Eum, Hoonhee Lee, Kyoungsoo Park, Kenjiro Terada, Tong-Seok Han	411 : 134642	2024.1.24	<a href="https://doi.org/10.1016/j.conbuildmat.2023.134642">10.1016/j.conbuildmat.2023.134642</a>
Crack phase-field enhanced finite cover method for dynamic fracture at finite strain	International Journal for Numerical Methods in Engineering	Jike Han, Daigo Hirayama, Yuichi Shintaku, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada	125 (2) : e7371	2024.1.30	10.1002/nme.7371
Effects of social interactions on the neural representation of emotional words in late bilinguals	Language, Cognition, and Neuroscience	Chunlin Liu, Hyeonjeong Jeong, Haining Cui, Jean-Marc Dewaele, Kiyo Okamoto, Yuichi Suzuki and Motoaki Sugiura	39 (3) : 383-399	2024.1.31	<a href="https://doi.org/10.1080/23273798.2024.2307630">https://doi.org/10.1080/23273798.2024.2307630</a>
Urban Streetscape Changes in Portland, Oregon: A Longitudinal Virtual Audit	The Professional Geographer	Tomoya Hanibuchi, Shohei Nagata, David Banis, Hunter Shobe, Tomoki Nakaya	76 (2) : 180-193	2024.1.31	<a href="https://doi.org/10.1080/00330124.2023.2287166">https://doi.org/10.1080/00330124.2023.2287166</a>
Real-world effectiveness of full and booster mRNA vaccination for coronavirus disease 2019 against disease severity during the delta- and omicron-dominant phases: A propensity score-matched cohort study using the nationwide registry data in Japan	Journal of Microbiology, Immunology and Infection	Suzuki T, Asai Y, Tsuzuki S, Nomoto H, Matsunaga N, Kodama EN, Hayakawa K, Ohmagari N.	57 (1) : 20-29	2024.2	<a href="https://doi.org/10.1016/j.jmii.2023.12.002">https://doi.org/10.1016/j.jmii.2023.12.002</a>
Association of parity with the prevalence of hypertension in Japan: The Tohoku Medical Megabank Community-based cohort study	The Journal of Clinical Hypertension (Greenwich).	Wang H, Iwama N, Yuwaki K, Nakamichi Y, Hamada H, Tomita H, Tagami K, Kudo R, Kumagai N, Metoki H, Nakaya N, Hozawa A, Kuriyama S, Yaegashi N, Saito M.	26 (2) : 102-121	2024.2	10.1111/jch.14756. Epub 2024 Jan 8
Association between infertility treatment and hypertensive disorders of pregnancy in the Japan Birth Cohort Consortium: a meta-analysis	Journal of Human Hypertension	Ishikuro M, Nishimura T, Iwata H, Metoki H, Obara T, Iwama N, Murakami K, Rahman MS, Tojo M, Kobayashi S, Miyashita C, Tanaka K, Miyake Y, Ishitsuka K, Horikawa R, Morisaki N, Yamamoto M, Sakurai K, Mori C, Shimizu A, Sata F, Tsuchiya KJ, Kishi R, Kuriyama S; Japan Birth Cohort Consortium.	38 (2) : 187-190	2024.2	10.1038/s41371-023-00890-2
A risk-scrutinizing attitude is independent of risk-sensitive attitude and may hamper a proper protective response: a tsunami simulation experiment	Journal of Disaster Research,2023	Masato Takubo, Motoaki Sugiura, Ryo Ishibashi, Naoki Miura and Azumi Tanabe-Ishibashi	19 (1) : 81-93	2024.2.1	<a href="https://doi.org/10.20965/jdr.2024.p0081">https://doi.org/10.20965/jdr.2024.p0081</a>
How disaster prevention videos contribute to tsunami evacuation: subjective motivation and risk-sensitive attitude in a simulation experiment	Journal of Disaster Research,2023	Masato Takubo, Motoaki Sugiura, Ryo Ishibashi, Naoki Miura and Azumi Tanabe-Ishibashi	19 (1) : 94-104	2024.2.1	<a href="https://doi.org/10.20965/jdr.2024.p0094">https://doi.org/10.20965/jdr.2024.p0094</a>
Post-Disaster Community Transition of Psychiatric Inpatients: Lessons from the Fukushima Nuclear Accident	Community Mental Health Journal	Toshihiro Terui; Yasuto Kunii; Hiroshi Hoshino; Takeyasu Kakamu; Tomoo Hidaka; Tetsuhito Fukushima; Nobuo Anzai; Daisuke Gotoh; Itaru Miura; Hirooki Yabe		2024.2.3	<a href="https://doi.org/10.1007/s10597-024-01232-3">https://doi.org/10.1007/s10597-024-01232-3</a>
Improving diagnostic accuracy of blood culture-positive cases in a cancer center via an antimicrobial stewardship program and infectious disease consultations	Scientific Reports	Naoya Itoh, Nana Akazawa, Takanori Kawabata, Makoto Yamaguchi, Eiichi N. Kodama, and Norio Ohmagari	14 (1) : 2869	2024.2.4	<a href="https://doi.org/10.1038/s41598-024-53543-w">https://doi.org/10.1038/s41598-024-53543-w</a>

論文題目名(原語)	論文掲載誌名(原語)	著者氏名(共著者含)	巻(号):開始-終了	発行年月日	DOI (Document of Identification)
Relationships of Fat Mass Index and Fat-Free Mass Index with Low-Density Lipoprotein Cholesterol Levels in the Tohoku Medical Megabank Community-Based Cohort Study	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis	Takase M, Nakamura T, Nakaya N, Kogure M, Hatanaka R, Nakaya K, Chiba I, Kanno I, Nochioka K, Tsuchiya N, Hirata T, Obara T, Ishikuro M, Uruno A, Kobayashi T, Kodama EN, Hamanaka Y, Orui M, Ogishima S, Nagaie S, Fuse N, Sugawara J, Izumi Y, Kuriyama S, Hozawa A; ToMMo investigators.	23:	2024.2.6	10.5551/jat.64535
Inelastic torsional buckling of simple three-dimensional moment resisting frame	Frontiers in Built Environment	Iori Fukuda, Kohju Ikago, Yoshikazu Araki, David J. Wagg	10:	2024.2.14	<a href="https://doi.org/10.3389/fbuil.2024.1333949">https://doi.org/10.3389/fbuil.2024.1333949</a>
Association between Maternal Birth Weight and Prevalence of Congenital Malformations in Offspring: The Japanese Environment and Children's Study	Nutrients.	Hamada H, Iwama N, Tomita H, Tagami K, Kumagai N, Kudo R, Wang H, Izumi S, Watanabe Z, Ishikuro M, Obara T, Tatsuta N, Metoki H, Saito M, Ota C, Kuriyama S, Arima T, Yaegashi N, The Japan Environment And Children's Study Group.	16(4):351	2024.2.14	10.3390/nu16040531.
Optimization of a Tsunami Gauge Configuration for Pseudo-Super-Resolution of Wave Height Distribution	Earth and Space Science	Saneiki Fujita, Reika Nomura, Shuji Moriguchi, Yu Otake, Shunichi Koshimura, Randall J. LeVeque, Kenjiro Terada	11(2):e2023EA003144	2024.2.20	10.1029/2023EA003144
Evaluation of Deep Learning Models for Building Damage Mapping in Emergency Response Settings	IEEE Journal of Selected Topics in Applied Earth Observations and Remote Sensing	Sesa Wiguna, Bruno Adriano, Erick Mas, Shunichi Koshimura	17:5651-5667	2024.2.20	<a href="https://doi.org/10.1109/JSTARS.2024.3367853">https://doi.org/10.1109/JSTARS.2024.3367853</a>
Maternal birth weight as an indicator of early and late gestational diabetes mellitus: The Japan Environment and Children's Study	Journal of Diabetes Investigation	Kazuma Tagami, Noriyuki Iwama, Hirota Hamada, Hasumi Tomita, Rie Kudo, Natsumi Kumagai, Hongxin Wang, Seiya Izumi, Zen Watanabe, Mami Ishikuro, Taku Obara, Nozomi Tatsuta, Hirohito Metoki, Chiharu Ota, Takashi Sugiyama, Shinichi Kuriyama, Takahiro Arima, Nobuo Yaegashi, Masatoshi Saito, The Japan Environment and Children's Study Study Group.		2024.2.23	10.1111/jdi.14159.
Progress report of the Tohoku Medical Megabank Community-Based Cohort Study: Study profile of the repeated center-based survey during second period in Miyagi Prefecture	Journal of Epidemiology	Hozawa A, Nakaya K, Nakaya N, Nakamura T, Kogure M, Hatanaka R, Chiba I, Kanno I, Sugawara J, Kodama E, Hamanaka Y, Kobayashi T, Uruno A, Tsuchiya N, Hirata T, Narita A, Tsuboi A, Tamahara T, Otsuki A, Goto M, Taira M, Shimizu R, Suzuki K, Obara T, Kikuya M, Metoki H, Ishikuro M, Danjoh I, Ogishima S, Nagaie S, Minegishi N, Hiratsuka M, Kumada K, Nishijima I, Nobukuni T, Yamaguchi-Kabata Y, Nagami F, Kure S, Fuse N, Kinoshita K, Izumi Y, Kuriyama S, Yamamoto M.		2024.2.24	10.2188/jea.JE20230241
Combined Fat Mass and Fat-free Mass Indices and Lung Function Among Japanese Population: The Tohoku Medical Megabank Community-based Cohort Study	Journal of Epidemiology	Takase M, Yamada M, Nakamura T, Nakaya N, Kogure M, Hatanaka R, Nakaya K, Chiba I, Kanno I, Nochioka K, Tsuchiya N, Hirata T, Hamanaka Y, Sugawara J, Kobayashi T, Fuse N, Uruno A, Kodama EN, Kuriyama S, Tsuji I, Hozawa A.		2024.2.24	10.2188/jea.JE20220355.
Modal decomposition of multi-degree-of-freedom structure with non-proportionally distributed rate-independent linear damping	Computers & Structures	Wei Liu, Kohju Ikago, Jiang Liu	297:107316	2024.2.26	<a href="https://doi.org/10.1016/j.compstruc.2024.107316">https://doi.org/10.1016/j.compstruc.2024.107316</a>
Maternal social isolation and behavioral problems in preschool children: The Tohoku Medical Megabank Project Birth and Three-Generation Cohort Study	European Child & Adolescent Psychiatry	Murakami K, Ishikuro M, Obara T, Ueno F, Noda A, Onuma T, Matsuzaki F, Takahashi I, Kikuchi S, Kobayashi N, Hamada H, Iwama N, Metoki H, Kikuya M, Saito M, Sugawara J, Tomita H, Yaegashi N, Kuriyama S.	33(3):761-769	2024.3	10.1007/s00787-023-02199-4
Post-displacement placemaking to reconnect social capital after the 3.11 earthquake and tsunami in Arahama, Japan	International Journal of Disaster Risk Reduction	Yegane Ghezelloo, Ryuta Hara, Miku Okuba, Elizabeth Maly, Nobuyuki Arai, Tamiyo Kondo	103:104323-104323	2024.3	<a href="https://doi.org/10.1016/j.ijdrr.2024.104323">https://doi.org/10.1016/j.ijdrr.2024.104323</a>
Diffusive-discrete crack transition without remeshing achieved by extended B-spline-based implicit material point method	Computer Methods in Applied Mechanics and Engineering	5. Riichi Sugai, Jike Han, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada	421:116771	2024.3.1	/10.1016/j.cma.2024.116771
Role of Genetic Risk in the Association Between Screen Time and Child Development	JAMA Pediatr.	Takahashi I, Obara T, Kuriyama S.	178(3):317-318	2024.3.1	10.1001/jamapediatrics.2023.6106
Joint Beamformer Design and Power Allocation Method for Hybrid RF-VLCP System	IEEE Internet of Things Journal	Shengnan Shi, Guan Gui, Yun Lin, Chau Yuen, Octavia A. Dobre, and Fumiyouki Adachi	11(5):7878-7892	2024.3.1	<a href="https://doi.org/10.1109/JIOT.2023.3316434">https://doi.org/10.1109/JIOT.2023.3316434</a>
Online Trajectory Optimization for Energy-Efficient Cellular-Connected UAVs with Map Reconstruction	IEEE Transactions on Vehicular Technology	Haitao Zhao, Qing Hao, Hao Huang, Guan Gui, Tomoaki Ohtsuki, Hikmet Sari, and Fumiyouki Adachi	73(3):3445-3456	2024.3.1	<a href="https://doi.org/10.1109/TVT.2023.3323349">https://doi.org/10.1109/TVT.2023.3323349</a>
Dietary habits and plasma lipid concentrations in a general Japanese population	Metabolomics.	Sato M, Hishinuma E, Matsukawa N, Shima Y, Saigusa D, Motoike IN, Kogure M, Nakaya N, Hozawa A, Kuriyama S, Yamamoto M, Koshiba S, Kinoshita K.	20(2):34	2024.3.5	10.1007/s11306-024-02087-1

論文題目名(原語)	論文掲載誌名(原語)	著者氏名(共著者含)	巻(号):開始-終了	発行年月日	DOI (Document of Identification)
Association of physiological factors with grip and leg extension strength: tohoku medical megabank community-based cohort study	BMC Public Health	Noji Y, Hatanaka R, Nakaya N, Kogure M, Nakaya K, Chiba I, Kanno I, Nakamura T, Tsuchiya N, Momma H, Hamanaka Y, Orui M, Kobayashi T, Uruno A, Kodama EN, Nagatomi R, Fuse N, Kuriyama S, Hozawa A.	24(1):714	2024.3.5	10.1186/s12889-024-18244-z
Advanced sea ice modeling for short-term forecasting for Alaska's coasts	Weather and Forecasting	Ayumi Fujisaki-Manome, Haoguo Hu, Jia Wang, Joannes Westerink, Damrongsak Wirasat, Guoming Ling, Mindo Choi, Saeed Moghimi, Edward Myers, Ali Abdolali, Clint Dawson, and Carol Janzen		2024.3.6	<a href="https://doi.org/10.1175/WAF-D-23-0178.1">https://doi.org/10.1175/WAF-D-23-0178.1</a>
Hypertensive disorders of pregnancy, neonatal outcomes and offspring developmental delay in Japan: The Tohoku Medical Megabank Project Birth and Three-Generation Cohort Study	Acta Obstetrica Et Gynecologica Scandinavica	Chen G, Ishikuro M, Ohseto H, Murakami K, Noda A, Shinoda G, Orui M, Obara T, Kuriyama S.		2024.3.7	10.1111/aogs.14820
Development of phenotyping algorithms for hypertensive disorders of pregnancy (HDP) and their application in more than 22,000 pregnant women	Scientific Reports	Mizuno S, Wagata M, Nagaie S, Ishikuro M, Obara T, Tamiya G, Kuriyama S, Tanaka H, Yaegashi N, Yamamoto M, Sugawara J, Ogishima S.	14(1):6292	2024.3.15	10.1038/s41598-024-55914-9.
Genome-wide association study of nausea and vomiting during pregnancy in Japan: the TMM BirThree Cohort Study	BMC Pregnancy and Childbirth	Yonezawa Y, Takahashi I, Ohseto H, Ueno F, Onuma T, Noda A, Murakami K, Ishikuro M, Obara T, Kuriyama S.	24(1):209	2024.3.20	10.1186/s12884-024-06376-4
A new GNSS-acoustic positioning software implementing multiple positioning functions considering nadir total delays	Earth, Planets and Space	Tomita, F., M. Kido	76:	2024.3.26	<a href="https://doi.org/10.1186/s40623-024-01987-9">https://doi.org/10.1186/s40623-024-01987-9</a>
Feasibility of an inerter-based causal rate-independent damping model for the protection of seismically isolated structures	Structures	Zhanzhan Wu, Kohju Ikago	62:106271	2024.3.27	<a href="https://doi.org/10.1016/j.jstruct.2024.106271">https://doi.org/10.1016/j.jstruct.2024.106271</a>
Reconstructing historical terrain to elucidate the causes of disaster occurrence and improve disaster prevention literacy	Journal of Disaster Research	Ebina, Y., Sugawara, D.	19(1):30-37	2024.3.31	<a href="https://doi.org/10.20965/jdr.2024.p0030">https://doi.org/10.20965/jdr.2024.p0030</a>
Reduced body-image disturbance by body-image interventions is associated with neural-response changes in visual and social processing regions: a preliminary study	Frontiers in Psychiatry, 2024	Yumi Hamamoto, Kentaro Oba, Ryo Ishibashi, Yi Ding, Rui Nouchi and Motoaki Sugiura	19:1-21	2024.3.6	<a href="https://doi.org/10.3389/fpsy.2024.1337776">https://doi.org/10.3389/fpsy.2024.1337776</a>
Rupture geometry and slip distribution of the Mw 7.2 Nippes earthquake, Haiti, from space geodetic data	Geochemistry, Geophysics, Geosystems	Raimbault, B., R. Jolivet, E. Calais, S. Symithe, Y. Fukushima, and P. Dubernet	24:e2022GC010752	2023.4.22	<a href="https://doi.org/10.1029/2022GC010752">https://doi.org/10.1029/2022GC010752</a>
Assessment of fetal radiation exposure in pregnant women undergoing computed tomography and rotational angiography examinations for pelvic trauma	Radiation Protection Dosimetry	Matsunaga Y, Haba T, Kobayashi M, Suzuki S, Asada Y, Chida K.		2024.3.14	DOI: 10.1093/rpd/nae058
<b>英語(査読無)</b>					
A single-cell atlas of transcribed cis-regulatory elements in the human genome.	bioRxiv	Moody, J., Kouno, T., Kojima, M., Koya, I., Leon, J., Suzuki, A., Hasegawa, A., Akiyama, T., Akiyama, N., Amagai, M., Chang, J.-C., Fukushima-Nomura, A., Handa, M., Hino, K., Hino, M., Hirata, T., Imai, Y., Inoue, K., Kawasaki, H., Kimura, T., Kinoshita, T., Kubo, K.-i., Kunii, Y., López-Redondo, F., Manabe, R., Miyai, T., Morimoto, S., Nagaoka, A., Nakajima, J., Noma, S., Okazaki, Y., Ozaki, K., Saeki, N., Sakai, H., Seyama, K., Shibayama, Y., Sujino, T., Tagami, M., Takahashi, H., Takao, M., Takeshita, M., Takiuchi, T., Terao, C., Yip, C.W., Yoshinaga, S., Okano, H., Yamamoto, K., Kasukawa, T., Ando, Y., Carninci, P., Shin, J.W., and Hon, C.-C.,		2023.11.13	<a href="https://doi.org/10.1101/2023.11.13.566791">https://doi.org/10.1101/2023.11.13.566791</a>
<b>日本語(査読有)</b>					
東日本大震災被災三県沿岸地域小中学校における震災学習の違い—県間と学校種間の比較を通して—	防災教育学研究	齋藤玲, 呂本俊亮, 小田隆史	3(2):1-23	2023.12.11	<a href="https://doi.org/10.51004/rjdc.3_2_1">https://doi.org/10.51004/rjdc.3_2_1</a>
防災行動と役割を考えるOur Timeline(アワタラ)の提案—地区防災計画作成に向けて—	地区防災計画学会誌	保田真理, 呂本俊亮	28:	2023.12.31	
「防災共創授業」の開発:認知バイアスの理解深化を促す小学校高学年対象の授業の事例報告	教科書フォーラム	齋藤玲	24(1):20-35	2023.	
境界型防衛からゼロトラストへ-医療機関側の視点-	第43回医療情報学連合大会論文集	藤井進,野中小百合,山下貴範,中村直毅	43:141-143	2023.	
浸水からの鉄道車両事前避難に関する決定木分析	運輸政策研究	奥村誠, 森合一輝	26:6-14	2023.2.29	
10年間のコホート調査に基づく東日本大震災被災者における心理的苦痛の経年変化	精神神経学雑誌	白倉 瞳, 内海 裕介, 瀬戸 萌, 佐久間 篤, 菅原 由美, 國井 泰人, 中谷 直樹, 寶澤 篤, 辻 一郎, 富田 博秋	125(4):266-274	2023.4.25	
アダプティブ領域探索法を用いた熱可塑性樹脂の非線形材材定数の同定	日本複合材料学会誌	染宮聖人, 中尾美結, 平山紀夫, 荒井邦晴, 松原成志朗, 寺田賢二郎	49(3):91-99	2023.5	
昭和8年三陸津波後に計画された宮城県の津波対策における海岸堤防の位置付け	土木学会論文集 D3	西脇小瀬, 奥村誠, 平野勝也	78(5):I_327-I_335	2023.5.12	
出発・到着時刻を考慮した都市間小口物流ネットワークモデル	土木学会論文集 D3	古屋拓人,奥村誠	78(5):I_597-I_604	2023.5.12	
季節変動を受ける都市間鉄道のネットワーク構造・運行情・運賃の同時最適化	土木学会論文集 D3	吉田智貴,奥村誠	78(5):I_605-I_612	2023.5.12	
PCI 術者の水晶体線量のリアルタイム測定に関する初期検討	日本放射線安全管理学会誌	加藤 聖規,藤沢 昌輝,服部 兼進,山田 歩実, 芳賀 喜裕, 加賀 勇治, 阿部 美津也, 稲葉 洋平, 千田 浩一	22(1):10-18	2023.6.8	<a href="https://doi.org/10.11269/jjrm.22.10">https://doi.org/10.11269/jjrm.22.10</a>

論文題目名(原語)	論文掲載誌名(原語)	著者氏名(共著者含)	巻(号):開始-終了	発行年月日	DOI (Document of Identification)
免震建物に適用する過大変位抑制用性能可変オイルダンパーの開発	日本建築学会技術報告集	小山慶樹, 山上聡, 舟木秀尊, 五十子幸樹, 井上範夫	29(72):701-706	2023.6.20	<a href="https://doi.org/10.3130/aijt.29.701">https://doi.org/10.3130/aijt.29.701</a>
水晶体用線量計DOSIRIS®の改良試作型ヘッドセットに関する初期検討、臨床放射線	臨床放射線	今田聡恵, 芳賀喜裕, 曾田真宏, 阿部美津也, 加賀勇治, 稲葉洋平, 千田浩一	68(7):723-729	2023.7.10	<a href="https://doi.org/10.18888/rp.0000002397">https://doi.org/10.18888/rp.0000002397</a>
「セクシュアルマイノリティの実態と災害時の脆弱性に関する基礎研究」	『地域安全学会論文集』42, 297-304.	松川杏寧, 北村美和子,	42:297-304	2023.7.24	
宮城県岩沼市における地球科学分析を用いた古環境復元と歴史津波堆積物の認定	地学雑誌	小形祐介, 後藤和久, 篠崎鉄哉, 池原実, Chagué, C., 川又隆央, 横山祐典, 宮入陽介, 石澤亮史, 手塚 寛	132(4):275-296	2023.8.25	<a href="https://doi.org/10.5026/jgeography.132.275">https://doi.org/10.5026/jgeography.132.275</a>
実効性のある学校版避難確保計画作成支援のための教員研修プログラムの開発	安全教育学研究	桜井愛子, 佐藤 健, 村山 良之, 熊谷誠, 北浦 早苗, 小田 隆史	23(1):19-30	2023.9	
近世東北における土砂流出・堆積問題と流域-近世後期の仙台藩領を事例として-	日本史研究	高橋美貴, 佐藤大介	733:15-42	2023.9	
キュラントモデルに基づく格子ボルツマン法による構造物に作用する津波波圧に関する研究	混相流	佐藤 兼太, 川崎 浩司, 越村 俊一	37(3):316-323	2023.9.15	10.3811/jjmf.2023.t011
震災語り部学習の聞き手に対する継続的影響に関する分析:小学生から高校生を対象にしたオンライン形式の語り部学習の事例	自然災害科学	佐藤翔輔, 渡邊勇, 佐藤和香, 星和敏, 渡辺達美, 中川政治, 藤間千尋, 浅利満理子	42(特別号):35-48	2023.9.17	<a href="https://doi.org/10.24762/jnds.42.S10_35">https://doi.org/10.24762/jnds.42.S10_35</a>
日本国土の地勢を踏まえた災害リスクに対する曝露量の分布と今後の推移	日本建築学会計画系論文集	藤原叶多, 村尾修	88(812):2727-2738	2023.10	<a href="https://doi.org/10.3130/aija.88.2727">doi.org/10.3130/aija.88.2727</a>
居住者アンケートに基づく東日本大震災前後の名取市閑上地区の居住環境評価	日本建築学会計画系論文集	加藤春奈, 村尾修	88(812):2739-2750	2023.10	<a href="https://doi.org/10.3130/aija.88.2739">doi.org/10.3130/aija.88.2739</a>
数値材料試験とニューラルネットワークを用いた母材樹脂の塑性を考慮したCFRTPの界面接着強度の予測	成形加工	佐藤智, 染宮聖人, 平山紀夫, 山本晃司, 松原成志朗, 寺田賢二郎	35(11):404-410	2023.10.20	
東日本大震災被災地の復興事業データに基づく事前高台移転の有益性に関する比較研究	地域安全学会論文集	東野幹久, 村尾修	(43):257-264	2023.11	
シンチレータ式簡易測定器の諸特性に関する基礎検討	日本放射線安全管理学会誌	磯部 理央, 古川 未来, 大野 紗耶, 進藤 遼太, 山本 啓介, 稲葉 洋平, 鈴木 正敏, 千田 浩一	22(2):72-82	2023.11.7	<a href="https://doi.org/10.11269/jjism.22.72">https://doi.org/10.11269/jjism.22.72</a>
被災自治体による震災から復興過程におよぶ災害対応記録誌の作成プロセス:「みやぎの3.11」作成業務の観察・調査にもとづく実態把握	地域安全学会論文集	佐藤翔輔, 今村文彦	43:201-211	2023.11.18	
時短型災害語り部学習プログラム「ツナミリアル」の効果検証に関する実験的研究	地域安全学会論文集	若木望, 佐藤翔輔, 渡邊勇, 邑本俊亮, 今村文彦	43:95-104	2023.11.18	
繊維強化熱可塑性樹脂の異方性弾塑性挙動の観察と材料構成則-異方性降伏関数とゆがみ硬化則-	日本機械学会論文集	山本 晃司, 染宮 聖人, 寺田 賢二郎, 平山 紀夫	89(927):23-00201	2023.11.25	10.1299/transjsme.23-00201
弾塑性複合材料の代理均質化モデルを用いた非周期性を許容するマルチスケール解析	計算工学会論文集	中村明莉, 山中耀介, 新宅勇一, 平山紀夫, 森口周二, 寺田賢二郎	2023:20230008	2023.12.8	10.11421/jscs.2023.20230008
東日本大震災発生以後に発生した各地震における津波避難行動の定点調査:2011年~2022年の宮城県亘理町における事例分析	土木工学論文集	佐藤翔輔, 遠藤匡範, 岩崎雅宏, 皆川満洋, 高橋里佳, 南城真佐英, 今村文彦	79(17):23-17183	2023.11.15	<a href="https://doi.org/10.2208/jscej.23-17183">https://doi.org/10.2208/jscej.23-17183</a>
津波避難時における洪滞緩和を目的とした徒歩避難促進手法の試作:宮城県石巻市における実践例	土木工学論文集	川合将矢, 佐藤翔輔, MAS Erick, 新家杏奈, 今村文彦	79(17):23-17182	2023.11.15	<a href="https://doi.org/10.2208/jscej.23-17182">https://doi.org/10.2208/jscej.23-17182</a>
津波避難誘導を目的としたバルーン型標識の視認性検証	土木工学論文集	成田峻之輔, 佐藤翔輔, 今村文彦	79(17):23-17184	2023.11.15	<a href="https://doi.org/10.2208/jscej.23-17184">https://doi.org/10.2208/jscej.23-17184</a>
小学生を対象とした防災教育の効果-福島県と宮城県の沿岸部と内陸部の比較-	自然災害科学	保田真理, 邑本俊亮, 齋藤玲	43(1):	2024.	
勾配損傷モデルと有限被覆法を組み合わせた動的破壊シミュレーション手法の開発	計算工学会論文集	平山大佑, 韓雲珥, 森口周二, 寺田賢二郎	2024:20240001	2024.1.15	10.11421/jscs.2024.20240001
シンチレーションサーベイメータの温度補償機能の有無による温度依存性	日本放射線技術学会雑誌	古川未来, 磯部理央, 大野紗耶, 郷内優作, 進藤遼太, 山本啓介, 稲葉洋平, 千田浩一	80(3):279-286	2024.2.5	doi: 10.6009/jirt.2024-1382
ブレードの回転に着目した風力発電施設の動的誘目性	土木学会論文集	平野勝也, 大西明日香, 和田裕一	80(2):23-00109	2024.2.20	<a href="https://doi.org/10.2208/jscej.23-00109">https://doi.org/10.2208/jscej.23-00109</a>
初等中等教育におけるQRコードの利活用の実態:教員を対象とする調査	読書科学	登本洋子, 齋藤玲, 堀田龍也	65(1):16-29	2024.3	
高校数学CBTの数式入力のためのスクリーンキーボード型パレットの使用感と個人差-成績と振り返り, Gritに着目して-	日本教育工学会論文誌	阿部文男, 川田拓, 長濱澄, 齋藤玲, 堀田龍也	47:229-232	2024.3	
東日本大震災における瓦礫内犠牲者の発見までの経過における実態と今後の課題	土木学会論文集B2(海岸工学)	信田晃成, 門廻充侍, Anawat Suppasri, 今村 文彦	79(17):23-17049	2023.11.17	<a href="https://doi.org/10.2208/jscej.23-17049">https://doi.org/10.2208/jscej.23-17049</a>
2022年トング火山性津波による山田湾での養殖施設被害に関する研究	土木学会論文集B2(海岸工学)	田中健登, Suppasri Anawat, Pakoksung Kwanchai, 鳴原良典, 今村文彦	79(17):23-17130	2023.11.15	<a href="https://doi.org/10.2208/jscej.23-17130">https://doi.org/10.2208/jscej.23-17130</a>
東日本大震災の事例を踏まえた津波後のアマモ場回復予測	土木学会論文集B2(海岸工学)	木村裕行, Anawat SUPPASRI, 今村文彦, 高橋宏樹	79(17):23-17157	2023.11.17	<a href="https://doi.org/10.2208/jscej.23-17157">https://doi.org/10.2208/jscej.23-17157</a>
津波火災による焼死犠牲の実態と要因分析-東日本大震災での宮城県の事例	土木学会論文集B2(海岸工学)	武井亮太, 門廻充侍, Anawat SUPPASRI, 今村文彦	79(17):23-17179	2023.11.17	<a href="https://doi.org/10.2208/jscej.23-17179">https://doi.org/10.2208/jscej.23-17179</a>
CFRPを用いた小型石油タンクの津波対策工法の津波実験と検証解析による効果の検証	構造工学論文集A	保延宏行, 藤井直樹, サッパシー・アナワット, 今村文彦	69A:80-93	2023.11.17	<a href="https://doi.org/10.11552/structcivil.69A.80">https://doi.org/10.11552/structcivil.69A.80</a>
北海道日高海岸北部から内浦湾周辺に分布する17世紀の津波堆積物を再現する津波波源の推定	地震 第2輯	菅野剛, 山本 滋, 木村 達人, 酒井 信介, SUPPASRI Anawat, 今村 文彦	76:31-54	2023.7	<a href="https://doi.org/10.4294/zisin.2022-10">https://doi.org/10.4294/zisin.2022-10</a>
2022年トング火山性津波における山田湾を対象とした養殖施設の漂流シミュレーション	特集号(海洋開発)	鳴原 良典, 田中 健登, 山本 阿子, Anawat SUPPASRI, 高川 智博, 佐々木 大輔, 今村 文彦	79(18):23-181835	2023.10.4	<a href="https://doi.org/10.2208/jscej.23-18135">https://doi.org/10.2208/jscej.23-18135</a>

論文題目名(原語)	論文掲載誌名(原語)	著者氏名(共著者含)	巻(号):開始-終了	発行年月日	DOI (Document of Identification)
トンガ海底火山噴火とそれに伴う津波の予測と災害に関する総合調査 -- 科学研究費特別研究促進費による突発災害調査研究令和3-4年度報告 --	自然災害科学総合シンポジウム講演論文集	佐竹健治, 前野深, 西田究, サッパシーアナワット, 関谷直也	60:1-11	2023.9.25	<a href="http://hdl.handle.net/2433/285956">http://hdl.handle.net/2433/285956</a>
脳血管撮影のマスク像最適化によるDSA線量の低減	日本放射線技術学会雑誌	峰谷幸大, 千田浩一, 松田善和		2024.2.20	

## 日本語(査読無)

抗認知症薬の6ヵ月後の治療反応性とその後の推移に通所系介護の利用が関与しているか	福島県農村医学会雑誌	檢木 雄史, 堀越 翔, 國井 泰人, 平尾 美枝子, 後藤 大介	61(1):68-70	2023.	
ロバスト主成分分析に基づく沖合津波観測点配置の最適化	計算工学講演会論文集	藤田 真幹, 野村 怜佳, 大竹 雄, 越村 俊一, 森口 周二, 寺田 賢二郎	28:79-82	2023.5.23	
多様なシナリオデータベースの融合による津波リスク同定	計算工学講演会論文集	野村 怜佳, 大竹 雄, 森口 周二, 越村 俊一, Randall J. LeVeque, 寺田 賢二郎	28:83-86	2023.5.23	
「セクシュアルマイノリティの方々の困難と避難所におけるニーズについての報告」	(地域安全学会) 東日本大震災特別論文集	北村美和子, 松川杏寧	12:45-48	2023.5.25	
仙台藩の危機対応をめぐる政治理念と政治過程-天保期を事例に-	歴史学研究	佐藤大介	104148-56	2023.10.25	
特定用途制限地域の導入の背景と非線引き白地地域の居住誘導手法としての可能性に関する研究	公益社団法人日本都市計画学会都市計画論文集	吉田萌花, 姥浦道生, 荒木笙子	58(3):984-991	2023.10.25	<a href="https://doi.org/10.11361/journalcpjij.58.984">https://doi.org/10.11361/journalcpjij.58.984</a>
認定中心市街地活性化基本計画終了後の自治体における中心市街地活性化施策の展開に関する研究	公益社団法人日本都市計画学会都市計画論文集	住谷将吾, 刈谷智大, 荒木笙子, 姥浦道生	58(3):1524-1531	2023.10.25	<a href="https://doi.org/10.11361/journalcpjij.58.1524">https://doi.org/10.11361/journalcpjij.58.1524</a>
日本国内に甚大な被害をもたらした1923年以降の大震災に関する研究の変遷	第16回日本地震工学シンポジウム論文集	加藤春奈, 村尾修	:Day1G418-20-1-Day1G418-20-8	2023.11	
東京都墨田区における建物倒壊危険性を考慮した空き家の減少実態調査	第16回日本地震工学シンポジウム論文集	米村文武, 村尾修	:Day1G418-21-1-Day1G418-21-10	2023.11	
Augmented Kalman Filter を用いた構造物の非観測階における非線形応答推定	第16回日本地震工学シンポジウム論文集	笹ノ間佑太, 河野利器, 大野晋	:Day1-G404-21	2023.11.23	
地震による被災履歴のある抗基礎RC建造物での地震観測記録の分析	第16回日本地震工学シンポジウム論文集	三辻和弥, 大野晋	:Day1-G419-10	2023.11.23	
機械学習を用いた準即時地震動スペクトル分布推定	第16回日本地震工学シンポジウム論文集	大野晋, 森川拓海	:Day1-C1-PB06	2023.11.23	
複数災害を統合的に考慮した海岸堤防のリスク分析	土木計画学研究講演集	志方花菜, 平野勝也, 河野達仁	68:20-02.pdf	2023.11.24	
記号論に基づく変化検出課題を用いた住宅表層における来街者の注意要素分析	景観・デザイン研究講演集	岩間響平, 平野勝也	(19):83-89	2023.12.9	
駅から駅前広場への賑わいの表出-駅の結節空間と歩行者広場の関係-	景観・デザイン研究講演集	三谷勇太, 平野勝也	(19):107-112	2023.12.9	
物理法則に基づく認知による圧迫感形成 ~ 重さ感による試行的検証 ~	景観・デザイン研究講演集	西尾春人, 平野勝也	(19):145-148	2023.12.9	
石垣嵩上げに着目した近代以前のローカルな水害対策の定量的評価	景観・デザイン研究講演集	白洲瞭, 平野勝也, 天谷友哉	(19):169-173	2023.12.9	
生活と生業の変化から見た漁業集落の景観変遷	景観・デザイン研究講演集	金子由愛, 平野勝也	(19):203-207	2023.12.9	
震災と防災教育~これまでの歩みとこれからの課題~	日本地震工学会誌	佐藤 健	(51):2-5	2024.2	
地形を踏まえたハザードマップ 3 段階読図法-教員研修の実践に基づく展開	日本地理学会発表要旨集	村山良之, 桜井愛子, 佐藤 健, 北浦早苗, 小田隆史, 熊谷 誠	:191-191	2024.3	
(被災)の想像力: 関東大震災と仙台・宮城	被災学	川内淳史	(1):17-30	2024.3.28	

## 国際会議 Proceedings

### 英語(査読有)

Toward a deposit-based stochastic interpretation of tsunami sources	The Proceedings of the Coastal Sediments 2023	Velasco-Reyes, E.R., Sugawara, D.	:2355-2371	2023.	<a href="https://doi:10.1142/9789811275135_0216">https://doi:10.1142/9789811275135_0216</a>
Tourism perceptions on COVID-19 counter-measures in Japanese Hot-Spring hotels: Challenges for the accommodation industry	CAUTHE 2023: West, East, South, North: Redirecting Research in Tourism, Hospitality and Events: Proceedings of the 33rd Annual Conference: Proceedings of the 33rd Annual Conference	David Nguyen, Nori Tarui, Anawat Suppassri, Haruka Tsukuda, Daisuke Sasaki, Fumihiko Imamura	NA(NA):129-146	2023.1.1	<a href="https://search.informit.org/doi/10.3316/informit.9780994514196">https://search.informit.org/doi/10.3316/informit.9780994514196</a>
Rogue Emitter Detection Using Hybrid Network of Denoising Autoencoder and Deep Metric Learning	ICC 2023 - IEEE International Conference on Communications	Zeyang Yang, Xue Fu, Guan Gui, Yun Lin, Haris Gacanin, Hikmet Sari, and Fumiuyuki Adachi		2023.6	<a href="https://doi.org/10.1109/ICC45041.2023.10278847">https://doi.org/10.1109/ICC45041.2023.10278847</a>
Deep Reinforcement Learning Aided Online Trajectory Optimization of Cellular-Connected UAVs with Offline Map Reconstruction	2023 IEEE 97th Vehicular Technology Conference (VTC2023-Spring)	Qing Hao, Haitao Zhao, Hao Huang, Guan Gui, Tomoaki Ohtsuki, and Fumiuyuki Adachi		2023.6	<a href="https://doi.org/10.1109/VTC2023Spring57618.2023.10200397">https://doi.org/10.1109/VTC2023Spring57618.2023.10200397</a>
User-initiated Suboptimal Multiuser Joint Transmit-Receive Diversity in An Asymmetric MIMO Fading Channel	2023 IEEE 97th Vehicular Technology Conference (VTC2023-Spring)	Fumiuyuki Adachi and Ryo Takahashi		2023.6	<a href="https://doi.org/10.1109/VTC2023Spring57618.2023.10200867">https://doi.org/10.1109/VTC2023Spring57618.2023.10200867</a>
A tale of enforcing hazard-informed land use: The case of rebuilding from the 2018 Central Sulawesi Earthquake and Tsunami	Proceedings of the 63rd Annual ACSF Conference	Iuchi, Kanako, Hanifa, Nuraini Rahma, Gayathri, Rahmadiyah Tria	63:411-412	2023.6.19	
Framework for life-cycle tsunami risk assessment considering sea-level rise effects due to climate change	Life-Cycle of Structures and Infrastructure Systems	AK Alhamid, M Akiyama, K Aoki, S Koshimura, DM Frangopol	:1601-1608	2023.6.3	
Methodology for determining optimal countermeasure for bridges under seismic and tsunami hazards	Life-Cycle of Structures and Infrastructure Systems	H Ishibashi, M Akiyama, S Koshimura	:899-905	2023.6.23	
The governance of post-disaster relocation sites as "Camps"	Proceedings of the 48th Natural Hazards Worksho, IRCD Researchers Meeting	Gibb, Christine, Kaira Zoe Albuero Canete, Kanako Iuchi	48:online	2023.7.9	

論文題目名(原語)	論文掲載誌名(原語)	著者氏名(共著者含)	巻(号):開始-終了	発行年月日	DOI (Document of Identification)
Effective visitor learning from disaster tourism in the 2011 Tohoku Earthquake and Tsunami	The 28th IUGG General Assembly	Yu Wayanabe, Shosuke Sato, Fumihiko Imamura	: 1	2023.7.15	
Proposal of Balloon-Type Signs for Tsunami Evacuation Buildings	The 28th IUGG General Assembly	Shunosuke Narita, Shosuke Sato, Fumihiko Imamura	: 1	2023.7.15	
Performance Evaluation of Interference Aware MMSE and Interference Suppression MMSE Techniques for A Cellular Distributed MU-MIMO System	2023 VTS Asia Pacific Wireless Communications Symposium (APWCS)	Ryo Takahashi, Hidenori Matsuo, and Fumiuyuki Adachi		2023.8	<a href="https://doi.org/10.1109/APWCS60142.2023.10234073">https://doi.org/10.1109/APWCS60142.2023.10234073</a>
Developing a Framework for Rapid Collapsed Building Mapping Using Satellite Imagery and Deep Learning Models	IEEE International Symposium on Geoscience and Remote Sensing	Bruno Adriano, Hiroyuki Miura, Wen Liu, Masashi Matsuoka, Shunichi Koshimura	: 1273-1276	2023.10.20	<a href="https://doi.org/10.1109/IGARSS52108.2023.10282604">https://doi.org/10.1109/IGARSS52108.2023.10282604</a>
Combining Deep Learning and Numerical Simulation to Predict Flood Inundation Depth	IEEE International Symposium on Geoscience and Remote Sensing	Bruno Adriano, Naoto Yokoya, Kazuki Yamanoi, Satoru Oishi	: 1154-1157	2023.10.20	<a href="https://doi.org/10.1109/IGARSS52108.2023.10282463">https://doi.org/10.1109/IGARSS52108.2023.10282463</a>
Memory, Meaning, and Monuments: An Ethnographic Study of Tsunami Memorialization in Aceh	国際会議Proceedings	Alfi Rahman, Muzayin Nazaruddin, Sébastien Penmellen Boret, Yuva Ayuning Anjar, Rizanna Rosemary, Rosaria Indah, Syahrul Ridha, Siti Ghaisani Masturah	447(1): 1-6	2023.11.13	<a href="https://doi.org/10.1051/e3sconf/202344704003">https://doi.org/10.1051/e3sconf/202344704003</a>
<b>英語(査読無)</b>					
Flood Inundation Depth Estimation from SAR-Based Flood Extent and DEM	IGARSS 2023 - 2023 IEEE International Geoscience and Remote Sensing Symposium	Luis Moya, Erick Mas, Shunichi Koshimura	: 337-340	2023.10.20	doi: 10.1109/IGARSS52108.2023.10283297
<b>日本語(査読無)</b>					
南海トラフ地震及び日本海溝・千島海溝地震の後発地震警戒・注意情報発表時の企業行動	第16回日本地震工学シンポジウム論文集	丸谷浩明, 寅屋敷哲也, 佐々木宏之, 今村文彦	: Day3-G414-08	2023.11.23	

### 単行本(論文掲載)

#### 英語・その他の言語(査読有)

„Introduction – Disaster and Justices”	Novikova, Natalia; Gerster, Julia and Hartwig, Manuela (eds): Japan's Triple Disaster. Pursuing Justice after the Great East Japan Earthquake, Tsunami, and Fukushima Nuclear Accident. Routledge (June 9, 2023).	Novikova, Natalia; Gerster, Julia and Hartwig, Manuela	: 1-10	2023.6.9	ISBN 9781032375465
Asymmetric effects of sub-lexical orthographic/phonological similarities on L1-Chinese and L2-Japanese visual word recognition	M. Koizumi (Ed.), Issues in Japanese Psycholinguistics from Comparative Perspectives, Volume 1: Cross-Linguistic Studies.	Kexin Xiong, Keiyu Niikuni, Toshiaki Muramoto, Sachiko Kiyama	: 211-230	2023.7.1	<a href="https://doi.org/10.1515/9783110778946-012">https://doi.org/10.1515/9783110778946-012</a>
“Framing negative heritage in disaster risk education: school memorials after 3.11.”	Boyle, Edward (eds), Heritage, Contested Sites, and Bordered Memories; East and West: Culture, Diplomacy and Interactions Series, Brill.	Gerster, Julia and Fulco, Flavia	: 165-189	2023.10.11	ISBN 9789004512979
More than mushrooms: Local food culture and place-making after “Fukushima”.	Huang, Shumei and Maly, Elizabeth (2024): Place-making in Displacement: Community's responses to disasters from the Pacific Rim. Routledge Pacific Rim Geographies series.	Gerster, Julia	: 77-94	2023.12.7	ISBN 9781032057651
Aspects sociaux des murs anti-tsunami au Japon.	Imaginer l'après : Vulnérabilité environnementale et décision publique en contexte post-catastrophe	Boret, Sebastien Penmellen, Julia Gerster.	: 81-93	2023.9.12	ISBN 978-2-919380-72-5

#### 日本語(査読無)

「復興中の居場所とジェンダーの役割: 3. 11 は「機会の窓」になったのか?」	李善姬・高倉浩樹編『災害後を生きる一息と回復の災害人文学』	Gerster, Julia	: 189-207	2023.2	ISBN-10:478722085 ISBN-13:978478722089
「生存」の歴史を「つなぐ」ということ: 私たちの「歴史実践」の中間総括	「生存」の歴史をつなぐ: 震災10年、「記憶のまち」と「新たなまち」の交差点から	川内淳史	: 198-220	2023.6.10	
一七〜一八世紀の気候変動と仙台藩	村和明・吉村雅美編『日本近世史を見直す』	佐藤大介	2:	2023.12.20	
福島第一原子力発電所における原子力災害の伝承——ツーリズムの可能性——	川崎 興太, 窪田 亜矢, 石塚 裕子, 萩原 拓也 (編集, 著) 福島復興の視点・論点——原子力災害における政策と人々の暮らし	Gerster, Julia	: 584-598	2024.3.11	ISBN 4750357227

### 大学紀要

#### 英語(査読無)

Enabling Space-Time Kernel Density Estimation in a 3D Geographic Information System Environment	Geographical reports of Tokyo Metropolitan University	Tomoki Nakaya, Shohei Nagata	59:41-48	2024.3	
---	---	------------------------------	----------	--------	--

#### 日本語(査読無)

いじめアンケート調査に対する回答者の態度に関する研究: ビッグファイブを踏まえた調査運用への提案	広島経済大学研究論集	青谷章弘, 齋藤玲, 後藤心平	46(1): 1-11	2023.	
--	------------	-----------------	-------------	-------	--

論文題目名(原語)	論文掲載誌名(原語)	著者氏名(共著者含)	巻(号):開始-終了	発行年月日	DOI (Document of Identification)
<b>日本語(査読無)</b>					
いじめアンケート調査に対する回答者の態度に関する研究:ビッグファイブを踏まえた調査運用への一提案	広島経済大学研究論集	青谷章弘, 齋藤玲, 後藤心平	46(1):1-11	2023.	
モラルブライド喚起場面における母親の声かけの特徴:幼児と児童の母親を対象として	東北大学大学院教育学研究科研究年報	長谷川真里, 齋藤玲, 越中康治	72(1):19-36	2023.	
東日本大震災における津波外力と海浜植生の分布変化:仙台海岸での事例研究	津波工学研究報告	内田典子, 清水陽花, Suppasri Anawat, 菅原大助, 今村文彦	(40):167-170	2023.	
気仙沼市立大谷小学校における学校募債・防災教育の特徴:「宮城県地域連携型防災体制等構築推進事業」のモデル校としての実践を通して	津波工学研究報告	佐藤翔輔	40:159-166	2023.7	

## その他

<b>英語(査読有)</b>					
Combination of genetic and environmental factors for childhood hypertension: a simple indicator of family history remains useful	Hypertension Research	Hirohito Metoki, Shinichi Kuriyama.	46(4):1061-1063	2023.4	10.1038/s41440-022-01165-y

<b>英語(査読無)</b>					
Development and validation of an Alaskan coupled storm surge, tide, wind wave, and sea ice forecasting system	EarthArXiv	Guoming Ling, Damrongsak Wirasaet, Joannes Westerink, Maria Teresa Contreras Vargas, Mindo Choi, William James Pringle, Coleman Blakely, David Richter, Ali Abdolali, Andre van der Westhuysen, Kyle Steffen, Clint Dawson, Ayumi Fujisaki-Manome, Jia Wang, Edward Myers, Saeed Moghimi, Carol Janzen, Rob Bochenek, Jesse Lopez		2023.6.16	<a href="https://doi.org/10.31223/X5837K">https://doi.org/10.31223/X5837K</a>
Correcting Physics-Based Global Tide and Storm Water Level Forecasts with the Temporal Fusion Transformer	ESS Open Archive	Albert R Cerrone, Leendert G Westerink, Guoming Ling, Coleman Peter Blakely, Damrongsak Wirasaet, Clint Dawson, Joannes Westerink		2023.12.7	10.22541/essoar.170196704.40023740/v1

<b>日本語(査読有)</b>					
X線防護眼鏡の下部と頬部との隙間がもたらす放射線業務従事者の水晶体の被ばく防護効果の低下に関する初期検討	FBNews	進藤徹太, 大野紗耶, 今田聡恵, 山本啓介, 稲葉洋平, 千田浩一	564:2-10	2023.12.1	

<b>日本語(査読無)</b>					
GPSデータから推計した歩行量分布と街路形態指標の関連性評価	第32回 地理情報システム学会講演論文集	渡邊 怜央, 永田 彰平, 中谷 友樹	:p7	2023.	
「遺構と呼びますか?」	震災学	Gerster, Julia	(17):107-110	2023.4	978-4-904863-79-4
自然がもつリスクの受容を意図した災害科学展示の実践ーせんだい3.11メモリアル交流館・企画展「私がここで暮らしていくための科学〜『黒い壁』の正体」	地域安全学会東日本大震災特別論文集	三條望, 佐藤翔輔	12:37-40	2023.8.5	
津波堆積物の研究と東北地方太平洋側の津波履歴	2023年度日本考古学協会宮城大会「災害と境界の考古学」研究発表資料集	菅原大助・石澤堯史	:85-94	2023.10.29	
屋内測位技術を用いた震災伝承施設の来館者行動解析法の開発	地域安全学会論文集	渡邊勇, 佐藤翔輔, 今村文彦	43:129-130	2023.11.18	
イベント性砂層の成因と年代に関する検討	蒲生御蔵跡第1次発掘調査報告書	菅原大助	:216-223	2023.12.1	

### 5. 3. C. 書籍

#### 研究書

著書名および担当執筆題名	発行年月日	著者・監修者氏名	出版社名
<b>編集本(編集者・Editor)</b>			
Japan's Triple Disaster. Pursuing Justice after the Great East Japan Earthquake, Tsunami, and Fukushima Nuclear Accident.	20230609	Novikova, Natalia; Gerster, Julia; Hartwig, Manuela	Routledge
Community Empowerment for a Just Recovery of Gathering Spaces: Case Studies from 3.11 (Japan's Triple Disaster: Pursuing Justice after the Great East Japan Earthquake, Tsunami, and Fukushima Nuclear Accident)	20230609	Yegane Ghezelloo, Elizabeth Maly (Natalia Novikova, Julia Gerster, Manuela G. Hartwig)	Routledge
「生存」の歴史をつなぐ: 震災10年、「記憶のまち」と「新たなまち」の交差から	20230610	大門正克, 岡田知弘, 川内淳史, 河西英通, 高岡裕之	績文堂出版
「恥」を脳で語れるか(特集:「恥」は敵か? 味方か? 一生きづらさ・傷つきの根源), 杉浦元亮, 臨床心理学, 第23巻第4号	20230710	岩壁 茂, 杉浦元亮, 薊理津子, 花丘ちぐさ, 金子周平, 田中健史朗, 中村拓也, 岡野憲一郎, 上田勝久, 小林亜希子, 山口貴史, 関口邦子, 山田美穂, 菅野 恵, 北村婦美, 有光興記, 清田隆之, 黒木俊秀, 割澤靖子, 福田敦子, 紙野雪香, 高橋清子	金剛出版
Community Responses to Disasters in the Pacific Rim: Place-making in Displacement	20231207	Shu-mei Huang and Elizabeth Maly, eds.	Routledge
石巻市のまちなか再生の現状と課題(東日本大震100の教訓 復興検証編)	20231220	姥浦道生(千葉昭彦, 塩崎賢明, 長谷川公一, 遠州尊美, みやぎ震災復興研究センター)	クリエイツかもがわ
<b>編集本(著者・Author)</b>			
Estimating the Economic Viability of Long-Term Investment in Flood Protection: Case Study of the Natorigawa River (JICA Ogata Research Institute Research Paper)	20230900	Mikio Ishiwatari, Masashi Sakamoto, Daisuke Sasaki	JICA Ogata Sadako Research Institute for Peace and Development
Gender and Sexual Minorities in Disaster and Risk Reduction A Reference Guide	20231013	Blanchard, K., Chuck, E., Fordham, M., Khan, Z., Roberts, J. Miwako Kitamura and Walmsley, O.	UCL
Financial Support for Housing Reconstruction: Lessons from the Great East Japan Earthquake and Tsunami (Navigating Resilient Post-Disaster Recovery in Asia and the Pacific)	20231100	Mikio Ishiwatari, D. P. Aldrich, D. Sasaki	Asian Development Bank Institute
Introduction, in Community Responses to Disasters in the Pacific Rim: Place-making in Displacement.	20231207	Shu-mei Huang and Elizabeth Maly, eds.	Routledge
Schools as Community Assets for Place-making in Post-disaster Resettlement, in Community Responses to Disasters in the Pacific Rim: Place-making in Displacement.	20231207	Elizabeth Maly, Aiko Sakurai (Shu-mei Huang and Elizabeth Maly)	Routledge
Community Responses to Disasters in the Pacific Rim Place-making in Displacement(Where are the Women's Voices?)	20231207	Edited by Shumei Fun and Elizabeth Maly ,Chapter Author : Miwako Kitamura	Routledge Taylor and Francis Group
<b>訳書</b>			
CT-Rの集団療法(リカバリーを目指す認知療法 重篤なメンタルヘルス状態からの再起)	20230530	石垣琢磨, 梅本育恵, 越智紳一郎, 桂雅宏, 菊池安希子, 久我弘典, 佐藤康治郎, 神人蘭, 須賀楓介, 関口陽介, 西村大樹, 濱家由美子, 古村健, 渡部亜矢子(大野裕, 松本和紀, 耕野敏樹 監訳)	岩崎学術出版社

#### 研究書以外の書籍

著書名および担当執筆題名	発行年月日	著者・監修者氏名	出版社名
<b>単行本</b>			
デザインノート-未来をつくるデザイン図鑑, プロジェクトOLIVEの意義	20240301	太刀川英輔, 村尾修	誠文堂新光社
<b>編集本(編集者・Editor)</b>			
こどものためのもしもマニュアル "きんきゅうじたいこつかうもの"がわかる本	20240123	佐藤 健	理論社



著書名および担当執筆題名	発行年月日	著者・監修者氏名	出版社名
<b>編集本(著者・Author)</b>			
地盤震動研究とその応用	20230400	大野晋,元木健太郎,引間和人,浅野公之,加瀬祐子,三宅弘恵,吉田邦一,久田嘉章,永野正行,大堀道広,植竹富一,高井伸雄,佐藤吉之,佐藤浩章,松島信一,長郁夫,上林宏敏,鈴木晴彦,渡辺哲史,関口徹,野津厚,神野達夫,引田智樹,田中信也,森川信之,中川博人,高橋広人,加藤研一,林康裕,境有紀,仲野健一,三浦弘之,津野靖士	日本建築学会
精神疾患の克服と障害支援にむけた研究推進の提言 <a href="https://www.jspn.or.jp/uploads/uploads/files/activity/20230401.pdf">https://www.jspn.or.jp/uploads/uploads/files/activity/20230401.pdf</a>	20230401	安藤久美子,池田匡志,大矢希,岡本百合,尾崎紀夫,鬼塚俊明,笠井登,加藤忠史,岸本泰士郎,國井泰人,倉持泉,竹内啓善,中神由香子,中川敦夫,中込和幸,西大輔,橋本亮太,牧之段学,松田哲也,三村将,村井俊哉,安田由華	日本精神神経学会、日本生物学的精神医学会、日本神経精神薬理学会、日本うつ病学会、日本統合失調症学会、日本社会精神医学会、日本摂食障害学会、日本不安症学会、日本睡眠学会、日本臨床精神神経薬理学会、日本老年精神医学会、日本認知療法・認知行動療法学会、日本脳科学関連学会連合
復興を描く	202309	土木学会誌編集委員会	土木学会
標準精神医学第9版「心的外傷及びストレス因関連症」	20240200	國井泰人(尾崎紀夫,三村将監修)	医学書院
「わかる! 取り組む! 新・災害と防災」第2巻 津波	20240210	今村文彦,佐藤翔輔,サッパシー・アナワット,日野亮太	帝国書院
<b>事典・辞書</b>			
災害復興学事典	20230901	佐藤翔輔ほか	朝倉書店
<b>教科書</b>			
思春期に多い心のトラブル④トラウマ・PTSD(学校におけるメンタルヘルス教育の進め方)	20231001	内野敬,藤井千代,多田光宏,仁王進太郎,根本隆洋,新村秀人,中尾智博,西園マールハ文,宮田聖子,岩本邦弘,尾崎紀夫,船渡川智之,日野恒平,小林桜児,成瀬暢也,稲熊徳也,三角純子,森田展彰,高橋秀俊,松本和紀,柏葉祐佳,平間亜由美,濱家由美子,増嶋広曜,飯嶋孝行,山合洋人,佐藤真一,霜村誠一,吉村優作,小塩靖崇,清末昭子,ハウス加賀谷,永田豊隆,櫻田なつみ,小辻有美(水野雅文,森良一,竹下君枝 編著)	大修館書店
放射線医療技術学叢書Interventional Radiologic Technology X線防護と被ばく	20231201	坂本肇,千田浩一ほか	日本放射線技術学会
<b>訳書</b>			
災害・健康危機管理の研究手法に関するWHO ガイダンス2022改訂版	2023	Ryoma Kayano, Virginia Murray, Mike Clarke, Emily YY Chan	WHO
5.1.災害時のメンタルヘルス研究(p486-505) 災害・健康危機管理の研究手法に関するWHO ガイダンス 2022年改訂版(監訳協力)	20230901	國井泰人,江川新一	WHO
<b>その他</b>			
地理院地図を使ってハザードマップを読む(自分で地域で手づくり防災術 土砂崩れ、洪水、地震に備える)	20231030	佐藤 健(農山漁村文化協会)	農山漁村文化協会

### 5. 3. D. その他執筆物

題目名(原語)	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始 ページ	終了 ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)
学術雑誌・国内外学会抄録集(査読なし)等							
Book Review of Earthquake Children. Building Resilience from the Ruins of Tokyo. By Janet Borland Harvard University Asia Center, 2020 352 pages.	Japan Review	37		183	184	20221220	Gerster, Julia
【災害・戦争と精神科】自然災害下での精神的負担と不調	精神科	42	2	261	268	20230100	富田 博秋, 國井 泰人, 濱家 由美子, 日野 瑞城, 栗山 進一
死後脳を用いた統合失調症研究	精神医学	65	4	417	424	20230400	國井泰人, 日野瑞城, 富田博秋
【わが国の若手による統合失調症研究最前線】死後脳を用いた統合失調症研究	精神医学	65	4	417	424	20230400	國井 泰人, 日野 瑞城, 富田 博秋
【統合失調症診療のフロントライン Part 1】クロザピンの作用機序	臨床精神医学	52	4	425	432	20230400	國井 泰人, 日野 瑞城, 富田 博秋
関東大震災以降の東京都市圏の露出度変化に関する研究	地域安全学会梗概集		52	87	88	20230500	藤原叶多, 村尾修
Assessment of Open Spaces Performance in Tokyo from the Perspective of Urban Disaster Resilience	地域安全学会梗概集		52	89	92	20230500	Yitong Dong, Osamu Murao
東京都の木造密集市街地における空き家の発生と解消-墨田区におけるケーススタディ-	地域安全学会梗概集		52	125	128	20230500	米村文武, 村尾修
1923年関東大震災に関する研究の変遷(1968-2023年)	地域安全学会梗概集		52	191	194	20230500	加藤春奈, 村尾修
災害を考慮したインドネシアと日本における基本事項の比較考察	地域安全学会梗概集		52	277	278	20230500	佐藤美月, 村尾修
Exploring Social Media Activities During Extreme Rainstorm Disasters: A Case Study of Henan Floods in July 2021, China	地域安全学会梗概集		52	281	284	20230500	Jingyi Gao, Osamu Murao
防災教育における災害伝承の位置付けの実態(1): 「ぼうさい甲子園」受賞校の学習内容の分析	地域安全学会梗概集	52		255	256	20230527	佐藤翔輔, 佐藤健, 今村文彦, 木村玲欧
来訪者視点での震災伝承施設の特徴の布置: 東日本大震災の65施設を対象とした試み	地域安全学会梗概集	52		159	162	20230527	渡邊勇, 佐藤翔輔, 今村文彦
若者主体で行う防災アイデアソンの実践とその効果ー南海トラフ地震想定エリアの大学生連携ー	地域安全学会梗概集	52		257	260	20230527	山崎稜大, 中村佳乃子, 前谷駿輔, 湯川舞夢, 大曾根里桜, 神保志徳, 岡本光代, 椎崎巴菜, 佐藤翔輔
関東大震災以降の学校防災の状況と近年の課題	関東大震災100年と防災減災科学			16	17	20230728	藤岡 達也, 佐藤 健
地名を題材とした防災教育の探究	日本安全教育学会第24回奈良大会プログラム・予稿集			32	33	202309	佐藤 健, 桜井 愛子
Web GISを利用した学校教員向けリスクコミュニケーション手法の高度化ー学区の災害リスクの理解に基づく実践的な避難計画の社会実装に向けてー	日本安全教育学会第24回奈良大会プログラム・予稿集			48	49	202309	桜井 愛子, 村山 良之, 佐藤 健, 熊谷 誠, 北浦 早苗, 小田 隆史
「日本におけるジェンダー・ダイバーシティ問題と災害時のLGBTQ+のニーズ: 課題と取り組みに関する報告」	建築雑誌					20230901	北村美和子, 松川杏奈, アナワットサップシー
災害時に迫られる判断を疑似体験できる防災学習手法の開発と持続的運用の試み	第42回日本自然災害学会年次学術講演会講演概要集	42		203	204	20230917	新家杏奈, 佐藤翔輔, 今村文彦
二重過程理論にもとづく津波避難行動に関する証言の分析	地域安全学会梗概集	52		155	158	20230917	新家杏奈, 佐藤翔輔, 今村文彦, 立木茂雄
トンガ海底火山の噴火に伴う潮位変化に対する自治体対応ー津波警報・注意報が発表された市町村における避難情報等の伝達状況調査ー	第42回日本自然災害学会年次学術講演会講演概要集	42		45	46	20230917	三宅真太郎, 関谷直也, 安本真也, 佐藤翔輔, 吉本充宏, 石峯康浩, 秦康範

題目名(原語)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)
トンガ海底火山の噴火に伴う潮位変化に対する住民の対応ー津波警報・津波注意報が発表された地域の住民に対する質問紙調査ー	日本災害情報学会 第27回学会大会予稿集			83	84	20231028	佐藤翔輔, 関谷直也, 安本真也, 吉本充宏, 石峯康浩, 秦康範
スポーツからアプローチする防災啓発の一形態:ヤフー防災模試を活用した各スポーツリーグとの事例研究	日本災害情報学会 第27回学会大会予稿集			143	144	20231028	安田健志, 津村翔士, 佐藤翔輔
みらいの避難所プロジェクト:川崎市における避難生活体験	地域安全学会梗概集		53	131	134	20231100	村尾修, 原野泰典, 坂茂
Jリーグとヤフー防災模試の連携による防災啓発2022年と2023年の事例比較研究	地域安全学会梗概集	53		125	128	20231118	佐藤翔輔, 安田健志, 津村翔士
地域安全学夏の学校2023ー基礎から学ぶ防災・減災ー地域安全学領域における若手人材育成 その7	地域安全学会梗概集	53		61	64	20231118	郷右近英臣, 松川杏寧, 落合努, 畠山久, 杉安和也, 寅屋敷哲也, 倉田和己, 河本尋子, 佐藤翔輔
震災と防災教育ーこれまでの歩みとこれからの課題ー	日本地震工学会誌	51		2	5	20240229	佐藤 健
歩行型VRを用いた津波避難パルーンの効果検証に関する実験	令和5年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集			2		20240302	三上雄大, 佐藤翔輔, 成田峻之輔, 今村文彦
セクシャルマイノリティと災害(1)	GID(性同一性障害)学会第25回 研究大会抄録集			121		20240317	松川杏寧, 北村美和子
The 2024 Noto Peninsula Earthquake: Preliminary Observations and Lessons to Be Learned	SSRN					20240321	Anawat Suppasri, Miwako Kitamura, David Alexander, Shuji Seto, Fumihiko Imamura
Inclusive Disaster Management Planning: Addressing the Needs of LGBTQ+ Communities in Japan	i-Rec Conference 2023:Tensions Between Tradition and Innovation in Disaster Risk Reduction, Climate Action, and			50	51		Miwako Kitamura, Anna Matsukawa, Anawat Suppasri, Punam Yadav
地方都市のプランナー像:かかりつけ医的“土のプランナー”	Planners	99		18	19		姥浦道生
<b>その他</b>							
12年目だから見えた伝承の持続可能性	日本災害情報学会 News Letter	93		1	1	20230400	佐藤翔輔
Anomaly Detection in Mobile Spatial Statistics for Disaster Risk Management	SSRN Electronic Journal					20230405	Erick Mas, Shunichi Koshimura
神奈川県相模原市緑区名倉にある葛原層の露頭	第四紀通信	30	2	1	1	20230501	高橋 尚志
臆病者	(一財)建設物価調査会建設物価2023年5月号			記事6	記事7	20230501	平野勝也
インタビュー.戦争、そして災害の記憶を伝承する意味	望星	54	8	72	82	202308	Gerster, Julia (Interviewed by Yamakawa, Toru)
自然(災害)と共存する知恵を伝え、学ぶ	小学図書館ニュース	1302		1	1	20230828	佐藤翔輔
岩手・宮城内陸地震災害を「伝える」	月刊「地理」	68		25	34	20230900	佐藤翔輔
中小企業の防災レジリエンス戦略	りそな一れ	2023	9	7	10	20230900	小野 裕一
制度障害	(一財)建設物価調査会建設物価2023年9月号			記事6	記事7	20230901	平野勝也
世界のビックリ農業:中国より超大規模!カニ・ザリガニとのイネ共作	現代農業	102	12	246	251	20231104	原 裕太
“理解”について理解しよう 「忘れてもいいから勉強する」それが勉強攻略法	TOSHIN TIMES 大学学部研究会講義ダイジェスト2024年度版			158	159	20231200	邑本俊亮
本調査の意義	2022年東日本大震災伝承活動調査報告書			1	1	20231200	佐藤翔輔
飴と鞭	(一財)建設物価調査会建設物価2023年12月号			記事6	記事7	20231201	平野勝也

題目名(原語)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)
Effective and Sustainable Disaster Tradition based on Scientific Evidence	Impact	2024	1	37	39	20240100	Shpsuke Sato
荒川上流、秩父盆地の河成段丘と気候変動	月刊 地図中心		616	20	20	20240110	高橋 尚志
避難指示、どうすれば人間は実際に避難行動するのでしょうか	スタディアサブリ 通信制大学2024年度版			19	19	20240116	邑本俊亮
No one left behind: Japan needs to work on its multicultural disaster response	Japan Times <a href="https://www.japantimes.co.jp/commentary/2024/01/30/japan/foreigners-disaster-response-">https://www.japantimes.co.jp/commentary/2024/01/30/japan/foreigners-disaster-response-</a>					20240130	Gerster, Julia
オンラインマップの作成と活用による文化遺産防災体制の整備に関する研究	ICOM-ICMS東京大会2023[報告書]			63	67	20240215	蝦名裕一, 目時和哉
安全だより・津波てんでんこ	みんなの安全ニュース	1692		4	5	20240308	佐藤翔輔
Wagamama: have we thought enough about the impacts of gendered norms in disasters?	UCL IRDR Blog <a href="https://blogs.ucl.ac.uk/irdr/2023/11/30/wagamama-have-we-thought-enough-about-the-impacts-of-gendered-norms-in-disasters/">https://blogs.ucl.ac.uk/irdr/2023/11/30/wagamama-have-we-thought-enough-about-the-impacts-of-gendered-norms-in-disasters/</a>					20231130	Punam Yadav, Miwako Kitamura
災害危険区域指定による建築規制	水害リスクを踏まえた建築・土地利用規制のあり方』日本建築学会建築法制委員会, 2023年度日本建築学会大会(近畿)建築法制部門研究協議会資料			15	20		姥浦道生
「計画」と「事業」の間 — 非法定地区統合プランの効果と限界 —	『いま、都市に関するプランの役割と機能を考える』日本建築学会建築法制委員会, 2023年度日本建築学会大会(近畿)都市計画部門研究協議会資料			19	24		姥浦道生

5. 3. E. 発表

学会・学術発表(研究者対象)・国内(除く学生のみ)

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
日本堆積学会	なし	該当なし	口頭(一般)	小中高	新潟大学	新潟	日本	20230401	津波土砂移動計算のV&Vとフィールドデータの重要性	吉河秀郎, 山本真哉, 菅原大助, 増田英敏, 今村文彦
佐渡ジオパークフォーラム	なし	該当なし	口頭(一般)	小中高	オンライン			20230401	佐渡市における古津波履歴の解明	飯田雅貴(新潟大学・東北大学合同古津波調査グループ)
第69回構造工学シンポジウム	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	東京工業大学大岡山キャンパス	東京都	日本	20230416	CFRPを用いた津波対策工法による小型石油タンクの影響軽減の評価と検証	保延 宏行, 藤井 直樹, サッパシー アナワット, 今村 文彦
第11回実践方言研究会	なし	はい	口頭(招待)	なし	青山学院大学	東京	日本	20230520	方言教育実践の効果検証—方言学者と認知科学者が共創した大学の授業「日常と災害におけるコミュニケーション」を事例として—	藤藤玲, 津田智史
日本都市計画学会学会 防災特別委員会第四部会 公開シンポジウム『住宅再建意向の観点から復興を考える』	なし	招待	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	なし	オンライン	東京	日本	20230520	住宅再建意向の変化に関する今後への知見～大船渡市の調査結果から～	姥浦道生
日本放射線技術学会 第77回 東京支部学術大会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	AP品川	東京	日本	20230520	これまでの“当たり前”を覆す?! 脳血管撮影の新时代	川内 寛, 濱田 祐介, 佐久間 秀之, 依田 彰吾, 佐藤 裕太, 高坂 祐輝, 澤山 慧, 草野 大希, 阿部 凌那, 鳥丸 佳澄, 濱崎 夏見, 千田 浩一, 鶴田 和太郎, 松本 英樹, 磯崎 潤, 宮本 智志
日本地球惑星科学連合2023年大会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	幕張メッセ	千葉	日本	20230521	CNNを用いたGNSS-acoustic観測で得られた音響波形からの自動走時検出手法の構築	黒須 直樹, 木戸 元之
日本地球惑星科学連合2023年大会	なし	はい	口頭(招待)	なし	幕張メッセ	千葉市	日本	20230521	地質・地形・地震活動情報からの震源断層パラメータの事前予測:2016年熊本地震を例に	遠田晋次
日本地球惑星科学連合2023年大会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	幕張メッセ	千葉	日本	20230521	InSAR時系列解析とGNSS観測を用いた宅地地盤変動の検出	宮嶋愛菜, 福島洋
日本地球惑星科学連合2023年大会	あり	該当なし	ポスター	なし	幕張メッセ	千葉	日本	20230521	Pre-ruptive Geodetic Observations of the 2020 Taal Volcano Eruption	Lincoln Paul Alcantara Olaya, Yo Fukushima, Augusto Ronald Pigtain
日本地球惑星科学連合2023年大会	あり	該当なし	ポスター	なし	幕張メッセ	千葉	日本	20230521	Comparison of the GNSS tropospheric delays from different processing tools for InSAR correction	Sardila Nurulhikmah Sailellah, Yo Fukushima
日本地球惑星科学連合2023年大会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	幕張メッセ	千葉	日本	20230521	GNSSデータへの深層学習の適用による短期的SSEの断層すべり直接推定	中川 亮, 福島洋, 加納将行, 矢野恵佑, 平原 和朗
日本地球惑星科学連合2023年大会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	幕張メッセ	千葉	日本	20230521	Unwrapping dense and complex SAR interferograms: Examples from the 2023 Turkey Earthquake	Yo Fukushima, Yagizalp Okur
日本地球惑星科学連合2023年大会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	幕張メッセ	千葉	日本	20230521	Possibility of shallow repeating aseismic slip associated with the 2011 Mw5.8 and 2016 Mw5.9 crustal earthquakes in northern Ibaraki Prefecture, Japan	吉田圭佑, 福島洋
日本地球惑星連合2023年大会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	幕張メッセ	幕張	日本	20230522	東北沖におけるウェーブライダーを活用したGNSS音響海底地殻変動観測と成果	富田史章, 飯沼卓史, 木戸元之, 太田雄策, 福田達也, 日野亮太
日本地球惑星科学連合2023年大会	なし	該当なし	ポスター	なし	幕張メッセ	千葉	日本	20230522	東北地方、栗駒火山における完新世中期以降の水蒸気噴火に伴う降下デブラの空間分布と給源の推定	諏訪 貴一, 高橋 尚志, 市川 玲輝, 遠田 晋次
Japan Geoscience Union Meeting 2023	なし	招待	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	なし	幕張メッセ	千葉	日本	20230522	関東大震災直後のクーリング米大統領の対日支援から国際防災協力のあり方を展望する	小野 裕一
日本地球惑星科学連合2023年大会	あり	該当なし	ポスター	なし	幕張メッセ	千葉	日本	20230523	ウェーブライダーを用いたGNSS-音響測距結合方式の海底地殻変動観測(その4)	飯沼卓史, 木戸元之, 福田達也, 太田雄策, 富田史章, プラタマルティネススライムンド, 日野亮太, 高橋浩晃, 堀 高峰
日本地球惑星科学連合2023年大会	あり	該当なし	ポスター	なし	幕張メッセ	千葉	日本	20230523	海底間音響測距観測による岩手県沖浅部プレート境界のすべり挙動について	西村建, 木戸元之, 日野亮太, 内田直希, 太田雄策, 鈴木秀市, 佐藤真樹子
日本地球惑星連合2023年大会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	幕張メッセ	幕張	日本	20230523	新しいGNSS音響測位解析ソフトウェア(SeaGap)の開発	富田史章
日本地球惑星科学連合2023年大会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	幕張メッセ	千葉	日本	20230523	仙台平野における津波侵食起源地形の探索	吉池奏乃, 菅原大助, 石澤堯史
日本地球惑星科学連合2023年大会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	幕張メッセ	千葉	日本	20230523	北海道胆振地方東部の厚真町に分布する1611年慶長奥州地震津波の堆積物	西村裕一, 高清水康博, 岩城昂平, 石澤堯史, 菅原大助, 横山祐典, 宮入陽介
日本地球惑星科学連合2023年大会	あり	該当なし	ポスター	なし	幕張メッセ	千葉	日本	20230523	高密度掘削調査で見る津波堆積物の性状	西村裕一, 高清水康博, 石澤堯史, 菅原大助
日本地球惑星科学連合2023年大会	あり	該当なし	ポスター	なし	幕張メッセ	千葉	日本	20230523	地質調査に基づく八丈島の古津波履歴と規模の検討	海田比呂子, 後藤和久, 石澤堯史, 林 薫, 井村春生
日本地球惑星科学連合大会	なし	該当なし	口頭(一般)	小中高	幕張メッセ	千葉	日本	20230523	津波起源の侵食地形の形成過程・条件とその意義	菅原大助
日本地球惑星科学連合大会	なし	該当なし	口頭(一般)	小中高	幕張メッセ	千葉	日本	20230523	常磐海岸における古津波履歴の解明	佐藤由人, 菅原大助, 石澤堯史, 卜部厚志, 高清水康博, 加藤学, 川田 強, 吉岡 恭平
日本地球惑星科学連合大会	なし	該当なし	口頭(一般)	小中高	幕張メッセ	千葉	日本	20230523	仙台平野における津波起源侵食地形のGPRを用いた探索	吉池奏乃, 菅原大助, 石澤堯史
日本地球惑星科学連合大会	なし	該当なし	口頭(一般)	小中高	幕張メッセ	千葉	日本	20230523	津波堆積物の広域分布を用いたすべり分布逆推定の数値実験	増田英敏, 菅原大助
日本地球惑星科学連合2023年大会	あり	該当なし	ポスター	なし	幕張メッセ	千葉	日本	20230524	音速傾斜構造を考慮した東京海洋大学練習船「汐路丸」による海底地殻変動観測のアレイ位置推定	岡山 悠亨, 中東 和夫, 木戸元之, 富田 史章
日本地球惑星連合2023年大会	なし	該当なし	ポスター	なし	幕張メッセ	幕張	日本	20230524	Seismic structural characteristics illuminating a large shallow slip zone in the 17th-century Kuril earthquake	東龍介, 小平秀一, 日野亮太, 藤江剛, 尾鼻浩一郎, 富田史章, 太田雄策
日本地球惑星連合2023年大会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	幕張メッセ	幕張	日本	20230524	New slip deficit rate model and slow earthquakes at the Nankai subduction zone	Plata-Martinez, R. O., T. linuma, F. Tomita, T. Nishimura, Y. Nakamura, & T. Hori
日本地球惑星科学連合2023年大会	なし	いいえ	口頭(一般)	なし	幕張メッセ	千葉市	日本	20230524	2023年トルコ、カフマンマラシェ地震における動的・静的応力伝播と断層の運動・連鎖	遠田晋次

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
日本地球惑星科学連合2023年大会	あり		ポスター		幕張メッセ	千葉	日本	20230524	Holocene–Upper Pleistocene event deposit stratigraphy along the Japan Trench: Initial results from IODP Expedition 386 “Japan Trench Paleoseismology”	池原 研, Strasser Michael, 板木 拓也, 里口 保文, 長橋 良隆, 金松 敬也, 石澤 堯史, Huang Jyh-Jaan, Everest Jeremy, 前田 玲奈, IODP Expedition 386 Science Party
日本地球惑星科学連合2023年大会	なし	該当なし	ポスター	なし	幕張メッセ	千葉	日本	20230525	相模川支流・道志川流域における支流合流点付近の段丘発達過程と支流の地形特性	高橋尚志
第26回応用力学シンポジウム	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	中央大学	東京	日本	20230527	勾配損傷モデルと有限被覆法を組み合わせた動的破壊シミュレーション手法の開発	平山大悟, 韓贊珂, 森口周二, 寺田賢二郎
第52回(2023年度)地域安全学会研究発表会(春季)	なし	招待	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	なし	神奈川大学	横浜	日本	20230527	1923年関東大震災から100年:都市防災からみた首都圏拡大の再考(1891-2023年)	村尾修, 藤原叶多, 加藤春奈, 米村文武, 稲垣景子, 目黒公郎
第52回(2023年度)地域安全学会研究発表会(春季)	なし	招待	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	なし	神奈川大学	横浜	日本	20230527	神奈川県における関東大震災の被害-100年の歴史から未来を考える-	稲垣景子, 津守真帆, 村尾修, 目黒公郎
第52回(2023年度)地域安全学会研究発表会(春季)	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	神奈川大学	横浜	日本	20230527	関東大震災以降の東京都市圏の露出度変化に関する研究	藤原叶多, 村尾修
第52回(2023年度)地域安全学会研究発表会(春季)	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	神奈川大学	横浜	日本	20230527	Assessment of Open Spaces Performance in Tokyo from the Perspective of Urban Disaster Resilience	Yitong Dong, Osamu Murao
第52回(2023年度)地域安全学会研究発表会(春季)	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	神奈川大学	横浜	日本	20230527	東京都の木造密集市街地における空き家の発生と解消-墨田区におけるケーススタディ	米村文武, 村尾修
第52回(2023年度)地域安全学会研究発表会(春季)	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	神奈川大学	横浜	日本	20230527	1923年関東大震災に関する研究の変遷(1968-2023年)	加藤春奈, 村尾修
第52回(2023年度)地域安全学会研究発表会(春季)	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	神奈川大学	横浜	日本	20230527	災害を考慮したインドネシアと日本における基本事項の比較考察	佐藤美月, 村尾修
第52回(2023年度)地域安全学会研究発表会(春季)	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	神奈川大学	横浜	日本	20230527	Exploring Social Media Activities During Extreme Rainstorm Disasters: A Case Study of Henan Floods in July 2021, China	Jingyi Gao, Osamu Murao
第52回(2023年度)地域安全学会研究発表会(春季)	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	神奈川大学	横浜	日本	20230527	防災教育における災害伝承の位置付けの実態(1);「ぼうさい甲子園」受賞校の学習内容の分析	佐藤翔輔, 佐藤健, 今村文彦, 木村玲咲
第52回(2023年度)地域安全学会研究発表会(春季)	なし	該当なし	口頭(一般)	小中高	神奈川大学	横浜	日本	20230527	若者主体で行う防災アイデアコンの実際とその効果-南海トラフ地震想定エリアの大学生連携-	山崎裕大, 中村佳乃子, 前谷駿輔, 湯川舞夢, 大曾根里桜, 神保志徳, 岡本光代, 椎崎巴菜, 佐藤翔輔
第52回(2023年度)地域安全学会研究発表会(春季)	なし	該当なし	口頭(一般)	行政	神奈川大学	横浜	日本	20230527	来訪者視点での震災伝承施設の特徴の配置:東日本大震災の65施設を対象とした試み	渡邊勇, 佐藤翔輔, 今村文彦
第52回地域安全学会研究発表会(春季)	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	横浜国立大学	横浜	日本	20230527	二重過程理論にもとづく津波避難行動に関する証言の分析	新家杏奈, 佐藤翔輔, 今村文彦, 立木茂雄
第26回応用力学シンポジウム	あり	該当なし	口頭(一般)	企業	中央大学	東京	日本	20230528	三次元極限平衡理論に基づく広域斜面安定解析(シンポジウム講演概要)	須郷大地, 藤田真稔, 外里健太, 野村 怜佳, 森口周二, 寺田賢二郎
第26回応用力学シンポジウム	あり	該当なし	口頭(一般)	企業	中央大学	東京	日本	20230528	広域土砂流動シミュレーションにおける抵抗カモデルに関する基礎的検討	大塚千穂, 飛澤野壮真, NiloDolojan, 野村怜佳, 森口周二, 寺田賢二郎
第26回応用力学シンポジウム	あり	該当なし	口頭(一般)	企業	中央大学	東京	日本	20230528	実地形を対象とした極限平衡理論に基づく広域斜面安定解析(シンポジウム講演概要)	中村優見, 須郷大地, 外里健太, 野村 怜佳, 森口周二, 寺田賢二郎
第26回応用力学シンポジウム	あり	該当なし	口頭(一般)	企業	中央大学	東京	日本	20230528	個別要素法による粒状体の流動解析における入力パラメータの蓄与度の定量化	ショウクンシン, 外里健太, 野村 怜佳, 森口周二, 大竹雄, 寺田賢二郎
第26回応用力学シンポジウム	あり	該当なし	口頭(一般)	企業	中央大学	東京	日本	20230528	Lagrangian-type debris flow modelling using shallow water equations	Nilo Lemuel J. Dolojan, Reika Nomura, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada
第26回応用力学シンポジウム	あり	該当なし	口頭(一般)	企業	中央大学後楽園キャンパス	東京	日本	20230528	ロバスト主成分分析に基づく沖合津波観測網の最適設計(シンポジウム公開概要)	藤田真稔, 野村怜佳, 大竹雄, 越村俊一, 森口周二, 寺田賢二郎
2024年度歴史学研究会大会近世史部会	なし	招待	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	なし	一橋大学	国立市	日本	20230528	仙台藩の危機対応をめぐる政治理念と政治過程-天保期を事例に-	佐藤大介
第28回計算工学講演会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	つくば国際会議場	茨城県つくば市	日本	20230531	Micro-Macro Topology Optimization for Transient Heat Analysis in Porous Material	スクタンナソーン ナルテープ, 車谷 麻稀, 寺田賢二郎, 加藤 準治
第28回計算工学講演会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	つくば国際会議場	茨城県つくば市	日本	20230531	複合硬化則およびせん断誘起損傷を導入した結合力埋込型構成則の提案	田尾 嶺弥, 新宅 勇一, 寺田賢二郎
第28回計算工学講演会	あり	該当なし	口頭(一般)	企業	つくば国際会議場	つくば	日本	20230531	ロバスト主成分分析に基づく沖合津波観測点配置の最適化	藤田真稔, 野村怜佳, 大竹雄, 越村俊一, 森口周二, 寺田賢二郎
第28回計算工学講演会	あり	該当なし	口頭(一般)	企業	つくば国際会議場	茨城県つくば市	日本	20230531	斜面安定解析結果を用いた豪雨による広域斜面崩壊の即時予測	外里健太, 野村 怜佳, 森口周二, 寺田賢二郎
第28回計算工学講演会	あり	Keynote	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	企業	つくば国際会議場	茨城県つくば市	日本	20230531	多様なシナリオデータベースの融合による津波リスク同定	野村 怜佳, 大竹雄, 森口周二, 越村俊一, Randall J. LeVeque, 寺田賢二郎
第28回計算工学講演会	あり	該当なし	口頭(一般)	企業	つくば国際会議場	筑波	日本	20230531	Implementing 2D shallow water equations to simulate debris flows using SPH	Nilo Lemuel J. Dolojan, Reika Nomura, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada
第28回計算工学講演会	あり	該当なし	口頭(一般)	企業	つくば国際会議場	つくば	日本	20230531	Seismic Risk Assessment with Fragility Function using the City-scale Numerical Simulation	湯 東陽, Sukulthanasorn Naruethep, 野村 怜佳, 森口周二, 野島 和也, 櫻庭 雅明, 寺田賢二郎
第28回計算工学講演会	あり	該当なし	口頭(一般)	企業	つくば国際会議場	茨城	日本	20230601	三次元極限平衡理論に基づく広域斜面安定解析	須郷大地, 藤田真稔, 外里健太, 野村 怜佳, 森口周二, 寺田賢二郎
第28回計算工学講演会	あり	該当なし	口頭(一般)	企業	つくば国際会議場	茨城	日本	20230601	Quantification of the Contribution Ratio of DEM Input Parameters on Granular Flow Simulations	ショウクンシン, 外里健太, 野村 怜佳, 森口周二, 大竹雄, 寺田賢二郎
第64回日本神経学会学術大会	あり	該当なし	ポスター	なし	幕張メッセ	千葉	日本	20230601	シンポジウム21 脳エネルギー代謝とアストロサイトから迫る精神疾患と神経変性疾患の共通病態メカニズム; 精神・神経疾患モデルマウスにおけるグルコース代謝異常	平井志伸, 國井 泰人, 新保裕子, 新井 信隆, 小森隆司, 岡戸 晴生
第28回計算工学講演会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	つくば国際会議場	つくば市	日本	20230602	均質化弾塑性構成則の代理モデルによるマルチスケール解析	山中 龍介, 松原成志朗, 平山 紀夫, 森口周二, 寺田賢二郎

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
第28回計算工学講演会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	つくば国際会議場	つくば	日本	20230602	On the representation of discrete crack surfaces in crack phase-field model realized by finite cover method	韓壽珂, 新宅勇一, 森口周二, 寺田賢二郎
第28回計算工学講演会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	つくば国際会議場	つくば	日本	20230602	Extended B-spline基底関数を用いた陰的MPMによる拡散亀裂から離散亀裂への遷移表現手法の開発	菅井理一, 韓壽珂, 森口周二, 寺田賢二郎
第28回計算工学講演会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	つくば国際会議場	つくば	日本	20230602	半陰的MPMによる不飽和土の浸透崩壊解析	飛澤野壮真, 山口裕矢, 高瀬慎介, 森口周二, 金子賢治, 寺田賢二郎
第28回計算工学講演会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	つくば国際会議場	つくば市	日本	20230602	非周期マイクロ構造を有する複合材料の代理均質化モデルによるマルチスケール解析	中村 明莉, 山中 羅介, 新宅 勇一, 森口 周二, 寺田 賢二郎
第28回計算工学講演会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	つくば国際会議場	茨城	日本	20230602	流体遷移を考慮した粒状体流れの構成則を用いたMPM土砂流動解析	木村 凌一, 飛澤野 壮真, 潘 紹元, 菅井 理一, 森口 周二, 寺田 賢二郎
第28回計算工学講演会	あり	該当なし	口頭(一般)	企業	つくば国際会議場	つくば	日本	20230602	Variable passing method for combining 3D MPM-FEM hybrid and 2D shallow water simulations of landslide-induced tsunamis	潘紹元, 野村怜佳, 凌国明, 高瀬慎介, 森口周二, 寺田賢二郎
第67回土木計画学研究発表会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	福岡大学	福岡	日本	20230603	明治三陸津波後の移住と集落再建の選択	西脇千瀬, 奥村誠
第67回土木計画学研究発表会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	福岡大学	福岡	日本	20230603	多様な避難者分布に対応できる事前周知避難経路を用いた津波避難方法	柳澤智仁, 奥村誠
第67回土木計画学研究発表会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	福岡大学	福岡	日本	20230603	モバイル空間統計データに基づく都市圏通勤流動の定量的把握	澤村悠里, 奥村誠
第67回土木計画学研究発表会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	福岡大学	福岡	日本	20230603	公共交通の運賃制度が効率性と公平性に与える影響 - 大都市郊外部の路線網・運賃同時最適化の計算から -	須ヶ間淳, 奥村誠
第59回日本循環器病予防学会学術集会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	かごしま県民交流センター	鹿児島	日本	20230603	抑うつ症状と家庭高血圧発症リスクの関連 東北メディカル・メガバンク計画地域住民コホート調査	時岡紗由理, 中谷直樹, 中谷久美, 小暮真奈, 千葉一平, 畑中里子, 菅野郁美, 小原拓, 栗山進一, 實澤篤
便秘症WEBチャンネル	なし	該当なし	講演会	企業	持田製薬 仙台支店(Web)	仙台	日本	20230608	脳腸相関から考える精神疾患における便秘治療の意義	国井素人
第23回日本抗加齢医学会総会	なし	該当なし	ポスター	なし	東京国際フォーラム	東京	日本	20230609	出生三世代コホートにおける7人家族のエピゲノム研究基盤構築	美辺詩織, 小巻翔平, 大桃秀樹, 高嶋聡, 小野加奈子, 山崎弥生, 須藤洋一, 田高周, 水野聖士, 石黒真美, 工藤久智, 小原拓, 熊田和貴, 勝岡史城, 萩島創一, 木下賢吾, 菅原進一, 栗山進一, 清水厚志
防災教育学会第4回大会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	関西国際大学	尼崎	日本	20230610	認知バイアスの認知度と理解: 教員養成課程の大学生を対象とする萌芽的調査を通して	齋藤玲, 小田隆史, 邑本亮
第65回日本老年医学会学術集会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	パシフィコ横浜 ノース、アネックス	横浜	日本	20230618	高齢者における尿 Na/K 比の血圧への影響は非高齢者より大きい	平田 匠, 小暮真奈, 中村智洋, 小原拓, 中谷直樹, 栗山進一, 丹野高三, 實澤篤
第119回日本精神神経学会学術総会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	パシフィコ横浜 ノース	横浜	日本	20230622	委員会シンポジウム16(災害支援委員会)ウクライナ侵襲に関するメンタルヘルス上の諸課題: ロシア侵襲下のウクライナにおけるメンタルヘルスの実態	国井素人, 藤井進, 日野瑞城, 濱家由美子, 野中小百合, 江川新一, 栗山進一, 富田博秋
第119回日本精神神経学会学術総会開催	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	パシフィコ横浜	神奈川	日本	20230622	双極性障害における体細胞変異の役割	西岡将基, 高山順, 酒井直美, 教野安亜, 石渡みずほ, 林 順子, 早馬俊, 藤井久彌, 染矢俊幸, 栗山進一, 田宮元, 高田篤, 加藤忠史
第119回日本精神神経学会学術総会開催	なし	該当なし	指名	なし	パシフィコ横浜	神奈川	日本	20230622	ロシア侵襲下のウクライナにおけるメンタルヘルスの実態	国井素人, 藤井進, 日野瑞城, 濱家由美子, 野中小百合, 江川新一, 栗山進一, 富田博秋
第119回日本精神神経学会学術総会	なし	招待	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	なし	パシフィコ	横浜	日本	20230622	日本におけるセクシャルマイノリティの方々の(LGBTQ+)の災害時の課題	北村美和子, 松川杏寧
第119回日本精神神経学会学術総会	あり	該当なし	ポスター	なし	パシフィコ横浜 ノース	横浜	日本	20230623	深層学習を用いた妊婦の心拍情報によるメンタルヘルスと睡眠状況の予測手法の開発	李雪, Ono Chiaki, Warita Noriko, Shoji Tomoka, Nakagawa Takashi, Usukura Hiomi, Yu Zhiqian, Takahashi Yuta, Ichiji Kei, Sugita Norihiro, Kobayashi Natsuko, Kikuchi Saya, Kunii Yasuto, Murakami Keiko, Ishikuro Mami, Obara Taku, Nakamura Tomohiro, Nagami Fuji, Takai Takako, Ogishima Soichi, Sugawara Junichi, Hoshiai Tetsuro, Saito Masatoshi, Tamiya Gen, Fuse Nobuo, Kuriyama Shinichi, Yamamoto Masayuki, Yaegashi Nobuo, Honma Noriyasu, Tomita Hiroaki
第119回日本精神神経学会学術総会開催	なし	該当なし	ポスター	なし	パシフィコ横浜	神奈川	日本	20230624	妊婦における精神神経用剤服薬および心理的苦痛の有無と2歳時点の児の行動特性との関連	高橋一平, 小原拓, 菊地紗耶, 小林奈津子, 小原竜, 野田あおい, 上野史彦, 大沼ともみ, 村上慶子, 石黒真美, 富田博秋, 栗山進一
第86回日本建築学会東北支部研究報告会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	オンライン	青森	日本	20230625	1層直置き型構造物の緩衝ゴムによる地震後残留すべり変位抑制の実験的検証	西尾智樹, 榎田竜太, 福田伊織, 五十子幸樹
第86回日本建築学会東北支部研究報告会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	オンライン	青森	日本	20230625	免震建物の過大変形抑制の実現に向けたダンパー力の周波数帯域制限	毛塚尚太郎, 五十子幸樹
第86回日本建築学会東北支部研究報告会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	オンライン	青森	日本	20230625	ダイナミック・マス—滴電流ダンパーを用いた動吸振器を有する3層免震試験体の特性同定	河本怜, 五十子幸樹
日本建築学会東北支部研究報告会	なし	該当なし	口頭(一般)	いいえ	オンライン	オンライン	日本	20230625	1層直置き型構造物の緩衝ゴムによる地震後残留すべり変位抑制の実験的検証	西尾智樹, 榎田竜太, 福田伊織, 五十子幸樹
第48回海洋開発シンポジウム	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	オホーツク・文化交流センター	北海道	日本	20230629	2022年トンガ火山性津波における山田湾を対象とした養殖施設の漂流シミュレーション	嶋原良典, 田中 健登, 山本 阿子, Anawat SUPPASRI, 高川 智博, 佐々木 大輔, 今村 文彦
JACET東北支部6月大会	なし	いいえ	口頭(一般)	なし	東北学院大学	仙台	日本	20230629	エラーの種類が筆記訂正フィードバックの効果に及ぼす影響	鈴木木, 齋藤玲
第27回日本医療情報学会春季大会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	沖縄コンベンションセンター	宜野湾	日本	20230630	東北大学病院における匿名加工医療情報および匿名加工情報の利活用と産学連携へ向けた取り組み	園部真也 藤井 進

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
第60回アイントープ・放射線研究発表会	あり	いいえ	口頭(一般)	いいえ	日本科学未来館	東京	日本	20230705	低濃度トリチウムへの持続的な曝露による細胞の影響解析	磯部理央, 鈴木正敏, 木野康志, 石川諒椰, 福本学, 千田浩一
第60回アイントープ・放射線研究発表会	あり	いいえ	口頭(一般)	いいえ	日本科学未来館	東京	日本	20230705	福島第一原子力発電所事故で被災した野生ニホンザルの臓器中酸化ストレス状態の解析	鈴木正敏, 石川諒椰, 岡壽崇, 山下琢磨, 木野康志, 遠藤暁, 中島裕夫, 佐藤拓, 磯部理央, 千田浩一, 福本学
The 66th annual meeting of the Japanese society for neurochemistry, Kobe	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	神戸国際会議場	神戸	日本	20230706	Unraveling the molecular signatures of schizophrenia with spatial transcriptomics	Satoshi Yoshinaga, Julio Leon, Mizuki Hino, Yoshinari Ando, Moody Jonathan, Atsuko Nagaoka, Ayako Kitazawa, Kanehiro Hayashi, Kazunori Nakajima, Chung Chau Hon, Yasuto Kunii, Jay Shin, Ken-ichiro Kubo
第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	仙台国際センター	仙台市	日本	20230708	災害時の病院機能維持とストーマ保有者支援体制の課題	佐々木宏之
第58回地盤工学研究発表会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	福岡国際会議場	福岡	日本	20230711	Semi-Implicit MPMを用いた不飽和土の斜面崩壊解析	飛騨野 壮真, 山口 裕矢, 高瀬 慎介, 森口 周二, 金子 賢治, 寺田 賢二郎
第58回地盤工学研究発表会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	福岡国際会議場	福岡	日本	20230711	DEMを用いた粒状体シミュレーションにおける入力パラメータの寄与率の定量化	森口 周二, 肖 珺森, 外里 健太, 大竹 雄, 寺田 賢二郎
第58回地盤工学研究発表会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	福岡国際会議場	福岡	日本	20230712	広域を対象とした三次元極限平衡法による豪雨時斜面安定解析	須郷 大地, 藤田 真輝, 外里 健太, 野村 怜佳, 森口 周二, 寺田 賢二郎
令和5年度関東地区応用力学フォーラム	なし	招待	講演・講義	なし	慶應義塾大学三田キャンパス	東京	日本	20230718	弾塑性複合材のRBF補間を用いた均質化モデルとき裂進展の積極的活用による破壊抵抗最大化のためのトポロジー最適化法	寺田賢二郎
第72回 東北公衆衛生学会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	コラッセ福島	福島	日本	20230721	産後女性のうつ・自殺関連問題の縦断的リスク評価の記述的分析: 東北メディカル・メガバンク計画三世代コホート調査	大類真嗣, 小原拓, 石黒真美, 野田あおい, 篠田元氣, 千葉一平, 中谷久美, 畑中里衣子, 小暮真奈, 中谷直樹, 實澤篤, 栗山進一
ART FORUM'23 (日本受精着床学会)	なし	招待	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	なし	仙台国際センター	仙台	日本	20230727	世界初の三世代コホート調査から得られた知見の生殖次世代医療へのフィードバック	栗山進一
全国英語教育学会第48回香川研究大会	なし	いいえ	口頭(一般)	なし	香川大学	香川	日本	20230800	直接訂正が作文の正確さに及ぼす効果—誤りの種類は影響するか—	齋藤玲, 鈴木渉
第11回日本DOHaD学会学術集会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	コラッセ福島	福島	日本	20230804	母親の妊娠中と産後の心理的苦痛と4歳時点における児の発達との関連: 三世代コホート調査	高橋 一平, 小原 拓, 菊地 紗耶, 小林 美佳, 石黒 真美, 村上 慶子, 上野 史彦, 野田 あおい, 大沼 とみみ, 松崎 美実子, 小林 奈津子, 濱田 裕貴, 岩間 憲之, 齋藤 昌利, 菅原 準一, 富田 博秋, 呉 繁夫, 八重樫 伸生, 栗山 進一
第11回日本DOHaD学会学術集会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	コラッセ福島	福島	日本	20230805	出生コホート連携における年齢別の不妊治療と妊娠高血圧症候群との関連	石黒真美, 小原拓, 西村倫子, 岩田啓芳, 目時弘仁, 岩間憲之, 村上慶子, 小林澄貴, 宮下ちひろ, 石塚一枝, 田中景子, 三宅吉博, 堀川玲子, 森崎菜穂, 山本綾, 櫻井健一, 森千里, 清水厚志, 佐田文宏, 土屋賢治, 岸玲子, 栗山進一
地域安全学会・東日本大震災連続ワークショップ 2023 in 陸前高田	あり	該当なし	口頭(一般)	行政	陸前高田市文化会館	陸前高田	日本	20230805	自然がもつリスクの受容を意図した災害科学展示の実践—せんだい3.11メモリアル交流館・企画展「私がここで暮らしていくための科学〜『黒い壁』の正体」	三條望, 佐藤翔輔
第5回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」	なし	該当なし	口頭(一般)	行政	日本学術会議講堂	東京都	日本	20230808	学校防災を担う人材育成—宮城県石巻市での取組を中心に—	小田 隆史, 佐藤 健
2023年雄毅研究会総会	なし	該当なし	口頭(一般)	企業	劍淵町民センター	上川郡劍淵町	日本	20230827	古写真にみる民国期内陸中国の難民景観—米国人林学者W.C.ローダミルクの記録より	原 裕太
第42回日本自然災害学会学術講演会	なし	いいえ	口頭(一般)	なし	金沢大学	金沢	日本	20230900	防災意識と関連するパーソナリティの探索: 地域や国に対する意識を中心として	齋藤玲, 三橋勇太, 庄子真岐, 邑本俊亮
日本教育工学会2024年秋季大会	なし	いいえ	ポスター	なし	京都テルサ	京都	日本	20230900	テレビスタジオにおける番組放送体験が大学生の就職動機づけに与える影響: 実践報告と評価, 個人差	後藤心平, 齋藤玲, 堀田龍也
日本教育工学会2024年秋季大会	なし	いいえ	ポスター	なし	京都テルサ	京都	日本	20230900	生成系AI(ChatGPT)に対する初等中等教育教員の認識と使用経験, 情緒的・認知的態度, 発達への影響観	登本洋子, 齋藤玲, 堀田龍也
日本教育工学会2024年秋季大会	なし	いいえ	ポスター	なし	京都テルサ	京都	日本	20230900	自学自習中における中学生の異なる情報端末への行動制御と学業成績との関連に関する一考察	中川哲, 齋藤玲, 大崎貢, 堀田龍也
第45回日本高血圧学会総会	なし	該当なし	ポスター	なし	大阪国際会議場	大阪	日本	20230900	高血圧の家族歴・遺伝要因, 生活習慣の組み合わせと家庭高血圧の関連—東北メディカル・メガバンク地域住民コホート調査	高瀬雅仁, 平田匠, 中谷直樹, 小暮真奈, 畑中里衣子, 中谷久美, 千葉一平, 菅野郁美, 目時弘仁, 佐藤倫広, 小原拓, 栗山進一, 田宮元, 實澤篤
第25回日本災害看護学会	なし	はい	口頭(基調)	なし	アクリエひめじ	姫路	日本	20230902	災害に関連する学際的研究の取り組み方[あなたの専門は何ですか?]	江川新一
2023年度電気関係学会東北支部連合大会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	岩手県立大学	盛岡	日本	20230905	1D02 Experimental verification of the battery-directly connected DC microgrid	劉 可, 山田博仁, 岩月勝美, 尾辻泰一
2023年度電気関係学会東北支部連合大会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	岩手県立大学	盛岡	日本	20230905	1D03 Experimental Demonstration of a 3-port DC Power Routing	唐 琮頌, 劉 可, 山田博仁, 岩月勝美, 尾辻泰一
2023年度電気関係学会東北支部連合大会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	岩手県立大学	盛岡	日本	20230905	1D04 Renewable energy driven distributed micro-datacenter installed outdoor	王 静池, 山田博仁, 岩月勝美, 尾辻泰一
第53回日本神経精神薬理学会年会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	東京ドームホテル	東京	日本	20230907	シンポジウム3 統合失調症の病態仮説の提案: 様々な統合失調症仮説の死後脳での検証	國井泰人
日本安全教育学会第24回奈良大会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	奈良学園大学	奈良市	日本	20230909	地名を題材とした防災教育の探究	佐藤 健, 桜井 愛子
日本安全教育学会第24回奈良大会	なし	該当なし	口頭(一般)	行政	奈良学園大学	奈良市	日本	20230909	Web GISを利用した学校教員向けリスクコミュニケーション手法の高度化〜学区の災害リスクの理解に基づく実践的な避難計画の社会実装に向けて〜	桜井 愛子, 村山 良之, 佐藤 健, 熊谷 誠, 北浦 早苗, 小田 隆史



名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
第38回日本環境会議仙台大会・シンポジウム2「災害の経験継承とデモクラシー」	なし	招待	講演・講義	なし	東北大学片平さくらホール	仙台	日本	20230910	市民がおこなう災害伝承	佐藤翔輔
2023年度日本建築学会大会(京都)	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	京都大学	京都	日本	20230913	超弾性合金を露出柱脚に適用した鋼構造ラーメン架構の地震応答解析	鶴田圭祐, 荒木慶一, 西本篤史, 五十子幸樹, 福田伊織
2023年度日本建築学会大会(京都)	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	京都大学	京都	日本	20230913	1層直置き型構造物の緩衝ゴムによる残留すべり変位抑制効果を検証する振動台実験	西尾智樹, 榎田竜太, 福田伊織, 五十子幸樹
日本建築学会全国大会	なし	該当なし	口頭(一般)	いいえ	京都大学	京都	日本	20230913	1層直置き型構造物の緩衝ゴムによる残留すべり変位抑制効果を検証する振動台加振実験	西尾智樹, 榎田竜太, 福田伊織, 五十子幸樹
日本建築学会G空間社会の成立と防災における情報活用の未来	なし	該当なし	指名	なし	京都大学	京都	日本	20230913	G空間社会と防災アーカイブ	柴山明寛
2023年度日本建築学会近畿大会都市計画委員会研究協議会	なし	招待	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	なし	京都大学	京都	日本	20230913	「計画」と「事業」の間—非法定地区統合プランの効果と限界—	姥浦道生
2023年度日本建築学会大会(京都)	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	京都大学	京都	日本	20230914	高軸力変動を受ける鉄筋コンクリート造柱の静的加力実験	菅野秀人, 川野菜々美, 太田凌斗, 櫻井真人, 井上範夫, 五十子幸樹, 中村孝也, 高橋典之
2023年度日本建築学会大会(京都)	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	京都大学	京都	日本	20230914	Multi-objective H $\infty$ Optimization of Single-degree-of-Freedom Structure Equipped with Inerter-based Dampers	謝瑞洪, 五十子幸樹
日本建築学会大会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	京都大学	京都	日本	20230914	Augmented Kalman Filter を用いた構造物の非観測測における非線形応答推定 その2:実建物に対する検討	笹/間佑太, 河野利器, 大野晋
日本建築学会大会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	京都大学	京都	日本	20230914	Augmented Kalman Filter を用いた構造物の非観測測における非線形応答推定 その1:初期剛性と減衰定数の推定	河野利器, 笹/間佑太, 大野晋
土木学会全国大会第78回年次学術講演会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	広島大学	広島	日本	20230914	有限被覆法を用いた離散き裂を有する勾配損傷モデルの動的破壊問題への適用	平山大悟, 韓壽珂, 森口周二, 寺田賢二郎
土木学会全国大会	あり	該当なし	口頭(一般)	企業	広島大学	広島	日本	20230914	広域土砂流動シミュレーションにおける抵抗力モデルおよびその適応性に関する一考察	大塚千穂, 飛野野壮真, NioDolojan, 野村怜佳, 森口周二, 寺田賢二郎
土木学会全国大会第78回年次学術講演会	あり	該当なし	口頭(一般)	企業	広島大学	広島	日本	20230914	実地形を対象としたHovland法と三次元簡易Bishop法による広域斜面安定解析	中村優見, 須郷大地, 外里健太, 野村怜佳, 森口周二, 寺田賢二郎
第31回抗ウイルス療法学会学術集会・総会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	横浜シンポジア	横浜	日本	20230914	抗SARS-CoV-2メインプロテアーゼ阻害剤 TKB272の研究開発	青木宏美, 鎮田伸好, 辻耕平, 林宏典, Haydar Bulut, 今井正樹, 服部真一朗, 高松悠樹, 助長義和, 岡村匡史, 三隅将吾, 河岡義裕, 玉村啓和, 満屋裕明
電子情報通信学会 ソサイエティ大会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	名古屋大学	名古屋	日本	20230914	[B-9-10] 3ポート直流電力スイッチの動作実証	唐 琮麟, 劉 可, 山田博仁, 岩月勝美, 尾辻泰一
電子情報通信学会 ソサイエティ大会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	名古屋大学	名古屋	日本	20230914	[B-9-1] 蓄電池直結型直流マイクログッドの動作解析	劉 可, 山田博仁, 岩月勝美, 尾辻泰一
電子情報通信学会 ソサイエティ大会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	名古屋大学	名古屋	日本	20230914	[B-9-5] 屋外設置再エネ駆動型マイクロデータセンター	王静池, 劉可, 山田博仁, 岩月勝美, 尾辻泰一
2023年度日本建築学会大会(京都)	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	京都大学	京都	日本	20230915	複素減衰を因果的に近似する減衰指定型ダンパシステムを用いたバッシュ型高性能免震構造の研究	加藤貴司, 仲村崇仁, 仲野健一, 境茂樹, 五十子幸樹, 井上範夫
2023年度日本建築学会大会(京都)	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	京都大学	京都	日本	20230915	ダイナミック・マス・高電流ダンパーを用いた動吸振器を有する3層免震試験体の特性同定	河本怜, 五十子幸樹
2023年度日本建築学会大会(京都)	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	京都大学	京都	日本	20230915	A Physical Realization Model for Approximating the Ideal Rate-independent Linear Damping Using the Tuned Viscous Mass Damper	王勃雄, 康建飛, 五十子幸樹
2023年度日本建築学会大会(京都)	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	京都大学	京都	日本	20230915	An External Seismic Energy Dissipative System for Buildings using the Tuned Viscous Mass Damper	康建飛, 王勃雄, 五十子幸樹
2023年度日本建築学会大会(京都)	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	京都大学	京都	日本	20230915	免震構造物の変位制御における減衰力の周波数帯域制限効果 その1 複素減衰の帯域制限型モデルによる非因果的検討	長浜慧昌, 毛塚尚太郎, 五十子幸樹
2023年度日本建築学会大会(京都)	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	京都大学	京都	日本	20230915	免震構造物の変位制御における減衰力の周波数帯域制限効果 その2 分次数因果モデルによる因果的検討	毛塚尚太郎, 長浜慧昌, 五十子幸樹
2023年度日本建築学会近畿大会建築法制委員会研究協議会	なし	招待	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	なし	京都大学	京都	日本	20230915	災害危険区域指定による建築規制	姥浦道生
日本心理学会第87回大会	なし	いいえ	ポスター	なし	神戸国際会議場	神戸	日本	20230916	子ども同士の震災に関する心のケアと心理的配慮の時空間分布:宮城県大学の大学に所属する大学生を対象とする東日本大震災を事例とする調査	齋藤玲, 越中康治, 保田真理, 長谷川真里, 邑本俊亮
日本地理学会2023年秋季学術大会	なし	該当なし	ポスター	なし	関西大学	大阪	日本	20230917	2022年7月の宮城県北部における大雨に伴う大崎平野の河川氾濫とその地形学的背景	高橋尚志, 橋本雅和, 森口周二
第42回日本自然災害学会学術講演会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	金沢大学角間キャンパス	金沢	日本	20230917	中学生を対象とした防災教育の効果測定:静岡県内の小学校と中学校の実践から	保田真理, 邑本俊亮, 齋藤玲
第42回日本自然災害学会年次学術講演会	あり	該当なし	口頭(一般)	小中高	金沢大学	金沢	日本	20230917	震災語り部学習の聞き手に対する継続的影響に関する分析:小学生から高校生を対象にしたオンライン形式の語り部学習の事例	佐藤翔輔, 渡邊勇, 佐藤和香, 星和敏, 渡辺達美, 中川政治, 藤間千尋, 浅利満理子
第42回日本自然災害学会年次学術講演会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	金沢大学	金沢	日本	20230917	トンガ海底火山の噴火に伴う潮位変化に対する自治体対応—津波警報・注意報が発表された市町村における避難情報等の伝達状況調査—	三宅真太郎, 関谷直也, 安本真也, 佐藤翔輔, 吉本充宏, 石塚康浩, 秦康範
日本地質学会	なし	該当なし	口頭(一般)	小中高	京都大学	京都	日本	20230918	有機・無機地球化学分析による869年貞観津波の浸水域復元	古明地海社・齋崎鉄哉・菅原大助・石澤幸史・池原実・藤野滋弘

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
2023年日本地理学会秋季学術大会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	関西大学	吹田	日本	20230918	五島カトリック集落における自然資源利用の空間特性と生存戦略—隣接する仏教徒集落との比較を通じて	原 裕太, 甲斐智大, 高場智博
第42回日本自然災害学会年次学術講演会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	金沢大学	金沢	日本	20230918	災害時に迫られる判断を疑似体験できる防災学習手法の開発と持続的運用の試み	新家杏奈, 佐藤翔輔, 今村文彦
第42回日本自然災害学会年次学術講演会	なし	招待	指名	なし	金沢大学	金沢	日本	20230918	継続的な防災教育の実践事例と効果測定に関する課題提起	新家杏奈
第73回日本病院学会	なし	招待	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	なし	仙台国際センター	仙台	日本	20230922	シンポジウム9「職場のメンタルヘルス」:コロナ禍で変貌したメンタルヘルスうつ病、自殺、後遺症としてのうつ	国井泰人
第84回応用物理学会秋季学術講演会 シンポジウム「メタバスの中核をなす応用物理 ～人とデータをつなぐ多様なインターフェース技術～」	なし	招待	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	なし	熊本城ホール	熊本	日本	20230922	フレキシブル繊維電極による『きりがない』バイタル計測	鳥光慶一
第60回自然災害科学総合シンポジウム	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	京都大学宇治おうぼくプラザきはだホール	京都府	日本	20230925	トンガ海底火山噴火とそれに伴う津波の予測と災害に関する総合調査-科学研究費特別研究促進費による突発災害調査研究令和3-4年度報告-	佐竹健治, 前野深, 西田究, サッパシー アナワット, 関谷直也
第77回東北精神神経学会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	Web開催	岩手	日本	20231001	福島原発事故被災者における放射線リスク認知とCOVID-19パンデミックによる心理状態の変化との関連	川崎由希子, 本間(照井)稔宏, 国井泰人, 各務竹康, 日高友郎, 矢部博典, 三浦至
日本応用地質学会2023年研究発表会	なし	いいえ	口頭(一般)	なし	秋田ミルハス	秋田市	日本	20231005	活断層の地表変位ハザードの現状と課題	遠田晋次
日本測地学会第140回講演会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	仙台市福祉プラザ	仙台	日本	20231011	ウェーブグライダーを用いたGNSS-音響測距結合方式の海底地殻変動観測の今後の展望	飯沼卓史, 木戸元之, 福田達也, 太田雄策, 富田史章
日本測地学会第140回講演会	あり	該当なし	ポスター	なし	仙台市福祉プラザ	仙台	日本	20231011	GNSS-A観測時のウェーブグライダーの運動姿勢の把握	木戸元之, 村井葉々海, 飯沼卓史, 福田達也, 太田雄策, 富田史章
日本測地学会第140回講演会	なし	該当なし	ポスター	なし	仙台福祉プラザ	仙台	日本	20231011	多様な事前分布に基づく音速水平勾配を仮定した GNSS 音響測位解析手法の開発	富田史章
日本測地学会第140回講演会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	仙台市福祉プラザ	仙台	日本	20231011	Creep characteristics along the central part of the Philippines Fault on Leyte Island from ALOS-2 time-series analysis	Yagizalp Okur, Yo Fukushima
第14回気象学史研究会	なし	招待	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	なし	仙台国際センター	仙台市	日本	20231023	地域社会に残された古文書・古記録の保全	佐藤大介
第10回構造物の安全性・信頼性に関する国内シンポジウム	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	日本学術会議講堂	東京	日本	20231025	質量分布や剛性分布が高さ方向に著しく変化する構造物への同調粘性マスタンプの適用に関する一検討	三木広志, 五十子幸樹, 井上範夫
第51回日本放射線技術学会秋季学術大会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	名古屋国際会議場	名古屋	日本	20231027	ERCPにおけるCアーム式透視装置用放射線防護壁の試作および基礎検討	石井浩生, 稲葉洋平, 千田浩一, 小野寺崇, 齋政博
第51回日本放射線技術学会秋季学術大会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	名古屋国際会議場	名古屋	日本	20231027	IVR従事者の頭部から発生する後方散乱線が自身の水晶体被ばく線量に及ぼす影響	大野紗耶, 今田聡恵, 進藤僚太, 山本啓介, 稲葉洋平, 千田浩一
第51回日本放射線技術学会秋季学術大会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	名古屋国際会議場	名古屋	日本	20231027	インターベンションラジオロジーに従事する術者のための新型水晶体防護具の試作開発	芳賀喜裕, 千田浩一, 加賀勇治, 曾田真宏, 笠原祥司, 齋藤和久, 阿部美津也, 前田賢
日本災害情報学会第27回学会大会	なし	いいえ	口頭(一般)	なし	福島学院大学	福島	日本	20231028	リスクコミュニケーションが持つ各種メディア発信の放射線情報に対する信頼度の違い: 防災士対象調査を通して	齋藤玲, 邑本俊亮, 保田真理, 大葉隆, 佐藤美佳
第51回日本放射線技術学会秋季学術大会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	名古屋国際会議場	名古屋	日本	20231028	原子力規制庁によって定められている指定箇所に対応した体表面汚染装置の評価	中村美緒, 田辺真子, 佐藤拓, 鈴木華衣, 千葉由梨乃, 阿部喜弘, 越智隆浩, 千田浩一
第51回日本放射線技術学会秋季学術大会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	名古屋国際会議場	名古屋	日本	20231028	全身用体表面汚染検査装置の測定状況による測定値への影響	田辺真子, 佐藤拓, 中村美緒, 越智隆浩, 阿部善弘, 細井義夫, 千田浩一
第51回日本放射線技術学会秋季学術大会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	名古屋国際会議場	名古屋	日本	20231028	治療施設におけるCovid-19患者のポータブルX線撮影で生じる空間散乱線測定 胸部ファントムを用いた検討	藤沢 昌輝, 稲葉 洋平, 山田 歩実, 加藤 聖規, 服部 兼進, 小野寺 保, 千田浩一
第51回日本放射線技術学会秋季学術大会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	名古屋国際会議場	名古屋	日本	20231028	β線用プラスチックシンチレーションサーベイメータの性能評価-線源検出器間距離が検出能に与える影響-	山本啓介, 磯部理央, 大野紗耶, 今田聡恵, 進藤僚太, 稲葉洋平, 鈴木正敏, 細井義夫, 千田浩一
第42回日本マグネシウム学会学術集会	なし	Plenary	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	なし	鹿児島大学	鹿児島	日本	20231028	マグネシウムと神経活動	鳥光慶一
2023年度日本考古学協会宮城大会	なし	該当なし	口頭(一般)	小中高	東北学院大学	仙台	日本	20231029	津波堆積物の研究と東北地方太平洋側の津波履歴	菅原大助・石澤光史
第51回日本放射線技術学会秋季学術大会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	名古屋国際会議場	名古屋	日本	20231029	CR及びFPDシステム使用時におけるポータブルX線撮影従事者の水晶体被ばく線量の比較	今田聡恵, 芳賀喜裕, 大友一輝, 曾田真宏, 阿部美津也, 加賀勇治, 稲葉洋平, 千田浩一
日本災害情報学会 第27回学会大会	なし	該当なし	口頭(一般)	企業	福島学院大学	福島	日本	20231029	トンガ海底火山の噴火に伴う潮位変化に対する住民の対応—津波警報・津波注意報が発表された地域の住民に対する質問紙調査—	佐藤翔輔, 関谷直也, 安本真也, 吉本充宏, 石塚康浩, 秦康範
日本災害情報学会 第27回学会大会	なし	該当なし	口頭(一般)	企業	福島学院大学	福島	日本	20231029	スポーツからアプローチする防災啓発の一形態:ヤフー防災模試を活用した各スポーツリーグとの事例研究	安田健志, 津村翔士, 佐藤翔輔
第32回 地理情報システム学会学術研究発表大会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	電気通信大学	調布	日本	20231029	GPSデータから推計した歩行量分布と街路形態指標の関連性評価	渡邊 伶央, 永田 彰平, 中谷 友樹
日本地震学会2023年度秋季大会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	パシフィック横浜アネックスホール	横浜	日本	20231031	日本海溝・千島海溝沿いにおけるGNSS音響海底測地観測とその成果	富田史章, 木戸元之, 飯沼卓史, 太田雄策, 日野亮太, 大園真子, 高橋浩晃, プラタマルティネススライムンド, 野藤雄, 中東和夫, 中村恭之
日本地震学会2023年度秋季大会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	パシフィック横浜	横浜	日本	20231031	Interseismic deformation analysis due to megathrust locking using GNSS Data: A case study of southwestern Pakistan	Shaukat Parvaiz, Yo Fukushima
日本地震学会2023年度秋季大会	あり	該当なし	ポスター	なし	パシフィック横浜	横浜	日本	20231031	健康分野の行動変容アプローチを参考にした地震防災に関する取り組みの試行的体系整理	福島洋, 中鉢奈津子, 栗山進一

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
日本地震学会2023年度秋季大会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	パシフィコ横浜	横浜	日本	20231031	日本の活断層や火山の微小変動検出を目的としたInSARデータへの深層学習適用の困難性	福島洋
第82回日本公衆衛生学会総会	なし	該当なし	ポスター	なし	つくば国際会議場	つくば	日本	20231031	妊娠24週未満の血糖値と児の2歳時点における発達の間連:三世(コホート)調査	河口千寒、石黒真美、村上慶子、小原拓、栗山進一
第56回安全工学研究発表会	なし	いいえ	口頭(一般)	なし	アクリエひめじ	姫路	日本	20231100	Natech が起こり得る建物への大地震直後の再入棟行動を防止するマンガ教材の教育効果	小柴佑介、齋藤玲
日本地震学会2023年度秋季大会	あり	該当なし	ポスター	なし	パシフィコ横浜	横浜	日本	20231101	GNSS-Acoustic観測の音響波形解析に対する機械学習の適用	黒須直樹、木戸元之
日本地震学会2023年度秋季大会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	パシフィコ横浜 アネックスホール	横浜	日本	20231101	17世紀千島海溝地震震源域の地殻構造と浅部大すべりとのかかわり	東龍介、小平 秀一、日野 亮太、藤江剛、尾鼻 浩一郎、富田 史章、太田雄策
日本地震学会2023年秋季大会	なし	はい	ポスター	なし	パシフィコ横浜	横浜市	日本	20231101	内陸活断層近傍の強震動計算におけるすべり速度パラメータの検討 - 2016年熊本地震を例に	乗松君衣、遠田晋次
第82回日本公衆衛生学会総会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	つくば国際会議場	筑波	日本	20231101	母子健康情報と学校健康診断情報との関係情報の活用可能性の検討	篠田元気、黒川修行、野田あおい、大類真嗣、村上慶子、石黒真美、小原拓、目時弘仁、栗山進一
日本地震学会2023年度秋季大会	なし	該当なし	ポスター	なし	パシフィコ横浜	横浜市	日本	20231101	内陸活断層近傍の強震動計算におけるすべり速度パラメータの検討 - 2016年熊本地震を例に	乗松君衣、遠田晋次
日本地震学会2023年秋季大会	なし	いいえ	口頭(一般)	なし	パシフィコ横浜	横浜市	日本	20231102	2023年トルコ、カプラムマラッシュ地震による静的応力変化と地震応答	遠田晋次・Ross Stein
第13回東北放射線医療技術学術大会(TCRT2023)	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	山形テルサ	山形	日本	20231103	心臓血管カテーテル診断・治療における線量限度引き下げ前後の術者水晶体被ばく線量の評価	下橋航大、芳賀喜裕、高平映希、田辺真子、中村美緒、曾田真宏、加賀勇治、阿部美津也、千田浩一
13回東北放射線医療技術学術大会(TCRT2023)	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	山形テルサ	山形	日本	20231103	X線透視下での気管支鏡検査における医師の水晶体被ばくの評価	高平映希、下橋航大、田辺真子、中村美緒、芳賀喜裕、加賀勇治、阿部美津也、千田浩一
13回東北放射線医療技術学術大会(TCRT2023)	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	山形テルサ	山形	日本	20231103	ERCPでの頭頸部用放射線防護具の防護効果	日野隆喜、山崎智香、佐藤俊光、鈴木幸司、千田浩一
13回東北放射線医療技術学術大会(TCRT2023)	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	山形テルサ	山形	日本	20231103	オーバーグラスタイプ防護眼鏡の放射線防護効果に関する検討-矯正眼鏡による遮蔽効果について-	進藤徹夫、大野紗耶、今田聡志、磯部理央、山本啓介、郷内優作、古川未来、芳賀喜裕、稲葉洋平、千田浩一
13回東北放射線医療技術学術大会(TCRT2023)	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	山形テルサ	山形	日本	20231103	IVR術者のための新型水晶体防護具の開発	芳賀喜裕、千田浩一、曾田真宏、加賀勇治、齋藤和久、笠原祥司、加藤聖規、阿部美津也
日本地形学連合2023年秋季大会	なし	該当なし	ポスター	なし	福江総合福祉保健センター	長崎県福江市	日本	20231104	神奈川県西部の山地域における大正関東地震に伴う斜面崩壊による土砂生産	高橋尚志、山根 悠輝、諏訪 貴一
日本放射線影響学会第66回大会	なし	はい	公募	いいえ	グランドニッコー東京	東京	日本	20231106	Relationship between cellular uptake, localization and the induction of DNA double-strand breaks by sustained exposure to low concentrations of tritium	Masatoshi SUZUKI, Rio ISOBE, Yasushi KINO, Koichi CHIDA, Manabu FUKUMOTO
日本放射線影響学会第66回大会	あり	いいえ	口頭(一般)	いいえ	グランドニッコー東京	東京	日本	20231106	低濃度トリチウムの持続処理によるDNA二重鎖切断の誘発	磯部理央、鈴木正敏、木野康志、石川諒椰、佐藤拓、福本学、千田浩一
日本放射線影響学会第66回大会	なし	はい	公募	いいえ	グランドニッコー東京	東京	日本	20231106	Tritium biology in Japan: past and prospects for the future	Hiroshi TAUCHI, Masatoshi SUZUKI, Tsuyoshi MASUDA, Akira TACHIBANA
第45回日本生物学的精神医学会総会	あり	該当なし	ポスター	なし	万国津梁館	名護市	日本	20231106	双極性障害死後脳におけるホスホインドシグナル関連タンパク質の発現変化	日野 瑞城、國井 泰人、宍戸 理紗、長岡 敦子、松本 純弥、赤津 裕康、橋詰 良夫、林 秀樹、柿田 明美、富田 博秋
第45回日本生物学的精神医学会総会	あり	該当なし	ポスター	なし	万国津梁館	名護市	日本	20231106	統合失調症死後脳におけるS-ノルエトリン化酵素遺伝子の発現についての検討	細貝 優人、日野 瑞城、宍戸 理紗、長岡 敦子、林 秀樹、柿田 明美、富田 博秋、三浦 至、國井 泰人
第45回日本生物学的精神医学会総会	あり	該当なし	ポスター	なし	万国津梁館	名護市	日本	20231106	ヒト死後脳組織の網羅的遺伝子発現解析に対する交絡因子の影響についての検討	旗野 将貴、宮原 一穂、日野 瑞城、長岡 敦子、倉志 前、林 秀樹、柿田 明美、富田 博秋、三浦 至、國井 泰人
第45回日本生物学的精神医学会総会	あり	該当なし	ポスター	なし	万国津梁館	名護市	日本	20231106	統合失調症の高ストレス応答群でのDNA二重鎖切断修復に関する分子の発現変動	宍戸 理紗、日野 瑞城、長岡 敦子、林 秀樹、柿田 明美、三浦 至、富田 博秋、國井 泰人
第45回日本生物学的精神医学会総会	あり	該当なし	ポスター	なし	万国津梁館	名護市	日本	20231106	日本人精神疾患患者前頭葉試料における網羅的DNAメチル化状態の予備的解析	藤井 綾香、仲地 ゆたか、日野 瑞城、宍戸 理紗、長岡 敦子、清田 恵美、今村 悠子、國井 泰人、文東 美紀、岩本 和也
日本放射線影響学会第 66 回大会	あり	該当なし	ポスター	なし	グランドニッコー東京	東京	日本	20231107	Study on detection sensitivity for the measurement of low concentration of malondialdehyde in plasm	Taku Sato, Masatoshi Suzuki, Rio ISOBE, Ryooya Ishikawa, Manabu Fukumoto, Koichi Chida
日本放射線影響学会第66回大会	あり	いいえ	ポスター	いいえ	グランドニッコー東京	東京	日本	20231107	血漿中の低濃度マロンジアルデヒド測定に向けた検出感度に関する検討	佐藤拓、鈴木正敏、磯部理央、石川諒椰、福本学、千田浩一
日本放射線影響学会第66回大会	あり	いいえ	口頭(一般)	いいえ	グランドニッコー東京	東京	日本	20231107	4メチルニトロソアミノ(3ピリジル)1ブタン投与AJマウス肺での不溶性放射性粒子気管内投与とX線照射の腫瘍形成効果	山田裕、森岡孝満、遠藤暁、二宮和彦、鈴木正敏
日本放射線影響学会第66回大会	あり	いいえ	ポスター	いいえ	グランドニッコー東京	東京	日本	20231107	134Cs、137Cs、129I、131Iにおけるニホンザルの内部・外部被ばく臓器線量率換算係数	高村信次、梶本剛、鈴木正敏、福本学、田中憲一、遠藤暁
宇宙航空環境医学会第69回大会	なし	はい	口頭(招待)	いいえ	じゅうろくプラザ	岐阜	日本	20231110	被災動物の包括的線量評価事業～福島第一原子力発電所事故による放射線被ばく生物影響解析～	鈴木正敏、稲葉洋平、千田浩一、福本学
日本活断層学会2023年度秋季学術大会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	九州大学	福岡市	日本	20231110	2023年トルコ、カプラムマラッシュ地震における断層幾何形状から得られた破壊伝播確率	原勇貴、遠田晋次
日本活断層学会2023年度秋季学術大会	なし	該当なし	ポスター	なし	九州大学	福岡市	日本	20231110	布田川断層田中地区における熊本地震前トレンチの再掘削:熊本地震による壁面変化について	山根悠輝・原 勇貴・鳥井真之・遠田晋次・石村大輔・高橋直也・奥野 充・福田泰英
日本計算機統計学会第37回シンポジウム	なし	招待	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	企業		宮崎県	日本	20231111	災害デジタルツインの構築に向けて	越村俊一

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
日本都市計画学会全国大会シンポジウム	なし	招待	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	なし	岩手大学	盛岡	日本	20231111	東日本大震災から学んだこと〜土地利用に関するプラン・プランニングを中心に〜	姥浦道生
日本活断層学会2023年度秋季学術大会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	九州大学	福岡市	日本	20231111	布田川断層田中地区における熊本地震前トレンチの再掘削調査	遠田晋次・鳥井真之・山根悠輝・原勇貴・石村大輔・高橋直也・奥野 充・福田泰英
第70回海岸工学講演会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	京都テルサ	京都府	日本	20231116	東日本大震災における瓦礫内犠牲者の発見までの経過における実態と今後の課題	信田晃成, 門廻充侍, Anawat Suppasri, 今村 文彦
第70回海岸工学講演会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	京都テルサ	京都府	日本	20231116	2022年トンガ火山性津波による山田湾での養殖施設被害に関する研究	田中健登, Suppasri Anawat, Pakoksung Kwanchai, 嶋原良典, 今村文彦
第70回海岸工学講演会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	京都テルサ	京都府	日本	20231116	CFRPを用いた小型石油タンクの津波対策工法の津波実験と検証解析による効果の検証	保延宏行, 藤井直樹, サッパシー・アナワト, 今村文彦
第70回海岸工学講演会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	京都テルサ	京都府	日本	20231116	東日本大震災の事例を踏まえた津波後のアマモ回復予測	木村裕行, Anawat SUPPASRI, 今村文彦, 高橋宏樹
第70回海岸工学講演会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	京都テルサ	京都府	日本	20231116	津波火災による焼死犠牲の実態と要因分析-東日本大震災での宮城県の事例, 土木学会論文集B2(海岸工学), 79, (17), 23-17179.	武井亮太, 門廻充侍, Anawat SUPPASRI, 今村文彦
第64回日本児童青年精神医学会総会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	弘前市民文化交流館、アートホテル弘前シティ	弘前	日本	20231116	コロナ禍における不登校の原因と予後に関する因子についての後方視的検討	佐藤重希子, 千代田高明, 松本貴智, 川崎由希子, 和田知絃, 横倉俊也, 伊瀬陽子, 國井泰人, 増子博文, 板垣俊太郎
第70回海岸工学講演会	あり	該当なし	口頭(一般)	行政	京都テルサ	京都	日本	20231116	東日本大震災発生以後に発生した各地震における津波避難行動の定点点調査: 2011年〜2022年の宮城県亘理町における事例分析	佐藤翔輔, 遠藤匡範, 岩崎雅宏, 皆川満洋, 高橋里佳, 南城真佐英, 今村文彦
第70回海岸工学講演会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	京都テルサ	京都	日本	20231116	津波避難時における渋滞緩和を目的とした徒歩避難促進手法の試作: 宮城県石巻市における実践例	川合将矢, 佐藤翔輔, MAS Erick, 新家杏奈, 今村文彦
第70回海岸工学講演会	あり	該当なし	口頭(一般)	企業	京都テルサ	京都	日本	20231116	津波避難誘導を目的としたバルーン型標識の視認性検証	成田峻之輔, 佐藤翔輔, 今村文彦
第36回日本総合病院精神医学会総会	あり	招待	セミナー	なし	仙台国際センター	仙台	日本	20231117	ランチョンセミナー3, 最新の神経科学からグアンファシンのリアルポテンシャルを再評価する	國井泰人
第11回歴史地震研究会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	オンライン		日本	20231118	関東大震災と仙台市・宮城県-地域資料に見る	佐藤大介・川内淳史
第36回日本総合病院精神医学会総会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	仙台国際センター	仙台	日本	20231118	シンポジウム16精神疾患診療における器質因へのアプローチ: コロナ後遺症としてのうつ病を考える	國井泰人
第36回日本総合病院精神医学会総会	あり	該当なし	ポスター	なし	仙台国際センター	仙台	日本	20231118	精神疾患ブレインバンクにおける生前登録時の自殺予防と自殺脳研究の取り組み	長岡敦子, 旗野将貴, 細貝優人, 穴戸理紗, 日野瑞城, 三浦至, 國井泰人, 富田博秋
第53回(2023年度)地域安全学会研究発表会(秋季)	あり	該当なし	口頭(一般)	行政	静岡県地震防災センター	静岡	日本	20231118	被災自治体による震災から復興過程におよぶ災害対応記録誌の作成プロセス: 「みやぎの3.11」作成業務の観察・調査にもとづく実態把握	佐藤翔輔, 今村文彦
第53回(2023年度)地域安全学会研究発表会(秋季)	あり	該当なし	口頭(一般)	企業	静岡県地震防災センター	静岡	日本	20231118	時短型災害語り部学習プログラム「ツナミリアル」の効果検証に関する実験的研究	若木望, 佐藤翔輔, 渡邊勇, 邑本俊亮, 今村文彦
第53回(2023年度)地域安全学会研究発表会(秋季)	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	静岡県地震防災センター	静岡	日本	20231119	東日本大震災被災地の復興事業データに基づく事前高台移転の有益性に関する比較研究	東野幹久, 村尾修
第53回(2023年度)地域安全学会研究発表会(秋季)	なし	該当なし	ポスター	なし	静岡県地震防災センター	静岡	日本	20231119	みらいの避難所プロジェクト: 川崎市における避難生活体験	村尾修, 原野泰典, 坂茂
第53回(2023年度)地域安全学会研究発表会(秋季)	なし	該当なし	ポスター	企業	静岡県地震防災センター	静岡	日本	20231119	Jリーグとヤフー防災模試の連携による防災啓発2022年と2023年の事例比較研究	佐藤翔輔, 安田健志, 津村翔士
第53回(2023年度)地域安全学会研究発表会(秋季)	なし	該当なし	ポスター	なし	静岡県地震防災センター	静岡	日本	20231119	地域安全学夏の学校2023-基礎から学ぶ防災・減災-地域安全学領域における若手人材育成そのの	郷右近英臣, 松川杏寧, 落合亨, 島山久, 杉安和也, 重屋敷哲也, 倉田和己, 河本尋子, 佐藤翔輔
第53回(2023年度)地域安全学会研究発表会(秋季)	なし	該当なし	ポスター	行政	静岡県地震防災センター	静岡	日本	20231119	屋内測位技術を用いた震災伝承施設の来館者行動解析法の開発	渡邊勇, 佐藤翔輔, 今村文彦
日本地震工学シンポジウム	なし	はい	口頭(招待)	なし	パシフィコ横浜	横浜市	日本	20231123	内陸地震による地表断層変位の複雑性とその予測	遠田晋次
第16回地震工学シンポジウム	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	パシフィコ横浜	横浜	日本	20231123	行動変容に着目した地震防災の取り組みの試行的体系整理と地震警戒・注意情報の有効活用へ向けた検討	福島洋, 中鉢奈津子, 栗山進一
第16回日本地震工学シンポジウム(16JEES)	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	パシフィコ横浜	横浜	日本	20231123	日本国内に甚大な被害をもたらした1923年以降の大震災に関する研究の変遷	加藤春奈, 村尾修
第16回日本地震工学シンポジウム(16JEES)	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	パシフィコ横浜	横浜	日本	20231123	東京都墨田区における建物倒壊危険性を考慮した空き家の減少実態調査	米村文武, 村尾修
第16回日本地震工学シンポジウム(16JEES)	あり	該当なし	ポスター	なし	パシフィコ横浜	横浜	日本	20231123	神奈川県における都市化と災害リスク: 関東大震災から100年間の変遷	稲垣景子, 村尾修
第39回日本脳神経血管内治療学会2023	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	国立京都国際会館	京都	日本	20231123	最新型血管撮影装置を用いた脳血管内治療における線量評価 ~旧装置, DRLs2020との比較~	峰谷幸大, 千田浩一, 松田善和, 近藤礼, 細井義夫
第43回医療情報学連合大会(第25回日本医療情報学会学術大会)	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	神戸ファッションマート	神戸	日本	20231124	境界型防御からゼロトラストへ-医療機関側の視点-	藤井進, 野中中小百合, 山下貴範, 中村直毅
第68回土木計画学研究発表会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	東京都立大学	八王子	日本	20231125	日内需要変動が大都市圏外部の路線バスサービス最適化に与える影響	須ヶ間淳, 奥村誠
第68回土木計画学研究発表会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	東京都立大学	八王子	日本	20231125	公共交通ネットワーク最適化モデルの効率的な近似解法に関する検討	靱實大, 塚井誠人, 須ヶ間淳, 奥村誠
第69回土木計画学研究発表会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	東京都立大学	八王子	日本	20231125	複数災害を統合的に考慮した海岸堤防のリスク分析	志方花菜, 平野勝也, 河野達仁
第68回土木計画学研究発表会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	東京都立大学	八王子	日本	20231126	コロナ蔓延後の都道府県間業務交通量の変動と最適業務配置との関係	奥村誠, 赤塚昌哉
第68回土木計画学研究発表会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	東京都立大学	八王子	日本	20231126	災害時人員対応における市区町村間の相互支援の在り方	佐藤千仁, 奥村誠
第68回土木計画学研究発表会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	東京都立大学	八王子	日本	20231126	非負値行列因子分解を用いた観光地来訪人口の時空間分布特性の分析	沼田祥太郎, 奥村誠

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
第68回土木計画学研究発表会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	東京都立大学	八王子	日本	20231126	都市間最適小口輸送モデルを用いた効率的な運達・通常運賃のありかたの分析	古屋拓人,奥村誠
プラズマ・核融合学会第40回年会	なし	はい	公募	いいえ	アイーナ・いわて県民情報交流センター	岩手	日本	20231128	低濃度トリチウム持続処理による細胞影響の発現と細胞内取り込み・局在の関連性	鈴木正敏, 磯部理央, 木野康志, 千田浩一, 福本学
第23回日本認知療法・認知行動療法学会	なし	該当なし	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	なし	広島県医師会館	広島	日本	20231202	大学病院における心理職とCBTp	濱家由美子
日本災害復興学会学会大会2023	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	常葉大学 静岡草薙キャンパス	静岡	日本	20231203	防災士の放射線災害に対する減災行動意図-アンケートの自由記述分析から-	保田真理, 邑本俊亮, 佐藤美佳, 齋藤玲, 大葉陸
第37回日本エイズ学会学術集会・総会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	リーガロイヤルホテル京都	京都	日本	20231203	抗 SARS-CoV-2 メインプロテアーゼ阻害剤の創薬研究開発	鎌田伸好, 辻耕平, 林宏典, 石井貴大, 小早川拓也, 中野聖太, 服部真一朗, 岸本直樹, 高宗暢晴, 青木宏美, Haydar Bulut, Debananda Das, 今井正樹, 木曾真紀, 助永義和, 高松悠樹, 岡村匡史, 三隅将吾, 河岡義裕, 玉村啓和, 満屋裕明
第6回環境DNA学会	なし	該当なし	ポスター	なし	九州大学	福岡	日本	20231204-05	Environmental Impact Assessment by Aquatic Insect Environmental DNA in Heavy Metal Runoff Streams	Noriko Uchida, Yuichi Iwasaki, Ryoichi Kuranishi, Natsuko Kondoh
応用地域学会2023年度研究発表大会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	大阪大学	豊中	日本	20231209	都市間人流データの逆解析によるコロナ蔓延後の企業業務構造の分析	奥村誠, 赤塚昌哉
応用地域学会2023年度研究発表大会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	大阪大学	豊中	日本	20231209	施設配置・公共交通網・運賃の同時最適化が費用負担と便益配分に与える影響の分析	須ヶ間淳, 奥村誠
第19回景観・デザイン研究発表会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	中央大学	東京	日本	20231209	石垣嵩上げに着目した近代以前のローカルな水害対策の定量的評価	白洲暁, 平野勝也, 天谷友哉
第19回景観・デザイン研究発表会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	中央大学	東京	日本	20231209	生活と生業の変化から見た漁業集落の景観変遷	金子由愛, 平野勝也
第19回景観・デザイン研究発表会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	中央大学	東京	日本	20231210	記号論に基づく変化検出課題を用いた住宅表層における来街者の注意要素分析	岩間響平, 平野勝也
第19回景観・デザイン研究発表会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	中央大学	東京	日本	20231210	駅から駅前広場への賑わいの表出-駅の結節空間と歩行者広場の関係-	三谷勇太, 平野勝也
第19回景観・デザイン研究発表会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	中央大学	東京	日本	20231210	物理法則に基づく認知による圧迫感形成 ~重さ感による試行的検証~	西尾春人, 平野勝也
R5年度東北地域災害科学研究集会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	秋田大学	秋田市	日本	20231226	大学附属図書館における貴重図書の地震被害と実態把握	嶋田 瑠美子, 佐藤 健, 柴山明寛
東北地域災害科学研究集会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	秋田大学	秋田	日本	20231227	仙台市を対象とした機械学習による「推定即時地震動スペクトル分布推定	大野晋
R5東北地域災害科学研究集会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	秋田大学	秋田県	日本	20231227	Interdisciplinary research on disaster mitigation: An example from a research institute based in the UK	Anawat Suppasri, Fumihiko Imamura, Miwako Kitamura, Punam Yadav, Fatemeh Jalayer, Gianluca Pescaroli, David Alexander 2 and Joanna Faure Walker
東北地域災害科学研究集会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	秋田大学	秋田	日本	20231227	災害時における水素燃料電池の活用に関する一考察	柴山明寛, 鎌田健一, 今村文彦, 王義飛, 山崎大地, 原弘毅
令和5年度東北地域災害科学研究集会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	秋田大学	秋田	日本	20231227	津波避難計画における自動車利用と事前周知の可能性	奥村誠
R5年度東北地域災害科学研究集会	なし	該当なし	口頭(一般)	行政	秋田大学	秋田市	日本	20231227	仙台市「杜の都防災向上マンション」とマンションタイプの「がんばる避難施設」との連携効果	佐藤 健
R5年度東北地域災害科学研究集会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	秋田大学	秋田市	日本	20231227	広域防災拠点と道の駅の協働による災害支援の多様性	鈴木 貴太, 佐藤 健
R5年度東北地域災害科学研究集会	なし	該当なし	口頭(一般)	行政	秋田大学	秋田市	日本	20231227	杜の都防災向上マンション認定制度の現状分析	酒井 悠里, 佐藤 健, 柴山明寛
R5年度東北地域災害科学研究集会	なし	該当なし	口頭(一般)	行政	秋田大学	秋田市	日本	20231227	災害時における仙台市の医療救護計画の現状とその都市間比較	久保 公佑, 佐藤 健
R5年度東北地域災害科学研究集会	なし	該当なし	口頭(一般)	行政	秋田大学	秋田市	日本	20231227	仙台市における帰宅困難者対策の現状とその地域特性の評価	佐藤 奨真, 佐藤 健, 柴山明寛
国際復興フォーラム2024	なし	招待	講演・講義	行政	神戸国際会議場	神戸市	日本	20240125	Build Back Betterの実現に向けた日本の復興経験と教訓	小野 裕一
人間文化研究機構グローバル地域研究事業 東ユーラシア研究プロジェクト(EES)	なし	Plenary	口頭(一般)	なし	神戸大学	神戸	日本	20240121	災害時における障害者の脆弱性の研究	Sebastien Pennellen Boret, Hyejeong Park
第36回日本疫学会学術総会	なし	該当なし	ポスター	なし	びわ湖大津プリンスホテル	大津	日本	20240201	東北メディカル・メガバンク計画 地域住民コホート調査(宮城):これまでの進捗	中谷直樹, 小暮真奈, 畑中里衣子, 中谷久美, 千葉一平, 石黒真美, 大類真嗣, 野田あおい, 篠田元気, 小原 拓, 宇留野 晃, 布施昇男, 泉 陽子, 栗山進一, 寶澤 篤
第34回日本疫学会学術総会	なし	該当なし	ポスター	なし	びわ湖大津プリンスホテル	大津	日本	20240201	GPSデータを用いて推定した歩行量と経路の居住地環境による地域差	渡邊 柁央, 永田 彰平, 中谷 友樹
第34回日本疫学会学術総会	なし	該当なし	ポスター	なし	びわ湖大津プリンスホテル	大津	日本	20240201	社会経済的居住分離と健康行動の履歴の格差:ライフコース回顧調査資料の配列解析	中谷友樹, 永田彰平, 埴淵知也
第34回日本疫学会学術総会	なし	招待	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	なし	びわ湖大津プリンスホテル	大津	日本	20240202	疫学が創る災害にレジリエントな社会 災害対応における疫学的重要性	栗山進一
第34回日本疫学会学術総会	なし	該当なし	ポスター	なし	びわ湖大津プリンスホテル	大津	日本	20240202	父母と小児の眼科的検査値の関連:三世代コホート調査	石黒真美, 小原拓, 野田あおい, 篠田元気, 大類真嗣, 宇留野晃, 吉田清香, 高田菜生子, 藤岡俊亮, 西村亮幸, 中澤徹, 布施昇男, 栗山進一
第34回日本疫学会学術総会	なし	該当なし	ポスター	なし	びわ湖大津プリンスホテル	大津	日本	20240202	産後うつ・自殺問題の縦断的リスクと関連要因の検討:東北メディカル・メガバンク計画三世代コホート調査	大類真嗣, 小原拓, 石黒真美, 野田あおい, 篠田元気, 村上慶子, 岩間憲之, 千葉一平, 中谷久美, 畑中里衣子, 小暮真奈, 目時弘仁, 菊谷昌浩, 中谷直樹, 寶澤篤, 栗山進一
第34回日本疫学会学術総会	なし	該当なし	ポスター	なし	びわ湖大津プリンスホテル	大津	日本	20240202	妊婦の抗菌薬使用と児の問題行動との関連の検討:東北メディカル・メガバンク計画三世代コホート調査	阿部美有, 小原拓, 野田あおい, 森下啓, 小原竜, 高橋一平, 大瀬戸恒志, 篠田元気, 大類真嗣, 村上慶子, 石黒真美, 栗山進一
第34回日本疫学会学術総会	なし	該当なし	ポスター	なし	びわ湖大津プリンスホテル	大津	日本	20240202	日本人を対象としたつわりのゲノムワイド関連解析:三世代コホート調査	米沢祐大, 高橋一平, 大瀬戸恒志, 上野史彦, 大沼ともみ, 野田あおい, 村上慶子, 石黒真美, 小原拓, 栗山進一

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
第35回日本疫学会学術総会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	びわ湖大津プリンスホテル	大津	日本	20240202	尿中Na、K、Na/K比と胃がん罹患との関連-東北メディカル・メガバンク計画地域住民コホート調査-	小暮真奈, 畑中里衣子, 中谷久美, 千葉一平, 小原拓, 永家聖, 布施昇, 泉陽子, 栗山進一, 中谷直樹, 賢澤篤
第36回日本疫学会学術総会	なし	該当なし	ポスター	なし	びわ湖大津プリンスホテル	大津	日本	20240202	震災による自宅損壊および心的外傷後ストレス反応と修正可能な認知症の危険因子の関連	千葉一平, 小暮真奈, 中谷久美, 畑中里衣子, 小原拓, 丹野高三, 栗山進一, 中谷直樹, 賢澤篤
第36回日本疫学会学術総会	なし	該当なし	ポスター	なし	びわ湖大津プリンスホテル	大津	日本	20240202	遺伝要因、生活習慣の組み合わせと糖尿病発症の関連:東北メディカル・メガバンク地域住民コホート調査	高瀬雅仁, 中谷直樹, 小暮真奈, 畑中里衣子, 中谷久美, 千葉一平, 中村智洋, 後岡太郎, 土屋菜歩, 平田匠, 松田浩一, バイオバンクジャパンプロジェクト, 栗山進一, 木下賢吾, 田宮元, 賢澤篤
第34回日本疫学会学術総会	なし	該当なし	ポスター	なし	びわ湖大津プリンスホテル	大津	日本	20240202	非薬物的介入実施の人流抑制を介したCOVID-19流行緩和効果:47都道府県別の評価	永田彰平, 高橋 佑太, 足立 浩基, Glen D. Johnson, 中谷 友樹
第35回福島県精神医学会学術大会, 福島	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	福島県立医科大学	福島	日本	20240204	自殺者死後脳における炎症関連遺伝子の顕著な発現変動-東北精神疾患ブレインバンク集積例からの考察	旗野将貴;長岡敦子;細貝優人;穴戸理紗;日野瑞城;國井泰人;富田博秋;三浦至
第35回福島県精神医学会学術大会, 福島	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	福島県立医科大学	福島	日本	20240204	福島県立医科大学心身医療科こども心診療センターにおけるコロナ禍が不登校へ与えた影響についての後方視的検討	佐藤亜希子;千代田高明;松本貴智;川崎由希子;和田知紘;横倉俊也;伊瀬陽子;國井泰人;増子博文;板垣俊太郎
第29回日本災害医学会総会・学術集会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	京みやこめっせ	京都	日本	20240222	災害時の医療情報提供に関する意識調査	藤井進 野中 小百合 金秀明 浅見太一 江川 新一
第29回日本災害医学会	あり	いいえ	口頭(一般)	なし	みやこメッセ	京都	日本	20240223	東日本大震災後の石巻医療圏における薬剤師を巻き込んだ体制構築が災害医療を効率化した	丹野 佳郎, 菅野 武, 江川 新一, 石井 正
第29回日本災害医学会	あり	いいえ	ポスター	なし	みやこメッセ	京都	日本	20240223	令和5年7月以降の記録的大雨による秋田県での心理的影響を対象としたweb調査	門廻充侍, 奥山純子, 江川新一
第29回日本災害医学会	あり	該当なし	口頭(一般)	企業	京都市勤業館「みやこめっせ」	京都	日本	20240223	個別避難における尊厳と災害医療	村慈恵, 佐々木宏之, 坪井基弘, 江川新一
言語処理学会2024(NLP2024)	なし	いいえ	その他	なし	神戸国際会議場	神戸	日本	20240300	ことばと地理空間の情報処理(テーマセッション)	大内啓樹, 東山翔平, 久本空海, 浅原正幸, 乾 孝司, 井之上直也, 大滝, 啓介, 大西拓一郎, 大向一輝, 小本曾智信, 齋藤律子, 北本朝展, 近藤 泰弘, 齋藤玲, 進藤裕之, 高田祐一, 高田智和, 寺西裕紀, 橋本雄太, 廣田雅春, 松田裕貴, 松村結衣, 宮川創, 村脇 有吾, 持橋大地, 森信介, 若宮翔子
日本教育工学会2024年春季大会	なし	いいえ	口頭(一般)	なし	熊本大学	熊本	日本	20240300	防災・災害情報リテラシーの実態に関する大学生対象の学際的研究:知識, 情報関心, 被災経験, 学習経験を中心に	加藤みずき, 登本洋子, 後藤心平, 永田彰平, 齋藤玲
令和5年度土木学会東北支部技術研究発表会	なし	該当なし	口頭(一般)	企業	岩手大学	盛岡市	日本	20240302	構造解析における量子アニーリングの適用性に関する検討	我妻航也, 肖瑞森, 山中羅介, 野村怜佳, スクンタナソーン ナルテープ, 村松 真由, 森口周二, 寺田 賢二郎
令和5年度土木学会東北支部技術研究発表会	なし	該当なし	口頭(一般)	企業	岩手大学	盛岡市	日本	20240302	MPMを用いた飽和土流動・衝突解析のためのパラメータスタディー	吉田圭那, 飛澤野壮真, 木村凌一, 野村怜佳, 森口周二, 寺田 賢二郎
令和5年度土木学会東北支部技術研究発表会	なし	該当なし	口頭(一般)	企業	岩手大学	盛岡市	日本	20240302	防潮流を透過する浅水長波解析における慣性力の影響	石澤修司, 野村怜佳, 森口周二, 寺田 賢二郎
令和5年度土木学会東北支部技術研究発表会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	岩手大学	盛岡	日本	20240302	歩行型VRを用いた津波避難ハルーンの効果検証に関する実験	三上雄大, 佐藤翔輔, 成田峻之輔, 今村文彦
令和5年度土木学会東北支部技術研究発表会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	岩手大学	盛岡	日本	20240302	近年の水害における災害発生までに至る諸情報の発信過程に関する分析	金子哲士, 佐藤翔輔, 新家杏奈, 今村文彦
電子情報通信学会総合大会	なし	該当なし	口頭	なし	東広島	東広島	日本	20240307	[B-9-12]直流電力交換機の動作安定性の検証	唐 瑠顔, 山田 博仁, 八島 政史, 岩月 勝英, 尾辻 泰一
日本都市計画学会東北支部研究発表会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	東北大学	仙台	日本	20240310	広域立地適正化計画における政策連携と策定・運用の実態に関する研究	武藤勝一, 荒木笙子, 姥浦道生
日本都市計画学会東北支部研究発表会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	東北大学	仙台	日本	20240310	立地適正化計画の中間評価の実施実態と課題に関する研究	平田隼一朗, 荒木笙子, 姥浦道生
日本都市計画学会東北支部研究発表会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	東北大学	仙台	日本	20240310	原発被災地域の建築動向と土地利用変化に関する研究-先行して避難指示解除した楡葉町を事例として	辻司有希子, 荒木笙子, 姥浦道生
日本都市計画学会東北支部研究発表会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	東北大学	仙台	日本	20240310	東日本大震災からの復興による復興期別の住宅建築場所の傾向に関する研究-石巻市市街地を対象として-	大江優生, 今野亨, 荒木笙子, 姥浦道生
日本都市計画学会東北支部研究発表会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	東北大学	仙台	日本	20240310	住民主体の自主集団移転による住宅再建・生活回復に関する研究-令和元年東日本台風における宮城県丸森町を事例として-	半田一壱, 荒木笙子, 姥浦道生
日本都市計画学会東北支部研究発表会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	東北大学	仙台	日本	20240310	不動産取引における水害ハザードマップの説明義務化が開発・建築行為に与えた影響に関する研究-福島県会津若松市を事例として-	重枝隆大, 荒木笙子, 姥浦道生
第25回環境放射能研究会	あり	いいえ	口頭(一般)	いいえ	高エネルギー加速器研究機構	茨城	日本	20240312	放射線災害後の環境に生息する野生動物の酸化ストレス影響検出法の改良	鈴木正敏, 佐藤拓, 石川諒椰, 磯部理央, 千田浩一, 福本学
第25回環境放射能研究会	あり	いいえ	口頭(一般)	いいえ	高エネルギー加速器研究機構	茨城	日本	20240312	福島第一原発事故に被災した野生ニホンザルの血漿と肝臓における酸化ストレス状態の解析	佐藤拓, 鈴木正敏, 石川諒椰, 磯部理央, 尾田晃平, 小菅崇, 岩見聡音, 山下琢磨, 木野康志, 遠藤暁, 福本学, 千田浩一
Supercomputing Japan 2024	なし	招待	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	なし	タワーホール船越	東京	日本	20240313	Material Point Method による土砂流動シミュレーション	寺田賢二郎
2023年度 地理情報システム学会東北支部 研究交流会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	東北大学	仙台	日本	20240313	GPSデータとモバイル空間統計に基づく合成人流データの構築	永田彰平, 足立 浩基, 花岡 和聖, 武田 百合子, 中谷 友樹, 越村 俊一
第42回日本社会精神医学会 ランチョンセミナー	なし	招待	セミナー	企業	東北医科薬科大学小松島キャンパス	仙台	日本	20240314	最新の神経科学からグアンファンシのリアルポテンシャルを再評価する	國井泰人
東日本大震災・原子力災害第2回学術研究集会	なし	いいえ	口頭(一般)	なし	コラッセ福島	福島	日本	20240319	日本におけるPFA(心理的初期対応)に関する研究の動向と展望	齋藤玲, 越中康治, 邑本俊亮
東日本大震災・原子力災害 第2回学術研究集会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	コラッセ福島	福島市	日本	20240319	原子力災害時に体表面汚染検査(指定箇所)を行う装置の基礎性能評価	中村美緒, 田辺真子, 佐藤拓, 高平映希, 下橋航大, 阿部喜弘, 越智隆浩, 稲葉洋平, 千田浩一
2024年日本地理学会春季学術大会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	青山学院大学(青山)	東京	日本	20240319	中国における穀物生産・消費の地域性と高度経済成長期を通じた変化	原 裕太

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
2024年日本地理学会春季学術大会	なし	該当なし	ポスター	なし	青山学院大学(青山)	東京	日本	20240319 20240320	五島列島福江島における潜伏キリシタン集落の立地と視認性—仏教集落の比較を通して	高場智博, 原 裕太, 甲斐智大
2024年日本地理学会春季学術大会	なし	該当なし	ポスター	なし	青山学院大学(青山)	東京	日本	20240319 20240320	五島キリシタン-仏教集落の社会的統合に保育所が果たした役割と残存する不平等	甲斐智大, 原 裕太, 高場智博
東日本大震災・原子力災害 第2回学術研究集会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	コラッセ福島	福島市	日本	20240320	新たな全身用体表面汚染検査装置の基礎性能検討	田辺真子, 中村美緒, 佐藤拓, 下橋航太, 高平咲希, 越智隆浩, 阿部喜弘, 稲葉洋平, 細井義夫, 千田浩一
東日本大震災・原子力災害 第2回学術研究集会	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	コラッセ福島	福島市	日本	20240320	プラスチックシンチレーションサーベイメータの検出能に関する検討	山本啓介, 千田浩一
第94回 日本衛生学会学術総会	なし	該当なし	ポスター	なし	かごしま県民交流センター	鹿児島	日本		妊婦の睡眠障害と児のアレルギー疾患発症との関連: 三世代コホート調査	植松亜美, 大類真嗣, 石黒真美, 野田あおい, 篠田元久, 小原拓, 栗山進一

学会・学術発表(研究者対象)・国際(除く学生のみ)

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
EGU General Assembly 2023	あり	該当なし	口頭(一般)	企業		Vienna	Austria	20230426	Digital twin computing for enhancing resilience of disaster response system	Shunichi Koshimura, Erick Mas
22nd IACM Computational Fluids Conference	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	Palais de Festival de Cannes	Cannes	France	20230426	On the flow conditions requiring detailed geometric modeling for multiscale evaluation of coastal forest	R. Nomura, S. Takase, S. Moriguchi, K. Terada
22nd IACM Computational Fluids Conference	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	Palais des Festivals et des Congrès	Cannes	France	20230427	Hybrid Approach in Surface Flow Modelling for Regional-Scale Flood Inundation Mapping	Nilo Lemuel J. Dolojan, Shuji Moriguchi, Masakazu Hashimoto, Nguyen Xuan Tinh, Hitoshi Tanaka, Kenjiro Terada
22nd Computational Fluids Conference	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	PALAIS DES FESTIVALS ET DES CONGRÈS	CANNES	France	20230428	A 2D-3D coupling strategy for MPM-FEM hybrid analysis of landslide-induced tsunamis	Shaoyuan Pan, Reika Nomura, Shinsuke Takase, Shuji Moriguchi and Kenjiro Terada
World Association for Disaster and Emergency Medicine (WADEM) 2023 Killarney	なし	はい	指名	なし	Killarney Convention center	キラニー	アイルランド	20230510	Disaster Medicine and Public Health	Shinichi Egawa
EXAT 2023	あり	該当なし	口頭(一般)	企業	国際会議場	松江	日本	20230518	Coherently-Linked Optical and Wireless Transmission with Microstrip Array Antenna at 28 GHz	K. Kasai, K. Shirahata, T. Sato, M. Yoshida, T. Hirooka, M. Nakazawa, T. Kobayashi, and U. Azuma,
EXAT 2023	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	国際会議場	松江	日本	20230518	GAWBS Noise in Few-mode Fiber	M. Yoshida, T. Hirai, K. Kasai, T. Hirooka, and M. Nakazawa,
The eDNA society International Meeting 2023	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	ピアザ淡海	滋賀	日本	20230518	What is happening during rainfall?	Noriko Uchida
JPGU Meeting 2023	なし	いいえ	口頭(一般)	企業	幕張メッセ	幕張	日本	20230522	古絵図・古地図を用いて復元した歴史地形の防災への活用	蝦名裕一, 菅原大助
i-rec conference	なし	招待	口頭(基調・招待・Plenary-Keynote)	なし	IRiDeS	仙台	日本	20230601	Inclusive Disaster Management Planning: Addressing the Needs of LGBTQ+ Communities in Japan	Miwako Kitamura, Anna Matsukawa, Anawat Suppasri, Punam Yadav
IREC International Conference Tensions Between Tradition and Innovation in Disaster Risk Reduction, Climate Action, and Reconstruction: Reflecting on Tohoku's Recovery Twelve Years Later	あり	招待	口頭(招待)	なし	IRiDeS, Tohoku University	Sendai	日本	20230603	Panel Discussion: Disaster and Memory.	Osamu Tsukahashi, Masashige Motoe, Julia Gerster
i-Rec 2023: Tensions Between Tradition and Innovation in Disaster Risk Reduction, Climate Action, and Reconstruction: Reflecting on Tohoku's Recovery Twelve Years Later	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	IRiDeS	仙台	日本	20230604	Tensions Between Tradition and Innovation in Disaster Risk Reduction, Climate Action, and Reconstruction: Reflecting on Tohoku's Recovery Twelve Years Later	Elizabeth Maly
DTXV International Conference on Arid Land	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	Movenpick Hotel	死海	ヨルダン	20230605	Comparative analysis of attitudes within dry-climate countries towards disaster risk reduction and relationships with efforts to combat desertification	HARA Yuta
COMPADYN 2023	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	ロイヤルオリピックホテル	アテネ	ギリシャ	20230614	INELASTIC TORSIONAL BUCKLING OF A SYMMETRIC THREE-DIMENSIONAL MOMENT-RESISTING FRAME SUBJECTED TO HORIZONTAL FORCE IN THE DIAGONAL DIRECTION	Iori Fukuda, Kohju Ikago, Takahito Maeda, Atsushi Nishimoto, Yoshikazu Araki
2023 The Society for Epidemiologic Research (SER) Conference	なし	該当なし	口頭(招待)	なし	Marriott Portland Downtown Waterfront	ポートランド	米国	20230615	Impact of Natural disaster on Child and Maternal Health: Insight from The Tohoku Medical Megabank Project.	栗山進一
3rd Manage Retreat Conference, At What Point Managed Retreat?: Habitability and Mobility in an Era of Climate Change	あり	該当なし	口頭(一般)	行政	Columbia University	New York	US	20230621	Weighing risk to coastal living: Climate change threats, COVID-19 outbreak, and the housing crisis in Northeastern US	Kanako Iuchi, Donovan Finn, John Mutter
Association for Asian Studies in Asia Conference (AAS)	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	Kyungpook National University (KNU)	Daegu	Korea	20230625	Japan's Disaster Memorial Museums and framing 3.11	Gerster, Julia and Maly, Liz
ISA World Congress of Sociology	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	Melbourne Convention and Exhibition Centre	Melbourne	Australia	20230701	Storytelling and the arts as tools in disaster education: "Kataritsugi" and the stories of 3.11	Gerster, Julia; Shibayama, Akihiro and Ono, Madoka
ESRI User Conference 2023	あり	該当なし	口頭(一般)	企業		San Diego	USA	20230711	Disaster Digital Twin - A Mixed Initiative of Human and Machine for Resilience	Shunichi Koshimura
48th Annual Natural Hazards Workshop	あり	該当なし	口頭(一般)	行政	Omni Interlocken Resort	Broomfield	US	20230713	Governing post-disaster relocation sites as "camps"	Christine Gibb, Kaira Zoe Alburo Cañete & Kanako Iuchi

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
The 28th IUGG General Assembly		該当なし	口頭(一般)	なし	CityCube Berlin	Berlin	Germany	20230714	3.11 Densho Road Promotion Organization to transfer experiences and lessons	F.Imamura
XXVIII General Assembly of the International Union of Geodesy and Geophysics (IUGG)	あり	該当なし	口頭(一般)	企業		Berlin	Germany	20230714	Tsunami Digital Twin – A new paradigm for tsunami disaster resilience	Koshimura S., Mas E., Adriano B., Musa A.
The 28th IUGG General Assembly	あり	該当なし	口頭(一般)	行政	CityCube Berlin	Berlin	Germany	20230714	Effective visitor learning from disaster tourism in the 2011 Tohoku Earthquake and Tsunami	Yu Watanabe, Shosuke Sato, Fumihiko Imamura
The 28th IUGG General Assembly	あり	該当なし	口頭(一般)	企業	CityCube Berlin	Berlin	Germany	20230714	Proposal of Balloon-Type Signs for Tsunami Evacuation Buildings	Shunosuke Narita, Shosuke Sato, Fumihiko Imamura
XXVIII General Assembly of the International Union of Geodesy and Geophysics (IUGG)	あり	該当なし	口頭(一般)	企業		Berlin	Germany	20230715	Tsunami evacuation of connected and autonomous vehicles using flocking control algorithm	Hachiya D., Wako K., Mas E., Koshimura S.
XXVIII General Assembly of the International Union of Geodesy and Geophysics (IUGG)	あり	該当なし	口頭(一般)	企業		Berlin	Germany	20230715	Advances of the lattice Boltzmann methods (LBM) in tsunami modeling -present and future	Sato K., Koshimura S.
INQUA XXI Congress	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	Sapienza University	Roma	Italy	20230715	The changing connectivity between tributaries and mainstem rivers under climatic changes during glacial-interglacial cycles	Takayuki Takahashi, Toshihiko Sugai
The 28th IUGG General Assembly	なし	該当なし	ポスター	なし	Potsdam: GFZ German Research Centre for Geosciences.	ベルリン	ドイツ	20230715	Proposal of disaster risk reduction learning program through interviews with disaster survivors at junior high school in the affected area	Anna Shinka, Shosuke Sato, Fumihiko Imamura
INQUA XXI Congress	なし	該当なし	ポスター	なし	Sapienza University	Roma	Italy	20230720	A 30,000 yr high-precision eruption history in the north Izu Islands, off Tokyo, Japan	Takehiko Suzuki, Kaori Aoki, Makoto Kobayashi, Fumikatsu Nishizawa, Takayuki Takahashi
APRU Summer School	なし	招待	口頭(招待)	なし	IRiDeS, Tohoku University	Sendai	Japan	20230724	Whose lessons do we learn?	Gerster, Julia
ISAXX ISA World Congress of Sociology	なし	Plenary	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	なし	Melbourne Convention and Exhibition Centre	メルボルン	オーストラリア	20230725	565 Overcoming Siloization Practices to Achieve All-of-Society-Based Inclusive Disaster Risk Reduction: Case Studies, Surveys and Theories DRR and the LGBTQ+ community	Miwako Kitamura
17th U. S. National Congress on Computational Mechanics	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	Albuquerque Convention Center	Albuquerque	USA	20230725	A Transition Scheme From Diffusive to Discrete Crack Topologies Realized by Crack Phase-Field Enhanced Finite Cover Method	Jike Han, Yuichi Shintaku, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada
17th U. S. National Congress on Computational Mechanics	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	Albuquerque Convention Center	Albuquerque, New Mexico	USA	20230726	RBF-Based Surrogate Model of a Homogenized Constitutive Law for Elastoplastic Material	Yosuke Yamanaka, Seishiro Matsubara, Norio Hirayama, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada
Asia Oceania Geosciences Society (AOGS)	あり	該当なし	口頭(一般)	企業		Singapore	Singapore	20230731	Digital Twin and Coastal Problems	Nobuhito MORI,Shunichi KOSHIMURA,Naotaka YAMAMOTO CHIKASADA,Keiko UDO,Junichi NINOMIYA,Yoshihiro OKUMURA
Asia Oceania Geosciences Society (AOGS)	あり	該当なし	口頭(一般)	企業		Singapore	Singapore	20230731	Coastal Digital Twin – A New Attempt to Gain Collective Intelligence in Coastal Science and Engineering	Shunichi KOSHIMURA,Nobuhito MORI,Naotaka YAMAMOTO CHIKASADA,Keiko UDO,Junichi NINOMIYA,Yoshihiro OKUMURA,Erick MAS
20th Annual Meeting of Asia Oceania Geosciences Society	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	SUNTEC Singap	Singapore	Singapore	20230731	Quantitative Grasping Methodology of Urban Commuting Distance, Based on Resident Location Big Data	Makoto Okumura
SARMAC 2023	なし	いいえ	口頭(一般)	なし	名古屋ガーデンパレスホテル	名古屋	日本	20230800	Investigating Differences in Programming Code Reading between Proficient and Novice Readers: An Exploratory Case Study Using Eye-Movement Stimulus Interviews	Sato, M, Saito, R, Muramoto, T
SARMAC 2023	なし	いいえ	口頭(一般)	なし	名古屋ガーデンパレスホテル	名古屋	日本	20230800	Effects of second language vocabulary learning strategy instruction on subsequent strategy use: A case study of Japanese junior high school students	Terashima, K, Saito, R, Suzuki, W, Eichu, K
AOGS2023	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	SUNTEC Singapore	シンガポール	シンガポール	20230803	Cascading Impacts of Tsunamis and Coastal Vulnerability in the Indian Ocean	Anawat SUPPASRI, Ryuto MIZUSHIMA, Constance Ting CHUA, Elisa LAHCENE, Miwako KITAMURA, Pescaroli GIANLUCA, David ALEXANDER, Fumihiko IMAMURA
AOGS2023	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	SUNTEC Singapore	シンガポール	シンガポール	20230803	Tsunami Impacts on the Global Port Network: a Case-study on the Manila Trench in Light of Rising Sea Levels	Constance Ting CHUA, Takuro OTAKE, Masashi WATANABE, Anawat SUPPASRI, Fumihiko IMAMURA, Adam SWITZER
AOGS2023	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	SUNTEC Singapore	シンガポール	シンガポール	20230803	The Development of Deep Learning-based Tsunami Forecasting for Early Warning System in Java Island, Indonesia	Muhammad Rizki PURNAMA, Anawat SUPPASRI, Kwanchai PAKOKSUNG, Fumihiko IMAMURA
AOGS2023	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	SUNTEC Singapore	シンガポール	シンガポール	20230803	Strong Ground Motion Simulation and Fragility Function for Local and Public Buildings Damages from Mw 6.1, 2014 Northern Thailand Earthquake	Teraphan ORNTHAMMARATH, Constance Ting CHUA, Anawat SUPPASRI, Piyawat FOYTONG
20th Annual Meeting AOGS2023	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	SUNTEC Singapore	Singapore	Singapore	20230804	Application of transfer learning techniques to heterogenous data sets for effectively performing tsunami scenario detection	Reika Nomura, Saneiki Fujita, Yu Otake, Shuji Moriguchi, Shunichi Koshimura, Randall J. LeVeque, Kenjiro Terada
AOGS2023 20th Annual Meeting	あり	該当なし	口頭(一般)	企業	SUNTEC Singapore	Singapore	Singapore	20230804	Optimization of Offshore Tsunami Gauge Configuration with Robust Principal Component Analysis	Saneiki Fujita, Reika Nomura, Yu Otake, Shunichi Koshimura, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada
NTHMP Tsunami Sediment Transport Benchmarking Workshop	なし	招待	口頭(招待)	小中高	Double Tree by Hilton	Portland	Oregon	20230804	An overview of field observation, experiment and modeling of tsunami sediment transport in Japan	Daisuke Sugawara
European Association for Japanese Studies (EAJS)	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	Ghent University	Ghent	Belgium	20230819	Japan's Disaster Memorial Museums and framing 3.11	Gerster, Julia and Maly, Liz



名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
35th URSI	あり	Plenary	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	なし	国際会議場	札幌	日本	20230821	Photonics for next generation radio access network (RAN)	M. Nakazawa
XXX Conic Lima 2023 (Congreso Nacional de Estudiantes de Ingeniería Civil)	なし	基調	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	企業		Lima, Peru	Peru	20230822	Lessons from the 2011 Tohoku earthquake tsunami disaster	Shunichi Koshimura
Workshop on Advances in Wireless Communications (WAWC 2023)	なし	招待	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	なし	中国電子科技大学	Chengdu	中国	20230828	Scalability, Flexibility, and Resiliency-enhanced Ultra-dense RAN towards Beyond 5G/6G Mobile Communications Systems	安達 文幸
XVII International Conference on Computational Plasticity - Fundamentals and Applications - COMPLAS 2023	なし	基調	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	なし	Universitat Politècnica de Catalunya (UPC)	Barcelona	Spain	20230906	Enhanced material point method for disaster simulation	K. Terada, R. Nomura, S. Moriguchi
持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2023「壊滅的災害に対してレジリエントで持続可能な社会への変革」	なし	招待	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	企業		東京都	日本	20230907	津波により引き起こされる壊滅的災害とその減災に向けて	越村俊一
XVII International Conference on Computational Plasticity - Fundamentals and Applications - COMPLAS 2023	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	Universitat Politècnica de Catalunya (UPC)	Barcelona	Spain	20230907	On the transition from diffusive to discrete crack topologies in crack phase-field model	Jike Han, Yuichi Shintaku, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada
XVII International Conference on Computational Plasticity - Fundamentals and Applications - COMPLAS 2023	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	Universitat Politècnica de Catalunya (UPC)	Barcelona	Spain	20230907	Two-scale Analysis of Elastoplastic Material by Means of RBF-Based Surrogate Model	Yosuke Yamanaka, Seishiro Matsubara, Norio Hirayama, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada
XVII International Conference on Computational Plasticity - Fundamentals and Applications - COMPLAS 2023	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	Universitat Politècnica de Catalunya (UPC)	Barcelona	Spain	20230907	COMPUTATIONAL HOMOGENIZATION WITH IMPROVED MINIMAL KINEMATIC CONDITION FOR NONPERIODIC MICROSTRUCTURES	Akari Nakamura, Yosuke Yamanaka, Yuichi Shintaku, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada
the 21st Meeting of the European Society for Cognitive Psychology	あり	該当なし	ポスター	なし	ポルト大学	ポルト	ポルトガル	20230907	Independent effects of top-down and bottom-up attention in a dual-task test of working memory with scenes	Azumi Tanabe-Ishibashi, Ryo Ishibashi & Yasuhiro Hatori
International Conference on Materials Science, Engineering & Technology	あり	招待	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	なし	Furama RiverFront	シンガポール	シンガポール	20230908	Conductive-polymer based fiber-electrode for bioactivity analysis	Keiichi Torimitsu, Ken.Miura
HERI-TECH 2023文化財防災安全シンポジウム	なし	招待	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	なし	慶州花白コンベンションセンター	慶州市	韓国	20230914	日本における災害文化と重要伝統的建造物群に見られる被害抑止策	村尾修
The 12th Conference of the Pacific Rim Community Design Network, Japan, 2023	なし	該当なし	ポスター	なし	IRIDeS	仙台	日本	20230916	Understanding LGBTQ+ Shelter Challenges in Japan: Insights from Interviews and Surveys	Miwako Kitamura, Anna Matsukawa, Anawat Suppasri, Punam Yadav
12th Conference of the Pacific Rim Community Design Network: "Looking Back and Looking Forward: Community and Justice in Crisis"	あり	該当なし	ポスター	なし	IRIDeS	仙台	日本	20230918	International comparison of roles and participation of volunteers after disasters: Cases from Italy, United States, Taiwan, and New Zealand.	Yoko Saito, Fuhsing Lee, Ryoga Ishihara, Elizabeth Maly
International Symposium on Natural and Artificial Radiation Exposures and Radiological Protection Studies	あり	いいえ	口頭(一般)	いいえ	弘前大学	青森	日本	20230922	Analysis of cellular effects of sustained exposure to low concentrations of tritium	Rio Isobe, Masatoshi Suzuki, Yasushi Kino, Ryoya Ishikawa, Manabu Fukumoto, Koichi Chida
International Symposium on Natural and Artificial Radiation Exposures and Radiological Protection Studies	あり	いいえ	ポスター	いいえ	弘前大学	青森	日本	20230922	Establishment of acquired radiation resistant cells to fractionated radiation and tritiated thymidine from hTERT-immortalized normal human epithelial cell	Masatoshi Suzuki, Rio Isobe, Taku Sato, Ryoya Ishikawa, Keiji Suzuki, Yasushi Kino, Tomisato Miura, Koichi Chida, Manabu Fukumoto
International Symposium on Natural and Artificial Radiation Exposures and Radiological Protection Studies	あり	いいえ	ポスター	いいえ	弘前大学	青森	日本	20230922	Transgenerational effects associated with chronic and low dose radiation exposure in bulls after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident	Hideaki Yamashiro, Akifumi Nakata, Masatoshi Suzuki, Tomisato Miura, Manabu Fukumoto
IEEE Conference on Power Electronics and Renewable Energy	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	Grand Central Hotel, Shanghai	Shanghai	China	20220922	Experimental verification and simulation analysis of a battery directly connected DC microgrid system	Liu Ke, Yamada Hirohito, Iwatsuki Katsumi, Otsuji Taichi
2nd IACM Mechanistic Machine Learning and Digital Engineering for Computational Science Engineering and Technology	あり	該当なし	口頭(一般)		The University of Texas at El Paso	EL PASO	The United States	20230927	Quantification of the Contribution of Input Parameters on DEM-based Granular Flow Simulations	Junseon Xiao, Kenta Tozato, Reika Nomura, Shuji Moriguchi, Yu Otake, Kenjiro Terada
2nd IACM Mechanistic Machine Learning and Digital Engineering for Computational Science Engineering and Technology	あり	該当なし	口頭(一般)		The University of Texas at El Paso	EL Paso	United States	20230927	Optimization of offshore tsunami gauge configuration using robust principal component analysis	Saneiki Fujita, Reika Nomura, Yu Otake, Shunichi Koshimura, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada
AIWEST-DR 2023	なし	いいえ	口頭(一般)	なし	ガジャマダ大学	ジョグジャカルタ	インドネシア	20231000	Cocreation Phase-Free BOSAI Class in Triangle Model and its Digitalization: A Case Study in Elementary School in Japan	Saito, R. et al.
AIWEST-DR 2023	なし	いいえ	公募	なし	ガジャマダ大学	ジョグジャカルタ	インドネシア	20231000	Future Directions of School BOSAI Cocreation Class in Japan for Building a Resilient and Sustainable Society. In Leaving No One Behind: Disasters, Vulnerability, and Social Inclusion in Japan, Indonesia, and their partners.	Saito, R
ECOC 2023	あり	該当なし	口頭(一般)	企業	国際会議場	Glasgow	U.K.	20231004	16 Gbit/s, 256 QAM optical and wireless fully coherent transmission at 28 GHz using small microstrip antenna	K. Shirahata, K. Kasai, T. Hirooka, M. Yoshida, M. Nakazawa, U. Azuma, and T. Kobayashi,
VIII International Conference on Particle-Based Methods	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	Palazzo delle Stelline Conference Center	Milan	Italy	20231010	Semi-Implicit MPM for Seepage Failure Analysis	Soma Hidano, Yuya Yamaguchi, Shinsuke Takase, Shuji Moriguchi, Kenji Kaneko, Kenjiro Terada

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
Computational Modeling of Complex Materials across the Scales ECCOMAS CMCS 2023 Conference	なし	招待	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	なし	Eindhoven University of Technology	Eindhoven	The Netherlands	20231011	FER method with RBF-based surrogate model for computational homogenization of elastoplastic composites -Towards practical multiscale analyses-	Kenjiro Terada, Yosuke Yamanaka, Akari Nakamura
15th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery (AIWEST-DR) 2023	あり	いいえ	口頭(一般)	なし	ガジャマダ大学	ジョグジャカルタ	インドネシア	20231011	Revisiting the concept of social vulnerability from the view point from evacuation behavior: Case study of Bali in Indonesia	Jibiki, Y., Pelupessy, D. C., Surtiari, G. A. K., Sasaki, D., Arikawa, T.
ICOM-ICMS東京大会2023	なし	いいえ	口頭(一般)	行政	東京国立博物館	東京	日本	20231012	Research on the development of a cultural heritage disaster prevention system by means of the creation and utilization of online maps	Yuichi Ebina, Kazuya Metoki
AIWEST-DR 2023	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	Universitas Gadjah Mada	ジョグジャカルタ	インドネシア	20231012	Sustainability Issues of Digital Archives of the Great East Japan Earthquake	Akihiro Shibayama, Julia Gerster
15th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	Universitas Gadjah Mada	Yogyakarta	Indonesia	20231012	Unveiling the rebuilding progress in the fifth year following the 2018 Central Sulawesi earthquake and tsunami	Iuchi, K., Jibiki, Y., Hanifa, R., N., Gayathri, R., T., Dicky Pelupessy, Kusunoki, A., Takagi, H., Kondo, T. & Olshansky, R.
AIWEST-DR 2023	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	Gadjah Mada University	ジョグジャカルタ	インドネシア	20231012	Disaster and Disability+ Disaster Preparedness with and for People with Disability	Sebastien Boret, Hyejeong Park,
AIWEST-DR 2023	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	Gadjah Mada University	ジョグジャカルタ	インドネシア	20231012	What Makes A Community Stronger in the Face of Disasters and Its Risks: A Case Study of a Small Community during the 2018 Heavy Rain and Floods in Western Japan	Hyejeong Park
15th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery (AIWEST-DR 2023)	なし	招待	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	なし	University Club UGM	ジョグジャカルタ	インドネシア	20231012	Overview of the International Research Institute of Disaster Science (IRiDeS)	栗山進一
15th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery	あり	該当なし	口頭(一般)	いいえ	Gadjah Mada University	Yogyakarta	インドネシア	20231012	Memory, Meaning, and Monuments: An Ethnographic Study of Tsunami Memorialization in Aceh	Alfi Rahman, Muzayin Nazaruddin, Sébastien Pennellen Boret, Yuva Ayuning Anjar, Rizanna Rosemary, Rosaria Indah, Syahrul Ridha, Siti Ghaisani Masturah
15th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery	あり	該当なし	口頭(一般)	いいえ	Gadjah Mada University	Yogyakarta	インドネシア	20231012	The Temporality and Symbolic of Memory-Scape in Post-disaster Communities: A Study of the Monuments for the Victims of the Great East Japan Earthquake	Sebastien Pennellen Boret
15th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery	あり	該当なし	口頭(一般)	いいえ	Gadjah Mada University	Yogyakarta	インドネシア	20231012	Disaster Preparedness with and for people with disabilities	Sebastien Pennellen Boret, Hyejeong Park
15th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery (AIWEST-DR) 2023	あり	いいえ	口頭(一般)	なし	ガジャマダ大学	ジョグジャカルタ	インドネシア	20231012	Measurement of Indicators of the Sendai Framework for Disaster Risk Reduction 2015-2030 at Local Level: A Case Study of Sendai City	Daisuke Sasaki, Yuta Hara, Yuichi Ono
15th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery (AIWEST-DR) 2023	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	ガジャマダ大学	ジョグジャカルタ	インドネシア	20231012	How does the central government behave in the international arena of disaster risk reduction? Focusing on the frequency of statement publication at the UN Global Platform for Disaster Risk Reduction	HARA Yuta, SASAKI Daisuke, ONO Yuichi
AIWEST-DR2023	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	Universitas Gadjah Mada	ジョグジャカルタ	インドネシア	20231013	Coral Reef Response in the Maldives during The 2004 Indian Ocean Tsunami	Elisa Lahcene, Anawat SUPPASRI, Kwanchai PAKOKSUNG, Fumihiko IMAMURA
AIWEST-DR2023	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	Universitas Gadjah Mada	ジョグジャカルタ	インドネシア	20231013	Tsunami Numerical Modeling and Its Applications	Muhammad Rizki PURNAMA, Anawat SUPPASRI, Kwanchai PAKOKSUNG, Fumihiko IMAMURA
AIWEST-DR2023	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	Universitas Gadjah Mada	ジョグジャカルタ	インドネシア	20231013	Tsunami Resonance Characterization in Bay Due to An Earthquake-Triggered Landslide: A Case Study in Ambon Bay, Indonesia	Kwanchai PAKOKSUNG, Anawat SUPPASRI, Fumihiko IMAMURA
AIWEST-DR2023	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	Universitas Gadjah Mada	ジョグジャカルタ	インドネシア	20231013	Developing Continuous Topo-bathymetric Elevation Models of Tsunami-prone Areas in Indonesia: A Focus Study on Bali Province	Constance Ting Chua, Muhammad Rizki Purnama, Melanie Marjorie Yolande Masson, Anawat Suppasri and Fumihiko Imamura
AIWEST-DR2023	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	Universitas Gadjah Mada	ジョグジャカルタ	インドネシア	20231013	Estimating Impacts of Tsunami on Buildings around Ambon Bay of Indonesia	Teuku Andri Renaldi, Syamsidik, Anawat Suppasri, Eldina Fatimah, Kwanchai Pakoksung, Ferad Puturuhu
AIWEST-DR2023	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	ガジャマダ大学	ジョグジャカルタ	インドネシア	20231013	Women empowerment DRR	Miwako Kitamura
7th National Annual Forum on Urban Safety and Disaster Prevention Planning	なし	招待	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	なし	Zhejiang Agriculture and Forestry University/online	Hangzhou/online	China/online	20231014	Looking back on the 100 years since the 1923 Great Kanto Earthquake from the Perspective of Urban Disaster Reduction in Tokyo Metropolitan Area	Osamu Muraio
The 2nd ASEAN Academic Conference for Disaster Health Management	なし	はい	その他	なし	Melia Purosani Yogyakarta Hotel	ジョグジャカルタ	インドネシア	20231018	Steering Committee of ASEAN Academic Network for Disaster Health Management.	Shinichi Egawa
2023 IEEE The 23rd International Conference on Communication Technology (IEEE ICCT 2023)	あり	基調	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	なし	Taifu Hotel	WuXi	中国	20231020	Restructuring The Radio Access Network for B5G/6G Communications	安達 文幸
63rd Annual Association of Collegiate School of Planning (ACSP) conference	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	Palmer House Hilton	Chicago	US	20231021	A tale of enforcing hazard-informed land use: The case of rebuilding from the 2018 Central Sulawesi earthquake and tsunami	Iuchi, K., Hanifa, R., N., and Gayathri, R., T.
Statistical modeling, machine Learning, and artificial intelligence insights for natural hazard and risk studies	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	University of Clermont Auvergne	クレルモン・フェラン	フランス	20231024	Statistical modeling and machine learning studies on the forecast of earthquakes and fault slip	Yo Fukushima

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
APRU Multi-hazards symposium	無	いいえ	口頭(一般)	いいえ	Nanyang Technological University	Singapore	Singapore	20231028	APRU Multi-hazards program	Takako IZUMI
The 54th Asia Pacific Academic Consortium of Public Health (APACPH)	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	Borneo Convention Center Kuching (BCCCK)	Kuching, Sarawak	Malaysia	20231101	Small Gestational age in grandmaternal smoking during pregnancy: Tohoku Medical Megabank Birth Three Cohort Study	Mustakim, Mami Ishikuro, Genki Shinoda, Aoi Noda, Masutsugu Orui, Taku Obara, Shinichi Kuriyama
The Northern European Conference on Emergency and Disaster Studies (NEEDS 2022)	有	いいえ	口頭(一般)	いいえ	University of Twente	Twente	Netherlands	20231102	All-hazards approach	Takako IZUMI
North European Emergency and Disaster Studies Conference	あり	該当なし	口頭(一般)	いいえ	Twente University	Enschede	The Netherlands	20231102	Disaster Preparedness with and for people with disabilities: A Preliminary Study among Communities with Physical and Cognitive Special Needs in Aceh, Indonesi	Sebastien Penmellen Boret
Gender Workshop of the VSJF Conference	あり	該当なし	公募	なし	Japanisches Deutsches Zentrum Berlin	Berlin	Germany	20231103	Whose lessons do we learn? On the absence of women's voices in public 3.11 disaster memory.	Gerster, Julia; Sakaguchi, Nao; Lee, Sunhee; Ogawa, Mariko; Delaney, Alyne
International Society of Pharmacovigilance (ISoP) 22nd Annual Meeting	なし	該当なし	ポスター	なし	Sanur Prime Plaza Hotel	バリ	インドネシア	11/07-2023	Association between maternal antibiotics use during pregnancy and children's behavioral problems from the TMM BirThree Cohort Study	Miyu Abe, Taku Obara, Aoi Noda, Fumihiko Ueno, Keiko Morishita, Ryo Obara, Genki Shinoda, Masatsugu Orui, Keiko Murakami, Mami Ishikuro, Shinichi Kuriyama
The 18th World Conference on Seismic Isolation, Energy Dissipation, and Active Vibration Control of Structures	あり	該当なし	口頭(一般)	いいえ	Xanadu Resort Hotel	Antalya	Turkey	20231108	Experimental examinations of free-standing structures with/without cushion stoppers for the suppression of the residual sliding displacement	Enokida R, Nishio T, Ikago K
AGU2023	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	Moscone Center	サンフランシスコ	アメリカ	20231113	Tsunami vulnerability assessment of critical infrastructures: A case-study of Java, Indonesia	Constance Chua, Anawat Suppasri, An-Chi Cheng, Muhammad Rizki Purnama and Fumihiko Imamura
AGU2023	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	Moscone Center	サンフランシスコ	アメリカ	20231113	Importance of disaster related data for policy making: An example of low-frequency disaster from data-abundant country	Anawat Suppasri and Fumihiko Imamura
6th WORLD LANDSLIDE FORUM	あり	該当なし	口頭(一般)		Palazzo dei Congressi	フィレンツェ	イタリア	20231115	Three-dimensional slope stability analysis based on limit equilibrium theory for a large area	Daichi Sugo, Saneiki Fujita, Kenta Tozato, Reika Nomura, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada
6th World Landslide Forum	あり	該当なし	口頭(一般)		Palazzo dei Congressi & Palazzo degli Affari	Florence	Italy	20231115	Application of two-dimensional shallow water equations in debris flow modelling: A case study in Marumori, Miyagi, Japan	Nilo Lemuel J. Dolojan, Reika Nomura, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada
World Health City Forum 2023	なし	招待	セミナー	行政	Songdo Convensia	Incheon	Korea	20231120	Community adaptation to planned relocation: A long-term study following Typhoon Haiyan of 2023	Kanako Iuchi
The Pacific Islands Science, Technology and Resources Network (STAR) Conference 2023	なし	該当なし	口頭(一般)	行政	Holiday Inn	Suva	Fiji	20231123	Introduction of the SATREPS Project for Disaster Risk Reduction of Widespread Volcanic Hazards in Southwest Pacific Countries	Ichihara, M., Mohammed, R., Kula, T., Romone, M., Goto, K., Kumar, S., Havea, R., Kotra, K. K., Niura, J. P., Lnl, S., Iuchi, K., and Kamigaiichi, O.
RSNA 2023	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	マコーミックプレズ	シカゴ	アメリカ	20231126	Radiation Protection Essentials for Interventional Radiology Workers	Koichi Chida, Masaki Fujisawa, Saya Ono, Yoshihiro Haga, Yohei Inaba, Masayuki Zuguchi
The 18th APRU Multi-Hazards Symposium 2023	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	Nanyang Technological University	Singapore	Singapore	20231130	Expansion of Tokyo Metropolitan Area since 1923 Great Kanto Earthquake	Osamu Murao, Kyota Fujiwara, Haruna Kato, Fumitake Yonemura, Keiko Inagaki, Kimiro Meguro
International Consortium of Landscape and Ecological Engineering (ICLEE) 2023	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	済州大学校	済州	韓国	20231201	From Degradation to Restoration: Lessons from Overused Semi-arid Vegetations in the Northeast Loess Plateau, China, 1992-2016	NAGASAKA Kenji, HARA Yuta, FUJINUMA Junichi, HIGASHIKAWA Takako, TAKAMI Kunio
Asia Pacific Conference 2023. Shaping a New World From Asia Pacific.	あり	該当なし	公募	なし	Ritsumeikan, Asia Pacific University	Beppu	Japan	20231203	Narrating trauma from children's viewpoints? School buildings memorializing the 3.11 disasters.	Gerster, Julia
The 26th Australasian Conference on the Mechanics of Structures and Materials	あり	該当なし	口頭(一般)	いいえ	Aukland University	Aukland	NZ	20231204	IDENTIFICATION OF PHYSICAL PROPERTIES OF A SINGLE-STOREY STEEL FRAME SUBJECTED TO A SEISMIC EXCITATION	Enokida R, Kajiwara K
The 2st International Symposium on One Health, One World 2023 (OHOW 2023)	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	Dhaka University	Dhaka	Bangladesh	20231206	A Study on Vertical Urban Developments of Tokyo	Osamu Murao
American Geophysical Union Fall Meeting 2023	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	Moscone Center	サンフランシスコ	米国	20231211	Challenges in using Artificial Intelligence on InSAR in the Japanese context	Yo Fukushima
American Geophysical Union, 2023 fall meeting	なし	いいえ	ポスター	なし	Moscone Center	San Francisco	USA	20231213	The Role of Stress Changes in Rupture Nucleation and Inhibition in the 2023 Kahramanmaraş, Türkiye, Sequence, and a One-Year Earthquake Forecast	Shinji Toda, and Ross Stein
AGU (American Geophysical Union) Annual Meeting 2023	なし	該当なし	ポスター	なし	Moscone Center	San Francisco, CA	USA	20231213	Retrospective Probabilistic Forecast of Rupture Propagation Considering Fault Continuity and Geometry in the 2023 Kahramanmaraş, Türkiye, Earthquake	Yuki Hara, Shinji Toda
American Geophysical Union Fall Meeting 2023	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	Moscone Center	San Francisco	米国	20231214	Onboard processing and transmission of realtime GNSS-Acoustic data on a waveglider	Kido, M., T. Inuma, T. Fukuda, Y. Ohta, F. Tomita, N. Murai
American Geophysical Union Fall Meeting 2023	あり	該当なし	ポスター	なし	Moscone Center	San Francisco	米国	20231214	GNSS-acoustic observations using manned and unmanned sea surface platforms along the Kurile-Japan Trench to grasp the interplate locking state and the postseismic deformation of the 2011 Tohoku-oki earthquake	Inuma, T. M. Kido, F. Tomita, Y. Ohta, T. Fukuda, R. Hino, T. Hori, H. Takahashi, K. Nakahigashi, T. No, Y. Nakamura, M. Ohzono, R. P. Martinez, D. Sato

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
American Geophysical Union Fall Meeting 2023	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	Moscone Center	San Francisco	米国	20231214	Towards Common Data Exchange Formats for Seafloor Geodesy	Schmidt, D. P. Sakic, V. Ballu, J. DeSanto, K. He, M. Heesemann, J. Hutchinson, M. Kido, Y. Nakamura, K. Tadokoro, S. Watanabe, S. Xie, Y. Yokota
The 2023 American Geophysical Union Fall Meeting	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	モスコーンセンター/オンライン	San Francisco	America	20231214	Development of a new GNSS-acoustic positioning software "SeaGap" and its application	Tomita, F., & M. Kido
American Geophysical Union, 2023 fall meeting	なし	いいえ	ポスター	なし	Moscone Center	San Francisco	USA	20231214	Implications of the 2023 Kahramanmaraş, Türkiye, earthquakes for California	Ross Stein, Volkan Sevilgen, Shinji Toda, Ali Ozbakir, and Hector Gonzalez-Huizar
2023 The 11th International Conference on Information Technology (ICIT2023)	あり	基調	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	なし	京大	京都	日本	20231214	Recent Advances in Wireless Technology Towards B5G/6G	安達 文幸
Climate Crisis and Disaster Preparedness: Collaboration to increase resilience	なし	はい	口頭(基調)	なし	オンライン(インドネシア大学)	ジャカルタ	インドネシア	20231217	Disaster Health Management in Asia	Shinichi Egawa
International Seminar for Disaster Mitigation and Simulation	なし	招待	講演・講義	なし	Department of Civil and Environmental Engineering, Korea Advanced Institute of Science and Technology (KAIST)	Daejeon	Republic of Korea	20240126	Advanced material point method for disaster simulation	Kenjiro Terada
International Conference: Big Data for Disaster Response and Management in Asia and the Pacific	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	災害科学国際研究所	Sendai	日本	20240216	Monitoring Post-Disaster Reconstruction to Support Evaluation of Early Recovery Frameworks	Sabine Loos, Paula Burgi, Simone Curtis, Kanako Iuchi
2023 Korean Society of Hazard Mitigation	あり	該当なし	口頭(一般)	企業	Ramada Plaza Jeju Hotel	済州	韓国	20240217	Is the Current Evacuation Shelter Safe from Climate Change and All Hazards?	Hyejeong Park, Kihun Nam, Egawa Shinich
Global Forum on Disaster Solutions (GFDS): Two Decades Post Aceh - Indonesia's Earthquake and Tsunami	あり	いいえ	口頭(一般)	なし	ガジャマダ大学	ジョグジャカルタ	インドネシア	20240222	Incorporating Disaster Context into Mathematical Problem-Solving Abilities: The Role of Cognitive and Affective Needs	R. Johar, F. Hamita, D. Sasaki, & R.S. Oktari
Global Forum on Disaster Solutions (GFDS): Two Decades Post Aceh - Indonesia's Earthquake and Tsunami	あり	いいえ	口頭(一般)	なし	ガジャマダ大学	ジョグジャカルタ	インドネシア	20240222	Analysis of The Education, Experience, and Exposure to Information on Coastal Community Preparedness Using Structural Equation Modeling	H. Sofyan, A. Hidayati, R. Rolanda, Syamsidik, D. Sasaki R. Oktari
第29回日本災害医学会	あり	はい	口頭(招待)	なし	みやこメッセ	京都	日本	20240223	WADEM2025Tokyoのトピックとプログラム	江川新一
European Congress of Radiology (ECR2024)	あり	該当なし	ポスター	なし		ウィーン	オーストリア	202403	Physician's eye exposure: focusing on backscatter radiation from the physician's own head	Ohno S, Konta S, Shindo R, Yamamoto K, Isobe R, Furukawa M, Inaba Y, Chida K
SEAMA 2024 Island tourism and hospitality management	あり	基調	口頭(一般)	なし	University of the Ryukyus	Nishihara	Japan	20240302	Tourism and Resistance: Analyzing Social Media Narratives During the Maui, Hawaii Wildfires	David Nguyen, Jawei Jiang, Sunkyung Choi, Renan De Oliveira, Gui Lohmann, Brent Moyle
Association for Asian Studies (AAS)	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	AAS	Seattle	USA	20240302	Tohoku University's "Kataritsugi" and the Stories of 3.11	Gerster, Julia; Shibayama, Akihiro and Ono, Madoka
AAAL 2024 Conference - American Association for Applied Linguistics	なし	いいえ	口頭(一般)	なし	Hyatt Regency Hotel Houston	Texas	アメリカ	20240319	Impacts of cognitive and emotional reactions to feedback and error types on second language writing	Suzuki, W. Saito, R
2nd IACM Mechanistic Machine Learning and Digital Engineering for Computational Science Engineering and Technology	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	The University of Texas at El Paso	El Paso	USA	29230926	Rapid prediction model for rainfall-induced landslide based on numerical simulation using proper orthogonal decomposition and Gaussian process regression	Kenta Tozato, Reika Nomura, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada
The 28th IUGG General Assembly	なし	該当なし	ポスター	なし	CityCube Berlin	ベルリン	ドイツ		Real-time mapping of population exposure to tsunami hazard from human mobility data	Erick Mas, Shinji Kataya, Naomichi Kuwahara, Yuriko Takeda, Shohei Nagata, Shunichi Koshimura

学会・学術発表(研究者・一般市民対象)・国内(除く学生のみ)

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
第28回計算工学講演会	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	つくば国際会議場	つくば	日本	20230531	多孔質材料における過渡熱分析のためのマイクロ-マクロトポロジー最適化	Naruethep Sukulthanasorn, Mao Kurumatani, Junji Kato, Kenjiro Terada
第28回計算工学講演会	あり	該当なし	口頭(一般)	小中高	つくば国際会議場	つくば	日本	20230531	都市規模の数値シミュレーションを用いた脆弱性関数による地震リスク評価	Dongyang Tang, Naruethep Sukulthanasorn, Reika Nomura, Shuji Moriguchi, Kazuya Nojima, Masaaki Sakuraba, Kenjiro Terada
Tokyo Meeting2023 第17回学校の安全・危機管理セミナー	なし	招待	セミナー	小中高	国立オリンピック記念青少年総合センター	東京都	日本	20230731	震災遺構・震災伝承施設とその活用	佐藤 健
「自己」研究会シンポジウム「AI社会・技術拡張化への「自己」の適応—新たな「自己」研究—	なし	招待	講演会		お茶の水女子大学	東京	日本	20230829	自己の適応性について考える	杉浦元亮
第22回情報科学技術フォーラム(FIT2023)	なし	いいえ	口頭(一般)	なし	大阪公立大学	大阪市	日本	20230907	過去の災害情報を活用した、意思決定支援システムの構築	Tsuneko Kura, Shuji Moriguchi, Erick Mas, Shunichi Koshimura, Makoto Okumura, Naoko Shigematsu, Akinori Fujino, Hitoshi Shimizu, Naoko Kosaka, Masaki Hisada
石巻市第2回防災主任研修会	なし	招待	セミナー	行政	石巻市立釜小中学校	石巻市	日本	20230914	緊急避難を判断するための情報とその収集方法(洪水編)	佐藤 健, 桜井 愛子, 北浦 早苗, 村山 良之, 熊谷 誠, 小田 隆史, 橋本 雅和
日本心理学会第87回大会	あり	該当なし	口頭(一般)	企業	神戸国際会議場	神戸	日本	20230917	AI社会を生きる力に関する自己3層脳モデルによる妄想	杉浦元亮
令和5年度安全担当主幹教諭研修会	なし	招待	セミナー	行政	宮城県総合教育センター	名取市	日本	20230920	家庭や地域と連携・協働した学校の防災体制の構築に向けて	佐藤 健
日本マーケティング学会カンファレンス2023	なし	該当なし	ポスター	企業	法政大学市ヶ谷キャンパス	東京	日本	20231029	端数効果の神経基盤の検討	大方翔貴, 杉浦元亮
日本計算機統計学会第37回シンポジウム	なし	招待	セミナー	企業	フェニックス・シーガイア・リゾート	宮崎	日本	20231110	健康まちづくりとWalkability—PythonでGIS—	中谷 友樹, 永田 彰平

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
Forum for Graduate School Educational Reform 2023	なし	該当なし	ポスター	行政	Tsukuba International Congress Center	Tsukuba	Japan	20231201	Connecting Cognitive Neuroscience and Education	Yin May Zin Han and Motoaki Sugiura
第29回日本災害医学会総会・学術集会	あり	該当なし	口頭(一般)	行政	みやこめっせ	京都市	日本	20240223	医療者から見た日本の災害関連死が抱える制度上の問題	坪井基浩、バクヘジョン、佐々木宏之、江川新一
第29回日本災害医学会総会・学術集会	あり	該当なし	口頭(一般)	行政	みやこめっせ	京都市	日本	20240223	個別避難戦略の導線と災害医療サービ	朴慧晶、佐々木宏之、坪井基浩、江川新一
令和5年度土木学会東北支部技術研究発表会	なし	いいえ	口頭(一般)	なし	岩手大学	盛岡市	日本	20240302	建物被害マッピングにおけるシミュレーションSAR画像利用の有効性	Ezaki, Y., Chia Yee, H., Adriano, B., Mas, E., Koshimura, S.
令和5年度土木学会東北支部技術研究発表会	なし	いいえ	口頭(一般)	なし	岩手大学	盛岡市	日本	20240302	モバイル空間統計を用いた時空間でのリアルタイム異常検知	Takahashi, R., Mas, E., Adriano, B., Koshimura, S.
令和5年度土木学会東北支部技術研究発表会	なし	いいえ	口頭(一般)	なし	岩手大学	盛岡市	日本	20240302	交通避難シミュレーションにおける計算時間の短縮化のため道路容量と車両減少の仮定の検証	Tsukitaku, F., Mas, E., Adriano, B., Koshimura, S.
令和5年度土木学会東北支部技術研究発表会	なし	いいえ	口頭(一般)	なし	岩手大学	盛岡市	日本	20240302	大規模災害時建物被害データのxBDデータへの統合による広域被害把握の高度化	Fukuyama, R., Wiguna, S., Adriano, B., Mas, E., Koshimura, S.
令和4・5年度栗駒山麓ジオパーク学術研究助成成果報告会	なし	該当なし	その他	行政	栗原市役所講堂	栗原	日本	20240307	マルチハザード型かつ自然災害共生型ジオパークにおける学習体系、手法のあり方に関する研究	佐藤翔輔
仙台防災未来フォーラム2024「レジリエント・コミュニティの創生に向けてーイオン防災環境都市創生共同研究部門の取り組みー	なし	Keynote	講演・講義	企業	仙台国際センター	仙台	日本	20240309	柱のデザイン部門・どんぐり拾いアンケート結果	新家杏奈(代理:佐藤翔輔)
仙台防災未来フォーラム2024「早期警戒アクションの重要性について: 私達が更に取り組めること」	なし	招待	講演・講義	企業	仙台国際センター	仙台	日本	20240309	水害からいのちを守る(守った)避難ー2019年台風19号の事例をもとにー	佐藤翔輔
日本地理学会2024年春季学術大会	なし	該当なし	ポスター	なし	青山学院大学	東京	日本	20240319	画像解析を用いた相模川下流域における河成段丘稜の円磨度の計測	高橋尚志・太矢敦士・石村大輔
日本地理学会2025年春季学術大会	なし	該当なし	ポスター	なし	青山学院大学	東京	日本	20240319	2024年能登半島地震に伴う能登半島北東部の地震時変位	石村大輔, 福島洋, 遠田晋次, 高橋直也, 岩佐佳哉, 高橋尚志, Luca Malatesta
2024年日本地理学会春季学術大会「令和6年能登半島地震に関する緊急シンポジウム」	なし	該当なし	口頭(一般)	行政	青山学院大学(青山)	東京	日本	20240319	大規模災害の復旧復興期における人文社会系・計画系諸科学の連携と地理学の貢献可能性	原裕太, 齋藤玲, 山下良平, 武田公子
2024年日本地理学会春季学術大会【緊急公開シンポジウム】令和6年能登半島地震	なし	該当なし	ポスター	なし	青山学院大学	東京	日本	20240319	令和6年能登半島地震発生後の人流変化	永田彰平, マス・エリック, 武田百合子, 越村俊一
第18回防災学術連携シンポジウム	なし	招待	講演・講義	行政	online	online	online	20240325	人口減少社会における空き家と地域の建物倒壊リスク	村尾修

学会・学術発表(研究者・一般市民対象)・国際(除く学生のみ)

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
UNDP High Level Conference on Urban Resilience	なし	招待	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	行政	Limak	Skopje	North Macedonia	20230517	Risk Governance for Risk-Informed Development	David Nguyen
Japan Geoscience Union Meeting 2023	あり	該当なし	ポスター	行政	Makuhari Messe	Chiba	Japan	20230522	Differences in neural processes of tsunami evacuation decision-making by information type: an fMRI study	Motoaki Sugiura, Masato Takubo, Ryo Ishibashi, Naoki Miura and Azumi Tanabe
How to overcome stress: Brain activity of self-transcendent individual during environmental thermal stress.	なし	招待	口頭(基調・招待)		Pontificia Universita Antonianum	Roma	Italy	20230524	How to overcome stress: Brain activity of self-transcendent individual during environmental thermal stress	Motoaki Sugiura
Japan Geoscience Union Meeting 2023	あり	該当なし	口頭(一般)	行政	Makuhari Messe	Chiba	Japan	20230524	Development of a fictitious scenario task for tsunami evacuation attitude assessment	Motoaki Sugiura, Masato Takubo, Ryo Ishibashi, Naoki Miura and Azumi Tanabe
Conference on Religion, Spirituality, and Wellbeing	なし	該当なし	口頭(一般)			Assisi	Italy	20230527	Brain activity of self-transcendent individual during environmental thermal stress	Motoaki Sugiura
ISO ISO TC 268 SC1 Plenary Meeting	なし	招待	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	行政	AFNOR HQ	Saint Denis	France	20230612	ISO TC 268 SC1 WG6 Report	David Nguyen, Yoshiaki Ichikawa, Takahiro Kihara,
2023 Joint International Conference on ELT in Korea	あり	該当なし	口頭(一般)	企業	Konkuk University	Seoul	Korea	20230707	Dissociating the Roles of Working Memory and Language Aptitude during L2 Learning: An fMRI Study	Diego Elisandro Dardon, Hyeonjeong Jeong and Motoaki Sugiura
The 28Th General Assembly of the International Union of Geodesy and Geophysics	なし	いいえ	口頭(一般)	なし	CityCube	Berlin	Germany	20230714	Deep learning of tsunami building damage from multimodal physical parameters for real-time damage assessment	Ruben Vescovo, Erick Mas Bruno Adriano, Shunichi Koshimura
The 28Th General Assembly of the International Union of Geodesy and Geophysics	なし	いいえ	口頭(一般)	なし	CityCube	Berlin	Germany	20230714	Building damage estimation using RaySAR, a Synthetic Aperture Radar simulator	Chia Yee Ho, Hannes Neuschmidt, Erick Mas, Bruno Adriano, Shunichi Koshimura
The 28Th General Assembly of the International Union of Geodesy and Geophysics	なし	いいえ	その他	なし	CityCube	Berlin	Germany	20230714	Real-time population exposure mapping from mobile spatial statistical data	Erick Mas, Shinji Kataya, Naomichi Kuwahara, Yuriko Takeda, Shohei Nagata, Shunichi Koshimura
The 28Th General Assembly of the International Union of Geodesy and Geophysics	なし	いいえ	口頭(一般)	なし	CityCube	Berlin	Germany	20230714	Developing a deep learning super-resolution framework for tsunami inundation forecasting	Bruno Adriano, Shunichi Koshimura
The 28Th General Assembly of the International Union of Geodesy and Geophysics	なし	いいえ	口頭(一般)	なし	CityCube	Berlin	Germany	20230715	Extracting cascading consequences of the 2011 Great East Japan earthquake and tsunami using social sensing data	Xuanyan Dong, Erick Mas, Bruno Adriano, Shunichi Koshimura
The 28Th General Assembly of the International Union of Geodesy and Geophysics	なし	いいえ	口頭(一般)	なし	CityCube	Berlin	Germany	20230715	Application of a global-based deep learning damage estimation using remote sensing data to unseen tsunami events	Sesa Wiguna, Bruno Adriano, Erick Mas, Shunichi Koshimura
IGARSS 2023 - 2023 IEEE International Geoscience and Remote Sensing Symposium	なし	いいえ	口頭(一般)	なし	Pasadena Convention Center	California	US	20230718	Flood Inundation Depth Estimation from SAR-Based Flood Extent and DEM	Luis Moya, Erick Mas, Shunichi Koshimura
IEEE International Symposium on Geoscience and Remote Sensing (IGARSS 2023)	はい	いいえ	口頭(一般)	なし	Pasadena Convention Center	Pasadena, California	U.S	20230719	Combining Deep Learning and Numerical Simulation to Predict Flood Inundation Depth	Bruno Adriano, Naoto Yokoya, Kazuki Yamanoi, Satoru Oishi

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
IEEE International Symposium on Geoscience and Remote Sensing (IGARSS 2023)	はい	いいえ	口頭(一般)	なし	Pasadena Convention Center	Pasadena, California	U.S	20230719	Developing a Framework for Rapid Collapsed Building Mapping Using Satellite Imagery and Deep Learning Models	Bruno Adriano, Hiroyuki Miura, Wen Liu, Masashi Matsuoka, Shunichi Koshimura
Indonesia	なし	招待	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	行政	Bali Media Center	Bali	Indonesia	20230724	Increasing the resilience of tourism destinations through strategic plans in handling tourism issues in Bali	David Nguyen
AOGS2023 - 20th Annual Meeting Asia Oceania Geosciences Society	なし	いいえ	その他	なし	SUNTEC Singapore / Online	Singapore	Singapore	20230802	Real-time Anomaly Detection in Population Data from Mobile Spatial Statistics for Disaster Mitigation	Mas, E., Koshimura, S.
AOGS2023 - 20th Annual Meeting Asia Oceania Geosciences Society	なし	いいえ	その他	なし	SUNTEC Singapore / Online	Singapore	Singapore	20230802	A study on disaster response using a Digital Twin of the actual heavy rain disaster	Moriguchi, S., Erick Mas, Shunichi Koshimura, Kenjiro Terada, Makoto Okumura, Naoko Kosaka, Naoko Shigematsu, Hitoshi Shimizu, Akinori Fujino, Tsuneko Kura, Hiroshi Matsubara, Masaki Hisada
Panel "Psychological findings from the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami into the BANI World" in the 2nd Thailand International Conference on Psychology 2023 (TICP2023)	なし	招待	口頭(基調・招待)	企業	Sasin Graduate Institute of Business Administration of Chulalongkorn University	Bangkok	Thailand	20230804	Eight factors of the power to live with disasters and their neural correlates	Motoaki Sugiura
European Brain and Behaviour Society	あり	該当なし	ポスター	企業	Flemish Arts Centre De Brakke Grond	Amsterdam	Netherlands	20230827	Association of social acceptance and rejection with self-referential processing across different domains: an fMRI study	Yi Ding, Kentaro Oba, Ryo Ishibashi, Shinsuke Suzuki and Motoaki Sugiura
Conference of the European Society for Cognitive Psychology 2023	あり	該当なし	口頭(一般)		University of Porto	Porto	Portugal	20230908	Higher Emotional Values of the Options, but not Utilitarian Ones, Make Moral Decisions More Difficult	Yu Liu and Motoaki Sugiura
UNDP High Level Dialogue on Climate Change and Resilience in Central Asia	なし	招待	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	行政	Sheraton	Bishkek	Kyrgyzstan	20230922	Panel Session 4: Innovations in building climate resilience and EWS	David Nguyen
AIWEST-DR 23	あり	該当なし	指名	なし	Gadjah Mada University	Yogyakarta	Indonesia	20231011	Foreign residents, and disaster preparedness. Examples from Sendai City after the Great East Japan Earthquake.	Gerster, Julia
AIWEST-DR 2023 - 15th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery	なし	いいえ	その他	なし	Universitas Gadjah Mada / Online	Yogyakarta	Indonesia	20231012	Forecasting Spatial Population Distribution in Tsunami Haard Zones Using Mobile Data	Mas, E., Koshimura, S.
AIWEST-DR 2023 - 15th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery	なし	いいえ	その他	なし	Universitas Gadjah Mada / Online	Yogyakarta	Indonesia	20231012	Building damage classification using remote sensing and domain adaptation approach for rapid assessment	Wiguna, S., Adriano, B., Mas, E., Koshimura, S.
AIWEST-DR 24	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	Gadjah Mada University	Yogyakarta	Indonesia	20231012	School Memorials as "Lieux de Mémoire" after the Great East Japan Earthquake.	Gerster, Julia and Shibayama, Akihiro
AIWEST-DR 2023	なし	招待	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	行政	University of Gadja Madah	Jogyakarta	Indonesia	20231013	Tourism and Disaster Resilience	David Nguyen
2023 Resilience Learning Month	なし	Plenary	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	企業	Asia Development Bank HQ	Manila	Philippines	20231019	Unlocking Tomorrow's Resilience: Bridging Countries through International Standardization of Disaster Risk Reduction Infrastructure	David Nguyen
Society for the Neurobiology of Language	あり	該当なし	ポスター	企業	Palais du Pharo	Marseille	France	20231024	The Learning of Phonological-Based Linguistic Categories: An fMRI Study	Diego Elisandro Dardon, Chunlin Liu, Motoaki Sugiura and Hyeonjeong Jeong
Society for the Neurobiology of Language	あり	該当なし	ポスター	企業	Palais du Pharo	Marseille	France	20231025	The Learning of Phonological-Based Linguistic Categories: An fMRI Study	Chunlin Liu, Takumi Uchihara, Motoaki Sugiura, Ping Li and Hyeonjeong Jeong
Society for the Neurobiology of Language	あり	該当なし	ポスター	企業	Palais du Pharo	Marseille	France	20231025	Neural mechanisms of attitudinal prosody perception in a second language: an fMRI study	Victoria-Anne Flood, Diego Elisandro Dardon, Motoaki Sugiura and Hyeonjeong Jeong
Society for Neuroscience	あり	該当なし	ポスター	企業	Walter E. Washington Convention Center	Washington D.C	USA	20231114	Neural correlates of trust decision making	Mika Nishio, Naoki Miura, Ryo Ishibashi and Motoaki Sugiura
18th APRU Multi Hazards Symposium	あり	基調	口頭(一般)	行政	Nanyang Technological University	Singapore	Singapore	20231130	Preliminary Assessment of the 2023 Hawaii Wildfires	David Nguyen, Jawei Jiang, Sunkyung Choi, Renan De Oliveira, Gui Lohmann, Brent Moyle
The 6th R-CCS International Symposium	はい	はい	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	なし	Kobe International Conference Center	Kobe	Japan	20240129	Application of AI and physics-based modeling to enhance disaster science	Bruno Adriano
The Society for Personality and Social Psychology 2024 Annual Convention	あり	該当なし	ポスター	企業	San Diego Convention Center	San Diego	USA	20240209	Altruism and self-transcendent traits are associated with lower decision-related brain activity related to image effect of 8 is cheap.	Shoki Ogata and Motoaki Sugiura.
The Society for Personality and Social Psychology 2024 Annual Meeting	あり	該当なし	ポスター	企業	San Diego Convention Center	San Diego	USA	20240210	Higher values of the victim make decisions more difficult in trolley-problem-like task, indicating a new explanation for deontological decisions	Yu Liu and Motoaki Sugiura

学会以外の発表(研究者対象)・国内(除く学生のみ)

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
第10回東北大学若手アンサンブルワークショップ	なし	該当なし	ポスター		東北大学片平キャンパス	仙台	日本	20230512	Neuroimaging of motivations behind different dialogue modes	Yin May Zin Han, Yichuan Huang, Saschiro Shirahama and Motoaki Sugiura

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
第10回東北大学若手アンサンブルワークショップ	なし	該当なし	ポスター		東北大学片平キャンパス	仙台	日本	20230512	悲しい音楽への共感報酬系の脳領域の活性化を促すか	土屋百世, 杉浦元亮
第10回東北大学若手アンサンブルワークショップ	なし	該当なし	ポスター		東北大学片平キャンパス	仙台	日本	20230512	キューパはなぜ安いかと感じるのか? その神経基盤に関する研究	大方翔貴, 杉浦元亮
ADHD Web Seminar, 仙台	なし	該当なし	講演会	企業	仙台ガーデンパレス(Web)	全国	日本	20230413	私たちはグアンファンシを正しく理解しているのだろうか	國井泰人
放射線管理フォーラム	あり	招待	口頭(招待)	行政	パシフィコ横浜	横浜市	日本	20230415	眼の水晶体の放射線防護に資する機材開発と被ばく低減対策	千田浩一
Lundbeck Psychiatry Seminar, 福島	なし	該当なし	講演会	企業	ほりこし心身クリニック(Web)	福島	日本	20230419	精神疾患死後脳研究の最新知見-うつ状態、自殺、神経発達症、Long-COVID	國井泰人
宮城県オピニオンセミナー	なし	該当なし	講演会	企業	TKPガーデンシティPREMIUM仙台西口(Web)	仙台	日本	20230420	コロナ禍で変化したメンタルヘルスうつ病、自殺、後遺症としてのうつ	國井泰人
The 1st German-Japanese Beyond 5G/6G Research Workshop	なし	招待	講演会	企業	情報通信研究機構	東京	日本	20230425	Wireless Challenges for the Evolution of Mobile Communications: ~ Past and Future ~	安達 文幸
International Workshop on Trajectories of Disasters: Building Resilience to Natural Hazards and Risks	なし	招待	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	なし	京都大学	京都	日本	20230516	Recovery from the Great East Japan Earthquake	M. Ubaura
八戸精神科医会	なし	招待	講演会	企業	八戸パークホテルハイブリッド開催	八戸	日本	20230517	なぜ、統合失調症治療現場で新規抗精神病薬の評価は一定しないのか? -統合失調症と双極性障害の病態に共通するもの、しないもの-	國井泰人
第20回「災害文化と地域社会史」研究会	なし	Keynote	講演・講義	なし	オンライン	岡山	日本	20230521	スペイン・インフルエンザ流行期における医療環境:宮城県を事例に	川内淳史
JICA課題別研修	なし	該当なし	講演・講義	なし	アジア防災センター	神戸市	日本	20230525	中南米総合防災	小野 裕一
第82回金曜フォーラム	なし	招待	セミナー	なし	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	20230526	災害リスクガバナンスの統合的アプローチに向けて	Hyejeong Park
連合埼玉「政策フォーラム」	なし	招待	講演会	なし	ソニーシティ国際会議	大宮	埼玉	20230601	災害時のセクシャルマイノリティの支援について	北村美和子
関東大震災の連続勉強会とシンポジウム-関東大震災を学びこれからの日本のあり方を考えよう!	なし	招待	講演・講義	なし	東京大学生産技術研究所附属災害対策トレーニングセンター	東京	日本	20230603	持続可能な街づくりとコミュニティの再生(5. 地域再建支援分科発表)	村尾修, 中田剛充, 横田英靖, 谷口幸弥, 加賀陸丸, 稲垣景子, 趙恵粧, 堅山敬祐, 加藤春奈, 安藤美羽
第9回 協会けんぽ調査研究フォーラム	なし	招待	その他	なし	一ツ橋ホール	東京	日本	20230606	支部単位保険料率の背景にある医療費の地域差の要因に関する研究	藤井進, 野中小百合
Lunch Meeting, MEXT	なし	招待	口頭(招待)	行政	Online (MEXT)	Online	(日本)	20230623	教訓はどのように構築されるのか: 東日本大震災の文化的記憶	Gerster, Julia
International conference on recovery and reconstruction	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	ドルトムント工科大学	ドルトムント	ドイツ	20230704	Recovery in an era of population decline- A Case Study of Recovery from Flooding in Marumori Town, Japan	Michio Ubaura
NIFS一般共同研究 研究会、名古屋大学ISEE研究会合同大会	なし	はい	口頭(招待)	いいえ	核融合科学研究所	岐阜	日本	20230707	低濃度トリチウム持続処理によるDNA二重鎖切断誘発の生物学的手法を用いた検討	鈴木正敏, 磯部理央, 稲葉洋平, 千田浩一, 福本学
レジリエンス共創研究報告会	なし	該当なし	セミナー	なし	災害科学国際研究所	仙台	日本	20230722	復興期の沿岸部空間形成過程の(情報)体系化にむけて	井内加奈子, 高木泰士, 近藤民代, 楠綾子, 地引泰人
2022年度レジリエンス共創研究報告会	なし	該当なし	講演・講義	行政	オンライン	日本	20230722	防災教育研究等、防災基礎力の向上に関する研究	佐藤 健, 李 泰榮	
Fukushima ADHD Web Seminar, 福島	なし	該当なし	講演会	企業	コラッセふくしま	福島	日本	20230824	私たちはグアンファンシを正しく理解しているのか	國井泰人
公害資料館科研研究会	なし	招待	講演会	なし	オンライン	オンライン	日本	20230831	災害伝承に関する自身の研究・取り組み	佐藤翔輔
第2回3大学連続ワークショップ「ウクライナ復興そして未来を考える」	なし	招待	その他	なし	東北大学知の館	仙台	日本	20230908	ロシア侵攻下のウクライナにおけるツイッターの分析	藤井進, 野中小百合, 國井泰人, 日野瑞城, 濱家由美子, 江川進一, 栗山進一
ラッダ錠発売3周年記念講演会 in福井	なし	該当なし	講演会	企業	FUKUI SENKYU bldg.(Web)	福井	日本	20230908	なぜ、統合失調症治療現場で新規抗精神病薬の評価は一定しないのか? -統合失調症と双極性障害の病態に共通するもの、しないもの-	國井泰人
統合失調症WEBセミナー～Designed SDAラッダを考える～, ZOOMウェビナー	なし	該当なし	講演会	企業	住友ファーマつくば集会所(Web)	つくば	日本	20230914	なぜ、統合失調症治療現場で新規抗精神病薬の評価は一定しないのか? -統合失調症と双極性障害の病態に共通するもの、しないもの-	國井泰人
ADHD WEBセミナー～おとなの発達障害をひもとく～, 水戸	なし	該当なし	講演会	企業	茨城県域(Web)	水戸	日本	20230921	私たちはグアンファンシを正しく理解しているのか	國井泰人
酪農学園大学FD研修会	なし	招待	講演・講義	企業	オンライン	オンライン	日本	20230922	授業づくり:準備と運営	邑本俊亮
Fukushima Adult ADHD Sharing Conference, 福島	なし	該当なし	講演会	企業	福島県立医科大学(Web)	福島	日本	20231002	私たちはグアンファンシを正しく理解しているか-ADHDに併存する精神疾患治療を見据えて	國井泰人
ND symposium, 東京	なし	該当なし	講演会	企業	武田薬品工業東京本社(Web)	全国	日本	20231015	Mini Lecture.アセスメントと鑑別のポイント	國井泰人
Disaster and Memory Symposium	なし	該当なし	指名	なし	IRiDeS, Tohoku University	Sendai	Japan	20231018	School Memorials as "Lieux de Mémoire" after The Great East Japan Earthquake	Gerster, Julia and Shibayama, Akihiro
ADHD Web Seminar, 仙台	なし	該当なし	講演会	企業	武田薬品工業宮城営業所(Web)	全国	日本	20231019	私たちはグアンファンシを正しく理解しているか-ADHDに併存する精神疾患治療を見据えて	國井泰人
Psychiatric Treatment Web seminar, 仙台	なし	該当なし	講演会	企業	青葉病院	仙台	日本	20231024	私たちは抗うつ薬に何をもちめるか～抗うつ薬選択の新潮流～	國井泰人
放射線防護部会	あり	招待	口頭(招待)	なし	名古屋国際会議場	名古屋市	日本	20231027	水晶体被ばく防護の現状と対策	千田浩一
おとなの精神疾患について考える会～摂食障害と発達障害を中心に～, 明石	なし	該当なし	講演会	企業	ダイワロイネットホテル郡山駅前(Web)	兵庫県近隣	日本	20231028	私たちはグアンファンシを正しく理解しているか-ADHDに併存する精神疾患治療を見据えて	國井泰人
成人-関西ADHD Weekly Webinar	なし	該当なし	講演会	企業	武田薬品工業宮城営業所(Web)	関西圏	日本	20231102	私たちはグアンファンシを正しく理解しているか-ADHDに併存する精神疾患治療を見据えて	國井泰人
第5回共調的脳科学研究会	なし	該当なし	ポスター	行政	箱根湯本ホテル	箱根	日本	20231104	怖いのは人ではなくウイルス! 集団主義に潜む感染の脅威に関するfMRI研究	Jeyoon Choi, 杉浦元亮
第5回共調的脳科学研究会	なし	該当なし	口頭(一般)	行政	箱根湯本ホテル	箱根	日本	20231104	人間・機械共調社会のための倫理的判断認知過程の解明	Yu Liu and Motoaki Sugiura
第5回共調的脳科学研究会	なし	該当なし	口頭(一般)	行政	箱根湯本ホテル	箱根	日本	20231104	どの作業環境がベスト? 他者の存在が認知課題実行に及ぼす影響と文化的個人特性	高橋 慧, Hyeonjeong Jeong, 竹本 あゆみ, 杉浦 元亮

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
第5回共調的脳社会研究会	なし	該当なし	口頭(一般)	行政	箱根湯本ホテル	箱根	日本	20231104	共調的対話動機の脳基盤(fMRI研究)	Yin May Zin Han, Yichuan Huang, Sachiyo Shirahama, Hyeongjeong Jeong and Motoaki Sugiura
JICA discussion rounds	なし	招待	口頭(招待)	企業	Online (JICA)	Online	(Japan)	20231105	Gender and disaster memory. Examples from the Great East Japan Earthquake." 2023.11.5 Online, invited speaker.	Gerster, Julia
True Recovery Intervention Meeting	なし	該当なし	講演会	企業	武田薬品工業 宮城営業所 (Web)	全国	日本	20231109	いま、うつ病治療にもとめられるもの	國井泰人
ICRP2023サテライト	あり	招待	口頭(招待)	行政	ホテルニッコー 台場	東京都	日本	20231111	眼の水晶体の放射線防護に資する 機材開発推進および被ばく低減の ための多角的な研究	千田浩一
ADHD Speaker Meeting, 神戸	なし	該当なし	講演会	企業	ANAクラウン プラザホテル神戸	神戸	日本	20231111	最新の神経科学からグアンファンシ ンのリアルポテンシャルを再評価する	國井泰人
A Seeking for the better with Designed SDA, 東京	なし	該当なし	講演会	企業	住友ファーマ 東京本社 (Web)	全国	日本	20231112	統合失調症と双極性障害の病態に 共通するもの、しないもの	國井泰人
第11回歴史地震資料研究会	なし	該当なし	講演・ 講義	なし	オンライン	新潟	日本	20231118	関東大震災と仙台市・宮城県: 地域 資料に見る	佐藤大介, 川内淳史
徳島大学大学院歯医学部研究部 精神医学分野 臨床検討会講演	なし	招待	講演会	なし	徳島大学	徳島	日本	20231129	精神疾患ブレインバンクと死後脳研 究の現在地	國井泰人
Psychiatry Expert Meeting in IWAKI	なし	該当なし	講演会	企業	グランドパークホ テル パネックス いわき (Web)	いわき	日本	20231130	統合失調症と双極性障害の病態に 共通するもの、しないもの	國井泰人
第11回若手アンサンブルワーク ショップ	なし	はい	口頭 (招待)	なし	さくらホール	仙台	日本	20231200	災害科学への挑戦: 認知科学・心理 学・教育学を専門として	齋藤玲
第11回若手アンサンブルワーク ショップ	なし	いいえ	ポスター	なし	さくらホール	仙台	日本	20231200	かっこいい航空機研究: Hard and soft sciences による萌芽的検討	阿部圭見, 齋藤玲, 新竹純 (Co authorship)
日本教育工学会研究会	なし	いいえ	口頭 (一般)	なし	職業能力開発 総合大学校	小平	日本	20231200	初等中等教育教員の生成系 AI の 使用経験の有無による認識, 情緒 的・認知的態度, 発達への影響の 違い	登本洋子, 齋藤玲, 堀田龍也
第10回 静岡県西部精神医学懇話 会, 浜松	なし	招待	講演会	企業	ホテルクラウン パレス浜松 (ハイブリッド形式)	浜松	日本	20231204	精神疾患ブレインバンクと死後脳研 究の最新知見	國井泰人
2023年度生理学研究所研究会 多次元脳形態研究会, 岡崎	なし	招待	講演会	なし	生理学研究所 (ハイブリッド方 式)	岡崎	日本	20231205	統合失調症死後脳のマルチオミク ス解析の現状	國井泰人
第11回東北大学若手アンサンブ ルワークショップ	なし	該当なし	ポスター		東北大学片平 キャンパス	仙台	日本	20231213	悲しい音楽はなぜ好まれる? 悲し い音楽を嗜好する脳基盤の解明	土屋百世, 竹本あゆみ, Jeyoon Choi, 杉浦元亮
第11回東北大学若手アンサンブ ルワークショップ	なし	該当なし	ポスター		東北大学片平 キャンパス	仙台	日本	20231213	~最適な作業環境を求めて~他者 の存在感もたらす作業効率への 影響は文化によって変わるのか	高橋慧, Hyeongjeong Jeong, 竹本あゆ み, 杉浦元亮
第11回東北大学若手アンサンブ ルワークショップ	なし	該当なし	ポスター		東北大学片平 キャンパス	仙台	日本	20231213	In Human-Computer Interaction, Facial Features Inform the Emotional state of Older Adult	竹本あゆみ, 杉浦元亮
第11回東北大学若手アンサンブ ルワークショップ	なし	該当なし	ポスター		東北大学片平 キャンパス	仙台	日本	20231213	ストーリーテリングにおけるアバ ターの瞬き同期の影響	藤田健吾, Niklas Ewald, 竹本 あゆみ, 田仲真啓, Miao Cheng, Chia-huei Tseng, 杉浦元亮, 北村善文
11th Tohoku University Young Ensemble	なし	該当なし	ポスター		Katahira Campus, Tohoku University	Sendai	Japan	20231213	Memory Misattribution between Self and Other	Xinyi He and Motoaki Sugiura
公益社団法人土木学会地下空間 研究委員会心理小委員会第3回 委員会	なし	招待	講演・ 講義	なし	オンライン	オンライン	日本	20231218	言葉とコミュニケーション	邑本俊亮
地域医療推進講演会, 沖縄	なし	招待	講演会	企業	住友ファーマ 郡山営業所 (Web)	沖縄	日本	20231223	精神疾患ブレインバンクと死後脳研 究の最新知見	國井泰人
宮城県小児科医会・仙台市小児 科医会学術講演会, 仙台	なし	招待	講演会	企業	武田薬品工業 宮城営業所 (Web)	仙台	日本	20240120	ADHD治療において本当にとめら れるもの・成人例からのバックキャス ティング-	國井泰人
日本老年看護学会	あり	招待	講演・ 講義	なし	名取トレイルセ ンター	名取	日本	20240126	東日本大震災の犠牲者に関する場 所に関するレジリエンス	Sebastien Pennellen Boret
JICA課題別研修	なし	該当なし	講演・ 講義	なし	JICA関西	神戸市	日本	20240126	災害統計	小野 裕一
第2回 中国四国ADHD Web Seminar	なし	該当なし	講演会	企業	武田薬品工業 (Web)	中国四国	日本	20240207	ADHD治療において本当にとめら れるもの・成人例からのバックキャス ティング-	國井泰人
精神疾患スキルアップセミナー, 長野	なし	該当なし	講演会	企業	ホテルメトロポリ タン長野 (ハイ ブリッド形式)	長野	日本	20240208	SDAの進化系ラツワダのポテンシャル なぜ統合失調症臨床で過小評価 されるのか-	國井泰人
第7回加齢医学研究所リトリート	なし	該当なし	ポスター		秋保リゾートホテ ル クレセント	仙台	日本	20240215	悲しい音楽を嗜好する脳基盤の解 明	土屋百世, 竹本あゆみ, Jeyoon Choi, 杉浦元亮
国際火山噴火情報研究会 EHA1 2023-2	なし	該当なし	口頭 (一般)	企業	西日本技術開 発株式会社	福岡	日本	20240216	栗駒火山昭和湖周辺における過去 約1万年間のラハール堆積物の層序 と微地形発達史	市川 玲輝, 高橋 尚志, 遠田 晋次, 小 倉 拓郎, 諏訪 貴一
国際火山噴火情報研究会 EHA1 2023-2	なし	該当なし	口頭 (一般)	企業	西日本技術開 発株式会社	福岡	日本	20240217	GISを用いた丹沢山地・箱根火山に おける1923年関東地震に伴う崩壊 地の分布に関する研究	高橋尚志・山根悠輝・諏訪貴一
International Joint Graduate Program in Resilience and Safety Studies (GP-RSS) Seminar	なし	該当なし	セミナー	なし	東北大学	仙台	日本	20240219	How have rivers changed under the long-term climate changes?	Takayuki Takahashi
20th Human Brain Science Seminar "Body image: where does it come from?"	なし	該当なし	セミナー		IDAC, Tohoku University	Sendai	Japan	20240227	Association of social acceptance and rejection with self-referential processing across different domains	Yi Ding, Kentaro Oba, Ryo Ishibashi, Shinsuke Suzuki and Motoaki Sugiura
Insights in Schizophrenia, 旭川, 札幌	なし	該当なし	講演会	企業	住友ファーマ東 北支店 (Web)	旭川 (北海道内)	日本	20240229	特別講演, SDAの進化系ラツワダの ポテンシャルなぜ統合失調症臨床 で過小評価されるのか-	國井泰人
海と地球のシンポジウム2023	なし	該当なし	ポスター	なし	東京大学弥生 講堂	東京	日本	20240301	鉛直海中音速構造の不確定性を考 慮した GNSS 音響観測による上下 変位推定	富田史章, 木戸元之
Psychiatric Treatment Conference, 仙台	なし	該当なし	講演会	企業	仙台国際ホテル	仙台	日本	20240301	統合失調症に併存する神経発達症 を考える	國井泰人
第9回研究倫理を語る会: シンポジ ヴム「倫理審査の数は減らせるか」	なし	招待	講演会		東北大学	仙台	日本	20240302	健常者対象の認知神経科学研究に 特化したIRB設立の経緯	杉浦元亮



名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
F-REI第5分野所内セミナー	なし	招待	その他	なし	エフレイ	浪江町	日本	20240306	みちのく震録伝の活動を含めた震災アーカイブの全体の動向と諸問題ー震災アーカイブとは何か、なぜ必要かー	柴山明寛
第4回TUPRePクローズド「感染症の社会史にむけて」	なし	該当なし	公開講座	なし	東北大学	仙台	日本	20240306	流行性感冒はいかに恐れられたか: ロシアかぜからスペインかぜまで	川内淳史
ADHD web Conference Spring	なし	該当なし	講演会	企業	武田薬品工業宮城営業所(Web)	長野山梨エリア	日本	20240306	私たちはグアンファンを正しく理解しているかーADHDに併存する精神疾患治療を見据えてー	國井泰人
令和6年能登半島地震ワークショップ	なし	該当なし	セミナー	なし	東京大学地震研究所	東京	日本	20240312	SAR画像解析による3次元変動場とその特徴	福島洋, 石村 大輔, 遠田 晋次, Chi-Hsien Tang, 高橋 直也, 高橋 尚志, 吉田 圭祐, 岩佐 佳哉, Luca Malatesta
ADHD WEB Lunch Conference	なし	該当なし	講演会	企業	武田薬品工業宮城営業所(Web)	東京	日本	20240312	私たちはグアンファンを正しく理解しているかーADHDに併存する精神疾患治療を見据えてー	國井泰人
令和5年度「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画(第2次)成果報告シンポジウム	なし	該当なし	ポスター	なし	東京大学弥生講堂	東京	日本	20240313	GPS-A観測による効率的な上下変動検出技術の開発と根室沖観測への適用	木戸元之
神経発達症診療ネットワークフォーラム	なし	該当なし	講演会	企業	ダイワロイネットホテル郡山駅前(Web)	石川富山エリア	日本	20240316	ADHD治療において本当にもとめられるもの-成人例からのバックキャストイング-	國井泰人
WAN博士論文報告会	あり	招待	その他	なし	オンライン		日本	20240317	Analysis of Gender Imbalance in Tsunami Evacuation: A Study Drawing from Community Archive Records of Disaster	北村美和子
Psychiatry Seminar	なし	該当なし	講演会	企業	ペリエ千葉	千葉	日本	20240322	統合失調症と双極性障害の病態に共通するもの、しないもの	國井泰人
科学研究費補助金(特別研究推進費)「2023年5月5日の地震を含む能登半島北東部陸海域で継続する地震と災害の総合調査」研究会	なし	該当なし	その他	行政	石川県文教会館、zoom	金沢	日本	20240326	復旧復興期における「合成の誤謬」リスクを踏まえた人文社会系・計画系諸科学の連携の必要性と試み	原 裕太, 武田公子, 山下良平, 齋藤 玲

学会以外の発表(研究者対象)・国際(除く学生のみ)

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
International Workshop for Learning Trajectories of Catastrophic Disasters and Building Resilience to Natural Hazards and Risks	なし	該当なし	セミナー	いいえ	京都大学	京都	日本	20230515	Managing Mass Death after the Great East Japan Earthquake	Sebastien Pennellen Boret
AGITHAR Stakeholder workshop	なし	招待	セミナー	なし	ロンドン大学	ロンドン	イギリス	20230516	Recent developments on tsunami risk assessment and consideration on decision-making	サッパシー アナワット
International Workshop for the Graduate Program in Resilience and Safety Studies	なし	該当なし	講演・講義	いいえ	東北大学	仙台	日本	20230519	Studying and Supporting Vulnerable Groups in Post-disaster Society: Bereaved families, Lost communities, and Disability	Sebastien Pennellen Boret
Special seminar for COAST research group	なし	招待	セミナー	なし	ブリマス大学	ブリマス	イギリス	20230614	Recent developments on tsunami risk assessment	サッパシー アナワット
MSc in Earthquake Engineering and Infrastructure Resilience Seminar Series	なし	招待	セミナー	なし	ブリストル大学	ブリストル	イギリス	20230616	Recent developments on tsunami risk assessment	サッパシー アナワット
APRU Presidents Meeting	無	いいえ	口頭(一般)	いいえ	University of Sydney	Sydney	Australia	20230626	APRU Multi-hazards program	Takako IZUMI
Mitate Lab	なし	該当なし	セミナー	なし	Online	Online	France	20230704	Japan's Disaster Risk Reduction Diplomacy and the Sendai Framework for Disaster Risk Reduction	Elizabeth Maly
APRU Multi-Hazards 2023 Summer School	なし	招待	講演・講義	なし	東北大学	仙台	日本	20230724	Recovery from the 2011 Great East Japan Earthquake and Challenges for the Future	Osamu Murao
BrainLink X-Lab Day for "6G Semantic Communication"	なし	基調	講演会	企業	Convention Center (Alpensia Resort Pyeongchang)	Pyeongchang	韓国	20230809	On Reconfigurable User-centric Radio Access Network Toward 5G/6G Communications	安達 文幸
The Role of Women in Community Resilience to Disasters	なし	招待	講演会	行政	インドネシア大使館・オンライン	ジャカルタ	インドネシア	20230810	Women Empowerment will make Resilience Society	Miwako Kitamura
International Conference on Science and Technology for Sustainability 2023 - Transforming Society to Become Resilient and Sustainable beyond Catastrophic Disasters -	なし	はい	その他	行政	日本学術会議講堂	東京	日本	20230908	Co-chair of High Level Panel Session	Shinichi Egawa
Risques et vulnérabilités des sociétés et des patrimoines au Japon	なし	該当なし	セミナー	いいえ	University of Franche-Comte	Besancon	フランス	20230918	Risques et vulnérabilités des sociétés et des patrimoines au Japon	Sebastien Pennellen Boret
Symposium of retirement of Prof.Yalciner : Marine Hazards and Resilience	なし	招待	セミナー	なし	中東工科大学	アンカラ	トルコ	20230920	Collaboration on tsunami research between Japan and Turkey	サッパシー アナワット
UW-TU:AOS Fall Workshop 2023	なし	該当なし	セミナー	企業		Seattle	USA	20230921	Breaking the Wall of Tsunami Warning - Developing Tsunami Digital Twin -	Shunichi Koshimura
Multidisciplinary review of the situation in Fukushima School for Advanced Studies in the Social Sciences	なし	該当なし	講演・講義	いいえ	School for Advanced Studies in the Social Sciences	Paris	フランス	20230921	The Role of Memory and Mourning within the Social Reconstruction of Disaster Communities of Tohoku: 12 Years on	Sebastien Pennellen Boret
15th AIWEST-DR Conference 2023	あり	該当なし	口頭(一般)	なし	Gadjah Mada University	Yogyakarta	Indonesia	20231013	Disaster Picture Books in Japan and the U.S.:An Inventory and International Comparison	Elizabeth Maly, Ryo Saito, Julia Gerster
International Workshop on Maritime Disasters Measures, 2023 Global Cooperation and Training Framework (GCTF)	なし	招待	口頭(基調・招待・Plenary・Keynote)	企業		台北市	台湾	20231017	Catastrophic Tsunami Disaster - Its Impact, Disaster Response, and Mitigation -	Shunichi Koshimura

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
Localizing DRR actions: public, private, academic, and community collaboration	無	いいえ	口頭(一般)	いいえ	Geno Hotel	Sha Alam	Malaysia	20231019	Achievements of JPP SeDAR project	Takako IZUMI
International Symposium Disaster and Memory	なし	該当なし	セミナー	いいえ	東北大学	仙台	日本	20231019	The Temporality and Symbolic of Memory-Scape in Post-disaster Communities: A Study of the Monuments for the Victims of the Great East Japan Earthquake	Sebastien Pennellen Boret
Localizing DRR actions: public, private, academic, and community collaboration	無	いいえ	口頭(一般)	いいえ	Geno Hotel	Sha Alam	Malaysia	20231020	Policy recommendations from SeDAR project	Takako IZUMI
International seminar on tsunami research: Modelling and impacts on built environment	なし	招待	セミナー	なし	バース大学	バース	イギリス	20231120	Japanese knowledge for bridging tsunami research networks between UK and Middle East	サッパシー アナワット
Online seminar for Cambridge Disaster Research Network	なし	招待	講演・講義	なし	オンライン	ケンブリッジ	イギリス	20231121	The Great East Japan case study	Miwako Kitamura
EPICentre Seminar	なし	招待	セミナー	なし	ロンドン大学	ロンドン	イギリス	20231128	Recent developments on tsunami risk assessment	サッパシー アナワット
Resilience Forum, University of Philippines Tacloban	なし	Plenary	セミナー	なし	University of the Philippines	Tacloban	Philippines	20231128	Relocation of Coastal Communities after Typhoon Haiyan: A Tenth-year Reflection	Iuchi, K.
6th German-Japanese Workshop on Computational Mechanics	なし	該当なし	口頭(一般)	なし	RWTH Aachen Universität	Aachen	Germany	20231205	Real-time tsunami risk evaluation method by synthetic dynamics and Bayesian update	Reika Nomura, Saneiki Fujita, Yu Otake, Shuji Moriguchi, Shunichi Koshimura, Randall J. LeVeque, Kenjiro Terada
Anthropology of violence, death, and bereavement Seminar Series	なし	該当なし	セミナー	いいえ	Unité de Recherche Immigration et Société, CNRS	Paris	フランス	20231218	Mort collective, victimes du tsunami de 2011 et mémorialisation	Sebastien Pennellen Boret
GP-RSS Seminar	なし	招待	講演・講義	なし	Tohoku University	Sendai	日本	20240217	Opportunities and limitations of disaster reduction efforts in rebuilding	Kanako Iuchi
GP-RSS Seminar	なし	招待	セミナー	なし	東北大学	宮城	日本	20240219	Monitoring biodiversity of freshwater macroinvertebrates in polluted rivers by eDNA	Noriko Uchida
A3 Foresight Program 2024 Workshop ~ AI-Based Future IoT Technologies and Services~	なし	基調	講演会	なし	沖繩産業支援センター	那覇	日本	20240220	Ultra-high-density, yet Reconfigurable Radio Access Network for 5G/6G Systems	安達 文幸
International Disaster Workshop	なし	該当なし	指名	なし	IRIDeS, Tohoku University	Sendai	Japan	20240226	The current state of recovery and ongoing issues in Fukushima prefecture.	Gerster, Julia
APRU Multi-hazards workshop on All-Hazards Approach	無	いいえ	口頭(一般)	いいえ	IRIDeS	Sendai	Japan	20240314	Introduction to the All	Takako IZUMI
Tohoku University-ITRI-YRP R&D Workshop	なし	招待	講演会	なし	Industrial Technology Research Institute (ITRI)	Hsinchu	台湾	20240319	R&D for adaptive RAN toward 5G-advanced ~Design Concept of Reconfigurable User-centric RAN~	安達 文幸

学会以外の発表(研究者・一般市民対象)・国内(除く学生のみ)

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
「自己」研究会シンポジウムⅠ, お茶の水女子大学 発達心理学研究室	なし	該当なし	講演会		オンライン			20230421	自己3層モデルと災害を生きる力8因	杉浦元亮
日本建築家協会災害対策会議復興事前準備を考える-土木・都市計画・建築が連携する事前復興	なし	招待	講演・講義	なし	日本建築家協会東北支部/online	仙台/online	日本/online	20230426	事前移転による被害軽減効果	村尾修, 東野幹久
教育学研究科×加齢医学研究所 ジョイント・シンポジウム 人文科学×脳科学-未来の教育に脳科学を活かすには-	なし	該当なし	講演会		東北大学教育学研究科	仙台	日本	20230712	生きる力を脳から理解する	杉浦元亮
9th Joint Workshop between Case Western Reserve University and Tohoku University	なし	該当なし	ポスター	行政	Tohoku University	Sendai	Japan	20230808	Are you interested in brain research using MRI? Brain MRI Center, IDAC, Tohoku Univ	Motoaki Sugiura
9th Joint Workshop between Case Western Reserve University and Tohoku University	なし	該当なし	ポスター	行政	Tohoku University	Sendai	Japan	20230808	The effect of social interaction on second language emotionality perception: an fMRI study. Brain MRI Center, IDAC, Tohoku Univ	Chunlin Liu, Hyeonjeong Jeong, Haining Cui, Jean-Marc Dewaele, Kiyoko Okamoto, Yuichi Suzuki and Motoaki Sugiura
宮城県原子力防災基礎研修	あり	該当なし	口頭(招待)	行政	仙台国際センタ	仙台市	日本	20230704	放射線と放射能の基礎知識	千田浩一
宮城県原子力防災基礎研修	あり	該当なし	口頭(招待)	行政	仙台国際センタ	仙台市	日本	20230705	放射線と放射能の基礎知識	千田浩一
宮城県原子力防災基礎研修	あり	該当なし	口頭(招待)	行政	遊楽館	石巻市	日本	20230706	放射線と放射能の基礎知識	千田浩一
木材利用システム研究会 サステナビリティ部会	なし	招待	講演・講義	企業	東京大学(弥生)	東京	日本	20230821	防災×森林×木材利用	原 裕太
Workshop Series on Ukraine's Recovery and Future.	なし	招待	口頭(招待)	なし	Tohoku University	Sendai	Japan	20230908	Others have it worse": Hierarchies of affectedness and their implications for traumatic events.	Gerster, Julia
東北大学-防災科学技術研究所 人材育成連携促進ワークショップ	なし	該当なし	講演会		東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	20230912	脳機能計測を防災研究に活かす	杉浦元亮
防災教育交流会(ぼうさいこくたい2023)	なし	招待	講演会	行政	横浜国立大学	横浜市	日本	20230918	コミュニティ・スクール×防災教育の持続可能性	佐藤 健
ぼうさいこくたい2023	なし	該当なし	公開講座	行政	横浜国立大学	横浜市	日本	20230918	アメリカの市民はなぜ義援金を送ったのか~関東大震災、黎明期の国際災害支援~	小野 裕一
スピリチュアリティ研究と脳研究の接面	なし	該当なし	講演会		東北大学加齢医学研究所	仙台	日本	20230920	悲しい音楽を嗜好するメカニズムの解明に向けて	土屋百世, 竹本あゆみ, Jeyoon Choi, 杉浦元亮
Possibilities for the study of brain functions in language, cognition, and emotion	なし	該当なし	講演会		Faculty of Arts and Letters, Tohoku University	Sendai	Japan	20230921	Neural Correlates of Motivation Behind Different Dialogue Modes	Yin May Zin Han, Yichuan Huang, Sachiyo Shirahama, Hyeonjeong Jeong and Motoaki Sugiura
Possibilities for the study of brain functions in language, cognition, and emotion	なし	該当なし	講演会		Faculty of Arts and Letters, Tohoku University	Sendai	Japan	20230921	The Learning Mechanism of Nominal Classification Systems	Diego Elisandro Dardon, Hyeonjeong Jeong and Motoaki Sugiura

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
18th Human Brain Science Seminar "Network and dynamic analysis of fMRI time series."	なし	該当なし	セミナー		IDAC, Tohoku University	Sendai	Japan	20230922	Neural bases of power to live	Motoaki Sugiura
Memories and "Negative History": How to convey the 3.11 Disasters?	なし	Keynote	講演・講義	なし	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	20230923	Current Situation of Disaster Storyteller Activities in Japan: An Analysis of Tohoku and Other Regions that Pass down Experiences of catastrophes, including Disasters, Wars, and Accidents	佐藤翔輔
東北大学災害科学国際研究所シンポジウム「関東大震災100年の節目に考える「これからの防災」 [IRIDeS Symposium on the 100th anniversary of the Great Kanto Earthquake. Implications for disaster mitigation].	なし	招待	その他	なし	IRIDeS, Tohoku University	Sendai	Japan	20230928	Commentary, Round Table Discussion on the Great Kanto Earthquake.	Gerster, Julia
東北大学災害科学国際研究所シンポジウム「関東大震災100年の節目に考える「これからの防災」	なし	該当なし	公開講座	なし	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	20230928	関東大震災と日米関係: 今後の国際防災協力への示唆	川内淳史, 小野裕一, 中鉢奈津子, 吉野賢, 小野天輝
東北大学災害科学国際研究所シンポジウム(第84回IRIDeSオープンフォーラム)	なし	招待	講演・講義	なし	東北大学	仙台	日本	20230928	1923年関東大震災以降の首都圏拡大状況と都市リスク(1891-2023)	村尾修
熊本大学「D2 Learning from Experiences Doctors Seminar, 2023」	なし	招待	公開講座	企業	web			20231018	東北大学病院における事業継続計画策定に係る取組	佐々木宏之
第8回福島原発事故による周辺生物への影響に関する勉強会	なし	いいえ	口頭(一般)	いいえ	東北大学	仙台	日本	20231028	不溶性セシウム粒子による細胞影響解析	鈴木正敏, 遠藤暁, 二宮和彦, 山田裕, 千田浩一, 福本学
第8回福島原発事故による周辺生物への影響に関する勉強会	なし	いいえ	口頭(一般)	いいえ	東北大学	仙台	日本	20231028	福島第一原発事故に被災した野生ニホンザル血漿の酸化ストレス解析	佐藤拓, 鈴木正敏, 石川諒, 遠藤暁, 山下琢磨, 木野康志, 磯部理央, 福本学, 千田浩一
第8回福島原発事故による周辺生物への影響に関する勉強会	なし	いいえ	口頭(一般)	いいえ	東北大学	仙台	日本	20231028	低濃度トリチウムへ持続的に暴露した正常ヒト上皮細胞のトリチウム取り込み量や局在とDNA二重鎖切断誘発との関連性	磯部理央, 鈴木正敏, 木野康志, 石川諒, 佐藤拓, 福本学, 千田浩一
第8回福島原発事故による周辺生物への影響に関する勉強会	なし	いいえ	口頭(一般)	いいえ	東北大学	仙台	日本	20231028	134Cs, 137Cs, 129I, 131Iにおけるニホンザルの内部・外部被ばく臓器線量率換算係数の推定と線量評価	高村佑汰, 梶本剛, 鈴木正敏, 福本学, 田中憲一, 遠藤暁
第8回福島原発事故による周辺生物への影響に関する勉強会	なし	いいえ	口頭(一般)	いいえ	東北大学	仙台	日本	20231028	ICP-MSによる甲状腺中129I濃度を用いた131I甲状腺線量の推定*	遠藤暁, 加納大志郎, 高村佑汰, 梶本剛, 鈴木正敏, 大野剛, 福本学,
第8回福島原発事故による周辺生物への影響に関する勉強会	なし	いいえ	口頭(一般)	いいえ	東北大学	仙台	日本	20231028	放射線によってヒドロキシアパタイト中に誘起したラジカルの電子スピン共鳴法による分析	山下琢磨, 光安優典, 小野健太, 岩見聡音, 岡崎崇, 高橋温, 木野康志, 関根勉, 清水良央, 千葉美穂, 鈴木敏彦, 小坂健, 佐々木啓一, 佐藤拓, 磯部理央, 鈴木正敏, 福本学, 篠田壽
第8回福島原発事故による周辺生物への影響に関する勉強会	なし	いいえ	口頭(一般)	いいえ	東北大学	仙台	日本	20231028	染色体転座解析をレジリエンスへ如何に活用するか?	三浦富智, 鈴木正敏, 藤嶋洋平, 有吉健太郎, 中山亮, Anderson Donovan, 磯部理央, 佐藤拓, 木野康志, 遠藤暁, 千田浩一, 吉田光明, 福本学
東京ビエンナーレ2023 シンポジウム「つくる事が生きること2023: 震災100年, その時アートは」	なし	招待	講演・講義	企業	エトワール海渡リビング館	東京	日本	20231030	災害・復興・防災: 関東大震災からの100年	村尾修
サイエンスアゴラ2023	なし	該当なし	公開講座	行政	テレコムセンタービル	東京都	日本	20231118	関東大震災から100年～防災におけるコレクティブインパクトの創出に向けて 100 years after the Great Kanto Earthquake ~ Toward Creating Collective Impact in BOSAI	小野 裕一
健康寿命の延伸に向けた学際認知神経科学	なし	該当なし	講演会		東北大学加齢医学研究所	仙台	日本	20231204	高齢者が死について考える時の脳活動: fMRI研究	杉浦元亮
RCAS Lecture Series	なし	招待	口頭(招待)	なし	Ritsumeikan, Asia Pacific University	Beppu	Japan	20231205	Japan's disaster cultural memory. Narrating 3.11.	Gerster, Julia
災害医学研究部門セミナー	なし	招待	セミナー	なし	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	20231214	事例で見るNatechリスクマネジメントとキャスケード効果	Hyejeong Park
令和6年能登半島地震に関する連報会	なし	はい	口頭(招待)	なし	災害科学国際研究所	仙台	日本	20241019	令和6年能登半島地震被災地の医療ニーズと災害医療対応	江川新一, 佐々木宏之
Winter Workshop on Mechanism of Brain and Mind 2024	なし	該当なし	ポスター	企業	Rusutsu Resort Hotel	Hokkaido	Japan	20240110	The impact of social acceptance on the self-referential processing: an fMRI study	Yi Ding, Kentaro Oba, Ryo Ishibashi, Shinsuke Suzuki and Motoaki Sugiura
第8回民法研究会	なし	招待	講演会		東北大学法学研究科	仙台	日本	20240111	fMRI脳機能計測研究の基礎と法学への応用可能性	杉浦元亮
第4回震災復興・災害科学シンポジウム	なし	招待	講演会		オンライン		日本	20240120	災害への適応的心理・行動特性: 災害を生きる力の8因子	杉浦元亮
放射線防護部会	あり	招待	口頭(招待)	行政	青森県立中央病院	青森市	日本	20240202	医療被ばく管理の基本について	千田浩一
宮城県原子力防災基礎研修	あり	該当なし	口頭(招待)	行政	仙台市民会館	仙台市	日本	20240208	放射線と放射能の基礎知識	千田浩一
宮城県原子力防災基礎研修	あり	該当なし	その他	行政	仙台市民会館	仙台市	日本	20240209	(実習)身の回り放射性物質確認	千田浩一
第11回越境地域政策研究フォーラム	なし	招待	講演会	行政	愛知大学	豊橋	日本	20240210	人流データ活用の可能性と課題	永田 彰平
第10回全国史料ネットワーク研究交流会	なし	該当なし	ポスター	行政	一橋大学	国立	日本	20240218	あおり資料ネットワーク準備会の活動	片岡太郎, 小田桐隆弥, 中田書矢, 伊藤由美子, 瀧本壽史, 川内淳史, 蝦名裕一, 斎藤善之
マーケティング×脳科学～消費者の意思決定構造の理解へ	なし	該当なし	講演会		東北大学加齢医学研究所	仙台	日本	20240221	fMRI研究の基礎と価値表衆・意思決定のfMRI研究	杉浦元亮
マーケティング×脳科学～消費者の意思決定構造の理解へ	なし	招待	講演会		東北大学加齢医学研究所	仙台	日本	20240221	端効果についてのfMRI研究	大方翔貴, 杉浦元亮
宮城史料ネットワーク20周年シンポジウム「いくつもの災害を超えて」	なし	該当なし	講演会	なし	東北大学	仙台	日本	20240224	活動のこれから: 東日本大震災を踏まえて	蝦名裕一, 天野真志, 安田容子, 川内淳史
法学・政治学×脳科学	なし	該当なし	講演会		東北大学加齢医学研究所	仙台	日本	20240304	fMRI研究の基礎と人物選択のfMRI研究	杉浦元亮
仙台防災未来フォーラム2024	なし	該当なし	講演・講義	行政	国際センター	仙台市	日本	20240309	インクルーシブ防災と数値シミュレーション	野村怜佳, 森口周二, 寺田賢二郎
仙台防災未来フォーラム2024	なし	いいえ	その他	なし	仙台国際センター	仙台	日本	20240309	防災モビリティ学の提案: モビリティから考える誰一人取り残さない防災	斎藤玲, 柴山明寛, 鎌田健一, 今村文彦
仙台防災未来フォーラム2024	あり	該当なし	講演・講義	行政	仙台国際センター	仙台	日本	20240309	誰一人取り残さない防災に向けて: 医療的ケア児・者およびその家族との地域防災コミュニケーションの必要性	朴慧晶, 北村美和子, 原佑汰, 小野裕一, 栗山新一

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
仙台防災未来フォーラム2024	なし	該当なし	公開講座	行政	仙台国際センター	仙台市	日本	20240309	災害レジリエンス共創センターシンポジウム～世界のハザード・災害被害データの利活用に向けて～	小野 裕一
仙台防災未来フォーラム2024	なし	該当なし	その他	企業	仙台国際センター	宮城	日本	20240309	ブース展示「より良い復興と将来の災害に備えるための産学の取組み」	サツバシリー・アナワット、ヌイン・デビッド、内田典子、保田真理、鎌田健一
世界防災フォーラム 2023/IDRC2023 in SENDAI	あり	該当なし	ポスター	なし	仙台国際センター	仙台	日本	20240311	Lessons Learned from Four Natech Cases in Japan for Community-based Natech Risk Management	Hyejeong Park, Ana Maria Cruz

学会以外の発表(研究者・一般市民対象)・国際(除く学生のみ)

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
The Future of Forecasts and Warnings with Dr Sally Potter	なし	招待	セミナー	なし	ロンドン大学	ロンドン	イギリス	20230510	Disaster warning in Japan	サツバシリー アナワット
Tohoku – KU Leuven symposium	なし	該当なし	講演会		KU Leuven	Leuven	Belgium	20230607	Exploring the neural correlates of resilient personality traits	Motoaki Sugiura
IRDR Annual conference 2023	なし	招待	セミナー	なし	ロンドン大学	ロンドン	イギリス	20230622	How building international scientific collaborations can help in tracking disaster risks and focusing on the most vulnerable	サツバシリー アナワット
UCL Youth challenge 2023	なし	招待	セミナー	小中高	ロンドン大学	ロンドン	イギリス	20230728	Resilience in science and engineering perspectives: Quantitative approach	サツバシリー アナワット
Memories and “Negative History”: How to convey the 3.11 Disasters?	なし	招待	口頭(招待)	なし	IRIDeS, Tohoku University	Sendai	Japan	20230923	Challenges in Transmitting Disaster Memory in Iwate, Miyagi and Fukushima after 3.11	Gerster, Julia
Five-Year Commemoration of 28 September 2018, Central Sulawesi Earthquake	なし	該当なし	講演・講義	行政	Ruang Dualapan Creative Space	Palu	Indonesia	20230923	A QUESTION POSED: Coastal infrastructure and land use after the great disasters	Kanako Iuchi
Online seminar series on coastal zone risk mitigation and management	なし	招待	セミナー	なし	オンライン			20231012	Recent developments on tsunami risk assessment	サツバシリー アナワット
15th AIWEST-DR Conference 2023	あり	該当なし	その他	なし	Gadjah Mada University	Yogyakarta	Indonesia	20231013	Special session 4 - Leaving No One Behind: Disasters, Vulnerability, and Social Inclusion in Japan, Indonesia, and their partners	Elizabeth Maly, Miwako Kitamura, Sébastien Boret/ Hyejeong Park, Julia Gerster, Ryo Saito, David Nguyen
Long-term disaster recovery process: Lesson learned from disaster affected areas	なし	招待	セミナー	なし	オンライン			20231108	Current recovery progress and future perspective of the 2011 Japan tsunami affected areas	サツバシリー アナワット
Graduate School of East Asian Studies 10 years anniversary conference	なし	Plenary	口頭(Plenary)	なし	Harnack Haus (FU Berlin)	Berlin	Germany	20231110	Memory Transmission and Disaster Cultural Memory in Japan.	Gerster, Julia
The 4th Annual Internal WHO Meeting of DRR Focal Points, and The 5th Core Group Meeting of WHO Thematic Platform for Health EDRM Research Network	なし	はい	口頭(招待)	行政	Hyogo Museum of Art	神戸	日本	20231114	Translation of WHO Guidance on Research Methods for Health EDRM and dissemination in Japan	Shinichi Egawa
Online seminar for Cambridge Disaster Research Network	なし	招待	セミナー	なし	オンライン			20231121	Recent developments on tsunami risk assessment	サツバシリー アナワット
ICC Online Book Break	なし	該当なし	その他	なし	Online (Sophia University)	Online	(Japan)	20231125	On Japan's Triple Disaster. Pursuing Justice after the Great East Japan Earthquake, Tsunami and Nuclear Accident.	Novikova, Natalia, Gerster, Julia: Hartwig, Manuela
令和6年能登半島地震に関する速報会	なし	該当なし	口頭(Plenary)	なし	IRIDeS, Tohoku University	Sendai	Japan	20240109	災害時の多様なニーズ。被災者の中に外国人がいる。	Gerster, Julia
Findings from the 2024 Noto Peninsula Earthquake and Tsunami	なし	招待	セミナー	行政	東北大学災害科学国際研究所	宮城県	日本	20240221	Field surveys of the 2024 Noto Peninsula earthquake in Toyama and Niigata prefectures and characteristics of casualties	Anawat Suppasri

学会以外の発表(研究者以外・一般市民対象)・国内(除く学生のみ)

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
第5回3.11学びなおし塾	なし	該当なし	公開講座	行政	みやぎ東日本大震災津波伝承館	石巻	日本	20230409	オーガナイザー	佐藤翔輔
北広島市立西部中学校	なし	該当なし	その他	小中高	災害科学国際研究所	仙台市	日本	20230411	災害から命を守るために必要なこと	柴山明寛
～命を守るための民間震災伝承～3.11メモリアルネットワーク基金・2022年度助成報告会	なし	招待	その他	企業	オンライン	石巻	日本	20230411	講評	佐藤翔輔
仙台青年会議所 4月公開例会 結ぶ地域BOSAI	なし	招待	講演・講義	企業	フォレスト仙台第1・2ホール	仙台	日本	20230415	地域の自主的な防災活動	丸谷 浩明
第11回「震災対策技術展」東北—自然災害対策技術展—	なし	該当なし	講演・講義	企業	仙台中小企業活性化センター	仙台	日本	20230427	2022年7月の宮城県北部における河川氾濫とその地形・地質学的背景	高橋 尚志
第5回知りたひみやぎ復興の知恵	なし	該当なし	公開講座	行政	みやぎ東日本大震災津波伝承館	石巻	日本	20230507	オーガナイザー	佐藤翔輔
筑波大学附属中学校	なし	該当なし	その他	小中高	災害科学国際研究所	仙台市	日本	20230512	災害から命を守るために必要なこと	柴山明寛
令和5年度防災主任1年目研修会	なし	招待	セミナー	行政	宮城県総合教育センター	名取市	日本	20230512	ハザードマップを活用した災害特性の把握	村山 良之, 熊谷 誠, 佐藤 健, 桜井 愛子, 北浦 早苗
「震災対策技術展」東北 実行委員会主催 第11回「震災対策技術展」東北	なし	招待	講演会	企業	AERビル(仙台市中小企業活性化センター)	仙台	日本	20230522	事業継続マネジメント(BCM)の必要性と対応方法	丸谷 浩明
宮城県公務研修所主催 第61回行政課題研修 風水害を想定した災害対応コース	なし	招待	講演・講義	行政	宮城県公務研修所	富谷	日本	20230522	風水害等に対応する基本的防災制度及び平常時の備え	丸谷 浩明
防災講演会	なし	招待	講演・講義	小中高	南三陸町入谷小学校	南三陸町	日本	20230525	家庭、地域、関係機関等との連携・協働による防災教育の推進	佐藤 健
秋田県立秋田高校 出張授業「総合的な探求の時間」	なし	招待	講演・講義	小中高	秋田高校	秋田市	日本	20230531	都市の復興曲線がいかにして生まれたか	村尾修
鶴岡市立あつみ小学校	なし	該当なし	その他	小中高	災害科学国際研究所	仙台市	日本	20230601	災害から命を守るために必要なこと	柴山明寛

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
令和5年度石巻市管理職対象学校防災研修会	なし	招待	セミナー	行政	石巻市桃生公民館	石巻市	日本	20230602	避難のタイミングとその判断材料(洪水編)	佐藤 健, 桜井 愛子, 北浦 早苗, 村山 良之, 熊谷 誠, 小田 隆史, 橋本 雅和
階上中学校ガイダンス	なし	該当なし	その他	小中高	気仙沼市立階上中学校	気仙沼市	日本	20230602	探求学習のしくり紹介-高1での探求学習を例に-	新家杏奈
平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震15年・震災復興記念シンポジウム	なし	招待	講演・講義	行政	栗原文化会館	栗原	日本	20230603	2008年岩手・宮城内陸地震を伝える	佐藤翔輔
第6回3.11学びなおし塾	なし	該当なし	公開講座	行政	みやぎ東日本大震災津波伝承館	石巻	日本	20230604	オーガナイザー	佐藤翔輔
石巻市第1回防災主任研修会	なし	招待	セミナー	行政	河北総合センター	石巻市	日本	20230615	学校区の災害リスクを踏まえた児童在校時の緊急避難を考える～津波&土砂災害編～	桜井 愛子, 村山 良之, 佐藤 健, 熊谷 誠, 北浦 早苗, 小田 隆史
青森県立山目小学校校外学習	なし	該当なし	その他	小中高	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	20230615	インタビューからわかった東日本大震災での津波避難行動の特徴	新家杏奈
令和5年度大崎市学校安全担当者研修会	なし	招待	セミナー	行政	大崎市新本庁舎	大崎市	日本	20230616	地域と連携した防災教育	佐藤 健
Multicultural Disaster Preparedness Workshop	なし	該当なし	口頭(基調)	行政	International Center	Sendai	日本	20230617	Let's think about BOSAI. What is a disaster? □	Gerster, Julia
階上中学校探求学習相談会	なし	該当なし	その他	小中高	気仙沼市立階上中学校	気仙沼市	日本	20230619	講評	新家杏奈
兵庫県甲南高等学校	なし	該当なし	その他	小中高	災害科学国際研究所	仙台市	日本	20230620	災害から命を守るために必要なこと	柴山明寛
秋田南高校学部学科ガイダンス	なし	該当なし	講演・講義	小中高	オンライン		日本	20230620	東北大学の都市・建築学の魅力	佐藤 健
河北新報大110巡回ワークショップ・むすび塾	なし	該当なし	セミナー	企業	宮城県美里町 青生コミュニティセンター	宮城県美里町	日本	20230624	災害時のSNS活用	菅原大助, 田邊亜澄, 佐藤雅弘, 阿部 恵, 斎藤亜佐美, 新田和也, 山田 圭太, 小茄子川 蓮人, 和田敏弥
亘理町防災キャンプ	なし	該当なし	その他	行政	亘理町公民館	亘理町	日本	20230624	亘理防災キャンプ災害時の〇〇体験	新家杏奈
第6回知りたいみやぎ復興の知恵	なし	該当なし	公開講座	行政	みやぎ東日本大震災津波伝承館	石巻	日本	202300702	オーガナイザー	佐藤翔輔
校内研修会	なし	招待	講演・講義	小中高	大崎市立松山小学校	大崎市	日本	20230704	洪水を想定した場合の緊急避難場所の考え方	佐藤 健
江合・鳴瀬・吉田川流域治水シンポジウム	なし	招待	その他	行政	大崎生涯学習センター パレットおおさき(	大崎	日本	20220705	パネリスト パネルディスカッション	佐藤翔輔
NPO法人事業継続推進機構主催BCAO主任・准主任管理士継続教育	なし	招待	講演・講義	企業	WEB	東京都中央区	日本	20230711	南海トラフ・北海道・三陸沖後発地震注意情報への企業の備え	丸谷 浩明
静岡県主催 令和5年度災害時応急対策協定締結事業者研修会	なし	招待	講演会	行政	静岡県男女共同参画センターあざれあ	静岡	日本	20230718	南海トラフ地震の半割れも考えた企業行動	丸谷 浩明
なとり市講演会	なし	招待	公開講座	行政	名取市増田公民館	名取市	日本	20230723	地域史料の保全について	佐藤大介
三陸&東海防災フォーラム「伝」主催 第2回 防災学習会	なし	招待	講演会	企業	WEB	仙台	日本	20230723	南海トラフ地震や日本海溝・千島海溝地震の市民生活への影響を考える	丸谷 浩明
2023 UK-Japan Young Scientist Workshop	なし	招待	講演・講義	行政	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	20230804	What is a Disaster and Disaster Risks?	Hyejeong Park
第7回3.11学びなおし塾	なし	該当なし	公開講座	行政	みやぎ東日本大震災津波伝承館	石巻	日本	20230806	「震災復興と地域経済の再生」東北大学大学院経済学研究科教授 増田 聡 氏	佐藤翔輔
千葉県教育庁 令和5年度防災教育実践研修会(教員対象の部)	なし	招待	講演・講義	行政	千葉県庁	千葉市	日本	20230808	都市の災害リスクと学校	村尾修
いわき市理科教員勉強会	なし	該当なし	その他	行政	いわき市役所	いわき市	日本	20230818	学校・自治体での防災学習へのご支援口大学職員の活用方法-	新家杏奈
全国高等学校PTA連合会大会2023宮城大会	なし	該当なし	その他	小中高	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	20230824	災害科学国際研究所・津波工学研究分野のご紹介	菅原大助
第72回全国高等学校PTA連合会大会2023宮城大会第5分科会:「防災・減災教育いのちと希望を未来につなぐコミュニティの光	なし	基調	小中高との連携	小中高	仙台サンプラザホール	仙台	日本	20230824	実践的な災害対応能力を身につけるための「これからの」防災教育案	佐藤翔輔
事業継続推進機構仙台地域勉強会	なし	招待	講演会	行政	web			20230901	頻発・激甚化する豪雨水害とBCPのあり方に関する研究	佐々木宏之
第7回知りたいみやぎ復興の知恵	なし	該当なし	公開講座	行政	みやぎ東日本大震災津波伝承館	石巻	日本	20230903	オーガナイザー	佐藤翔輔
令和5年度宮城県防災指導員意見交換会(山元町)	なし	招待	その他	なし	山元町防災拠点・山下交流センター	山元町	日本	20230910	災害時の自主防災組織・宮城県防災指導員の役割	柴山明寛
北日本新聞社主催・富山県共催 TOYAMA BOSAI フォーラム2023	なし	招待	講演会	行政	富山県防災危機管理センター	富山	日本	20230913	事業継続計画(BCP)の意義と作成・改善の要点～激化する災害、感染症、調達困難などに対応するために～	丸谷 浩明
東北学院中学校	なし	該当なし	その他	小中高	災害科学国際研究所	仙台市	日本	20230914	災害から命を守るために必要なこと	柴山明寛
高山市立東山中学校	なし	該当なし	その他	小中高	災害科学国際研究所	仙台市	日本	20230914	災害から命を守るために必要なこと	柴山明寛
内閣府等主催 ぼうさいこくたい2023 BCAO主催 事業継続(BC)普及セミナー	なし	該当なし	講演会	企業	横浜国立大学	横浜	日本	20230917	東北大学でのBCPの運用・訓練の経験	丸谷 浩明
ぼうさいこくたい2023	なし	該当なし	その他	企業	横浜国立大学	神奈川	日本	20230918	きみはなにいろ? 防災・減災スタンダラー-de自己評価	今村文彦, 鎌田健一, 保田真理, 内田 典子, 武田真一, 伊藤智栄子, 佐藤雅美, 杉浦加奈子
ぼうさいこくたい	無	いいえ	口頭(一般)	なし	横浜国立大学	横浜	日本	20230918	仙台防災枠組みの市民への理解促進に向けた取り組み	泉 貴子
東北地方環境事務所・気候変動の影響への適応 令和5年度ランチタイムセミナー, 第3回 自然災害・沿岸域分野	なし	招待	講演・講義	行政	オンライン	仙台	日本	20230921	事例にまなぶ・大雨・台風災害からいのちを守る避難とそなえ	佐藤翔輔
鹿折中学校ガイダンス	なし	該当なし	その他	小中高	気仙沼市立鹿折中学校	気仙沼市	日本	20230922	インタビュー方法の説明と実践	新家杏奈
防災講演会	なし	該当なし	その他	なし	杜のみらい(保育園)	仙台	日本	20230925	防災・減災に向けた東北大学の取り組みと巨大津波災害の予測に関する研究について	菅原大助
すくっぴー親子DE減災・防災	なし	招待	その他	なし	すくっぴーひろば	多賀城市	日本	20230925	多賀城市の防災について	柴山明寛

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
東北大学災害科学国際研究所シンポジウム(第84回IRIDeSオープンフォーラム)『関東大震災100年の節目に考える「これからの防災」』	なし	該当なし	講演・講義	なし	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	20230928	1923年関東地震に伴う斜面崩壊と河川流域におけるその長期的なインパクト	高橋 尚志
第84回IRIDeSオープンフォーラム / 東北大学災害科学国際研究所シンポジウム 関東大震災100年の節目に考える「これからの防災」	なし	該当なし	講演・講義	なし	東北大学	仙台	日本	20230928	関東大震災と地震保険の発展	鎌田健一
大阪府立天王寺高等学校	なし	該当なし	その他	小中高	災害科学国際研究所	仙台市	日本	20231001	災害から命を守るために必要なこと	柴山明寛
令和5年度学びなおし塾(第8回)	なし	該当なし	公開講座	行政	みやぎ東日本大震災津波伝承館	石巻	日本	20231001	中長期的大規模調査からみえてきた震災の健康影響とその対策	栗山進一
みやぎ東日本大震災津波伝承館・ボランティア解説員認定式	なし	招待	その他	行政	みやぎ東日本大震災津波伝承館	石巻	日本	20231001	プレゼンター	佐藤翔輔
第8回3.11学びなおし塾	なし	該当なし	公開講座	行政	みやぎ東日本大震災津波伝承館	石巻	日本	20231001	オーガナイザー	佐藤翔輔
徳島大学BCP研究部会	なし	招待	講演会	行政	徳島大学	徳島市	日本	20231002	頻発・激甚化する豪雨水害とBCPのあり方に関する研究	佐々木宏之
オンライン開放型講座 地域未来学	なし	招待	講演・講義	企業	オンライン	オンライン	日本	20231007	学び手が伝え手になる～持続可能な災害伝承に向けて～	呂本俊亮
いのまき防災・震災伝承コミュニティ2023年度 第2回研修会	なし	基調	講演・講義	行政	石巻市役所	石巻	日本	20231008	昨今の大雨災害の特徴と石巻市防災士協議会への期待	佐藤翔輔
株式会社東京ビッグサイト主催 危機管理産業展2023「事業継続(BC)の基礎と事業継続推進機構で学べること」	なし	該当なし	講演会	企業	東京ビッグサイト	東京都江東区	日本	20231011	事業継続(BC)の基礎	丸谷 浩明
老壮大学「沖野耕友大学」	なし	招待	公開講座	行政	仙台市沖野市民センター	仙台市	日本	20231013	関東大震災と仙台市・宮城県	佐藤大介
東北大学模擬講座	なし	該当なし	その他	なし	石巻高校	石巻市	日本	20231017	大学模擬講座(震災デジタルアーカイブとは)	柴山明寛
水戸第一高等学校・附属中学校「文理・融合講座」	なし	招待	小中高との連携	小中高	県立水戸第一高等学校	水戸	日本	20231020	災害科学における学際研究の現在～特に医学的な側面から～	栗山進一
3D都市モデルで防災を考えるワークショップ	なし	招待	その他	なし	S.FRONT 4階会議室	仙台市	日本	20231021	大規模災害に備えるためのデジタル社会での協働モデル	柴山明寛
諏訪清陵高等学校附属中学校	なし	該当なし	その他	小中高	災害科学国際研究所	仙台市	日本	20231026	災害から命を守るために必要なこと	柴山明寛
マンション管理業協会東北支部主催 防災講演会	なし	招待	講演・講義	企業	ハーネル仙台	仙台	日本	20231026	東北のマンション管理者にお勧めの事業継続・防災知識	丸谷 浩明
令和5年度石川県安全・健康教育講習会	なし	招待	セミナー	行政	オンデマンド配信		日本	20231027-20231110	家庭や地域と連携・協働した学校の防災体制の構築について	佐藤 健
第75回東北大学祭模擬講義	なし	招待	講演・講義	なし	東北大学	仙台	日本	20231028	関東大震災から100年:災害と都市の復興	村尾修
せんだい市民カレッジ 防災減災講座	なし	招待	講演会	行政	仙台市生涯学習センター	仙台市	日本	20231028	災害医療の基礎知識	佐々木宏之
令和5年度愛知県防災教育指導者研修会	なし	招待	セミナー	行政	ウイングあいち	名古屋市	日本	20231031	家庭や地域と連携・協働した学校の防災体制の構築に向けて	佐藤 健
令和5年度防災講演会・塩釜地区消防事務組合消防本部・塩釜地区防災安全協会	なし	基調	講演・講義	行政	七ヶ浜国際村	七ヶ浜	日本	20231102	3.11でわたしたちが学んだことをこれからに活かす	佐藤翔輔
「未来につながる川柳コンテスト」	なし	招待	その他	行政	気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼	日本	20231105	受賞作品の選定	佐藤翔輔
第8回知りたいみやぎ復興の知恵	なし	該当なし	公開講座	行政	みやぎ東日本大震災津波伝承館	石巻	日本	20231105	オーガナイザー	佐藤翔輔
大船渡まちり大学	なし	該当なし	その他	なし	キャッセン大船渡	大船渡市	日本	20231107	“だって私の場所だもん”と言ってもらうために必要な10のこと	柴山明寛
福岡高等学校	なし	該当なし	その他	小中高	災害科学国際研究所	仙台市	日本	20231109	災害から命を守るために必要なこと	柴山明寛
令和5年度仙台市地域防災リーダー新規養成講習会	なし	招待	セミナー	行政	オンワード樺山	仙台市	日本	20231111-20231112	自分の住んでいる地域の特性の理解	佐藤 健
石巻市震災遺構門脇小学校・大川小学校 令和5年度 語り部・伝承者育成講座	なし	招待	講演・講義	行政	石巻市震災遺構門脇小学校	石巻	日本	20231111	語って、語りつづけ、語り継いでいってほしいわけ	佐藤翔輔
滋賀県立高島高等学校	なし	該当なし	その他	小中高	災害科学国際研究所	仙台市	日本	20231114	災害から命を守るために必要なこと	柴山明寛
第5学年総合的な学習の時間(地震から自分の身を守るために)	なし	該当なし	講演・講義	小中高	宮城教育大学附属小学校	仙台市	日本	20231115	校内内で自分の身を守るために	佐藤 健
みんなで学ぶ気候変動フォーラム～地球環境のために今私たちができることを考える～	なし	該当なし	セミナー	企業	渋谷ヒカリエ	東京都	日本	20231119	気候変動における社会的対策について、どのような打ち手があるのか?	小野 裕一
令和5年度防災主任研修会(北部)	なし	招待	セミナー	行政	大崎合同庁舎	大崎市	日本	20231121	北部教育事務所管内を中心とした災害履歴と防災モデル事業～この20年間を振り返る～(地震を中心に)	佐藤 健
ぼうさいキッズパーク(みやぎ東日本大震災津波伝承館)	なし	該当なし	その他	行政	みやぎ東日本大震災津波伝承館	石巻	日本	20231123	災害を生きぬく力おためしゲーム	佐藤翔輔
仙台市東中田市民センター主催「防災・減災学びの学校」	なし	招待	その他	なし	仙台市東中田市民センター	仙台市	日本	20231125	名取川水系域における地震、津波、洪水の災害から身を守る備えと行動とは	柴山明寛
コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム「災害国際協力セミナー」	なし	招待	講演・講義	なし	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	20231125	カスケード災害効果とNatech災害の備え	Hyejeong Park
鹿折中学校中間発表	なし	該当なし	その他	小中高	気仙沼市立鹿折中学校	気仙沼市	日本	20231128	講評	新家杏奈
令和5年度宮城野区防災セミナー	なし	招待	講演・講義	行政	宮城野区役所	仙台	日本	20231129	大雨災害からいのちを守る	佐藤翔輔
山形県七まちづくり協議会	なし	招待	セミナー	行政	気仙沼市立階上中学校	山形	日本	20231130	景観とは何か ～街並み認識と地域価値とは～	平野勝也
階上中学校最終発表	なし	該当なし	その他	小中高	気仙沼市立階上中学校	気仙沼市	日本	20231202	講評	新家杏奈
令和5年度岩手県自主防災組織リーダー研修会	なし	招待	その他	なし	岩手県久慈地区合同庁舎	久慈市	日本	20231203	少子高齢化及び過疎化が加速する中で自主防災組織のあり方について	柴山明寛
第9回3.11学びなおし塾	なし	該当なし	公開講座	行政	みやぎ東日本大震災津波伝承館	石巻	日本	20231203	オーガナイザー	佐藤翔輔
3.11メモリアルネットワーク基金助成2023年度報告会	なし	招待	その他	企業	オンライン	石巻	日本	20231204	市民がおこなう災害伝承	佐藤翔輔

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
防災講演会	なし	該当なし	その他	なし	魚津埋没林博物館	魚津	日本	20231209	海岸の地層から分かる？日本海の古地震・古津波	菅原大助
鹿折中学校最終発表	なし	該当なし	その他	小中高	気仙沼市立鹿折中学校	気仙沼市	日本	20231209	講評	新家杏奈
鯉ヶ沢町大雨災害をふり返る「資料レスキューと災害史」フォーラム	なし	該当なし	講演会	行政	鯉ヶ沢町舞戸公民館	鯉ヶ沢	日本	20231210	災害からの歴史資料レスキューと資料ネット活動	川内淳史
七ヶ浜町 令和5年 災害時避難を考えるシンポジウム	なし	招待	その他	行政	七ヶ浜国際村	七ヶ浜	日本	20231210	パネルディスカッション コーディネーター	佐藤翔輔
令和5年度第2回七ヶ浜町地域福祉推進会議	なし	招待	その他	行政	七ヶ浜町中央公民館	七ヶ浜	日本	20231212	講評	佐藤翔輔
第一回SATOYAMAフォーラム	なし	招待	指名	企業	国連大学	東京都	日本	20231212	緑豊かな都市型防災拠点の形成に向けた活動報告-地域・施設への愛着形成を目指して-	新家杏奈
すくびー親子DE減災・防災	なし	招待	その他	なし	すくびーひろば	多賀城市	日本	20231215	多賀城市の防災について	柴山明寛
令和5年度岩手県自主防災組織リーダー研修会	なし	招待	その他	なし	岩手県立大学	滝沢市	日本	20231216	少子高齢化及び過疎化が加速する中での自主防災組織のあり方について	柴山明寛
令和5年度みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会	なし	招待	セミナー	行政	宮城県庁	仙台市	日本	20231216	講義Ⅱ 自然災害の基礎と地域における災害対策	佐藤 健
令和5年度みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会	なし	招待	セミナー	行政	パレットおおさき	大崎市	日本	20231217	講義Ⅱ 自然災害の基礎と地域における災害対策	佐藤 健
日本新聞博物館・シンポジウム「来るべき災害をどう伝えるか」	なし	招待	その他	行政	日本新聞博物館	横浜	日本	20231217	コーディネーター	佐藤翔輔
岩手県文化財委議協第8回郷土史学習会	なし	招待	講演・講義	なし	盛岡八幡宮参集殿	盛岡	日本	20231220	元禄十六年「新法」事件について	蝦名裕一
仙台明治青年大学	なし	招待	公開講座	行政	仙台市榴ヶ岡市民センター	仙台市	日本	20231221	仙台藩の洋式帆船開成丸の航跡	佐藤大介
「仙台に残されていた関東大震災の記録:100年の時を経て特別公開」	なし	招待	シンポジウム・パネルディスカッション	なし	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	20231223	討論:1923年関東大震災と2011年東日本大震災の教訓を、次の災害にどう生かすか	佐藤大介
第9回知りたひみやぎ復興の知恵	なし	該当なし	公開講座	行政	みやぎ東日本大震災津波伝承館	石巻	日本	20240107	オーガナイザー	佐藤翔輔
令和5年度東日本大震災アーカイブシンポジウム	なし	該当なし	その他	なし	災害科学国際研究所	仙台市	日本	20240108	震災アーカイブの意義についてーみちのく震録伝の経験からー	柴山明寛
能登半島報告会	なし	該当なし	その他	なし	災害科学国際研究所	仙台市	日本	20240109	穴水町と七尾市の現地調査結果(建物・地盤関係)	柴山明寛, 榎田 竜太, 森口周二, 呉修一
地域の歴史・文化再発見講座	なし	招待	公開講座	行政	泉大津市立図書館	泉大津	日本	20240111	明治時代のコロナ流行!?「ロシア風邪」とは	川内淳史
令和5年度 岩手県防災・危機管理トップセミナー	なし	基調	その他	行政	オンライン	岩手県	日本	20240114	令和6年能登半島地震と近年の風水害で明らかになった課題	柴山明寛
いわき市令和5年度自主防災組織研修会	なし	招待	その他	なし	いわき市文化センター 1階大ホール	いわき市	日本	20240114	少子高齢化及び過疎化が加速する中での自主防災組織のあり方について	柴山明寛
国立大学病院長会議常置委員会企画・運営担当(災害担当)主催講演会	なし	招待	講演会	企業	web		日本	20240117	災害時の病院機能維持 ～BCPは機能維持のたきぎ台～	佐々木宏之
気仙沼市役所・令和5年度第2回震災の教訓等を伝承する職員研修	なし	招待	その他	行政	気仙沼市役所	気仙沼	日本	20240117	総評	佐藤翔輔
令和5年度岩沼市防災講演会	なし	招待	講演・講義	行政	岩沼市民会館大ホール	岩沼	日本	20240120	東日本大震災後の健康課題を解決し、次の大規模災害へ十分に備えよう!	栗山進一
広瀬川をゆっくり歩か会ガイド講座	なし	招待	セミナー	行政	仙台市片平市民センター	仙台市	日本	20240121	江戸時代の旅人が見た広瀬川境界・越後長岡藩士の記録を読む	佐藤大介
気仙沼市防災フォーラム	なし	招待	講演・講義	行政	気仙沼市中央公民館	気仙沼市	日本	20240123	災害に強いまちづくり～コミュニティ・スクール(CS)を活かす	佐藤 健
第8回気仙沼市防災フォーラム兼東北大学災害科学国際研究所第36回防災文化講演会	なし	招待	小中高との連携	小中高	気仙沼中央公民館	気仙沼	日本	20240123	ファシリテーター パネルディスカッション・災害に強いこれからの気仙沼のまちづくりについて	佐藤翔輔
令和5年度仙台版防災教育研修(第2回研修会)	なし	招待	セミナー	行政	オンライン		日本	20240125	地震を中心とした防災学習の推進に向けて～仙台市だから豊かな学びとなる可能性～	佐藤 健
第2回石巻防災・震災伝承のつどい(石巻市)	なし	該当なし	その他	行政	蛇田公民館	石巻	日本	20240128	ファシリテーター パネルディスカッション・地域防災と次世代の担い手	佐藤翔輔
令和5年度桂市民センター主催事業防災講座	なし	該当なし	セミナー	企業	宮城県仙台市桂市民センター	宮城県仙台市	日本	20240203	防災・減災を学ぼうー自然科学・社会科学の両面から考えるー	菅原大助, 田邊亜澄
令和5年度3.11学びなおし塾	なし	招待	講演・講義	行政	みやぎ東日本大震災津波伝承館	石巻市	日本	20240204	東日本大震災の被災地での防災教育～「復興マップづくり」から「復興・防災マップづくり」へ～	佐藤 健
第2回みやぎ災害伝承ポスターコンクール授賞式	なし	招待	その他	行政	みやぎ東日本大震災津波伝承館	石巻	日本	20240204	講評	佐藤翔輔
第10回3.11学びなおし塾	なし	該当なし	公開講座	行政	みやぎ東日本大震災津波伝承館	石巻	日本	20240204	オーガナイザー	佐藤翔輔
港区芝地区総合支所主催 事業者向け防災セミナー オンラインコース①	なし	招待	講演・講義	行政	WEB	東京都港区	日本	20240216	BCPが求められる理由とポイント～第一歩を踏み出しましょう～	丸谷浩明
第6回東日本大震災 伝承シンポジウム-つながりあって伝えあう:学校被災の伝承から考える-	なし	招待	その他	企業	山元町防災拠点・山下地域交流センター	山元	日本	20240217	総括	佐藤翔輔
日本遺産認定5周年記念「みちのくGOLD浪漫」シンポジウム2024「石巻、江戸時代の旅と道」	なし	基調	公開講座	行政	石巻市博物館	石巻市	日本	20240218	片倉小十郎家の御隠居、北上川河口を旅する。紀行文「雲谷水郷」を読む	佐藤大介
宮城資料ネット20周年シンポジウム	なし	該当なし	公開講座	なし	東北大学大学院環境科学研究科	仙台市	日本	20240223	20年、ないしは25年「そこ」に居合わせて 自分史からの宮城資料ネット、およびその前史	佐藤大介
あれから13年スペシャル Part1～みんなの災害体験を100年後の人たちへ～(Team Sendai)	なし	該当なし	その他	行政	仙台市役所	仙台	日本	20240224	災害エスノグラフィー調査ウォッチング+(プラス)	佐藤翔輔
せんだい豊齢学園公開講座・第2学年社会活動コース	なし	招待	講演・講義	行政	仙台市シルバーセンター	仙台	日本	20240226	仙台のまちづくり「いのちを守る災害・防災の基礎知識」	佐藤翔輔
港区芝地区総合支所主催 事業者向け防災セミナー 面談コース	なし	招待	講演・講義	行政	港区立産業振興センター	東京都港区	日本	20240227	首都直下地震の概要とBCP策定・改善のポイント	丸谷浩明
港区芝地区総合支所主催 事業者向け防災セミナー オンラインコース②	なし	招待	講演・講義	行政	WEB	東京都港区	日本	20240228	BCPが求められる理由とポイント～第一歩を踏み出しましょう～	丸谷浩明
日本危機管理士機構主催 危機管理士講座(自然災害)	なし	招待	講演・講義	企業	ワイルド貸会議室お茶の水	東京都千代田区	日本	20240301	業務継続計画(BCP)	丸谷 浩明

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
東日本大震災語りベシンポジウム「かたりつぎ in いわき」	なし	該当なし	その他	なし	いわき芸術文化交流館アリオス 中劇場	いわき市	日本	20240302	みちのく震録伝の報告	柴山明寛
第10回知りた〜みやぎ復興の知恵	なし	該当なし	公開講座	行政	みやぎ東日本大震災津波伝承館	石巻	日本	20240303	オーガナイザー	佐藤翔輔
栗駒山麓ジオパーク学術研究等奨励事業成果報告会	なし	該当なし	講演会	行政	栗原市役所	宮城県栗原市	日本	20240307	栗駒火山における完新世中期以降の水蒸気噴火に伴う噴出物の扇序と分布—水蒸気噴火ハザードの評価に向けて—	高橋 尚志, 遠田 晋次, 市川 玲輝, 諏訪 貴一
仙台防災未来フォーラム2024	なし	招待	講演会	小中高	仙台国際センター	仙台	日本	20240309	なぜ、手紙はアメリカに届けられたのか? : 関東大震災と日米関係	川内淳史
仙台未来フォーラム(JICAセッション)	無	はい	口頭(一般)	なし	国際センター	仙台	日本	20240309	災害リスク理解に基づくコミュニティ防災(マレーシア)	泉 貴子
仙台防災未来フォーラムセッション 災害科学国際研究所主催「レジリエント・コミュニティの創生に向けて」イオン防災環境都市創生共同研究部門の取り組み	なし	該当なし	講演・講義	企業	仙台国際センター	仙台	日本	20240309	防災・減災分科会の活動	丸谷 浩明
栗原市築館地区コミュニティ推進協議会講演会	なし	基調	講演・講義	行政	栗原市築館農村環境改善センター	栗原	日本	20240310	災害に強い地域コミュニティになるために	佐藤翔輔
令和6年気仙沼市東日本大震災追悼と防災のつどい	なし	該当なし	その他	行政	気仙沼中央公民館	気仙沼	日本	20240311	モデレータ トークセッション「避難情報を正しく読み取る」	佐藤翔輔
気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館 語り部をする高校3年生の想いを翼に乗せて後輩たちへその1	なし	該当なし	小中高との連携	行政	気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼	日本	20240317	モデレータ	佐藤翔輔
防災100年えほん出版記念フォーラム2024	なし	該当なし	その他	なし	人と防災未来センター	神戸	日本	20240317	国際的視点から見た日本のカルチャー、語り継ぎについて造詣が深い立場から	Elizabeth Maly
すくびー親子DE減災・防災	なし	招待	その他	なし	すくびーひろば	多賀城市	日本	20240318	多賀城市の防災について	柴山明寛
気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館 特別フォーラム「ともに考えるこれからの伝承館」～第3回市民協働推進状況報告～	なし	該当なし	その他	行政	気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼	日本	20240318	ファシリテーター「ともに考えるこれからの伝承館」	佐藤翔輔
気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館 語り部をする高校3年生の想いを翼に乗せて後輩たちへその2	なし	該当なし	小中高との連携	行政	気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼	日本	20240318	モデレータ	佐藤翔輔
東北大学×日本証券業協会 SDGsシンポジウム「地域災害レジリエンス最大化へ知と金融の役割」	なし	いいえ	セミナー	企業	東京ミッドタウン八重洲カンファレンス	東京	日本	20240318	パネルディスカッション(「地域災害レジリエンス最大化に向けた知と金融の役割」)	佐々木大輔
令和5年度防災シンポジウム・第18回災害に強いコミュニティのための市民フォーラム(過去の災害の教訓と現在の取り組み)	なし	基調	講演・講義	行政	仙台国際センター	仙台	日本	20240319	防災意識は、高めることができるのか?	佐藤翔輔
みやぎ街道交流会	なし	招待	講演・講義	なし	みやぎNPOプラザ	仙台	日本	20240320	ひかり拓本の活用事例—疫病碑の調査から—	蝦名裕一
台湾教育部・国立成功大学・学校長	なし	該当なし	その他	なし	災害科学国際研究所	仙台市	日本	20240320	IT技術を活用した防災学習について	柴山明寛
第3回栄村の歴史文化と自然を再発見 知れば知るほど栄村はすごい!	なし	基調	公開講座	行政	栄村かたくりホール	栄村	日本	20240323	栄村での地域資料保全から考えたこと・宮城との比較を通じて	佐藤大介
第41回北山市民医学講座	なし	招待	講演会	企業	北山市民センター	仙台市	日本	20240327	災害医療について	佐々木宏之
令和6年能登半島地震から考える会	なし	招待	その他	行政	栗原市役所講堂	栗原	日本	20240327	総評	佐藤翔輔
東北震災研修	なし	該当なし	小中高との連携	小中高	東北大学	宮城	日本	20240328	復興とレジリエンス: まち、ひと、自然の再生	内田典子
仙臺歴塾	なし	招待	公開講座	企業	仙臺緑彩館	仙台市	日本	20240331	私と「古文書」の出会い方・研究、災害、そして「すぐそこ」で	佐藤大介

学会以外の発表(研究者以外・一般市民対象)・国際(除く学生のみ)

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
UCL Youth challenge 2023	なし	招待	講演・講義	小中高	UCL	ロンドン	イギリス	20230700	Making the world resilience	Miwako Kitamura
Esri User Conference	なし	該当なし	ポスター	企業	San Diego Convention Center	サンディエゴ	アメリカ	20230711	Changing Catchment of People Flows: mapping the variety of where visitors live over Japan	Shohei Nagata, Tomoki Nakaya, Yuriko Takeda, Shunichi Koshimura

学会以外の発表(研究者以外・一般市民以外対象)・国内(除く学生のみ)

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
東北自治研修所「第61回行政課題研修『風水害を想定した災害対応コース』」	なし	招待	講演・講義	行政	東北自治研修所	富谷	日本	20230522	研修ブローグ	佐藤翔輔
東北自治研修所「第61回行政課題研修『風水害を想定した災害対応コース』」	なし	招待	セミナー	行政	東北自治研修所	富谷	日本	20230523	コーディネーター ワークショップ「被災自治体(県)の経験を聞く・学ぶ」	佐藤翔輔
東北自治研修所「第61回行政課題研修『風水害を想定した災害対応コース』」	なし	招待	セミナー	行政	東北自治研修所	富谷	日本	20230524	コーディネーター ワークショップ「被災自治体(市・町)の経験を聞く・学ぶ」	佐藤翔輔
第2回水害リスクを自分事化し、流域治水に取り組む主体を増やす流域治水の自分事化検討会	なし	Keynote	その他	行政	国土交通省	千代田	日本	20230525	流域治水?に関する事例報告	佐藤翔輔
人事院主催 令和5年度初任研修	なし	招待	講演・講義	行政	西ヶ原研修合同庁舎	東京都北区	日本	20230529	防災政策 基調講義	丸谷 浩明
気仙沼市立階上中学校・総合的な学習の時間ガイダンス	なし	招待	小中高との連携	小中高	気仙沼市立階上中学校	気仙沼	日本	20230602	今年度の探究学習に向けてのコツ	佐藤翔輔
宮城県公務研修所令和5年度主任主査級研修	なし	招待	セミナー	行政	宮城県公務研修所	富谷	日本	20230605	コーディネーター 主任主査にとっての災害対応～東日本大震災の経験から学ぶ～	佐藤翔輔
気仙沼市立階上中学校・探究学習相談会	なし	該当なし	小中高との連携	小中高	気仙沼市立階上中学校	気仙沼	日本	20230607	しじらない?先生	佐藤翔輔



名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
人と防災未来センター・2023年度春期 災害対策専門研修・マネジメントコース:エクスパートA	なし	招待	講演・講義	行政	人と防災未来センター	神戸	日本	20230609	危機対応時の組織論(情報システム)	佐藤翔輔
国土交通省国土交通大学校 令和3年度専門課程水災害予報・水防企画研修	なし	招待	講演・講義	行政	国土交通大学校	オンライン	日本	20230615	水害からいのちを守る避難—2019年台風19号と2020年7月豪雨での事例をもとに—	佐藤翔輔
令和5年度第1回震災伝承みやぎコンソーシアム情報交換会	なし	該当なし	その他	行政	宮城エレクトロンホール	仙台	日本	20230616	ファシリテーター及び講評コンソーシアムの具体的取組について	佐藤翔輔
気仙沼市立階上中学校・探究学習相談会	なし	該当なし	小中高との連携	小中高	気仙沼市立階上中学校	気仙沼	日本	20230619	アドバイザー	佐藤翔輔
感染対策セミナー	なし	招待	セミナー	なし	公立藤田病院	伊達郡	日本	20230703	感染対策セミナー/COVID-19について	児玉 栄一
2023年度認定看護管理者教育課程フェーストレベル	なし	招待	セミナー	企業	宮城県看護協会	仙台	日本	20230706	人材管理 I「コミュニケーション ファシリテーション」	邑本俊亮
災害科学の基礎と防災への適用	なし	該当なし	講演・講義	なし	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	20230712	Cascading Disasters and Natch Risk Management	Hyejeong Park
気仙沼高等学校・SGHネットワーク事業「防災講演会・ワークショップ」	なし	招待	小中高との連携	小中高	宮城県気仙沼高等学校	気仙沼	日本	20230712	災害をのりこえる力を身につけるためには	佐藤翔輔
Jリーグシャレン×Yahoo! JAPAN説明会	なし	招待	講演・講義	企業	オンライン	オンライン	日本	20230713	そなえるJapan杯の意義とその期待	佐藤翔輔
令和5年度 宮城県気仙沼高等学校3学年「課題研究Ⅱ」・「総合的な探究の時間」最終発表会	なし	該当なし	小中高との連携	小中高	宮城県気仙沼高等学校	気仙沼	日本	20230719	講評	佐藤翔輔
東北大学高度教養教育・学生支援機構 課外・ボランティア活動支援センター	なし	招待	講演・講義	なし	東北大学	仙台	日本	20230724	東北大学授業発表会「東日本大震災の経験を未来につなぐ」	佐藤翔輔
令和5年度東北大学社会教育主事講習	なし	招待	講演・講義	小中高	オンライン	仙台	日本	20230801	生涯学習支援論⑩これからの防災学習	佐藤翔輔
宮城県公務研修所令和5年度主任主査級研修	なし	招待	セミナー	行政	宮城県公務研修所	富谷	日本	20230802	コーディネーター主任主査にとつての災害対応～東日本大震災の経験から学ぶ～	佐藤翔輔
みやぎ生協主催 第9回 災害時応急生活物資供給協定締結自治体との懇談会	なし	招待	講演・講義	企業	みやぎ生協本部	仙台	日本	20230803	この間発生した自然災害から災害対応の教訓を考える	丸谷 浩明
宮城県公務研修所令和5年度主任主査級研修	なし	招待	セミナー	行政	宮城県公務研修所	富谷	日本	20230808	コーディネーター主任主査にとつての災害対応～東日本大震災の経験から学ぶ～	佐藤翔輔
令和5年度 栗駒山麓ジオパーク推進協議会 防災・教育部会移動研修会	なし	招待	その他	行政	栗駒山麓ジオパークビジターセンター	栗原	日本	20230810	実績と今後の計画に対するアドバイス	佐藤翔輔
静岡県主催 令和5年度危機管理研修	なし	招待	講演・講義	行政	静岡県建設技術監理センター	静岡	日本	20230823	行政の発災時対応と業務継続計画	丸谷 浩明
登米市立津山中学校・防災講話	なし	招待	小中高との連携	小中高	登米市立津山中学校	登米	日本	20230831	学んだことを発信する方法を学ぶ	佐藤翔輔
花巻市立西南中学校(ぼくのわたしの防災手帳・特別授業)	なし	招待	小中高との連携	小中高	花巻市立西南中学校	花巻	日本	20230901	ぼくのわたしの防災手帳で「生きる力」を身につけよう・西南中学校編	佐藤翔輔
震災伝承ネットワーク協議会・震災伝承施設交流会(福島県ブロック)	なし	招待	その他	行政	富岡町文化交流センター 学びの森	富岡	日本	20230907	コーディネーター及び報告視察にもとづく議論および報告「防災教育における災害伝承の位置づけ」	佐藤翔輔
山形県令和5年度放射線・原子力災害対策研修会	なし	はい	口頭(招待)	行政	オンライン	山形	日本	20230913	原子力災害対策	鈴木正敏
第87回セキュリティ・プランナー講習 カリキュラム(宮城会場)	なし	招待	講演・講義	企業	TKPガーデンシティPREMIUM 仙台西口	仙台	日本	20230913	東日本大震災をどのように伝えるのか	佐藤翔輔
震災伝承宮城野区プログラム・宮城野区職員研修・震災の体験・経験を語り継ぐ(令和5年度 第1回:市職員としての体験)	なし	招待	その他	行政	宮城野区役所	仙台	日本	20230914	ファシリテーター及び講評体験者との対話	佐藤翔輔
宮城県松島高等学校教職員研修	なし	該当なし	小中高との連携	小中高	宮城県松島高等学校	松島	日本	20230920	防災教育の市民団体ゆりあげかもめ:HUG講習	佐藤翔輔
気仙沼市立鹿折中学校・防災学習 震災伝承学習ガイド	なし	招待	小中高との連携	小中高	気仙沼市立鹿折中学校	気仙沼	日本	20230922	今年度の(も)防災学習について	佐藤翔輔
震災伝承ネットワーク協議会・震災伝承施設交流会(青森県・岩手県ブロック)	なし	招待	その他	行政	シートピアなあと	富古	日本	20231002	コーディネーター及び報告視察にもとづく議論および報告「防災教育における災害伝承の位置づけ」	佐藤翔輔
新潟県立長岡高等学校「東北大学工学部訪問」	なし	Keynote	小中高との連携	小中高	東北大学サイエンスキャンパスホール	仙台	日本	20231005	大学で災害を科学する	佐藤翔輔
登米市立中里中学校・社会体験学習	なし	招待	小中高との連携	小中高	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	20231011	社会体験学習での対応	佐藤翔輔
放射線防災スキルアップ研修2023(いわき会場)	なし	招待	講演・講義	行政	いわき短期大学	いわき	日本	20231014	言葉とコミュニケーション	邑本俊亮
放射線防災スキルアップ研修2023(福島会場)	なし	招待	講演・講義	行政	福島県立医科大学	福島	日本	20231021	言葉とコミュニケーション	邑本俊亮
令和5年度防災主任研修会(地域別) 仙台教育事務所管内C地区	なし	基調	講演・講義	小中高	宮城県総合教育センター	名取	日本	20231018	実践的な災害対応能力を身につけるための「これからの」防災教育案	佐藤翔輔
人と防災未来センター・2023年度秋期 災害対策専門研修・マネジメントコース:エクスパートA	なし	招待	講演・講義	行政	人と防災未来センター	神戸	日本	20231019	危機対応時の組織論(情報システム)	佐藤翔輔
研修会	なし	招待	セミナー	行政	仙台管区気象台	仙台市	日本	20231024	学校における避難確保計画づくりの現状と課題	佐藤 健
震災伝承ネットワーク協議会・震災伝承施設交流会(宮城県ブロック)	なし	招待	その他	行政	南三陸311メモリアル	南三陸	日本	20231030	コーディネーター及び報告視察にもとづく議論および報告「防災教育における災害伝承の位置づけ」	佐藤翔輔
気仙沼市立階上中学校・総合的な学習時間・中間発表	なし	招待	その他	小中高	気仙沼市立鹿折中学校	気仙沼	日本	20231106	アドバイザー	佐藤翔輔
第3・4学年 一日大学	なし	該当なし	小中高との連携	小中高	仙台青陵中学校	仙台	日本	20231107	まちをつくる・国土をつくる ～建築・社会環境工学の世界～	平野勝也
青葉区震災伝承研修(市職員としての体験)	なし	招待	その他	行政	青葉区役所	仙台	日本	20231109	ファシリテーター及び講評体験者との対話	佐藤翔輔
令和5年度 流域治水セミナー(東北地方整備局)	なし	招待	講演・講義	行政	オンライン	仙台	日本	20231109	事例からよみとく「流域治水を自分事化する」コソ・ポイント	佐藤翔輔
石巻南浜津波復興祈念公園参加型協議会	なし	招待	その他	行政	門脇復興公営住宅集会所	石巻	日本	20231114	レポートされるコソ	佐藤翔輔

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
総務省消防庁・町村長を対象とした「全国防災・危機管理トップセミナー」	なし	基調	講演・講義	行政	三井住友銀行 東館ライジング・スクエア SMBC ホール	千代田	日本	20231115	水害からのちを守る・守った避難対応	佐藤翔輔
令和5年度第2回震災伝承みやぎコンソーシアム情報交換会	なし	該当なし	その他	行政	宮城エレクトロンホール	仙台	日本	20231120	ファシリテーター及び講評 コンソーシアムの具体的取組について	佐藤翔輔
令和5年度ふくしま震災伝承者交流会	なし	招待	その他	行政	富岡町文化交流センター 学びの森	富岡町	日本	20231121	コーディネーター パネルディスカッション「わたしたちの震災伝承への思い」	佐藤翔輔
登米市立津山中学校・防災学習発表会	なし	招待	小中高との連携	小中高	登米市立津山中学校	登米市	日本	20231122	講評	佐藤翔輔
「そなえてバスケット」クラブ向け説明会	なし	招待	講演・講義	企業	オンライン	東京	日本	20231129	そなえてバスケットの意義とその期待	佐藤翔輔
国土交通省国土交通大学校令和5年度特別課程 水害に対する危機管理能力向上研修	なし	招待	講演・講義	行政	国土交通大学校	小平	日本	20231201	水害からのちを守る(守った)避難ー2019年台風19号と2020年7月豪雨での事例をもとにー	佐藤翔輔
気仙沼市立鹿折中学校・防災学習発表会	なし	招待	その他	小中高	気仙沼市立鹿折中学校	気仙沼	日本	20231209	講評	佐藤翔輔
令和5年度 若林区役所業務の学び会「震災を語り継ぐ」	なし	招待	その他	行政	若林区役所	仙台	日本	20231213	ファシリテーター及び講評 体験者との対話	佐藤翔輔
令和5年度宮城県気仙沼高等学校第1学年地域社会研究「フィールドワーク」	なし	招待	その他	小中高	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	20231215	アドバイザー	佐藤翔輔
出前授業	なし	該当なし	小中高との連携	小中高	逗子開成中学校・高等学校	神奈川	日本	20231223	地球科学講座「重力と地球」	木戸元之
日本建設業連合会主催 BCP部会	なし	招待	講演・講義	企業	日本建設業連合会本部	東京都中央区	日本	20240116	新しいガイドラインを踏まえた建設会社のBCPへの期待	丸谷 浩明
東日本大震災メモリアルday2023	なし	基調	講演・講義	小中高	多賀城高等学校	多賀城	日本	20240119	災害があったことが“伝わる”ために	佐藤翔輔
鹿折中学校生徒による震災伝承活動	なし	招待	小中高との連携	小中高	鹿折小学校	気仙沼	日本	20240119	総評	佐藤翔輔
令和5年度第3回震災伝承みやぎコンソーシアム情報交換会	なし	招待	その他	行政	東京エレクトロンホール宮城	仙台	日本	20240124	ファシリテーター 今後のコンソーシアムの具体的取組についての意見交換	佐藤翔輔
令和5年度宮崎県防災力向上研修会	なし	基調	講演・講義	行政	宮崎県庁・ハイブリッド	宮崎	日本	20240125	過去の災害やその教訓を伝承する重要性とそのポイント	佐藤翔輔, Team Sendai
NTT防災士資格取得研修(宮城会場)	なし	招待	セミナー	企業	NTT東日本新青葉通りビル	仙台	日本	20240126	復旧・復興と被災者支援	佐藤翔輔
NTT防災士資格取得研修(宮城会場)	なし	招待	セミナー	企業	NTT東日本新青葉通りビル	仙台	日本	20240126	災害情報の活用と発信	佐藤翔輔
令和5年度宮城県気仙沼高等学校1学年「地域社会研究」・2学年「課題研究」全体発表会	なし	招待	小中高との連携	小中高	気仙沼高等学校	気仙沼	日本	20240127	総評	佐藤翔輔
2023年度 心的外傷後ストレス障害に対する持続エクスポージャー療法研修	なし	該当なし	セミナー	なし	オンライン	オンライン	日本	20240202	症例検討	濱家由美子
福島県南保険福祉事務所主催「令和5年度県南地域医療安全研修会」での講演	なし	招待	講演・講義	行政	福島県南保険福祉事務所	白河市	日本	20240215	次に来るであろう感染症パンデミックとその対策について	児玉 栄一
東北大学・東北地方整備局主催 3.11からの学び塾	なし	該当なし	講演・講義	行政	WEB	仙台	日本	20240215	災害法制、業務継続計画(BCP)・災害対策本部訓練	丸谷 浩明
むすび塾@311メディアネット(河北新報)	なし	招待	その他	企業	河北新報	仙台	日本	20240218	コメントーター 被災地の今、伝え方考える	佐藤翔輔
令和5年度第4回 震災伝承みやぎコンソーシアム全体会	なし	該当なし	その他	行政	東京エレクトロンホール宮城	仙台	日本	20240325	総評	佐藤翔輔

学会以外の発表(研究者以外・一般市民以外対象)・国際(除く学生のみ)

名称	査読	招待講演	発表形態	産学官連携	会場名	開催都市名	開催国名	発表年月日	題目名(原語)	著者名
Technical Meeting on Geotechnical Aspects of Site Evaluation	なし	招待	その他	行政	International Agomic Energy Agency	Vienna	Austria	20230704	Damage characteristics of the 2023 Kahramanmaraş – Turkey earthquake and future support for recovery and reconstruction: Relaying the lessons learned from the 2011 Tohoku Earthquake	Imamura, F., Moriguchi, S., Iuchi, K., Enokida, R., Sasaki, H., and Ito, T
1st Workshop for the Project on widespread volcanic hazards and disaster risk reduction in Southwest Pacific Countries	なし	該当なし	セミナー	行政	Novotel Hotels & Resorts	Nadi	Fiji	20230804	Pros and cons of hazard-focused spatial planning—a need for a new paradigm –	Kanako Iuchi
The Asian Civil Engineering Coordinating Council (ACECC): The 45th Executive Committee Meeting [TC-21 Technical Session: Exploring the Synergy: Innovates and Transdisciplinary Approaches in DRR]	なし	いいえ	口頭(一般)	なし	国立臺北科技大學	台北	台湾	20230920	How does the central government make a remark in the international arena of disaster risk reduction? Focusing on the frequency of statement publication at the UN Global Platform for Disaster Risk Reduction	Daisuke Sasaki, Yuta Hara, Yuichi Ono
Tadulako University Planning and Architecture Seminar	なし	招待	講演会	なし	Tadulako University	Palu	Indonesia	20230926	When homes are gone: Key Elements for Planning Community Relocation	Kanako Iuchi
Asia Disaster Reduction Center	なし	Plenary	その他	行政	Hyatt Regency	Dushanbe	Tajikistan	20231020	Innovative solutions for resilient societies: DRR technologies for earthquakes and geological hazards	David Nguyen, Ulan Abdybachev, Dilshod Kodirov, Azizjon Azizmurodzoda
Department of Urban and Regional Planning Program Seminar, University of Michigan	なし	招待	講演会	なし	University of Michigan	Ann-Arbor	US	20231025	Relocation of low-income communities after a large-scale disaster: How can planning better support resettling residents?	Iuchi, K.
Southern California University特別授業	なし	はい	その他	なし	オンライン(Southern California University)	Los Angeles	米国	20231027	Disaster Medicine and Health Resilience	Shinichi Egawa
University Collage London UCL Gender disaster study master course	なし	該当なし	講演・講義	なし	オンライン	ロンドン	英国	20240209	Gender and disaster study LGBTQ+ DRR Japan case study	Miwako Kitamura, GID Link, Anna Matsukawa
ライデン大学特別授業	なし	いいえ	その他	なし	オンライン(ライデン大学)	アムステルダム	オランダ	20240215	Disaster Medicine and Health Resilience	Shinichi Egawa
Case study Fukushima course	なし	該当なし	講演・講義	なし	オンライン	ライデン	オランダ	20240215	Gender and disaster Japan case study	Miwako Kitamura
UCL IRDR 0018 Seminar	なし	該当なし	講演・講義	なし	University Collage London UCL	ロンドン	英国	20240301	Gender and disaster Japan case study	Miwako Kitamura

### 5. 3. F. シンポジウム等の主催・共催・運営等

#### 学会および学術的なイベントの主催・共催・運営

##### シンポジウム

主催団体名 運営団体名等	イベント名称	実施者	開始年月	終了年月	会場	開催 都市名	開催 国名	担当等
国内								
土木学会応用力学委員会	第26回応用力学シンポジウム	森口周二	20230527	20230528	中央大学後楽園 キャンパス	東京	日本	幹事
日本心理学会	AI社会への「自己」の適応	杉浦元亮	20230915	20230917	神戸国際会議場	神戸	日本	運営委員
日本放射線影響学会	日本放射線影響学会第66回大会	鈴木正敏	20231106	20231106	グランドニッコー 東京	東京	日本	運営委員
日本医療情報学会	第43回医療情報学連合大会(第25回 日本医療情報学会学術大会)	藤井進	20231121	20231125	神戸ファッション マート	神戸	日本	運営委員
日本災害医学会	第29回日本災害医学会総会・学術集 会 シンポジウム10「災害研究機関」	佐々木宏之	20240222	20240224	京都市勧業館みや こめっせ	京都市	日本	幹事
日本災害医学会、WHO健 康開発総合研究センター	WHO・日本災害医学会合同セッション WKCフォーラム: 災害医療研究の発 展のために～グローバルな学際研究協 立メカニズムの構築と研究手法の確率 に向けた国内外の取り組み～	江川新一	20240223	20240223	みやこメッセ	京都	日本	運営委員
国際								
i-Rec, the International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS) of Tohoku University, Kobe University Research Center for Urban Safety and Security (RCUSS), and the Center for Resilient Design (CResD), Kobe University	i-Rec 2023: Tensions Between Tradition and Innovation in Disaster Risk Reduction, Climate Action, and Reconstruction: Reflecting on Tohoku' s Recovery Twelve Years Later	マリ・エリザベス ゲルスタ・ユリア	20230601	20230604	IRIDeS	Sendai	Japan	議長、 運営委員
WADEM	WADEM 2025 Tokyo	藤井進	202505	202505		東京	日本	運営委員

##### 講演会

主催団体名 運営団体名等	イベント名称	実施者	開始年月	終了年月	会場	開催 都市名	開催 国名	担当等
国内								
日本測地学会	日本測地学会第140回講演会	木戸元之 富田史章	20231011	20231013	仙台福祉プラザ	仙台	日本	運営委員
土木学会応用力学委員会	応用力学講演会	森口周二	20231207	20231207	土木学会本部	東京	日本	幹事
国際								
International Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University	DRM Colloquium (第6回)	井内加奈子	20230523	20230523	東北大学災害科 学国際研究所	Sendai	Japan	幹事
International Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University	DRM Colloquium (第7回)	井内加奈子	20240219	20240219	東北大学災害科 学国際研究所	Sendai	Japan	幹事

## セミナー(国内)

主催団体名 運営団体名等	イベント名称	実施者	開始年月	終了年月	会場	開催 都市名	開催 国名	担当等
非線形CAE協会	第42期非線形CAE勉強会	寺田賢二郎	20230520, 20230603, 20230624	20230625	オンライン(2日 間)、東京コン フェレンスセン ター・品川(2日 間)	東京都	日本	議長
日本計算工学会	サマースクール2023「非線形有限要素 法による弾塑性解析の理論と実践」 ベーシックコース	寺田賢二郎	20230809	20230810	ハイブリッド(中 央大学理工学 部(後楽園キャン パス))	東京都	日本	議長
日本計算工学会	サマースクール2023「非線形有限要素 法による弾塑性解析の理論と実践」アド バンスコース	寺田賢二郎	20230821	20230821	オンライン開催			議長
非線形CAE協会	第43期非線形CAE勉強会	寺田賢二郎	20231108, 20231125, 20231216	20231217	オンライン(2日 間)、ベルサー ル西新宿(2日 間)	東京都	日本	議長

## ワークショップ(国内)

主催団体名 運営団体名等	イベント名称	実施者	開始年月	終了年月	会場	開催 都市名	開催 国名	担当等
地域安全学会, 東北大学 災害科学国際研究所	第11回東日本大震災連続ワークショッ プ2023 in 陸前高田	佐藤翔輔	20230804	20230805	陸前高田市文化 会館 奇跡の一 本松ホール	陸前高田	日本	幹事

## 研究会(国内)

主催団体名 運営団体名等	イベント名称	実施者	開始年月	終了年月	会場	開催 都市名	開催 国名	担当等
日本自然災害学会	第6回本音で語ろう ぼうさいナイトバー 「復興のホンネ-東日本大震災のでき ごと-」	佐藤健	20230427	20230427	オンライン		日本	運営委員
IDAC, Tohoku University	18th Human Brain Science Seminar "Network and dynamic analysis of fMRI time series"	杉浦元亮	20230922	20230922	IDAC, Tohoku University	Sendai	Japan	議長
日本放射線影響学会	日本放射線影響学会第66回大会	鈴木正敏	20231106	20231108	グランドニッコー 東京	東京	日本	運営委員
IDAC, Tohoku University	20th Human Brain Science Seminar "Body image: where does it come from?"	杉浦元亮	20240227	20240227	IDAC, Tohoku University	Sendai	Japan	議長

## その他(国内・国際)

主催団体名 運営団体名等	イベント名称	実施者	開始年月	終了年月	会場	開催 都市名	開催 国名	担当等
日本災害医学会	社会医学系専門医指導医講習会	佐々木宏之	20240223	20240223	京都市勧業館み やこめっせ	京都市	日本	幹事
Asia Oceania Geosciences Society	AOGS2023	サッパシー・ アナワット	20230730	20230504	SUNTEC Singapore	シンガ ポール	シンガポ ール	運営委員

## その他のイベントの主催・共催・運営

### シンポジウム

主催団体名 運営団体名等	イベント名称	実施者	開始年月	終了年月	会場	開催 都市名	開催 国名	担当等
国内								
東北大学教育学研究科 東北大学加齢医学研究所	教育学研究科×加齢医学研究所ジョイ ント・シンポジウム	杉浦元亮	20230712	20230712	東北大学教育学 研究科	仙台	日本	幹事
石巻市教育委員会	令和5年度石巻市学校防災フォーラム	佐藤健	20230808	20230808	マルホンまき あーと	石巻市	日本	運営委員

主催団体名 運営団体名等	イベント名称	実施者	開始年月	終了年月	会場	開催 都市名	開催 国名	担当等
そうま歴史資料保存ネット ワーク	そうまの歴史を守る・つたえる2023	川内淳史	20230903	20230903	相馬高校	相馬	日本	その他
東北大学災害科学国際研 究所	東北大学災害科学国際研究所シン ポジウム(第84回IRIDEsオープ ンフォーラム)『関東大震災100年の節目に考える 「これからの防災」』	栗山進一 中鉢奈津子 高橋尚志 林宏典	20230928	20230928	東北大学災害科 学国際研究所	仙台	日本	運営委員
東北大学加齢医学研究所 脳MRIセンター 加齢医学研究所人間脳科 学研究分野	健康寿命の延伸に向けた学際認知神 経科学	杉浦元亮	20231204	20231204	東北大学加齢医 学研究所	仙台	日本	議長
災害科学国際研究所, 国 立国会図書館	令和5年度東日本大震災アーカイブシ ンポジウム	柴山明寛	20240108	20240108	東北大学災害科 学国際研究所	仙台市	日本	議長
気仙沼市, 東北大学災害 科学国際研究所, 気仙沼 市と同教育委員会主催, 気 仙沼 ESD/RCE 推進委員 会	第8回気仙沼市防災フォーラム兼東北 大学災害科学国際研究所第36回防災 文化講演会	佐藤翔輔	20240123	20240123	気仙沼中央公民 館	気仙沼市	日本	幹事
宮城県教育委員会	令和5年度未来へつなぐ学校と地域の 安全フォーラム	佐藤健	20240124	20240124	岩沼市民会館	岩沼市	日本	運営委員
東北大学加齢医学研究所 脳MRIセンター 加齢医学研究所人間脳科 学研究分野	高齢者の深い思考～あるいは年の功 ～の認知神経科学の可能性	杉浦元亮	20240213	20240213	東北大学加齢医 学研究所	仙台	日本	議長
石巻市博物館、歴史文化 資料保全ネットワーク事業 東北大学拠点	日本遺産認定5周年記念「みちのく GOLD浪漫」シンポジウム2024「石巻、 江戸時代の旅と道」	佐藤大介	20240218	20240218	石巻市博物館	石巻市	日本	その他
東北大学加齢医学研究所 脳MRIセンター 加齢医学研究所人間脳科 学研究分野	マーケティング×脳科学～消費者の意 思決定構造の理解へ	杉浦元亮	20240221	20240221	東北大学加齢医 学研究所	仙台	日本	議長
NPO法人宮城歴史資料保 全ネットワークほか	宮城資料ネット20周年シンポジウム「い くつもの災害を超えて」	佐藤大介 蝦名裕一 川内淳史	20240223	20240223	東北大学大学院 環境科学研究科	仙台市	日本	運営委員
災害科学国際研究所	東日本大震災語りベシンポジウム「かた りつぎ in いわき」	柴山明寛	20240302	20240302	いわき芸術文化 交流館アリオス 中劇場	いわき市	日本	議長
東北大学加齢医学研究所 脳MRIセンター 加齢医学研究所人間脳科 学研究分野	法学・政治学×脳科学	杉浦元亮	20240304	20240304	東北大学加齢医 学研究所	仙台	日本	議長
東北大学災害科学国際研 究所	仙台防災未来フォーラム2024 東日本 大震災メモリアルシンポジウム2024 「*誰一人取り残さない*インクルーシブ 防災」	佐藤健 中鉢奈津子 野村怜佳 佐々木大輔	20240309	20240309	仙台国際セン ター	仙台市	日本	企画、 運営員、 司会進行
災害科学国際研究所	仙台防災未来フォーラム2024「災害デ ジタルツインの構築と活用に向けて」	越村俊一 永田彰平	20240309	20240309	仙台国際セン ター	仙台	日本	運営委員
東北大学災害科学国際研 究所イオン共同研究部門	仙台防災未来フォーラム2024「レジリ エント・コミュニティの創生に向けてーイ オン防災環境都市創生共同研究部門の 取り組みー」	丸谷浩明 佐藤翔輔	20240309	20240309	仙台国際セン ター、WEB	仙台	日本	運営委員
仙台市、宮城県、東北大学 災害科学国際研究所	仙台防災未来フォーラム2024「令和6 年能登半島地震災害復興支援シンポ ジウム」	栗山進一 小野裕一	20240309	20240309	仙台国際セン ター	仙台市	日本	その他
仙台市、宮城県、東北大学 災害科学国際研究所	仙台防災未来フォーラム2024 災害科 学国際研究所主催イベント閉会式・世 界防災フォーラムの開催に向けて	小野裕一	20240309	20240309	仙台国際セン ター	仙台市	日本	その他
気仙沼市および東北大学 災害科学国際研究所	令和6年気仙沼市東日本大震災追悼と 防災のつどい	佐藤翔輔	20240311	20240311	気仙沼中央公民 館	気仙沼市	日本	幹事
仙台市	BOSAI TECH シンポジウム2024	鎌田健一	20240312	20240312	オンライン	仙台市	日本	運営委員
災害とメディア研究会	「地域とともに考えるリスクコミュニケ ーション」ワークショップ	柴山明寛	20240316	20240316	河北新報社	仙台市	日本	その他

主催団体名 運営団体名等	イベント名称	実施者	開始年月	終了年月	会場	開催 都市名	開催 国名	担当等
仙台市	令和5年度防災シンポジウム・第18回災害に強いコミュニティのための市民フォーラム	佐藤健	20240319	20240319	仙台国際センター	仙台市	日本	運営委員
国際								
Global Infrastructure Fund Research Foundation Japan (GIF Japan) & International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University	Infrastructure development in Maldives to cope with climate change: In-country migration to newly constructed island of Hulhumalé	佐々木大輔	20230404	20230404	University Media Center (Sugimoto Library), Osaka Metropolitan University	Osaka	Japan	その他
IRIDeS / Australia Department of Foreign Affairs and Trade, and Higashi Matsushima City	Australia-Japan Joint Symposium: Tourism and Disaster Resilience	スイン・デビッド 井内加奈子	20230622	20230622	IRIDeS	Sendai	Japan	運営委員
日本学術会議	Transforming Society to Become Resilient and Sustainable beyond Catastrophic Disasters	江川新一	20230907	20230908	日本学術会議講堂	東京	日本	運営委員
災害科学国際研究所, スタンフォード	負の歴史の伝承シンポジウム 如何に東日本大震災を伝えるか? Memories and "Negative History" Symposium: How to convey the 3.11 Disaster?	柴山明寛 ゲルスタ・ユリア	20230923	20230923	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営委員
International Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University & Sudat Pandang	Five-Year Commemoration of 28 September 2018, Central Sulawesi Earthquake	井内加奈子	20230923	20230923	Ruang Dualapan Creative Space	Palu	Indonesia	幹事
International Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University and University of Nimes, France	Disaster and Memory International Symposium	ボレー・セバスチャン	20231018	20231019	Tohoku University	Sendai	Japan	運営委員
Nanyang Technological Univeristy, APRU	APRU Multi-hazards symposium	泉貴子	20231029	20231031	NTU	Singapore	Singapore	企画・運営、議長、参加、発表
International Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University & Department of Sociology and Anthropology, University of Canterbury	Localizing Disaster Risk Reducation Strategies: Humanitarian assistance, all-hazards approach, and inclusivity in DRR	ボレー・セバスチャン	20231102	20231103	University of Twente	Enschede	Netherlands	議長
Reischauer Institute, Harvard University and International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS)	Using the Japan Disaster Digital Archive in the Classroom: Perspectives from Japan.	ゲルスタ・ユリア	20240118	20240118	Reischauer Institute, Harvard University, and IRIDeS, Tohoku University (hybrid)	Boston and Sendai	USA and Japan	幹事
IRIDeS, ADB	International Conference on Big Data for Disaster Response and Management in Asia and Pacific	越村俊一 泉貴子	20240215	20240217	IRIDeS	Sendai	Japan	議長、運営委員

#### 講演会(国内)

主催団体名 運営団体名等	イベント名称	実施者	開始年月	終了年月	会場	開催 都市名	開催 国名	担当等
NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク	2023年度宮城資料ネット講演会	川内淳史	20230617	20230617	東北大学	仙台	日本	運営委員

主催団体名 運営団体名等	イベント名称	実施者	開始年月	終了年月	会場	開催 都市名	開催 国名	担当等
災害科学国際研究所	八戸工業大学・東北大学災害科学国際研究所協定締結5周年記念講演会	野村怜佳	20231127	20231127	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	その他

## セミナー

主催団体名 運営団体名等	イベント名称	実施者	開始年月	終了年月	会場	開催 都市名	開催 国名	担当等
国内								
宮城県復興支援・伝承課 および東北大学災害科学 国際研究所	第5回3.11学びなおし塾	佐藤翔輔	20230409	20230409	みやぎ東日本大 震災津波伝承館	石巻市	日本	幹事
宮城県復興支援・伝承課 および東北大学災害科学 国際研究所	第5回知りたいみやぎ復興の知恵	佐藤翔輔	20230507	20230527	みやぎ東日本大 震災津波伝承館	石巻市	日本	幹事
宮城県復興支援・伝承課 および東北大学災害科学 国際研究所	第6回3.11学びなおし塾	佐藤翔輔	20230604	20230604	みやぎ東日本大 震災津波伝承館	石巻市	日本	幹事
IRIDeS災害レジリエンス共 創センター	医療的ケア児・者と災害	中鉢奈津子	20230619	20230619	IRIDeS棟 1階多 目的ホール	仙台市	日本	企画・運営
宮城県復興支援・伝承課 および東北大学災害科学 国際研究所	第6回知りたいみやぎ復興の知恵	佐藤翔輔	20230702	20230702	みやぎ東日本大 震災津波伝承館	石巻市	日本	幹事
IRIDeS災害レジリエンス共 創センター	視覚障がい者と災害	中鉢奈津子	20230719	20230719	東北大学災害科 学国際研究所	仙台市	日本	企画・運営
宮城県復興支援・伝承課 および東北大学災害科学 国際研究所	第7回3.11学びなおし塾	佐藤翔輔	20230806	20230806	みやぎ東日本大 震災津波伝承館	石巻市	日本	幹事
宮城県復興支援・伝承課 および東北大学災害科学 国際研究所	第7回知りたいみやぎ復興の知恵	佐藤翔輔	20230903	20230903	みやぎ東日本大 震災津波伝承館	石巻市	日本	幹事
International Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University & University of Canberra	The Economics of Long-Term Disaster Recovery	マス・エリック	20230912	20230912	IRIDeS	Sendai	Japan	議長
宮城県復興支援・伝承課 および東北大学災害科学 国際研究所	第8回3.11学びなおし塾	佐藤翔輔	20231001	20231001	みやぎ東日本大 震災津波伝承館	石巻市	日本	幹事
宮城県復興支援・伝承課 および東北大学災害科学 国際研究所	第8回知りたいみやぎ復興の知恵	佐藤翔輔	20231105	20231105	みやぎ東日本大 震災津波伝承館	石巻市	日本	幹事
IRIDeS災害レジリエンス共 創センター	聴覚障がい者・盲ろう者と災害	中鉢奈津子	20231114	20231114	東北大学災害科 学国際研究所	仙台市	日本	企画・運営
宮城県復興支援・伝承課 および東北大学災害科学 国際研究所	第9回3.11学びなおし塾	佐藤翔輔	20231203	20231203	みやぎ東日本大 震災津波伝承館	石巻市	日本	幹事
宮城県	令和5年度女性防災指導員等交流セ ミナー	佐藤健	20231206	20231206	自治会館	仙台市	日本	運営委員
宮城県復興支援・伝承課 および東北大学災害科学 国際研究所	第9回知りたいみやぎ復興の知恵	佐藤翔輔	20240107	20240107	みやぎ東日本大 震災津波伝承館	石巻市	日本	幹事
宮城県復興支援・伝承課 および東北大学災害科学 国際研究所	第10回3.11学びなおし塾	佐藤翔輔	20240204	20240204	みやぎ東日本大 震災津波伝承館	石巻市	日本	幹事
国土交通省東北地方整備 局	令和5年度市町村・インフラ系企業防災 関連担当者研修会～3.11からの学び 塾～	佐藤健	20240215	20240215	オンライン		日本	運営委員
宮城県復興支援・伝承課 および東北大学災害科学 国際研究所	第10回知りたいみやぎ復興の知恵	佐藤翔輔	20240303	20240303	みやぎ東日本大 震災津波伝承館	石巻市	日本	幹事

主催団体名 運営団体名等	イベント名称	実施者	開始年月	終了年月	会場	開催 都市名	開催 国名	担当等
<b>国際</b>								
特定非営利活動法人・緑の地球ネットワーク	環境に国境はない！相互理解と国際協力の出発点	原裕太	20230513	20230513	オンライン(日本・北京中継)	オンライン	オンライン	議長
International Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University, University College London (UCL), Middle East Technical University, and Istanbul Technical University	The 2nd Joint Seminar on the 2023 Earthquake in the Southern Türkiye and Syria	サッパシー・アナワット 北村美和子	20230803	20230803	オンライン			運営委員
UNESCO, IRIDeS	TOWS-WG meeting@IRIDeS seminar 'Findings from the 2024 Noto Peninsula Earthquake and Tsunami'	マス・エリック	20240221	20240221	IRIDeS	Sendai	Japan	幹事

### ワークショップ

主催団体名 運営団体名等	イベント名称	実施者	開始年月	終了年月	会場	開催 都市名	開催 国名	担当等
<b>国内</b>								
US National Science Foundation	PREEMPTIVE ASI Workshop	五十子幸樹	20230708	20230721	IRIDeS, 赤坂 conference, 神戸大学, E-Defense 他	仙台・東京・神戸	日本	運営委員
防災科研・東北大連携推進協議会運営WG	東北大学と防災科学技術研究所の学生共同指導促進のためのワークショップ	福島洋	20230912	20230912	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	運営委員
防災推進国民大会2023実行委員会	ぼうさいこくたい2023	鎌田健一	20230917	20230918	横浜国立大学	横浜市	日本	運営委員
宮城県復興支援・伝承課および東北大学災害科学国際研究所	ぼうさいキッズパーク	佐藤翔輔	20231123	20231123	みやぎ東日本大震災津波伝承館	石巻市	日本	幹事
東北大学附置研究所・センサー連携体、研究所長会議	第11回 東北大学附置研究所若手アンサンブルワークショップ	原裕太	20231213	20231213	東北大学さくらホール(片平キャンパス)	仙台	日本	運営委員
<b>国際</b>								
International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS) and SenTIA	Multicultural Disaster Preparedness Workshop	ゲルスタ・ユリア	20230617	20230617	International Center Sendai	Sendai	Japan	議長
Higashi-Matsushima City / Australia DFAT	Australia-Japan Joint Symposium: Fieldtrip to Higashi-Matsushima	ヌイン・デビッド	20230621	20230621	Higashi Matsushima City Office	Higashi-Matsushima	Japan	その他
Michinoku Shinrokuden, Tohoku University and Iwate Prefecture	令和5年度国際津波伝承館交流ワークショップ International Tsunami Memorial Museum Exchange Workshop	柴山明寛 ゲルスタ・ユリア ボレー・セバスチャン	20231119	20231119	The Great East Japan Earthquake and Tsunami Memorial Museum, Iwate (Hybrid)	Rikuzentakata	Japan	幹事
宮古市	外国人のための防災ワークショップ	ゲルスタ・ユリア	20231126	20231126	Miyako-shi	Miyako-shi	Japan	その他
IRIDeS, Tohoku University, Yamagata University, Leibnitz University Hannover	International Disaster Workshop	ゲルスタ・ユリア	20240226	20240226	International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University	Sendai	Japan	議長



主催団体名 運営団体名等	イベント名称	実施者	開始年月	終了年月	会場	開催 都市名	開催 国名	担当等
International Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University & Institute for Risk and Disaster Reduction (IRDR)、University College London (UCL)	UCL-Tohoku Disaster Research Collaboration workshop	朴慧晶 北村美和子	20240227	20240227	UCL IRDR	London	United Kingdom	その他
IRIDeS, APRU	APRU Multi-hazards workshop on the all-hazards approach	泉貴子	20240314	20240316	IRIDeS	Sendai	Japan	議長・運営・参加

## 研究会

主催団体名 運営団体名等	イベント名称	実施者	開始年月	終了年月	会場	開催 都市名	開催 国名	担当等
<b>国内</b>								
東北大学災害科学国際研究所丸谷研究室	企業・組織のBCP／防災勉強会 (@仙台) 第98回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第68回	丸谷浩明	20230407	20230407	WEB	仙台	日本	議長
東北大学災害科学国際研究所丸谷研究室	企業・組織のBCP／防災勉強会 (@仙台) 第99回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第69回	丸谷浩明	20230512	20230512	WEB	仙台	日本	議長
東北大学災害科学国際研究所丸谷研究室	企業・組織のBCP／防災勉強会 (@仙台) 第100回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第70回	丸谷浩明	20230602	20230602	WEB	仙台	日本	議長
東北大学災害科学国際研究所丸谷研究室	企業・組織のBCP／防災勉強会 (@仙台) 第101回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第71回	丸谷浩明	20230707	20230707	東北大学災害科学国際研究所、WEB	仙台	日本	議長
東北大学災害科学国際研究所丸谷研究室	企業・組織のBCP／防災勉強会 (@仙台) 第102回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第72回	丸谷浩明	20230804	20230804	WEB	仙台	日本	議長
東北大学災害科学国際研究所丸谷研究室	企業・組織のBCP／防災勉強会 (@仙台) 第103回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第73回	丸谷浩明	20230901	20230901	WEB	仙台	日本	議長
災害感染症学分野	感染症リサーチカンファレンス□	児玉栄一 林宏典	20230904	20230929	Google classroom	仙台	日本	議長、運営委員
東北大学災害科学国際研究所丸谷研究室	企業・組織のBCP／防災勉強会 (@仙台) 第104回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第74回	丸谷浩明	20231006	20231006	WEB	仙台	日本	議長
東京大学	津波堆積物研究会	菅原大助 石澤堯史	20231028	10231031	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	運営委員
有志団体	第8回福島原発事故による周辺生物への影響に関する勉強会	鈴木正敏	20231028	20231028	東北大学	仙台	日本	運営委員
東北大学災害科学国際研究所丸谷研究室	企業・組織のBCP／防災勉強会 (@仙台) 第105回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第75回	丸谷浩明	20231110	20231110	WEB	仙台	日本	議長
東北大学災害科学国際研究所・津波工学研究分野	第13回巨大津波災害に関する合同研究集会 巡検	鎌田健一	20231207	20231208	キリンビール仙台工場 荒浜小学校	仙台市	日本	幹事
東北大学災害科学国際研究所	第13回巨大津波災害に関する合同研究集会	新家杏奈	20231207	20231208	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営委員
東北大学災害科学国際研究所丸谷研究室	企業・組織のBCP／防災勉強会 (@仙台) 第106回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第76回	丸谷浩明	20240209	20240209	WEB	仙台	日本	議長
<b>国際</b>								
Pacific Rim Community Design Network and International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS)	The 12th Conference of the Pacific Rim Community Design Network. Looking Back and Looking Forward: Community and Justice in Crisis	ゲルスタ・ユリア マリ・エリザベス	20230916	20230918	IRIDeS, Tohoku University	Sendai	Japan	運営委員

その他

主催団体名 運営団体名等	イベント名称	実施者	開始年月	終了年月	会場	開催 都市名	開催 国名	担当等
<b>国内</b>								
東北大学病院 東北大学災害科学国際研究所	コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム「災害保健医療コーディネーション実習」	佐々木宏之	20230729	20230729	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営委員
東北大学病院 東北大学災害科学国際研究所	コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム「災害時組織対応セミナー」	佐々木宏之	20230819	20230819	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営委員
東北大学病院 東北大学災害科学国際研究所	コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム「災害メンタルケア実習」	佐々木宏之	20230826	2023026	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営委員
東北大学病院	総合防災訓練	佐々木宏之	20231027	20231027	東北大学病院	仙台市	日本	運営委員
東北大学	総合防災訓練	佐々木宏之	20231101	20231101	東北大学	仙台市	日本	運営委員
東北大学災害科学国際研究所	AED使用講習会	佐々木宏之	20231106	20231106	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	幹事
東北大学病院 東北大学災害科学国際研究所	コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム「ラセック・災害医療救護通信研修(ロジステックサポート実習)」	佐々木宏之	20231111	20231112	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営委員
宮城県・災害医療ACT研究所	宮城県災害薬事コーディネーター研修会	佐々木宏之	20231123	20231123	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営委員
東北大学病院 東北大学災害科学国際研究所	コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム「災害国際協力セミナー」	佐々木宏之	20231125	20231125	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	幹事
東北大学病院 東北大学災害科学国際研究所	コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム「災害科学概論」	佐々木宏之	20231202	20231202	web			幹事
東北大学病院 東北大学災害科学国際研究所	コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム「災害公衆衛生セミナー・実習」	佐々木宏之	20231209	20231210	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営委員
東北大学災害科学国際研究所、NPO法人20世紀アーカイブ仙台、歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業東北大学拠点	仙台に残されていた関東大震災の記録 100年の時を経て特別公開	佐藤大介 川内淳史 中鉢奈津子	20200915	20231222	東北大学	仙台市	日本	その他
東北大学災害科学国際研究所	トルコ南東部地震学内報告会	佐々木宏之	20230427	20230427	web	(仙台市)	(日本)	その他
東北大学災害科学国際研究所	第82回IRIDeS金曜フォーラム	内田典子	20230526	20230526	オンライン	宮城	日本	運営委員
東北大学病院 東北大学災害科学国際研究所	コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム「宮城県災害医療従事者研修会」	佐々木宏之	20230625	20230625	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営委員
気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館	未来につながる川柳コンテスト	佐藤翔輔	20230722	20231130	気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼市	日本	幹事
東北大学災害科学国際研究所	2022年度レジリエンス共創研究報告会-第83回IRIDeSオープンフォーラム	内田典子	20230722	20230722	オンライン	宮城	日本	運営委員
災害研・川崎市・ボランティア・アーキテクツ・ネットワーク(VAN)	みらいの避難所体験会	村尾修	20230902	20230902	多摩スポーツセンター	川崎市	日本	運営委員

主催団体名 運営団体名等	イベント名称	実施者	開始年月	終了年月	会場	開催 都市名	開催 国名	担当等
東北大学附属研究所等	片平まつり2023 災害研イベント「答えてみよう！聞いてみよう！実験やゲームで学ぶ災害の科学」 『免震建物模型実験』『放射線を知る！診る！』『ぼうさい宝探しゲームin災害研』『私たちの災害時避難所空間をつくって、避難所生活を体験してみよう！』『鉄道模型運転で学ぶ「カケアガレ」防災演習』	千田浩一 五十子幸樹 村尾修 佐藤健	20231007	20231007	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営委員
宮城県教育委員会	令和5年度みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会	佐藤健	20231216	20231216	宮城県庁講堂	仙台市	日本	その他
宮城県教育委員会	令和5年度みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会	佐藤健	20231217	20231217	パレットおおさき	大崎市	日本	その他
宮城県多賀城高等学校	東日本大震災メモリアルday2023	佐藤健	20240119	20240120	宮城県多賀城高等学校	多賀城市	日本	その他
大阪教育大学	第4回学校安全推進センターフォーラム	佐藤健	20240301	20240301	大阪教育大学,オンライン(ハイブリッド)	池田市	日本	その他
災害科学国際研究所	令和6年能登半島地震に関する速報会	森口周二 柴山明寛 中鉢奈津子	20240109	20240109	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	その他
石巻市教育委員会	第7回石巻市復興・防災マップコンクール	佐藤健	20240119	20240119	石巻市役所	石巻市	日本	運営委員
東北大学病院 東北大学災害科学国際研究所	コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム「BHELP」	佐々木宏之	20240120	20240120	web			幹事
宮城県復興支援・伝承課	第2回みやぎ災害伝承ポスターコンクール授賞式	佐藤翔輔	20240204	20240204	みやぎ東日本大震災津波伝承館	石巻市	日本	その他
仙台市	仙台防災未来フォーラム2024 展示	鎌田健一 内田典子 原勇貴 乗松君衣	20240309	20240309	仙台国際センター	仙台市	日本	その他
東北大学災害科学国際研究所	能登半島地震医療対応報告会	佐々木宏之	20240312	20240312	web			幹事
<b>国際</b>								
University College London (UCL), International Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University	UCL Youth Challenge 2023	サッパシー・アナワット 北村美和子	20230722	20230730	ロンドン大学	ロンドン	イギリス	運営委員
IRIDeS, APRU	APRU Multi-hazards summer school	泉貴子	20230725	20230728	IRIDeS	Sendai	Japan	議長、運営、参加、
Gadjah Mada University, Sydney University, Australia, International Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University	15th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery AIWEST-DR Conference 2023)	ボレー・セバスチャン マリ・エリザベス 今村文彦 サッパシー・アナワット	20231011	20231013	Gadjah Mada University	Yogyakarta	Indonesia	運営委員
Kataribe World Network (KWN), IRIDeS, Tohoku University, LMU Munich University	Disaster and Memory Winter School	ゲルスタ・ユリア	20240226	20240301	Sendai, Ishinomaki, Minamisanriku, Kesenuma, Futaba, Namie, Tomioka, Iwaki	Sendai and others	Japan	議長

### 5. 3. G. 特許等

総数:9件

#### 特許

発明の名称	発明者 (申請者)	出願番号 (特願 or PCT)	出願日	公開番号	公開日	研究の成果
復旧計画策定装置, 復旧計画策定方法および復旧計画策定プログラム	越村俊一 寺田賢二郎	特許7298840	20190801		20230619	学外共同の成果
災害評価装置, 災害評価方法, 及びプログラム	越村俊一 マス・エリック	特願2023-079320	20230513			学外共同の成果
放射線防護具	千田浩一	特願2023-147490	20230900			学外共同の成果
線量計及びシステム	千田浩一	特願2023-175188	20231010			学外共同の成果
評価装置、評価方法およびプログラム	藤井進 野中小百合 小山晃 その他				20240300	学内共同の成果
メタバース避難所システム	藤井進 野中小百合 小山晃 その他				20240300	学内共同の成果
ミットの観点と伝え方を考慮したメッセージ最適化装置	藤井進 野中小百合 金英明 その他				20240300	学内共同の成果

#### その他の産業財産権

発明の名称	発明者 (申請者)	出願番号 (特願 or PCT)	出願日	公開番号	公開日	研究の成果
猫の行政商標登録	藤井進 野中小百合		20240208	商標登録 6777598号	20240208	学外共同の成果
VOD, PVOD	五十子幸樹	TY0465, TY0466	20240312			学外共同の成果

### 5. 3. H. 受賞

総数: 15件

#### 学会・シンポジウム等の賞(個人・4件)

受賞・学術賞名称	受賞年月日	国内国際	授与機関	受賞者名・受賞グループ名	受賞題目／受賞内容
若手発表賞	20231104	国内	日本地形学連合	高橋尚志	神奈川県西部の山地域における大正関東地震に伴う斜面崩壊による土砂生産 神奈川県西部の山地域における大正関東地震に伴う斜面崩壊の空間分布についての研究成果発表を高く評価された。
優秀発表賞	202311	国内	第27回学会大会日本災害情報学会	齋藤玲	リスクコミュニケーターが持つ各種メディア発信の放射線情報に対する信頼度の違い:防災士対象調査を通して 発表者のなかで特に優れたものが表彰された。
若手優秀講演賞	20231111	国内	一般社団法人日本活断層学会	原勇貴 (共著:遠田晋次)	2023年トルコ、カフラマンマラシュ地震における断層幾何形状から得られた破壊伝播確率 明確に目的設定がなされ、手法確立に向けて今後に期待が持てる研究である点が評価された。
地域安全学会研究発表会(春季)優秀発表賞	20231118	国内	地域安全学会	新家杏奈	二重過程理論にもとづく津波避難行動に関する証言の分析 二重過程理論に基づく証言の分析方法を開発・利用した結果について発表し、発表内容が優秀であると評価された。

#### 論文賞(個人・1件)

受賞・学術賞名称	受賞年月日	国内国際	授与機関	受賞者名・受賞グループ名	受賞題目／受賞内容
年間優秀論文賞	20230527	国内	地域安全学会	佐藤翔輔	行政機関を越えて自治体職員の「語り」を活用する災害対応経験の伝承手法の設計と実践:東北地方公務員を対象にした風水害対応に関する研修事例 行政機関を越えて自治体職員の「語り」を活用する災害対応研修を設計・実装し、その有用性を明らかにしたことが高く評価された。

#### 論文賞(グループ・4件)

受賞・学術賞名称	受賞年月日	国内国際	授与機関	受賞者名・受賞グループ名	受賞題目／受賞内容
日本地震学会論文賞	20231101	国内	日本地震学会	富田史章 木戸元之	Improvement on spatial resolution of a coseismic slip distribution using postseismic geodetic data through a viscoelastic inversion 地震後の粘弾性応答の測地観測から地震時の断層すべりの推定の空間分解能を改善する手法を開発した
論文奨励賞	20230523	国内	日本計算工学会	野村怜佳 森口周二 越村俊一 寺田賢二郎	模擬津波動態とベイズ更新によるリアルタイム津波リスク評価手法 即時性と信頼性の双方を両立させ、実用性の高いリアルタイム津波リスク評価手法を開発しようとする挑戦的な姿勢が評価された
Most Citation Award	202304	国内	日本放射線技術学会/医学物理学学会	稲葉洋平 千田浩一	An initial investigation of a wireless patient radiation dosimeter for use in interventional radiology.
学術業績賞「研究奨励賞」	202311	国内	日本放射線安全管理学会	千田浩一	新型ハイブリッドサーバイメータの基本特性 — 空間散乱線量の測定に関して—

#### 学術賞(個人・1件)

受賞・学術賞名称	受賞年月日	国内国際	授与機関	受賞者名・受賞グループ名	受賞題目／受賞内容
第2回村上處直記念災害研究賞(The MURAKAMI Suminao Award for Disaster Research 2023)	20231206	国内	国際学術誌Journal of Disaster Research	今村文彦	JDRの創刊以来、36編の論文を発表され、特集号のゲストエディターを3回務められるなど、長年にわたりJDRに多大な貢献を頂いたため、さらにご専門の津波防災分野における貢献にとどまらず、特に東日本大震災以降は多方面にわたる共同研究や国際シンポジウムで活躍され、多様な分野において国際的な学術交流への貢献が認められたため

出版社・新聞社・財団等の賞(グループ・2件)

受賞・学術賞名称	受賞年月日	国内国際	授与機関	受賞者名・受賞グループ名	受賞題目／受賞内容
土木学会デザイン賞 最優秀賞	20231021	国内	土木学会	平野勝也 小野田泰明 姥浦道生	石巻市街地における旧北上川の復興かまちづくり 東日本大震災からの復興において、石巻市街地における旧北上川の復興かまちづくりの結果として形成された空間が高く評価された。
日本国際賞	20230413	国内	日本科学技術財団	中沢正隆	半導体レーザー励起光増幅器の開発を中心とする光ファイバ網の長距離大容量化への顕著な貢献 EDFAと呼ばれる光増幅器を発明し、グローバルな光通信に革命をもたらした。

その他の賞(個人・3件)

受賞・学術賞名称	受賞年月日	国内国際	授与機関	受賞者名・受賞グループ名	受賞題目／受賞内容
Excellent Reviewers 2023	20240225	国際	Earth, Planets and Space	Fumiaki Tomita	Excellent Reviewers 2023 Earth, Planets and Space誌における査読者の中から優れた査読者として表彰を受けた。
IEEE上級会員賞	20240207	国際	Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE)	アドリアノ・ブルーノ	IEEEの上級会員のグレードに昇格。 シニアメンバーは、メンバーが申請できるIEEEの最高のプロフェッショナルグレードです。450,000+人を超える会員のうち、このレベルに達しているのはわずか10%です。
令和5年度医学部・医学系研究科「教育貢献賞」	20240300	国内	東北大学	國井泰人	学内外への災害精神医学関係の教育活動と学生の論文発表・学会発表等を支える研究指導が評価された

### 5. 3. I. 委員等

#### 国・政府

	組織・団体名(五十音順)	委員会名	担当者	委員・役職名	開始年月日
1	環境省	「まち・暮らし創生」FS委託業務(審査委員会)	平野勝也	委員	20190401
2	気象庁	津波予測技術勉強会	越村俊一	委員	20090000
3	経済産業省・環境省	経済産業省・環境省連携事業 令和5年度二酸化炭素貯留適地調査事業に係わる有識者委員会	遠田晋次	委員	20230000
4	経済産業省	総合資源エネルギー調査会	遠田晋次	臨時委員	20200000
5	原子力規制庁	震源を特定せず策定する地震動に関する検討チーム	遠田晋次	委員	20220000
6	厚生労働省	厚生省検討会	千田浩一	有識者	20190000
7	厚生労働省		佐々木宏之	日本DMAT隊員(統括)	20180520
8	国土交通省	国立研究開発法人審議会	今村文彦	臨時委員	20220531
9	国土交通省	社会資本整備審議会	今村文彦	臨時委員	20230401
10	国土交通省	国立研究開発法人審議会	今村文彦	委員	20230630
11	国土交通省	総合評価委員会港湾空港部会	越村俊一	委員	20200000
12	国土交通省	第7回幹線旅客純流動調査委員会	奥村誠	委員兼幹事	20190701
13	国土交通省	河川技術委員会	奥村誠	委員	20200701
14	国土交通省	水害リスクを自分事化し、流域治水に取り組む主体を増やす流域治水の自分事化検討会	佐藤翔輔	委員	20230400
15	国土交通省国土地理院	地震予知連絡会	遠田晋次	委員	20230000
16	国土交通省東北地方整備局	東北の砂防を考えるアドバイザー会議	森口周二	委員	20220401
17	国土交通省東北地方整備局	東北圏広域地方計画策定に関する有識者懇談会	今村文彦・姥浦道生	委員	20220516
18	国土交通省東北地方整備局	名取川水系河川整備学識者懇談会	今村文彦	委員	20221101
19	国土交通省東北地方整備局	東北圏広域地方計画策定に関する有識者懇談会	姥浦道生	委員	20220506
20	国土交通省東北地方整備局	東北発コンパクトシティ推進研究会	姥浦道生	アドバイザー	20230927
21	国土交通省東北地方整備局	道路計画研究会	平野勝也	座長	20080401
22	国土交通省東北地方整備局	震災伝承施設連絡会議(青森県・岩手県ブロック)	佐藤翔輔	座長	20210400
23	国土交通省東北地方整備局	震災伝承施設連絡会議(宮城県ブロック)	佐藤翔輔	座長	20210400
24	国土交通省東北地方整備局	石巻南浜復興祈念参加型運営協議会	佐藤翔輔	アドバイザー	20210400
25	国土交通省東北地方整備局	リバーカウンセラー(鳴瀬川)	佐藤翔輔	リバーカウンセラー	20210400
26	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所	最上川水系流域委員会専門小委員会	平野勝也	委員	20100401
27	財務省東北財務局	国有財産東北地方審議会	姥浦道生	委員	20211225
28	総務省	防災まちづくり対象審査委員会	佐藤翔輔	委員	20210400
29	総務省消防庁	消防を取り巻く変化を踏まえた消防防災行政研究会	佐藤翔輔	アドバイザー	20210400
30	総務省	ETS-9 通信ミッション利用実験の企画準備に関する検討会	佐藤翔輔	委員	20220400
31	内閣府	防災教育チャレンジプラン実行委員会	佐藤健	委員	20150600
32	内閣府	政府業務継続に関する評価等有識者会議	丸谷浩明	委員	20140000
33	内閣府	「防災スペシャリスト養成研修」企画検討会	丸谷浩明	委員、「災害の備え」コースコーディネーター	20140000
34	内閣府政策統括官(防災担当)	南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ	今村文彦	委員	20230404
35	内閣府政策統括官(防災担当)	TEAM防災ジャパン	佐藤翔輔	お世話係(東北)	20181100

	組織・団体名(五十音順)	委員会名	担当者	委員・役職名	開始年月日
36	内閣官房地域活性化統合事務局	都市再生の推進に係る有識者ボード 防災WG	丸谷浩明	委員、「災害の備え」 コースコーディネーター	20110000
37	復興庁	復興推進委員会	今村文彦	委員長	20230306
38	復興庁	「新しい東北」官民連携推進協議会	鎌田健一	委員	20230400
39	文部科学省	地震調査研究推進本部(内陸で発生する地震の調査観測に関する検討ワーキンググループ)	遠田晋次	委員	20230000
40	文部科学省	地震調査研究推進本部	今村文彦	専門委員	20230401
41	文部科学省	地震調査研究推進本部	越村俊一	専門委員	20130000
42	文部科学省	国立研究開発法人防災科学技術研究所部会	越村俊一	委員	20150000
43	文部科学省	政策評価に関する有識者会議委員	越村俊一	委員	20230400
44	文部科学省	学校施設等の防災・減災対策の推進に関する調査研究協力者会議	佐藤健	委員	20211200

## 国・政府関係機関

	組織・団体名(五十音順)	委員会名		委員・役職名	開始年月日
1	国立研究開発法人 科学技術振興機構	JST研究成果最適展開支援専門委員会	千田浩一	専門委員	20120000
2	国立研究開発法人 科学技術振興機構	JST大学発新産業創出プログラムプロジェクト推進型外部専門家委員会	千田浩一	外部専門家	202320000
3	国立研究開発法人 科学技術振興機構	社会技術研究開発主監会議	丸谷浩明	主監	20211108
4	国土交通省国土交通大学校	令和5年度 専門課程 土地利用計画〔都市の将来像の描き方と実現手法〕研修	姥浦道生	講師	20231004
5	国土交通省国土交通大学校	令和5年度 専門課程 区画整理研修	姥浦道生	講師	20240126

## 国・政府および地方自治体

	組織・団体名(五十音順)	委員会名		委員・役職名	開始年月日
1	国土交通省東北地方整備局、岩手県、陸前高田市	高田松原津波復興祈念公園有識者懇談会	柴山明寛	委員	20170401
2	国土交通省東北地方整備局、丸森町	丸森地区河川防災ステーション整備・利活用検討委員会	柴山明寛	委員	20211116
3	国土交通省東北地方整備局 仙台河川国道事務所、丸森町	丸森地区河川防災ステーション整備・利活用検討委員会	平野勝也	委員	20210401

## 地方自治体(県)

	組織・団体名(五十音順)	委員会名		委員・役職名	開始年月日
1	石川県	石川県原子力安全専門委員会	遠田晋次	委員	20210000
2	茨城県	茨城県原子力安全対策委員会	越村俊一	委員	20140000
3	岩手県	岩手県津波防災技術専門委員会	今村文彦	委員	20230219
4	岩手県	東日本大震災津波伝承館運営協議会	柴山明寛	委員	20190922
5	岩手県	自主防災組織活性化検討会議	柴山明寛	委員	20170401
6	岩手県	津波石碑調査検討委員会	佐藤翔輔	副委員長	20210400
7	鹿児島県	原子力安全・避難計画等防災専門委員会	越村俊一	委員	20221200
8	京都府		丸谷浩明	危機管理アドバイザー	20090000
9	高知県	石油基地等地震・津波対策検討会	越村俊一	委員	20140000
10	静岡県	静岡県防災・原子力学術会議	今村文彦	委員	20220401
11	福島県	技術検討会	越村俊一	委員	20140000
12	福島県	新川・宮川浸水対策検討会	柴山明寛	副委員長	20230000



	組織・団体名(五十音順)	委員会名	担当者	委員・役職名	開始年月日
13	福島県	次世代伝承者育成プログラム検討プロジェクトチーム	佐藤翔輔	メンバー(有識者)	20220400
14	福島県	環境影響評価審査会	内田典子	委員	20230317
15	宮城県	宮城県防災会議 地震対策等専門部会	遠田晋次	委員	20200000
16	宮城県	宮城県防災会議	今村文彦	専門員	20230501
17	宮城県	宮城県津波浸水想定に関する検討会	越村俊一	委員	20210000
18	宮城県	宮城県行政評価委員会	越村俊一	委員	20210000
19	宮城県	学校防災アドバイザー連絡協議会	柴山明寛	委員	20210000
20	宮城県	未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム実行委員会	柴山明寛	委員	20210000
21	宮城県	国土利用審議会	奥村誠	委員長代理	20110401
22	宮城県	みやぎ住まいづくり協議会	姥浦道生	運営委員	20220622
23	宮城県	環境影響評価技術審査会	平野勝也	会長	20100000
24	宮城県	行政評価委員会 大規模事業評価部会	平野勝也	委員	20140000
25	宮城県		佐々木宏之	災害医療コーディネーター	20181201
26	宮城県	新型コロナウイルス感染症医療調整本部	佐々木宏之	本部員	20201201
27	宮城県	DPAT	國井泰人	統括者	20221200
28	宮城県	結核医療地域ネットワーク会議	児玉栄一	世話人	20160601
29	宮城県	感染症審査協議会委員会	児玉栄一	委員	20160601
30	宮城県	感染症対策委員会	児玉栄一	委員	202107
31	宮城県	新型コロナウイルス感染症アドバイザーボード	児玉栄一	委員	202109
32	宮城県	宮城県行政評価委員会	佐藤健	委員	20170400
33	宮城県	学校安全フォーラム実行委員会	佐藤健	委員	20210600
34	宮城県	地域連携型学校防災体制等構築推進事業	佐藤健	学校防災アドバイザー	20210400
35	宮城県	令和5年度「学校安全総合支援事業」推進委員会	佐藤健	委員	20230700
36	宮城県	教育振興審議会	佐藤健	委員	20230100
37	宮城県	令和5年度みやぎ安全教育総合推進ネットワーク会議	佐藤健	委員	20230400
38	宮城県	宮城県震災伝承関連展示制作監修アドバイザー	佐藤翔輔	アドバイザー	20190400
39	宮城県	学校防災マニュアル見直しのためのガイドライン作成委員会	佐藤翔輔	委員	20210400
40	宮城県	東日本大震災被災地情報発信事業	佐藤翔輔	アドバイザー	20220400

#### 地方自治体(市・町)

	組織・団体名(五十音順)	委員会名		委員・役職名	開始年月日
1	いわき市	福島県いわき市令和5年台風第13号災害検証チーム	高橋尚志	災害検証メンバー	20230000
2	石巻市	石巻市地域公共交通会議	姥浦道生	会長	20220401
3	石巻市	石巻市総合交通戦略審議会	姥浦道生	会長	20220401
4	石巻市	石巻市総合計画推進会議	姥浦道生	委員	20220530
5	石巻市	石巻市地域公共交通活性化協議会	姥浦道生	会長	20220701
6	石巻市	石巻市旧北上川堤防利活用協議会	姥浦道生	副座長	20230401
7	石巻市	石巻市立地適正化計画策定懇談会	姥浦道生	会長	20230401
8	石巻市	石巻市学校防災推進会議	佐藤健	座長	20210400
9	石巻市	石巻市震災伝承事業に関する事項	佐藤翔輔	アドバイザー	20170400

	組織・団体名(五十音順)	委員会名	担当者	委員・役職名	開始年月日
10	岩沼市	仙台空港周辺地域活性化施設整備運営事業者選定委員会	姥浦道生	委員	20240325
11	岩沼市	岩沼市地方防災会議	丸谷浩明	委員	20180817
12	大船渡市	大船渡市防災観光交流センターアドバイザーボード	柴山明寛	委員	20180000
13	大船渡市	大船渡市防災学習ネットワーク運営協議会	柴山明寛	会長	20220328
14	女川町	女川町復興交付金事業実績評価委員会	姥浦道生	会長	20220401
15	女川町	都市計画審議会	平野勝也	会長	20211200
16	女川町	復興事業評価委員会	平野勝也	アドバイザー	20220400
17	川崎市	川崎市防災対策検討委員会	村尾修	委員	20020401
18	北上市	北上市空家等対策審議会	姥浦道生	副会長	20220425
19	栗原市	栗駒山麓ジオパーク推進協議会防災・教育部会	佐藤翔輔	推進アドバイザー	20200400
20	栗原市	栗駒山麓ジオパーク推進協議会 栗駒山麓ジオパーク管理運営計画策定委員会	佐藤翔輔	委員	20200400
21	気仙沼市	唐桑半島ビジターセンター改修工事展示協力	菅原大助	津波CGの作成等	20231121
22	気仙沼市	地域公共交通会議	奥村誠	委員	20170401
23	気仙沼市	気仙沼市防災会議委員	栗山進一	委員	20230321
24	気仙沼市	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	佐藤翔輔	アドバイザー	20160400
25	気仙沼市	けせんぬま震災伝承ネットワーク	佐藤翔輔	アドバイザー	20160400
26	塩竈市	都市計画審議会	姥浦道生	会長代理	20220401
27	塩竈市	塩竈市防災会議	佐藤翔輔	委員	20140400
28	七ヶ浜町	七ヶ浜町情報公開及び個人情報保護審査会	佐藤翔輔	委員	20200400
29	七ヶ浜町	七ヶ浜町防災会議	佐藤翔輔	委員	20200400
30	七ヶ浜町	七ヶ浜町福祉推進会議	佐藤翔輔	アドバイザー	20200400
31	仙台市	国際センター駅北地区複合施設基本構想に関する懇話会	川内淳史	委員	20220901
32	仙台市	青葉通駅前エリアのあり方検討協議会	姥浦道生	副会長	20210601
33	仙台市	都市計画審議会	姥浦道生	会長	20220401
34	仙台市	仙台市集団移転跡地利活用事業者選定委員会	姥浦道生	会長	20230516
35	仙台市	土地利用審査会	平野勝也	委員	20140000
36	仙台市	建築審査会	平野勝也	委員	20190400
37	仙台市	仙台市防災会議専門委員(及び原子力防災部会委員)	千田浩一	委員	20120000
38	仙台市	仙台市介護保険審議会委員	栗山進一	委員長	20210719
39	仙台市	感染症病院ネットワーク	児玉栄一	メンバー	20160901
40	仙台市	感染症審査協議会「感染症審査部会」	児玉栄一	会長(部会長)	20170401
41	仙台市	エイズ・性感染症対策推進協議会委員	児玉栄一	副会長	20170801
42	仙台市	仙台市福祉整備審議会	佐藤健	委員	20200900
43	仙台市	第18回災害に強いコミュニティのための市民フォーラム実行委員会	佐藤健	委員	20231000
44	仙台市	仙台市沿岸分メモリアルアドバイザーボード	佐藤翔輔	委員	20170400
45	多賀城市	多賀城市防災会議	柴山明寛	有識者	20220401
46	多賀城市	多賀城市都市計画審議会	柴山明寛	委員	20220401
47	多賀城市	多賀城市立小・中学校防災主任会	佐藤翔輔	アドバイザー	20140400
48	伊達市	都市計画審議会	奥村誠	会長	20180701

	組織・団体名(五十音順)	委員会名	担当者	委員・役職名	開始年月日
49	富山市	富山市都市マスタープラン検討業務委託受託候補者選考委員会	姥浦道生	委員	20230612
50	富山市	富山市都市マスタープラン検討委員会	姥浦道生	委員	20231101
51	名取市	名取市史編さん委員会近世史部会	佐藤大介	部会長	20220401
52	名取市	関上バイエリア協議会	平野勝也	委員	20200000
53	名取市	名取市防災会議	佐藤翔輔	防災会議委員	20140400
54	名取市	名取市震災復興伝承館	佐藤翔輔	アドバイザー	20180400
55	東松島市	東松島市防災会議	佐藤翔輔	防災会議委員	20120400
56	東松島市	東松島市津波避難計画検討部会	佐藤翔輔	部会長	20220400
57	平泉町	景観形成審議会	平野勝也	委員	20060000
58	平泉町	平泉町空家等対策協議会	平野勝也	副会長	20171018
59	平泉町	重要公共施設デザイン会議	平野勝也	会長	20060000
60	双葉町	双葉町復興まちづくり計画(第3次)有識者会議	平野勝也	委員	20210401
61	松島町	総合計画審議会□	寺田賢二郎	委員	20140401
62	松島町	都市計画審議会□	寺田賢二郎	委員	20140401
63	丸森町	再生可能エネルギー発電設備設置協議会	森口周二	議長	20200401
64	丸森町	丸森町復興推進委員会	柴山明寛	副委員長	20200000
65	丸森町	丸森地区河川防災ステーション利活用検討部会	柴山明寛	副委員長	2023000
66	丸森町	丸森町水防センター基本設計・実施設計業務プロポーザル審査委員会	柴山明寛	委員	20231001
67	南相馬市	南相馬市地方防災会議	丸谷浩明	委員	20241209
68	宮古市	宮古市立地適正化計画検討有識者会	姥浦道生	委員	20221013
69	山形市	都市計画審議会	姥浦道生	委員	20210701
70	山形市	山形市都市計画審議会	姥浦道生	委員	20230701
71	陸前高田市	景観審議会	平野勝也	会長	20180000
72	亶理町	入札監視委員会	奥村誠	委員長代理	20170701
73	亶理町	亶理町防災会議	佐藤翔輔	委員	20130400
74	亶理町	亶理町防災主任者会(防災教育推進研修会)	佐藤翔輔	アドバイザー	20140400

#### 自治体(教育委員会)

	組織・団体名(五十音順)	委員会名		委員・役職名	開始年月日
1	宮城県教育委員会	宮城県多賀城高等学校スーパーサイエンスハイスクール運営指導	今村文彦	委員	20230601
2	相馬市教育委員会	相馬市史編さん委員会	蝦名裕一	編さん執筆委員	20060224

#### 民間・NPO

	組織・団体名(五十音順)	委員会名		委員・役職名	開始年月日
1	3.11伝承ロード推進機構	3.11伝承ロードアドバイザー委員会	佐藤翔輔	委員長	20190400
2	3.11伝承ロード推進機構	災害伝承検定あり方検討会	佐藤翔輔	委員	20190400
3	3.11メモリアルネットワーク		佐藤翔輔	外部委員	20171200
4	3.11メモリアルネットワーク		佐藤翔輔	アドバイザー	20171200
5	株式会社アルテップ		姥浦道生	外部アドバイザー	20230522
6	石巻まちなか創成協議会		平野勝也	委員	20110000

	組織・団体名(五十音順)	委員会名	担当者	委員・役職名	開始年月日
7	エンジニア・アーキテクト協会	東北支部	平野勝也	支部長	20100000
8	公益信託オオバまちづくり基金	運営委員会	平野勝也	委員	20150900
9	学研教育みらい	文部科学省学校安全総合支援事業(安全教育の質の向上に向けた参考資料作成に関する調査研究事業)有識者会議	佐藤健	委員	20220831
10	キミトナリ(兼トナカフェ仙台)		北村美和子	ボランティアサポート会員	20230000
11	高圧ガス保安協会	詳細技術事前評価(地震動の評価にかかわるものに限る)委員会	大野晋	委員	202000901
12	コンパクトなまちづくり推進協議会		姥浦道生	講演会講師	20230719
13	NPO法人 事業継続推進機構		佐々木宏之	幹事	20220401
14	NPO法人 事業継続推進機構		丸谷浩明	理事長	20200500
15	地震予知総合研究振興会	原子力発電所の基準地震動 Ss に関する検討会	大野晋	委員	20231201
16	社会安全研究所	文部科学省学校安全総合支援事業(学校安全に係る専門性向上支援事業)有識者会議	佐藤健	委員	20230515
17	ZESDA		北村美和子	広報委員	20180000
18	特定非営利活動法人 大規模災害対策研究機構		越村俊一	理事	20060000
19	大日本印刷株式会社	有識者会議	今村文彦	委員	20230801
20	特定非営利活動法人 地域防災推進機構	理事会	村尾修	理事長	20201105
21	デライト		北村美和子	理事	20230000
22	東北大学病院	BCP委員会	佐々木宏之	委員・事務局メンバー	20160901
23	東北電力	津波評価に関する技術検討会	越村俊一	委員	20130000
24	東北文化学園大学	外部評価委員	邑本俊亮	委員	20190000
25	日本災害医学会	評議員会	佐々木宏之	評議員	20160227
26	日本災害医学会	災害医学あり方委員会	佐々木宏之	委員	20160226
27	日本災害医学会	社会医学系専門医検討委員会	佐々木宏之	委員・指導医講習会運営WGリーダー	20170518
28	日本災害医学会	学会主導研究委員会	佐々木宏之	委員	20220913
29	日本災害医学会	災害調査評価委員会	佐々木宏之	委員	20230801
30	日本災害医学会	BCP研修委員会	佐々木宏之	委員	20230801
31	日本自然災害学会	「ホンネで語ろう「ぼうさい」イブニングカフェ」	姥浦道生	講師	20230427
32	福島県建築士事務所協会	耐震診断判定委員会・評価委員会	五十子幸樹	委員	20080000
33	防災教育団体ゆりあげかもめ		佐藤翔輔	アドバイザー	20140700
34	NPO法人防災白熱アカデミー	NPO法人防災白熱アカデミー	佐藤健	理事	20120900
35	みやぎ防災・減災円卓会議	みやぎ「災害とメディア」研究会	佐藤翔輔	幹事	20180400
36	NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク	理事会	蝦名裕一	理事、事務局	20150701
37	NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク		佐藤大介	副理事長	20190701
38	NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク		川内淳史	事務局長	20210701
39	Yahoo! JAPAN		佐藤翔輔	Yahoo! ニュース コメンテーター	20210300

## その他

	組織・団体名(五十音順)	委員会名		委員・役職名	開始年月日
1	ISO International Organisation for Standardization	ISO 国際標準規格提案に関連する委員会	鎌田健一	事務局メンバー	20230400

	組織・団体名(五十音順)	委員会名	担当者	委員・役職名	開始年月日
2	2024 Understanding Risk Global Forum	国際会議(2024 UR)準備委員会	井内加奈子		20231215
3	独立行政法人 宇宙航空研究開発機構	大規模災害衛星画像解析ワーキンググループ	越村俊一	委員	20130000
4	独立行政法人 宇宙航空研究開発機構	観測衛星を利用した防災利用実証活動水害ワーキンググループ	越村俊一	委員	20110000
5	一般財団法人大阪科学技術センター		姥浦道生	講演会講師	20230804
6	大阪教育大学	学校危機メンタルサポートセンター	佐藤健	共同研究員	20120000
7	気仙沼市立鹿折中学校		佐藤翔輔	防災教育アドバイザー	2020000
8	気仙沼市立階上中学校		佐藤翔輔	防災教育アドバイザー	20160300
9	一般社団法人 建設コンサルタンツ協会		姥浦道生	講演会講師	20231211
10	国際復興支援プラットフォーム(IRP)	国際会議(2024 IRP Forum)準備委員会	井内加奈子		20240104
11	一般社団法人 国土技術研究センター	命を守る災害伝承協議会	今村文彦	委員	20230807
12	一般財団法人 世界防災フォーラム		大野晋	理事	20181219
13	公益社団法人 全国上下水道コンサルタント協会	上下水道地震対策検討委員会	姥浦道生	委員	20240307
14	仙台市立幸町中学校	学校運営協議会(コミュニティースクール)	村尾修	委員	20220523
15	東京大学地震研究所	東京大学地震研究所協議会	今村文彦	協議員	20220901
16	東北地理学会	編集委員会	高橋尚志	編集委員	20230728
17	公益社団法人土木学会	原子力土木委員会・津波評価小委員会	今村文彦	委員	20210709
18	公益社団法人土木学会		今村文彦	副会長	20230601
19	公益社団法人土木学会東北支部	津波評価に関する技術検討会	今村文彦	委員	20230301
20	登米市立津山中学校		佐藤翔輔	防災教育アドバイザー	2020000
21	独立行政法人日本学術振興会	科研費審査委員会	千田浩一	審査委員	20120000
22	一般社団法人日本規格協会	ISO/TC268/SC1(スマート都市インフラ)国内委員会 ISO/TC268/SC1(スマート都市インフラ)国内ステアリング委員会 ISO/TC268/SC1(スマート都市インフラ)国内分科会(WG6)	今村文彦	委員	20230401
23	一般社団法人日本免震構造協会	技術委員会	五十子幸樹	委員	20221001
24	一般社団法人 福祉防災コミュニティ協会		丸谷浩明	副理事長	20160300
25	一般社団法人福島県建築安全機構	構造計算適合性判定評価委員会及び技術監視委員会	五十子幸樹	副委員長	20160401
26	宮城県気仙沼高等学校		佐藤翔輔	気高応援隊	20160400
27	一般社団法人宮城県建築住宅センター	耐震診断等評価委員会	五十子幸樹	委員	20101001
28	宮城県多賀城高等学校	スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会	佐藤健	委員長	20180000
29	一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会	ジャパンレジリエンスアワード審査	今村文彦	委員	20240201

### 5. 3. J. 被災地・未災地との連携

相手先名 (自治体名/ 組織名)	実施者	内容
栗駒山麓ジオパーク推進協議会	高橋尚志	過去の災害による地域資源を活用した滞在型観光コンテンツ創出の計画策定に協力した。
宮城県丸森町	森口周二	令和元年東日本台風に関する研究成果についての意見交換会を実施した。
福島県いわき市	森口周二	2023年台風第13号による豪雨の被害検証チームに参画した。
高知県	越村俊一	SIPプロジェクトの技術実証を連携して行っている。
岩手県立博物館	蝦名裕一	岩手県版文化遺産防災マップの構築および図上訓練の実施に協力した。
宮城県多賀城市	柴山明寛	小型モビリティを用いた避難に関する実証実験
宮城県富谷市	柴山明寛	水素バスを用いた避難所運営の実証実験
福島県いわき市	柴山明寛	水素バスを用いた避難所運営の実証実験
福島県いわき市	柴山明寛	いわき市総合防災訓練の支援
Kataribe World Network, LMU Munich	ゲルスタ・ユリア	災害記憶についてのウインタースクールを実施し、語り部の講義を設定
宮城県名取市・市史編さん室	佐藤大介	名取市史編さん委員会近世史部会長、同地域の歴史資料の保全と活用への協力
宮城県松島町・文化財担当課	佐藤大介	松島町史編さん事業における史料所在調査を通じた地域史料の保全・活用に関する協働
NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク	佐藤大介	連携協定に基づく、東日本大震災や2019年台風19号など自然災害その他で消滅の危機にある歴史文化資料の救済と保全
石巻市博物館	佐藤大介	石巻市との包括連携協定などを踏まえた、石巻市域での歴史文化資料の保全および歴史再生に関する協働
宮城県東松島町	佐藤大介	同町域の個人所蔵史料の救済保全
福島県新地町	川内淳史	町内に保存されている歴史資料に関する内容および保存上のアドバイスを実施した。
岩手県岩泉町	齋藤玲	(2016年台風10号災害を経験しての)まちの「防災の日」(8月30日)に、小学校(岩泉小学校)で防災に関する授業を5年生と6年生向けに行った。
東京都墨田区	村尾修	水神保育園・向島ひまわり保育園/本所たから保育園において、理事長を務めるNPO法人地域防推進機構主催の防災訓練「ぼうさいワクワクパーク」を実施した。
東京都東村山市	村尾修	第一保育園・久米川幼稚園において、理事長を務めるNPO法人地域防推進機構主催の防災訓練「ぼうさいワクワクパーク」を実施した。
東京都板橋区	村尾修	理事長を務めるNPO法人地域防推進機構として「いたばし防災+フェア2023」の企画・実施に協力した。
神奈川県川崎市多摩区	村尾修	星の子愛児園において、理事長を務めるNPO法人地域防推進機構主催の防災訓練「ぼうさいワクワクパーク」を実施した。
神奈川県川崎市菅地区	村尾修	「ぼうさい勉強会」において講師を務めた。
宮城県	奥村誠	土地利用計画の改定において、復興事業に伴う移転跡地等の活用のあり方に助言した。
宮城県気仙沼市	奥村誠	復興事業に伴う移動ニーズの変化に対応した、地域公共交通計画の改定への助言を行った。
宮城県亘理町	奥村誠	公共事業入札監視委員として、復興事業等の円滑な契約・執行に対する助言を行った。

相手先名 (自治体名/ 組織名)	実施者	内容
福島県伊達市	奥村誠	復興支援道路(福島相馬道路)の機能を生かした都市計画のあり方について、助言を行った。
福島県いわき市	奥村誠	令和4年9月豪雨の影響調査及び避難状況の調査
環境省	平野勝也	福島復興に資する再生可能エネルギー導入に関する助言・指導
国土交通省・岩手県・陸前高田市	平野勝也	高田松原津波復興祈念公園のデザインに関する助言・指導
国土交通省 北上川 下流河川事務所	平野勝也	旧北上川堤防のデザインに関する助言・指導
国土交通省 仙台河 川国道事務所	平野勝也	名取川閑上地区におけるかわまちづくりの運営に関する助言・指導
国土交通省 山形河 川国道事務所	平野勝也	最上川バイパス水路のデザインに関する指導・助言
岩手県	平野勝也	閑伊川水門のデザインに関する指導助言
宮城県女川町	平野勝也	復興事業以降のまちづくりに関する助言
(株)街づくりまんぼう	平野勝也	旧北上川堤防一体空間の利活用に関する指導助言
女川みらい創造(株)	平野勝也	女川中心街の今後の展開に関する助言
(株)かわまちでらす 閑上	平野勝也	閑上地区の河川空間利活用に関する助言
宮城県南三陸町	佐々木宏之	南三陸病院での診療支援(月1回程度)
石川県	佐々木宏之	能登半島地震に対する日本災害医学会コーディネーションサポートチームとしての支援活動
福島県東日本大震災・ 原子力災害伝承館	千田浩一	東日本大震災・原子力災害伝承館学術研究集会に協力した。
宮城県七ヶ浜町	國井泰人	東日本大震災が被災住民に及ぼしている心理社会的影響について第10次調査を実施し、集積したデータを用いて解析を進め、また七ヶ浜町と災害研の共同ワークショップ等を行った。
福島県・福島県立医科 大学	國井泰人	福島第一原発事故後の精神疾患入院患者の強制避難転院者の帰還支援について、調査研究を行った。
福島県立医科大学	國井泰人	福島県立医科大学と連携し死後脳を用いて、心的外傷後ストレス障害、気分障害、統合失調症などのストレス脆弱性の基盤研究に取り組んだ。
宮城県石巻市	佐藤健	学校防災の推進に向けて教育委員会と学校に協力した。
宮城県仙台市	佐藤健	地域防災の推進および地域防災リーダーの養成について危機管理局に協力した。
宮城県	佐藤翔輔	職員研修(昇任研修:主任主査)において震災伝承プログラムの企画・実施に協力した。
気仙沼市	佐藤翔輔	職員研修(東日本大震災発生後入庁職員対象)において震災伝承プログラムの企画・実施に協力した。
仙台市(青葉区役所, 宮城野区役所,若林区 役所)	佐藤翔輔	職員研修(東日本大震災発生後入庁職員対象)において震災伝承プログラムの企画・実施に協力した。
東北自治研修所	佐藤翔輔	「風水害を想定した災害対応コース」の企画・実施に協力した。
石巻市	佐藤翔輔	「いしのまき防災・震災伝承コミュニティ」の運営・企画・実施に協力した。
気仙沼市	佐藤翔輔	「けせんぬま伝承ネットワーク」の運営・企画・実施に協力した。
宮城県	佐藤翔輔	みやぎ東日本大震災津波伝承館の企画・実施に協力した。

相手先名 (自治体名/ 組織名)	実施者	内容
石巻市	佐藤翔輔	石巻市地域防災計画および津波避難計画の策定に協力した。
気仙沼市	佐藤翔輔	津波避難ガイドラインの作成および地区ワークショップの企画・実施に協力した。
宮城県	佐藤翔輔	災害対応検証報告書「みやぎの3.11－回想編」「みやぎの3.11－現場編」の企画・編纂に協力した。
宮城県	佐藤翔輔	震災伝承みやぎコンソーシアムの運営・企画・実施に協力した。
東北地方整備局	佐藤翔輔	震災伝承施設連絡会議の運営・企画・実施に協力した。
宮城県	佐藤翔輔	地域連携型学校防災体制等構築推進事業の実施に協力した(松島高等学校担当)
多賀城市	佐藤翔輔	防災主任者会の企画・実施に協力した。
福島県	佐藤翔輔	伝承者育成講座の企画・実施に協力した。
石巻市	佐藤翔輔	語り部・伝承者育成講座の企画・実施に協力した。
仙台市	マリ・エリザベス	仙台観光国際協会(SenTIA)と多文化防災ワークショップを共同主催
三陸鉄道	北村美和子	災害ツーリズムのサポート
能登町春蘭の里	北村美和子	高齢化の顕著な地域のまちづくり
富山県滑川市	北村美和子	女性や高齢者に優しいまちづくりサポート
宮城県仙台市	佐々木大輔	JST研究開発プロジェクト「最後の一人を救うコミュニティアラートシステムのモデル開発および実装」の調査フィールドの1つとして連携を図った。
福島県いわき市	鎌田健一	いわき市総合防災訓練の実施を支援した。(20230708)
福島県いわき市	鎌田健一	燃料電池バスによる避難所の環境改善実証実験に協力した。(20230824～25)
宮城県多賀城市	鎌田健一	小型モビリティによる避難に関する実証実験に協力した。(20230901～0902)
宮城県多賀城市	鎌田健一	多賀城市の総合防災訓練で小型モビリティの避難利用試乗体験に協力した。
宮城県富谷市	鎌田健一	宮城県・富谷市で燃料電池バス・自動車による避難所の環境改善実証実験に協力した。(20231127～1128)
宮城県亘理町	新家杏奈	町主催の小学生向け防災学習行事の運営に協力した。
福島県いわき市	新家杏奈	令和4年9月豪雨災害の実態把握のための現地調査・インタビュー調査を行った。
宮城県気仙沼市	新家杏奈	気仙沼市立鹿折中学校・階上中学校にて防災学習の支援を行った。



### 5. 3. K. 国際共同研究

課題	概要	研究代表者 実施者	相手方代表者	相手方代表者 所属機関・国	開始日	終了日
カフラマンマラシュ地震の学校・子どもへの影響および防災教育状況の調査	カフラマンマラシュ地震の学校・子どもへの影響および防災教育状況の調査	福島洋	Canay Doğulu	TED大学・トルコ	20230801	20240731
IODP exp.386 Japan Trench Paleoseismology	日本海溝沿いでの古地震履歴の掘削に関する国際プロジェクト	石澤堯史	Michael Strasser, Ken Ikehara	University of Innsbruck・オーストリア, 産業技術総合研究所・日本	20210401	
令和6年能登半島地震の地形・地質調査研究	令和6年能登半島地震によって生じた、能登半島の山地域・沿岸域における地形・地質調査研究を共同で実施した。	福島洋 高橋尚志	Luca Malatesta	GFZ Potsdam・ドイツ		
Causal realization of rate-independent linear damping using first-order digital filter	長周期構造物の地震時過大変形の抑制に有効な複素減衰を実デバイスとして実装するための研究	五十子幸樹	Brian Phillips	メリーランド大学・米国	20130700	
A tuned viscous mass damper incorporated into coupled wall system	同調粘性マスダンパー制振システムを曲げ変形が卓越する構造物に適用するためのcoupled wall systemの開発	五十子幸樹	Xiaodong Ji	清華大学・中国	20170100	
ウランバートル市の地盤振動特性の評価に関する共同研究	ウランバートル市の地盤振動特性の評価に関する共同研究	大野晋	Tsamba TSOGEREL	モンゴル科学技術大学・モンゴル	20230619	20250331
Data-driven approach for microstructure characterization and mechanical performance assessment of composite materials	不確実性を考慮した数値解析の結果に基づく複合材料の材料特性評価について、設計・開発に対して有益な枠組みを提案する。	寺田賢二郎	Tong-Seok Han	延世大校・韓国	20230401	20240331
Machine learning-based probabilistic tsunami risk assessment	計算科学分野における高度なシミュレーション技術と応用数学分野における機械学習およびそれに基づくモデル縮約理論を融合することにより、津波予測システムの構築のための基礎理論およびハザード予測技術を構築する。	寺田賢二郎	Randall J. LeVeque	ワシントン大学・米国	20231201	20240331
Development of Immediate Tsunami Prediction System Using Reduced Order Model Based on Machine Learning	高度なシミュレーション技術と応用数学分野における機械学習およびそれに基づくモデル縮約理論を融合することにより、即時性、信頼性、経済性を兼ね備えた津波予測システムを構築する(令和5年度外国人研究者招聘フェローシップ制度)	寺田賢二郎	Donsub Rim	ワシントン大学セントルイス・米国	20230605	20230705
Development of risk assesment for slope disasters	地震や降雨に誘発される斜面災害のリスク評価手法を高度化する。	森口周二	Dicky Muslim	バジャジャラン大学・インドネシア	20231229	
Global tsunami risk assessment	世界中の津波において波源から伝播計算、浸水計算、リスク評価まで研究・評価する	今村文彦	James Vickers	Gallagher Re	20230401	20250331
Global Tsunami Model	世界中の研究者が集まり、津波波源からリスク評価、社会活動まで貢献している	今村文彦	Dr. Finn Lovholt	Norwegian Geotechnical Institute (NGI)・ノルウェー	20150601	
Earthquake and tsunami fragility functions	2011年東日本大震災、2018年スラウェシ島津波、2018年スエズ海峡等における被害関数構築研究	今村文彦	Prof. Tiziana Rossetto	University College London (UCL)・英国	20120401	
Cascading disasters	2011年東日本大震災を事例とした医療機関・学校を注目した連鎖災害の研究	今村文彦	Prof. David Alexander	University College London (UCL)・英国	20190401	
The 2023 Turkey earthquake archive	2023年トルコ地震の関連データのアーカイブ構築	今村文彦	Prof. Ahmet C. Yalciner	中東工科大学・トルコ	20230401	20230331
Paleoseismic exploration along the Mexican subduction coastal stretch and the inferred La Venta fault eastern Guerrero and Oaxaca extent: Do large ruptures occurred in the past?	メキシコ合衆国ゲレロ州～オアハカ州での古地震・古津波履歴解明	菅原大助	Maria-Teresa Ramirez-Herrera	メキシコ国立自治大学・メキシコ	20200803	
MOST Project: Upper Holocene marine event stratigraphic study on Taiwan's southern coast and offshore islands	台湾・澎湖諸島での古津波履歴解明	菅原大助	游能梯	清華大学・台湾	20200101	
デジタル防災コミュニティの探索	タイ王国における防災の取り組みに関する基礎調査	菅原大助	ジューターチップ先生	チュラロンコン大学・タイ	20220401	
Applications of tsunami researches and non-structural measures in Thailand	タイにおける津波防災研究・活動	SUPPASURI Anawat	Dr. Natt Leelawat	チュラロンコン大学・タイ	20170401	
Tsunami warning and evacuation in Thailand	2004年インド洋津波の被災地であるタイ南部における津波避難シミュレーションを用いた津波避難研究	SUPPASURI Anawat	Prof. Pennung Wanitchai	アジア工科大学院・タイ	20170401	
Building Sustainable System for Resilience and Innovation in Coastal Community	インドネシア沿岸保全を対象に、最新の科学技術に基づいたモニタリング網の整備、災害解析技術や防災減災手法の技術開発および移転を行い、沿岸地域の防御機能向上を図るとともに、防災、環境、経済の調和の取れた沿岸域を実現することを目指す。	SUPPASURI Anawat	Dr. Mohammad Farid	バンボン工科大学院・インドネシア	20210401	
Gender and disasters	本研究では、災害時のLGBTQ、ジェンダー、高齢者のような社会的脆弱性の高いグループに属する人々の災害時の実態を調査し、GIS可視化を行い発災時の状況予測とニーズへの対応をすることを目的としている。	北村美和子 SUPPASURI Anawat	Dr. Punam Yadav	University College London (UCL)・英国	20190401	
Decision-making model for tsunami disaster	仙台新港における津波数値解析(浸水マップ)を用いて、緊急対応の意識決定モデルの構築	SUPPASURI Anawat	Dr. Gemma Cremen	University College London (UCL)・英国	20210401	
Earthquake and tsunami early warning and evacuation	東北地方における地震、津波で発令された地震、津波警報の認識、避難行動についての研究	SUPPASURI Anawat	Prof. Joanna F. Walkder	University College London (UCL)・英国	20230401	
Comparison of tsunami reconstruction	2011年東日本大震災、2004年インド洋津波(タイ、インド洋津波)の復興における比較研究	SUPPASURI Anawat	Prof. Alison Raby	University of Plymouth・英国	20230401	
Tsunami induced damage to railway	2011年東日本大震災による被災された鉄道データを用いて、被害モデルを構築する	SUPPASURI Anawat	Dr. Mohammad Heidarzadeh	University of Bath・英国	20230401	
Tourism and Disaster Resilience	Research on various topics regarding disaster risk management in the tourism sector with a focus on the US, Australia and Japan	NGUYEN David	Gui Lohmann, Brent Moyle, Yawei Jiang	Griffith University・オーストラリア	20230621	20240101

課題	概要	研究代表者 実施者	相手方代表者	相手方代表者 所属機関・国	開始日	終了日
Maui Wildfire Research	Research on disaster response during the 2023 Maui Wildfires	NGUYEN David	Erica Kuligowski, Rosie Morrison, Micah Fisher	Royal Melbourne Institute of Technology・オーストラリア	20230201	20240101
JST SATREPS Project	ペルーにおける津波浸水被害のリアルタイム予測に関する共同研究	越村俊一	Miguel Estrada	ペルー国立工科大学・ペルー	20230401	
NASA Project	米国における津波浸水被害予測・リスク評価に関する共同研究	越村俊一	Diego Melgar	オレゴン大学・米国	20231101	
SATREPS JST-JICA Project, "Development of Integrated Expert System for Estimation and Observation of Damage Level of Infrastructure in Lima Metropolitan Area"	地震災害におけるリマ市の災害対応のための判断を迅速化させる	越村俊一 ADRIANO Bruno	Carlos Zavala	ペルー国立工科大学・ペルー	20200401	20260331
東北被災地の訪問時における日本災害デジタルアーカイブのロケーション機能を用いた震災アーカイブの利活用の可能性の調査研究	災害デジタルアーカイブの防災教育及び防災観光等の利活用のための基礎研究を実施し、R6年度に共著論文の執筆が決定した。	柴山明寛	Andrew Gordon	ハーバード大学・米国	20231001	20231231
Disaster Kamishibai and telling difficult pasts	Exploring the possibilities of using Kamishibai in disaster education, creating new disaster Kamishibai, international symposium	GERSTER Julia	Kaoru Ueda	Stanford University・米国	20220600	
Using digital archives and disaster memory	Survey regarding the influence of digital archives on risk awareness, workshops, classes	柴山明寛 GERSTER Julia	Andrew Gordon and Ryo Morimoto	Harvard University and Princeton University・米国	20200000	
Recovery and Institutions GEAS Summer School	preparation of summer school on institutions and recovery	GERSTER Julia	Verena Blechinger-Talcott	FU Berlin・ドイツ	20230000	
Disaster Memory Winter School	Winter school on disaster and memory	GERSTER Julia	Anna Wiemann	LMU Munich・ドイツ	20230000	202403
Understanding the merits of disaster Picture Books	Exploration of the role of picture books on disaster education	Ryo Saito GERSTER Julia	Daniel Abramson	University of Washington・米国	20230600	202403
Disaster memory and heritage	Research on narratives and different forms of negative heritage, continuation of historical narratives	GERSTER Julia	Andrew Gordon and Ryo Morimoto	Harvard University and Princeton University・米国	20230000	
生きる力質問紙英語版作成	生きる力質問紙(Sugiura et al., 2015)の英語版作成と妥当性検証を行い、質問紙の英語圏活用と文化間比較を目指す	杉浦元亮	Yuichi SHODA	University of Washington, USA	20200303	
新型コロナウイルス感染症対策における人間・社会対応の文化差	新型コロナウイルス感染症対策における人間・社会対応の文化差について5つの文化圏(日・米・中・台・韓)を比較する。	杉浦元亮	Yuichi SHODA	University of Washington, USA	20201204	
Investigation of the neurocognitive mechanisms of oral communication during emergency situations	緊急事態における言語コミュニケーションの神経基盤を解明する	杉浦元亮	Andrea Révész	University Collage London, UK	20201126	
Cognitive and neural correlates of second language writing	第二言語(英語)の作文に関する認知処理とその能力の向上に関連する脳内メカニズムを解明する英国と日本の国際共同プロジェクトである。	ジョンヒョンジョン 杉浦元亮	Andrea Révész	University Collage London, UK	20181010	
インドネシア被災地における復興評価手法の開発と災害リスク認知の時空間推移の解明	災害多発国であるインドネシアにおいて21世紀に被災と復興を経験したジャワ島、ロンボク島、スマトラ島、スラウェシ島内の地域を対象とし、「より良い復興」を評価する復興評価手法を開発するとともに、被災者の災害リスク認知に関する地域性の違いと被災からの時間経過による違いを解明する。	村尾修	Ir. Ikaputra	ガジヤマダ大学・インドネシア	20230908	20280331
地域コミュニティの安心と安全向上のための災害リスク理解に基づく防災力強化プロジェクト	地域コミュニティの安心と安全向上のための災害リスク理解に基づく防災力強化プロジェクト: マレーシアにおける住民主体の防災活動実施支援プロジェクト	泉貴子	Dr. Khamarrul Azahari Razak	マレーシア工科大学・マレーシア	20180601	
APRU Multi-Hazards Program	APRU Multi-Hazards Program: 環太平洋大学協会(APRU)と東北大学が2013年に立ち上げた災害科学研究強化プログラムで、災害研がプログラムハブを務めている。	泉貴子	Prof. John Rundle et al	UC Davis, Chulalongkorn university, National Taiwan University, Tsinghua University, University of Hawaii, University of Chili など	20130401	
東南アジアにおける「オールハザード型」防災枠組構築のための共同研究	東南アジアにおける「オールハザード型」防災枠組構築のための共同研究: オールハザードアプローチに基づく包括的防災戦略を構築するための研究	泉貴子	Dr. Farah Mulyarsi	Universitas Pertamina・インドネシア	20181001	20240331
MIRA2.0	スウェーデンと日本の17大学による共同研究推進プロジェクト	泉貴子	Prof. Mikael Granberg	Karlstad University・スウェーデン	20230401	20231231
被災沿岸地域から学ぶ移転復興計画論の構築: 台風ハイアン・スラウェシ島地震を対象に	途上国の沿岸部の復興において、よりよい生活環境を創出するために重要な計画内容と実践のあり方について探ることを目的とした研究	井内加奈子	Rahma Hanifa	The National Agency for Research and Innovation of The Republic of Indonesia・インドネシア	20200401	20240331
災害・気候変動対応策への投資と社会的脆弱性・地域復元力の関係解明に関する研究	「復興や減災の計画・事業等の投資」と「社会的脆弱性」「地域復元力」の関係を探り、居住性・公平性・回復力・経済的活力のある地域形成への方策を探る。	井内加奈子	John Mutter	コロンビア大学・米国	20200331	20230331
海面上昇とコロナ禍を受ける米国東海岸沿岸部住民の生活実態に関する研究計画	沿岸部の海面上昇に対応するレジリエンスの向上とコロナ禍に対応する生活実態に関する研究	井内加奈子	Donovan Finn	ストーニーブルック大学・米国	20210710	20230331
災害後の移転におけるキャンプ・ガバナンスの(再)概念化に関する研究	移転先住宅の完成と生活の再建を切り離して考えられている現移転事業の再概念化に関する研究	井内加奈子	Christine Gibbs	オタワ大学・カナダ	20220501	20240731
Social Equity/Risk Assessment Working Group	公平性を考慮したリスク評価の方法や技術を洗い出し、その方法を提案する事を目的とした研究(世界銀行出資)	井内加奈子	Sabine Loos	ミシガン大学・米国	20231116	20240631
Disaster and Disability	インドネシア・バンダアチエでの災害リスク減少をするためにインクルーシブ防災を実現する方向についての研究	BORET Sebastien PARK Hyejeong	Alfi Rahman	Universitas Syiah Kuala・インドネシア	20240201	20270207
IAEA coordinated research project	原子力災害後の陸域動物の外部被ばく線量評価法の確立・改良にむけた国際共同研究	鈴木正敏	Ying Wu	国際原子力機関・オーストラリア	20221216	20271216

課題	概要	研究代表者 実施者	相手方代表者	相手方代表者 所属機関・国	開始日	終了日
Using Japan Disasters Digital Archive (JDA) geolocation function in visits to disaster-related sites in Tohoku.	The present study examines how geo-location functions in disaster digital archives may contribute to disaster risk awareness.	今村文彦 BORET Sebastien	Andrew Gordon	Harvard University・米国	20230401	20240331
Sustainable socio-cultural transformation in the context of climate change adaptation in mountain UNESCO Biosphere Reserves.	The research examines the long term environmental and climate changes Tadami Biosphere Research. It also looks at the implications of these changes for the community and the possible measures to reduce risks based on community experience.	BORET Sébastien P.	Paola Fontanella	GLAMOS-United Nations University・Germany	20230401	20240331
Disaster prevention for and with people with disability in Indonesia	This study investigate the lasting impacts of the March 2011 triple disaster in the region. As part of our survey, we investigated how local people remember this disaster today and their perception of the major risks that particularly that may affect the Tohoku coastline in the future.	BORET Sébastien P.	Alfi Rahman	Syiah Kuala University・インドネシア	20220401	20270331
Recovery trajectories of Societies to natural Disasters	This research activity brings several members of IRIDeS and the International Research Network of the CNRS to enhanced assessment of the disaster risks based on lessons learned from the past to increase the resilience of societies.	BORET Sébastien P.	Emmanuel Garnier	French National Research Center (CNRS)・フランス	20220608	20230331
International Tsunami Memorial Museum Exchange Workshop 2023	A workshop was organised for high school students from Iwate and Aceh to share their experiences of disaster. The students also received feedback from local people and specialists, and visited local museums and memorial sites of 3.11	Akihiro Shibayama BORET Sébastien P.	Affan Muzailin	Syiah Kuala University・インドネシア	20231117	20231120
Comparative Analysis of Learning from Disaster Experience :Community Resilience and Disaster Memory approach in Japan and Turkey	Research on the transmission of memory after disasters explores how places and spaces, such as disaster museums, preserve and convey these memories. Supervised by Professor Gonzalo Lizarralde and his Turkish PhD architecture student from the Université de Montréal, this study involves collaboration with Dr. Estella from UCL.	北村美和子	Dr.Estella Capri(UCL)	University College London (UCL)・UK, University Montreal・Canada	20231001	
The AIGLE project (EU HORIZON)	The AGILE project, funded by the EU and UKRI, unites diverse organizations to innovate Disaster Risk Management. It aims to understand, anticipate, and manage High Impact Low Probability (HILP) events with a focus on systemic risk and resilience. Designed for practitioners and policymakers, AGILE integrates various methodologies into a novel, replicable multi-sectoral risk and resilience stress testing framework.	栗山進一 北村美和子 SUPPASRI Anawat	Prof. David Alexander	University College London (UCL)・UK	20231020	
LGBTQ Disaster Risk Reduction	Research on LGBTQ disaster management examines the unique vulnerabilities and needs of LGBTQ individuals during disasters. It explores the perspectives and gender dynamics of disaster risk reduction, aiming to develop inclusive strategies and policies to improve resilience and support for the LGBTQ community in disaster scenarios with UCL center for gender and disaster .	北村美和子	Prof.Maurren Fordham Dr.Punam Yadav	University College London (UCL)・UK	20240203	
インドネシアにおける災害復興で現地の学術研究機関が果たす媒介機能の活用に向けて	インドネシアにおける災害復興で現地の学術研究機関が果たす媒介機能の活用方法等について明らかにする。	佐々木大輔	Prof. Dr. Hizir Sofyan	Universitas Syiah Kuala・インドネシア	20210401	20250331
気候変動による移住の動機に関する研究	小島嶼開発途上国(SIDS)の人々が気候変動の影響により国外へ移住を判断する際の動機等について明らかにする。	佐々木大輔	Dr. Aishath Shehenaz Adam	Maldives National University・モルディブ	20191007	20240331
生態系保全策・気候変動適応策の地域間矛盾解消に資する乾燥地フードチェーンの解明	乾燥地中国の農村社会経済、食料・農業生産に対する情報交換、フィールド調査での連携。	原裕太	Yu Jing	西北農林科技大学・中国 (Northwest A&F University)	20200401	20240331
From Degradation to Restoration: Lessons from Overused Semi-arid Vegetations in the Northeast Loess Plateau, China, 1992-2016	中国での植林緑化地域のモニタリングと評価のための生態学者らとの共同研究である。今年度、ICLEE 2023 (済州)において共同発表を行った。	原裕太	藤沼潤一	タルトゥ大学・エストニア (Tartu Ülikool)	20230401	
仙台防災枠組におけるグローバル指標の更なる社会実装に向けて:インドネシア・アチェを事例に	アチェ州を対象に、仙台防災枠組のローバル指標の社会実装を図る際の課題を明らかにし、政策提言に繋げる。	佐々木大輔	Hizir Sofyan	ジャクアラ大学・インドネシア (Syiah Kuala University)	20230601	20240331
SATREPS Indonesia BRICC / Integrated hazards and risk assessment of compound disaster/ Development of Inclusive and evidence-based decision support platform for resilient coastal society	インドネシアにおける防災・環境・経済のバランスが取れた沿岸地域保全への技術移転および技術開発	SUPPASRI Anawat 内田典子	Mohammad Farid	バンドン工科大学・インドネシア	20220401	20270331

### 5. 3. L. 国際訪問・受入

#### 共同研究

受入訪問	研究代表者 実施者	交流活動の名称	活動の概要	開催都市	開催国	相手方代表者	相手方代表者の 所属機関	実施 開始日	実施 終了日
受入	平野勝也	客員研究員	客員研究員を受け入れ水害とまちづくり の日中比較共同研究を行なった。	仙台	日本	康 毅	山東理工大学	20221001	20240331
受入	BORET Sébastien P.	福島放射能除染と集合的記憶 の構成	本研究の目的は、日本で開始された放射 能除染作業が、レジリエンス政策を支持 する文化的要因によって説明できるという 仮説を検証	仙台	日本	GAULENE Mathieu	CNRS	20230308	20240331
訪問	栗山進一 SUPPASRI Anawat	若手リーダー海外派遣プログラム 研究員(渡航型)	ロンドン大学(UCL)での在外研究、教育 活動の強化	ロンドン	イギリス	Prof. Joanna F. Walker	UCL-IRDR	20230408	20231215
訪問	今村文彦 佐々木宏之	イスタンブール工科大学訪問	2023年トルコ南東部地震に関する意見交 換・情報収集	イスタンブール	トルコ	Mustafa Kumral教授	イスタンブール工 科大学	20230414	20230414
訪問	今村文彦 佐々木宏之	Yildiz Technical University訪問	2023年トルコ南東部地震に関する意見交 換・情報収集	イスタンブール	トルコ	Asst. Prof. Cem Yenidogan	Yildiz Technical University訪問	20230415	20230415
訪問	今村文彦 佐々木宏之	中等工科大学訪問	2023年トルコ南東部地震に関する意見交 換・情報収集	アンカラ	トルコ	Prof. Ahmet Cevdet Yalciner	中等工科大学	20230417	20230417
訪問	小野裕一	今年度活動計画	協力体制についての協議	バンコク	タイ	Rajesh.Sharma	UNDP	20230426	20230427
訪問	栗山進一 SUPPASRI Anawat	共同研究	防災全般に関する研究	ケンブリッジ	イギリス	Prof. Amy Donovan	ケンブリッジ大学	20230522	20230522
訪問	BORET Sébastien P.	災害の歴史、記憶、コミュニケー ションに関する日仏比較研究	過去から学んだ教訓に基づく災害リスク の評価; 2) 市民が災害リスクに関する知 識と状況を認識し、行動する力を得ること で、社会の回復力を高める	仙台	日本	Emmanuel Garnier	CNRS	20230522	20230526
受入	寺田賢二郎 野村怜佳	外国人研究者招聘フェロウシップ 制度による受け入れ	リアルタイム津波被害評価システムの開 発に関連し、Donsub Rim助教を1か月招 聘し共同研究を行った	仙台	日本	Donsub Rim	ワシントン大学セ ントレイス校	20230601	20230701
訪問	栗山進一 SUPPASRI Anawat	共同研究	津波防災に関する研究	ブリマス	イギリス	Prof. Alison Raby	ブリマス大学	20230612	20230614
訪問	栗山進一 SUPPASRI Anawat	共同研究	津波防災に関する研究	パース	イギリス	Dr. Mohammad Heidarzadeh	パース大学	20230615	20230615
訪問	栗山進一 SUPPASRI Anawat	共同研究	津波防災に関する研究	ブリストル	イギリス	Dr. Raffaele De Risi	ブリストル大学	20230616	20230616
受入	大野晋	ウランバートル市の地盤振動特性 評価に関する共同研究	ウランバートル市の地盤振動特性評価に 関する共同研究の打ち合わせ	仙台	日本	Tsamba TSOGGEREL講師	モンゴル科学技 術大学	20230619	20230623
受入	BORET Sébastien P.	福島県で復興した町の祭りや風土 性について	今年10月から来年5月まで南相馬市と浪 江町の復興における祭り活動について フィールドワーク	仙台	日本	Michaël Châteauneuf	オタワ大学	20230701	20240520
訪問	BORET Sébastien P.	インドネシアの災害と障害に関する 研究:2004年インド洋地震・津波から 学ぶ	インドネシアの災害と障害に関する研究 :2004年インド洋地震・津波から学ぶ	バンドアチェ	インドネシア	Alfi Rahman	ジャクアラ大学	20230716	20230725
訪問	栗山進一 SUPPASRI Anawat	共同研究	津波防災に関する研究	ブライトン	イギリス	Dr. Stuart Fraser	Fraser Disaster Risk Consulting Ltd	20230720	20230720
訪問	ADRIANO Bruno	UNESCO/IOC Meeting of Experts on tsunami sources and hazard in southern Perú and northern Chile	ペルー南とチリ北での津波被害評価にお いて日本の津波被害関数を適用できるの か、またそのための適切な手法があるか などについて研究者と議論した。	アフリカ	チリ	Bernardo Aliaga Rossel	UNESCO IOC	20230822	20230825
受入	栗山進一 北村美和子	カスケード災害	カスケード災害	宮城県	日本	Prof. David Alexander	UCL-IRDR	20230901	20230910
訪問	SUPPASRI Anawat 内田典子	The 2nd Joint Coordination Committee (JCC) meeting	SATREPS Indonesiaに参画する国内・現 地リーダー、JICA担当者が一堂に介して 報告を行う	ジャカルタ	インドネシア	Mohammad Farid	バンドン工科大学 ・インドネシア	20230919	20230919
訪問	栗山進一 SUPPASRI Anawat	共同研究	津波防災、2023年トルコ地震に関する研 究	アンカラ	トルコ	Prof. Ahmed C. Yalciner	中東工科大学	20230920	20230921
訪問	栗山進一 SUPPASRI Anawat	共同研究	津波防災に関する研究	リバプール		Henry McGhie	Curating Tomorrow	20231024	20231024
受入	栗山進一 北村美和子	Disaster and gender	減災を女性の視点で行う研究についての 議論を行った	宮城県	日本	Dr. Punam Yadav	UCL -IRDR	20231101	20231110
訪問	佐々木大輔 原裕太	仙台防災枠組におけるグローバル 指標の更なる社会実装に向けて: インドネシア・アチェを事例に	バンドアチェ市およびアチェ州における 災害被害統計に関する国際合同調査、 関連行政機関訪問、土地利用・マーケッ トでのフィールドワーク。	バンドアチェ	インドネシア	Prof. Hizir Sofyan	ジャクアラ大学 統 計学部	20231114	20231117
訪問	栗山進一 SUPPASRI Anawat	共同研究	津波防災に関する研究	パース	イギリス	Dr. Mohammad Heidarzadeh	パース大学	20231120	20231120
訪問	栗山進一 SUPPASRI Anawat	共同研究	防災全般に関する研究	ケンブリッジ	イギリス	Prof. Amy Donovan	ケンブリッジ大学	20231122	20231122
訪問	村尾修		科研費研究課題打ち合わせ	ジョグジャカルタ	インドネシア	Ir. Ikaputra	ガジャマダ大学	20231215	20231215

受入訪問	研究代表者 実施者	交流活動の名称	活動の概要	開催都市	開催国	相手方代表者	相手方代表者の 所属機関	実施 開始日	実施 終了日
訪問	原裕太	中日人文地理学学术研讨会(中国語) (日本語仮訳:日中人文地理学術研究会)	中国の高度経済成長、深圳および珠江デルタ地域の社会経済、開発計画に関する日本・中国本土・香港の人文地理学者の国際研究交流、発表、議論。	広州	中国	Prof. Liu Yunang (劉 雲剛)	華南師範大学地理科学部	20240106	20240106
受入	柴山明寛	地域自然災害アーカイブのためのプラットフォームの構築	共同研究内容の情報交換	仙台市	日本	小山真紀、竹内裕希子、田中 尚人、廣内大助	岐阜大学、熊本大学、信州大学	20240107	20240108
受入	栗山進一 北村美和子	Collaborate reserch meeting	防災全般に関する研究	宮城県	日本	Prof. David Alexander	UCL-IRDR	20240116	20240125
訪問	BORET Sébastien P.	インドネシアの災害と障害に関する研究:2004年インド洋地震・津波から学ぶ	インドネシアの災害と障害に関する研究:2004年インド洋地震・津波から学ぶ	バンダアチエ	インドネシア	Alfi Rahman	ジャクアラ大学	20240129	20240208
訪問	北村美和子	UCLジェンダーと災害研究センター	UCLジェンダーと災害研究センターの今後の国際連携について	宮城県	日本	Prof. Maureen Fordham	UCL -IRDR	20240201	20230204
受入	柴山明寛	災害デジタルアーカイブの共同研究	共同研究に関する協議	仙台市	日本	Prof. Andrew Gordon	ハーバード大学	20240304	20240305
受入	福島洋	意見交換・ワークショップ	カフラマンマラシュ地震の学校・子どもへの影響および防災教育状況の調査に関する打ち合わせ・ワークショップ	東北大学	日本	Canay Doğulu	TED大学	20240308	20240312
訪問	今村文彦	共同研究	2023年トルコ地震に関する研究	アンカラ	トルコ	Prof. Ahmed C. Yalciner	中東工科大学	20240312	20240313
受入	福島洋 北村美和子	トルコ地震 防災教育のワークショップ	トルコ地震 防災教育のワークショップ開催	宮城県	日本	Dr.Canay Doğulu	TED university	20240324	20240326

#### 国際会議(研究発表以外)

受入訪問	研究代表者 実施者	交流活動の名称	活動の概要	開催都市	開催国	相手方代表者	相手方代表者の 所属機関	実施 開始日	実施 終了日
受入	佐々木大輔	Infrastructure development in Maldives to cope with climate change: In-country migration to newly constructed island of Hulhumalé	気候変動による移住に関連した発表	大阪	日本	Aishath Laila	Housing Development Corporation, Maldives	20230404	20230404
訪問	小野裕一	Asian Conference on Climate Change and Disaster Resilience	パネリスト	マニラ	フィリピン	Jikyeong Kang	Asian Institute of Management	20230810	20230810
訪問	小野裕一	持続可能な社会のために科学と技術に関する国際会議2023	東京声明2023採択を発表	東京	日本	小池 俊雄 ICHRM、 東京大学	日本学術会議	20230907	20230908
受入	永見光三 大野晋	GP-RSS Symposium on India - Japan Joint Research	policy-making support framework for disaster risk reduction and sustainable urban development	仙台	日本	Prof. Ravi Sinha	Department of Civil Engineering, IIT Bombay	20240307	20240308
訪問	小野裕一	40th Meeting of the Board of Directors of GADRI	理事会に出席	京都	日本	Paul Kovacs	Western University	20240311	20240311
訪問	小野裕一	5th Open Discussion Forum of GADRI	討論会に出席	京都	日本	Andrew Collins	Northumbria University	20240312	20240312

#### 学会・シンポジウム

受入訪問	研究代表者 実施者	交流活動の名称	活動の概要	開催都市	開催国	相手方代表者	相手方代表者の 所属機関	実施 開始日	実施 終了日
訪問	BORET Sébastien P.	Learning Trajectories of Catastrophic Disasters and Building Resilience to Natural Hazards and Risks	ワークショップの目的は、長期的な傾向と過去の経験を検証することによって、災害リスクに直面している社会の災害回復力を高めるための戦略を分析	京都	日本	Emmanuel Garnier	CNRS	20230515	20230516
訪問	栗山進一 小野裕一	High-Level Meeting on the Midterm Review of the Sendai Framework	郡市長のプレゼンテーションを聴講及び関係者との意見交換	ニューヨーク	アメリカ	Csaba Körösi	UNDRR	20230518	20230519
訪問	原裕太	DTXV International Conference on Arid Land	乾燥地のマネジメントに関する国際学術会議(参加国:日本、ヨルダン、インド、サウジアラビア、UAE、南アフリカ等)	死海	ヨルダン	Prof. Majed Abu-Zreig	ヨルダン科学技術大学(JUST) 水資源・環境工学部	20230603	20230606
訪問	小野裕一	The 18th Annual Meeting of Typhoon Committee Working Group on Disaster Risk Reduction	防災WGで2024年度の活動について意見交換	蔚山	韓国	Lee Jongseol	National Disaster Management Research Institute	20230613	20230616
訪問	小野裕一	48th Annual Natural Hazards Research and Applications Workshop	仙台枠組の中間レビューから各国が取り組んでいるテーマについての発表	コロラド	アメリカ	Lori Peek	University of Colorado at Boulder	20230709	20230712
訪問	小野裕一	Japan-U.S. Research Collaboration Week - Creating Japan-US Research Highway -	プレゼンター	スタンフォード	アメリカ	Csaba Körösi	Diplomat, Hungarian Government	20230720	20230725
訪問	栗山進一	15th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery (AIWEST-DR 2023)	基調講演	ジョグジャカルタ	インドネシア	Ova Emilia,Rektor Universitas Gadjah Mada	Faculty of Psychology, Universitas Gadjah Mada	20231011	20231013
訪問	GERSTER Julia	GEAS Anniversary Symposium Participation and Preparation for GEAS Summer School at IRIDeS	GEAS Anniversary Symposium Participation and Preparation for GEAS Summer School at IRIDeS	Berlin	Germany	Prof. Verena Blechinger-Talcott	Free University of Berlin	20231031	20231110

受入訪問	研究代表者 実施者	交流活動の名称	活動の概要	開催都市	開催国	相手方代表者	相手方代表者の 所属機関	実施 開始日	実施 終了日
訪問	小野裕一	WMO CHE Deliverable Planning Meeting for 2024-2025 & WMO, UNDRR and UNDP Workshop on assessing the impact of Slow-Onset Events	アドバイザー	ボン	ドイツ		UNDRR UNDP WMO	20231106	20231110
受入	寺田賢二郎	TOHOKU-YONSEI STUDENT SEMINAR - INFRASTRUCTURE SYSTEMS JOINT WORKSHOP 2023 -	東北大学と延世大学の大学院学生の研究発表会	仙台	日本	Tong-Seok Han	延世大学校	20231108	20231110
受入	柴山明寛	海外津波博物館等とのオンライン交流	岩手県及びアチェ、ハワイのそれぞれの津波博物館との交流事業	陸前高田市	日本	Assoc. Prof. Dr. Muzailin Affan	ジャクアラ大学	20231117	20231119
訪問	小野裕一	ESCAP/WMO Typhoon Committee 18TH INTEGRATED WORKSHOP / 4TH TRCG FORUM	基調講演	バンコク	タイ	Duan Yihong	Typhoon Committee, ESCAP	20231128	20231201
訪問	寺田賢二郎	Brain Korea 21 (BK21) Program, Department of Civil and Environmental Engineering, Korea Advanced	KAISTの施設見学とInternational Seminar for Disaster Mitigation and Simulationと題する招待講演	Daejeon	韓国	Hyung-Jo Jung, Jung-Wuk Hong	Korea Advanced Institute of Science and Technology (KAIST)	20240125	20240126
訪問	小野裕一	The 56th Session of UNESCAP/WMO Typhoon Committee.	早期警報システムの歴史と個別避難アプリについてのプレゼンテーションを行う	クアラ・ルンブール	マレーシア	Muhammad Helmi Bin Abdullah	Malaysian Meteorological Department and Permanent Representative of Malaysia with WMO	20240227	20240301
訪問	小野裕一	Japan's Earthquake Preparedness Culture: How Science Helps Minimize Disaster	パネルディスカッション パネリスト	オンライン	オンライン	Nicholas Dirks	International Science Reserve	20240327	20240327

## 教育

受入訪問	研究代表者 実施者	交流活動の名称	活動の概要	開催都市	開催国	相手方代表者	相手方代表者の 所属機関	実施 開始日	実施 終了日
受入	蝦名裕一	Tohoku University STEM Summer Program 2023 (TSSP2023)	TSSP2023への参加学生に対する史料保全の講義	仙台	日本		ワシントン大学ほか	20230712	20230712
訪問	ADRIANO Bruno	災害軽減のための科学技術に関する講演会	大学院生に「総合防災論2」の講義を行う。	名古屋	日本	長江拓也	名古屋大学	20231102	20231102
訪問	村尾修		特別講義	台東	台湾	靳菱菱	台東大学	20231220	20231220
訪問	佐々木大輔	大学院学生の研究指導	大学院学生(PMDSU奨学生)の研究指導を行う。	バンドアアチェ	インドネシア	Prof. Dr. Hizir Sofyan	Universitas Syiah Kuala	20240311	20240315

## 協定締結(更新/事前協議を含む)

受入訪問	研究代表者 実施者	交流活動の名称	活動の概要	開催都市	開催国	相手方代表者	相手方代表者の 所属機関	実施 開始日	実施 終了日
訪問	内田典子	STREPS Indonesia グループ4の研究環境構築	相手国の関係省庁・ステークホルダーの訪問および津波避難に関する技術移転の協定締結	デンバサール	インドネシア	Gusti Ayu Ketut Surtiari	国立研究開発機構(BRIN)	20230920	20230922
受入	鳥光慶一	Comenius University in Bratislavaとの協議	協定に関する準備	オンライン	オンライン	Assoc. prof. Martin Kolisek	Comenius University in Bratislava	20231006	20231006
訪問	長坂徹也 SUPPASRI Anawat	研究・教育の連携強化	タイ同窓会関連	バンコク	タイ	Prof. Supot Teachavorasinskun, Prof. Chai Jaturapitakkul	Chulalongkorn大学、キングモンクット工科大学トンブリ校	20240307	20240307
訪問	長坂徹也 SUPPASRI Anawat	研究・教育の連携強化	タイ同窓会関連	バンコク	タイ	Assoc. Prof. Somchai Supattarakul, Assoc. Prof. Rungsun Lertnaisat	タマサート大学、泰日工業大学	20240308	20240308

## フィールドワーク

受入訪問	研究代表者 実施者	交流活動の名称	活動の概要	開催都市	開催国	相手方代表者	相手方代表者の 所属機関	実施 開始日	実施 終了日
訪問	今村文彦 井内加奈子	中東工科大とのワークショップ	トルコ・カフラマンマラシュ地震対応に関する学術的な情報交換・現地踏査	アンカラ	トルコ	Prof. Ahmet Yalcner	中東工科大学	20230416	20230418
受入	菅原大助	調査	三陸海岸での沿岸巨礫調査	岩手県 宮城県	日本	Storm Roberts	プリマス大学	20230417	20230419

受入訪問	研究代表者 実施者	交流活動の名称	活動の概要	開催都市	開催国	相手方代表者	相手方代表者の 所属機関	実施 開始日	実施 終了日
訪問	原裕太	DTXV International Conference on Arid Land	ヨルダン南部の砂漠、自然保護区、考古遺産等でのフィールドワーク。	アカバ県等	ヨルダン	Prof. Majed Abu-Zreig	ヨルダン科学技術大学(JUST) 水資源・環境工学部	20230606	20230607
訪問	小野裕一 川内淳史	関東大震災時の日本の学生の感謝状の調査	関東大震災後に日本の学生からクーリッジ大統領に送られた感謝状の調査	プリマスノッチ	アメリカ	Matthew Denhart, James H. Douglas (元 バーモント州知事)	Calvin Coolidge Presidential Foundation, Middlebury College	20230804	20230805
受入	GERSTER Julia	Disaster Memory fieldwork and participation in Symposium and preparation of winter school in Tohoku	Disaster Memory fieldwork and participation in Symposium and preparation of winter school in Tohoku	Sendai	Japan	Dr. Anna Wiemann	LMU Munich	20230908	20230930
訪問	木戸元之	台湾における海底地殻変動観測	船舶での調査観測への参加・情報交換	台北・台南	台湾	許雅儒	台湾中央研究院	20231115	20231124
訪問	村尾修		復興調査	バンダアチェ	インドネシア	Muzailin Affan	ジャクアラ大学	20231210	20231213
訪問	原裕太	深圳フィールド巡検	中国の高度経済成長、深圳の社会経済に関するフィールドワーク、関係機関の訪問、博物館等の見学。	深圳	中国	Prof. Liu Yunang (劉雲剛)	華南師範大学地理科学部	20240107	20240107
受入	柴山明寛	災害デジタルアーカイブの共同研究	いわき市の台風13号被害と炭鉱の歴史関係性に関する巡検	いわき市	日本	Prof. Andrew Gordon	ハーバード大学	20240208	20240208
受入	GERSTER Julia MALY Elizabeth	国際フィールドワーク	東日本大震災被災地フィールドワーク	仙台、南三陸、気仙沼、双葉	日本	Assoc. Prof. Anna Weiman Lecturer Kenya Endo	LMU Munich, Singapore University (NUS)	20240226	20240302
受入	GERSTER Julia	Preparation of GEAS summer school	Preparation of GEAS summer school	Sendai, Hutaba, Minami Souma	Japan	Nakako Hattori	Free University of Berlin	20240305	20240308

## 研修

受入訪問	研究代表者 実施者	交流活動の名称	活動の概要	開催都市	開催国	相手方代表者	相手方代表者の 所属機関	実施 開始日	実施 終了日
受入	泉貴子	Philippine Public Safety College, Philippines	研修実施	宮城県	日本		Philippine Public Safety College, Philippines	20230919	20230919
受入	高橋直也 高橋尚志	Short course on data visualization and analysis	Pythonを用いた効果的な作図方法やデータ分析に関する講義	仙台	日本	Luca Malatesta	GFZ Potsdam・ドイツ	20231127	20231129
受入	小森大輔 高橋尚志	GP-RSS Seminar	河川地理学・環境学や都市計画・人文地理学を専門とするノッティンガム大学の研究者らとの研究交流セミナー	仙台	日本		ノッティンガム大学・イギリス	20240219	20240219

## 表敬訪問

受入訪問	研究代表者 実施者	交流活動の名称	活動の概要	開催都市	開催国	相手方代表者	相手方代表者の 所属機関	実施 開始日	実施 終了日
受入	村尾修		話題提供・情報交換	仙台	日本	Oscar Arenales	Laure Schwartz-Arenales	20230414	20230414
訪問	今村文彦 佐々木宏之	JICAトルコ事務所訪問	2023年トルコ南東部地震に関する意見交換・情報収集	アンカラ	トルコ	田中優子 所長	JICAトルコ事務所	20230419	20230419
訪問	今村文彦 佐々木宏之	在トルコ国日本大使館訪問	2023年トルコ南東部地震に関する意見交換・情報収集	アンカラ	トルコ	岩佐敬昭 公使	在トルコ国日本大使館	20230419	20230419
受入	村尾修		話題提供・情報交換	仙台	日本	Wunan Huang	University of Science and Technology Beijing	20230608	20230608
受入	栗山進一 泉貴子	北京科技大学副学長一行	災害研への表敬訪問	宮城県	日本	Huang Wunan 副学長	北京科技大学	20230608	20230608
訪問	小野裕一 川内淳史	カルバン・クーリッジ元大統領就任100周年記念式典	関東大震災時に対日支援を行ったクーリッジ元大統領に関する意見交換	プリマスノッチ	アメリカ	Matthew Denhart, James H. Douglas (元 バーモント州知事)	Calvin Coolidge Presidential Foundation, Middlebury College	20230802	20230803
訪問	BORET Sébastien P.	Learning Trajectories of Catastrophic Disasters and Building Resilience to Natural Hazards and Risks	フランシュ・コンテ大学を訪れ、私の現在の研究を発表し、災害研究の国際的ネットワークをリードするクロノ・エンバイロメント研究所のメンバーを訪問	ブザンソン	フランス	Emmanuel Garnier	CNRS	20230913	20230920
受入	北村美和子	UCLとの共同研究	UCLとの共同研究	宮城県	日本	Dr. Michael Pence (president of UCL)	UCL	20240105	20240105
受入	村尾修		話題提供・情報交換	仙台	日本	新菱菱	台東大学	20240123	20240123
受入	栗山進一 北村美和子	オックスフォード大学ロジャー・グッドマン教授(国際アドバイザー)来訪	本学の人文社会科学分野の国際化・競争力強化に関するヒアリング	宮城県	日本	ロジャー・グッドマン教授	Oxford university	20240205	20240206

受入訪問	研究代表者 実施者	交流活動の名称	活動の概要	開催都市	開催国	相手方代表者	相手方代表者の 所属機関	実施 開始日	実施 終了日
訪問	佐藤健	洪水災害を中心とした学校の防災教育と防災管理に関する学術交流	日本における学校防災の最新動向に関する講演	台南市	台湾	Prof. Wen Wang	成功大学	20240304	20240304
訪問	BORET Sébastien P.	東北大学とBRIN(National Research and Innovation Agency (BRIN)の協定の提案	両国の代表は、災害人文学の分野における研究協力と教育の協定締結の可能性について相談	仙台	日本	Fadjar I. Thufail	BRIN(National Research and Innovation Agency (BRIN), Indonesia	20240304	20240305
訪問	佐藤健	学校の防災教育・防災管理を含む包括的学校の安全に関する学術交流	日本における学校防災の最新動向に関する講演	台北市	台湾	Ying-Tien Wu	台湾教育部	20240305	20240305

## 視察

受入訪問	研究代表者 実施者	交流活動の名称	活動の概要	開催都市	開催国	相手方代表者	相手方代表者の 所属機関	実施 開始日	実施 終了日
訪問	今村文彦 佐々木宏之	トルコ南東部地震被災地視察	2023年トルコ南東部地震に関する意見交換・情報収集	アンタキヤ	トルコ	Prof. Ahmet Cevdet Yalciner	中等工科大学	20230418	20230418
訪問	村尾修	情報収集	慶州・ソウルにおける情報収集	慶州・ソウル	韓国	ペク・ミンホ	Kangwon National University	20230915	20230916
受入	北村美和子	SASAGAWA USA	Honoring the Legacy of Disaster Prevention Month in Japan Through the Lens of Women, Peace and Security	東京	日本	Ms Shanti Shoji	SASAGAWA USA	20231023	20231023
訪問	村尾修	現地視察	台東、集集、台中、台北での現地視察	台東、集集、台中、台北	台湾	満田弥生	台東大学	20231221	20231223
受入	村尾修	被災地視察	被災地視察	仙台	日本	斬菱菱	台東大学	20240124	20240124
訪問	内田典子	Eco-DRR workshop 下準備	ワークショップ開催に向けた会議、各機関や団体への参加依頼および招待講演と後援依頼の訪問	デンバサール	インドネシア	Gusti Ayu Ketut Surtiari	国立研究開発機構 (BRIN)	20240318	20240320
受入	佐藤健	学校の防災教育に関する学術交流	仙台市における防災に関する学校と地域コミュニティとの連携についての発表	仙台市	日本	Ren-Jie Chiou	台湾教育部・成功大学	20240320	20240320

## その他

受入訪問	研究代表者 実施者	交流活動の名称	活動の概要	開催都市	開催国	相手方代表者	相手方代表者の 所属機関	実施 開始日	実施 終了日
訪問	今村文彦 佐々木宏之	株式会社安藤・間 森脇義則様訪問	2023年トルコ南東部地震に関する意見交換・情報収集	イスタンブール	トルコ	森脇義則	株式会社安藤・間	20230415	20230415
訪問	鳥光慶一	MEDICA2023	Ambient Sensing using conductive natural fiberに関する発表	デュッセルドルフ	ドイツ		メッセ・デュッセルドルフ	20231113	20231116



## 5. 4. 広報・コミュニケーション活動

### 5. 4. A. 刊行物

- 2022年度 年次活動報告書

前年度の活動をまとめた年次活動報告書を2023年9月に発行した。



- IRIDeS Newsletter

広報誌IRIDeS Newsletterを、印刷版・ウェブ版で夏号・冬号の年2回発行した。基本方針は引き続き「災害研ならではの情報かつ社会が求める内容を、平易な言葉で発信する」とし、基本的に記事は広報室で執筆した。

- IIRIDeS Newsletter vol. 03 2023 夏号 印刷版(2023年7月発行)日本語

- ・特集: 世界防災フォーラム2023に参加・協力
- ・会議: 国連ハイレベル会議・仙台防災枠組中間評価会に参加
- ・調査: 三陸海岸の津波石をプリマス大学の研究者と共同調査
- ・訪問: G7科学技術大臣らがIRIDeSを訪問
- ・学び: 仙台の外国人留学生・市民が防災について学ぶ
- ・教職員紹介



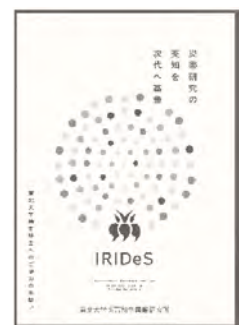
- IIRIDeS Newsletter vol. 04 2024 冬号 印刷版(2024年1月発行)日本語

- ・特集: 関東大震災から100年の節目に「これからの防災」を考えました
- ・活動: IRIDeSで「障がい者と災害」連続セミナーを開始
- ・実験: 多賀城市にて「小型モビリティ」による高齢者避難を実証実験
- ・行事: 「片平まつり2023」で体験型企画を実施
- ・教職員紹介



- パンフレット等

災害研の体制変更に伴い、IRIDeSパンフレット(日本語・英語)および基金パンフレットを更新した。



## 5. 4. B. IRIDeS オープンフォーラム

### 概要

IRIDeS オープンフォーラム(旧金曜フォーラム)は、災害科学国際研究所の研究・実践活動を所内外と広く共有しながら、被災地の復興と次の災害への備えを考える場です。本研究所の発足当初、開催曜日にちなんで「金曜フォーラム」と名付けられ、2012年6月の第1回開催以来、多彩な議論と多くの成果を生み出してきました。

その後、金曜日以外のフォーラム実施も増えてきたことから、2023年7月の第83回より、「IRIDeS オープンフォーラム」と名称変更することになりました。今後も発足直後からの主旨を継承しつつ、引き続き社会の重要課題に取り組み、被災者の方々の助けとなる「これまで」と「これから」の災害科学双方について、より深化したオープンな議論を行うことを目指してまいります。

### 発表概要

主に本研究所の教員・スタッフから、各部門・分野での国際的・学際的な研究テーマについて発表するほか、災害発生時の調査報告や大型研究プロジェクトの成果報告なども随時紹介する。

### 参加方法

新型コロナウイルス(COVID-19)の影響を考慮し、オンライン会議場で Web 開催。専用オンラインフォームより申込。参加費無料。

### 第82回『新任教員が携わる災害科学研究』2023年5月26日(金) 16:30~18:00 オンライン・Web 会議場

- 1 開会・趣旨説明
- 2 教育実践学、認知科学、心理学、それから災害科学:よりやさしく楽しい社会の実現を目指して  
齋藤 玲(認知科学研究分野)
- 3 災害リスクガバナンスの統合的アプローチに向けて  
パク ヘジョン(災害医療情報学分野)
- 4 City-scale Earthquake Simulation Toward Real-Time Disaster Monitoring  
Naruethep Sukulthanasorn(日本工営レジリエントシティー技術実装共同研究部門)
- 5 総合討論・閉会

### 第83回『東北大学災害科学国際研究所 2022年度レジリエンス共創研究報告会』2023年7月22日(土) 9:00~16:00 オンライン・Web 会議場

#### 【セッション A:ホール A】

#### 災害デジタルツインの開発に関連する研究

- 1 災害デジタルツイン実現に向けた調査研究  
撫佐 昭裕(東北大学 サイバーサイエンスセンター)
- 2 日本海溝型地震に伴う津波のリアルタイムリスク評価  
高瀬 慎介(八戸工業大学 大学院工学研究科)
- 3 人口動態把握と予測のための人流デジタルツインの開発  
マス エリック(東北大学 災害科学国際研究所)

#### 人流データを活用した社会動態の解明に関する研究

- 4 長期化した COVID-19 パンデミックによる心理的影響に関する地域特性の検討  
奥山 純子(東北大学 リハビリテーション科)
- 5 人流データの時系列変動分解に基づく災害レジリエンス情報の検出と比較

山口 裕通(金沢大学 地球社会基盤学系)

- 6 モバイル空間統計を活用した集客施設別の混雑と遊休に関する分析

塚井 誠人(広島大学大学院 先進理工系科学研究科)

- 7 復興期の沿岸部空間形成過程の体系化にむけて

井内 加奈子(東北大学 災害科学国際研究所)

- 8 デジタル時代における震災アーカイブのマルチモーダル化の実装と認知科学的評価

齋藤 玲(東北大学 災害科学国際研究所)

- 9 地域自然災害アーカイブのためのプラットフォームの構築

小山 真紀(岐阜大学 流域圏科学研究センター)

- 10 災害時における文化遺産救済を目的とした文化遺産マップの構築および活用の研究

鈴木 比奈子(栗駒山麓ジオパーク推進協議会)

#### 災害レジリエンス数量化研究領域

- 11 道路ネットワークのレジリエンス強化に向けた橋梁の合理的な地震対策決定プロセスの構築

石橋 寛樹(日本大学 工学部 土木工学科)

- 12 建築構造物における制振レトロフィットの功罪

鈴木 敦詞(東北大学大学院 工学研究科 都市・建築学専攻)

- 13 江戸時代と現代の町の豪雨災害リスクと居住空間特性の評価

鈴木 温(名城大学 理工学部社会基盤デザイン工学科)

- 14 降雨流出氾濫解析と簡易型河川監視カメラ画像解析を用いたリアルタイム浸水予測の高度化

橋本 雅和(関西大学 環境都市工学部 都市システム工学科 )

#### 【セッション B:ホール B】

##### 災害レジリエンス共創領域

- 1 住民間の「知」の循環による「地域脱炭素」推進過程での総合的レジリエンス向上の試み:長崎県五島列島を事例に  
原 裕太(東北大学 災害科学国際研究所)

- 2 千島海溝の巨大地震津波対策を支える災害総合知の創出

高橋 浩晃(北海道大学 理学研究院)

- 3 気象災害時における時空間周遊行動動態に基づく災害リスク評価

崔 善鏡(東京工業大学 環境・社会理工学院融合理工学系)

- 4 南海トラフ地震臨時情報発表時における地域コミュニティ対応計画作成支援に関する研究

野々村 敦子(香川大学 創造工学部)

- 5 Web GIS を活用した学校教員向けリスクコミュニケーション手法の高度化

～学区の災害リスクの理解に基づく実践的な避難計画の社会実装に向けて～

桜井 愛子(東洋英和女学院大学 国際社会学部)

- 6 「仙台防災枠組」進捗レビューの先駆的試み:仙台市との協働・実践を通じて

原 裕太(東北大学 災害科学国際研究所)

- 7 新型コロナウイルス感染症クラスター再発防止対策:CO<sub>2</sub>濃度を指標とした換気調査～特に保育施設、介護施設について～

喜多村 紘子(産業医科大学 産業医実務研修センター)

##### ヒューマンレジリエンス研究領域

- 8 産官学協創による災害発生後の長期間経過時点での持続的な心理支援の検討

奥山 純子(東北大学 リハビリテーション科)

- 9 災害レジリエンス構築に資する避難所医療ニーズの数量化  
越智 小枝(東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座)
- 10 放射線被ばくによる抗酸化能の低下と晩期障害の関係  
孫 略(産総研 健康医工学研究部門)
- 11 染色体異常を指標とした原子力災害時の健康影響におけるレジリエンス  
三浦 富智(弘前大学 被ばく医療総合研究所)

#### 東北大学ー防災科研マッチング研究

- 1 防災教育研究等、防災基礎力の向上に関する研究  
佐藤 健(東北大学 災害科学国際研究所)
- 2 災害レジリエンス評価指標の実証的検証に関するシステムティック・レビュー  
塩崎 由人(防災科学技術研究所 災害過程研究部門)
- 3 災害対応デジタルツイン  
越村 俊一(東北大学 災害科学国際研究所)

第84回『関東大震災 100年の節目に考える「これからの防災」』2023年9月28日(木) 13:00~16:00

東北大学災害科学国際研究所多目的ホール・オンライン同時配信

- 1 開会挨拶  
栗山 進一(東北大学災害科学国際研究所 所長)
- 2 特別講演 座長:小野 裕一(災害科学国際研究所 副所長)
  - 1) 関東大震災 100年の節目で考える「首都直下地震」とは  
遠田 晋次(陸域地震学・火山学研究分野)
  - 2) 1923年関東大震災以降の首都圏拡大状況と都市リスク(1891-2023)  
村尾 修(国際防災戦略研究分野)
- 3 最新の研究発表 座長:泉 貴子(災害科学国際研究所 教授)
  - 1) 1923年関東地震に伴う斜面崩壊と河川流域におけるその長期的なインパクト  
高橋 尚志(陸域地震学・火山学研究分野)
  - 2) 東日本大震災の解析と世界標準から見た危機管理の在り方について  
秋富 慎司(レジリエント EICT 研究推進オフィス)
  - 3) 学校防災教育における防災出前授業の現在と未来  
保田 真理(地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門)  
齋藤 玲(認知科学研究分野)  
邑本 俊亮(認知科学研究分野)
  - 4) 関東大震災と地震保険の発展  
鎌田 健一(地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門)
  - 5) 関東大震災と日米関係:今後の国際防災協力への示唆  
川内 淳史(歴史文化遺産保全学研究分野)  
小野 裕一(2030 国際防災アジェンダ推進オフィス)  
中鉢 奈津子(URA・広報室)  
吉野 賢(世界防災フォーラム事務局)  
小野 天椰(2030 国際防災アジェンダ推進オフィス)

4 討論:1923年関東大震災と2011年東日本大震災の教訓を、次の災害にどう生かすか

パネリスト:

- 遠田 晋次(陸域地震学・火山学研究分野 教授)
- 榎田 竜太(地震工学研究分野 准教授)
- 佐藤 大介(歴史文化遺産保全学研究分野 准教授)
- 濱家 由美子(災害精神医学分野 助教)
- ゲルスタ ユリア(災害文化アーカイブ研究分野 助教)

ファシリテーター:

- 栗山 進一(災害科学国際研究所 所長)

5 閉会挨拶

- 越村 俊一(災害科学国際研究所 副所長)

第85回東日本大震災メモリアルシンポジウム 2024『“誰一人取り残さない”インクルーシブ防災』

2024年3月9日(土) 10:00~12:00 仙台国際センター展示棟 総合司会:中鉢 奈津子(広報室)

1 挨拶

- 栗山 進一 災害科学国際研究所 所長

2 発表

- 郡 和子 仙台市長

3 研究発表

- ・「防災モビリティ学の提案:モビリティから考える誰一人取り残さない防災」
- ・ 齋藤 玲(認知科学研究分野)・柴山 明寛・鎌田 謙一・今村 文彦
- ・「インクルーシブ防災と数値シミュレーション」
- ・ 野村 怜佳(計算安全工学研究分野)・森口 周二・寺田 賢二郎
- ・「包摂性に配慮した Build Back Better(より良い復興)ーネパール地震住宅再建過程の調査分析結果から」
- ・ 永見 光三(2030 防災国際アジェンダ推進オフィス・グリーン未来創造機構)
- ・「誰一人取り残さない防災に向けて～医療的ケア児・者およびその家族との地域防災コミュニケーションの必要性～」
- ・ 朴 慧晶(災害医療情報学分野)・北村 美和子・原 裕太・小野 裕一・栗山 進一

4 パネルディスカッション

『個別避難計画の実効性を高めるためのマルチステークホルダーによる協働～医療的ケア者のケーススタディ～』

パネリスト:

- ・【民生委員】大友 まり子(長町南部地区民生委員児童委員協議会・会長)
- ・【SBL】大内 幸子(高砂地区町内会連合会・仙台市地域防災リーダー)
- ・【町内会長】今野 均(片平地区連合町内会・会長)
- ・【保健師】只埜 弓美(宮城野区障害高齢課・課長)
- ・【研究者】朴 慧晶(IRIDeS 災害医療情報学分野・助教)
- ・【大学生】村上 真綺(宮城教育大学教育学部特別支援教育教員養成課程・3年)
- ・ 進行:佐藤 健(防災教育実践学分野)

5 挨拶

- 小野 裕一 災害科学国際研究所 副所長

## 5. 4. C. 展示

本研究所の研究活動を平易に伝えるための展示スペースを 2015 年に開始して以来、スペースや展示内容は拡充を重ね、所内教職員および幅広い来訪者に活用されてきた。2023 年度は、新型コロナウイルス感染症の 5 類感染症移行に伴い、見学者が徐々に復活した。

9 月 15 日～12 月 22 日には、関東大震災に関する企画展を、2 階展示スペースにて一般公開した(主催: IRIDeS、NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台、歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業東北大学拠点。共催: 東北大学史料館)。これは本研究所設立後初めての企画展であり、仙台で保存されていた関東大震災に関する貴重な映像や当時の記事を展示した。また、本研究所の歴史文化遺産保全学分野の研究者らが、関東大震災が仙台・宮城へもたらした影響を考察したパネルも設置した。パネルには、当時の『河北新報』記事等から「被災地への出動」「『不逞鮮人』被災地の混乱の波及」「東北帝国大学と大震災」など 9 つの重要なテーマが抽出されてまとめられた。企画展はメディアでも複数回取り上げられ、多くの人が訪れた。



1 階展示スペース



企画展の様子

## 5.4.D. メディア対応（報道・執筆・資料提供等）

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
1	2023/4/2	ラジオ	Date fm エフエム仙台	SUNDAY MORNING WAVE 防災 UPDATES! : 三陸海岸での経験から学ぶ、アメリカ西海岸の地震と津波への備え	マリ エリザベス	出演
2	2022/4/1	新聞（地方紙）	秋田魁新報	さがりげ政経懇話会：東北地方の地下深部で起こっていること～ 秋田県地震・火山活動の背景	日野亮太	報道・コメント掲載
3	2023/4/2	新聞（地方紙）	岩手日報	関東大震災 100 年 防災へ「脱東京」進むか 本社機能移転の企業も	丸谷浩明	報道・コメント掲載
4	2023/4/3	新聞（地方紙）	河北新報	東北の侮蔑語「白河以北一山百文」時代に応じ意味合い変化 東北大・川内准教授に聞く	川内淳史	報道・コメント掲載
5	2023/4/6	テレビ（国内）	NHK	東北大災害研 栗山所長が就任会見「次の災害へ備えを」	災害研、栗山進一	報道・コメント掲載
6	2023/4/6	テレビ（国内）	東日本放送	「支援と備えを粘り強く」東北大学災害科学国際研究所の栗山進一 新所長が就任会見	災害研、栗山進一	報道・コメント掲載
7	2023/4/6	テレビ（国内）	仙台放送	「無関心層の意識改革を」災害科学国際研究所 栗山進一 新所長（仙台市）	災害研、栗山進一	報道・コメント掲載
8	2023/4/6	テレビ（国内）	東北放送（他1件）	「被災地の問題そこを切り込んでいきたい」東北大災害研・栗山進一 新所長が就任 元医師で専門は災害公衆衛生学	災害研、栗山進一	報道・コメント掲載
10	2023/4/6	テレビ（国内）	ミヤギテレビ	「防災行動を実践できない人の意識改革」東北大災害科学研究所の3代目所長が会見で意欲 宮城	災害研、栗山進一	報道・コメント掲載
11	2023/4/7	新聞（地方紙）	河北新報	東北大災害研を継承、深化させる 3代目の栗山新所長が抱負	災害研、栗山進一	報道・コメント掲載
12	2023/4/7	新聞（地方紙）	河北新報（4件）	東北大災害研 栗山新所長「継承、深化させる」	災害研、栗山進一	報道・コメント掲載
17	2023/4/9	新聞（全国紙）	読売新聞	震災アーカイブ 苦境 管理費重く ネット公開停止次々	柴山明寛	報道・コメント掲載
18	2023/4/9	新聞（全国紙）	毎日新聞	「防災意識改革」栗山新所長就任 東北大災害研 / 宮城	災害研、栗山進一	報道・コメント掲載
19	2023/4/9	その他	夕刊フジ	イルカ「集団座礁」真相は？	児玉栄一	報道・コメント掲載
20	2023/4/9	新聞（地方紙）	河北新報	15日に地域防災学ふイベント 仙台JCが参加者募集	丸谷浩明	報道・コメント掲載
21	2023/4/9	新聞（地方紙）	河北新報	「漁師の心情知るべき」処理水放出に提言続々 福島大で環境フォーラム	川島秀一	報道・コメント掲載
22	2023/4/9	新聞（地方紙）	河北新報	性同一性障害 外科治療可能に／東北大病院／東北初、センター発足／4診療科が連携 体制拡充目指す	富田博秋	報道・コメント掲載
23	2023/4/10	その他	一般財団法人日本品質保証機構	特設サイト『事業基盤の強化を考える情報サイト』連載『シリーズ防災を考える』第6回 公開のお知らせ	今村文彦	その他
24	2023/4/10	その他	宮城県	みやぎ東日本大震災津波伝承館での小中高大生のボランティア解説員の認定式を実施します	災害研	その他
25	2023/4/10	その他	夕刊フジ（他1件）	イルカ「集団座礁」の真相は？ 餌を追って低温、回収2体が妊娠中 過去、大地震前には50頭が…各観点から専門家に聞く	児玉栄一	報道・コメント掲載
27	2023/4/11	その他	SMBC ビジネスクラブ Info Lounge	地震研究を志すきっかけとなった小説『日本沈没』「地震予報」の実用化で、現実味のある備えを促す	日野亮太	報道・コメント掲載
28	2023/4/12	新聞（全国紙）	毎日新聞（他1件）	釜石市の「震災誌」続く生みの苦しみ 原稿案や編集方針で認識の違い	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
30	2023/4/12	新聞（全国紙）	日本経済新聞	南海トラフ地震の想定見直し、「半割れ」対応が焦点	丸谷浩明	報道・コメント掲載
31	2023/4/12	新聞（全国紙）	産経新聞（5件）	「地震の連鎖、断層のずれに対策必要」遠田晋次東北大教授	遠田晋次	報道・コメント掲載
37	2023/4/12	新聞（地方紙）	河北新報	関東大震災 100 年 3 一局集中のリスク 本社機能移リリスク回避も	丸谷浩明	報道・コメント掲載
38	2023/4/13	新聞（地方紙）	静岡新聞	静岡人インタビュー「この人」「南海トラフ地震臨時情報」の対応計画策定を支援する 福島洋さん（仙台市青葉区）	福島洋	報道・コメント掲載
39	2023/4/14	テレビ（国内）	NHK 秋田放送局	NHK秋田「日本海中部地震40年」関連企画 特別講演「一あの日から、津波と向き合って— 研究者が語る日本海中部地震」公開収録	今村文彦	その他
40	2023/4/14	テレビ（国内）	東日本放送	チャージ！：地産地消でコスト削減も くら寿司 日替わり「ご当地メニュー」	佐藤翔輔	出演
41	2023/4/14	テレビ（国内）	東日本放送	チャージ！：山形・4月11日は山形駅 開業の日 歴代「つばさ」缶バッジ発売	佐藤翔輔	出演
42	2023/4/14	テレビ（国内）	東日本放送	チャージ！：16日にも宮城県に黄砂が再び飛来する可能性 傷付けずに洗車をするポイントは	佐藤翔輔	出演
43	2023/4/14	テレビ（国内）	東日本放送	チャージ！：仙台市の都市計画道路が区間開通 全線開通まであと3年ほど	佐藤翔輔	出演
44	2023/4/14	テレビ（国内）	東日本放送	チャージ！：G7 札幌会合で来日被災地へドイソ環境相「復興に敬意」海外発信「多言語化が必須」	佐藤翔輔	出演
45	2023/4/14	テレビ（国内）	東日本放送（他1件）	チャージ！：宮城県の新たな津波浸水想定公表から1年 各自自治体の取り組みは	佐藤翔輔	出演
47	2023/4/14	テレビ（国内）	東日本放送	チャージ！：特集 さよならグミちゃん！ レッサーパンダの引っ越し	佐藤翔輔	出演
48	2023/4/14	テレビ（国内）	東日本放送（他1件）	チャージ！：トルコの被災者を支援 kbh ぐりり募金 息の長い支援が必要	佐藤翔輔、今村文彦	出演
50	2023/4/14	新聞（地方紙）	三陸新聞	気仙沼市追悼と防災のつどい⑧ 避難するなかで渋滞	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
51	2023/4/14	新聞（地方紙）	三陸新聞	気仙沼市追悼と防災のつどい⑨ 全員の心構え必要	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
52	2023/4/15	新聞（地方紙）	河北新報	震災時3歳、ボランティア解説員は高校生 閉上出身の祖母の思いに触れ、宮城・石巻の津波伝承館	災害研	報道・コメント掲載
53	2023/4/16	テレビ（国内）	仙台放送（他1件）	「純粋にすごいと思った」次世代の震災伝承担い手に 高校生が「解説員」初認定＜宮城＞	災害研	報道・コメント掲載
55	2023/4/16	新聞（地方紙）	石巻かまくら	震災後のまちづくりを本音トーク 27日 ぼうさいナイトバー 参加者募集	佐藤翔輔、姥浦道生	資料提供
56	2023/4/16	ウェブ（国内）	YAHOO! ニュース	高校生が「震災伝承」次世代の担い手に 津波伝承館のボランティア解説員認定	災害研	報道・コメント掲載
57	2023/4/17	ラジオ	Date fm エフエム仙台	SUNDAY MORNING WAVE 防災 UPDATES! : 東日本大震災の伝承について	マリ エリザベス	出演
58	2023/4/18	新聞（全国紙）	毎日新聞	東日本大震災：震災知らぬ世代に伝える 津波伝承館に高校生解説員	災害研、佐藤翔輔	報道・コメント掲載
59	2023/4/18	新聞（全国紙）	毎日新聞	釜石の10年 釜石の10年 総括難航 市長 施策を記録 反省の前提 / 委員、防災教育のテキストに「震災誌」完成すれば	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
60	2023/4/18	新聞（地方紙）	石巻日日新聞	解説員に初の高校生 みやぎ津波伝承館 名取市の菊田さん認定 学ぶ側から伝える側へ	佐藤翔輔	資料提供
61	2023/4/18	新聞（地方紙）	信濃毎日新聞	NEWS SQUARE =被災者と震災後の世代 つなぐ	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
62	2023/4/18	新聞（地方紙）	三陸新聞	気仙沼市追悼と防災のつどい⑩ 安心して避難できる方法は	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
63	2023/4/19	テレビ（国内）	NHK 宮城	東北大専門家チームトルコ大地震被災地で視察や助言	災害研、今村文彦	報道・コメント掲載
64	2023/4/19	テレビ（国内）	NHK	トルコ大地震 被災地を東北大専門家チーム訪問 復興の経験共有	今村文彦	報道・コメント掲載
65	2023/4/19	新聞（地方紙）	三陸新聞	気仙沼市追悼と防災のつどい⑪ 未来につながる新たな取り組み	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
66	2023/4/21	テレビ（国内）	東日本放送	トルコ大地震の被災地を東北大学災害科学国際研究所の今村文彦教授らが視察	今村文彦	報道・コメント掲載
67	2023/4/21	テレビ（国内）	東日本放送（他1件）	郡仙台市長が国連の首脳級会合で復興や防災・減災について報告へ	災害研、今村文彦	報道・コメント掲載
69	2023/4/21	新聞（地方紙）	河北新報	仙台市長、国連で演説/来月「防災枠組」中間評価	災害研、栗山進一	報道・コメント掲載
70	2023/4/21	新聞（全国紙）	朝日新聞	仙台市、防災取り組みを国連本部で報告へ 行動指針の中間評価を発信	東北大学	報道・コメント掲載
71	2023/4/23	新聞（地方紙）	下野新聞	大震災の津波被害を解説 / 伝承館に高校生ガイド	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
72	2023/4/24	新聞（地方紙）	河北新報	学校避難先見直しの動き「浸水域外の山へ 高台に校舎整備」	佐藤健	報道・コメント掲載
73	2023/4/25	新聞（地方紙）	河北新報	高校生初の解説員が奮闘 石巻・大震災津波伝承館、仙台育英1年菊田さんを認定	災害研	その他
74	2023/4/25	新聞（地方紙）	河北新報	防災へ最新の取り組み紹介 明日から仙台で震災対策技術展	今村文彦	報道・コメント掲載
75	2023/4/25	新聞（全国紙）	読売新聞	防災ニッポン：揺れていないのに大津波も？南海トラフ地震で想定されるパターン	福島洋	報道・コメント掲載
76	2023/4/29	新聞（地方紙）	河北新報	宮古市と東北大災害研、地域防災強化へ連携協定 復興と研究、深化を目指す	災害研、栗山進一	報道・コメント掲載
77	2023/5/1	新聞（地方紙）	南日本新聞	[論点] 災害時の8つの生きる力	佐藤翔輔	執筆

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
78	2023/5/5	新聞 (全国紙)	産経新聞 (他1件)	石川県で震度6強「活断層周辺で地震多発はよいサインではない」 遠田晋次・東北大災害科学国際研究所教授	遠田晋次	報道・コメント掲載
80	2023/5/6	新聞 (地方紙)	河北新報	石川・震度6強/大地震続く可能性/地下の流体の移動 要因か 石川・能登半島で5日に起きたマグニチュード (M) 6.5の地震について、研究者の多くは2020年12月ごろから活発化した群発地震の一つと見る。	遠田晋次	報道・コメント掲載
81	2023/5/7	ラジオ	Date fm エフエム仙台	SUNDAY MORNING WAVE 防災 UPDATES! : 「減災教育『結』プロジェクト」について	保田真理	出演
82	2023/5/8	ウェブ (国内)	PR TIMES (他2件)	東北での震災学習の動向調査結果 コロナ禍からの回復傾向の中でも継続性への不安	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
85	2023/5/9	新聞 (地方紙)	石巻かほく	防災テーマに対談「ナイトバー」石巻の復興 本音で語る	姥浦道生、佐藤翔輔、佐藤健	報道・コメント掲載
86	2023/5/9	テレビ (国内)	NHK 仙台放送局	てれまさ: 東松島・避難所まで車で“渋滞が不安”の声も、車での避難・安全をどう確保?	佐藤翔輔	出演
87	2023/5/10	テレビ (国内)	NHK 仙台放送局	おはよう宮城: 宮城・避難所まで車で“渋滞が不安”の声も	佐藤翔輔	出演
88	2023/5/10	テレビ (国内)	東日本放送 (他1件)	チャージ! : 被災地は今 300 特集 宮城県の新たな津波浸水想定公表から1年 住民の命をどう守る? 模索する現場	佐藤翔輔	出演
90	2023/5/11	テレビ (国内)	福島放送	相次ぐ巨大地震 今後について専門家は	木戸元之	報道・コメント掲載
91	2023/5/11	ラジオ	TBS ラジオ	荻上チキ session デイリーニュースセッション「千葉県木更津市で震度5強の地震」	佐藤翔輔	出演
92	2023/5/11	新聞 (全国紙)	教育新聞	東北での震災学習 コロナ禍から回復傾向も継続性に不安	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
93	2023/5/11	新聞 (全国紙)	産経新聞 (他2件)	“オンライン語り部”参加者1,247名の追跡調査結果公開 震災の「語り」が生み出す意識・行動変化	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
96	2023/5/12	テレビ (国内)	NHK	知っつく東北: 車使った津波避難は有効か 新想定に揺れる宮城の沿岸自治体	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
97	2023/5/12	雑誌・機関誌	AERA dot. (他2件)	「2つの地震に直接的な関係はない」と専門家 石川・能登半島で震度6強、千葉県南部で震度5強	遠田晋次	報道・コメント掲載
100	2023/5/12	新聞 (その他)	時事通信 (他1件)	国際協力など議論＝G7科技相会合が開幕—仙台	災害研	その他
102	2023/5/13	テレビ (国内)	東日本放送	G7仙台会合 共同宣言を採択「研究成果の軍事転用に懸念」「極域研究を強化」	災害研	報道・コメント掲載
103	2023/5/13	新聞 (地方紙)	河北新報 (他7件)	G7代表らが仙台的被災地視察 津波被害の荒浜小	災害研	報道・コメント掲載
111	2023/5/13	新聞 (その他)	新建新聞社 リスク対策 .com	危機管理による多様性と持続可能性テーマに学術集会 5月20日、総合危機管理学会が開催	秋富慎司	その他
112	2023/5/13	新聞 (その他)	時事通信 (他1件)	研究成果の即時公開支援で一致＝軍事転用に懸念も—G7科技相声明	災害研	報道・コメント掲載
114	2023/5/14	テレビ (国内)	TBS NEWS DIG	G7仙台会合で東北大学災害科学国際研究所を視察	災害研	報道・コメント掲載
115	2023/5/14	新聞 (地方紙)	河北新報	石巻の復興の実情、有識者らが本音で語る オンラインで『ぼうさい』ナイトバー	姥浦道生	報道・コメント掲載
116	2023/5/14	新聞 (地方紙)	河北新報	G7 科技相会合 震災遺構「荒浜小」と東北大災害研を各国代表団が視察 命を守る対策共有	災害研、栗山進一	報道・コメント掲載
117	2023/5/14	新聞 (その他)	時事通信	研究成果の即時公開支援で一致 軍事転用に懸念も G7科技相声明	災害研	報道・コメント掲載
118	2023/5/15	ウェブ (国内)	value press	【協力団体からのお知らせ】5/20 総合危機管理学会第7回学術集会	秋富慎司	その他
119	2023/5/15	ウェブ (国内)	excite ニュース	専門家も警告 能登で「平常時の300倍」の群発地震が起きている	遠田晋次	報道・コメント掲載
120	2023/5/16	新聞 (全国紙)	毎日新聞	東日本大震災 G7 代表、被災地視察 津波被害の仙台・荒浜小へ／宮城	災害研	報道・コメント掲載
121	2023/5/16	新聞 (地方紙)	河北新報	復興の知恵 移転跡地の新施設、歩みを紹介 石巻・津波伝承館で講話	災害研	報道・コメント掲載
122	2023/5/17	テレビ (国内)	NHK	山形 NEWS WEB: 観光名所「山居倉庫」津波想定の新たな避難計画作成へ	今村文彦	報道・コメント掲載
123	2023/5/18	新聞 (その他)	WEB 防災情報新聞	県職員の大震災経験や教訓を次代に継承 南海トラフ想定エリアなど 次の大規模災害に見舞われるかもしれない広域自治体に『伝わる』ことが狙い	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
124	2023/5/18	ウェブ (国内)	医療 NEWS	東日本大震災後の「初診日」、南三陸町の在宅避難者は避難所避難者より遅い—東北大	江川新一	報道・コメント掲載
125	2023/5/19	テレビ (国内)	NHK	おはよう日本: 原則徒歩か、「車も可」津波避難 変更の背景	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
126	2023/5/21	ラジオ	Date fm エフエム仙台	SUNDAY MORNING WAVE 防災 UPDATES! : 防災教育の変遷と子どもたちの意識の形成	保田真理	出演
127	2023/5/21	新聞 (地方紙)	静岡新聞	臨時情報活用し南海トラフ減災 静岡で東北大の福島准教授講演	福島洋	報道・コメント掲載
128	2023/5/21	新聞 (全国紙)	朝日新聞 (他1件)	「臨時情報」知り、減災に生かそう 静岡、南海トラフ地震の講座／静岡県	福島洋	報道・コメント掲載
130	2023/5/25	新聞 (地方紙)	河北新報	岩手・宮城内陸地震15年 経験と教訓 伝え続ける 来月3月 栗原でシンポ	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
131	2023/5/25	新聞 (地方紙)	河北新報	国際会議「モルディブの気候変動に適応したインフラ整備－人工島<small>カフルマーレ</small>への国内移住－」を開催	災害研	その他
132	2023/5/26	テレビ (国内)	NHK 秋田	きんよる秋田: 日本海中部地震から40年 巨大津波はやってくる そのときあなたは?	今村文彦	出演
133	2023/5/26	テレビ (国内)	NHK	おはよう日本: 求められる早期避難・日本海側の津波防災	今村文彦	報道・コメント掲載
134	2023/5/26	テレビ (国内)	NHK 秋田	日本海中部地震から40年(3) 東北大今村文彦教授に当時の経験と教訓を聞く	今村文彦	報道・コメント掲載
135	2023/5/26	テレビ (国内)	東北放送 (他1件)	水害リスク高い平野は「魔の沼」と呼ばれた “理由は7000年前の縄文時代に” 身を守るため「地形を知り備えることが大切」宮城	高橋尚志	報道・コメント掲載
137	2023/5/26	新聞 (その他)	朝日新聞	40年前に見た津波被害が研究の原点 第一人者が語る教訓と反省	今村文彦	報道・コメント掲載
138	2023/5/26	新聞 (地方紙)	河北新報	命守り取り組み確認石巻市学校防災推進会議「研修・管理・教育3分野で方針協議」	佐藤健	報道・コメント掲載
139	2023/5/27	新聞 (全国紙)	産経新聞 (他1件)	「地震の連鎖、断層のずれに対策必要」 遠田晋次東北大教授	遠田晋次	報道・コメント掲載
141	2023/5/27	新聞 (地方紙)	福島新聞	死亡リスク上昇に影響 第1原発至近の3病院	國井泰人	報道・コメント掲載
142	2023/5/27	テレビ (国内)	NHK	秋田 WEB: 防災への意識を 津波のメカニズムや備えについて専門家が講演	今村文彦	その他
143	2023/5/27	新聞 (地方紙)	福島民報	職員数、寝たきり患者数、避難時間 死亡リスク上昇に影響 第一原発至近の3病院	國井泰人	報道・コメント掲載
144	2023/5/28	新聞 (地方紙)	河北新報	宮城県が震災記録誌を作成 職員の経験や教訓 後世に 葛藤・迷い・反省点… 延べ590人聞き取り	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
145	2023/5/29	新聞 (その他)	朝日新聞	(災害大国) 津波の脅威、日本海側も	今村文彦	報道・コメント掲載
146	2023/5/29	新聞 (その他)	朝日新聞	災害大国) 40年前、ビデオにとらえた津波 日本海中部地震、104人死亡	今村文彦	報道・コメント掲載
147	2023/5/30	新聞 (全国紙)	読売新聞	内陸地震15年 栗原でシンポ 来月3日	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
148	2023/6/1	新聞 (全国紙)	朝日新聞 (他1件)	震災復興、県職員600人の証言 宮城県が4年かけ聞き取り冊子に	今村文彦、佐藤翔輔	報道・コメント掲載
150	2023/6/3	その他	夕刊フジ	東日本大震災から12年目の被災地で実感した防災教育の大切さ 日本だけでなく世界の防災・減災にも大きな役割	今村文彦	報道・コメント掲載
151	2023/6/4	テレビ (国内)	東北放送 (他1件)	「教科書や映像ではわからないことがここではわかる」 荒砥沢地すべりを専門家が視察	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
153	2023/6/4	テレビ (国内)	仙台放送	「国内最大級の地滑り地帯」 どう生かす? 見学受け入れに向けて現地調査<small>宮城・栗原</small>	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
154	2023/6/4	ラジオ	Date fm エフエム仙台	Sunday Morning Wave 東北大学防災 UPDATE ! : 第3回世界防災フォーラムについて	小野裕一	出演
155	2023/6/4	新聞 (全国紙・地方版)	読売新聞	[伊豆山の景色] 熱海土石流 災害体験 署内で読み継ぐ＝静岡	柴山明寛	報道・コメント掲載
156	2023/6/4	新聞 (全国紙)	朝日新聞	岩手・宮城内陸地震15年 「災害の全体像伝えよう」シンポで指摘	佐藤翔輔	報道・コメント掲載



	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
157	2023/6/4	新聞 (地方紙)	河北新報	内陸地震15年 栗原でシンボ/被災経験 次代の教訓に	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
158	2023/6/5	新聞 (全国紙)	読売新聞	栗原で内陸地震の爪痕公開 発生15年	高橋尚志	報道・コメント掲載
159	2023/6/6	新聞 (その他)	時事通信	全庁挙げた「震災冊子」	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
160	2023/6/7	新聞 (地方紙)	河北新報	宮城県沖地震起きた日は? 「6月12日」分かったのは40代以下で44%止まり 河北新報社アンケート	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
161	2023/6/8	テレビ (国内)	NHK	岩手 NEWS WEB: 県内文化財の位置記したマップ 運用始まる 災害時に備えて	蝦名裕一	報道・コメント掲載
162	2023/6/8	ラジオ	NHK 大阪放送局	関西ラジオワイド: 防災コラム「水害からの避難“犠牲者ゼロ”のポイントは？」	佐藤翔輔	出演
163	2023/6/9	テレビ (国内)	NHK	【詳しく】地震相次いだ5月 専門家の見解 巨大地震との関係は	遠田晋次	報道・コメント掲載
164	2023/6/9	テレビ (国内)	ミヤギテレビ	ミヤギ news every: 備える・大震災 その時職員は・・・当時の苦悩や教訓を記録に (みやぎの3.11)	佐藤翔輔	出演
165	2023/6/9	新聞 (全国紙)	読売新聞	ちいきのなかに防災ニッポン 「最大級の津波」からの避難に車活用を探る宮城・岩手の沿岸自治体	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
166	2023/6/10	新聞 (全国紙)	朝日新聞	被災者や研究者が意見交換 岩手・宮城内陸地震15年を前に	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
167	2023/6/12	ラジオ	NHK	関西ラジオワイド 防災コーナー: 「防災コラム」東北大学 災害科学国際研究所 准教授 佐藤翔輔さん『水害からの避難“犠牲者ゼロ”のポイント～令和元年東日本台風を事例にしたクイズから～』	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
168	2023/6/12	ラジオ	TBC ラジオ	「3.11 みやぎホットライン宮城沖地震から45年」	佐藤健	出演
169	2023/6/12	新聞 (全国紙)	朝日新聞	地滑り現場で学ぶ災害 立ち入り制限緩和と「次世代に伝える」 岩手・宮城内陸地震15年	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
170	2023/6/12	新聞 (その他)	建設通信新聞	連載・レジリエンス社会 / 東北大学災害科学国際研究所 教授 今村 文彦氏	今村文彦	その他
171	2023/6/13	新聞 (全国紙)	朝日新聞	荒砥沢崩落地、災害を次世代に 栗原、立ち入り制限緩和 岩手・宮城内陸地震15年	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
172	2023/6/14	ラジオ	TBC ラジオ	GoGo はみみこいラジオな気分「岩手・宮城内陸地震からききよて15年・荒砥沢地すべり」	佐藤翔輔	出演
173	2023/6/16	テレビ (国内)	NHK	岩手県立大に防災復興支援センター設立 シンポジウム開く	今村文彦	報道・コメント掲載
174	2023/6/16	テレビ (国内)	岩手朝日テレビ	激甚化する次の災害に備え 防災シンポジウム【岩手・盛岡市】	今村文彦	報道・コメント掲載
175	2023/6/16	テレビ (国内)	テレビ岩手	岩手県立大「防災復興支援センター」設立記念シンポジウム	今村文彦	その他
176	2023/6/16	テレビ (国内)	NHK	岩手 NEWS WEB: 岩手県立大に防災復興支援センター設立 シンポジウム開く	今村文彦	その他
177	2023/6/16	テレビ (国内)	岩手放送	次なる脅威に備える 岩手県立大が「防災復興支援センター」設立 東北大・今村文彦教授が講演	今村文彦	その他
178	2023/6/16	新聞 (地方紙)	新潟日報	新潟地震きょう59年 県内内陸に活断層多数 古い家屋大規模倒壊の恐れ 専門家「被害想定確認を」	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
179	2023/6/17	その他	夕刊フジ	今夏は「食中毒警報」発生	児玉栄一	報道・コメント掲載
180	2023/6/18	ラジオ	Date fm エフエム仙台	Sunday Morning Wave 東北大学防災 UPDATE!: 世界防災賞を受賞した米国の故クワジ大統領	小野裕一	出演
181	2023/6/18	新聞 (地方紙)	河北新報	<足報ワイド> 県が震災記録誌作成 貴重な証言の活用策課題	災害研	報道・コメント掲載
182	2023/6/18	雑誌・機関誌	DIAMOND online	東北大学のキャンパスはどんな雰囲気? 【各キャンパス紹介付き】	災害研	報道・コメント掲載
183	2023/6/18	新聞 (全国紙)	朝日新聞	地球の営み示す山の「裂け目」 国内最大級、発生15年で見学可能に	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
184	2023/6/19	新聞 (地方紙)	南日本新聞	[論点] 防災の四つの役割理解したい	佐藤翔輔	執筆
185	2023/6/20	テレビ (国内)	仙台放送 (他2件)	医療的ケア児・者の支援の在り方「誰一人取り残さない防災」を(仙台市)	災害研、栗山進一、北村美和子	報道・コメント掲載
188	2023/6/22	新聞 (地方紙)	東北新報	日豪の災害・観光業研究者、東松島を視察 震災の復興過程や住宅再建動向など確認	スイン デビッド	報道・コメント掲載
189	2023/6/22	新聞 (地方紙)	河北新報	日豪の災害・観光業研究者、東松島を視察 震災の復興過程や住宅再建動向など確認	災害研	その他
190	2023/6/23	テレビ (国内)	東日本放送	チャージ!: 石巻市 小学校・住宅地でサル目撃 下校時間に合わせて市がパトロール	佐藤翔輔	出演
191	2023/6/23	テレビ (国内)	東日本放送	チャージ!: 名取の夏の風物詩「ゆりあげ周遊船」来月2月からの運行前に試乗会	佐藤翔輔	出演
192	2023/6/23	テレビ (国内)	東日本放送	チャージ!: 山形・今年本格デビュー 大玉品種「やまがた紅王」直売所で人気	佐藤翔輔	出演
193	2023/6/23	テレビ (国内)	東日本放送	チャージ!: マイナ保険証一本化 賛否の声 期待寄せる業界も	佐藤翔輔	出演
194	2023/6/23	テレビ (国内)	東日本放送	チャージ!: 海洋実習船「宮城丸」石巻に寄港 水揚げ量 コロナ前水準までに回復	佐藤翔輔	出演
195	2023/6/23	テレビ (国内)	東日本放送	チャージ!: 密着アイスショーの舞台裏 特設スケートリンクが出来るまで	佐藤翔輔	出演
196	2023/6/23	テレビ (国内)	東日本放送	チャージ!: 小学生が昔の遊びを体験 地域の人と交流「生きる力」育む	佐藤翔輔	出演
197	2023/6/23	テレビ (国内)	東日本放送	チャージ!: 被害が相次ぐ線状降水帯 顕著な大雨に関する気象情報が発表されたら	佐藤翔輔	出演
198	2023/6/23	テレビ (国内)	NHK	文研ブログ: 日本海中部地震から40年 北海道南西沖地震から30年 2つの大津波の教訓【研究員の視点】	今村文彦	その他
199	2023/6/24	新聞 (地方紙)	新潟日報	家の中で地震に遭ったら 落下物から身を守って	佐藤翔輔	企画協力
200	2023/6/25	新聞 (地方紙)	河北新報 (他1件)	障害ある人の防災 考える 東北大災害研、講師に当事者招き連続セミナー開講	災害研、栗山進一	報道・コメント掲載
202	2023/6/25	新聞 (地方紙)	河北新報	SNS使い、災害情報共有「宮城・美里で「むすび塾」 スポ少団員ら意見交換	菅原大助	報道・コメント掲載
203	2023/6/26	テレビ (国内)	NHK 仙台放送局	おはよう宮城: 震災の経験 教訓伝えたい 職員の証言まとめた記録誌作成	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
204	2023/6/27	新聞 (地方紙)	石巻がはく	被災状況聞き 避難 防災考える「ツナミリアル」 無料体験階	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
205	2023/6/30	新聞 (地方紙)	新潟日報	もし家にいる時に地震が来たら…新潟県は緊急速報後すぐ揺れる! 建物倒壊、家具の下敷きから身を守る行動は?	佐藤翔輔	企画協力
206	2023/6/30	新聞 (全国紙)	読売新聞	車で津波避難 対応割れる 大槌 全住民に拡大 釜石 原則徒歩 堅持	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
207	2023/7/2	ラジオ	Date fm エフエム仙台	SUNDAY MORNING WAVE 東北大学防災 UPDATES!: 令和元年東日本台風での大郷町中粕川の事例をもとにクイズ	佐藤翔輔	出演
208	2023/7/3	新聞 (その他)	時事通信	自治体防災情報に影響=大雨時 投稿できないケースも一ツITTER閲覧数制限	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
209	2023/7/4	新聞 (地方紙)	河北新報	功労者122人を表彰 仙台市制134年で記念式	今村文彦	その他
210	2023/7/4	新聞 (地方紙)	河北新報	【国際 NGO セーブ・ザ・チルドレン】NPO 法人佐賀県放課後児童クラブ連絡会と共催で 放課後児童クラブの災害リスクについて考えるワークショップを開催	桜井愛子	その他
211	2023/7/5	ウェブ (国際)	時事通信	Twitter View Limits Affecting Local Govts' Disaster Responses	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
212	2023/7/6	新聞 (その他)	福島民報	震災復旧・復興工事の記録映像 映像アーカイブ事業に認定 福島県南相馬市の石川建設工業	今村文彦	その他
213	2023/7/6	新聞 (全国紙)	日本経済新聞	あの日の教訓 ITで継承 西日本豪雨5年——被害の記憶を多様な角度で 震災 各地に「伝承館」豪雨体験談の出版例も	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
214	2023/7/7	新聞 (地方紙)	いわき民報	「逃げ遅れゼロ」「災害ゼロ」目指してあす市の総合防災訓練開催	災害研	その他
215	2023/7/8	新聞 (地方紙)	河北新報	江合・鳴瀬・吉田川の流域全体で災害対応を 宮城・大崎で治水シンポジウム	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
216	2023/7/11	新聞 (地方紙)	河北新報	いのちと地域を守る 防災・減災のページ むすび塾第110回巡回ワークショップ@少林寺法宮城美里スポ少	菅原大助、田邊亜澄	報道・コメント掲載
217	2023/7/14	テレビ (国内)	仙台放送 (他1件)	Live News it!: 相次ぐ大雨被害「判断の訓練を」記録的大雨から1年	佐藤翔輔	出演

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
219	2023/7/14	新聞（地方紙）	山形新聞	内陸と沿岸に多くの活断層 庄内県勢懇話会・東北大災害科学国際研究所教授の遠田晋次氏が講演	遠田晋次	報道・コメント掲載
220	2023/7/14	新聞（全国紙）	読売新聞	大崎地域 治水対策急務 シンポに320人 自治体 企業 連携図る	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
221	2023/7/16	ラジオ	Date fm エフエム仙台	SUNDAY MORNING WAVE 東北大学防災 UPDATES! ・時短型災害語り部学習手法「ツナミリアル」	佐藤翔輔	出演
222	2023/7/18	テレビ（国内）	東日本放送（テレビ朝日系列 全国）	「謎解き！伝説のミステリー」	福島洋	報道・コメント掲載
223	2023/7/19	新聞（地方紙）	岩手日報	災ゲームで避難を学ぶ 大船渡の夢海公園でイベント	柴山明寛	報道・コメント掲載
224	2023/7/19	新聞（地方紙）	静岡新聞	「南海トラフ」テーマ 静岡県、静岡で企業向け研修	丸谷浩明	報道・コメント掲載
225	2023/7/20	テレビ（国内）	東日本放送（他1件）	チャージ！：専門家「発生は防げない」内水氾濫 県内どう備える？	佐藤翔輔	出演
227	2023/7/20	テレビ（国内）	仙台放送（他2件）	「誰一人取り残さない」どう守る？視覚障がい者の防災（仙台市）	災害研、栗山進一	報道・コメント掲載
230	2023/7/21	新聞（全国紙）	朝日新聞	伝えたい 北海道南西沖地震 30年 観光とセット 続ける鍵 東北大学災害科学国際研究所・佐藤翔輔准教授に聞く	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
231	2023/7/24	テレビ（国内）	NHK 大阪	ぐるっと関西おひるまえ・関西ラジオワイド：防災コーナー・防災コラム	佐藤翔輔	資料提供
232	2023/7/25	新聞（地方紙）	河北新報	「防災意識の改革を」みやぎ円卓会議で東北大災害研・栗山氏が講演	栗山進一	報道・コメント掲載
233	2023/7/25	新聞（地方紙）	北日本新聞社（他1件）	災害リスク理解し BCP策定のためのイベント開催	丸谷浩明	その他
235	2023/7/25	新聞（全国紙）	日本経済新聞	東北で復興ソリューション推進、官民のネットワークが発足	今村文彦	報道・コメント掲載
236	2023/7/26	テレビ（国内）	東北放送（他1件）	「防災・減災プログラムを学び観光も楽しめるモデルコース整備」“東北復興ソリューション推進ネットワーク”発足 宮城	今村文彦	報道・コメント掲載
238	2023/7/28	新聞（全国紙）	日本経済新聞	津波減災へ予測速く、浸水は最短5分 東北大発新鋭企業	東北大学、越村俊一	報道・コメント掲載
239	2023/7/31	新聞（その他）	共同通信（他44件）	災害拠点病院221施設が浸水域	佐々木宏之	報道・コメント掲載
284	2023/7/31	新聞（地方紙）	南日本新聞	[論点] 水害の人的被害を避けるには	佐藤翔輔	執筆
285	2023/8/1	雑誌・機関誌	望星	インタビュー・戦争、そして災害の記憶を伝承する意味	ゲルスタ コリア	報道・コメント掲載
286	2023/8/1	ウェブ（国内）	NEWSCAST	オンラインセミナー『地震による津波災害への備え&実家の片づけ』10月21日（土）に開催	今村文彦	その他
287	2023/8/2	テレビ（国内）	NHK	「内水氾濫」対策 浸水確認箇所をハザードマップに反映の動き	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
288	2023/8/2	テレビ（国内）	静岡放送（他1件）	「体験すれば、いざという時の準備に」夏休みを家族で防災を考えるきっかけに【わたしの防災】	保田真理	報道・コメント掲載
290	2023/8/3	新聞（地方紙）	東海新報	防災と活気 ともに創出を 今年も「ソナエマチモリ」キャッセン大船渡で19、20日に	柴山明寛	報道・コメント掲載
291	2023/8/4	新聞（地方紙）	南日本新聞	8.6水害 犠牲者をささないために③ 帰宅困難者 事業者や学校も備えを	丸谷浩明	報道・コメント掲載
292	2023/8/6	ラジオ	Date fm エフエム仙台	SUNDAY MORNING WAVE 防災 UPDATES! : 2023年トルコ南東部地震	森口周二	出演
293	2023/8/7	新聞（全国紙）	読売新聞	文化財強化急ぐ 大雨 相次ぐ被害 情報把握や修復費用 課題	川内淳史	報道・コメント掲載
294	2023/8/8	ウェブ（国内）	PR TIMES	防災意識を高めるJリーグとYahoo! JAPANの共同企画「ソナエル Japan 杯 2023」を開催	佐藤翔輔	その他
295	2023/8/8	ウェブ（国内）	Aduer Times	東北大学が広報機能強化へ 大隅典子副学長とアドバイザーの長沼史宏氏に聞く	東北大	その他
296	2023/8/9	新聞（地方紙）	河北新報	視覚障害、災害時の課題は？ 東北大災害研でセミナー	災害研	報道・コメント掲載
297	2023/8/10	新聞（全国紙）	毎日新聞	病院急ぐ浸水対策	佐々木宏之	報道・コメント掲載
298	2023/8/11	テレビ（国内）	テレビ朝日（他1件）	報道ステーション：都内の水害被害額の7割以上 台風7号「内水氾濫」にも注意を	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
300	2023/8/16	テレビ（国内）	NHK	伝承を希望の力に	ゲルスタ コリア	報道・コメント掲載
301	2023/8/19	テレビ（国内）	岩手放送	気象と防災ラジオメモ・逃げなきヤコロール	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
302	2023/8/19	新聞（全国紙）	読売新聞	検証 大雨1か月 16河川氾濫 被害拡大 河道掘削 堤防除草で対策＝秋田	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
303	2023/8/20	ラジオ	Date fm エフエム仙台	SUNDAY MORNING WAVE 防災 UPDATES! : 線状降水帯と土砂災害	森口周二	出演
304	2023/8/22	その他	浜松医科大学	“小児科学の専門誌「JAMA Pediatrics」に研究成果が公表されました 1歳時のスクリーンタイムが2歳・4歳時点の発達特性の一部と関連”	栗山進一	報道・コメント掲載
305	2023/8/22	ウェブ（国内）	POST	1歳時のスクリーンタイムが2歳・4歳時点の発達特性の一部と関連	栗山進一	その他
306	2023/8/23	ウェブ（国内）	Gigazine	日本の研究で幼児期の「スクリーンタイム」の長さや発達の遅れとの間には関連性があることが判明	栗山進一	報道・コメント掲載
307	2023/8/24	新聞（地方紙）	河北新報	宮城県地震被害想定調査／震災級死者 10年で8割減を／20年ぶり策定／「適切な避難」促す	今村文彦	報道・コメント掲載
308	2023/8/25	ウェブ（国内）	医療 NEWS QlifePro	1歳時スクリーンタイム、2・4歳時のコミュニケーションの遅れと関連—東北大ほか	栗山進一	報道・コメント掲載
309	2023/8/25	テレビ（国内）	福島中央テレビ（他1件）	いわき市で災害時に燃料電池バスを活用する実証実験 エアコンの冷風を避難所に【福島県】	災害研	報道・コメント掲載
311	2023/8/25	テレビ（国内）	東日本放送	チャージ！：村井知事 全国知事会長に選任「魅力海外発信」「行政スリム化」	佐藤翔輔	出演
312	2023/8/25	テレビ（国内）	東日本放送	チャージ！：中国の禁輸 県内への影響は・・・注水量減少で価格下落	佐藤翔輔	出演
313	2023/8/25	テレビ（国内）	東日本放送	チャージ！：台風10号 県内と影響とその対策	佐藤翔輔	出演
314	2023/8/25	テレビ（国内）	東日本放送	チャージ！：THE 密着・柔道で全国へ！中学生の双子姉妹そろって初の大舞台に	佐藤翔輔	出演
315	2023/8/27	新聞（その他）	時事通信	語り継ぐ難しさ 子孫ら直面＝発生100年 体験者減少＝識者「適切にバトンを」・関東大震災	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
316	2023/8/28	新聞（地方紙）	静岡新聞	「過ち 繰り返さない」関東大震災100年 体験の継承 子孫苦心	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
317	2023/8/29	新聞（地方紙）	河北新報	学校防災、地域との連携探る 石巻市教委がフォーラム 釜石中のカリキュラム紹介	桜井愛子	報道・コメント掲載
318	2023/8/29	テレビ（国内）	NHK 神奈川	関東大震災100年 津波の“全体像”が明らかに	今村文彦	報道・コメント掲載
319	2023/8/29	テレビ（国内）	NHK	関東大震災の大津波 全体像を最新データでシミュレーション	今村文彦	報道・コメント掲載
320	2023/8/30	テレビ（国内）	岩手めんこいテレビ	台風10号の豪雨災害から7年 岩泉町の小学校で防災授業<岩手県>	齋藤玲	報道・コメント掲載
321	2023/8/30	テレビ（国内）	NHK	NHK ニュース おはよう日本：関東大震災100年 津波 最新技術で再現 潜むリスクを避難対策へ	今村文彦	報道・コメント掲載
322	2023/8/30	ラジオ	NHK ラジオ第一	ニュース：関東大震災100年 津波 最新技術で再現 潜むリスクを避難対策へ	今村文彦	報道・コメント掲載
323	2023/8/30	新聞（地方紙）	河北新報	復興政策10年を総括 復興庁が概説書公表 交付金新設で負担増も	今村文彦	その他
324	2023/8/30	新聞（地方紙）	河北新報	仙台／旧針穂旅館の資料調査／土井晩翠の掛け軸発見	災害研	報道・コメント掲載
325	2023/8/30	新聞（地方紙）	あなたの静岡新聞	浜堤！減災に一定効果 伊東の津波被害者から学ぶ【伝える 関東大震災100年と静岡③】	今村文彦	報道・コメント掲載
326	2023/8/30	新聞（全国紙）	読売新聞	巨大災害 現代のリスク「首都 変貌 100年」	村尾修	報道・コメント掲載
327	2023/8/30	ウェブ（国際）	Bloomberg	“What Tokyo Learned From the 1923 Great Kanto Earthquake”	Osamu Murao	報道・コメント掲載
328	2023/8/31	テレビ（国内）	めんこいテレビ（他1件）	台風10号の豪雨災害から7年 岩泉町の小学校で防災授業<岩手県>	齋藤玲	報道・コメント掲載
330	2023/8/31	テレビ（国内）	NHK	NHK 首都圏ナビ：関東大震災から100年 津波の全容をシミュレーション ～現代に残る避難の課題は～	今村文彦	出演
331	2023/8/31	ウェブ（国内）	ブルームバーグ	関東大震災100年 - 教訓踏まえ防災進める東京都、備えに終わりはない	村尾修	報道・コメント掲載
332	2023/8/31	雑誌・機関誌	会社四季報	関東大震災100年、東京都の備えはどこまで進んでいるか	村尾修	報道・コメント掲載
333	2023/8/31	テレビ（国内）	NHK 山形	ハザードマップに載らない“内水氾濫”豪雨被災の飯豊町 町と地域の取り組み	佐藤翔輔	出演
334	2023/9/1	テレビ（国内）	NHK	てれまさむね：関東大震災のあと学生たちがアメリカに感謝の手紙	小野裕一、川内淳史	報道・コメント掲載

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
335	2023/9/1	テレビ (国内)	NHK	関東大震災 米の支援に対し感謝伝える手紙 調査で明らかに	災害研、小野裕一、川内淳史	報道・コメント掲載
336	2023/9/1	テレビ (国内)	NHK BS1	国際報道 2023：関東大震災 100 年 日本からの感謝状	災害研、小野裕一、川内淳史	報道・コメント掲載
337	2023/9/1	テレビ (国内)	NHK	おはよう日本 - 関東大震災からきょうで 100 年	村尾修	企画協力
338	2023/9/1	新聞 (地方紙)	信濃毎日新聞	関東大震災きょう 100 年 世紀経た手記に災害学が 長野の 80 歳の父、東京での被災記録 怪音・前後左右から火の手 せい惨な有様	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
339	2023/9/2	テレビ (国内)	仙台放送 (他 2 件)	高齢者の避難変えるか？小型モビリティの可能性探る実証実験 (宮城・多賀城市)	柴山明寛	報道・コメント掲載
342	2023/9/3	ラジオ	Date fm エフエム仙台	SUNDAY MORNING WAVE 防災 UPDATES! : トルコ・シリア地震と災害医療	江川新一	出演
343	2023/9/3	新聞 (全国紙)	読売新聞	1 泊 2 日 避生活体験 - 川崎 仕切り設置を实践	村尾修	報道・コメント掲載
344	2023/9/4	その他	公益財団法人 仙台観光国際協力 国際化事業部	【9/8 開催】東北大学主催「ウクライナ復興そして未来を考える」開催	栗山進一、Julia Gerster、永見光三	その他
345	2023/9/5	ラジオ	NHK ラジオ第一	「関東大震災 100 年 津波解析で見えた鎌倉の避難の課題」	今村文彦	報道・コメント掲載
346	2023/9/5	新聞 (その他)	日刊建設工業新聞	JICE/水害の防災意識向上へ有識者会議が初会合、災害伝承の認定制度を検討	今村文彦	報道・コメント掲載
347	2023/9/6	新聞 (国際)	The Asahi Shimbun	Changes hurting X's image as the go-to platform for disaster info	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
348	2023/9/6	新聞 (全国紙)	朝日新聞	災害時の発信、悩む自治体「X」が一部有料化 大量投稿困難に	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
349	2023/9/7	その他	日本学会会議	国際シンポジウム「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2023『壊滅的災害に対してレジリエントで持続可能な社会への変革』」	栗山進一、小野裕一、越村俊一、今村文彦、江川新一、小森大輔	その他
350	2023/9/8	新聞 (全国紙)	毎日新聞	毎日フォーラム・特集 進化する「国土形成計画」	今村文彦	報道・コメント掲載
351	2023/9/8	テレビ (国内)	東日本放送	チャージ！：物価高騰に悩む企業を救え	佐藤翔輔	出演
352	2023/9/8	テレビ (国内)	東日本放送	チャージ！：専門家解説 大雨直後に台風接近	佐藤翔輔	出演
353	2023/9/8	テレビ (国内)	東日本放送	チャージ！：県の X (旧ツイッター) 災害時自動投稿停止	佐藤翔輔	出演
354	2023/9/8	テレビ (国内)	テレビ岩手	5 きげん防災スペシャル	佐藤翔輔	出演
355	2023/9/9	その他	公明党	識者が語る 復興と公明党 / 心のケアは、これからは正念場 見えない課題を地方議員が拾う	小野裕一	報道・コメント掲載
356	2023/9/9	新聞 (地方紙)	河北新報	ウクライナ支援 災害経験生かす / 東北大研究者ら討論	栗山進一	報道・コメント掲載
357	2023/9/10	新聞 (全国紙・地方版)	読売新聞	再生の歩み 東日本大震災 トルコ地震アーカイブ化 東北大など 宮城支援の「お返し」	柴山明寛、今村文彦	報道・コメント掲載
358	2023/9/11	その他	すくっぴーひろば (多賀城市子育て応援サイト)	災害に備える	柴山明寛	報道・コメント掲載
359	2023/9/12	新聞 (地方紙)	熊本日日新聞	世界で 3 例目 熊本地震で地下の地層に 50 センチのずれ、同一地点で国内初確認 東北大などの布田川断層研究グループ	遠田晋次	報道・コメント掲載
360	2023/9/12	テレビ (国内)	くまもと県民テレビ (他 1 件)	世界で 3 例目の確認 把握されていた地中の活断層が熊本地震で 50 cm のずれ 益城町	遠田晋次	報道・コメント掲載
362	2023/9/12	テレビ (国内)	熊本放送	「実際に地震で動いたという証拠がここに」世界 3 例目の「活断層調査」熊本地震の本震を起こした「約 50 センチのズレ」ははっきりと	遠田晋次	報道・コメント掲載
363	2023/9/13	テレビ (国内)	NHK 福島放送局	はまなかあいつ TODAY ふくしま未来へ・語り部「たちの悩み 全国の事例から探るヒント」	佐藤翔輔	出演
364	2023/9/14	雑誌・機関誌	国際協力 Station (国際開発ジャーナル)	津波災害の軽減に向けた国際協力と人材育成   東北大災害科学国際研究所 (IRIDeS)	越村俊一	報道・コメント掲載
365	2023/9/14	テレビ (国内)	NHK	名取に新精神科病院の案「公募要項案は時期尚早」	富田博秋	報道・コメント掲載
366	2023/9/15	その他	慶應義塾大学	3 大学連続ワークショップ第 2 回「ウクライナ復興そして未来を考える」東北大で開催	栗山進一	報道・コメント掲載
367	2023/9/15	新聞 (全国紙)	朝日新聞	「過去の記録」だけでは難しい地震予測 モロッコ地震から 1 週間	遠田晋次	報道・コメント掲載
368	2023/9/15	テレビ (国内)	NHK 仙台放送局	おはよう宮城：語り部たちの悩み 全国の事例から探るヒント	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
369	2023/9/15	テレビ (国内)	NHK 福島放送局	はまなかあいつ TODAY：いわき市 8 日の大雨「エアメール」などで避難の呼びかけ	佐藤翔輔	出演
370	2023/9/16	雑誌・機関誌	現代ビジネス	たった数分でやってくる…日本人が意外と知らない、南海トラフ巨大地震「大津波の恐怖」	今村文彦	その他
371	2023/9/16	新聞 (全国紙)	朝日新聞 (熊本総局) (他 1 件)	30〜50 センチのずれ確認 熊本地震で、布田川断層を再掘削 同地点での調査、国内初 / 熊本県	遠田晋次	報道・コメント掲載
373	2023/9/17	新聞 (全国紙)	朝日新聞	大学ファンドで研究力上がる？ 東大・京大の落選を専門家が考えた	災害研	報道・コメント掲載
374	2023/9/17	ラジオ	Date fm エフエム仙台	SUNDAY MORNING WAVE 防災 UPDATES! : 在宅避難と関連死	江川新一	出演
375	2023/9/17	その他	夕刊フジ	コロナ「ステルス第 9 波」懸念	児玉栄一	報道・コメント掲載
376	2023/9/17	テレビ (国内)	NHK	おはよう日本：碑から災害を学ぶ 次世代につながるには	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
377	2023/9/18	雑誌・機関誌	現代ビジネス (他 1 件)	密集した建物の間を猛烈なスピードで追ってくる…最新スパコンが出した「恐怖の津波シミュレーション」の中身	今村文彦	その他
379	2023/9/18	新聞 (地方紙)	河北新報	あすへ 東日本大震災 教訓生かし素早い対応 台風 13 号大雨 いわき市 震災、19 年の台風でも被災	柴山明寛	報道・コメント掲載
380	2023/9/18	新聞 (地方紙)	南日本新聞	【論点】「ヒト」が語り継ぐ重要性	佐藤翔輔	執筆
381	2023/9/18	新聞 (地方紙)	河北新報	コロナ感染者 東北 高止まり / 宮城、岩手 全国ワースト 1、2 / 医療機関 定点把握 / 若者中心に拡大 休校や学年閉鎖	小坂健	報道・コメント掲載
382	2023/9/19	テレビ (国内)	東日本放送 (他 1 件)	宮城県沖が震源の地震で登米市と涌谷町で長周期地震動 そのメカニズムは	五十子幸樹	報道・コメント掲載
384	2023/9/19	テレビ (国内)	NHK	東北大で関東大震災と宮城の関わりを紹介する企画展	災害研、佐藤大介	報道・コメント掲載
385	2023/9/19	ウェブ (国内)	ARUHI マガジン	【本当に住みやすい街大賞 2023 in 宮城】第 3 位 北四番丁：再開後の進化に期待、都心で良質の住環境を保ち続ける県内屈指の文教タウン	災害研	報道・コメント掲載
386	2023/9/20	ウェブ (国内)	YAHOO! ニュース	コロナ「ステルス第 9 波」に懸念、感染者数が急増 ワクチン接種から 1 年が経過、免疫が低下して重症化のケースも	児玉栄一	報道・コメント掲載
387	2023/9/22	ウェブ (国内)	Dream News	【100 名限定】俳優の酒井美紀氏、米国防務省 倉井友寛氏を講師に 2023 年 10 月 1 日 (日)「槻美会創立 30 周年記念講演会 ～SDGs と私たちの取り組み～」(以下、講演会)を日本外国特派員協会にて開催!	桜井愛子	その他
388	2023/9/24	雑誌・機関誌	アゴラ	「大学ファンド」をめぐって	災害研	報道・コメント掲載
389	2023/9/24	テレビ (国内)	NHK+	サイエンス ZERO：計算で切り開く新時代！スーパーコンピューター富岳	今村文彦	報道・コメント掲載
390	2023/9/25	新聞 (全国紙)	日本経済新聞	東北大・北大・NEC など、最適な災害対応をリアルタイムで提示する「津波災害デジタルツイン」の開発を開始	越村俊一	その他
391	2023/9/25	ウェブ (国内)	BIGLOBE ニュース	なぜ東大や京大をハズしたのか…岸田政権の 10 兆円大学ファンドが東北大を選んだ 残念すぎる理由	災害研	報道・コメント掲載
392	2023/9/26	ウェブ (国内)	IT Leaders	スパコンを活用した「津波災害デジタルツイン」の開発に着手—東北大、北大、NEC など 5 組織	越村俊一	報道・コメント掲載
393	2023/9/27	ウェブ (国内)	ZDNET (他 1 件)	東北大、北大、NEC など、「津波災害デジタルツイン」の開発を開始	災害研	その他

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
395	2023/9/27	新聞 (全国紙・地方版)	朝日新聞	関東大震災 100年 東京から大挙 流言、瞬間に あの時東北で何が 企画展でたどる 東北大災害研 間違われた人への暴行事件も	川内淳史	報道・コメント掲載
396	2023/9/27	新聞 (全国紙)	朝日新聞 (他1件)	関東大震災、仙台に流れ込んだ避難者とデマ 東北大・災害研で企画展	災害研、川内淳史	報道・コメント掲載
398	2023/9/28	新聞 (全国紙・地方版)	朝日新聞	防潮堤の向こうに思いを 三陸ブルーラインプロジェクト始まる	柴山明寛	報道・コメント掲載
399	2023/9/28	テレビ (国内)	NHK 仙台放送局	おはよう宮城:「災害エスノグラフィー」心に届ける震災伝承	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
400	2023/9/28	ラジオ	NHK 大阪放送	関西ラジオワイド:防災コラム「内水氾濫について」	佐藤翔輔	出演
401	2023/10/1	ラジオ	Date fm エフエム仙台	SUNDAY MORNING WAVE 防災 UPDATES! :「地球温暖化の時代」から「地球沸騰化の時代」へ	須賀利雄	出演
402	2023/10/1	新聞 (地方紙)	南日本新聞 (他1件)	未曾有の「8.6水害」から30年 市災害文書 永久保存へ「歴史的史料として教訓継承」	柴山明寛	報道・コメント掲載
404	2023/10/2	新聞 (地方紙)	河北新報	被災者、宮城に1万人避難 駅周辺で炊き出し 東北大・企画展<関東大震災100年>	災害研、川内淳史	報道・コメント掲載
405	2023/10/2	新聞 (地方紙)	河北新報	関東大震災100年/多様な研究 備えに重要/東北大・シンボ/災害研の6人討論 9月1日で発生から100年を迎えた関東大震災を主題にしたシンポジウムや講演会が県内であり、大震災の実態を振り返り、今後の防	災害研、栗山進一、遠田晋次、佐藤大介、浜家由美子	報道・コメント掲載
406	2023/10/4	テレビ (国内)	NHK	首都圏ネットワーク	村尾修	企画協力
407	2023/10/4	テレビ (国内)	NHK 総合	明日をまもるナビ 東北×全国 語り部クロス 語り継いでいくために	佐藤翔輔	出演
408	2023/10/5	新聞 (地方紙)	河北新報	いわき大雨・福島県初の線状降水帯/避難判断に難しさ/住民の自助・共助重要	柴山明寛	報道・コメント掲載
409	2023/10/5	新聞 (地方紙)	河北新報	高校生解説員2人目 石巻・津波伝承館、富谷の西城さんを認定「学生の視点で」	災害研	その他
410	2023/10/6	新聞 (地方紙)	河北新報	宮城3市町訪問 復興状況を確認/政府推進委	今村文彦	報道・コメント掲載
411	2023/10/6	その他	内閣府	令和5年度「津波防災の日」・「世界津波の日」に関する取組について	今村文彦	その他
412	2023/10/7	新聞 (地方紙)	石巻日日新聞	学生解説員に泉高・西城さん 石巻みやぎ津波伝承館 次世代担い手認定3人目	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
413	2023/10/9	その他	藤枝市	令和5年度藤枝市防災研修会	保田真理	その他
414	2023/10/9	新聞 (全国紙)	毎日新聞	震度1以上観測なく津波注意報、なぜ? 火山活動の可能性	今村文彦	報道・コメント掲載
415	2023/10/9	新聞 (全国紙)	産経新聞	津波広範囲、海底変動か 地震また「無感」で発生	今村文彦	報道・コメント掲載
416	2023/10/9	新聞 (地方紙)	中日新聞	地震による津波到達、東海地方も「十分ありうる」 専門家が注意呼びかけ	今村文彦	報道・コメント掲載
417	2023/10/10	新聞 (全国紙)	毎日新聞	鳥島近海で地震 揺れ体感なし 噴火が関与か	今村文彦	報道・コメント掲載
418	2023/10/10	テレビ (国内)	日本テレビ	NEWS NNN : 世界で3例目の確認 熊本地震の前後で断層が50cmずれる 調査した研究者が市民向けに講演	遠田晋次	報道・コメント掲載
419	2023/10/10	テレビ (国内)	仙台放送 (他2件)	広範囲で観測「震度ゼロ」津波…海底の地殻変動関係か? 専門家「東北でも起こりうる」(宮城)	今村文彦	報道・コメント掲載
422	2023/10/11	新聞 (地方紙)	河北新報	「言葉足らず申し訳ない」/知事見解、審議会に提示	富田博秋	報道・コメント掲載
423	2023/10/11	ウェブ (国内)	PR TIMES (他2件)	「3D都市モデルで防災を考えるワークショップ」10/21 仙台開催(主催:宮城県)宮城県「令和5年度オープンデータによるみやぎ市民共創促進事業」ワークショップスタート	柴山明寛	その他
426	2023/10/12	テレビ (国内)	仙台放送	流域のために…消える集落 東日本台風から3年 丸森町の今と進む対策	柴山明寛	報道・コメント掲載
427	2023/10/13	新聞 (全国紙)	読売新聞	災害時のSNS 自治体リスク「X」仕様変更で投稿制限	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
428	2023/10/13	新聞 (地方紙)	いわき民報	9月豪雨いわき市による「検証チーム」発足へ 被災実態・避難あり方問う	災害研、柴山明寛	報道・コメント掲載
429	2023/10/13	テレビ (国内)	テレビユー福島(他1件)	豪雨災害の対応検証…いわき市が「専門家チーム」立ち上げへ 福島	災害研	報道・コメント掲載
431	2023/10/13	ウェブ (国内)	PR TIMES (他1件)	TikTok、気候変動の専門家や人気TikTokクリエイターたちと共に気候変動問題について考えるプロジェクト「みんなで学ぶ気候変動」を実施。11/19には一般の方100名が参加可能なフォーラムも開催!	小野裕一、佐々木大輔	その他
433	2023/10/13	テレビ (国内)	福島放送 (他1件)	大雨被害のいわき内郷地区 専門家が浸水のメカニズムなどを調査 (福島)	災害研	報道・コメント掲載
435	2023/10/14	新聞 (地方紙)	福島民友新聞(他1件)	いわき市、浜通り豪雨被災検証へ チーム設置、年内に中間報告	災害研	報道・コメント掲載
437	2023/10/14	新聞 (全国紙)	毎日新聞	台風13号 豪雨災害、課題を検証 いわき市、専門チーム発足へ 有識者8人で構成 /福島	災害研	報道・コメント掲載
438	2023/10/15	ラジオ	Date fm エフエム仙台	SUNDAY MORNING WAVE 防災 UPDATES! : 地球沸騰化と海	須賀利雄	出演
439	2023/10/16	新聞 (全国紙)	朝日新聞	ボランティア解説員に2人目の高校生 石巻の東日本大震災津波伝承館	災害研	その他
440	2023/10/16	ウェブ (国内)	U-NOTE	TikTokが「みんなで学ぶ気候変動」プロジェクトを実施 専門家や人気クリエイターと自分でできることを考える日に	小野裕一、佐々木大輔	その他
441	2023/10/17	新聞 (地方紙)	河北新報	石巻・震災津波伝承館/「高校生の視点で教訓伝える」/泉高1年・西城さん/3人目の学生・生徒解説員に	災害研	その他
442	2023/10/17	テレビ (国内)	NHK	はまなかあいつ: 関東大震災100年 米国へ感謝の手紙 福島県で手紙差出人を調査	川内淳史	報道・コメント掲載
443	2023/10/17	テレビ (国内)	東日本放送	チャージ1: 被災地は今 307 特集 自力避難が難しい 障害者どう守る? 進まぬ「個別避難計画」策定	佐藤翔輔	出演
444	2023/10/18	テレビ (国内)	NHK	宮城県のニュース: 関東大震災 アメ리카に感謝を伝える手紙の差出人は…	川内淳史	報道・コメント掲載
445	2023/10/18	テレビ (国内)	NHK	てれまさむね: “アメリカに感謝” なぜ多数の手紙が…	川内淳史	報道・コメント掲載
446	2023/10/18	新聞 (その他)	時事通信	TikTok、気候変動の専門家や人気TikTokクリエイター達と共に気候変動問題について考えるプロジェクト「みんなで学ぶ気候変動」を実施! 11/19には若年層中心に100名が参加可能なフォーラムも開催	小野裕一、佐々木大輔	その他
447	2023/10/20	ウェブ (国内)	PR TIMES (他1件)	SIP 第3期「スマート防災ネットワークの構築」キックオフシンポジウムを11月7日(火)に開催	越村俊一	その他
449	2023/10/22	その他	公益財団法人 佐賀未来創造基金	【登壇情報】 関東大震災から100年〜防災におけるコレクティブインパクトの創出に向けて	栗山進一	その他
450	2023/10/23	新聞 (地方紙)	中日新聞	「学びの場」保存か、「辛いから」解体か 長野・千曲川決壊の被災古民家	川島秀一	その他
451	2023/10/23	新聞 (地方紙)	いわき民報	9月豪雨いわき市による「検証チーム」発足へ 被災実態・避難あり方問う	柴山明寛	報道・コメント掲載
452	2023/10/23	新聞 (地方紙)	南日本新聞	【論点】暮らしの延長にある備え	佐藤翔輔	執筆
453	2023/10/24	テレビ (国内)	NHK 総合	ひるまほっと: 横浜局「関東大震災の津波 最新技術で再現 次の備えは」	今村文彦	その他
454	2023/10/26	テレビ (国内)	テレビくまもと (他1件)	リズム! TKU: 熊本地震で50センチ前後のずれ 国内で初めて東北大学など研究グループが確認【熊本】	遠田晋次	報道・コメント掲載
456	2023/10/26	ウェブ (国内)	PR TIMES	土屋アンナ氏登壇 Well-beingとSDGsとは何かを参加者と共に考え学ぶ講演会「自分事化してウェルビーイング(Well-being)とSDGsを考える!」を開催	桜井愛子	その他
457	2023/10/27	ウェブ (国内)	NEWSCAST	増える「実家の片付け問題」、ちゃんと話ができる人はどれくらい? オンラインセミナー参加者にアンケートを実施	今村文彦	その他
458	2023/10/30	新聞 (地方紙)	河北新報	とびらを聞く/NPO法人イコールネット仙台/防災に多様な視点を 宮城県で災害支援をするNPOや社会福祉協議会などでつくる「みやぎ災害対応円卓会議」は9月6日、勉強会「災害で顕在化する社会の脆弱(ぜいじゃく)性〜東日	災害研	報道・コメント掲載
459	2023/11/2	テレビ (国内)	NHK	9月の大雨で住宅浸水する被害 大学などのチームが現地調査	柴山明寛	報道・コメント掲載
460	2023/11/2	テレビ (国内)	福島中央テレビ(他1件)	9月のいわき市の大雨について 検証チームの現地調査始まる【福島県】	柴山明寛	報道・コメント掲載

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
462	2023/11/2	テレビ (国内)	福島テレビ	いわき市の大雨被災地を調査 東北大学など専門家の調査チーム 被災者に当時の様子を聞き取り<福島県>	柴山明寛	報道・コメント掲載
463	2023/11/2	ラジオ	NHK 大阪放送局	関西ラジオワイド: 防災コラム「災害の「語り部」を時短に?」	佐藤翔輔	出演
464	2023/11/3	新聞 (地方紙)	河北新報	台風13号の対応検証作業を開始 いわき市	柴山明寛	報道・コメント掲載
465	2023/11/3	テレビ (国内)	福島テレビ	いわき市の大雨被災地を調査 東北大学など専門家の調査チーム 被災者に当時の様子を聞き取り<福島県>	柴山明寛	報道・コメント掲載
466	2023/11/3	テレビ (国内)	福島中央テレビ	9月のいわき市の大雨について 検証チームの現地調査始まる【福島県】	柴山明寛	報道・コメント掲載
467	2023/11/3	テレビ (国内)	テレビユー福島	9月の豪雨被害検証 専門家チームが現地調査開始 福島・いわき市	柴山明寛	報道・コメント掲載
468	2023/11/3	テレビ (国内)	NHK 福島放送局	9月の大雨で住宅浸水する被害 大学などのチームが現地調査	柴山明寛	報道・コメント掲載
469	2023/11/3	新聞 (地方紙)	福島民報 (他2件)	台風13号に伴う大雨被害、現地調査開始 福島県いわき市 東北大など、年度内に報告書	柴山明寛	報道・コメント掲載
472	2023/11/3	新聞 (地方紙)	河北新報	台風13号の記録的大雨 福島・いわき市が対応状況の検証作業開始	柴山明寛	報道・コメント掲載
473	2023/11/3	新聞 (全国紙)	毎日新聞	関東大震災の研究成果展 宮城でも被災支援 / 宮城	災害研	報道・コメント掲載
474	2023/11/3	新聞 (その他)	時事メディカル	ツイートで医療ニーズ探る〜ウクライナ侵攻で分析 (東北大学災害科学国際研究所 藤井進准教授) 〜	藤井進	報道・コメント掲載
475	2023/11/4	ラジオ	Tokyo fm	防災 FRONT LINE: 11月5日は何の日?	今村文彦	出演
476	2023/11/5	テレビ (国内)	NHK	「津波防災の日」各地で南海トラフ巨大地震を想定した訓練	今村文彦	報道・コメント掲載
477	2023/11/5	ラジオ	Date fm エフエム仙台	SUNDAY MORNING WAVE 防災 UPDATES!: 日本の災害メンタルヘルス支援体制の整備状況について	富田博秋	出演
478	2023/11/6	その他	総務省	町村長を対象とした「全国防災・危機管理トップセミナー」の開催	佐藤翔輔	その他
479	2023/11/6	新聞 (地方紙)	いわき民報	9月豪雨 市の検証チーム本格始動 東北大災害研との意見交換行われる	柴山明寛	報道・コメント掲載
480	2023/11/6	新聞 (地方紙)	福島民報 (他1件)	震災経て防災研究者に 福島県いわき市出身の東北大災害研助教・新家杏奈さん	新家杏奈	報道・コメント掲載
482	2023/11/7	新聞 (地方紙)	石巻かほく	語り部体験しよう 11日から5回・門脇小	佐藤翔輔	資料提供
483	2023/11/8	テレビ (国内)	NHK	岩手 NEWS WEB: 東日本大震災 復興推進委員会が沿岸視察 現状や課題を確認	今村文彦	報道・コメント掲載
484	2023/11/8	テレビ (国内)	岩手めんこいテレビ	復興推進委員会が被災地を視察 東日本大震災から12年8カ月<岩手県>	今村文彦	報道・コメント掲載
485	2023/11/8	ラジオ	NHK	関西ラジオワイド防災コーナー: 「防災コラム」東北大学 災害科学国際研究所 准教授・佐藤翔輔さん『災害の「語り部」を時短に』	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
486	2023/11/8	新聞 (地方紙)	福島民報	行政が頭抱える「勝手橋」許可なし架設、管理者不明 台風13号で氾濫、福島県いわき市の宮川	災害研	報道・コメント掲載
487	2023/11/9	テレビ (国内)	岩手めんこいテレビ	国の復興推進委が「震災伝承」の取り組み視察「安心して続けられる支援が必要」<岩手・大槌町>	今村文彦	報道・コメント掲載
488	2023/11/9	新聞 (地方紙)	石巻かほく	ロック&ロール&ヒヨリ&ロイのNPOの広場	佐藤翔輔	資料提供
489	2023/11/9	ウェブ (国内)	PR TIMES (他2件)	TikTok、「気候変動」をテーマとするフォーラムを地球環境戦略研究機関など専門機関後援のもと11/19に日本初開催。人気TikTokクリエイターのほかに写真家のヨシダナギの出演も決定!	小野裕一	その他
492	2023/11/11	ラジオ	Tokyo fm (他2件)	揺れを感じなくても「津波」が発生することも…改めて確認しておきたい「津波避難の心得」	今村文彦	出演
495	2023/11/12	新聞 (地方紙)	河北新報	宮城・石巻で震災の語り部育成講座 中学生ら20人が意義を学ぶ	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
496	2023/11/12	新聞 (その他)	日本農業新聞	現場からの農村学教室<29>テーマ: 自然災害と向き合う・続く「共生」の価値観	佐藤翔輔	執筆
497	2023/11/12	新聞 (地方紙)	河北新報	思い出尽きぬ兄のジャンパー 石巻/教訓の伝承へ 語り部育成 石巻/命を守るすべ 訓練で学ぶ 多賀城	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
498	2023/11/13	テレビ (国内)	NHK 岩手	おぼでんすいわて 新津波浸水想定を受け大槌で訓練	佐藤翔輔	出演
499	2023/11/13	テレビ (国内)	仙台放送 (他1件)	新市役所前に仙台駅東口…「歩行者天国」でにぎわい創出へ 背景に街づくり変化(仙台市)	姥浦道生	報道・コメント掲載
501	2023/11/14	テレビ (国内)	仙台放送	障がい者に必要な支援は? 災害時の対応を考えるセミナー(仙台市)	災害研	その他
502	2023/11/16	新聞 (地方紙)	あなたの静岡新聞	災害時の最適な行動、対策は 御前崎・浜岡北小6年 スタンプラリーで確認	保田真理	報道・コメント掲載
503	2023/11/18	新聞 (地方紙)	石巻かほく	「語り継ぐ意義」学ぶ 門脇小で語り部・伝承育成講座 市内中学生ら20人参加	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
504	2023/11/18	その他	公益財団法人 佐賀未来創造基金	【登壇報告】関東大震災から100年〜防災におけるクリエイティブインパクトの創出に向けて@お台場 By サイエンスアゴラ2003	栗山進一	その他
505	2023/11/19	ラジオ	Date fm エフエム仙台	SUNDAY MORNING WAVE 防災 UPDATES!: SNS情報を活用した災害に伴うメンタルヘルスニーズの把握について	國井泰人	出演
506	2023/11/20	ウェブ (国内)	PR TIMES	第17回「東北歴史文化講座」を開講します〜三陸漁師の営みを通じて、海と共に生きる精神を学ぶ〜	川島秀一	その他
507	2023/11/21	ウェブ (国内)	鉄道チャンネル(他1件)	TikTok が気候変動を考えるフォーラムを実施、人気TikTokクリエイター 神堂きょうか MOSCO   モスコ みいるか や有識者といっしょに「地球にいいこと」を共有	小野裕一	その他
508	2023/11/21	ウェブ (国内)	excite ニュース	TikTok が気候変動を考えるフォーラムを実施、人気TikTokクリエイター 神堂きょうか MOSCO   モスコ みいるか や有識者といっしょに「地球にいいこと」を共有	小野裕一	その他
509	2023/11/22	新聞 (その他)	原子力産業新聞	復興推進委 教育を通じた福島再生が議論に	今村文彦	報道・コメント掲載
510	2023/11/23	ラジオ	Tokyo fm (他1件)	「アドバルーン」が「津波避難」の誘導アイテムに! 大学院生のアイデアから生まれた「津波避難プロジェクト」とは?	今村文彦	出演
511	2023/11/23	新聞 (地方紙)	河北新報	取材メモらんだむ 被災地の課題で注文	今村文彦	その他
513	2023/11/24	新聞 (全国紙)	読売新聞	津波防災「自ら考えて」県庁でシンポ 巨大地震へ備え促す=宮城	今村文彦	報道・コメント掲載
514	2023/11/24	新聞 (地方紙)	デーリー東北	Heritage〈奇祭編〉(1) キリスト祭前編 真偽保留し観光資源に	川内淳史	報道・コメント掲載
515	2023/11/25	新聞 (地方紙)	石巻かほく	大事です 防災の心構え 石巻で子ども体験イベント	佐藤翔輔、榎田竜太	報道・コメント掲載
516	2023/11/26	テレビ (国内)	仙台放送 (他2件)	「災害は本当にいつ起きるか分からない」国際的な防災指針「仙台防災枠組」学ぶ 市民講座<宮城>	今村文彦	報道・コメント掲載
519	2023/11/27	テレビ (国内)	NHK	おはよう宮城: 「仙台防災枠組」目標達成へ意見交換	今村文彦	その他
520	2023/11/28	テレビ (国内)	東日本放送 (他1件)	災害時の活用検討 県が実証実験 燃料電池バスで避難所の給電	柴山明寛	報道・コメント掲載
522	2023/11/29	新聞 (地方紙)	福島民友新聞	いわき市、内郷に「雨水貯留新施設」排水路前倒し 24年度完成	災害研	報道・コメント掲載
523	2023/11/29	新聞 (地方紙)	いわき民報	9月豪雨で設置のいわき市災害対策本部 30日解散 復旧おおむね完了	災害研	報道・コメント掲載
524	2023/11/29	新聞 (地方紙)	河北新報	災害時、燃料電池バスを避難所の電源に 宮城県、富谷で初の実証試験	災害研	報道・コメント掲載
525	2023/11/30	テレビ (国内)	NHK 仙台	仙台北門金具発見か	佐藤大介	報道・コメント掲載
526	2023/11/30	新聞 (その他)	安積高校新聞	関東大震災の教訓を今に生かす 東北大教授らにインタビュー	川内淳史	報道・コメント掲載
527	2023/11/30	新聞 (地方紙)	東京新聞	みんなで考える地域の防災 新宿 豊島	佐藤洋	報道・コメント掲載
528	2023/11/30	ウェブ (国内)	PR TIMES	県内語り部プロジェクト 特別企画トークセッション 12/9開催 テーマは「家族として、母として、震災を語るということ」	災害研	その他
529	2023/12/1	新聞 (地方紙)	東京新聞	学生ら米に感謝の750通 当時の大統領子孫に現存 東北大など調査	小野裕一、川内淳史	報道・コメント掲載
530	2023/12/1	その他	夕刊フジ (他1件)	北京で5倍増、中国「呼吸器疾患」の猛威 子供は重症化の恐れ…日本大使館が注意喚起「訪日客などですでに流入の可能性」	児玉栄一	報道・コメント掲載

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
532	2023/12/2	新聞 (全国紙)	読売新聞	トルコ地震 写真270枚公開 アーカイブで教訓発信へ＝宮城	今村文彦	報道・コメント掲載
533	2023/12/2	その他	夕刊フジ	中国「呼吸器疾患」北京で5倍	児玉栄一	報道・コメント掲載
534	2023/12/2	新聞 (地方紙)	山梨日日新聞	関東大震災 米の支援に感謝つづる 学生らの手紙 750 通現存 当時のひ孫宅に	小野裕一	報道・コメント掲載
535	2023/12/2	新聞 (地方紙)	埼玉新聞	日本学生 感謝の手紙現存	小野裕一	報道・コメント掲載
536	2023/12/2	新聞 (地方紙)	河北新報	日本学生の感謝の手紙米国に現存	小野裕一	報道・コメント掲載
537	2023/12/2	新聞 (地方紙)	河北新報	関東大震災で多額の義捐金 日本学生の感謝の手紙 米国に現存 東北大調査 米大統領子孫宅に 750 通	小野裕一、川内淳史	報道・コメント掲載
538	2023/12/2	新聞 (地方紙)	佐賀新聞	地震発生、学童保育どうする？ 鳥栖市で支援員らワークショップ	桜井愛子	報道・コメント掲載
539	2023/12/3	テレビ (国内)	NHK	津波注意報すべて解除 気象庁 “多少の潮位変化続く可能性”	今村文彦	報道・コメント掲載
540	2023/12/3	テレビ (国内)	NHK	NHK ニュース7: フィリピン「64cm」日本「40cm」津波の高さ 日本でなぜ同程度に？	今村文彦	その他
541	2023/12/3	新聞 (全国紙)	産経新聞	津波に専門家「侮らないで」週末の深夜、突然の対応	今村文彦	報道・コメント掲載
542	2023/12/3	新聞 (地方紙)	茨城新聞	米支援 感謝の手紙	小野裕一	報道・コメント掲載
543	2023/12/4	テレビ (国内)	NHK	首都圏ナビ: フィリピン付近の地震で津波 なぜ現地と同じ程度の高さ 遠地地震の特徴とは 2023 年 12 月 3 日	今村文彦	報道・コメント掲載
544	2023/12/4	新聞 (地方紙)	南日本新聞	[論点] ★企画 [論点] 対話で磨く災害への想像力	佐藤翔輔	執筆
545	2023/12/4	新聞 (地方紙)	福島民報	日本学生 感謝の手紙現存 米大統領子孫宅に 750 通	小野裕一	報道・コメント掲載
546	2023/12/4	新聞 (その他)	東北大学新聞	東北大学際模範講義「関東大震災から 100 年: 災害と都市の復興」	村尾修	報道・コメント掲載
547	2023/12/5	新聞 (地方紙)	東奥日報	米支援 感謝の手紙現存 関東大震災: 東北大調査 本県学生含む 750 通	小野裕一、川内淳史	報道・コメント掲載
548	2023/12/5	新聞 (地方紙)	東奥日報	歴史資料「救出」を考える 昨夏水害契機 鯉ヶ沢で 10 日フォーラム 県内の体制構築目指す	川内淳史	報道・コメント掲載
549	2023/12/5	新聞 (地方紙)	新潟日報	学生らの感謝状 750 通現存	小野裕一	報道・コメント掲載
550	2023/12/5	新聞 (地方紙)	静岡新聞 (他4件)	【関東大震災100年】日本学生感謝の手紙現存 米大統領子孫宅に750通 大震災支援、東北大調査	災害研、小野裕一	報道・コメント掲載
555	2023/12/7	新聞 (地方紙)	陸奥新報	鯉ヶ沢 昨年8月の大雨で浸水被害 資料レスキュー考える 町教委など10日にフォーラム	川内淳史	報道・コメント掲載
556	2023/12/8	新聞 (その他)	建設通信新聞	12月28日まで参加申込 24年1月16日に防災講演/防災エキスパートら	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
557	2023/12/9	テレビ (国内)	TBS (他1件)	日本にいるすべての人にとってほしい「地震の揺れを感じなくても津波は来る」	佐藤翔輔	出演
559	2023/12/9	雑誌・機関誌	現代ビジネス (他1件)	「大地震」で死なないために…いいますぐ知りたい「地震のプロたちは何を準備しているのか」	今村文彦	報道・コメント掲載
561	2023/12/10	新聞 (全国紙)	読売新聞	東日本大震災、宮城県が職員ら 600 人の証言集…「仮埋葬がつかかった」など現場での思い盛り込む	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
562	2023/12/10	新聞 (全国紙)	読売新聞	[再生の歩み 東日本大震災] 被災～復興 600 人の教訓	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
563	2023/12/10	新聞 (地方紙)	河北新報	防災士会みやぎ 読み聞かせ活動 絵本「リオン」減災伝え 10 年	保田真理	報道・コメント掲載
564	2023/12/10	その他	富士技術出版株式会社 FUJI TECHNOLOGY PRESS LTG.	MURAKAMI Suminao Award 2023 and the JDR Annual Awards 2023	今村文彦	報道・コメント掲載
565	2023/12/11	新聞 (地方紙)	岩手日報 (他1件)	2022 年東日本大震災伝承調査報告書を公開	佐藤翔輔	その他
567	2023/12/12	ラジオ	みやこハーバーラジオ 多文化共生ラジオ	外国人の防災対策	ゲルスタ ユリア	出演
568	2023/12/12	新聞 (地方紙)	河北新報 (他1件)	災害時の避難行動討論 宮城・七ヶ浜 シンポに 250 人	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
570	2023/12/12	その他	東北学院	本学学生が「災害時避難を考えるシンポジウム」で活動報告をしました	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
571	2023/12/14	新聞 (全国紙・地方版)	毎日新聞	東日本大震災: 震災アーカイブ、存続岐路 防災意識向上へ活用	柴山明寛	報道・コメント掲載
572	2023/12/15	テレビ (国内)	南海放送	NEWS CH.4: 命を守るために伝えたい。南海地震の被災者と最新科学の現場から	今村文彦	出演
573	2023/12/15	新聞 (地方紙)	神戸新聞	学生からの米国へ 感謝の手紙現存	小野裕一	報道・コメント掲載
574	2023/12/15	その他	金沢大学	次期理事予定者について一金沢大学	中沢正隆	その他
575	2023/12/16	新聞 (全国紙・地方版)	読売新聞	後発地震備え万全に きょうから注意情報 全 35 市町村対象	柴山明寛	報道・コメント掲載
576	2023/12/16	テレビ (国内)	NHK	ニュース 645: 関東の対象地域 75% ”聞いたことがない”	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
577	2023/12/16	テレビ (国内)	NHK	首都圏ニュース: “後発地震注意情報” 運用1年 情報の普及や理解が進まず	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
578	2023/12/16	テレビ (国内)	NHK	ニュース7: 後発地震注意情報 運用開始1年 約7割が“聞いたことがない” 回答	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
579	2023/12/17	新聞 (地方紙)	河北新報 (他1件)	後発地震注意情報 平時から意義の発信を 東北大災害研・佐藤翔輔准教授に聞く	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
581	2023/12/17	新聞 (全国紙)	朝日新聞	東日本大震災 13 年へ 3.11 の現在地 記憶を持たぬ世代 継承の輪 “壁” 越える若い語り部たち	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
582	2023/12/18	テレビ (国内)	南海放送	40 年以内に発生確率 90% の南海トラフ巨大地震 体験者と第一人者から “未来の被災地” へのメッセージ	今村文彦	出演
583	2023/12/18	新聞 (地方紙)	陸奥新報	歴史遺産を守る 水害契機にフォーラム 文化財防災考える	川内淳史	報道・コメント掲載
584	2023/12/18	その他	自治体通信	TikTok イベント「みんなで学ぶ気候変動フォーラム ～地球環境のために今私たちができることを考える～」レポート	小野裕一	報道・コメント掲載
585	2023/12/19	新聞 (地方紙)	東奥日報	文化財救出は「心の復興」 昨夏水害受け、フォーラム	川内淳史	報道・コメント掲載
586	2023/12/19	テレビ (国内)	NHK	首都圏ナビ: 後発地震注意情報とは 関東 75% 「聞いたことがない」 茨城県 千葉県にも防災対応の対象市町村～ NHK アンケート調査～	佐藤翔輔	出演
587	2023/12/20	テレビ (国内)	NHK	仙台城「大手門」の一部の金具が 東北大学の調査で発見	佐藤大介	報道・コメント掲載
588	2023/12/20	新聞 (全国紙)	読売新聞	大手町アカデミア×人間文化研究機構 講演要旨「変化にさらされる地域の歴史と文化を伝える～地域・大学・専門機関のネットワークが生み出す未来」(下)	災害研	報道・コメント掲載
589	2023/12/20	新聞 (地方紙)	河北新報 (他1件)	大地震を引き起こす「長町一利府線断層帯」仕組み学んで備えに生かす 仙台で市民向け講座	岡田真介	報道・コメント掲載
591	2023/12/21	テレビ (国内)	南海放送	「災害は忘れたころに起こる」今も親友の墓参りを欠かさない、77 年前の被災者からのメッセージ	今村文彦	出演
592	2023/12/21	テレビ (国内)	南海放送	「災害は忘れたころに起こる」今も親友の墓参りを欠かさない、77 年前の被災者からのメッセージ	佐藤翔輔	資料提供
593	2023/12/21	テレビ (国内)	NHK	WEB 特集: 「聞いたことがない」が約 7 割 巨大地震対策の情報浸透進まず: “死者 8 割減らせる” 理想と現実	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
594	2023/12/22	テレビ (国内)	NHK 福島	いわき 9 月の大雨被害「避難情報の発信に課題」などと指摘	柴山明寛	報道・コメント掲載
595	2023/12/22	テレビ (国内)	福島放送	記録的な大雨の調査 中間報告 いわき (福島)	柴山明寛	報道・コメント掲載
596	2023/12/22	テレビ (国内)	福島中央テレビ	「急激な雨で避難のタイミング失う」専門家検証チームがいわき市に課題などを中間報告	柴山明寛	報道・コメント掲載
597	2023/12/22	テレビ (国内)	福島テレビ	「避難の猶予時間短かった」線状降水帯によるいわき市の大雨被害 東北大学の災害検証チームが中間報告	柴山明寛	報道・コメント掲載

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
598	2023/12/23	新聞(全国紙・地方版)	朝日新聞	「台風・線状降水帯、違い認識し対処を」 いわきの大雨巡り検証チーム	柴山明寛	報道・コメント掲載
599	2023/12/23	新聞(地方紙)	いわき民報	東北大災害研いわき市に9月豪雨の中間報告提出 避難情報あり方など指摘	柴山明寛	報道・コメント掲載
600	2023/12/23	新聞(地方紙)	福島民報	いわきこの1年 猛烈な雨、被害甚大	柴山明寛	報道・コメント掲載
601	2023/12/25	その他	いわき市	令和5年台風第13号災害検証について	災害研、栗山進一、柴山明寛	その他
602	2023/12/25	新聞(地方紙)	福島民報	いわき市の台風13号被害検証内郷地区「内水氾濫」発生後に「外水氾濫」	柴山明寛	報道・コメント掲載
603	2023/12/25	新聞(その他)	建設工業新聞	仙台防災枠組で世界的防災レベル引き上げへ	小野裕一	報道・コメント掲載
604	2023/12/26	その他	岩沼市	令和5年度岩沼市防災講演会を開催します	栗山進一	その他
605	2023/12/28	新聞(地方紙)	河北新報	海溝の崖 急激に形成か/断層滑り 局所的に大きく/震災震源域	日野亮太	報道・コメント掲載
606	2023/12/28	新聞(地方紙)	福島民報(他1件)	【いわきの豪雨被害】再発防止の対策急務(12月28日)	災害研	報道・コメント掲載
608	2023/12/30	テレビ(国内)	福島テレビ	検証・福島県初の線状降水帯 避難妨げた内水氾濫 短時間強雨と地形が要因 被災経験を防災に	柴山明寛	報道・コメント掲載
609	2024/01/00	ウェブ(国内)	才能開発教育研究財団	文科省「新たな教師の学び」研修動画	佐藤健	出演
610	2024/1/1	テレビ(国内)	NHK	専門家「さらに安全な場所に避難する『三次避難』も検討を」	今村文彦	報道・コメント掲載
611	2024/1/1	ラジオ	TBSラジオ	JNN報道特番「石川県能登地方で震度7の地震」	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
612	2024/1/1	新聞(全国紙)	毎日新聞	能登、引き続き強い地震に注意 有識者「津波、後続波に注意を」	今村文彦	報道・コメント掲載
613	2024/1/1	新聞(全国紙)	読売新聞	津波、何度も押し寄せる可能性…東北大・今村教授「状況によってさらに離れた場所に避難を」	今村文彦	報道・コメント掲載
614	2024/1/2	ラジオ	NHK ラジオ第一	地震について解説	遠田晋次	出演
615	2024/1/2	ラジオ	TBSラジオ	武内陶子のおはよう直線・ニュースピックアップ	佐藤翔輔	出演
616	2024/1/2	新聞(全国紙)	朝日新聞	震源域150km、桁違いの断層破壊か、専門家「日本海側で最大級」	遠田晋次	報道・コメント掲載
617	2024/1/2	新聞(全国紙)	毎日新聞	日本海側で30年ぶりの大津波警報 専門家が警鐘「到達まで早い」	今村文彦	報道・コメント掲載
618	2024/1/3	テレビ(国内)	NHK	珠洲市沿岸 津波は地震から1分以内に到達か 専門家分析	今村文彦	報道・コメント掲載
619	2024/1/3	テレビ(国内)	NHK	能登半島地震 津波は12分以内に新潟 上越沿岸に到達か	今村文彦	報道・コメント掲載
620	2024/1/3	新聞(全国紙)	毎日新聞	クローズアップ:震度5以上、10回超 能登、地震活動活発化	今村文彦	報道・コメント掲載
621	2024/1/3	新聞(全国紙)	読売新聞	「スキャナー」能登震度7 津波 広範囲に到達 群発地震 活断層刺激か	今村文彦	報道・コメント掲載
622	2024/1/3	新聞(地方紙)	河北新報	水面急上昇、津波の力増す	今村文彦	報道・コメント掲載
623	2024/1/3	新聞(国際)	Japan Times	1923 quake letters preserved by kin of U.S.president	災害研、小野裕一	報道・コメント掲載
624	2024/1/4	テレビ(国内)	TBS	Nスタ:津波・地震から1分以内に到達か	今村文彦	出演
625	2024/1/4	テレビ(国内)	さくらんぼテレビ(他1件)	専門家「車での避難は危険」・津波避難は原則徒歩で…県内に41年ぶり津波警報 山形1/4	今村文彦	報道・コメント掲載
627	2024/1/4	テレビ(国内)	ミヤギテレビ	【宮城でも起きる可能性】能登地震の特徴 断層型 津波の到達早い	今村文彦	出演
628	2024/1/4	新聞(全国紙)	読売新聞	能登半島地震の1分後、珠洲に津波の第1波到達か…東北大が分析「日本海沿岸は早くなる傾向」	今村文彦	報道・コメント掲載
629	2024/1/4	新聞(地方紙)	中日新聞	【能登半島地震・珠洲ルポ】「水平線の両側からわーっと」津波被害、徐々に明らかに	今村文彦	報道・コメント掲載
630	2024/1/4	ウェブ(国際)	AP World News	Rescuers race against time in search for survivors in Japan after powerful quakes leave 78 dead	泉貴子	報道・コメント掲載
631	2024/1/5	テレビ(国内)	ANN news CH	“わずか1分”で津波到達か 能登地震データを分析	今村文彦	報道・コメント掲載
632	2024/1/5	テレビ(国内)	TBS NEWS DIG(他1件)	news23:石川県では週末に雪の予報も 津波の第一波が地震発生と“同時刻”の理由とは 能登半島地震【news23】	今村文彦	報道・コメント掲載
634	2024/1/5	テレビ(国内)	さくらんぼテレビ(他1件)	能登半島地震で41年ぶりの津波警報「車での避難は危険」渋滞の危険性と徒歩での高台避難を専門家が訴える【山形発】	今村文彦	報道・コメント掲載
636	2024/1/5	テレビ(国内)	東日本放送(他1件)	低体温症のリスクが高い冬の災害への備え 東北大学佐藤翔輔准教授	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
638	2024/1/5	テレビ(国内)	東日本放送(他1件)	能登半島地震は津波到達までわずか1分 東北大学今村文彦教授の研究チームが分析	今村文彦	報道・コメント掲載
640	2024/1/5	テレビ(国内)	北日本放送(他1件)	津波第1波 海底の地すべり起因か 東北大研究グループが分析 富山湾内で津波「複雑化」も	今村文彦	報道・コメント掲載
642	2024/1/5	新聞(全国紙)	朝日新聞	時時刻刻:揺れ直後、強い津波、波穏やかな沿岸部、堤防崩壊 珠洲・能登	今村文彦	報道・コメント掲載
643	2024/1/5	新聞(全国紙)	読売新聞	能登地震 珠洲「1分で津波到達」避難始める時間なく 東北大分析	今村文彦	報道・コメント掲載
644	2024/1/5	新聞(その他)	時事通信	津波、1分で沿岸到達か=東北大が分析-能登地震	今村文彦	報道・コメント掲載
645	2024/1/6	テレビ(国内)	東日本放送	チャージ! : どう備える?冬の大地震・専門家「暖をとれる準備を」	佐藤翔輔	出演
646	2024/1/6	テレビ(国内)	広島ホームテレビ(他3件)	街襲った津波の恐怖 映像から検証「2つの特徴」能登半島地震	今村文彦	報道・コメント掲載
650	2024/1/6	新聞(地方紙)	河北新報	石川・珠洲で津波遡上高3メートル 能登半島地震で東北大災害研が調査	越村俊一	報道・コメント掲載
651	2024/1/6	新聞(地方紙)	河北新報	能登地震/日本海側 津波到達早く/東北大・今村教授「4メートル程度、1分で」	今村文彦	報道・コメント掲載
652	2024/1/7	ラジオ	Date fm エフエム仙台	SUNDAY MORNING WAVE 防災UPDATES! :G7仙台科学技術大臣会合のエクスカッション	蝦名裕一	出演
653	2024/1/7	新聞(全国紙)	日本経済新聞	津波、1分で沿岸到達 陸と海またぐ断層が影響 日本海特有の備え不可欠	今村文彦	報道・コメント掲載
654	2024/1/7	新聞(全国紙)	毎日新聞	わずか1分で津波到達 日本海側の防災の難しさ露呈 能登半島地震	今村文彦	報道・コメント掲載
655	2024/1/7	新聞(地方紙)	北國新聞	(1.1大震災)発生124時間、90代女性救出 珠洲・正院町の倒壊家屋	佐々木宏之	報道・コメント掲載
656	2024/1/8	テレビ(国内)	ミヤギテレビ	ミヤギnews every.:「震災」の記録を一括保管 震災「アーカイブ」について意見交わす	柴山明寛	報道・コメント掲載
657	2024/1/8	テレビ(国内)	ミヤギテレビ(他1件)	【能登半島地震】でも誤ったSNS情報拡散! 真実確認のため災害記録を一括保管する「アーカイブ」の重要性強調される「アーカイブ」シンポジウム(東北大学 災害科学国際研究所)	災害研、柴山明寛	報道・コメント掲載
659	2024/1/8	テレビ(国内)	NHK	被災文化財や震災遺構をどう生かすか東北大でシンポジウム開催	災害研	報道・コメント掲載
660	2024/1/8	テレビ(国内)	チューリップテレビ	富山湾の海底で地すべりか「あ、やばい、これは本当に来る」直後に海上では大きなうねり…津波の専門家が第一波を分析すると	今村文彦	報道・コメント掲載
661	2024/1/8	新聞(全国紙)	朝日新聞	断層破壊も津波も火災も 能登半島地震、連鎖した災害を因で解説(紙面タイトル:災害連鎖、爪痕激しく、能登地震1週間)	今村文彦	報道・コメント掲載
662	2024/1/8	新聞(全国紙)	毎日新聞	災害連鎖、爪痕激しく 能登地震1週間	今村文彦	報道・コメント掲載
663	2024/1/8	新聞(全国紙)	毎日新聞	クローズアップ:能登地震1週間「揺れから5分」津波襲う 観測網、トラブル相次ぐ	今村文彦	報道・コメント掲載
664	2024/1/8	新聞(地方紙)	河北新報	仙台市 新音楽ホール・震災メモリアル拠点/有識者に聞く/施設の概要	本江正成	報道・コメント掲載
665	2024/1/8	新聞(地方紙)	琉球新報	<社説>能登半島地震1週間 避難長期化へ適切支援を	今村文彦	報道・コメント掲載
666	2024/1/9	テレビ(国内)	NHK	能登半島地震 東北大災害研が現地調査などの緊急報告会	災害研、柴山明寛	報道・コメント掲載
667	2024/1/9	テレビ(国内)	NHK	クローズアップ現代:緊急報告・能登半島地震 拡大する被害の実態	今村文彦	報道・コメント掲載
668	2024/1/9	テレビ(国内)	ANN NEWS	わずか1分 で到達の可能性…「車が流された」石川県能登町で津波被害 現地に「痕跡」も	今村文彦	その他

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
669	2024/1/9	テレビ (国内)	テレビ朝日	テレ朝 news : 能登地震“土地の隆起と活発な地震活動”原因は「海底の活断層」東北大教授が指摘	災害研、遠田晋次	報道・コメント掲載
670	2024/1/9	テレビ (国内)	東北放送 (他 1件)	日本海側震源の悪い特性「津波と強震動」のダブルパンチが起きた 能登半島地震で東北大学災害国際研究所の専門家が指摘	災害研、遠田晋次、今村文彦、栗山進一	その他
672	2024/1/9	テレビ (国内)	ミヤギテレビ (他 1件)	【古い建物と新しい建物で地震被害の明暗が分かれた】東北大学が「能登半島地震」現地調査の報告 古い木造住宅は「耐震補強が必要」と強調	災害研、栗山進一、柴山明寛	報道・コメント掲載
674	2024/1/9	テレビ (国内)	仙台放送	津波到達の瞬間…濁流に囲まれ「逃げ場なし」大津波警報直後に浸水か 日本海側の津波「到達早い」 石川・珠洲市	今村文彦	報道・コメント掲載
675	2024/1/9	テレビ (国内)	仙台放送	【能登半島地震】「東日本大震災で大変後悔」東北大災害研が報告会「感染症・メンタル面も長期的支援必要」	災害研、栗山進一	報道・コメント掲載
676	2024/1/9	テレビ (国内)	仙台放送	イト！：津波到達の瞬間…濁流に囲まれ「逃げ場なし」大津波警報直後に浸水か 日本海側の津波「到達早い」 石川・珠洲市	今村文彦	報道・コメント掲載
677	2024/1/9	テレビ (国内)	東日本放送	能登地震“土地の隆起と活発な地震活動”原因は「海底の活断層」東北大教授が指摘	災害研、遠田晋次	報道・コメント掲載
678	2024/1/9	テレビ (国内)	東日本放送	地震の規模は阪神・淡路大震災の9倍 東北大学の研究者が能登半島地震の報告会	災害研、遠田晋次、柴山明寛、ゲルスタユリア	報道・コメント掲載
679	2024/1/9	新聞 (全国紙)	産経新聞	国・県指定文化財 1500 件被災か 東北大准教授推計 さらに膨らむ可能性	蝦名裕一	報道・コメント掲載
680	2024/1/9	新聞 (全国紙)	産経新聞	輪島・珠洲への津波到達、地震から1分以内か 富山では海底地すべりに到達早まった可能性	今村文彦	報道・コメント掲載
681	2024/1/9	新聞 (全国紙)	毎日新聞 (他 1件)	山形の験潮場、津波データ得られず 原因究明と再発防止求める声	今村文彦	報道・コメント掲載
683	2024/1/9	新聞 (全国紙)	日本経済新聞	東北大災害研、能登半島地震で報告会「想定以上の規模」	災害研、栗山進一、遠田晋次、江川新一	報道・コメント掲載
684	2024/1/10	テレビ (国内)	テレビ朝日 (他 1件)	テレ朝 news: “災害弱者”を守るため…専門家「避難者全体でコミュニケーションを」	栗山進一	報道・コメント掲載
686	2024/1/10	ラジオ	Nらじ	地震について解説	遠田晋次	出演
687	2024/1/10	新聞 (全国紙)	朝日新聞	開口部大きな建築物倒壊 能登半島地震 東北大が緊急報告	災害研、遠田晋次、越村俊一、今村文彦、柴山明寛、江川新一	報道・コメント掲載
688	2024/1/10	新聞 (全国紙)	朝日新聞	能登半島の西岸、地震のリスク高まる 志賀町沖など、ひずみ蓄積か	遠田晋次	報道・コメント掲載
689	2024/1/10	新聞 (全国紙)	読売新聞	能登地震 倒壊 古い建物に集中 耐震化で被害軽減	柴山明寛	報道・コメント掲載
690	2024/1/10	新聞 (全国紙)	毎日新聞	能登半島地震：能登半島地震「鼠ヶ関験潮場」潮位測れず 年末故障、調査検附中	今村文彦	報道・コメント掲載
691	2024/1/10	新聞 (地方紙)	河北新報	隆起規模で津波被害に差 東北大災害研が調査報告会	災害研、越村俊一、今村文彦、柴山明寛、マズエリック	報道・コメント掲載
692	2024/1/10	新聞 (その他)	毎日小学生新聞	社会 能登半島地震 (その2 止) 近い震源、短時間で到達 日本海側の津波防災に課題	今村文彦	報道・コメント掲載
693	2024/1/11	テレビ (国内)	テレビ朝日	テレ朝 news : 【最新情報まとめ3】能登半島地震 死者 213 人うち8人が災害関連死 不明 37 人	遠田晋次	報道・コメント掲載
694	2024/1/11	テレビ (国内)	東日本放送	チャージ！：能登半島地震は住宅倒壊が相次ぐ 宮城県の耐震化率は	五十子幸樹	報道・コメント掲載
695	2024/1/11	新聞 (全国紙)	読売新聞	[スカヤナー] 津波被害 東岸に集中 能登地震 北岸は地盤隆起「防波堤」に	今村文彦	報道・コメント掲載
696	2024/1/11	新聞 (全国紙)	朝日新聞	「開口部大きい建物倒壊」「関連死防げ」能登半島地震で東北大報告	今村文彦	その他
697	2024/1/11	新聞 (その他)	建設通信新聞	東北大 海側活断層の評価必要 能登半島地震で速報会	今村文彦	その他
698	2024/1/11	新聞 (その他)	日刊工業新聞	南海トラフ地震、発生 1 週間以内の M8 級誘発率は最大 3600 倍 東北大など解析	福島洋	報道・コメント掲載
699	2024/1/11	新聞 (地方紙)	河北新報	志賀原発「想定外」相次ぐ	奥村誠	報道・コメント掲載
700	2024/1/11	新聞 (地方紙)	福島民友新聞	資料保存や補修…継承に壁 記憶・教訓、遺構の財源確保「困難」	災害研、柴山明寛	報道・コメント掲載
701	2024/1/11	新聞 (地方紙)	福島民友新聞	地震とソナエ 安全空間の確保に工夫	佐藤健	報道・コメント掲載
702	2024/1/11	雑誌・機関誌	AERA dot.	大地震の後に津波はいつ来るのか「揺れが収まったらすぐ避難」と専門家は強調	今村文彦	報道・コメント掲載
703	2024/1/11	ウェブ (その他)	Science Portal	能登半島地震被災地で高まる感染症や心の不調リスク 災害関連死の防止へ学会や大学が情報提供	災害研、江川新一、國井泰人	報道・コメント掲載
704	2024/1/12	テレビ (国内)	NHK	【能登半島地震を専門家が分析】なぜ湾に津波が集中？建物被害が大きい揺れの種類とは？見えてきた「脅威」【クロ現】	今村文彦	その他
705	2024/1/12	テレビ (国内)	東北放送	ウォッチン！みやぎ：能登半島地震	小野裕一	出演
706	2024/1/12	新聞 (全国紙)	朝日新聞	被災地の子どもへの接し方、心のケアは 教育情報まとめサイトを作成	齋藤玲	報道・コメント掲載
707	2024/1/12	新聞 (全国紙)	朝日新聞	高齢者・障害者らケアが必要な人どう救うのか 福祉避難所のあり方は	佐藤健	報道・コメント掲載
708	2024/1/12	新聞 (全国紙)	朝日新聞	能登の学校教育復旧支援、役立つ情報まとめサイト 東北大助教 / 宮城県	災害研、齋藤玲	報道・コメント掲載
709	2024/1/12	新聞 (全国紙)	毎日新聞	“富山湾で「謎の津波」1～2分で到達、海底地滑りか 東北大”	今村文彦	報道・コメント掲載
710	2024/1/12	新聞 (全国紙)	日本経済新聞	被害「当初想定以上の規模」東北大の災害研、仙台で報告会	栗山進一、遠田晋次、江川新一	報道・コメント掲載
711	2024/1/12	ウェブ (国内)	Current Awareness Portal 図書館に関する情報ポータル	東北大学災害科学国際研究所、令和 6 年能登半島地震に関する速報会の資料・録画を公開	災害研	報道・コメント掲載
712	2024/1/13	テレビ (国内)	テレビ朝日	タモリステーション：「揺れてすぐ」なぜ津波が来た？	今村文彦	出演
713	2024/1/13	テレビ (国内)	福島テレビ (他 1件)	専門家「能登半島地震は他人事ではない」直下型地震への備え 家の耐震に家具の転倒防止 対策済みで見直す時期に	今村文彦	報道・コメント掲載
715	2024/1/13	新聞 (全国紙)	日本経済新聞	能登地震、中学生 850 人を集団避難へ調整 校舎使えず	齋藤玲	報道・コメント掲載
716	2024/1/13	新聞 (全国紙)	産経新聞	雪の被災地、低温温症リスク 保温と兆候把握が重要「県外避難も選択肢」と専門家	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
717	2024/1/13	新聞 (全国紙)	河北新報	復興へ実情調へ課題解決/南相馬市と東北大が協定	今村文彦	報道・コメント掲載
718	2024/1/14	テレビ (国内)	NHK 富山	NEWS WEB：津波第一波 富山市に3分で到達 富山湾に隠れた津波の危険性	今村文彦	報道・コメント掲載
719	2024/1/14	テレビ (国内)	テレビ朝日	サンデーステーション：なぜ？長引く孤立状態「集落ごと避難」も	尾浦道生	報道・コメント掲載
720	2024/1/14	テレビ (国内)	TBS NEWS DIG	どんな地震でも震源地を地図上に×印で示すの、もうそろそろ見直しませんか？	遠田晋次	報道・コメント掲載
722	2024/1/14	テレビ (国内)	福島テレビ (他 1件)	直下型地震への備え 東北も危ない…警鐘鳴らす専門家 家具の転倒防止対策の見直しも	今村文彦	報道・コメント掲載
723	2024/1/14	新聞 (全国紙)	日本経済新聞	能登地震、中学生 850 人を集団避難へ調整 校舎使えず	齋藤玲	報道・コメント掲載
724	2024/1/14	新聞 (地方紙)	北国新聞	【日曜特番・大震災、文化財にも被害】地域の宝変わり果て 復旧は「心の復興」	蝦名裕一	報道・コメント掲載
725	2024/1/15	テレビ (国内)	NHk	「ニュースでれまさ 845」地震発生時に市外居住者が約1割 東北大研究グループ	マズエリック	報道・コメント掲載
726	2024/1/15	新聞 (全国紙)	産経新聞	見過ごされた海底活断層「F43」のリスク 同種地震の予測にも課題	遠田晋次	報道・コメント掲載
727	2024/1/15	新聞 (全国紙)	毎日新聞	能登半島地震 富山湾「謎の津波」海底地滑り原因か 東北大チーム発表	今村文彦	報道・コメント掲載
728	2024/1/15	新聞 (地方紙)	いわき民報	自主防災組織 来年度は独自訓練77% 研修会で方針決定、専門家と討論も	柴山明寛	報道・コメント掲載
729	2024/1/15	新聞 (その他)	建設通信新聞	土木学会東北 震災 13 年を機に防災シボ 災害対応人材育成を	奥村誠、今村文彦	その他



	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
730	2024/1/15	新聞 (地方紙)	河北新報ネイティブアド	東北大加齢研が60歳以上の実験参加者募集	杉浦元亮	その他
731	2024/1/16	新聞 (全国紙)	読売新聞	「助けて」SNS救助要請、虚偽情報の恐れも…「まずは119番」	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
732	2024/1/16	ウェブ (国内)	Science Portal (他2件)	能登半島地震の甚大な津波被害が明らかに 特徴的な海底地形など影響、東北大災害研が解析	越村俊一、今村文彦	報道・コメント掲載
735	2024/1/16	テレビ (国内)	読売テレビ (他2件)	研究者が口にする「超近距離津波」の難しさ “半島回り込んで浅瀬で高くなったが” 最大5.1mの津波「土地の隆起」や「周期の早い津波」が調査をさらに困難に	越村俊一	報道・コメント掲載
738	2024/1/16	新聞 (地方紙)	静岡新聞 (他1件)	【能登地震2週間】津波、発生1分で到達 日本海側、避難に難しさ	今村文彦	報道・コメント掲載
740	2024/1/17	テレビ (国内)	読売テレビ かんさい情報ネットten.	追求 阪神・淡路大震災29年「30年限界説」打ち破れる？	佐藤翔輔	出演
741	2024/1/17	テレビ (国内)	NHK 青森放送局	あつふるワイド：冬の津波避難 子どもとやってみた！	佐藤翔輔	出演
742	2024/1/17	ウェブ (国内)	NHK 首都圏 NEWSWEB	“災害発生想定しまちづくり進める”「事前復興」シンポジウム	今村文彦	報道・コメント掲載
743	2024/1/17	新聞 (全国紙)	朝日新聞	学者らが訴える「事前復興」13年前の教訓、能登半島地震で提案も	今村文彦	報道・コメント掲載
744	2024/1/17	新聞 (全国紙)	毎日新聞	能登半島地震 文化財5件で256件被害 全容把握難しく	蝦名裕一	報道・コメント掲載
745	2024/1/17	新聞 (全国紙)	毎日新聞	能登半島地震 文化財5 県で256 件被害 全容把握難しく	蝦名裕一	報道・コメント掲載
746	2024/1/17	新聞 (全国紙)	河北新報	海域活断層 評価後回し/陸域、海溝型に目 警戒薄く	遠田晋次	報道・コメント掲載
747	2024/1/17	新聞 (地方紙)	福島民友新聞	【1月17日付社説】能登地震・災害関連死/必要な支援届け弱者守ろう	栗山進一	報道・コメント掲載
748	2024/1/17	新聞 (地方紙)	福島民友新聞 (他1件)	短周期、建物被害大きく 東北大災害科学国際研究所・栗山所長	栗山進一	報道・コメント掲載
750	2024/1/18	テレビ (国内)	日本テレビ	「ZIP！」TOPNEWS 解説：能登半島地震能 学校再開・集団避難の子どもたちは？	齋藤玲	出演
751	2024/1/18	新聞 (全国紙)	朝日新聞	「災害が起きる前」にできることは「事前復興」考えるシンポ /東京都	今村文彦	その他
752	2024/1/18	新聞 (全国紙)	朝日新聞	集団避難へ1日早めた妹の誕生会残る中学生の対応「まだ決まっていない」	佐藤健	報道・コメント掲載
753	2024/1/18	テレビ (国内)	東北放送 (他1件)	「仮設住宅でものすごくアレルギーが増えた、特に子ども」 専門家が懸念する能登半島地震・避難者の健康問題 東日本大震災で実際起きたことは	栗山進一	報道・コメント掲載
755	2024/1/18	新聞 (全国紙)	産経新聞	能登半島地震直後に高台の人流1・5倍に 大津波警報で避難か、東北大がデータ解析	マス・コリック	報道・コメント掲載
756	2024/1/18	その他	大学プレスセンター (他1件)	「令和6年能登半島地震」に関する主な大学の対応について【全国版】(1月18日16:00更新)	災害研	その他
757	2024/1/19	テレビ (国内)	岩手放送 (他1件)	“スピード感が重要” 市町村長が有事の対応を学ぶ「防災・危機管理トップセミナー」 能登半島地震の被害状況も	柴山明寛	報道・コメント掲載
759	2024/1/19	テレビ (国内)	岩手めんこいテレビ	能登半島地震での課題 市町村長ら認識深める 県の危機管理トップセミナー<岩手県>	柴山明寛	報道・コメント掲載
760	2024/1/19	テレビ (国内)	仙台放送 (他3件)	南海トラフ地震・駿河湾・相模湾でも“わずかに1分”で 津波襲来の可能性 専門家「揺れたらすぐ逃げて」<宮城>	今村文彦	報道・コメント掲載
764	2024/1/19	新聞 (地方紙)	中日新聞	能登半島地震、津波到達まで1分か 南海トラフ地震で最短2分の静岡県「揺れを感じたら素早く避難を」	今村文彦	報道・コメント掲載
765	2024/1/20	新聞 (全国紙・地方版)	読売新聞	能登地震の教訓 防災に生かして 東北大准教授が訴え＝岩手	柴山明寛	報道・コメント掲載
766	2024/1/21	ラジオ	Date fm エフエム仙台	SUNDAY MORNING WAVE 防災 UPDATES!：関東大震災と仙台・宮城との関係について	川内淳史	出演
767	2024/1/21	新聞 (全国紙)	日本経済新聞	富山の津波、海底地滑りか 東北大教授ら解析	今村文彦	報道・コメント掲載
768	2024/1/21	雑誌・機関誌	現代ビジネス (他1件)	“たった数分でやってくる…日本人が意外と知らない、南海トラフ巨大地震「大津波の恐怖」”	今村文彦	その他
770	2024/1/22	新聞 (全国紙)	日本経済新聞	東北大教授ら解析、富山の津波、海底地滑りか、最初の観測「断層のずれ」より早く	今村文彦	報道・コメント掲載
771	2024/1/22	新聞 (地方紙)	読売新聞	被災地の教員らへ教育情報「まとめサイト」、東北大助教らが開設…子どもへの接し方や動画教材紹介	齋藤玲	報道・コメント掲載
772	2024/1/22	新聞 (全国紙)	The Asahi Shinbun SDGs ACTION	里山が持つ新たな価値創造とは？ 第1回「イオン SATOYAMA フォーラム」採録	今村文彦、新家杏奈	報道・コメント掲載
773	2024/1/22	新聞 (地方紙)	山形新聞	社説 能登半島地震、本県にも津波警報 安全神話は通用しない	今村文彦	報道・コメント掲載
774	2024/1/22	雑誌・機関誌	FRIDAY (他1件)	すでに千葉や神奈川で地震が続発…【緊急警鐘レポート】次は首都圏巨大地震か「想定死者は50万人」	遠田晋次	報道・コメント掲載
776	2024/1/22	ウェブ (国内)	ARAB NEWS	「日本を覆う次の大地震への恐怖と不安」	遠田晋次	報道・コメント掲載
777	2024/1/23	その他	文部科学省	令和6年能登半島地震に関する総合調査に対して、科学研究費助成事業（特別研究促進費）による追加助成を行います	災害研	その他
778	2024/1/23	その他	金沢大学	令和6年能登半島地震と災害に関する総合調査に対する 科学研究費助成事業（特別研究促進費）による追加助成	災害研	その他
779	2024/1/23	テレビ (国内)	東北放送	Nスタみやぎ：「耐震化していない古い住宅が多い」能登半島地震の現地調査をした専門家が指摘 耐震補強・メンテナンスの重要性も	柴山明寛	報道・コメント掲載
780	2024/1/23	テレビ (国内)	ミヤギテレビ	【全国の高校生が集結】防災について学ぶ2日間く教訓が“伝わる”には？>	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
781	2024/1/23	テレビ (国内)	仙台放送 (他1件)	「学びの保障が第一」課題となる子供の“学びの場”確保 被災地の教育情報特化のWEBサイト公開（宮城）	齋藤玲	報道・コメント掲載
783	2024/1/23	新聞 (全国紙)	朝日新聞	木造住宅の耐震化 地域差 能登3万棟超被害 基準は「震度6強～7でも倒壊しない」	災害研、柴山明寛	報道・コメント掲載
784	2024/1/23	新聞 (全国紙)	The Asahi Shinbun	90% of Noto quake fatalities caused by fallen buildings	災害研、柴山明寛	報道・コメント掲載
785	2024/1/23	新聞 (全国紙)	読売新聞	避難指示 解除前に帰宅 能登地震津波で3市町住民多数＝山形	今村文彦	報道・コメント掲載
786	2024/1/23	新聞 (地方紙)	北海道新聞	逃げ遅れ招く「認知バイアス」楽観論振り払って	邑本俊亮	報道・コメント掲載
787	2024/1/23	新聞 (地方紙)	山形新聞	津波警報、避難者の帰宅判断に苦慮 本県沿岸部自治体に緊急調査	今村文彦	報道・コメント掲載
788	2024/1/23	新聞 (地方紙)	三陸新聞	学校地域連携で伝承を 気仙沼市防災フォーラム	佐藤健	報道・コメント掲載
789	2024/1/24	テレビ (国内)	ミヤギテレビ	継ぐ高校生が“防災を考える”全国各地から多賀城に“伝わるように”伝える	佐藤翔輔	出演
790	2024/1/24	新聞 (全国紙)	毎日新聞	能登半島地震 傷ついたふるさとの歴史 5 県、全容把握難航	蝦名裕一	報道・コメント掲載
791	2024/1/25	テレビ (国内)	仙台放送 (他1件)	「このままだと…」ネットにあふれた“フェイクニュース”被災地の教育支える“まとめサイト”	齋藤玲	報道・コメント掲載
793	2024/1/25	新聞 (全国紙)	朝日新聞 (他2件)	「即時津波」「複合災害」への備えを 東北大の今村文彦教授に聞く	今村文彦	報道・コメント掲載
796	2024/1/25	新聞 (全国紙)	毎日新聞	能登半島地震：能登半島地震 傷ついたふるさとの歴史 石川・富山など全容把握困難	蝦名裕一	報道・コメント掲載
797	2024/1/25	新聞 (全国紙)	毎日新聞	能登半島地震の津波の原因か、富山湾海底で斜面崩壊の痕跡を確認	今村文彦	報道・コメント掲載
798	2024/1/25	新聞 (全国紙)	毎日新聞	「アーカイブ」どうする今後 防災意識向上へ活用進む	柴山明寛	報道・コメント掲載
799	2024/1/25	雑誌・機関誌	現代ビジネス	密集した建物の間を猛烈なスピードで迫ってくる…最新スポンが出した「恐怖の津波シミュレーション」の中心	今村文彦	その他
800	2024/1/25	新聞 (その他)	河北ウィークリー	東北大学加齢医学研究所 実験参加者(60歳以上) 募集!	杉浦元亮	その他
801	2024/1/26	その他	石巻市	日本遺産「みちのく GOLD 浪漫」シンポジウム2024「石巻、江戸時代の旅と道」開催のお知らせ	佐藤大介	その他
802	2024/1/26	テレビ (国内)	北日本放送	“KNB WEB：能登半島地震 富山市沖の富山湾で海底崩落か その痕跡は”	今村文彦	報道・コメント掲載

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
803	2024/1/27	テレビ (国内)	ケーブルテレビ富山	防災スイッチ ON! とやま「能登半島地震から1か月」	佐藤翔輔	出演
804	2024/1/27	テレビ (国内)	東日本放送 (他1件)	地震発生時の映像を独自検証 特徴的な“危険な揺れ方”「キラールバース」影響か	榎田竜太	報道・コメント掲載
806	2024/1/27	新聞 (全国紙)	朝日新聞	地震と津波「複合災害」の備え、課題に 東北大・今村教授に聞く 能登地震 / 秋田県	今村文彦	報道・コメント掲載
807	2024/1/27	ウェブ (国内)	朝日新聞	災害ボランティアに注意喚起「感染症持ち込みぬよ、マスクつけて」	児玉栄一	報道・コメント掲載
808	2024/1/27	ウェブ (国内)	朝日新聞	能登の被災地へ、一般ボランティアの派遣始まる「微力でも力に」	児玉栄一	報道・コメント掲載
809	2024/1/27	新聞 (全国紙)	朝日新聞	「微力でも被災地の力に」感染症持ち込み注意	児玉栄一	報道・コメント掲載
810	2024/1/27	その他	夕刊フジ	能登地震、物理量は阪神の「9倍」だった 活断層研究の第一人者に聞いた「3000年から4000年に一度の活断層地震」	遠田晋次	報道・コメント掲載
811	2024/1/27	新聞 (地方紙)	熊本日日新聞	「まだ安心できない」…熊本で大地震のリスクは？ 東北大災害科学国際研究所の遠田晋次教授に聞く【重なる課題 熊本・能登地震】	遠田晋次	報道・コメント掲載
812	2024/1/27	新聞 (地方紙)	石巻かまぐ	ともに語ろう 石巻市が「防災・震災伝承のついで」ライブ配信もあす	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
813	2024/1/28	新聞 (地方紙)	河北新報	いのちと地域を守る・災害伝承 理解深める 多賀城高で「震災メモリアル Day」全国の高校生参加 交流	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
814	2024/1/29	新聞 (全国紙)	NHK	能登半島地震 高岡市の海岸 津波の高さは約1.8メートルか	東北大学	報道・コメント掲載
815	2024/1/30	テレビ (国内)	熊本放送	夕方 LIVE ゲツキン! : 熊本県内で地震を1日に2回観測いずれも『熊本地震の活動域』日奈久断層帯は地震発生確率が「Sランク」今後の県内の地震活動について専門家に聞いた	遠田晋次	報道・コメント掲載
816	2024/1/30	新聞 (全国紙)	朝日新聞	「即時津波」1分後到達 能登半島地震、教訓は 東北大・今村教授に聞く / 福島県	今村文彦	報道・コメント掲載
817	2024/1/30	新聞 (地方紙)	河北新報	石巻市復興・防災マップコンクール 市長賞に万石浦小 危険場所など工夫し作成	災害研	その他
818	2024/1/30	新聞 (地方紙)	石巻日日新聞	「防災意識は日常的に」石巻・震災伝承のついで 討論や展示で啓発	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
819	2024/1/30	新聞 (国際)	Japan Times	No one left behind: Japan needs to work on its multicultural disaster response	ゲルスタ ユリア	執筆
820	2024/1/31	テレビ (国内)	テレビ朝日	報道ステーション:「新たな地震つながる危険性」断層運動の揺れ…50秒のドラレコ映像を検証	遠田晋次	報道・コメント掲載
821	2024/1/31	テレビ (国内)	東日本放送	宮城県でも危険性が指摘される活断層型の地震 災害への備え	遠田晋次	報道・コメント掲載
822	2024/1/31	テレビ (国内)	福島テレビ	大きく揺れても命だけは守れる そんな地域を目指す	今村文彦	出演
823	2024/2/1	テレビ (国内)	テレビ朝日	“ワイド!スクランブル: 能登半島地震から1か月、いまの状況と残された課題について”	栗山進一	出演
824	2024/2/1	テレビ (国内)	NHK 青森放送局	あつぷるワイド: 能登半島地震1ヶ月 青森県日本海側の津波対策	佐藤翔輔	出演
825	2024/2/1	テレビ (国内)	NHK 青森放送局	あつぷるワイド: 津波からの避難 考える場合の注意点は?	佐藤翔輔	出演
826	2024/2/1	テレビ (国内)	石川テレビ	日本海側で初の“大津波警報”経験者の証言から浮かぶ「身を守る唯一の方法」 能登半島地震1カ月	今村文彦	報道・コメント掲載
827	2024/2/1	テレビ (国内)	ミヤギテレビ	ミヤギ news every.: 追悼 約1万5000人が避難生活 能登半島地震1カ月 犠牲者240人	柴山明寛	報道・コメント掲載
828	2024/2/1	テレビ (国内)	ミヤギテレビ (他1件)	【能登半島地震】亡くなった方の多くの原因は「建物の倒壊」 東北大学の専門家 現地の「建物倒壊」を分析 (宮城)	柴山明寛	報道・コメント掲載
830	2024/2/1	ラジオ	NHK 大阪放送局	関西ラジオワイド: 防災コラム「能登半島地震を受けて SNS の課題・注意点」	佐藤翔輔	出演
831	2024/2/1	新聞 (全国紙)	産経新聞	能登沖、複数の海底活断層が運動か 能登地震1カ月	今村文彦	報道・コメント掲載
832	2024/2/1	新聞 (地方紙)	河北新報	震災の経験10分生かされず	栗山進一	報道・コメント掲載
833	2024/2/1	その他	みやぎシルバーネット/キョウエイアド	実験参加者(60歳以上)募集メールリストへ参加しませんか?	杉浦元亮	その他
834	2024/2/2	新聞 (全国紙)	読売新聞	津波警報避難で大渋滞「原則徒歩」周知間に合わず	今村文彦	報道・コメント掲載
835	2024/2/2	テレビ (国内)	テレビ朝日 (他1件)	【報ステ】「第2波が大きかった」なぜ? “南部・東部”被害拡大…能登半島襲った津波	越村俊一	報道・コメント掲載
836	2024/2/2	テレビ (国内)	名古屋テレビ放送 (メーテレ)	【報ステ】「第2波が大きかった」なぜ? “南部・東部”被害拡大…能登半島襲った津波	越村俊一	報道・コメント掲載
837	2024/2/2	テレビ (国内)	東日本放送	チャージ!: 災害時はSNSによるデマ情報の拡散に注意 テレビやラジオの報道で情報収集を 専門家	佐藤翔輔	出演
838	2024/2/2	テレビ (国内)	東日本放送	チャージ!: 石巻に防災倉庫設置 重機を配備	佐藤翔輔	出演
839	2024/2/2	テレビ (国内)	東日本放送	チャージ!: タクシー協議会 台数状況報告 ライドシェアは	佐藤翔輔	出演
840	2024/2/2	テレビ (国内)	東日本放送	チャージ!: 置賜地方の伝承食「みそ餅」	佐藤翔輔	出演
841	2024/2/2	テレビ (国内)	東日本放送	チャージ!: 暖冬で雪不足 雪合戦の雪を搬入	佐藤翔輔	出演
842	2024/2/2	テレビ (国内)	東日本放送	チャージ!: あす節分、小学校で出張豆まき	佐藤翔輔	出演
843	2024/2/3	新聞 (地方紙)	河北新報	防災の取組 市民共有 気仙沼でフォーラム「企業や学生実践例紹介」	佐藤健	報道・コメント掲載
844	2024/2/4	ラジオ	Date fm エフエム仙台	SUNDAY MORNING WAVE 防災 UPDATES! : 令和6年能登半島地震の被害調査に關して	榎田竜太	出演
845	2024/2/4	新聞 (地方紙)	河北新報	「2000年以前の家は耐震診断を」宮城・岩沼で防災講演会 東北大災研・栗山所長が呼びかけ	栗山進一	報道・コメント掲載
846	2024/2/5	テレビ (国内)	青森放送	政府地震本部が八戸市で講演会 能登半島地震の現状と太平洋側の巨大地震・津波への備えを説明	今村文彦	出演
847	2024/2/5	テレビ (国内)	NHK 青森	NEWS WEB: 県内の地震や津波のリスクを考える 専門家などの講演会 八戸	今村文彦	報道・コメント掲載
848	2024/2/5	テレビ (国内)	NHK	“地震津波 波状化重なり被害拡大か” 珠洲市沿岸 専門家調査	今村文彦	報道・コメント掲載
849	2024/2/5	新聞 (全国紙)	朝日新聞	迅速避難、警報解除まで戻らない 地震・津波への備え、研究者講演 / 青森県	今村文彦	報道・コメント掲載
850	2024/2/5	新聞 (全国紙)	朝日新聞	能登地震、文化財も大きな被害 地域の象徴は「復興の道しるべ」に	蝦名裕一	報道・コメント掲載
851	2024/2/5	新聞 (地方紙)	東奥日報	「日頃の備えを」能登半島地震や東日本大震災の教訓訴え 地震本部が講演会 青森・八戸市	今村文彦	報道・コメント掲載
852	2024/2/6	テレビ (国内)	NHK 宮城	東北大学の教員など 能登半島地震で学習支援などサイト開設	齋藤玲	報道・コメント掲載
853	2024/2/6	テレビ (国内)	NHK 石川	東北大教員のグループ 心のケアや学習支援のサイト開設	齋藤玲	報道・コメント掲載
854	2024/2/6	新聞 (全国紙)	毎日新聞	日本海、難しい津波対応 救命・救援方法 議論を 今村文彦・東北大教授 / 岩手	今村文彦	報道・コメント掲載
855	2024/2/6	新聞 (全国紙)	日本経済新聞 (他1件)	東北大・九大・イオン・イオンモール・福島県いわき市、生成 AI と実空間メタバースによるデジタル避難訓練と実証実験を実施	災害研	その他
856	2024/2/6	新聞 (その他)	共同通信	土木学会「二次災害発生防止を」今後の余震や積雪、斜面崩壊懸念	今村文彦	その他
857	2024/2/6	ウェブ (国内)	PR TIMES (他1件)	県内語り部プロジェクト特別企画トークセッション 2/10 開催「今日からできる危機管理」	災害研	その他
859	2024/2/6	ウェブ (国内)	loTNEWS	イオン・東北大学・九州大学他、生成 AI とメタバース活用したデジタル避難訓練を実施	災害研	その他
860	2024/2/6	ウェブ (国内)	流通スーパーニュース	生成 AI・実空間メタバースを使ったデジタル避難訓練 3/3 実施	災害研	その他
861	2024/2/6	ウェブ (国内)	流通ニュース	イオンモールいわき小名浜/デジタル技術活用した津波避難訓練 3月実施	災害研	その他
862	2024/2/6	ウェブ (国内)	流通ニュース	イオンモール / 2025 年秋「(仮称) イオンモール仙台雨宮」オープン	災害研	その他
863	2024/2/6	ウェブ (国内)	リテラルガイド	イオンモールいわき小名浜にて生成 AI と実空間メタバースによるデジタル避難訓練と実証実験を実施	災害研	その他

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
864	2024/2/7	テレビ (国内)	NHK WORLD-JAPAN	Website to help children affected by disaster	齋藤 玲	報道・コメント掲載
865	2024/2/7	テレビ (国内)	NHK 宮城	NEWS WEB：土木学会調査団 東北大の今村教授「複合災害への対策を」	今村文彦	報道・コメント掲載
866	2024/2/7	テレビ (国内)	北陸朝日放送	土木学会調査団が会見「幹線道路の復旧でアクセス改善を」	今村文彦	報道・コメント掲載
867	2024/2/7	新聞 (地方紙)	岩手日報	伝承シンポジウム初の試み、震災当時の教員と児童が伝えあう	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
868	2024/2/7	新聞 (全国紙)	毎日新聞	スマホがざせば逃げ道が見える メタバース活用、津波避難訓練	東北大学	その他
869	2024/2/7	新聞 (全国紙)	日本経済新聞	イオンモール、仙台に最大規模の商業施設 25 年開店めざす	災害研	その他
870	2024/2/7	新聞 (地方紙)	河北新報	東北大雨宮キャンパス跡のイオンモール、25 年秋開業を正式発表 地域の防災拠点構想も	災害研	その他
871	2024/2/7	新聞 (地方紙)	いわき民報	全国初 3月に小名浜でデジタル防災技術検証の避難訓練 ARで誘導など	災害研	報道・コメント掲載
872	2024/2/7	新聞 (地方紙)	福島民報	最新技術で命守れ	災害研	報道・コメント掲載
873	2024/2/7	新聞 (地方紙)	福島民友新聞 (他2件)	災害時、ARで避難誘導 いわきで実証へ、スマホ画面に矢印表示	災害研	その他
876	2024/2/7	新聞 (その他)	日刊工業新聞 News ウェブ 21	東北大・九大・イオン・イオン・いわき市など、モールでデジタル避難訓練	災害研	その他
877	2024/2/8	テレビ (国内)	NHK	ニュースウォッチ9：地域の「文化復活の動き」文化残ると人集う”	蝦名裕一	報道・コメント掲載
878	2024/2/8	テレビ (国内)	仙台放送 (他1件)	【能登半島地震】多々確認された“液状化”による被害 全国どこでも起きる可能性も(宮城)	森口周二	その他
880	2024/2/8	テレビ (国内)	仙台放送	中心部最大規模の商業施設に！ 東北大学農学部跡地に整備「イオンモール」来年秋開業へ(仙台市)	災害研	その他
881	2024/2/8	テレビ (国内)	東日本放送	東北大学農学部跡地のイオンモール仙台雨宮 2025年秋に開店へ	災害研	その他
882	2024/2/8	新聞 (全国紙)	毎日新聞	『発言』被災文化遺産、連携して救済を=蝦名裕一・東北大学災害科学国際研究所准教授	蝦名裕一	執筆
883	2024/2/8	新聞 (全国紙)	日本経済新聞	イオンモール、仙台市中心部に大規模商業施設	災害研	その他
884	2024/2/8	新聞 (地方紙)	岩手日報	東日本大震災伝承施設・団体の来訪者推移 2023 年速報の公開	佐藤翔輔	資料提供
885	2024/2/8	新聞 (その他)	建設工業新聞	能登半島地震/土木学会調査団、幹線道路のもろさ浮き彫り・盛り土区間耐震強化を	今村文彦	報道・コメント掲載
886	2024/2/8	ウェブ (国内)	BCN+R	(仮称) イオンモール仙台雨宮」、2025 年秋開業へ	災害研	その他
887	2024/2/8	ウェブ (国内)	Impress Watch	「イオンモール仙台雨宮」25 年秋オープン 東北大学跡地	災害研	その他
888	2024/2/9	新聞 (国際)	Nikkei Asia	Elon Musk’s Starlink aids Japan quake relief, but X is a mixed bag Reliance on private companies to provide disaster services raises concerns	岩月勝美	報道・コメント掲載
889	2024/2/9	新聞 (全国紙)	朝日新聞	(検証 能登半島地震) 即避難、生きた備え 高台への最短路、松葉杖つき100段	今村文彦	報道・コメント掲載
890	2024/2/9	テレビ (国内)	NHK 福島	いわき市が最新デジタル技術活用し津波避難訓練実施へ 全国初	災害研	報道・コメント掲載
891	2024/2/10	新聞 (全国紙)	読売新聞	東北大跡地にイオン 最大規模、25年秋開業へ=宮城	災害研	その他
892	2024/2/11	新聞 (地方紙)	福島民友新聞	地震とソナエ 緊急地震速報の活用	佐藤健	報道・コメント掲載
893	2024/2/13	テレビ (国内)	熊本放送 (他4件)	地震後すぐやってくる津波の危険性 内海に面する『日奈久断層帯』でも“数分以内”で到達の可能性を専門家は指摘 原因は「断層の縦ずれ」だけではない？	遠田晋次	報道・コメント掲載
898	2024/2/14	新聞 (全国紙)	朝日新聞	地震+津波「複合災害」への備え、課題 東北大・今村文彦教授に聞く 能登地震/茨城県	今村文彦	報道・コメント掲載
899	2024/2/14	雑誌・機関誌	東洋経済 (他2件)	早急に海底活断層評価を、地震学の専門家が警鐘 能登半島地震で、政府の対策の遅れが露呈	遠田晋次	報道・コメント掲載
902	2024/2/14	ウェブ (国内)	日経 MJ (流通新聞)	イオンモール、仙台市中心部に大規模商業施設	災害研	その他
903	2024/2/15	テレビ (国内)	仙台放送 (他1件)	全国どこでも“液状化”発生恐れ 能登半島地震で多くの被害「自分事」として認識を	森口周二	出演
905	2024/2/15	新聞 (地方紙)	河北新報	東北大病院、医療データ活用センターを新設 匿名加工で8万人同意	藤井進	その他
906	2024/2/15	新聞 (地方紙)	河北新報	組織の防災、役割を再認識 石巻でトークセッション 県内語り部プロジェクト	災害研	報道・コメント掲載
907	2024/2/15	雑誌・機関誌	Wedge ONLINE	珠洲市は75%超え！高齢者のみの世帯をどう救うか、能登半島地震への支援とこれからの災害リスクへ高齢化率だけではない視点	吉田浩	報道・コメント掲載
908	2024/2/15	ウェブ (国内)	Dream News	「災害大国日本における有事に備えた地下シェルターに求められる性能・仕様の在り方検討ワーキンググループ」立上げ	今村文彦	報道・コメント掲載
909	2024/2/16	新聞 (国際)	The Japan Times	Quake-induced liquefaction hampers Noto reconstruction	今村文彦	報道・コメント掲載
910	2024/2/16	ウェブ (国際)	THE WATCHERS	Widespread liquefaction hampers reconstruction after M7.6 earthquake in Ishikawa, Japan	今村文彦	報道・コメント掲載
911	2024/2/16	新聞 (全国紙)	朝日新聞 (他1件)	「人の復興」ベースに能登再建を 東北から伝える教訓 姥浦・東北大教授に聞く/宮城県	姥浦道生	報道・コメント掲載
913	2024/2/16	新聞 (全国紙)	朝日新聞	「地震を夢に見る」痛みに寄り添う 能登 被災者に心のケア	國井泰人	報道・コメント掲載
914	2024/2/17	新聞 (全国紙)	日本経済新聞	能登地震、文化財 300 超被災	蝦名裕一	報道・コメント掲載
915	2024/2/18	ラジオ	Date fm エフエム仙台	SUNDAY MORNING WAVE 防災 UPDATES!：免震構造物や最新の耐震技術に関して	榎田竜太	出演
916	2024/2/18	新聞 (全国紙)	朝日新聞	複雑な海底地形、繰り返した津波 能登半島地震で何が起きたか	今村文彦	報道・コメント掲載
917	2024/2/19	新聞 (全国紙)	朝日新聞	仙台・雨宮のイオンモール 25 年秋開業 東北大農学部跡	災害研	その他
918	2024/2/19	新聞 (全国紙)	日本経済新聞	直談 専門家に問う 高リスク集団、手厚く配慮 災害関連死どう防ぐ	國井泰人	報道・コメント掲載
919	2024/2/19	新聞 (全国紙・地方版)	日本経済新聞	東北大、医療データ活用推進センターを設置	藤井進	その他
920	2024/2/19	新聞 (地方紙)	河北新報	伝えたい 3.11 の教訓 能登地震 古文書救出 連携し促進	川内淳史	報道・コメント掲載
921	2024/2/19	新聞 (地方紙)	河北新報	地方紙若手記者 仙台でむすび塾 防災報道の課題 議論	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
922	2024/2/19	新聞 (地方紙)	神奈川新聞	つなぐ 3.11 から 災害「自分ごと」に 地方紙若手記者 報道の課題共有 宮城・むすび塾	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
923	2024/2/19	新聞 (地方紙)	新潟日報	防災報道在り方模索 若手記者ら意見交換 仙台で東日本大震災「むすび塾」	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
924	2024/2/19	新聞 (地方紙)	静岡新聞	311 メディアネット いのちと地域を守る 2024 = 防災報道の課題 若手記者議論 教訓「読者 自分事に」 仙台 11 社参加	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
925	2024/2/20	テレビ (国内)	NHK 青森	雪の津波避難 子どもと試しにやってみた	佐藤翔輔	出演
926	2024/2/20	新聞 (全国紙)	日本経済新聞	災害時の精神不調、リスク高い人にケア 東北大准教授	國井泰人	報道・コメント掲載
927	2024/2/20	ウェブ (国内)	日経 XTECH	津波増幅で海岸・港湾施設が被災、浅い海底が繰り返す後続波の要因に	今村文彦、越村俊一、アドリアノ ブルーノ	報道・コメント掲載
928	2024/2/20	新聞 (地方紙)	河北新報	日本海活断層 早期公表/政府地震本部/能登沖評価遅れで	日野亮太	報道・コメント掲載
929	2024/2/20	ウェブ (国内)	smiley	イオン、いわき市でメタバースと生成 AI を活用した津波避難訓練を実施	災害研	その他
930	2024/2/21	テレビ (国内)	東北放送	「津波がどう伝わったのか、経験を世界にシェアしていくのが重要」東北大教授らが能登半島地震・津波発生メカニズムなど海外の研究者に報告	越村俊一	報道・コメント掲載
931	2024/2/21	新聞 (全国紙)	朝日新聞	被災地の病院支援、実態は DMATがおむつ交換・食事介助 能登地震	佐々木宏之	報道・コメント掲載
932	2024/2/21	新聞 (地方紙)	東京新聞	<考える広場>震災 いま悔やまれることは？	遠田晋次	報道・コメント掲載
933	2024/2/22	新聞 (地方紙)	あなたの静岡新聞	難しい日本海の津波対応 東北大教授/今村文彦さん【能登地震 研究者や経験者被災地へメッセージ】	今村文彦	報道・コメント掲載

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
934	2024/2/22	ウェブ (国内)	PR TIMES (他1件)	【3/12(火)開催】仙台 BOSAI-TECH カンファレンス 2024 (オンライン)	今村文彦	その他
936	2024/2/23	雑誌・機関誌	現代ビジネス (他1件)	能登半島地震を引き起こした「張本人」…なんと「活断層マップ」に載っていた	遠田晋次	報道・コメント掲載
938	2024/2/23	新聞 (地方紙)	東海新報	発災から10年間の歩み発信 東日本大震災津波伝承館 常設展示ゾーン3を更新	柴山明寛	報道・コメント掲載
939	2024/2/25	新聞 (地方紙)	河北新報	宮城歴史資料保全ネットワーク20周年記念 仙台でシンポ 古文書保全活動の課題や展望報告	蝦名裕一、佐藤大介	報道・コメント掲載
940	2024/2/25	新聞 (地方紙)	中日新聞	文化財救済 遠隔で支援 能登被災 東北大研が推定マップ	蝦名裕一	報道・コメント掲載
941	2024/2/26	新聞 (地方紙)	河北新報	since2011 東日本大震災13年 家族とよく話す児童が高い正答率 学校で伝承施設を訪れた児童3割	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
942	2024/2/26	新聞 (地方紙)	河北新報	since2011 東日本大震災13年 2011年3月11日 小6生17.7% 発生日知らず 宮城で調査「伝承重要」専門家指摘	佐藤翔輔	企画協力
943	2024/2/26	新聞 (その他)	日刊工業新聞	主張/災害対応、先端技術で高度化 東北大学教授、タフ・サイバーフィジカル AI 研究センター長 田所論	田所論	報道・コメント掲載
944	2024/2/27	新聞 (地方紙)	河北新報	津波避難 教職員考える 互理・荒浜小防災研修会「少しでも高さ稼ぐ/保護者と合意図る」	佐藤健	報道・コメント掲載
945	2024/2/29	テレビ (国内)	NHK	ニュースウォッチ9: SNSの偽情報を防ぐには	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
946	2024/2/28	テレビ (国内)	静岡放送	「発生した状況が参考になる」南海トラフ地震と多くの類似点 能登半島地震の津波“3つの特徴”【わたしの防災】	今村文彦	報道・コメント掲載
947	2024/2/28	新聞 (地方紙)	静岡新聞 (他1件)	「発生した状況が参考になる」南海トラフ地震と多くの類似点 能登半島地震の津波“3つの特徴”【わたしの防災】	今村文彦	報道・コメント掲載
949	2024/2/29	新聞 (全国紙)	日本経済新聞	東北大学、日本証券業協会と東京でSDGs シンポ	今村文彦	その他
950	2024/2/29	テレビ (国内)	NHK	イオンモール 大規模商業施設を仙台市中心部に来年秋開業へ	災害研	その他
951	2024/2/29	新聞 (全国紙)	日本経済新聞	東北大学、日本証券業協会と東京でSDGs シンポ	今村文彦	報道・コメント掲載
952	2024/2/29	ウェブ (国内)	ABEMA	ABEMA Prime: 能登どこまで元通りに? 東日本大震災から学ぶ	姥浦道生	報道・コメント掲載
953	2024/3/00	雑誌・機関誌	TikTok 公共政策ジャーナル	特集 気候変動への取り組み	小野裕一	報道・コメント掲載
954	2024/3/1	テレビ (国際)	NHK NHK WORLD-JAPAN	Noto gets helping hand from 2011 earthquake towns	齋藤玲	出演
955	2024/3/1	ウェブ (国内)	value press	【東北大学×日本証券業協会シンポジウム】地域災害レジリエンスの最大化に向けた「知」と金融の役割	今村文彦、佐々木大輔	その他
956	2024/3/2	新聞 (その他)	時事通信	震災の記憶 語り継ぎ模索＝担い手確保へ育成講座もー「世代に応じ、アレンジ必要」	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
957	2024/3/2	新聞 (地方紙)	河北新報	患者データ 医療研究活用/東北大病院 センター新設/匿名加工、8万人同意	藤井進	報道・コメント掲載
958	2024/3/3	ラジオ	Date fm エフエム仙台	SUNDAY MORNING WAVE 防災 UPDATES! : 能登半島地震による地形変化	福島洋	出演
959	2024/3/3	新聞 (全国紙)	毎日新聞 (他2件)	竹下景子さん、被災者の体験談を朗読 奇跡のピアノと共演 福島	災害研	報道・コメント掲載
962	2024/3/3	新聞 (地方紙)	河北新報	みちのくGOLD浪漫 金華山、地域資源に 石巻でシンポ 黄金伝説の虚実探る	佐藤大介	報道・コメント掲載
963	2024/3/3	新聞 (地方紙)	河北新報	日本・千島海溝地震 108市町村調査/津波避難訓練 冬は半数/全季節では95%	今村文彦	報道・コメント掲載
964	2024/3/3	新聞 (地方紙)	福島民報 (いわき版)	竹下景子さん朗読 震災継承イベント いわき短大生 防災紙芝居披露	栗山進一	報道・コメント掲載
965	2024/3/3	新聞 (地方紙)	福島民報 (全県版)	被災者証言を朗読 いわきで竹下景子さん	災害研、柴山明寛	報道・コメント掲載
966	2024/3/3	新聞 (地方紙)	北海道新聞	311メディアネット いのちと地域を守る2024 東日本大震災13年 地道な報道 災害に備える	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
967	2024/3/3	新聞 (地方紙)	三陸新聞	気仙沼伝承館でメモリアル防災イベント	災害研	その他
968	2024/3/4	新聞 (全国紙)	読売新聞	能登地震 想定避難路 通れず 津波襲来の珠洲	今村文彦	報道・コメント掲載
969	2024/3/4	新聞 (地方紙)	河北新報	AR技術を避難に活用/いわき・小名浜/危険箇所 即座に把握	災害研	報道・コメント掲載
970	2024/3/4	新聞 (地方紙)	河北新報	9日に仙台防災未来フォーラム 過去最多139団体が出席、企画<東日本大震災13年>	災害研	その他
971	2024/3/4	新聞 (地方紙)	福島民友新聞	いわきでAR避難訓練 全国初の実証実験、スマホに最適経路指示	災害研	報道・コメント掲載
972	2024/3/5	テレビ (国内)	仙台放送 (他2件)	震災13年 能登につながった教訓と解決されなかった課題 津波研究者が振り返る3.11	今村文彦	出演
975	2024/3/5	新聞 (地方紙)	河北新報	「杜の都」は「守の都」～仙台の魅力を楽しみながら「防災」を学ぶ～	栗山進一、今村文彦、木戸元之、ゲルスタユリア、中鉢奈津子	企画協力
976	2024/3/6	新聞 (地方紙)	河北新報	あの夜の不安 共有/気仙沼 震災遺構・伝承館/10日・屋上避難 疑似体験	災害研	報道・コメント掲載
977	2024/3/6	新聞 (地方紙)	読売新聞 (他2件)	徒歩が原則の津波避難、車利用が現実的な選択肢に…渋滞で車を乗り捨てた男性「危ない選択だった」	奥村誠	報道・コメント掲載
980	2024/3/7	テレビ (国内)	NHK	在宅避難者の医療支援	江川新一	報道・コメント掲載
981	2024/3/7	テレビ (国内)	NHK 仙台放送局	てれまさ: 震災13年“災害エスノグラフィー”自治体職員たちの3.11	佐藤翔輔	出演
982	2024/3/7	テレビ (国内)	テレビ岩手	あの日から13年 車での避難を考える	佐藤翔輔	出演
983	2024/3/7	新聞 (全国紙)	朝日新聞	(耕論) 能登半島地震から 過疎地の復興 湿美公秀さん、飯田泰之さん、井内加奈子さん	井内加奈子	報道・コメント掲載
984	2024/3/7	新聞 (全国紙)	読売新聞	[教育ルネサンス] 震災の教訓 能登から (3) 集団避難 学習継続の意義	佐藤健	報道・コメント掲載
985	2024/3/8	新聞 (その他)	日刊建設工業新聞	能登半島地震-識者に聞く/東北大学災害科学国際研究所教授・今村文彦氏	今村文彦	報道・コメント掲載
986	2024/3/8	新聞 (地方紙)	河北新報	復興の姿 喜びと悲しみ/五百旗頭さん 震災10年で同行取材/阪神が原点 青写真を示す/被災地首長ら功績しのぶ	今村文彦	その他
987	2024/3/8	新聞 (地方紙)	河北新報	支え合いの重要性強調 石巻・津波伝承館で講話「みやぎ復興の知恵」参加者と学び共有	災害研	報道・コメント掲載
988	2024/3/8	新聞 (地方紙)	いわき民報	<震災13年>岐路に立つデジタルアーカイブ 東北大・柴山氏に聞く	柴山明寛	報道・コメント掲載
989	2024/3/8	新聞 (地方紙)	神戸新聞	311メディアネット いのちと地域を守る2024 災害への備え どう伝える 防災ワークショップ「むすび塾」	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
990	2024/3/8	新聞 (その他)	時事通信	「被災者支援と備えが使命」発信不足、能登地震で認識 栗山進一・東北大災害研 研 所 長	栗山進一	報道・コメント掲載
991	2024/3/9	テレビ (国内)	NHK	地震発生後の医療支援 在宅避難者は避難所に比べ1週間ほど遅く	江川新一	報道・コメント掲載
992	2024/3/9	テレビ (国内)	NHK	震災の教訓を次の世代へ 最新の防災機器や取り組み紹介 仙台	災害研、栗山進一	報道・コメント掲載
993	2024/3/9	テレビ (国内)	仙台放送 (他2件)	来年の世界防災フォーラム「気候変動」テーマに開催へ 災害激甚化を防ぐ(宮城)	小野裕一	報道・コメント掲載
996	2024/3/9	テレビ (国内)	BS-TBS	「あれから10年 これから10年」File.128 福島県いわき市	新家杏奈	出演
997	2024/3/9	新聞 (全国紙)	毎日新聞	災害時、我が子の命は「医療的ケア」が突きつける現実と矛盾	栗山進一	報道・コメント掲載
998	2024/3/9	新聞 (全国紙)	日本経済新聞	“能登避難、3.11より早く 大津波警報前に初動8割 移動弱者なお課題(チャートは語る)”	今村文彦	報道・コメント掲載
999	2024/3/9	新聞 (地方紙)	河北新報	今できる備え、139団体が紹介 仙台で防災未来フォーラム 小型電動車で避難、カードゲーム	災害研、齋藤玲	報道・コメント掲載
1000	2024/3/9	新聞 (その他)	石巻かほく	能登地震 学ぶ 生かす/東日本大震災13年/ (2) 津波/直後に襲来 訓練生きる	今村文彦	報道・コメント掲載

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
1001	2024/3/9	その他	JICA	東北から世界へ！世界の多様な防災意識・コミュニティ防災を学び合う 一次世代を交えてー	泉貴子	その他
1002	2024/3/10	テレビ (国内)	NHK	明日をまわるナビ サンドウィッチマンと考える東日本大震災から13年	佐藤翔輔	出演
1003	2024/3/10	テレビ (国内)	NHK	NHKスペシャル 語れなかったあの日 自治体職員たちの3.11	佐藤翔輔	出演
1004	2024/3/10	テレビ (国内)	東北放送	東日本大震災13年プロジェクト つなぐ、つながる「被害情報をもっと早く・・・」津波浸水地域を素早く予測	越村俊一	報道・コメント掲載
1005	2024/3/10	テレビ (国内)	東北放送	東北大学などによる研究 AI津波浸水予測を学ぶシンポジウム	越村俊一	報道・コメント掲載
1006	2024/3/10	新聞 (全国紙)	日本経済新聞	津波予測なお難しく 目立つ「到達後」の警報や注意報	今村文彦	報道・コメント掲載
1007	2024/3/10	新聞 (全国紙)	毎日新聞	「このままでは続けられない」震災の記憶伝える語り部、資金難と高齢化に危機感 それでも伝えたい現状	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
1008	2024/3/10	新聞 (全国紙)	読売新聞	津波浸水域など先端技術で予測 仙台で防災フォーラム＝宮城	越村俊一	報道・コメント掲載
1009	2024/3/10	新聞 (地方紙)	河北新報	仙台・世界防災フォーラム/来年3月の開催発表	小野裕一、栗山進一	報道・コメント掲載
1010	2024/3/10	新聞 (地方紙)	河北新報	能登復興に東北の知恵/仙台で防災未来フォーラム/139団体参加	災害研、姥浦道生	報道・コメント掲載
1011	2024/3/10	新聞 (地方紙)	福島民友新聞	【社説】震災13年・伝える意義/次世代と課題考える契機に	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
1012	2024/3/10	新聞 (地方紙)	愛媛新聞	[東日本大震災13年]語り部 継続「不安」96% 高齢化・資金難で苦境 民間調査 若手育成の動きも	佐藤翔輔	資料提供
1013	2024/3/10	新聞 (地方紙)	新潟日報	能登半島地震 津波避難の車 バイパス上に混雑で逃げ遅れ懸念	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
1014	2024/3/10	その他	UNDP 駐日代表事務所	東日本大震災の教訓を生かし続けるアジア太平洋の国々：その現状	小野裕一	報道・コメント掲載
1015	2024/3/11	テレビ (国内)	NHK	ニュース7：東日本大震災13年 普及進む SNS 活かすには 拡散力の“光と影”	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
1016	2024/3/11	テレビ (国内)	NHK	東日本大震災で注目 ツイッターの救助要請しかしXでは…	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
1017	2024/3/11	テレビ (国内)	Fジテレビ	東日本大震災から13年「震度7“犠牲者ゼロ”の街」	五十子幸樹	報道・コメント掲載
1018	2024/3/11	テレビ (国内)	東北放送	Nスタみやぎスペシャル：東日本大震災13年の現在地	栗山進一	出演
1019	2024/3/11	テレビ (国内)	東北放送	東日本大震災特別番組	菅原大助	報道・コメント掲載
1020	2024/3/11	テレビ (国内)	東日本放送	あすにつなげる一命を守る先端技術	災害研、村尾修	出演
1021	2024/3/11	テレビ (国内)	ミヤギテレビ	令和6年能登半島地震発生時の珠洲市における人流解析について	永田彰平	出演
1022	2024/3/11	ラジオ	ラジオ石巻	特別番組「東日本大震災から13年～記憶を繋ぐ～」	佐藤翔輔	出演
1023	2024/3/11	ラジオ	TBSラジオ	狄上チキ session【東日本大震災から13年】教訓とこれまでの取材で分かったこと	佐藤翔輔	出演
1024	2024/3/11	新聞 (全国紙)	朝日新聞	(東日本大震災13年 3・11の現在地)復興、人口減時代の模索	姥浦道生	報道・コメント掲載
1025	2024/3/11	新聞 (全国紙)	読売新聞	東日本大震災13年 震源域 12年ぶり掘削調査へ＝特集	今村文彦	報道・コメント掲載
1026	2024/3/11	新聞 (全国紙)	日本経済新聞	津波予測なお困難 「到達後」に警報・注意報も 速やかな避難浸透を	今村文彦	報道・コメント掲載
1027	2024/3/11	新聞 (全国紙)	日本経済新聞	原発避難、心のケア続く 東日本大震災13年——精神医療チーム「DPAT」、災害発生直後をカバー	國井泰人	報道・コメント掲載
1028	2024/3/11	新聞 (全国紙)	日本経済新聞	原発避難の心のケア続く 長期支援、能登地震でも課題に	國井泰人	報道・コメント掲載
1029	2024/3/11	新聞 (全国紙)	日本経済新聞	津波移動跡地3割使えず	姥浦道生	報道・コメント掲載
1030	2024/3/11	新聞 (地方紙)	河北新報	三陸河北新報社、石巻地方3市町住民アンケート 震災考える頻度減らず 能登地震、震災想起か	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
1031	2024/3/11	新聞 (地方紙)	河北新報	第114回巡回ワークショップ/住民の備え アイデア次々/全国の若手記者 防災報道の課題探る	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
1032	2024/3/11	新聞 (その他)	聖教新聞	BOSAIアクション 第1回㊦：能登半島地震から2カ月余 求められる共助の心	栗山進一	報道・コメント掲載
1033	2024/3/11	新聞 (地方紙)	静岡新聞	【311メディアネット】大切な人守りたいと思わせる記事を 地方紙11社記者の思い	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
1034	2024/3/11	新聞 (地方紙)	静岡新聞	311メディアネット いのちと地域を守る2024＝防災に即効薬なし 誰もが語り部 当事者に	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
1035	2024/3/11	新聞 (地方紙)	東京新聞	311メディアネット いのちと地域を守る2024 13年を経た「あの日」	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
1036	2024/3/11	新聞 (地方紙)	石巻がまく	被災地の経験 能登に届けて	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
1037	2024/3/11	新聞 (地方紙)	石巻がまく	東日本大震災 きょう13年 三陸河北新報社 3市町住民アンケート 震災考える頻度 減らず	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
1038	2024/3/11	新聞 (地方紙)	神奈川新聞	311メディアネットいのちと地域を守る2024 備えの発信 在り方模索 若手記者 宮城で「むすび塾」	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
1039	2024/3/11	新聞 (地方紙)	琉球新報	震災語り部 継承不安9割 高齢化 資金難で苦境	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
1040	2024/3/11	新聞 (地方紙)	宮崎日日新聞	311メディアネット いのちと地域を守る2024 自分に今できることは 宮城で防災ワークショップ「むすび塾」意見交換	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
1041	2024/3/11	新聞 (地方紙)	西日本新聞	東日本大震災13年＝語り部の9割 活動継承不安 高齢化 資金難 理由に	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
1042	2024/3/11	新聞 (地方紙)	新潟日報	津波警報！避難先は高台のバイパス 新潟市周辺6路線の路肩に停車、西区では一時280台が集中	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
1043	2024/3/12	テレビ (国内)	ミヤギテレビ	ミヤギ news every. : 【揺れたら高台へ】「東日本大震災」以降叫ばれた意識浸透するも…【揺れ・津波・液状化の複合災害で逃げられないく 能登半島地震が浮き彫りにした課題とは>	今村文彦	出演
1044	2024/3/12	テレビ (国内)	NHK	「不謹慎で迷惑」能登半島地震で相次いだ偽救助要請 実態は？	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
1045	2024/3/12	テレビ (国際)	NHK WORLD JAPAN	Social media shifts from hero to villain in disasters	佐藤翔輔	出演
1046	2024/3/12	新聞 (全国紙)	産経新聞	【東日本大震災13年】語り部活動 行政が支援を	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
1047	2024/3/12	新聞 (全国紙)	毎日新聞	東日本大震災13年：語り部、資金不足「致命傷」国の支援制度なく	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
1048	2024/3/12	新聞 (その他)	聖教新聞	BOSAIアクション 第1回㊦：命を真も「ために 意識だけでなく 具体的な「事前の備え」を	栗山進一	報道・コメント掲載
1049	2024/3/12	ウェブ (国内)	nippon.com	能登半島地震、津波は短時間で到達 東日本大震災の教訓は生かされたのか？	今村文彦	報道・コメント掲載
1050	2024/3/14	テレビ (国内)	東北放送	千島海溝巨大地震に関する特	木戸元之	報道・コメント掲載
1051	2024/3/14	新聞 (全国紙)	読売新聞	教育ルネサンス 震災の教訓 能登から 心のケア 長期継続必要	國井泰人	報道・コメント掲載
1052	2024/3/14	新聞 (地方紙)	河北新報	311メディアネット いのちと地域を守る2024 むすび塾 第114回巡回ワークショップ 住民の備え	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
1053	2024/3/14	新聞 (地方紙)	神戸新聞	あの日 津波を見て泣き叫んだ「私たちはここで死ぬ」東日本 幼き日の目線で震災を伝える語	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
1054	2024/3/14	ウェブ (国内)	Smart FLASH	千葉県群発地震で懸念される「関東大震災」誘発の可能性「東京湾大津波」で首都圏4500万人が大パニックに	今村文彦	報道・コメント掲載
1055	2024/3/16	ラジオ	Tokyo fm	防災 FRONT LINE：津波から生き抜く じぶん防災プロジェクト	今村文彦	出演
1056	2024/3/16	新聞 (全国紙)	朝日新聞	「迅速な復興を」が招いた地元の沈黙 住民中心の柔軟さがあれば	井内加奈子	報道・コメント掲載
1057	2024/3/17	ラジオ	Date fm エフエム仙台	SUNDAY MORNING WAVE 防災 UPDATES!：トルコ南東部地震から1年	福島洋	出演
1058	2024/3/19	テレビ (国内)	NHK 仙台放送局	てれまさ：被災地訪問が対策強化に仙台で防災フォーラム	佐藤翔輔	出演
1059	2024/3/19	テレビ (国内)	東日本放送	チャージ！：災害に強い地域づくり考える5年ぶり「救護の達人」コンテストも	佐藤翔輔	出演
1060	2024/3/21	新聞 (地方紙)	河北新報	防災意識向上に近道なし 東北大・佐藤准教授が講演	佐藤翔輔	報道・コメント掲載

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
1061	2024/3/21	新聞（全国紙）	日本経済新聞	東北大と日本工営、地震動のリアルタイムモニタリングにより都市全体の被害を瞬時に予測できる技術を開発	災害研	その他
1062	2024/3/21	新聞（全国紙）	日本経済新聞	東北大と日本工営、地震動のリアルタイムモニタリングにより都市全体の被害を瞬時に予測できる技術を開発	災害研	その他
1063	2024/3/21	新聞（その他）	財経新聞（他1件）	イオンモール仙台雨宮が着工、2025年秋開業へ 東北大雨宮キャンパス跡で	災害研	その他
1065	2024/3/21	ウェブ（国内）	流通ニュース	イオンモール仙台雨宮／25年秋オープン向け工事開始、防災モールへ	災害研	その他
1066	2024/3/21	ウェブ（国内）	R.E.port	仙台で地域の防災拠点となるイオンモール着工	災害研	その他
1067	2024/3/22	テレビ（国際）	NHK WORLD JAPAN	NEWSLINE IN DEPTH：Learning Lesson from 3/11Front Line Workers Testimonies	佐藤翔輔	出演
1068	2024/3/22	新聞（全国紙）	毎日新聞	東日本大震災13年：避難に壁、ケア児の現実（その2止） ケア児避難の支援、見えぬ担い手 搬送「1人は絶対無理」	栗山進一	報道・コメント掲載
1069	2024/3/22	新聞（地方紙）	河北新報	仙台・東北大農学部跡地に整備のイオンモール仙台雨宮が着工	災害研	報道・コメント掲載
1070	2024/3/22	新聞（地方紙）	福島民報	管理者不明の「勝手橋」、福島県が一部を撤去へ いわき市の宮川 台風13号被害で浸水対策示す	災害研	報道・コメント掲載
1071	2024/3/22	ウェブ（国内）	IoTNEWS	東北大学と日本工営、都市全体の被害を予測する技術を開発	災害研	その他
1072	2024/3/22	ウェブ（国内）	マイナビニュース(TECH PLUS)（他5件）	地震における都市全体の建物被害を瞬時に予測する技術、東北大などが開発	災害研、寺田賢二郎	その他
1078	2024/3/23	テレビ（国内）	NHK 岩手	「東日本大震災津波伝承館」常設展示の内容 一部改める	柴山明寛	報道・コメント掲載
1079	2024/3/23	新聞（全国紙・地方版）	読売新聞	津波伝承館 初の展示刷新 陸前高田 10年間の復興状況反映＝岩手	柴山明寛	報道・コメント掲載
1080	2024/3/24	新聞（全国紙）	読売新聞	[あすへの考] 漁師の助け合い 復興の土台 民俗学者 川島秀一氏71	川島秀一	報道・コメント掲載
1081	2024/3/25～28	ラジオ	J-wave	LOHAS TALK：世界防災フォーラムについて	小野裕一	出演
1082	2024/3/25	新聞（地方紙）	河北新報	東北6県・県庁所在地 安否確認システム 導入半数 専門家「職員 初動に影響」	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
1083	2024/3/25	新聞（その他）	建設通信新聞	瞬時に地震被害予測 事前に空間特性把握	災害研	その他
1084	2024/3/26	ラジオ	Tokyo fm	防災 FRONT LINE：東日本大震災から13年…福島・双葉町はようやく「復旧から復興のステージに」被災地のいま	今村文彦	出演
1085	2024/3/26	新聞（地方紙）	河北新報	3.11からの独り言 被災地内外心をつづる	井内加奈子	報道・コメント掲載
1086	2024/3/26	新聞（その他）	日刊建設工業新聞	道路不通など瞬時に 地震観測網活用し被害予測 日本工営 東北大	災害研	その他
1087	2024/3/26	ウェブ（国内）	マイナビニュース（他1件）	東日本大震災から13年…福島・双葉町はようやく「復旧から復興のステージに」被災地のいま	今村文彦	報道・コメント掲載
1089	2024/3/27	その他	JICA	★4/19開催・事業完了報告会★草の根技術協力事業（パートナー型）「地域コミュニティの安心と安全向上のための災害リスク理解に基づく防災力強化プロジェクト」	災害研	その他
1090	2024/3/29	テレビ（国内）	NHK	「東日本大震災津波伝承館」常設展示の内容 一部改める	柴山明寛	報道・コメント掲載
1091	2024/3/29	テレビ（国内）	福島テレビ（他1件）	地域・河川単位で発令を 2023年9月の大雨被害を受け 専門家が災害調査の結果報告	柴山明寛	報道・コメント掲載
1093	2024/3/29	テレビ（国内）	福島中央テレビ	【いわき市豪雨災害の原因は内水氾濫】専門家チームが検証し報告	柴山明寛	報道・コメント掲載
1094	2024/3/29	新聞（地方紙）	河北新報	いわき市 台風13号被害検証／浸水センサー設置要望／「水位が基準、避難遅れに」	柴山明寛	報道・コメント掲載
1095	2024/3/29	新聞（地方紙）	いわき民報	昨年9月豪雨の検証チーム いわき市にまとめ報告 避難指示は細分化へ	柴山明寛	報道・コメント掲載
1096	2024/3/29	新聞（地方紙）	福島民友	避難情報 地域単位に いわき市、昨年9月の豪雨受け	柴山明寛	報道・コメント掲載
1097	2024/3/29	新聞（地方紙）	福島民報	水害時に地域、河川単位で避難情報の発信	柴山明寛	報道・コメント掲載
1098	2024/3/30	新聞（地方紙）	河北新報	いわき市 台風13号被害検証 浸水センサー設置要望「水位が基準、避難遅れに」	柴山明寛	報道・コメント掲載
1099	2024/3/30	新聞（地方紙）	河北新報	津波被害を即座に予測／RTi-cast（仙台市）／救助と復旧 情報で支援	越村俊一	報道・コメント掲載
1100	2024/3/30	新聞（地方紙）	新潟日報	能登地震 津波避難徒歩3割弱 上越・港町全世帯調査 高齢者移動見送るも	佐藤翔輔	報道・コメント掲載
1101	2024/3/31	新聞（地方紙）	河北新報	専門家の添削に感謝	柴山明寛	報道・コメント掲載
1102	2023/4～	ラジオ	Date fm エフエム仙台	SUNDAY MORNING WAVE 防災 UPDATES!：地震・津波をテーマにわかりやすく解説（通年毎週日曜日放送）	今村文彦	出演

新聞	523
全国紙	165
報道・コメント掲載	151
執筆	1
その他	13
全国紙・地方版	10
報道・コメント掲載	9
その他	1
地方紙	297
報道・コメント掲載	258
執筆	6
企画協力	4
資料提供	6
その他	23
国際	5
報道・コメント掲載	4
執筆	1
その他	46
報道・コメント掲載	31
執筆	1
その他	14

ウェブ	195
国内	181
報道・コメント掲載	129
出演	1
その他	51
国際	4
報道・コメント掲載	4
その他	10
報道・コメント掲載	10

テレビ	279
国内	276
報道・コメント掲載	177
出演	78
企画協力	2
資料提供	2
その他	17
国際	3
出演	3

ラジオ	47
報道・コメント掲載	5
出演	42

雑誌・機関紙	18
報道・コメント掲載	14
その他	4

その他	40
報道・コメント掲載	19
その他	21



## 6. 教育活動





### 6. 1. 大学院生等の指導

指導学生数		人数
総数		245
学年等	大学院	192
	博士	95
	修士(博士前期)	97
	学部	53

### 6. 2. 学位等を取得した学生への関与

博士号を取得した学生への関与		人数
総数		67
担当	主査	22
	副主査	3
	副査	28
	審査員	10
	論文指導	4
修士号を取得した学生への関与		人数
総数		100
担当	主査	42
	副主査	6
	副査	40
	審査員	3
	論文指導	9
学士号を取得した学生への関与		人数
総数		50
担当	主査	29
	副主査	0
	副査	5
	審査員	0
	論文指導	16

### 6. 3. 留学生・社会人学生の受け入れ

留学生受け入れ		国・地域	人数
総数		19	63
国・地域	アフリカ	0	0
	北アメリカ	2	2
	ラテンアメリカ	3	4
	東アジア※	3	36
	東南アジア	4	12
	南アジア	0	0
	西アジア	1	1
	オセアニア	1	1
	ヨーロッパ	5	7
社会人学生		人数	
総数		34	

※ 台湾を1地域としてカウント

### 6. 4. 指導学生の発表 (発表者が教員・学生連名/学生単名)

学会発表		件数
総数		185
	国内	145
	うち学生単名	1
	国際	40
学会以外の研究者対象の発表		件数
総数		26
	国内	20
	国際	6
	うち学生単名	6

## 6. 5. 指導学生の受賞

総数：19件

学会・シンポジウム等の賞（個人・11件）

受賞・学術賞名称	受賞年月日	国内国際	授与機関	受賞者名 指導教員名	指導教員名	受賞題目／受賞内容
2023年度日本建築学会大会(近畿)構造部門振動分野 若手優秀発表賞	20231205	国内	日本建築学会	毛塚尚太郎	五十子幸樹	免震構造物の変位制御における減衰力の周波数帯域制限効果 その2 分数次因果モデルによる因果的検討 免震構造の性能向上に資する複素減衰モデルの因果的実装における制御周波数帯域制限の効果を明らかにしたことが高く評価された。
優秀講演表彰受賞	20230901	国内	第28回計算工講演会	飛弾野壮真	寺田賢二郎 森口周二	半陰的 MPM による不飽和土の浸透崩壊解析 計算工学において優秀と認められる講演を行ったとして表彰された。
若手優秀講演フェロー表彰	20230901	国内	日本計算工学会	韓霽珂	寺田賢二郎 森口周二	On the representation of discrete crack surfaces in crack phase-field model realized by finite cover method 連続体損傷モデルと強不連続モデルの欠点を補完し合う、新たな数値計算手法を開発した点が高く評価された。
口頭発表部門 奨励賞	20231104	国内	共調的社会脳研究会	高橋 慧	杉浦元亮	どの作業環境がベスト？他者の存在が認知課題実行に及ぼす影響と文化的個人特性
ポスター発表最優秀賞	20230819	国内	東日本研究医 コンソーシアム	田久保将人	杉浦元亮	津波避難意思決定過程の情報タイプによる違い
優秀講演賞	20230512	国内	東北大学若手研究者の会	大方翔貴	杉浦元亮	キュッパはなぜ安いと感じるのか？その神経基盤に関する研究
景観・デザイン研究発表会 優秀講演賞	20231210	国内	土木学会景観・ デザイン委員会	白洲瞭	平野勝也	石垣嵩上げに着目した近代以前のローカルな水害対策の定量的評価 当該研究発表会において、優秀な発表を行ったことが評価された
研究奨励賞 技術新人賞(防護分野)	202304	国内	日本放射線技術学会	石井浩生	千田浩一	Occupational eye dose correlation with neck dose and patient-related quantities in interventional cardiology procedures
第60回アイソトープ・放射線研究発表会「若手優秀講演賞」	20230707	国内	日本アイソトープ協会	磯部理央	千田浩一 鈴木正敏	低濃度トリチウムへの持続的な曝露による細胞影響解析 トリチウム曝露影響に関する成果発表が時宜を得て適切な手法で解析された内容であり、質疑応答も高く評価された。
口頭発表最優秀賞	20230820	国内	令和5年度東日本研究医養成コンソーシアム第13回夏のレポート	宮原一総	國井泰人	死後脳トランスクリプトーム解析による統合失調症症状関連遺伝子群の同定 統合失調症死後脳の解析により、疾患症状関連遺伝子群を複数同定し、統合失調症異種性の要因に迫ったことが高く評価された。
Third Poster Prize	20231109	国際	International Society of Pharmacovigilance	阿部美有	栗山進一	Association between maternal antibiotics use during pregnancy and children's behavioral problems from the TMM BirThree Cohort Study コホートデータを用いて母親の服薬状況と児の発達の遅れの関連を研究したことやポスターのデザインが評価された。

学会・シンポジウム等の賞(グループ・2件)

受賞・学術賞名称	受賞年月日	国内国際	授与機関	受賞者名 指導教員名	指導教員名	受賞題目／受賞内容
学生優秀発表賞	20230523	国内	日本地球惑星科学連合	佐藤由人 菅原大助 石澤堯史	菅原大助 石澤堯史	当該学会での発表が高く評価された
優秀学生発表賞	20240302	国内	海洋コア国際研究所	古明地海人 菅原大助 石澤堯史	菅原大助 石澤堯史	当該発表会での発表が高く評価された

論文賞(個人・1件)

受賞・学術賞名称	受賞年月日	国内国際	授与機関	受賞者名 指導教員名	指導教員名	受賞題目／受賞内容
論文奨励賞受賞	20230528	国内	地域安全学会	渡邊勇	今村文彦 佐藤翔輔	想定首都直下地震の先進事例と比較した東日本大震災の震災伝承施設の学習効果と有用性:利用者視点による災害伝承ミュージアムの類型化による評価の試み ----- 代表的な日本国内の災害伝承施設を同一来訪者の評価によって類型化したことが高く評価された。

論文賞(グループ・1件)

受賞・学術賞名称	受賞年月日	国内国際	授与機関	受賞者名 指導教員名	指導教員名	受賞題目／受賞内容
土木計画学優秀論文賞	20231124	国内	土木学会土木計画学研究委員会	吉田智貴 奥村誠	奥村誠	季節変動を受ける都市間鉄道のネットワーク構造・運行情・運賃の同時最適化 ----- 2023年度発行の土木学会論文集D3(土木計画学)特集号の掲載論文中、上位と評価された。

その他の賞(4件)

受賞・学術賞名称	受賞年月日	国内国際	授与機関	受賞者名 指導教員名	指導教員名	受賞題目／受賞内容
研究奨励賞	20230525	国内	土木学会東北支部	川合将矢	今村文彦 佐藤翔輔 マス・エリック	津波避難時の渋滞緩和のための徒歩避難促進手法の提案:宮城県石巻市における実践例 ----- 車避難の問題について課題解決の方法論を提案するだけでなく、実践を踏まえてその可能性を示したことが高く評価された。
優秀発表賞	20231118	国内	地域安全学会	渡邊勇	今村文彦 佐藤翔輔	来訪者視点での震災伝承施設の特徴の布置:東日本大震災の65施設を対象とした試み ----- 調査時点における東日本大震災に関連する震災伝承施設の特徴を体系的に分析したことが高く評価された。
東北大学医学部学生奨学賞(優秀賞)	20231200	国内	医学部学生奨学賞	宮原一総	國井泰人 日野瑞城	特に優れた研究業績を示し、発表を行った
東日本研究医養成コンソーシアム第十三回夏のリトリート 口頭発表最優秀賞	20230820	国内	東日本研究医養成コンソーシアム	宮原一総	日野瑞城	死後脳トランスクリプトーム解析による統合失調症症状関連遺伝子群の同定

## 6. 6. 担当授業科目

担当者名	授業科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名 (全学空欄)	学年 (大学院空欄)	セメスター 学期	コマ数 90分/1コマ
木戸元之	測量学	広島大学	先進理工系科学研究科			集中講義	15
木戸元之	地球惑星物理学	東北大学	全学		2	3セメ	5
富田史章	地球物理学セミナー(固体地球系(A領域))	東北大学	理学研究科	地球物理学専攻		通年	
富田史章	固体地球物理学特別セミナー(固体地球系(A領域))	東北大学	理学研究科	地球物理学専攻		通年	
遠田晋次	地震の長期評価□	建築研究所□	国際地震工学センター(留学生)				4
遠田晋次	自然災害特論	東北大学	理学研究科	地学専攻		前期	5
福島洋	Geophysics	東北大学	全学		3	5セメ	3
福島洋	自然災害特論	東北大学	理学研究科	地学専攻			4
福島洋	固体地球物理学特論II	東北大学	理学研究科	地球物理学専攻			2
石澤堯史	応用堆積学	東北大学	理学部		3	5セメ	3
石澤堯史	地球環境史・現代地球科学	東北大学	全学		1	1セメ	1
高橋尚志	基礎野外実習 I	東北大学	理学部	地圏環境学科	2	後期	
高橋尚志	基礎野外実習 II	東北大学	理学部	地圏環境学科	2	前期	
高橋尚志	地圏環境科学実習 I	東北大学	理学部	地圏環境学科	2	後期	4
高橋尚志	地形学演習 I	東北大学	理学部	地圏環境学科	4	通年	30
高橋尚志	地形学演習 II	東北大学	理学部	地圏環境学科	4	通年	30
高橋尚志	自然地理学 I	東北学院大学	文学部	歴史学科	3	前期	15
高橋尚志	環境防災論	国際医療福祉大学大学院	医療福祉学研究科	保健医療学専攻		前期	2
五十子幸樹	社会環境工学演習	東北大学	工学部	都市・社会環境工学科	2	3セメ	5
五十子幸樹	都市・建築エンジニアリング	東北大学	工学部	都市・社会環境工学科	2	3セメ	3
五十子幸樹	建築設計B I	東北大学	工学部	都市・社会環境工学科	3	5セメ	15
五十子幸樹	建築信頼性工学	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		前期	15
五十子幸樹	建築構造工学特論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		後期	2
五十子幸樹	基礎ゼミ	東北大学	全学		1	1セメ	14
五十子幸樹	災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	1
五十子幸樹	学問論演習	東北大学	全学			2セメ	15
大野晋	情報とデータの基礎	東北大学	全学		1	1セメ	8
大野晋	都市・建築エンジニアリング	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	2

担当者名	授業科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名 (全学空欄)	学年 (大学院空欄)	セメスター 学期	コマ数 90分/1コマ
大野晋	建築・社会環境工学演習E	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	3
大野晋	建築構造の力学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	4セメ	15
大野晋	地震と建築	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	8
大野晋	地盤と都市・建築	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	6
大野晋	建築数理基礎論I	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		前期	4
大野晋	地震災害制御学	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		後期	15
大野晋	応用システム開発論I	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		後期	15
大野晋	建築構造工学特論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		前期	1
寺田賢二郎	計算力学及び同演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	30
寺田賢二郎	計算固体力学	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		前期	15
寺田賢二郎	非均質材料の力学	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		後期	7
寺田賢二郎	特別講義(計算力学)	日本大学	生産工学部	機械工学科		後期	1
森口周二	シビックデザインの力学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	5
森口周二	振動解析学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	7セメ	15
森口周二	社会基盤デザイン演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	7セメ	1
森口周二	非均質材料の力学	東北大学	工学研究科	土木工学専攻	1	後期	7
森口周二	数値解析	東北大学	工学研究科	土木工学専攻	1	前期	7
森口周二	災害の科学(土)	宮城大学		事業構想学群	3	前期	3
森口周二	地盤工学	宮城大学		事業構想学群	3	後期	3
野村怜佳	自然科学総合実験	東北大学	全学		1	1セメ	10
野村怜佳	建築・社会環境工学演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	16
今村文彦	スペクトル解析	東北大学	工学研究科	土木工学		前期	4
今村文彦	防災システム論	東北大学	工学研究科	土木工学		後期	8
今村文彦	水環境創造のフロンティア	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	5
今村文彦	沿岸海洋環境工学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	4セメ	6
菅原大助	応用堆積学	東北大学	理学部・工学研究科	地圏環境科学科・量子エネルギー工学専攻	B3, M1, M2	5セメ	15
菅原大助	地学実験	東北大学	理学部		B2	3セメ	6
菅原大助	地球の科学	東北大学	理学部		B1	1セメ	1
菅原大助	自然災害特論	東北大学	理学研究科	地学専攻	M1	後期	15
サッパシー アナワット	沿岸海洋環境工学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	3

担当者名	授業科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名 (全学空欄)	学年 (大学院空欄)	セメスター 学期	コマ数 90分/1コマ
越村俊一	基礎ゼミ(水と環境)	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	1	1セメ	3
越村俊一	基礎ゼミ(災害の科学)	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	1	2セメ	2
越村俊一	基礎設計A	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	3
越村俊一	沿岸環境海洋工学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	7
越村俊一	防災システム論	東北大学	工学研究科	土木工学専攻	大学院	後期	7
マス エリック	建築社会環境工学演習	東北大学			2	3セメ	12
マス エリック	災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	1
マス エリック	工学英語II	東北大学	工学部研究科	土木工学	3	後期	4
マス エリック	応用情報処理演習A	東北大学	工学部研究科	土木工学	2	4セメ	2
マス エリック	数学物理学演習I	東北大学	全学	建築・社会環境工学科	1	前期	16
マス エリック	Tsunami Evacuation Planning	建築研究所	研修コース	津波工学			5
マス エリック	水環境デザイン演習II	東北大学	工学部研究科	土木工学	4	前期	4
柴山明寛	災害危機管理論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		後期	6
柴山明寛	災害アーカイブラボ	東北大学	災害科学・安全学国際 共同大学院			後期	
柴山明寛	災害アーカイブラボ	東北大学	変動地球共生学卓 越大学院			後期	
ゲルスタ ユリア	Teaching the JDA in the classroom	東北大学	GP-RSS/SyDE	MA-D		後期	15
ゲルスタ ユリア	福島の復興と再生	東北大学	全学	全学	全学	後期	2
ゲルスタ ユリア	Basics of disaster science and its application for BOSAI	東北大学					1
佐藤大介	地域記憶遺産保全学特論	東北大学	大学院文学研究科			後期	15
佐藤大介	日本社会史	東北大学	大学院環境科学研究科			後期	15
佐藤大介	学問論演習	東北大学	全学		1	1セメ	15
川内淳史	日本史 I	仙台白百合女子大学	全学		1	前期	15
川内淳史	日本史 II	仙台白百合女子大学	全学		1	後期	15
川内淳史	地域社会史A	宮城学院女子大学	学芸学部		3	前期	15
川内淳史	近代日本と東北	放送大学宮城学習 センター	全学			後期	8
邑本俊亮	人文情報科学概論	東北大学	情報科学研究科	全専攻		前期	1
邑本俊亮	人文社会情報科学ゼミナール	東北大学	情報科学研究科	人間社会情報科学専攻		通年	60
邑本俊亮	社会心理情報学	東北大学	情報科学研究科	人間社会情報科学専 攻・応用情報科学専攻		後期	15
邑本俊亮	コミュニケーション論	東北文化学園大学	医療福祉学部	リハビリテーション学科(理学療 法学専攻、作業療法学専攻)	1	前期	15

担当者名	授業科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名 (全学空欄)	学年 (大学院空欄)	セメスター 学期	コマ数 90分/1コマ
邑本俊亮	コミュニケーション論	東北文化学園大学	医療福祉学部	リハビリテーション学科(言語聴覚学専攻・視覚機能学専攻)、看護学科	1	前期	15
邑本俊亮	コミュニケーション論	東北文化学園大学	現代社会学部	現代社会学科	1	後期	15
邑本俊亮	心理言語学	北星学園大学	文学部	心理応用コミュニケーション学科	2~4	集中	15
齋藤玲	学校防災教育基礎	宮城教育大学	教育学部		1	前期	1
齋藤玲	学校防災教育基礎	宮城教育大学	教育学部		1	後期	1
齋藤玲	Basics of disaster science and its application for BOSAI	東北大学				前期	1
村尾修	創造工学研修(空間デザインのボキャブラリー)	東北大学	工学部	全学科	1	2セメ	15
村尾修	都市・建築デザイン	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	1
村尾修	防災・復興空間論	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	15
村尾修	都市・建築計画学セミナー	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻	MC	前期	1
村尾修	都市・建築計画学特論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻	DC	前期	1
村尾修	災害科学・安全学発展講義	東北大学	災害科学・安全学国際共同大学院		DC	前期	15
村尾修	災害科学・安全学基礎II	東北大学	災害科学・安全学国際共同大学院		MC	後期	1
村尾修	災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	1
泉貴子	プロジェクトリスクマネジメントI	東北大学	国際文化			前期	15
泉貴子	演習	東北大学	国際文化			通年	30
泉貴子	SDGs入門	東北大学	全学			後期	15
奥村誠	計量行動分析	東北大学大学院	工学研究科	土木工学専攻		後期	15
奥村誠	環境学序説	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	1
奥村誠	建築・社会環境工学演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	6
奥村誠	地域・都市計画	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	15
奥村誠	都市システム計画演習II	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	7セメ	8
奥村誠	社会的計画論	東北工業大学	工学部	都市システムデザイン学科	3	6セメ	1
井内加奈子	災害科学の基礎と防災への適用	東北大学	全学		1	1セメ	1
姥浦道生	都市計画論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		前期	
姥浦道生	都市・建築設計 I	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		前期	
姥浦道生	都市・建築デザイン	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	
姥浦道生	建築・社会環境工学演習D	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	
姥浦道生	都市計画	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		5セメ	
姥浦道生	建築法規	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		6セメ	



担当者名	授業科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名 (全学空欄)	学年 (大学院空欄)	セメスター 学期	コマ数 90分/1コマ
姥浦道生	国際防災協力論	神戸大学	国際協力研究科			後期	
姥浦道生	防災情報特論	京都大学	情報学研究科			前期	
平野勝也	土木史	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	7.5
平野勝也	基礎設計A	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	45
平野勝也	都市と交通のシステム	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	2
平野勝也	環境工学序説	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	1	1セメ	1
平野勝也	景観デザイン演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	4セメ	30
平野勝也	都市システム計画演習II	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	7セメ	30
平野勝也	都市システム計画研修A	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	7セメ	
平野勝也	都市システム計画研修B	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	8セメ	
平野勝也	都市景観論	東北大学大学院	工学研究科	土木工学専攻		前期	15
平野勝也	地域システム学セミナー	東北大学大学院	工学研究科	土木工学専攻		通年	
平野勝也	社会的計画論	東北工業大学	工学部	都市マネジメント学科	2	後期	1
江川新一	Health and social resilience for large-scale disaster	東北大学	医学系研究科	ヒューマンセキュリティコース		後期	15
江川新一	Human Security and Global Health	東北大学	医学系研究科	ヒューマンセキュリティコース		前期	15
江川新一	Health Resilience in Aging Society	東北大学	医学系研究科	ヒューマンセキュリティコース		後期	15
佐々木宏之	Health and social resilience for large-scale disaster	東北大学	全学(大学院)			後期	1
藤井進	医学情報学	東北大学	医学部	医科学科		後期	1
藤井進	保健医療福祉情報ネットワーク論	東北大学	医学部	医科学科		後期	8
藤井進	災害保健医療	東北大学	医学部	医科学科		後期	1
藤井進	巨大災害に対する健康と社会のレジリエンス特論	東北大学	医学部	医科学科		後期	1
藤井進	ヘルスケアデザイン	慶應義塾	政策・メディア	政策・メディア		前期	1
朴慧晶	災害科学の基礎と防災への適用	東北大学	工学部研究科		3	1セメ	1
千田浩一	基礎ゼミ	東北大学	全学		1	1セメ	15
千田浩一	カレントトピックス	東北大学	全学		1	1セメ	1
千田浩一	応用セミナーI	東北大学	医学研究科	医学研究科			2
千田浩一	分野セミナー	東北大学	医学研究科	医学研究科			15
千田浩一	分野特論	東北大学	医学研究科	医学研究科			15
千田浩一	放射線計測学I	東北大学	医学部	保健学科	2	4セメ	15
千田浩一	放射線計測学II	東北大学	医学部	保健学科	3	5セメ	15

担当者名	授業科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名 (全学空欄)	学年 (大学院空欄)	セメスター 学期	コマ数 90分/1コマ
千田浩一	放射線基礎医学 物理	東北大学	医学部	医学科	2	3セメ	3
千田浩一	医用工学	東北大学	医学部	保健学科	4	7セメ	2
千田浩一	放射線計測学実験I	東北大学	医学部	保健学科	3	5セメ	15
千田浩一	放射線計測学実験II	東北大学	医学部	保健学科	3	6セメ	15
千田浩一	医用工学実習	東北大学	医学部	保健学科	4	7セメ	2
千田浩一	放射線機器工学I	東北大学	医学部	保健学科	2	4セメ	15
千田浩一	放射線機器工学II	東北大学	医学部	保健学科	3	5セメ	15
千田浩一	放射線技術学実験I	東北大学	医学部	保健学科	3	5セメ	15
千田浩一	放射線技術学実験II	東北大学	医学部	保健学科	4	8セメ	15
千田浩一	基礎セミナー	東北大学	医学研究科	医学系研究科			2
千田浩一	応用セミナー	東北大学	医学研究科	医学系研究科			2
千田浩一	Paper research & Basic seminar	東北大学	医学研究科	医学系研究科			2
千田浩一	Doctoral Dissertation Research	東北大学	医学研究科	医学系研究科			2
千田浩一	Clinical Radiological Technique Seminar I	東北大学	医学研究科	医学系研究科			15
千田浩一	Technique of clinical Imaging	東北大学	医学研究科	医学系研究科			2
千田浩一	Clinical Radiological Technique Seminar II	東北大学	医学研究科	医学系研究科			15
千田浩一	Radiation Dosimetry	東北大学	医学研究科	医学系研究科			15
千田浩一	Radiation Equipment Engineering	東北大学	医学研究科	医学系研究科			15
千田浩一	Laws and Regulations for Radiologic Technologist	東北大学	医学研究科	医学系研究科			15
千田浩一	Radiological Examination and Technology	東北大学	医学研究科	医学系研究科			15
千田浩一	放射線関係法規	東北大学	医学部	保健学科	3	6セメ	15
千田浩一	卒業研究	東北大学	医学部	保健学科	4	8セメ	15
千田浩一	災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	1
千田浩一	放射線工学概論	東北文化学園大学	科学技術学部	臨床工学科	2	4セメ	15
千田浩一	臨床撮影技術学 I	東北大学	医学部	保健学科	2	3セメ	7
千田浩一	医用写真学	東北大学	医学部	保健学科	2	3セメ	4
鈴木正敏	福島復興・再生	東北大学	全学		1	2セメ	1
鈴木正敏	巨大災害に対する健康と社会のレジリエンス	東北大学	全学			後期	1
鈴木正敏	放射線技術学実験	東北大学	医学部	保健学科	3	5セメ	8
鈴木正敏	被ばく影響学概論	弘前大学	全学		1	前期	1

担当者名	授業科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名 (全学空欄)	学年 (大学院空欄)	セメスター 学期	コマ数 90分/1コマ
國井泰人	巨大災害に対する健康と社会のレジリエンス	東北大学	医学部	医科学・公衆衛生学専攻		後期	1
國井泰人	症候性を含む器質性精神障害	東北大学	医学部		4	前期	1
國井泰人	脳の構造・機能と精神・行動	福島県立医科大学	医学部		2	前期	1
國井泰人	「解離性<転換性>障害」「心身症」	福島県立医科大学	医学部		3	後期	2
栗山進一	災害の科学(災害の発生と波及)	東北大学	全学		1	2セメ	1
栗山進一	公衆衛生学	東北大学	医学部	医学科	3	2セメ	4
栗山進一	臨床推論・EBM演習・医療統計	東北大学	医学部	医学科	4		2
栗山進一	公衆衛生学	東北大学	医学部	保健学科	2	4セメ	1
栗山進一	巨大災害に対する健康と社会のレジリエンス(Health and social resilience for large-scale disaster)	東北大学	医学系研究科	医科学専攻・公衆衛生学専攻		後期	1
栗山進一	疫学概論	東北大学	医学系研究科	医科学専攻・公衆衛生学専攻		前期	1
栗山進一	分子疫学	東北大学	医学系研究科	医科学専攻・公衆衛生学専攻		通年	8
栗山進一	Topics and Discussions (Precision Medicine and Risk Estimation of Multifactorial diseases)	東北大学	全学	全専攻・課程		後期	1
栗山進一	社会・環境医学	東北大学	医学系研究科	医科学専攻博士課程(医学履修課程)		通年	1
児玉栄一	新入生オリエンテーション	東北大学	医学部	保健学科	1		
児玉栄一	隣接医学	東北大学	歯学部	歯学科	5	前期	1
児玉栄一	新1年生「研究室取材訪問」	東北大学	医学部	医学科	1	1セメ	1
児玉栄一	感染制御実践看護学講座「ウイルス学」「ウイルス性感染症」	東京医療保健大学	社会人			前期	2
児玉栄一	ヒューマンセキュリティとグローバルヘルス	東北大学	医学系	医科学		前期	1
児玉栄一	医学・医療入門、行動科学	東北大学	医学部	医学科	1	2セメ	1
児玉栄一	血液学Ⅱ(免疫不全症)	東北大学	医学部	保健学科	2	4セメ	1
児玉栄一	巨大災害に対する健康と社会のレジリエンス特論	東北大学	医学系	医科学		後期	1
児玉栄一	感染症とHuman Security	東北大学	医学系	医科学		後期	1
佐藤健	線形代数学B	東北大学	全学		1	2セメ	
佐藤健	地震と建築	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	6
佐藤健	構造動力学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	7セメ	
佐藤健	災害危機管理論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻			6
佐藤健	建築構造工学持論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻			1
佐藤健	建築防災学	静岡大学		ふじのくに防災フェロー養成講座			
佐藤健	防災教育論	東京医科大学					2

担当者名	授業科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名 (全学空欄)	学年 (大学院空欄)	セメスター 学期	コマ数 90分/1コマ
丸谷浩明	防災政策論演習	東北大学	法学研究科	公共政策先行		後期	15
丸谷浩明	防災法	東北大学	法学研究科	公共政策先行		前期	7
佐藤翔輔	社会環境工学実験	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	60
佐藤翔輔	土木工学修士研修	東北大学	工学研究科	土木工学専攻	1-2	通年	30
佐藤翔輔	社会教育特講	東北大学	教育学研究科				2
佐藤翔輔	東日本大震災の経験を未来につなぐ(国際教養PBL)	東北大学	全学教育科目先進科目	国際教育		前期	2
佐藤翔輔	東日本大震災の教訓を活かした実践的防災学	東北大学	全学教育科目先進科目	カレント・トピックス科目	1	2セメ	15
佐藤翔輔	「防災教育と災害伝承」の災害科学(学問論演習)	東北大学	全学教育科目	学問論	1	2セメ	15
佐藤翔輔	地域防災論	石巻専修大学	人間学部	人間文化学科・人間教育学科	3		15
ボレー ベンメン ンセバスチャン	文化生態保全学セミナー	東北大学		環境科学研究科	2	通年	20
ボレー ベンメン ンセバスチャン	東北アジア文化人類学	東北大学		環境科学研究科	1	前期	15
ボレー ベンメン ンセバスチャン	文化人類学特論Ⅱ	東北大学	文学部	文学研究科	1	後期	15
ボレー ベンメン ンセバスチャン	文化人類学各論	東北大学	文学部	文学研究科	1	後期	15
ボレー ベンメン ンセバスチャン	災害国際協力セミナー	東北大学	医学部		1	2セメ	1
ボレー ベンメン ンセバスチャン	災害科学の基礎と防災への適用	東北大学	工学部研究科		3	1セメ	1
マリ エリザベス	災害国際協力セミナー	東北大学	医療口			1セメ	2
マリ エリザベス	災害科学の基礎と防災への適用	東北大学	工学部		3	1セメ	1
小野裕一	災害の救済・復興SA	立命館アジア太平洋大学				1セメ	12
小野裕一	Interdisciplinary Approach and Policy Development	Chulalongkorn-University					2
小野裕一	プロジェクトマネジメント論	東北大学	卓越大学院理学研究科			前期	9
小野裕一	産学共創特殊講義Ⅰ	東北大学	卓越大学院理学研究科			後期	9
小野裕一	防災の国際潮流と仙台防災枠組	東北大学	卓越大学院理学研究科			前期	8
小野裕一	変動地球共生学特殊講義Ⅰ	東北大学	卓越大学院理学研究科			後期	8
小野裕一	防災の日本政府の取組 国際的なフレームワーク	東北大学	法学研究科公共政策大学院				1
小野裕一	自然災害と人道アクションⅠ	国際基督教大学					1
小野裕一	世界防災と国際機構	東北大学	全学		1	後期	5
小野裕一	「防災教育と災害伝承」の災害科学	東北大学	全学		1	後期	4

2023 年度 東北大学 災害科学国際研究所 活動報告書

Annual Report 2023

International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS)

Tohoku University

〒980-8572 仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1 (事務局)

電話 022-752-2049 Fax 022-752-2013

令和 6 年(2024 年)9 月 1 日 発行

発行 東北大学災害科学国際研究所 所長 栗山進一

編集 東北大学災害科学国際研究所 木戸元之

中鉢奈津子・今野公美子・鈴木通江・福島愛子・小森光

印刷 有限会社明倫社



TOHOKU UNIVERSITY

IRIDeS

東北大学災害科学国際研究所